（公財）岐阜市教育文化振興事業団報告書第20集

岩田東Ａ・岩田西遺跡

―市道ミイソ川原畑線道路改良工事に伴う緊急発掘調査―

２０１２

岐阜市

公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団

岩田東Ａ遺跡全景（南東から）

SZ2 供献土器

SZ7 供献土器

SZ1 供献土器・周溝内埋葬土器棺

SZ5 供献土器

SB5 出土石庖丁・砥石

SB7・8 出土土師器・須恵器

岩田西遺跡全景（南西から）

SD25 全景（東から）

SD25・SX11 出土「美濃国」刻印須恵器

SD25 出土須恵器・灰釉陶器

例　言

1．本書は、岐阜市岩田西１丁目および岩田西３丁目地内に所在する埋蔵文化財包蔵地、岩田東Ａ遺跡・岩田西遺跡の発掘調査報告書である。

2．本調査は、市道ミイソ川原畑線拡幅事業に伴う緊急発掘調査として、業務委託契約に基づき、発注者・岐阜市役所基盤整備部道路建設課の調査経費負担により、受注者・公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団が実施した。

3．調査機関は下記の通りである。

現地調査　平成 20 年度（その１）平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年３月 15 日
　　平成 20 年度（その２）平成 21 年３月 30 日～平成 21 年 12 月 25 日
　　平成 21 年度　　平成 22 年９月１日～平成 22 年１月 15 日
整理報告　平成 21 年度　　平成 22 年１月 16 日～平成 22 年３月 10 日
　　平成 22 年度　　平成 22 年５月 27 日～平成 23 年３月 10 日
　　平成 23 年度　　平成 23 年５月 20 日～平成 24 年３月 12 日

4．調査組織は下記の通りである。

調査主体者　（公財）　岐阜市教育文化振興事業団　理事長　飯沼隆司（平成 20 ～ 23 年度）
　　埋蔵文化財調査事務所　所　長　藪下　浩（平成 20 ～ 21 年度）
　　後藤敏朗（平成 22 ～ 23 年度）
調査担当　　朝田公年〔(公財）岐阜市教育文化振興事業団　埋蔵文化財調査事務所、平成 20 ～ 23 年度－発掘調査・整理報告〕
　　高見哲士〔同上、平成 20 年度－発掘調査〕
　　川島誠次〔同上、現犬山市教育委員会歴史まちづくり課、平成 20 年度－発掘調査〕
調査補助員（五十音順）青木小夜・高木優子・棚橋英子・辻　啓子・村瀬清則・森　和子
作業員（五十音順）安藤久子・岩城三枝・上田たかえ・臼井喜七・大洞勝巳・大森玉江・加藤久淳・加藤平和 ・神谷保行・川島省一・衣笠直子・木村久美雄・黒川博文・河野靖夫・小澤和夫・後藤公志・後藤康子・近藤弘子・坂井田米子・澤田冨士夫・下大迫栄一・鈴木真由美・高崎和夫・田上喜代志・田崎義信・田中真美・辻　春美・土川　裕・土本治夫・長井和美・長友周子・林三千雄・平井典子・廣瀬孝一・伏見信孝・堀田文夫・松本　技・三島　彰・向井康子・安田浩美・柳原正木・山田正一・領家正己・渡辺貞子

5．本書の作成は、髙木　晃〔岐阜市教育委員会社会教育課〕の指導の下、朝田・恩田裕之〔(公財）岐阜市教育文化振興事業団　埋蔵文化財調査事務所〕が行った。また、調査に関する事務処理および調査経費の執行は、朝田と吉田陽子〔(公財）岐阜市教育文化振興事業団　埋蔵文化財調査事務所〕が行った。

6．本書の執筆は第１章を梅村大輔が、第６章を安　昭炫・伊藤　茂・黒沼　保子・小林　紘一・佐々木　由香・鈴木　茂・竹原　弘展・中村　賢太郎・廣田　正史・藤根　久・山形　秀樹・Ineza Jorjoliani・Zaur Lomtatidze・バンダリ スダルシャン〔それぞれ（株）パレオ・ラボ〕が行い、それ以外を朝田が行った。また全体の編集は朝田が行った。

7．自然科学分析は（株）パレオ・ラボに委託した。

８．木製品・金属製品の保存処理は（株）吉田生物研究所に委託した。

９．調査区の写真測量業務、および平成 20 年度の発掘調査支援業務については（株）ユニオンに委託した。

10．遺物写真撮影については佐藤右文氏に依頼した。

11．出土遺物については下記の各氏にご教示を頂いた。

石器	長屋幸二〔岐阜県歴史博物館〕
弥生土器（中期）	藤田英博〔岐阜県文化財保護センター〕
弥生土器（後期）	高木宏和〔美濃市教育委員会〕
須恵器	渡辺博人〔各務原市役所〕
灰釉陶器・貿易陶磁器	尾野善裕〔独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館〕
山茶碗・瀬戸美濃産陶器	藤澤良祐〔愛知学院大学〕
墨書土器	筧　真理子〔岐阜市歴史博物館〕

12．調査、現地公開及び本報告書作成の過程で、下記の各氏及び各機関にご指導、ご協力を賜った。深く御礼申し上げます。

八賀　晋・宮腰健司・鈴木　元・藤村　俊・石井照久・小野木学・北村昌弘・小林郁夫・岐阜県文化財保護センター

13．写真などの調査記録及び出土遺物は（公財）岐阜市教育文化振興事業団が管理している。これら資料を広く活用されたい。

凡　例

＜遺構＞

１．遺構の略号は下記の通り用いた。

SB：竪穴住居跡、SZ：周溝墓、SD：溝、SK：土坑、Pit：柱穴・小穴、SX：その他の遺構

２．遺構実測図の縮尺は 1/50 を原則とし、1/20、1/100、1/200、1/250 である。また、別添図の縮尺は 1/100、1/200、1/3,000 である。

３．遺構の方位は真北を示し、座標は世界測地形系第Ⅶ系に準拠した。標高は T.P.（東京湾平均海面）を用いた。

＜遺物＞

１．出土遺物実測図の縮尺は 1/3 を原則とし、小型の石製品・金属製品は 1/2、大型の石製品・木製品は 1/4 である。

２．回転ヘラ削り範囲は実線で示した。施釉範囲は一点鎖線で記した。

３．土師器皿の横ナデ調整の範囲は実線で記し、断面のみの図では引き出し線でナデ範囲を示した。

４．土師器皿のトーン部分はタール痕を表し、濃淡がある場合は実測図中の各図面に対応する凡例を示した。

５．弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器のトーン部分は赤色顔料付着範囲、煤付着範囲、漆付着範囲を表し、実測図中の各図面に凡例を示した。

６．木製品の黒塗り範囲は炭化部分を表している。

目　次

第１章　遺跡の立地と環境
第１節　地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第２節　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第２章　発掘調査の経緯と経過
第１節　発掘調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第２節　発掘調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第３章　遺跡の概要
第１節　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第２節　遺構・遺物の時期区分・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第４章　岩田東Ａ遺跡の遺構と遺物
第１節　弥生時代の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第２節　弥生時代後期末から古墳時代初頭の遺構と遺物・・・・・・・・・・・32
第３節　古墳時代から古代の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
第４節　中世の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
第５節　近世以降の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
第６節　包含層その他出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
第５章　岩田西遺跡の遺構と遺物
第１節　弥生時代から古代の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・81
第２節　中世の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・90
第３節　近世以降の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
第４節　包含層その他出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
第６章　自然科学分析
第１節　土坑内埋土のリン・カルシウム分析・・・・・・・・・・・・・・・ 221
第２節　岩田東Ａ遺跡および岩田西遺跡のプラント・オパール・・・・・・・ 226
第３節　岩田西遺跡の花粉化石・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 240
第４節　岩田西遺跡堆積物中の珪藻化石群集・・・・・・・・・・・・・・・ 244
第５節　樹種同定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 255
第６節　土器内の内容物分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 266
第７節　出土土器付着赤色顔料の蛍光Ｘ線分析・・・・・・・・・・・・・・ 270
第８節　放射性炭素年代測定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 272
第９節　出土動物遺体の同定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 276

挿図目次

第１図　周辺遺跡分布図
第２図　調査区地区割図
第３図　岩田東Ａ遺跡の基本層序模式図
第４図　岩田西遺跡の基本層序模式図
第５図　SX5 土器集中・Pit47 土器埋納実測図
第６図　SB2 実測図
第７図　SB3・SX16・SX20 実測図
第８図　SB9 実測図
第９図　SB10 実測図
第 10 図　SX73 実測図
第 11 図　SZ6 実測図
第 12 図　SB1 実測図
第 13 図　SB5 実測図
第 14 図　SZ4 実測図
第 15 図　SZ2 実測図
第 16 図　SZ3 実測図
第 17 図　SZ3 周溝内遺物実測図
第 18 図　SZ1 実測図
第 19 図　SZ1 周溝内土器棺・遺物実測図
第 20 図　SZ7 実測図
第 21 図　SZ7 周溝内遺物実測図
第 22 図　SZ5 全体実測図
第 23 図　7 区 SZ5 断面・周溝内遺物実測図
第 24 図　7 区 SZ5 断面実測図
第 25 図　6 区 SZ5 実測図
第 26 図　周溝埋没過程想定模式図
第 27 図　SB4 実測図
第 28 図　SB6 実測図
第 29 図　SD28 断面実測図
第 30 図　SX49・SK194 実測図
第 31 図　SB8 実測図
第 32 図　SB7 実測図
第 33 図　SK253・SX71 実測図
第 34 図　SX72 実測図
第 35 図　SD2・3・4・SK7 実測図
第 36 図　SK24・25・26・30・33 実測図
第 37 図　SD21 ～ 24 断面実測図
第 38 図　SD32・SD1 実測図
第 39 図　SX11・SD21・22・25 実測図
第 40 図　SX11・SD21・22・25 断面実測図
第 41 図　23・24 区 SD25 実測図
第 42 図　28 区 SD25 実測図
第 43 図　水田耕土の形成過程模式図
第 44 図　水田区画変遷図
第 45 図～ 70 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（１）～（26）
第 71 図～ 99 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（１）～（29）
第 100 図　岩田東Ａ遺跡のプラント・オパール分布図
第 101 図　岩田東Ａ遺跡 6 区のプラント・オパール分布図
第 102 図　岩田西遺跡 16 区のプラント・オパール分布図
第 103 図　岩田西遺跡 18 区のプラント・オパール分布図
第 104 図　岩田西遺跡 21 区のプラント・オパール分布図
第 105 図　岩田西遺跡 25 区のプラント・オパール分布図
第 106 図　岩田西遺跡 27 区のプラント・オパール分布図
第 107 図　岩田西遺跡の主要花粉化石分布図
第 108 図　堆積物中の珪藻化石分布図
第 109 図　SD25 堆積物中の珪藻化石分布図
第 110 図　SX27 堆積物中の珪藻化石分布図
第 111 図　暦年較正曲線

表目次

第１表　岩田東Ａ・岩田西遺跡発掘調査における届出
第２表　岩田東Ａ・岩田西遺跡発掘調査工程表
第３表　岩田東Ａ・岩田西遺跡発掘調査の経過
第４表　本書における時期区分
第５～ 42 表　遺物観察表（１）～（38）
第 43 ～ 54 表　遺構一覧表（１）～（12）
第 55 表　分析試料（１）
第 56 表　半定量分析結果（１）
第 57 表　分析試料（２）
第 58 表　半定量分析結果（２）
第 59 表　現生標本および遺跡出土骨・歯の蛍光Ｘ線分析例
第 60 表　試料１ｇあたりのプラント・オパール個数（１）
第 61 表　試料１ｇあたりのプラント・オパール個数（２）
第 62 表　試料１ｇあたりのプラント・オパール個数（３）
第 63 表　産出花粉化石一覧表
第 64 表　堆積物中の珪藻化石産出表（１）
第 65 表　珪藻化石分析試料一覧表
第 66 表　堆積物中の珪藻化石産出表（２）
第 67 表　分析結果一覧表（１）
第 68 表　分析結果一覧表（２）
第 69 表　分析試料木取り一覧表
第 70 表　分析結果一覧表（３）
第 71 表　分析試料一覧表（４）
第 72 表　分析結果一覧表（４）
第 73 表　土器内内容物分析試料一覧表
第 74 表　土器内内容物半定量分析結果一覧表
第 75 表　土器内内容物炭化種子・果実個数一覧表
第 76 表　土器内内容物分析結果一覧表
第 77 表　赤色顔料分析試料一覧表
第 78 表　年代測定試料一覧表
第 79 表　暦年較正結果一覧表

写真図版

巻頭１～５　巻頭カラー写真
図版 1 ～ 23　岩田東Ａ遺跡遺構写真
図版 24 ～ 40　岩田西遺跡遺構写真
図版 41 ～ 52　岩田東Ａ遺跡遺物写真
図版 53 ～ 61　岩田西遺跡遺物写真
図版 62 ～ 85　自然科学分析写真

別添図

別添図 1　岩田東Ａ遺跡１～５区全体図
別添図 2　岩田東Ａ遺跡６区全体図
別添図 3　岩田東Ａ遺跡７・８区全体図
別添図 4　岩田東Ａ遺跡９～ 12 区全体図
別添図 5　岩田東Ａ遺跡 13 ～ 15 区全体図
別添図 6　岩田東Ａ遺跡１～８区土層図
別添図 7　岩田東Ａ遺跡９～ 15 区土層図
別添図 8　岩田西遺跡 16 ～ 22 区上層遺構全体図
別添図 9　岩田西遺跡 16 ～ 22 区下層遺構全体図
別添図 10　岩田西遺跡 23 ～ 30 区遺構全体図
別添図 11　岩田西遺跡 16 ～ 22 区土層図
別添図 12　岩田西遺跡 23 ～ 30 区土層図

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

今回報告する岩田東Ａ遺跡、岩田西遺跡は岐阜市の北東部に位置している。岐阜市の北東部は美濃山地の南縁部に含まれるが、連なる峰々といった様相ではなく、いくつかの谷底平野が広がっている。そこへ、大日岳に水源を発した長良川が美濃山地を貫流し、やがて武芸川・津保川と合流したのち濃尾平野を目指して流れくる。このため、岐阜市北東部域は長良川による堆積作用による河岸段丘と自然堤防、後背湿地といった地形が形成される。河岸段丘は低位段丘面としてみられる。調査地周辺の低位段丘には、黒あるいは黒褐色を呈した腐植土層（いわゆる「黒ボク層」）が堆積している。

調査地の立地をみたとき、岩田西遺跡と岩田東Ａ遺跡は北西から南東につながって位置する。岩田東Ａ遺跡は低位段丘面上に、岩田西遺跡は自然堤防上あるいは後背湿地に広がる遺跡であり、低位段丘面は長良川に近付くにつれて段丘崖になり、この段丘崖をはさんで両遺跡は立地する。

第２節　歴史的環境

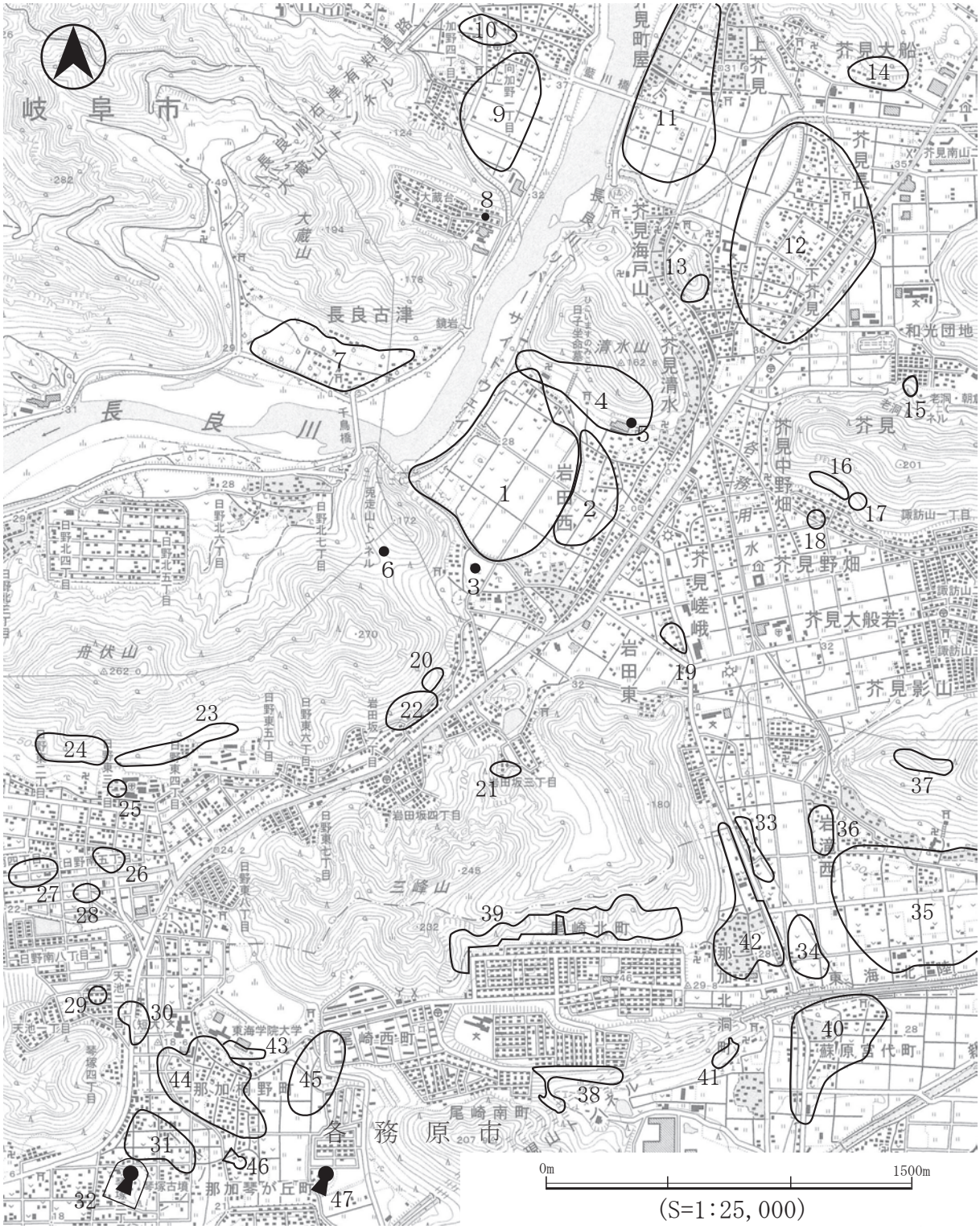
次に、岩田東Ａ遺跡、岩田西遺跡周辺の遺跡についてみていきたい。

岩滝Ａ遺跡、日野遺跡、寺田遺跡、桐野遺跡で後期旧石器の出土が知られている。権現山南西麓の岩滝Ａ遺跡では発掘調査で、ナイフ形石器、有舌尖頭器が出土した(1)。舟伏山と洞山とにはさまれた位置に日野遺跡・寺田遺跡が所在し、ナイフ形石器、角錐状石器等が出土した(2)。また、桐野遺跡でもナイフ形石器、石核等が表採されている。遺跡の立地をみると、当該時期遺物が出土する多数の遺跡は低位段丘上に立地している。このような状況は縄文時代にもひき続きみられる。日野遺跡からは縄文時代草創期とみられる配石、土坑等が検出され(2)、岩滝Ａ遺跡では縄文時代中期後半の石鏃、打製石斧、石錘が出土した(1)。

本格的な稲作が日本に伝わり弥生時代となるが、調査地周辺では弥生時代前期の集落とみられる遺跡は見つかっておらず、中期以降から遺跡数が増加する。寺田遺跡では掘立柱建物、溝、土坑が確認され、貝田町～高蔵期にかけての土器が出土している(2)。日野遺跡では土坑から壺と甕が一括廃棄されており、なんらかの埋納行為があったことをうかがわせる(4)。今回調査した岩田東Ａ遺跡でも朝日式～高蔵式にかけての土器が出土している。後期になると昭和 47 年に調査された芥見町屋遺跡で５棟の竪穴住居が確認されている(5)。

詳細については本篇で記述するが、岩田東Ａ遺跡において弥生時代中期末～後期末の方形周溝墓を確認した。この中には前方後方型と推定される周溝墓が確認できたことから、方形周溝墓から古墳へと変化する過渡期的状況がみられ、当時の社会に階層化が進行していく様相を垣間見れる。

調査地周辺からは古墳時代前期に比定できる古墳は見いだせない。中期になると、柄山古墳、琴塚古墳、大正年間に削平されたが南塚古墳といった前方後円墳が相次いで築かれる。柄山古墳は削平を受けているが独立丘陵の山頂に立地する。葺石を有し、前方部２段、後円部３段築成で全長約 82 ｍ、高さ 8.4 ｍを測る。時期は４世紀後半～５世紀初頭頃に比定されており、付近を開発した際に鶏形埴輪の頭部が出土している(6)。琴塚古墳は境付近の低位台地に立地し、全長 115 ｍ、高さは後円部で 10 ｍを測る。くびれ部の両側には造出がある。５世紀頃に比定されている(7)。詳細は不明であるが、南塚古墳は全長約 85 ｍを測り、周濠が確認されている。時期は５世紀頃と推定されている(8)。



1 岩田西遺跡　2 岩田東Ａ遺跡　3 中屋敷遺跡、古墳　4 岩田古墳群　5 智照院古墳　6 岩田７号墳　7 長良古津遺跡
8 大蔵山古墳　9 加野南遺跡　10 加野西畑遺跡　11 芥見町屋遺跡　12 芥見長山遺跡　13 蓑笠山古墳群　14 大船山古墳群
15 老洞古窯跡群　16 朝倉古墳群　17 朝倉古窯跡群　18 朝倉遺跡　20 岩田坂古窯跡群　21 奥洞窯跡群　22 岩田坂古墳群
23 日野古窯跡群　24 船伏山古墳群　25 日野北石神遺跡　26 日野遺跡　27 寺田遺跡　28 寺田轟遺跡　29 雨池遺跡
30 雨池東遺跡　31 琴塚北遺跡　32 琴塚古墳　33 岩滝西Ｃ遺跡　34 岩滝西Ｂ遺跡　35 岩滝Ａ遺跡　36 岩滝Ｂ遺跡
37 岩滝古墳群　（以上　岐阜市）
38 南洞古窯跡群　39 尾崎大平古窯跡群　40 宮代遺跡　41 南洞古墳群　42 北洞遺跡　43 観音寺古墳群　44 桐野遺跡
45 尾崎古墳群　46 南塚古墳　47 柄山古墳　（以上　各務原市）

第１図　周辺遺跡分布図

古墳時代後期となり各地で埋葬施設に横穴式石室を有した群集墳が築造される。調査地周辺でも岩田古墳群、蓑笠山古墳群、朝倉古墳群があるが、大規模な群形成は確認できない。昭和54年に岩田古墳群の智照院古墳が一部調査されており、片袖式の横穴式石室で、須恵器や耳環が出土した(9)。長良川をはさんで北側の大蔵山古墳は、大正14年に調査されており、両袖式の横穴式石室で砂岩製の長持型石棺があり、人骨が遺存していた(10)。

やがて、飛鳥、藤原と都がおかれ大宝律令が制定されると、人民支配と班田収受の必要性から戸籍が作成される。大宝二年御野国戸籍から調査地周辺は各務郡芥見郷に編入されたと推定される。物資の運搬、情報の伝達には、都から諸国に通じる官道「七道」が整備され、岐阜市内では陸奥へ至る東山道が通った。東山道に定められた駅路である方縣駅から各務駅間は、経路について明確になっていないが、長良川東岸の古津から渡河して調査地付近を通って岩滝地区、そして各務原へ至ったと推定されている。

律令による中央集権化と物資の調達は、各地域に庸調物として表れている。10世紀に編纂された「延喜式」主計寮上によると、摂津、和泉、近江、播磨、備前、讃岐、筑前と共に美濃も陶器の調貢国であった。調査地周辺にある山々には数多くの窯跡が存在しており、美濃須衛古窯跡群として知られている。岐阜市側の通称諏訪山には老洞古窯跡、朝倉古窯跡が存在する。昭和42年に朝倉古窯跡群から「美濃」刻印須恵器の出土が注目される事となった(11)。老洞古窯跡群は昭和52年に「美濃国」刻印須恵器が表面採取され、翌53年には岐阜市教育委員会と名古屋大学による確認調査が実施された(12)。調査の結果、3基の窯跡が確認され1号窯で「美濃国」の刻印・ヘラ書きを持つ須恵器を生産していたことがわかった。昭和54年5月には国史跡、出土遺物約1,300点は国の重要文化財に指定されている。昭和55年の発掘調査により芥見長山遺跡では当該期の竪穴住居、溝、土坑が検出され、土坑から三彩陶器が出土した(13)。また、発掘調査での出土ではないが「美濃国」刻印の須恵器が知られる。平成19年度の立会調査で芥見町屋遺跡から「美濃」刻印の須恵器が出土した(14)。今回調査した岩田西遺跡からも出土している。生産地以外の周辺でかつ、一般的な集落での「美濃国」刻印須恵器の出土は、平城宮、斎宮跡といった消費地を考えあわせると、刻印須恵器の流通経路や美濃国衙の地方行政方針と無関係とは考えにくく注目される。

11世紀頃になると美濃国の貢納は次第に絹に統一されていく。また、律令制度の弛緩と荘園の増加といった状況の中、調査地周辺の芥見も天台宗曼殊院の荘園となったことが知られ、次第に各集落の様相も変化していったと推測される。

文明5（1473）年には斉藤妙椿に招かれた一条兼良が美濃を訪れ、その旅行記である「ふじ河の記」を著している。その中で、曼殊院領である芥見荘に舟で渡った(15)ことが記されている。芥見には町屋河岸の存在が考えられ、年貢、資材の運搬に長良川の舟運が大きな役割を果たしていた事が推測される。岐阜県埋蔵文化財センターが行った岩田東A遺跡において、鎌倉～室町期の区画溝が掘られており、安土・桃山期まで大きく方向性に変化は見られないようである(16)。この区画配置は段丘崖といった自然地形に起因したものと推定され、屋敷地であった可能性が指摘されている。同じく、岐阜県埋蔵文化財センターが行った岩田西遺跡の調査では室町時代とみられる水田跡が発見されている(17)。水田跡からは土鈴、銅鏡片などの遺物が出土した。平成10年度の立会調査では芥見長山遺跡で戦国期の南北に延びる溝が確認されている(18)。権現山西方尾根に長山城が築城されている。長山城は土岐氏一族長山氏(19)もしくは守護土岐政房の弟長山四郎（土岐元頼）の居城(20)と推定される。

山頂に主郭・副郭があり、曲輪、堀切、石積みの井戸などが残っている[21]。

近世は中屋敷遺跡で近世墓や竪穴状の石組遺構が検出されている[22]。江戸時代、芥見は旗本の室賀氏の知行地となっている。

註

(1) 岐阜市教育委員会「岐阜市埋蔵文化財展　図録」1980（昭和 55）年
(2) 吉田　他「寺田・日野　一般国道 156 号岐阜東バイパス建設に伴う緊急発掘調査」建設省　岐阜県　岐阜市教育委員会　1987（昭和 62）年
(3) 各務原市教育委員会「第二章　原始時代の遺跡・遺物」『各務原市史　考古・民俗』各務原市教育委員会　1983（昭和 58）年
(4) 高木　他「日野２　岐阜市日野土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査」岐阜市教育委員会　1987（昭和 62）年
(5) 岐阜市「第二部　考古　第二節弥生時代」『岐阜市史　史料編　考古・文化財』1979（昭和 54）年
(6) 各務原市教育委員会「第三章　歴史時代の遺跡・遺物」『各務原市史　考古・民俗』各務原市教育委員会　1983（昭和 58）年
(7) 岐阜市「第二部　考古　第三節古墳時代」『岐阜市史　史料編　考古・文化財』1979（昭和 54）年
(8) 大熊、戸崎「第１章　平成 11 年度の試掘調査」『平成 11・12 年度各務原市市内遺跡発掘調査報告書』 各務原市教育委員会　2003（平成 16）年
(9) (1) に同じ
(10) 岐阜市「第二部　考古　第三節古墳時代」『岐阜市史　史料編　考古・文化財』1979（昭和 54）年
(11) 岐阜市「第二部　考古　第四節歴史時代」『岐阜市史　史料編　考古・文化財』1979（昭和 54）年
(12) 岐阜市教育委員会「老洞古窯跡群発掘調査報告書」1981（昭和 56）年
(13) 岐阜市教育委員会「長山遺跡発掘調査報告書」1982（昭和 57）年
(14) 岐阜市教育委員会「平成 19・20 年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書」（財）岐阜市教育文化振興事業団 2010（平成 22）年
(15) 一条兼良の息子良鎮が曼殊院の門主であった。文明 4（1472）年に美濃国芥見荘へ下向
(16) 近藤、北村「岩田東Ａ遺跡」『岐阜県文化財保護センター調査報告集　第 120 集』岐阜県文化財保護センター　2011（平成 23）年
(17) 岐阜県埋蔵文化財保護センター「岐阜県新発見考古速報 2010 －平成 22 年度岐阜県発掘調査報告会－　資料」2011（平成 23）年
(18) 岐阜市教育委員会「平成 10・11 年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書」（財）岐阜市教育文化振興事業団 2000（平成 12）年
(19) 美濃国稲葉郡誌
(20) 宮本家古寺縁起「芥見郷土誌」所収
(21) 内堀　他「長山城」『岐阜の山城ベスト 50 を歩く』三宅・中井編　サンライズ出版 2010（平成 21）年
(22) 小野木「中屋敷・中屋敷古墳」『岐阜県文化財保護センター調査報告集　第 115 集』岐阜県文化財保護センター　2011（平成 23）年

第２章　発掘調査の経過

第１節　発掘調査に至る経緯

平成 18 年度、岐阜市基盤整備部道路建設室から岐阜市教育委員会社会教育課室に対して市道ミイソ川原畑線改良工事に関連する埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。当教育委員会は、事業予定地が岩田東Ａ遺跡及び岩田西遺跡の範囲内に及ぶことから、文化財保護法上の手続きと本調査前の試掘調査等について説明を行った。平成 19 年６月から平成 20 年３月にかけて行った試掘調査によって、弥生時代～戦国時代の遺構、遺物が広範囲で確認された。試掘調査の結果を受けて、平成 20 年度から発掘調査（調査主体は（財）岐阜市教育文化振興事業団（当時））を実施することとした。

平成 20 年８月 19 日付けで岐阜市から岐阜県教育委員会教育長あてに文化財保護法第 94 条の規定による工事の通知がなされた。これに対し、平成 20 年８月 27 日付けで岐阜県教育委員会教育長から岐阜市あてに工事着手前の発掘調査実施の指示があった。これを受けて平成 20 年９月８日付けで（財）岐阜市教育文化振興事業団理事長から岐阜県教育委員会教育長あてに文化財保護法第 92 条の規定による発掘調査の届出がなされ、平成 20 年９月 19 日付けで岐阜県教育委員会教育長から（財）岐阜市教育文化振興事業団理事長あてに発掘調査を慎重に実施する旨の指示があった。平成 20 年９月 16 日付けで岐阜市、岐阜市教育委員会、（財）岐阜市教育文化振興事業団の３者間で「ミイソ川原畑線内遺跡発掘調査にともなう埋蔵文化財の取り扱いについて」の協定書を締結した。発掘調査は平成 20 年９月 16 日から着手し、平成 20 年 10 月１日から掘削を開始した。

平成 20 年度以降の発掘調査に伴う届出は下記のとおりである（第１表）。

根拠法令	届出者	届出日	指示者	指示日	指示内容
文化財保護法 第92条第1項	(財)岐阜市教育文化 振興事業団理事長	H20.9.8	岐阜県教育委員会 教育長	H20.9.19	発掘調査を 慎重に実施
文化財保護法 第92条第1項	(財)岐阜市教育文化 振興事業団理事長	H21.3.6	岐阜県教育委員会 教育長	H21.4.3	発掘調査を 慎重に実施

第１表　岩田東Ａ・岩田西遺跡発掘調査における届出

第２節　発掘調査の経緯と経過（第２図、第２・３表）

調査は平成 20 年度から平成 23 年度までの 4 年間にわたり実施した。合計で 30 調査区、総調査面積は 8,666.0 ㎡である。各年度の調査面積は、平成 20 年度は 18 調査区で、5061.2 ㎡、平成 21 年度は 12 調査区で 3598.8 ㎡である。

各調査区の設定は、ミイソ川原畑線道路改良事業に伴う基本測量が行われており、既設の道路用地境の基準杭を元に設定した。調査開始後は、調査区および仮排土置場の周囲を安全対策のためフェンスで囲い、木杭または鉄杭で補強し転倒・飛散防止につとめた。また、非常に交通量の多い道路であるため、公道に面する部分は全て安全灯を設置した。

掘削作業は、現代の耕作土・盛土を重機掘削により除去し、その後人力による包含層掘削、遺構検出、遺構掘削作業を行った。記録作業では、遺構あるいは出土遺物の詳細な記録（平面実測図）、土層堆積状況の記録（断面実測図）、写真撮影を随時行った。また、効率的な記録作業を行うため、ラジコンヘリによる空中写真撮影作業を計 37 回実施した。平成 21 年度は、発掘調査支援業務委託として（株）ユニオンの協力を得て発掘調査を実施した。

各調査区については、調査終了時点で岐阜市教育委員会社会教育課による調査成果確認を受けている。調査面積、遺構面数、遺構や出土遺物成果の確認を行った後、岐阜市役所基盤整備部道路建設課による部分完了検査を受け、合格が認められた後に引き渡しを行った。

整理作業は平成 22 年 1 月から着手した。平成 21 年度は遺物洗浄作業、平成 22 年度は遺物注記作業、遺物接合作業、遺物実測作業、遺構図版作成作業を中心に行った。平成 23 年度は遺物実測作業、遺物・遺構図版作成作業、写真図版作成作業、報告書刊行作業を行った。

また、発掘調査の期間中に岐阜市教育委員会主催の現地公開を平成 21 年 1 月 17 日、平成 21 年 10 月３日の計２回実施した。

N
岩田西遺跡
岩田東A遺跡
27 区
28 区
29 区
30 区
23,24 区
25 区
26 区
22 区
21 区
20 区
19 区
18 区
17 区
16 区
15 区
14 区
8 区
7 区
13 区
12 区
11 区
6 区
5 区
10 区
9 区
4 区
3 区
2 区
1 区
0
100m

第 2 図　調査区地区割図

調査区	調査面積（㎡）	調査面数	発掘担当	平成20年度						平成21年度												平成22年度												平成23年度											
				10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1区	144.0	1	朝田・（株）ユニオン																																									
2区	148.5	1	朝田・（株）ユニオン																																									
3区	297.0	2	朝田・（株）ユニオン																																									
4・5区	288.0	1	朝田																																									
6区	459.0	2	朝田																																									
7区	370.2	2	川島																																									
8区	192.0	1	川島																																									
9区	201.0	2	高見																																									
10区	80.9	1	高見																																									
11区	96.0	1	高見																																									
12区	92.6	1	高見																																									
13東区	183.0	2	朝田																																									
13西区	135.9	2	朝田																																									
14区	185.3	1	高見																																									
15区	112.5	1	朝田・川島																																									
16区	504.2	2	朝田																																									
17区	584.2	2	朝田																																									
18区	658.5	2	朝田																																									
19区	343.2	2	朝田																																									
20～22区	1,212.0	2	朝田・高見																																									
23・24区	198.0	3	朝田・（株）ユニオン																																									
25区	555.4	3	朝田・（株）ユニオン																																									
26区	504.7	2	高見・朝田																																									
27区	281.5	2	朝田																																									
28区	300.0	3	朝田・（株）ユニオン																																									
29・30区	532.4	2	朝田・高見																																									
のべ面積　8,660.0　㎡			整理作業																																									

第２表　岩田東Ａ・岩田西遺跡発掘調査工程表

遺跡名	調査区名	本調査開始	本調査終了	主な調査成果
岩田東A遺跡	1	平成21年4月23日	平成21年6月1日	戦国時代の溝
	2	平成21年12月1日	平成21年12月21日	弥生時代の埋納遺構、中世の土坑群
	3	平成21年10月13日	平成21年11月30日	弥生時代の住居跡
	4･5	平成21年4月23日	平成21年6月5日	弥生時代の住居跡（石庖丁出土）、古代・中世の溝
	6	平成21年6月6日	平成21年8月31日	弥生時代の住居跡（石庖丁出土）、古代・中世の溝
	7	平成21年2月3日	平成21年3月23日	弥生時代の方形周溝墓、古墳初頭の前方後方形周溝墓
	8	平成20年10月8日	平成21年2月3日	弥生時代の方形周溝墓、古墳時代後期・古代の住居跡
	9	平成20年11月6日	平成20年12月3日	中世の土坑群
	10	平成20年10月9日	平成20年11月5日	中世の土坑群
	11	平成20年12月4日	平成21年1月16日	弥生時代の住居跡、中世の溝・土坑群
	12	平成20年1月16日	平成21年2月12日	古代・中世の溝
	13東	平成20年10月9日	平成20年12月3日	中世の溝
	13西	平成20年12月4日	平成21年1月16日	古代の溝
	14	平成21年2月13日	平成21年3月4日	弥生時代の方形周溝墓
	15	平成20年1月19日	平成21年2月6日	弥生時代の方形周溝墓
岩田西遺跡	16	平成20年12月17日	平成21年2月10日	中世の水田跡
	17	平成21年10月16日	平成21年12月11日	中世の水田跡
	18	平成21年1月26日	平成21年3月9日	中世の水田跡
	19	平成21年11月18日	平成21年12月21日	中世の水田跡
	20～22	平成21年2月5日	平成21年3月18日	中世の水田跡・溝
	23・24	平成21年9月1日	平成21年12月11日	古代の溝、中世の水田跡・溝
	25	平成21年6月1日	平成21年8月31日	古代の落ち込み(「美濃国」刻印須恵器出土)、中世の水田跡
	26	平成21年2月4日	平成21年3月23日	中世の水田跡
	27	平成21年10月13日	平成22年1月14日	中世の水田跡・溝
	28	平成21年9月1日	平成21年11月18日	古代の溝(「美濃国」刻印須恵器出土)、中世の水田跡・溝
	29・30	平成21年2月9日	平成21年3月23日	中世の水田跡

第3表　岩田東A・岩田西遺跡発掘調査の経過

第３章　遺跡の概要

第１節　基本層序（第２・３図）

本報告書における基本層序は、主に調査区の長軸方向断面に基づいている。また、両遺跡の基本層序呼称については、上層から順番にローマ数字（例：Ⅰ層・Ⅱ層・Ⅲ層）を用いた。また、各層位で複数面・複数層が認識できる場合は、アルファベット小文字を付加して呼称している（例：Ⅲａ層・Ⅲｂ層・Ⅲｃ層）。以下、各遺跡の基本層序について概観する。

＜岩田東Ａ遺跡基本層序＞

Ⅰａ層　現代耕作土層もしくは現代盛土
Ⅰｂ層　現代耕作土層もしくは現代盛土直下に遺存する現代耕作土層
Ⅱａ層　近世以降の旧耕作土・遺物包含層
Ⅱｂ層　近世以降の旧耕作土・遺物包含層
Ⅲ層　　弥生時代から中世の遺物包含層
Ⅳ層　　地山層
Ⅴ層　　地山層
Ⅵ層　　地山層
Ⅶ層　　地山層（円礫層）

Ⅰａ層：暗灰褐色シルト混細砂、小レキ含、しまりなし

現代耕作土層もしくは現代の盛土である。調査区全域で確認できる。段丘崖近くの８区では、本層が比較的薄い状況であった。

Ⅰｂ層：暗灰褐色シルト混極細砂～細砂、しまりなし

現代耕作土層もしくは現代の盛土直下に遺存する現代耕作土層である。８区を除く調査区全域で確認できる。Ⅰａ層より砂粒の細かい土層である。

Ⅱａ層：暗褐色シルト～極細砂、しまりなし

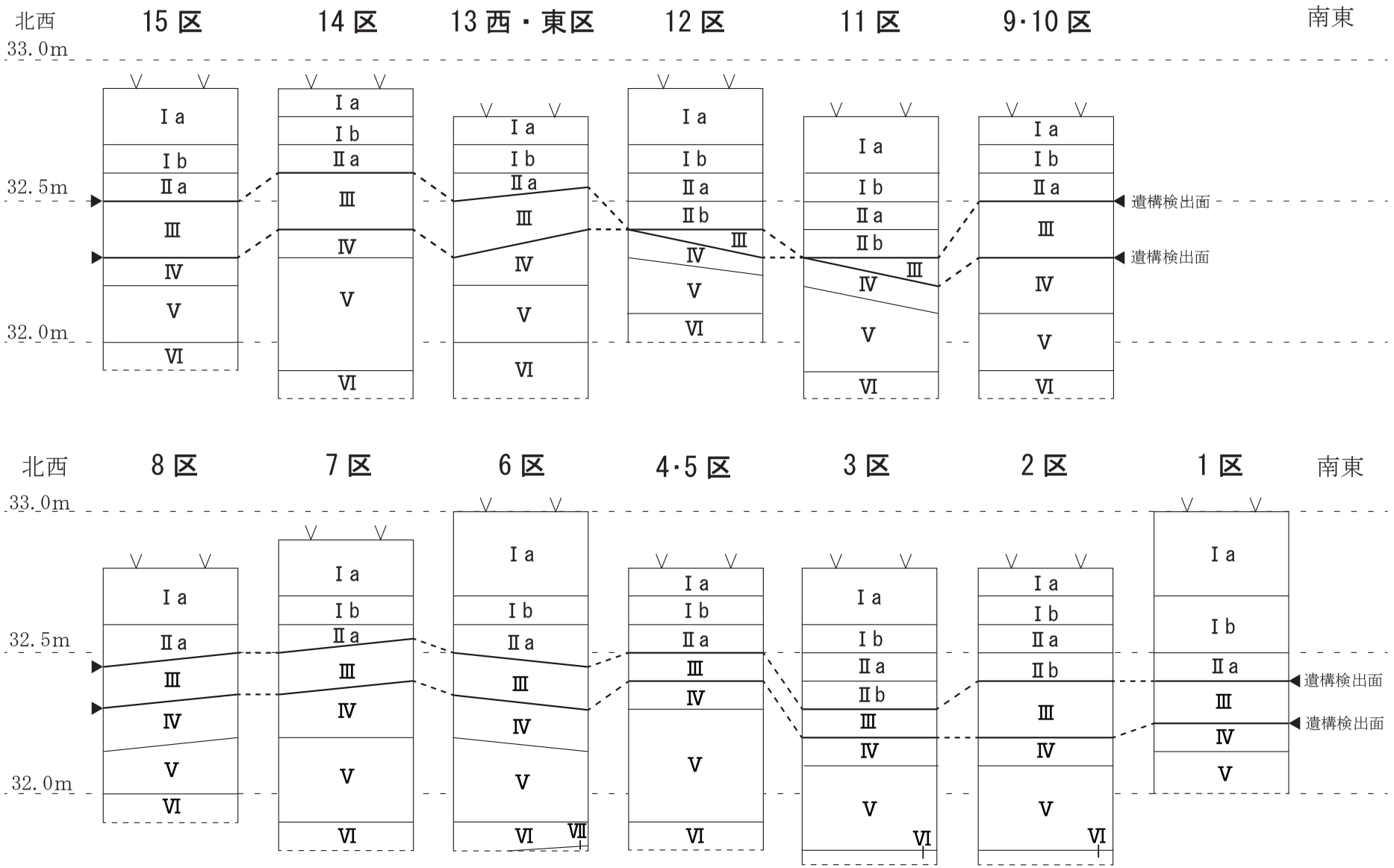
近世以降の旧耕作土で、弥生時代から近世までの遺物包含層である。調査区全域で確認できる。本層の下面から畝溝などの耕作痕が掘り込まれることが多い。

Ⅱｂ層：暗褐色～黒褐色シルト、しまりなし

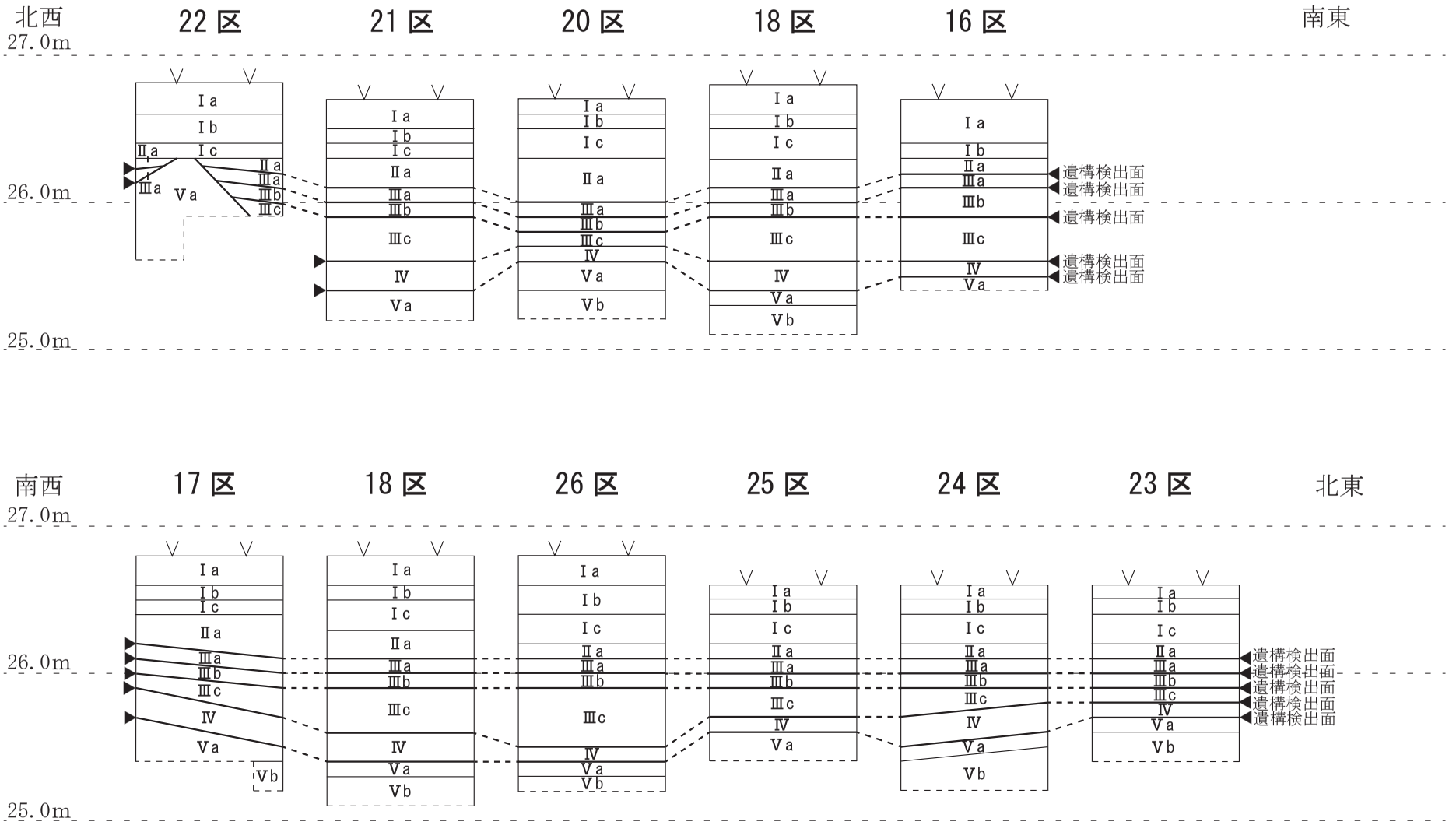
近世以降の旧耕作土で、弥生時代から近世までの遺物包含層である。２・３・11・12区で確認できる。Ⅱａ層より色調が暗い土層である。上層のⅡａ層も含め、元々はⅢ層が起源となって形成された土層であるため、古い時代の遺物が多く出土する。

Ⅲ層：黒色シルト、しまりなし

黒ボク土起源の土層で、弥生時代から中世の遺物包含層である。調査区全域で確認できる。本層上面および下面でほとんどの遺構を確認し、その時期も弥生時代中期から中世まで続くことから、安定した旧表土層であったと考えられる。本層上面において遺構検出し、主に中世以降の遺構を確認した。しかし、土層断面を詳細に観察すると、平安時代から中世までの遺構が確認できた調査区もあることから、本来は分層することができ、複数の時期に分かれる可能性が考えられる。また、遺構は下層の地山層まで到達しているものが多く、埋土中に地山層より由来するⅣ層～Ⅵ層がブロッ



第３図　岩田東Ａ遺跡の基本層序模式図



第 4 図　岩田西遺跡の基本層序模式図

ク状に含まれることが多い。

Ⅳ層：灰黄褐色シルト、ややしまりあり

地山層で、黒ボク土直下の遷移層である。調査区全域で確認できる。Ⅲ層を除去して本層上面で遺構検出すると、弥生時代中期前葉（朝日式）から後期後半（欠山式併行）、古墳時代後期から末、平安時代の遺構を確認できた。Ⅳ層以下から遺物は出土しない。

Ⅴ層：にぶい黄褐色シルト、しまりあり

地山層で、Ⅳ層よりやや明るい土層である。調査区全域で確認できる。

Ⅵ層：明黄橙色シルト、しまりあり

地山層で、Ⅴ層よりさらに明るい土層である。調査区全域で確認できる。岩田東Ａ遺跡の試掘や立会調査の深掘において、層厚1m近くに達する地点も確認されている。しかし、本調査においてはほとんどの調査区で上層部の一部しか確認できなかった。

Ⅶ層：灰色円礫（1～10cm大）、粗砂混、しまりなし

地山層で、段丘の基盤となる円礫層である。6区の遺構底面で一部確認することができた。

＜岩田西遺跡基本層序＞

Ⅰａ層　現代の水田耕作土
Ⅰｂ層　現代の水田床土、もしくはほ場整備時の（昭和４０年以前）の造成土
Ⅰｃ層　ほ場整備以前（昭和４０年以前）の水田耕作土。
Ⅱａ層　近世以降の水田耕作土
Ⅱｂ層　近世以降の水田耕作土
Ⅲａ層　室町時代前半から戦国時代後半までの水田耕作土
Ⅲｂ層　鎌倉時代から室町時代前半までの水田耕作土
Ⅲｃ層　平安時代後半から鎌倉時代までの水田耕作土
Ⅳ層　　古墳時代末から平安時代前半頃の旧表土、もしくは水田耕作土
Ⅴａ層　古墳時代末以前の堆積層、もしくは水田耕作土
Ⅴｂ層　古墳時代末以前の堆積層

Ⅰａ層：暗灰色シルト混極細砂～細砂、ややしまりあり

現代の水田耕作土である。調査区全域で確認できた。

Ⅰｂ層：暗黄褐色極細砂混シルト、ややしまりあり～しまりあり

現代の水田床土もしくはほ場整備時（昭和４０年頃）の造成土である。重機等で堅くたたきしめられた地点もある。

Ⅰｃ層：黄褐色シルト混極細砂～細砂、ややしまりあり

ほ場整備以前（昭和４０年以前）の水田耕作土である。本層上面から塩ビ管の暗渠が埋設されていたことから、ほ場整備以前の耕作土に比定できる。

Ⅱａ層：暗褐色シルト混極細砂～細砂、ややしまりあり

近世以降の水田耕作土である。調査区全域で確認できた。中世から近世までの遺物が出土する。

Ⅱｂ層：暗褐色シルト混極細砂、ややしまりあり

近世以降の水田耕作土である。Ⅱａ層より砂粒の細かい土層である。上層のⅡａ層も含め、元々は中世の水田耕作土であるⅢａ層が起源となって形成された土層であるため、中世から近世までの遺物が出土する。

Ⅲａ層：暗灰色～黄灰色シルト、しまりあり

室町時代前半から戦国時代後半までの水田耕作土と考えられる土層である。調査区全域で確認できる。Ⅲｂ層が起源となって形成された耕作土である。出土遺物の時期幅が広く、鎌倉時代から戦国時代後半までの遺物が出土することから、耕起による土壌の撹拌が顕著であったと考えられる。また、土師器皿や中国産磁器などが出土することから、近接地に中世の集落や居館等が存在する可能性も考えられる。

Ⅲｂ層：灰色シルト、しまりあり

鎌倉時代から室町時代前半までの水田耕作土と考えられる土層である。調査区全域で確認できる。Ⅲｃ層が起源となって形成された耕作土である。鎌倉時代から戦国時代後半までの時期幅の遺物が出土することから、本層も耕起による土壌の撹拌が顕著であったと考えられる。戦国時代以降の出土遺物がわずかに混じる理由として、水田耕作時の耕起の影響も考えられるが、調査時にⅢａ層を除去し切れていなかった可能性も考えられる。またⅢａ層と同様に、土師器皿や中国産磁器が出土することから、近接地に中世の集落や居館等が存在する可能性も考えられる。

Ⅲｃ層：灰色～灰白色シルト、しまりあり

平安時代後半から鎌倉時代までの水田耕作土と考えられる土層である。調査区全域で確認できる。下層のⅣ層とは明確に色調が異なる。旧表土上層を覆った氾濫堆積を起源として形成された土層と考えられる。平安時代から鎌倉時代までの遺物が出土する。本層では水田畦畔を検出することはできなかったが、プラントオパール分析により、水田として利用されていたことが明らかとなった（第6章自然科学分析参照）。

Ⅳ層：暗茶褐色シルト、しまりあり

古墳時代末から平安時代前半頃の旧表土もしくは水田耕作土である。Ⅳ層の上面検出レベルが低い16・18・21区では、分析よりプラントオパールが多数検出できることから、畦畔等の遺構は検出できなかったが、本層が水田として利用されていた可能性が考えられる。対して、本層上面検出レベルが最も高くなる23・24・27・28区付近では、プラントオパールが少ない。微高地部分は水田として利用されていなかったことから、微低地部分との土地利用方法が明確に分けられる可能性が高い。

Ⅴａ層：灰色シルト、しまりあり

古墳時代末以前の堆積層もしくは水田耕作土である。本層上面でわずかに遺構を確認することができた。Ⅳ層と同様に、Ⅴａ層の上面検出レベルが低い16・18・21区では、プラントオパールが多数確認された。畦畔等は確認できなかったが、水田として利用されていた可能性が考えられる。

Ⅴｂ層：暗灰色シルト、しまりあり

古墳時代末以前の堆積層である。本層中から遺物は出土しなかった。また、遺構は確認できなかった。

＜基本層序まとめ＞

岩田東A遺跡・岩田西遺跡の発掘調査では、南東方向から北西方向へ縦断するように、約400mに及ぶ土層断面観察を行うことができた。

岩田東Ａ遺跡では、Ⅳ層以下の地山層にわずかながら地形の凹凸が存在することが明らかなった。遺跡西側の 7 区から 12 ～ 14 区周辺と、遺跡中央の 4・5 区から 9・10 区周辺に微高地が存在し、その間に挟まれた 6 区と 11 区はわずかに低い。両調査区では鎌倉～戦国時代に溝を何回も造り直していることからも、元々の微低地を利用していた可能性が考えられる。

岩田西遺跡では、自然科学分析の結果等をあわせて考えると、平安時代に水田耕作が行われていたことは確実である。また、16・18・21 区に限ると、Ⅳ層の下、Ｖａ層中よりプラントオパールが検出されたことから、水田耕作開始時期が古墳時代末以前にさかのぼる可能性が考えられる。

古代以前の土地利用方法については、22 区から北西 100 ｍの、当事業団が実施した試掘調査地点において平安時代から中世の遺構を確認しており、遺跡西側の微高地部分で集落が営まれていたことが判明している。周辺の既往調査結果も含めると、今回調査の岩田西遺跡の土層堆積状況は、段丘崖直下から遺跡東側に広がる低地部分に相当するものであり、23・24・28 区の SD25 を境として、南東側の低地から北西側の微高地へと移行する地形が想定される。

＜参考文献＞

岐阜県文化財保護センター　2009 『岩田西遺跡現地説明会資料』
小野木学他　2011 『中屋敷遺跡・中屋敷古墳』岐阜県文化財保護センター
北村昌弘他　2011 『岩田東Ａ遺跡』岐阜県文化財保護センター
（財）岐阜市教育文化振興事業団　2009 『平成 19・20 年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

第２節　遺構・遺物の時期区分（第４表）

岩田東Ａ遺跡・岩田西遺跡では、弥生時代中期から近世に至るまでの遺構・遺物を確認している。このため、本報告書においては、各遺構の時期決定する上で、出土遺物の分類および時期比定に関しては、以下の分類・編年研究に従った。

＜参考文献＞

内堀信雄　1999　「第２章第３節　遺物の分類」『城之内遺跡（第１分冊）』岐阜市教育委員会

高木　晃　2002　「第３章第３節　遺物の分類」『鷺山仙道遺跡』（財）岐阜市教育文化振興事業団

岩瀬彰利　1996　「縄文時代後期～晩期の煮炊具－美濃・尾張・三河・遠江における変遷－」『鍋と釜そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会

内堀信雄・横幕大祐　1998　「山中～宇田式併行期の美濃西部地域土器編年」『土器・墓が語る美濃の独自性～弥生から古墳へ～』東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会

渡辺博人　1984　「美濃須衛古窯跡群における須恵器編年」『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』各務原市教育委員会

内堀信雄・井川祥子　1996　「美濃における古代土師器煮炊具の様相」『鍋と釜そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会

尾野善裕　2003　「古代の尾張・美濃における緑釉陶器生産」『古代の土器研究　平安時代の緑釉陶器－生産地の様相を中心に－』古代の土器研究会編

尾野善裕　2006　「古代土器の編年と暦年代観－ 10 ～ 11 世紀を中心に－」『第 14 回京都府埋蔵文化財研究会資料集』京都府埋蔵文化財研究会

伊藤裕偉　1990　「南伊勢系土師器の展開と中世土器工人」『研究紀要第１号』三重県埋蔵文化財センター

北村和宏　1996　「尾張平野における鎌倉・室町時代の煮沸具の編年」『平成７年度年報』（財）愛知県埋蔵文化財センター

藤澤良祐　1994　「山茶碗の現状と課題」『研究紀要』第３号　三重県埋蔵文化財センター

小森俊寛・上村憲章　1996　「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要第３号』（財）京都市埋蔵文化財研究所

横田賢次郎・森田　勉　1978　「太宰府出土の輸入陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集４』

小野正敏　1982　「15 ～ 16 世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2

上田秀夫　1982　「14 ～ 16 世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2

上田秀夫　1982　「14 ～ 16 世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2

中野晴久　1994　「赤羽・中野「生産地における編年について」」『全国シンポジウム「中世常滑をおって」資料集』日本福祉大学知多半島総合研究所

井川祥子　1997　「15 世紀後半から 16 世紀前葉の土師器皿－中濃地域を中心にして－」『美濃の考古学』第２号

井川祥子　2006　「美濃中世後期土師器皿の分類と編年」『守護所と戦国城下町』高志書院

藤澤良祐　1991　「瀬戸古窯址群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年」『瀬戸市歴史民俗博物館研究紀要Ⅹ』瀬戸市歴史民俗博物館

西暦	本書の時代呼称		土器様式・型式				岩田東A遺跡 確認遺構	岩田東A遺跡 出土遺物	岩田西遺跡 確認遺構	岩田西遺跡 出土遺物	西暦
			弥生土器・土師器								
B. C. 300	弥生時代	中期前葉	朝日式(美濃Ⅱ)					■		■	B. C. 300
		中期中葉	貝田町式(美濃Ⅲ)				■	■			
		中期後葉	高蔵式(美濃Ⅳ)				■	■	■	■	
0		後期前半	山中式(フォーラム編年Ⅰ期、美濃Ⅴ)				■	■		■	0
200		後期後半～末	欠山式(フォーラム編年Ⅱ期・廻間Ⅰ式併行、美濃Ⅵ)				■	■		■	200
	古墳時代	初頭	元屋敷式(フォーラム編年Ⅲ期・廻間Ⅱ式併行、美濃Ⅵ)				■	■			
300		前期	松河戸Ⅰ式(フォーラム編年Ⅳ期・廻間Ⅲ式併行)				■	■			300
400			松河戸Ⅱ式(フォーラム編年Ⅴ期)	須恵器							400
		中期	宇田式(フォーラム編年Ⅵ期)	東山48・11(猿投)							
500		後期		美濃須衛Ⅱ期・東山61・44(猿投)							500
600		終末期		美濃須衛Ⅲ期・東山50(猿投)			■	■	■	■	600
700	奈良時代			美濃須衛Ⅳ期	灰釉陶器						700
800	平安時代			美濃須衛Ⅴ期	Ⅵ期古(井ヶ谷78～黒笹14)		■	■	■	■	800
					Ⅵ期中(黒笹14～黒笹90)						
900					Ⅵ期新(黒笹90～折戸53)				■	■	900
					Ⅶ期古(折戸53・大原2)						
					Ⅶ期中(東山72・虎渓山1)						
1000					Ⅶ期新(東山72・虎渓山1～丸石2)		■	■	■	■	1000
					Ⅷ期古(丸石2～明和27)						
					Ⅷ期中(明和27～百代寺)						
					Ⅷ期新(百代寺)						
1100			山茶碗(尾張型)								1100
			第4型式	山茶碗(美濃須衛型)	山茶碗(東濃型)	古瀬戸・大窯					
1200	鎌倉時代		第5型式	第5型式	丸石3	前Ⅰ期	■	■	■	■	1200
					窯洞1						
			第6型式	第6型式	白土原1	前Ⅱ期～前Ⅲ期	■	■			
1300			第7型式		明和1	前Ⅲ期～前Ⅳ期					1300
			第8型式		大畑大洞4	中Ⅰ期～中Ⅱ期					
			第9型式		大畑大洞4新	中Ⅲ期～後Ⅰ期					
1400	室町時代		第10型式		大洞東1	後Ⅱ期～後Ⅲ期					1400
			第11型式		脇之島3	後Ⅳ期古					
	戦国時代				生田2	後Ⅳ期古～新					
1500						後Ⅳ期新～大窯第１段階					1500
						大窯第１～第２段階					
						大窯第３～第４段階					
1600	江戸時代					連房式登窯					1600
						第１小期					
						第２小期					
						第３小期					
						第４小期					
1700						第５小期					1700
						第６小期					
						第７小期					
						第８小期					
1800						第９小期					1800
						第１０小期					
						第１１小期					

古瀬戸・大窯	土師器皿
前Ⅰ期	Ⅰ期
前Ⅱ期～前Ⅲ期	Ⅱ期
前Ⅲ期～前Ⅳ期	Ⅲ期
中Ⅰ期～中Ⅱ期	Ⅳ期
中Ⅲ期～後Ⅰ期	Ⅴ期

第４表　本書における時期区分

藤澤良祐　2002 「瀬戸・美濃大窯の再検討」『（財）瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要　第 10 輯』（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
鈴木正貴　1996 「東海地方の内耳鍋・羽付鍋・釜」『鍋と釜そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
金子健一　1996 「尾張・三河地方のホウロク」『鍋と釜そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
藤田英博・高木宏和　2002 「美濃（飛騨）地域」『弥生土器の様式と編年東海編』木耳社
高木宏和　2005 「第 9 章　弥生時代後期条痕文文化圏の有稜高坏の変遷について」『古村遺跡』美濃市教育委員会
（財）大阪府文化財センター編　2006 『古式土師器の年代学』
中世土器研究会編　1995 『概説　中世の土器・陶磁器』

第４章　岩田東Ａ遺跡の遺構と遺物

岩田東Ａ遺跡の遺構は、段丘面上に広がる黒ボク土を起源とするⅢ層包含層の上面（以下、上層面あるいは上層遺構と呼称）と、Ⅲ層包含層を除去し、地山層上面（Ⅳ～Ⅵ層上面、以下、下層面あるいは下層遺構と呼称）で確認した。安定した段丘面上に立地していること、後世の撹乱を受け続けたことから、特に下層遺構については、土層断面における遺構の掘り込み開始面や、近似する遺構埋土によって遺構の切り合いを判断することが非常に困難であった。

第１節　弥生時代の遺構と遺物

〈弥生時代中期〉

SX5（第５図、第45図、別添図１）

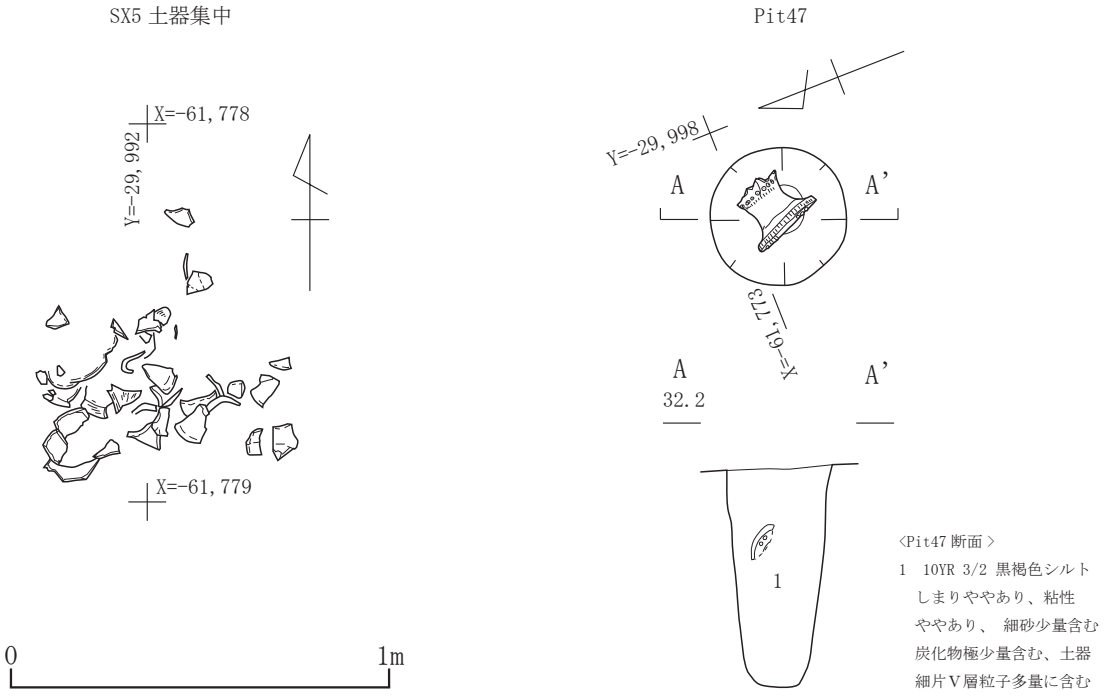
２区東側に位置する。Ⅲ層中で確認した。Ⅲ層除去中に遺物が多数出土したため、出土遺物周辺にサブトレンチを設定し断面観察等を実施した。その結果、埋土や人為的な掘り込み等は確認できなかったが、一括性の高い土器集中であることが判明した。Ⅲ層中で掘り込まれた遺構の可能性が考えられる。

１～４は弥生土器である。１は高杯で弥生時代中期末、高蔵式後半である。凹線文と櫛状工具による刺突文が施される。２・３は甕で中期後葉の高蔵式である。３はこの時期に特徴的な、体部タタキ成形のちハケ調整のものである。４は細頸壺で、中期末の高蔵式後半である。５は石製品無茎凹基の磨製石鏃である。

出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代中期末頃に比定できる。

Pit47（第５図、第45図、別添図１）

２区の中央西寄りに位置する。Ⅳ層地山層上面で確認した。プランはほぼ円形で、直径0.35m、深

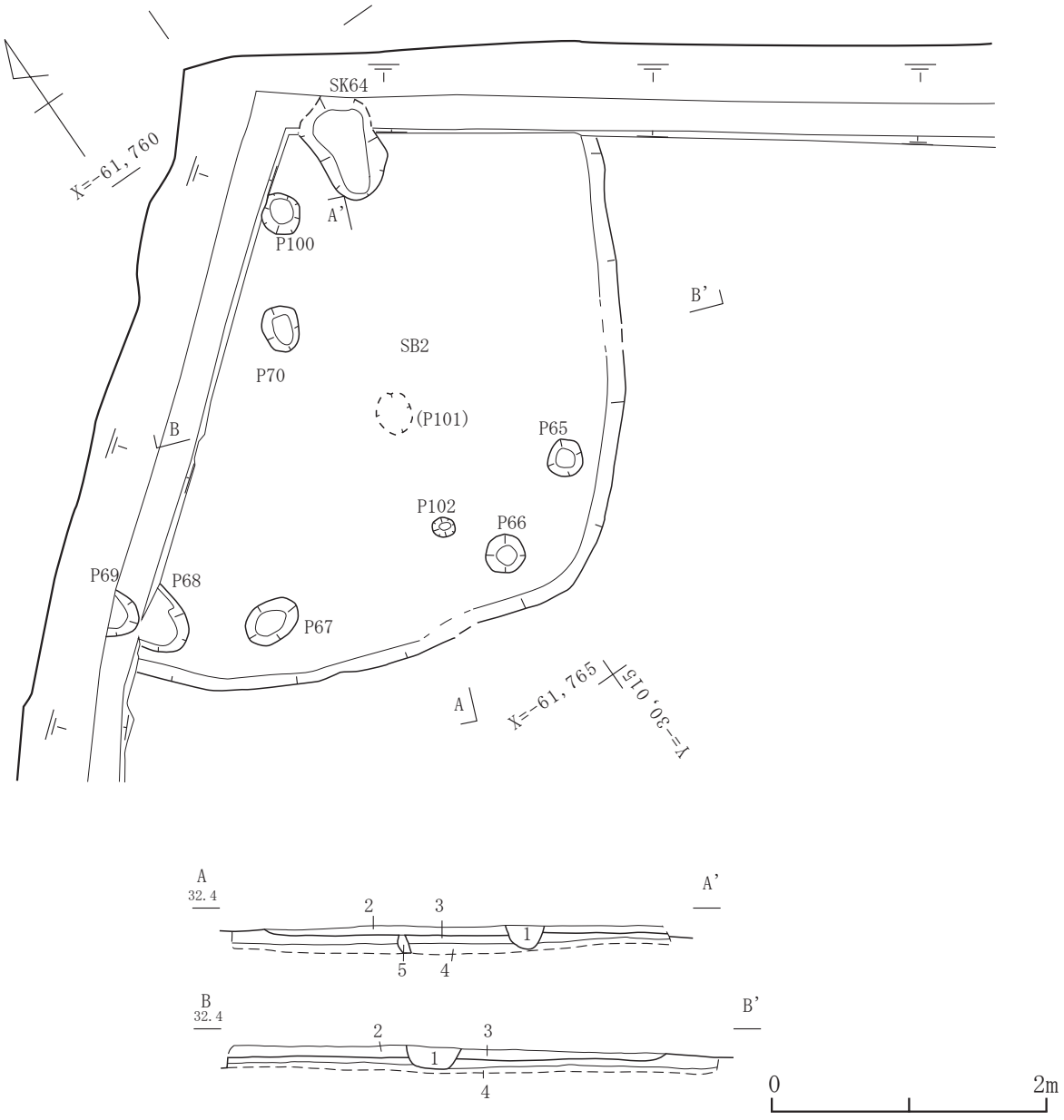


第５図　SX5 土器集中・Pit47 土器埋納実測図

さ 0.6m である。検出当初よりピットと判断して掘削を行ったところ、検出面より深さ 0.15m 付近で土器の口縁端部を確認した。埋納されていた土器は壺の口縁から頸部にかけてのもので、口縁を横に向けた状態で埋納されていた。体部下半は遺存しておらず、破砕した後埋納されたものと推測される。

6 は弥生土器の壺で弥生時代中期末、高蔵式後半のものである。口縁部内面に瘤状突起が 3 個を一単位として 4 方向に配される。頸部には櫛描文や竹管文、円形浮文が施される。

出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代中期末頃に比定できる。



〈SB2 断面〉

Pit101	1	10YR3/3	暗褐色シルト しまりなし 粘性わずかにあり 炭化物少含
SB2	2	10YR2/2	黒褐色シルト しまりややあり 粘性わずかにあり 細砂少量 炭化物やや多く含
Ⅳ地山層	3	10YR2/3	黒褐色シルト
Ⅴ地山層	4	10YR4/6	褐色シルト
Pit102	5	10YR2/2	黒褐色シルト しまりなし 粘性わずかにあり 褐色シルトブロック少含

第 6 図　SB2 実測図

SB2（第6図、第45図、別添図1）

3区西側に位置する。Ⅳ層地山層上面で確認した。プランは楕円形もしくは長方形に近い形状の竪穴住居跡と推測される。北側・西側立ち上がり部分は調査区外へ続く。確認部分で長軸方向4.3m、短軸方向3.6m、深さ0.1mである。住居跡内の遺構としてSK64・Pit65～69・70・100・102を確認した。

7は弥生土器の壺で、弥生時代中期中葉の貝田町式である。8は石製品有茎平基の石鏃で、石材は下呂石である。

出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代中期中葉頃に比定できる。

SK63（第45図、別添図1）

3区西側に位置する。Ⅳ層地山層上面で確認した。プランはほぼ円形である。規模は直径0.5m、深さ0.15mである。

9は弥生土器条痕文系深鉢で、中期中葉から後葉、貝田町式から高蔵式のものである。

出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代中期中葉から後葉頃に比定できる。

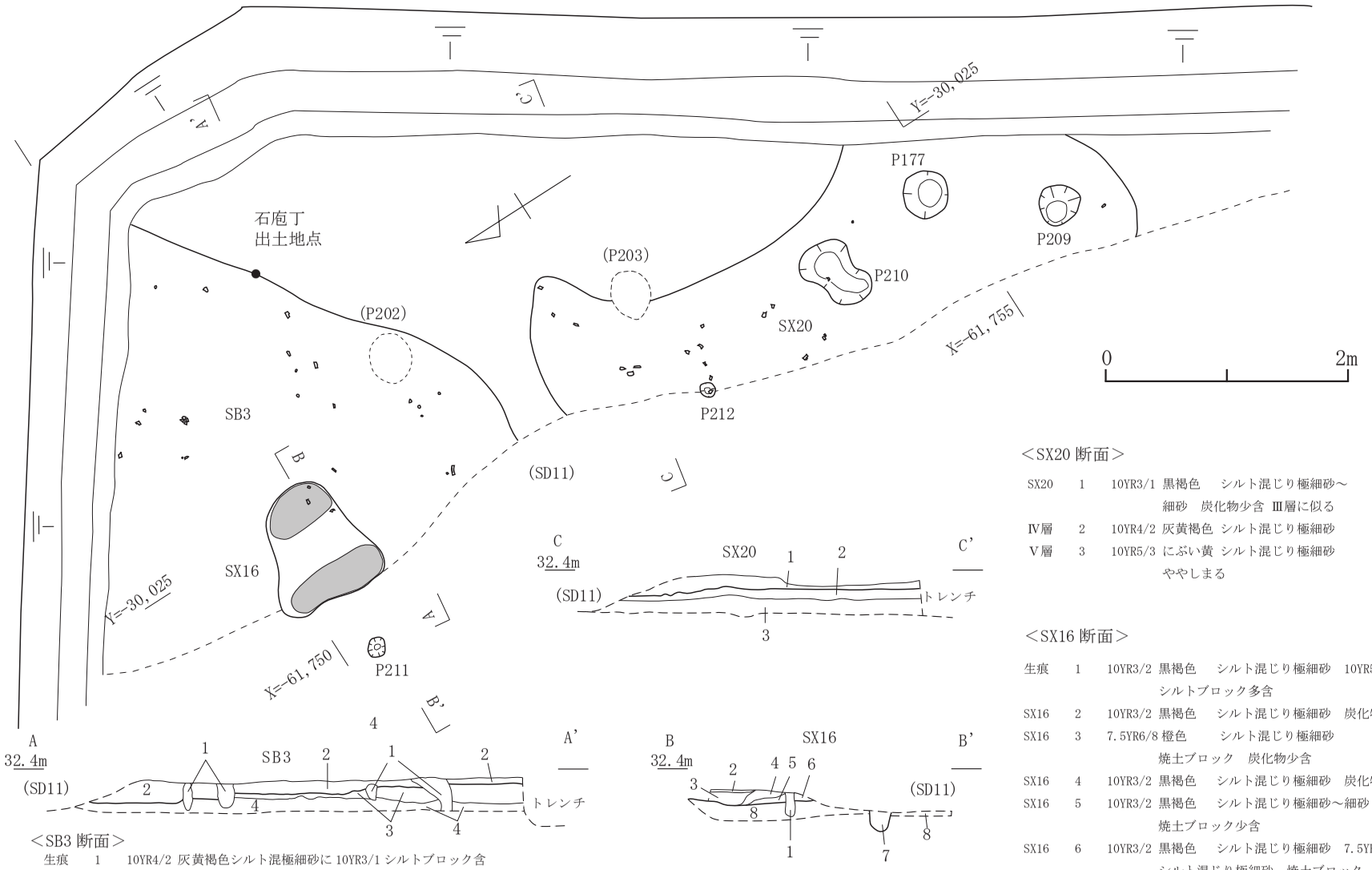
SB3・SX20（第7図、第46図、別添図1）

4区西端に位置する。Ⅲ層中で確認した。Ⅲ層掘削中に炭化材を多く含んでいたこと、石庖丁が出土したことにより、平面での遺構検出のみでは困難と判断し、サブトレンチを掘削し確認した。断面でも掘り込みを確認することは難しく、わずかに落ち込む程度であった。

炭化材の分布状況を検討した結果、石庖丁出土地点を含む北側の範囲と、その5m南側の範囲、計2ヶ所の炭化材の広がりを確認した。その後平面検出を慎重に行いⅣ層（地山層）まで下げたが、明確なプラン検出に至らなかった。北側範囲についてはSX16炉跡を確認したことから、住居跡SB3と判断した。南側の炭化材分布範囲については、SB3と同時期の遺物が出土するものの、炉跡等は確認できなかったため別遺構と考え、SX20とした。

SB3は軸線南東方向の住居と推定される。規模は確認部分で長軸方向3.7m、短軸方向3.2m、深さ0.05mである。住居跡の遺構としてSX16炉跡を確認した。SX16のプランは不整形である。規模は長軸方向1.0m、短軸方向約0.60～0.9m、深さ0.12m。埋土の3層はほとんどが焼土ブロックであり、炭化物を多く含むことから、炉跡と判断した。SX20はプラン形状不明で、規模は確認部分で長軸方向5.0m、短軸方向約1.5m、深さ0.03mである。SX20内の遺構としてPit177・209・210・212を確認した。なお、SB3の炭化材については、AMSによる放射性炭素年代測定を行った。その結果、SB3から出土した炭化材は、炭No.4が361-271 cal BC（60.2%）および264-194 cal BC（35.2%）で紀元前4世紀前半～前2世紀初頭、炭No.8が384-347 cal BC（20.4%）および321-206 cal BC（75.0%）で紀元前4世紀前半～前3世紀末の範囲を示した。年代としては弥生時代中期の朝日式～貝田町式期に比定できる（第6章自然科学分析）。

10～13はSB3出土遺物である。10～12は石製品で、10は直線刃の石庖丁である。先端部を欠く。紐穴穿孔は2ヶ所で、石材は粘板岩である。11は石錐で、石材は下呂石と考えられる。12は剥片で、石材は下呂石である。13は弥生土器条痕文系深鉢で、貝田町式から高蔵式のものである。底部外面に布目圧痕を有する。



＜SB3 断面＞

生痕	1	10YR4/2 灰黄褐色シルト混極細砂に 10YR3/1 シルトブロック含
SB3	2	10YR3/1 黒褐色シルト混極細砂～細砂　炭化物少含（Ⅲ層に似る）
Ⅳ層	3	10YR4/2 灰黄褐色シルト混極細砂
Ⅴ層	4	10YR5/3 にぶい黄シルト混極細砂　（ややしまる）

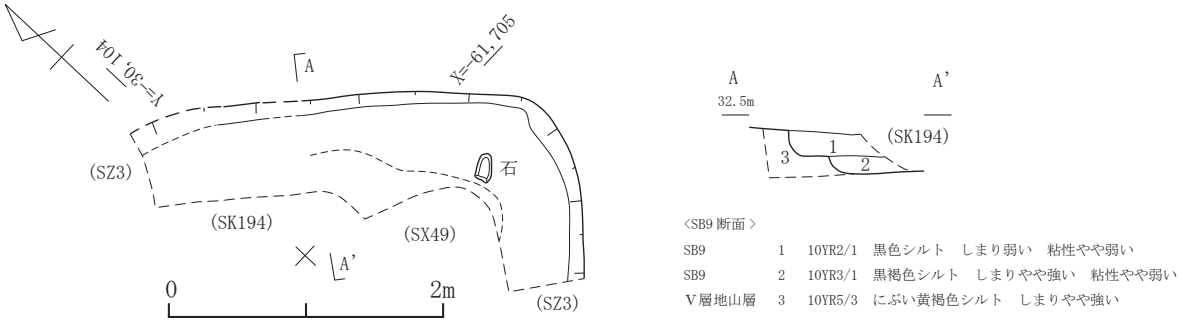
＜SX20 断面＞

SX20	1	10YR3/1 黒褐色　シルト混じり極細砂～細砂　炭化物少含 Ⅲ層に似る
Ⅳ層	2	10YR4/2 灰黄褐色 シルト混じり極細砂
Ⅴ層	3	10YR5/3 にぶい黄 シルト混じり極細砂 ややしまる

＜SX16 断面＞

生痕	1	10YR3/2 黒褐色　シルト混じり極細砂　10YR5/3 シルトブロック多含
SX16	2	10YR3/2 黒褐色　シルト混じり極細砂　炭化物少含
SX16	3	7.5YR6/8 橙色　シルト混じり極細砂 焼土ブロック　炭化物少含
SX16	4	10YR3/2 黒褐色　シルト混じり極細砂　炭化物含
SX16	5	10YR3/2 黒褐色　シルト混じり極細砂～細砂 炭化物 焼土ブロック少含
SX16	6	10YR3/2 黒褐色　シルト混じり極細砂　7.5YR6/8 シルト混じり極細砂　焼土ブロック
P211	7	2.5Y3/2 黒褐色　シルト混じり極細砂～細砂
Ⅴ層	8	10YR5/3 にぶい黄 シルト混じり極細砂　ややしまる

第 7 図　SB3・SX16・SX20 実測図



第 8 図　SB9 実測図

14・15 は SX20 出土遺物である。14 は弥生土器壺で、弥生時代中期である。櫛描文が施される。15 は石製品剥片で、石材は下呂石である。

16･17 は Pit177 出土遺物である。16 は弥生土器壺で、中期中葉貝田町式である。17 は石製品石核で、石材はチャートである。

出土遺物や自然科学分析結果から、SB3 の時期は弥生時代中期中葉頃と判断した。また関連する SX20・Pit177 についても、弥生時代中期中葉頃に相当すると判断した。

SK154（第 46 図、別添図 4）

7 区東側に位置する。Ⅳ層地山層上面で確認した。プランは長方形状である。規模は確認部分で長軸方向 1.6m、短軸方向 1.0m、深さ 0.25m である。

18 は弥生土器沈線文系深鉢で、中期前葉から中葉、朝日式から貝田町式である。

出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代中期前葉から中葉頃と判断した。

SK214（第 46 図、別添図 4）

9 区西側に位置する。Ⅳ層地山層上面で確認した。プランは楕円形状である。規模は長軸方向 0.55m、短軸方向 0.4m、深さ 0.2m である。

19 は弥生土器条痕文系深鉢で、中期中葉から後葉、貝田町式から高蔵式である。

出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代中期中葉から後葉頃と判断した。

Pit362（第 46 図、別添図 4）

10 区東端隅に位置する。Ⅳ層地山層上面で確認した。プランは円形である。規模は直径 0.25m、深さ 0.1m である。

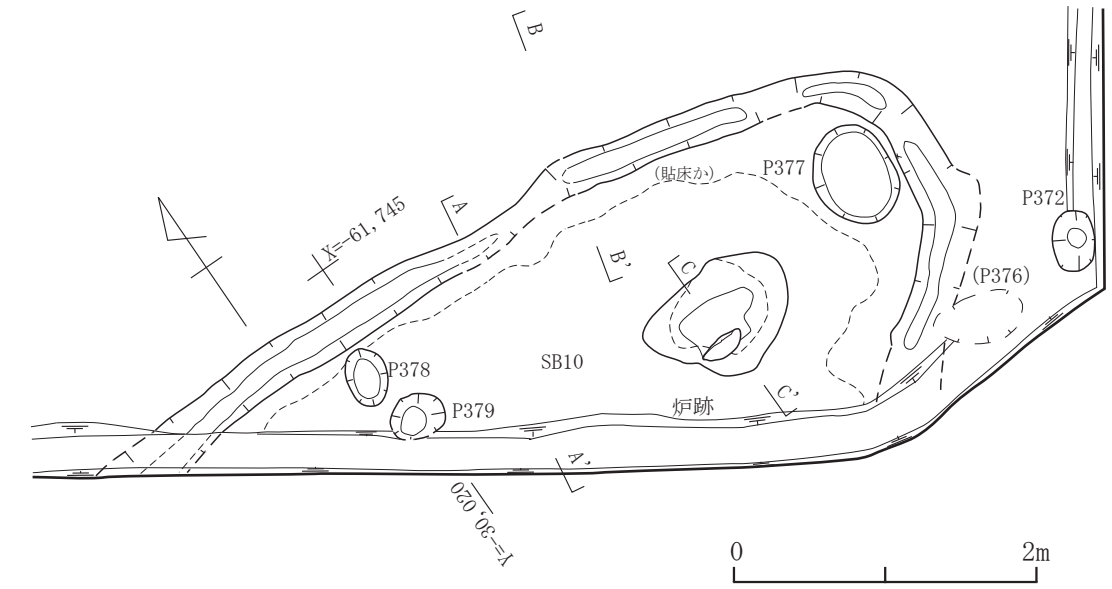
20 は弥生土器壺で、弥生時代中期である。口縁内面に瘤状突起を有する。

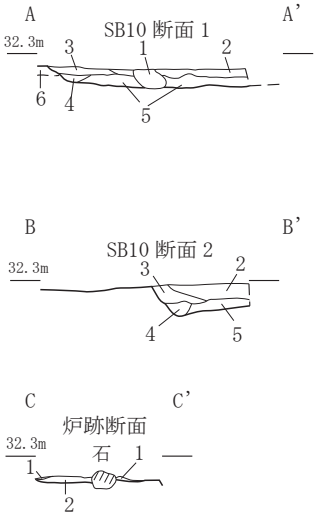
出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代中期頃に比定できる。

SB9（第 8 図、別添図 3）

8 区東側に位置する。Ⅴ層地山層上面で確認した。古代の SK194・SX49、弥生時代後期末の方形周溝墓 SZ3 に切られる。コーナー部があること、遺構規模等から住居跡と判断した。軸線は北東方向で、プランは方形と推定される。規模は確認部分で長軸方向 3.2m、短軸方向 1.5m、深さ 0.35m である。

住居跡内で Pit 等は確認できなかったが、貼床範囲（図破線部分）をプラン・断面で確認した。ま





<SB10 断面 1・2>

生痕	1	※土層注記なし	
SB10	2	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山VI層）0.5 ～ 1 cm 10%含　焼土 0.2 ～ 0.5 炭化物 0.5 ～ 1 cm僅かに含
SB10	3	2.5Y3/1	黒褐色シルト　しまり強　粘性やや強　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山VI層）0.5 ～ 1 cm 20%含
SB10	4	2.5Y3/1	黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山VI層）0.5 ～ 1 cm 5%含
SB10	5	2.5Y4/3	オリーブ褐色シルト　しまりやや弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山VI層）0.5 ～ 1 cm 10%含　にぶい黄褐色シルトブロック（地山IV層）0.2 ～ 4 cm 20%含　黒色シルトブロック 0.5 ～ 5 cm 15%含（地山VI層）炭化物 0.1 ～ 0.5 cm僅かに含
V層	6	2.5Y7/6	明黄褐色シルトブロック　しまり強　粘性やや強い　0.5 ～ 2 cmレキ含

<炉跡断面>

炉跡	1	10YR2/1	黒色シルト　しまり弱　粘性弱　炭化物 0.2 ～ 0.5cm15%含
炉跡	2	10YR2/1	黒色シルト　しまりやや強　粘性弱　炭化物 0.2 ～ 0.5mm15%含

第 9 図　SB10 実測図

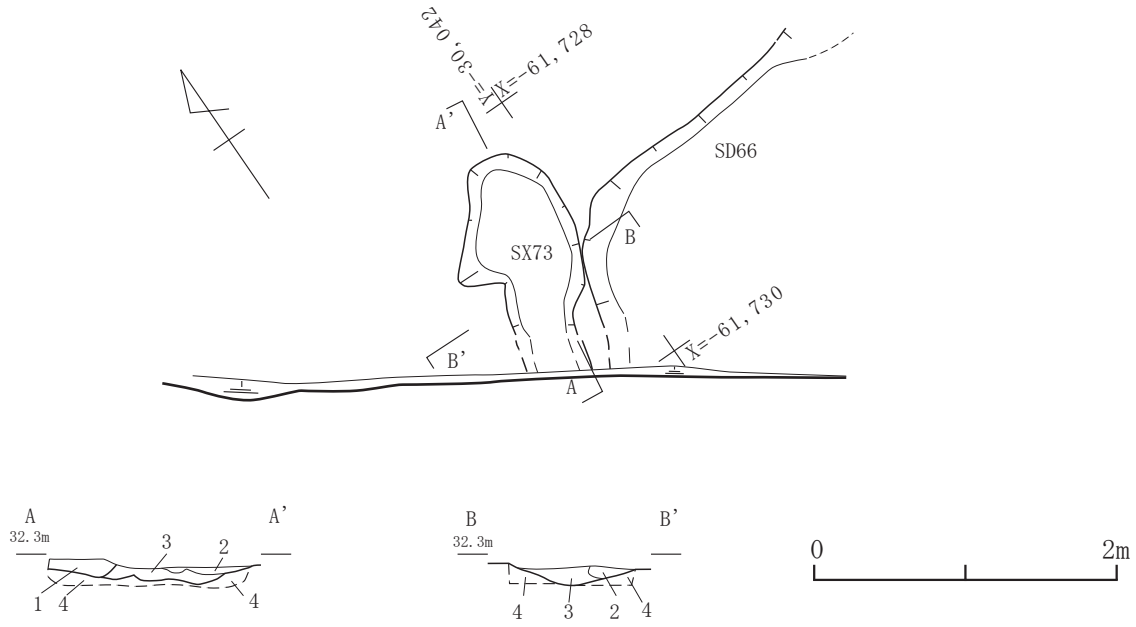
た、川原石 1 点が出土した。

図化可能な遺物は無かった。遺構の切り合い関係や出土遺物細片から、本遺構の時期は弥生時代中期から後期頃に比定できる。

SB10（第 9 図、第 46 図、別添図 4）

11 区南東側に位置する。V層（地山層）上面で確認した。南側立ち上がり部分は調査区外のため、プラン形状は明確ではないが、長方形状もしくは楕円形状と推定される。規模は確認部分で長軸方向 6.0m、短軸方向 2.4m、深さ 0.18m。プランで貼床範囲を確認し（図破線部分）、また断面でも確認できた。住居跡内の遺構としてこの他 Pit377 ～ 379、炉跡を確認した。炉跡は住居跡東寄りに位置し、埋土に炭化物や焼土を多く含む（炉跡断面 1・2 層）。

21・22 は弥生土器壺で、中期中葉貝田町式である。23 は弥生土器条痕文系深鉢で、中期中葉から中期後葉である。



<SX73 断面>

SX80	1	2.5Y3/1	黒褐色細砂混シルト　しまりやや弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（Ⅵ層地山層）0.2～1cm20% 含 黒色シルトブロック 0.5～2cm20% 含
SX73	2	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや弱　粘性弱　炭化物 0.2～1cm10% 含　明黄褐色粘土質シルトブロック （Ⅵ層地山層）0.5～3cm20% 含
SX73	3	10YR4/2	灰黄褐色細砂混シルト　しまりやや強　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック 0.2～1cm20% 含　炭化物 0.2～0.5cm10% 含　焼土ブロック 0.2～0.8cm10% 含 地山ブロック焼け撹拌
Ⅴ層地山層	4	10YR4/2	灰黄褐色　粘土質シルト　しまりやや強　粘性強

第 10 図　SX73 実測図

出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代中期中葉頃に比定できる。

SX73（第 10 図、第 46 図、別添図 4）

12 区西側に位置する。古墳時代の遺構 SX80 に切られる。SX80 の埋土除去後、Ⅴ層地山層上面で確認した。プランは不整形である。規模は確認部分で長軸方向 1.5m、短軸方向 0.4～0.9m、深さ 0.15m である。埋土に炭化物と焼土を含むことから、炉跡など住居跡に関連する遺構の可能性も考えられる。

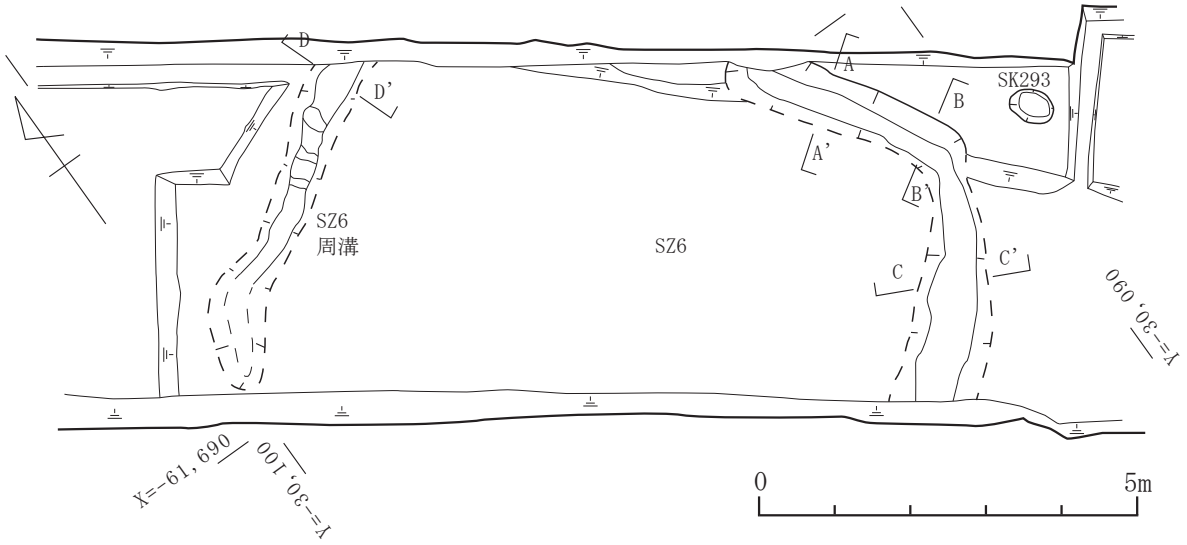
24 は弥生土器壺で、体部にモミ圧痕が残る。弥生時代中期である。

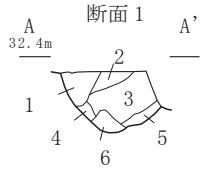
出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代中期頃に比定できる。

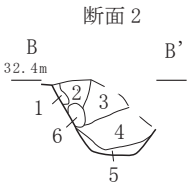
SZ6（第 11 図、第 46 図、別添図 5）

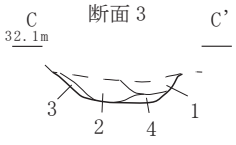
15 区東側に位置する。平成 10 年頃行われた道路工事により、調査区の大半がⅥ層（地山層）まで撹乱されていたため、周溝の下層部分しか遺存していなかった。残っていた範囲でのみ、Ⅳ層（地山層）上面で周溝の掘方を確認できた。南側、北側は調査区外へと続く。規模は確認部分で最大 9.8m、墳丘相当部分で 8.0m の方形周溝墓である。周溝の最大幅 1.2m、最小幅 0.5m、深さ最大 0.5m である。北東方向で周溝の途切れる箇所を確認し、陸橋部と判断した。墳丘盛土や埋葬主体部は確認できなかった。遺物は主に周溝内東側で出土した。

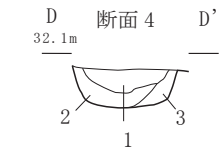
25・26 は弥生土器である。25 は壺で中期中葉の貝田町式、26 は甕で中期後葉の高蔵式である。27・28 は弥生土器条痕文系深鉢で中期中葉から後葉である。29 は弥生土器沈線文系壺で、中期前葉

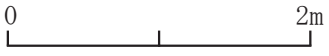












〈SZ6 断面 1〉

SZ6　1　10YR3/1 黒褐色シルト しまり弱い 粘性弱い にぶい黄褐色シルトブロック及び黄褐色シルトブロックを稀に含む

SZ6　2　10YR3/2 黒褐色シルト しまり弱い 粘性やや弱い 直径 1 ㎝前後の黄褐色シルトブロックを稀に含む

SZ6　3　10YR3/1 黒褐色シルト しまりやや弱い 直径1～3㎝前後の黄褐色シルトブロックを稀に含む

SZ6　4　10YR2/1 黒色シルト しまり弱い 粘性やや強い

SZ6　5　10YR3/3 暗褐色シルト しまり弱い 粘性やや弱い 直径 1 ㎝前後の黄褐色シルトブロックを多く含む

SZ6　6　10YR5/6 黄褐色シルト しまり弱い 粘性弱い

〈SZ6 断面 2〉

SZ6　1　10YR3/4 暗褐色シルト しまりやや弱い 粘性やや弱い

SZ6　2　10YR3/1 黒褐色シルト しまり弱い 粘性弱い

SZ6　3　10YR3/3 暗褐色シルト、しまりやや弱い 粘性弱い 直径 1 ㎝前後の黄褐色シルトブロックを極稀に含む

SZ6　4　10YR3/2 黒褐色シルト しまりやや弱い 粘性やや弱い 直径1～3㎝前後の黄褐色シルトブロックを稀に含む

SZ6　5　10YR3/4 暗褐色シルト しまり弱い 粘性やや強い 直径 1 ㎝前後の黄褐色シルトブロックを多く含む

生痕　6　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり弱い 粘性弱い

〈SZ6 断面 3〉

SZ6　1　10YR3/2 黒褐色シルト しまりやや強い 粘性やや弱い 直径 1 ㎝前後の黄褐色シルトブロックを多く含む上のカクランによって土のしまり強くなったか？

SZ6　2　10YR3/1 黒褐色シルト しまりやや強い 粘性やや弱い 直径 1 ㎝前後の黄褐色シルトブロックを多く含む上のカクランによって土のしまり強くなったか？

SZ6　3　10YR3/3 暗褐色シルト しまりやや弱い 粘性やや弱い 直径1～3㎝前後の黄褐色シルトブロックを多く含む

SZ6　4　10YR3/4 暗褐色シルト しまり弱い 粘性やや強い 直径1～3㎝前後の黄褐色シルトブロックを多く含む

〈SZ6 断面 4〉

SZ6　1　10YR3/1 黒褐色シルト しまり弱い 粘性弱い

SZ6　2　10YR3/4 暗褐色シルト しまりやや弱い 粘性やや強い 1～ 5cm 前後の黄褐色シルトブロックを多く含む

SZ6　3　10YR3/3 暗褐色シルト しまりやや弱い 粘性やや強い 1～ 3cm 前後の黄褐色シルトブロックを多く含む

第 11 図　SZ6 実測図

から中葉のものである。

出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代中期後葉頃までに比定できる。SZ6 は今回の発掘調査において見つかった周溝墓群のうち、最も古い時期のものである。

〈弥生時代後期〉

SB1（第 12 図、第 47 図、別添図 1）

3 区東側に位置する。Ⅴ層（地山層）上面で確認した。軸線北東方向の竪穴住居跡で、南西側立ち上がり部分は調査区外へ続く。プラン形状は長方形と推定される。住居跡東立ち上がり部分では段差が見られることから、建て替え等を行った可能性が考えられるが、調査時において区別することが出来なかった。規模は確認部分で長軸方向 4.5m 以上、短軸方向 4.5m、深さ 0.35m である。プランで貼床範囲を確認できなかったが、断面で貼床相当の土層を確認できた（5 層）。住居跡内の遺構としてこの他、Pit103 ～ 107・SK7・73 を確認した。SK73 は住居跡南寄りに位置し、埋土に炭化物や焼土をやや多く含むことから（4 層）、炉跡と考えられる。SK73 はプラン楕円形状と推定される。規模は確認部分で長軸方向 1.2m 以上、短軸方向 1.0m、深さ 0.1m である。

30 ～ 32 は弥生土器である。30 は受口状口縁甕で中期末から後期初頭、高蔵式末から山中式初頭のものである。31 は有台鉢、32 は高杯でともに後期前半の山中式である。33 ～ 36 は弥生土器条痕文系深鉢で中期中葉から後葉のものである。37 は石製品敲石でススが付着する。

出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代後期初頭から前半頃に比定できる。

SB5（第 13 図、第 47 図、別添図 2）

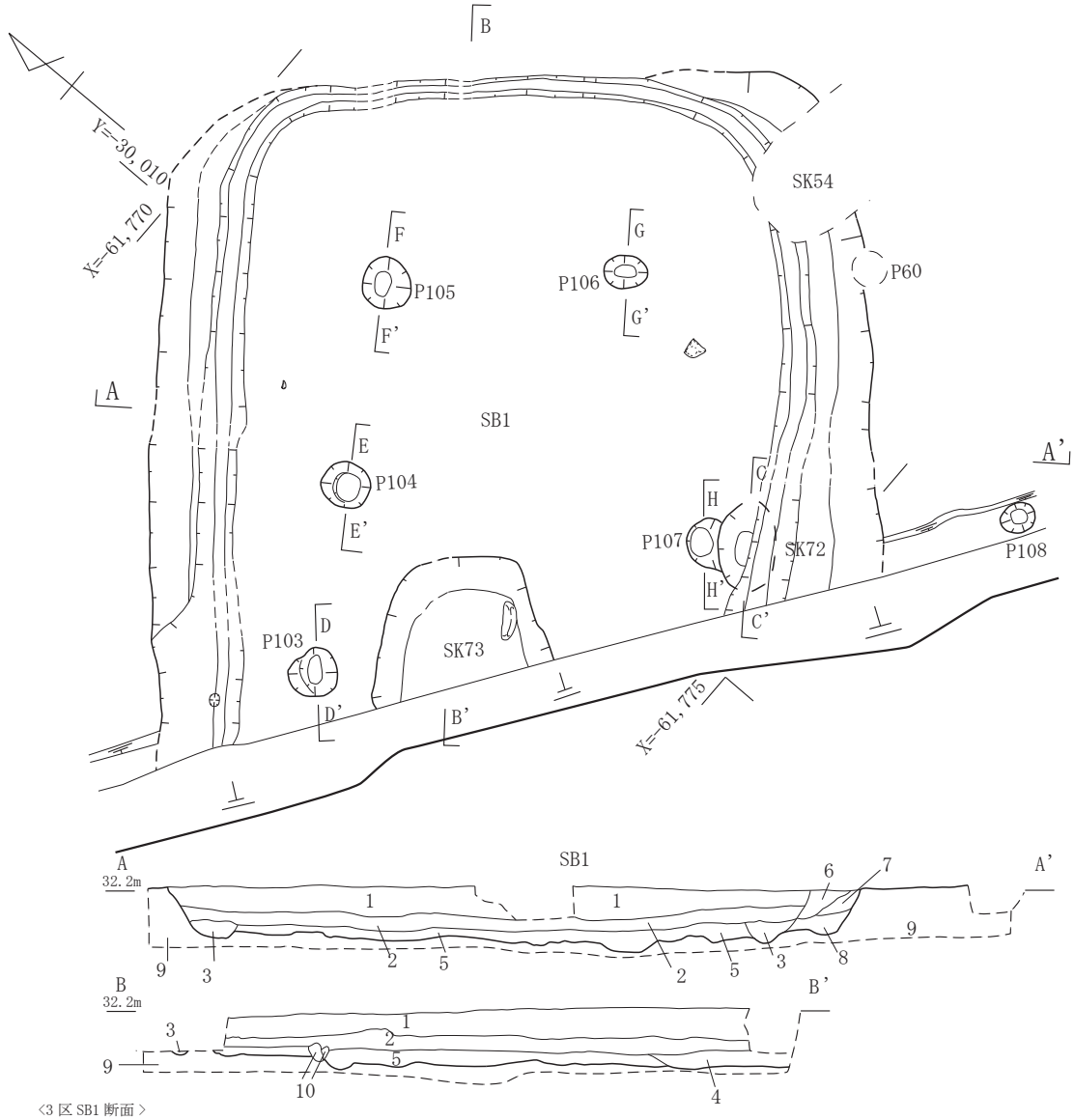
6 区東側に位置する。Ⅴ層（地山層）上面で確認した。軸線北北東方向の竪穴住居跡である。南側立ち上がり部分は調査区外へ続く。プラン形状は長方形と推定される。規模は確認部分で長軸方向 4.5m 以上、短軸方向 3.9m、深さ 0.25m である。プランで貼床範囲は確認できなかったが、断面で貼床相当の土層を確認できた（4 層）。住居跡内の遺構としてこの他 Pit275・276・292・295・296・298・299・304・SK130・炉跡を確認した。炉跡は住居跡北寄りに位置する。埋土に炭化物や焼土をやや含み（炉跡断面 1 層）、川原石 3 点が出土した。

38 ～ 40 は石製品である。38・39 は完形品の直線刃石庖丁である。紐穴穿孔はどちらも 2 ヶ所である。石材は 38 が粘板岩、39 が緑色片岩である。40 は砥石で、表面 2 本・裏面 2 本の溝を有する。41 ～ 46 は弥生土器で、全て後期前半の山中式である。41・42 は壺、43 は受口状口縁甕、44 ～ 46 は高杯である。44・46 には赤色顔料が施されている。

出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代後期前半頃に比定できる。なお、岩田東Ａ遺跡では石庖丁が計３点出土しているが、岩田東Ａ・岩田西遺跡の両遺跡で弥生時代の生産域は確認できなかった。

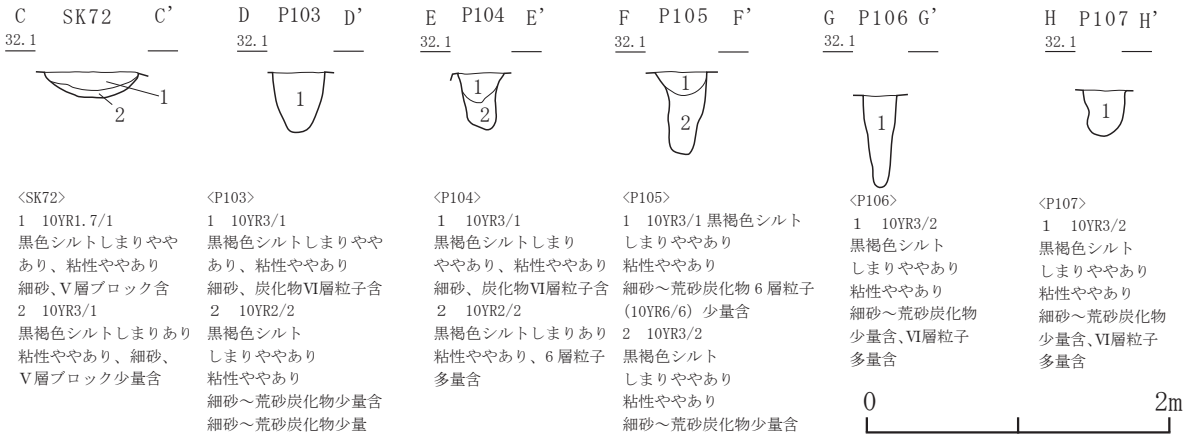
SZ4（第 14 図、第 48 図、別添図 3）

8 区西側に位置する。Ⅳ・Ⅴ層地山層上面で確認した。周溝のコーナー部分と推定され、西側・北側の大半は調査区外へ続く。東側に SZ2 が隣接する。墳丘相当部分の規模は不明である。周溝の幅 1.0m、深さは 0.45m である。周溝の断面形状はＵ字形状に近い。埋土には地山層（Ⅳ～Ⅵ層）のブロック土を含む堆積が明瞭に認められる（4・10 層）。これは墳丘の盛土が流出したものと考えられ、SZ4 につ



〈3 区 SB1 断面 〉

SB1	1	10YR7/1 黒色シルト しまりややあり 粘性かすかにあり 細砂～５㎜大の小礫少量含 炭化物・Ⅴ層粒子 (10YR6/6) 少量含
SB1	2	10YR3/2 黒褐色シルト しまりなし 粘性かすかにあり 細砂～５㎜大の小礫少量含 炭化物・Ⅴ層ブロック (10YR6/6) 多量に含
SB1	3	10YR3/1 黒褐色シルト しまりなし 粘性かすかにあり 細砂少量含 炭化物やや多く含 10YR6/6 Ⅴ層粒子少量含
SB1	4	10YR3/3 暗褐色シルト しまりなし 粘性かすかにあり 細砂～粗砂少量含 炭化物、焼土粒をやや多く含
床土	5	10YR3/2 黒褐色シルト しまりあり 粘性ややあり 細砂～５㎜大の小礫多量に含
壁溝	6	10YR3/1 黒褐色シルト しまりあり 粘性かすかにあり 炭化物 細砂 橙色粒子 (Ⅵ層) 少量含
壁溝	7	10YR4/2 灰黄褐色シルト しまりあり 粘性ややあり 細砂 炭化物少量含 Ⅴ層ブロック多量に含
壁溝	8	10YR3/1 黒褐色シルト しまりあり 粘性ややあり 細砂 炭化物少量含 Ⅴ層ブロック多量に含
Ⅴ層地山層	9	10YR4/6 褐色シルト
生痕	10	



〈SK72〉
1 10YR1.7/1
黒色シルトしまりややあり、粘性ややあり
細砂、Ⅴ層ブロック含
2 10YR3/1
黒褐色シルトしまりあり
粘性ややあり、細砂、
Ⅴ層ブロック少量含

〈P103〉
1 10YR3/1
黒褐色シルトしまりややあり、粘性ややあり
細砂、炭化物Ⅵ層粒子含
2 10YR2/2
黒褐色シルト
しまりややあり
粘性ややあり
細砂～荒砂炭化物少量含
細砂～荒砂炭化物少量

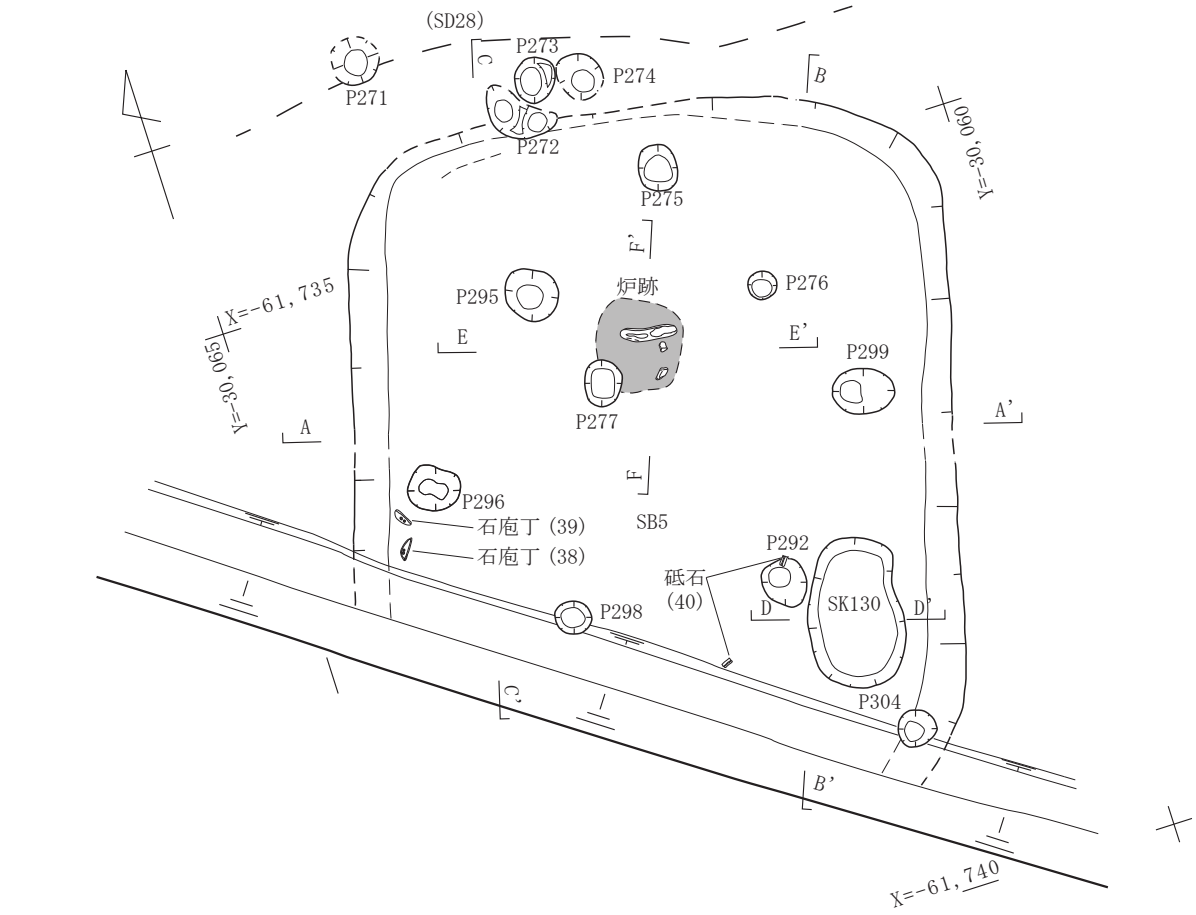
〈P104〉
1 10YR3/1
黒褐色シルトしまりややあり、粘性ややあり
細砂、炭化物Ⅵ層粒子含
2 10YR2/2
黒褐色シルトしまりあり
粘性ややあり、６層粒子多量含

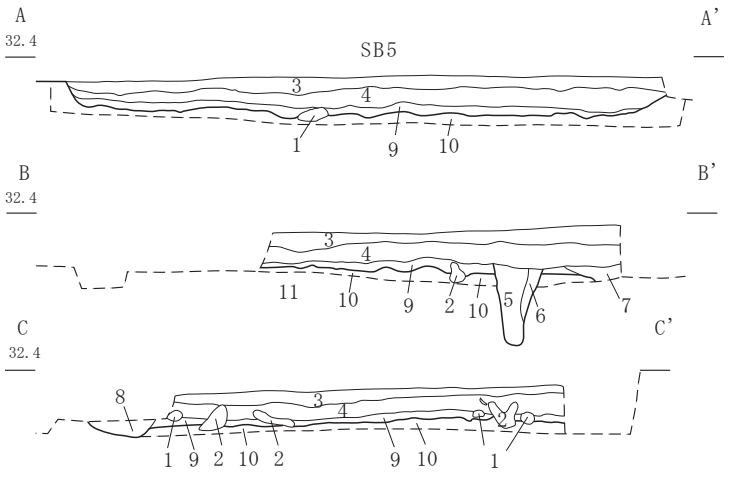
〈P105〉
1 10YR3/1 黒褐色シルト
しまりややあり
粘性ややあり
細砂～荒砂炭化物６層粒子(10YR6/6) 少量含
2 10YR3/2
黒褐色シルト
しまりややあり
粘性ややあり
細砂～荒砂炭化物少量含

〈P106〉
1 10YR3/2
黒褐色シルト
しまりややあり
粘性ややあり
細砂～荒砂炭化物少量含、Ⅵ層粒子多量含

〈P107〉
1 10YR3/2
黒褐色シルト
しまりややあり
粘性ややあり
細砂～荒砂炭化物少量含、Ⅵ層粒子多量含

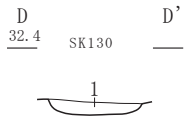
第 12 図 SB1 実測図





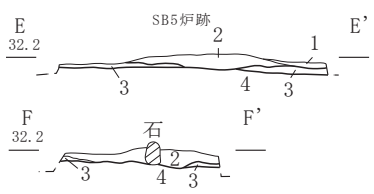
〈SB5 断面〉

生痕	1	10YR7/6 黄橙色シルト　10YR4/3 シルトブロック含
生痕	2	10YR3/2 黒褐色シルト　10YR5/3 シルトブロック含
SB5	3	10YR4/2 灰黄褐色シルト混極細砂　炭少含
SB5	4	10YR3/2 黒褐色シルト混極細砂　炭含
Pit292	5	10YR3/2 黒褐色シルト混極細砂　10YR5/3 シルトブロック含
Pit292	6	10YR3/2 黒褐色シルト混極細砂　10YR7/6 シルトブロック多含
SK130	7	10YR2/3 黒褐色シルト混極細砂　10YR6/4 シルトブロック少含
壁溝	8	10YR3/2 黒褐色シルト混細砂　10YR5/3 シルトブロック含
床面	9	10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　10YR3/2 シルトブロック多含
地山Ⅴ層	10	10YR6/4 にぶい黄橙色　シルト
地山Ⅵ層	11	10YR7/6 明黄褐色シルト



〈SK130 断面〉

1　10YR2/　シルト混極細砂　10YR6/4 シルトブロック少含

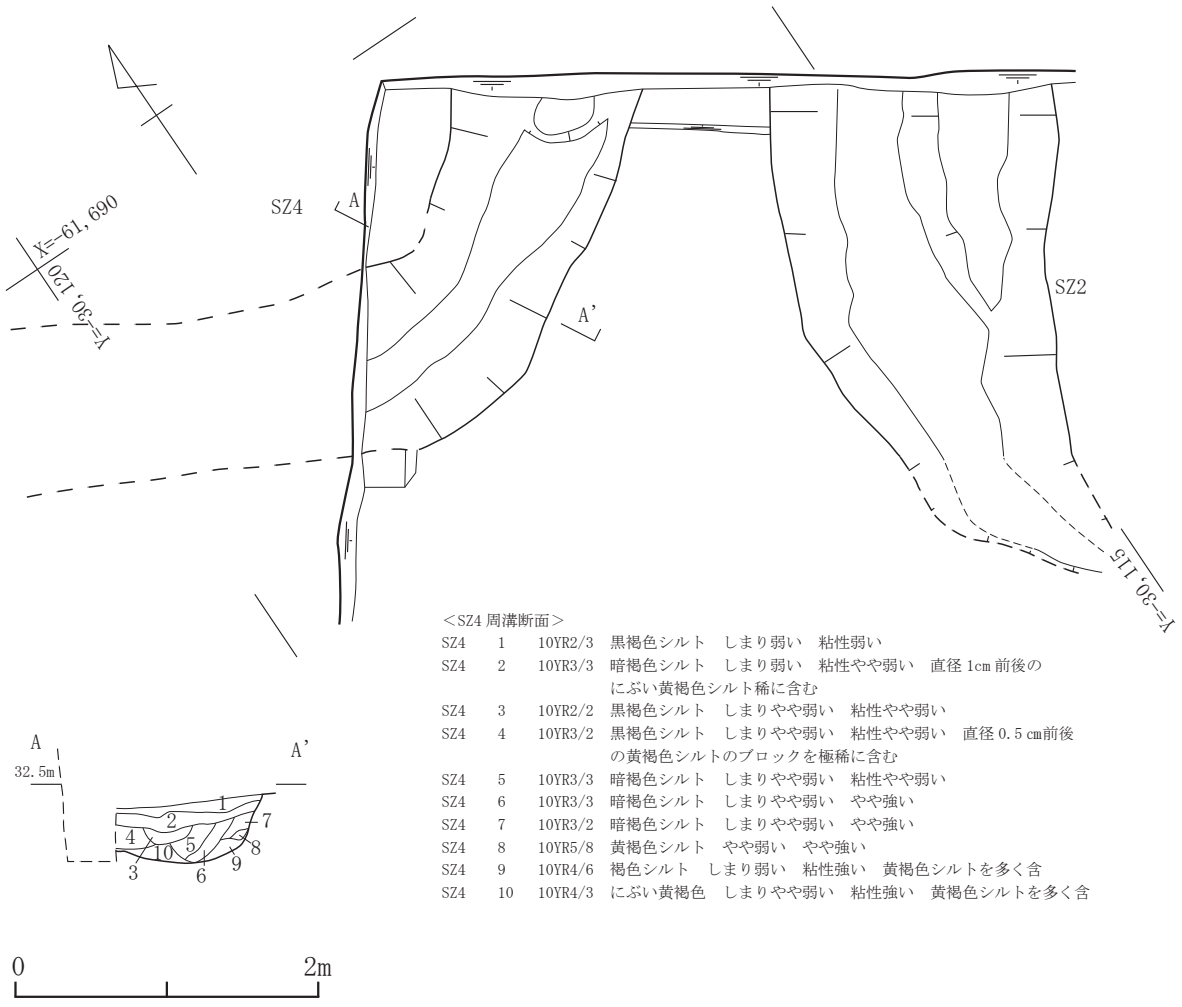


〈SB5 炉跡〉

下層	1	2.5Y4/2　灰赤色シルト混極細砂～細砂
	2	2.5Y4/1　赤灰色シルト混極細砂～細砂、炭、焼土少含
床面か	3	2.5Y4/2　灰赤色シルト混極細砂、10YR7/6 シルトブロック含
地山Ⅴ層	4	10YR6/4　にぶい黄橙色シルト混極細砂

0　2m

第 13 図　SB5 実測図



第 14 図　SZ4 実測図

いては比較的早い段階で流出したものと推定される。

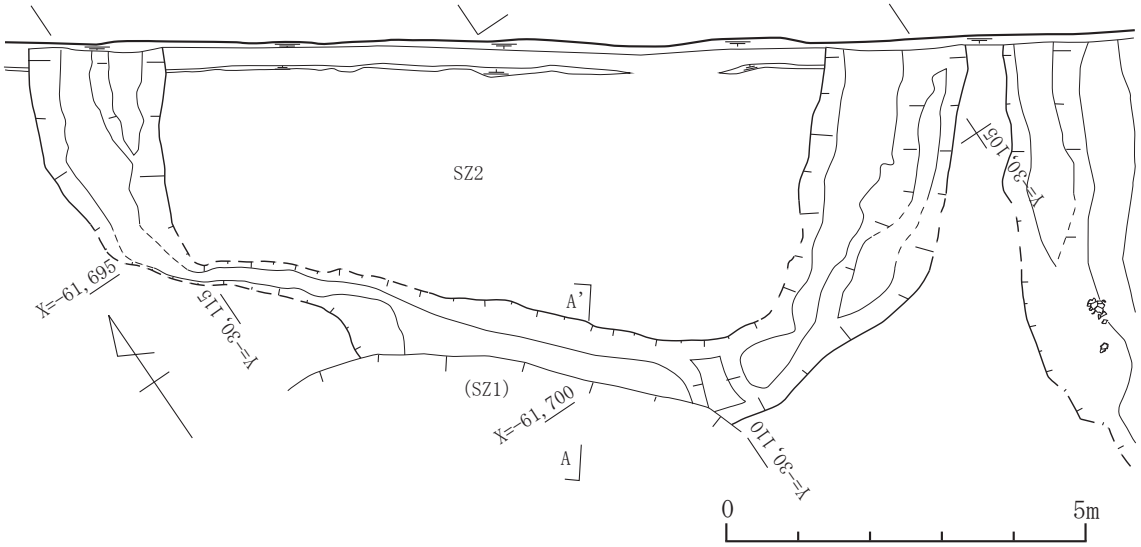
墳丘盛土や埋葬主体部の痕跡は残存していなかった。遺物は全て周溝埋土から出土した。

47 は弥生土器近江系の受口状口縁甕で、弥生時代後期である。48 は弥生土器三河系壺で、中期中葉の瓜郷式である。49 は弥生土器条痕文系深鉢で中期中葉から後葉である。50・51 は石製品石鏃で、石材は 50 がチャート、51 が下呂石である。

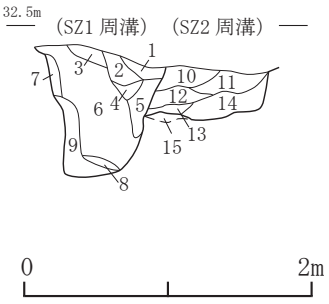
出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代後期前半頃に比定できる。

SZ2（第 15 図、第 48・49 図、別添図 3）

8 区中央北寄りに位置する。Ⅴ層（地山層）上面で確認した。北半分は調査区外へ続く。確認部分で最大 12.2m、墳丘相当部分で 9.0m の規模をもつ方形周溝墓である。西側に SZ4、南東側に SZ3、南側に SZ1 が隣接しており、SZ1 に周溝の一部を切られる。軸線は北西方向で、SZ1 とはほぼ平行の位置関係にある。最大幅 2.0m、最小幅 1.1m の周溝がめぐり、周溝の深さは最大 0.75m を測る。周溝南東側コーナー部では最も浅くなり、深さ 0.3m となる。本調査区域においては周溝の途切れる箇所や陸橋部は見られなかった。周溝の断面形状は逆台形状に近いが、墳丘相当内側斜面の傾斜の方がわずかにきつく、墳丘相当外側の斜面の方がゆるやかな傾向にある。周溝埋土には地山層（Ⅳ～Ⅵ層）の



SZ2 断面



〈SZ2 断面〉

SZ1	1	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い　直径 1cm 前後の黄褐色シルトブロックを極稀含
SZ1	2	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い　直径 1cm 前後の黄褐色シルトブロックを稀含
SZ1	3	10YR3/2	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い　直径 1cm 前後の黄褐色シルトブロックを稀含
SZ1	4	10YR2/3	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや強い　にぶい黄褐色シルトブロックを稀含
SZ1	5	10YR2/2	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや強い
SZ1	6	10YR4/2	灰黄褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　直径 1 ～ 3 ㎝前後の黄褐色シルトブロックを非常に多含
SZ1	7	10YR3/3	暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　直径 1 ㎝の黄褐色シルトブロックを極稀含
SZ1	8	10YR3/3	暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い　直径 1 ㎝の黄褐色シルトブロックを極稀含
SZ1	9	10YR3/4	黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　直径 1cm 前後の黄褐色シルトブロックを稀含
SZ2	10	10YR3/4	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
SZ2	11	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性弱い
SZ2	12	10YR3/3	暗褐色シルト　しまり弱い　やや弱い　直径 1 ㎝の黄褐色シルトブロックを極稀含
SZ2	13	10YR3/3	暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや強い
SZ2	14	10YR3/3	暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　直径 1 ～ 3 ㎝前後の黄褐色シルトブロックを多含
V層 orVI層	15		黄色地山

第 15 図　SZ2 実測図

ブロック土を含む堆積が明瞭に認められる（14 層）。これは墳丘の盛土が流出したと考えられ、SZ2 については比較的早い段階で流出したものと推定される。墳丘盛土や埋葬主体部の痕跡は残存していなかった。遺物は全て周溝埋土から出土した。

52 ～ 63 は弥生土器である。52 ～ 61 は後期前半山中式のものである。52 ～ 55 は壺で、53 には赤色顔料が施される。56 は受口状口縁壺、57 は受口状口縁鉢、58 は小型鉢である。59・60 は高杯で、後期後半に近い山中式である。61 は器台で、後期前半山中式である。62 は壺で中期中葉貝田町式、63 は壺で中期である。64 は縄文土器深鉢である。65 ～ 69 は石製品である。65・66 は石鏃で、石材は下呂石である。67 は剥片、68 は砥石である。69 は楔形石器で、石材はチャートである。

出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代後期前半頃に比定できる。

Pit331（第 49 図、別添図 3）

8 区西側に位置する。プランはほぼ円形のピットである。規模は直径 0.3m、深さ 0.2m である。

70 は石製品石鏃で、石材は下呂石である。

出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代頃に比定できる。

第２節　弥生時代後期末から古墳時代初頭の遺構と遺物

SZ3（第 16・17 図、第 49 図、別添図 3）

7 区西側、8 区東側に位置する。北半分は調査区外となる。確認部分で最大 10.8m、墳丘相当部分で 7.0 mの規模をもつ方形周溝墓である。西側に SZ1・2、東側に SZ5 が隣接する。軸線は北西方向で、SZ1 の軸線とほぼ同じである。SZ1 と SZ3 は同じ基準に沿って造られた可能性が考えられる。

最大幅 1.0m、最小幅 0.55m の周溝がめぐる。周溝の深さは最大 0.75m を測る。周溝南西側コーナー部では最も浅くなり、深さ 0.35m、南東コーナー部で深さ 0.4m となる。7 区の墳丘南東側において周溝の途切れる箇所を確認し、陸橋部と判断した。周溝の断面形状は逆台形状に近い。墳丘内側斜面の傾斜に比べ、墳丘外側の斜面の方がわずかにゆるやかである。埋土には地山層（Ⅳ～Ⅵ層）のブロック土を含む堆積が明瞭に認められる（断面 1 の 3 ～ 7 層、断面 2 の 4 ～ 7 層）。これらは墳丘盛土が流出したものと考えられ、SZ3 については溝の半分以上が比較的早い段階で埋没したと推定される。

墳丘盛土や埋葬施設の痕跡は残存していなかった。遺物は全て周溝埋土の底面よりやや上層で多く出土した。

71 ～ 78 は弥生土器である。71 は高杯、72 は壺で、ともに弥生時代後期末から古墳時代初頭である。73 は脚付鉢で後期前半山中式である。74 は壺で、中期中葉貝田町式である。75 は後期前半山中式の弥生土器条痕文系深鉢で、内面に波状文が施される。76 は弥生土器条痕文系深鉢で、中期中葉から後葉である。77・78 は中期前葉から中葉の沈線文系弥生土器で、77 は壺、78 は甕である。79 は石製品剥片である。

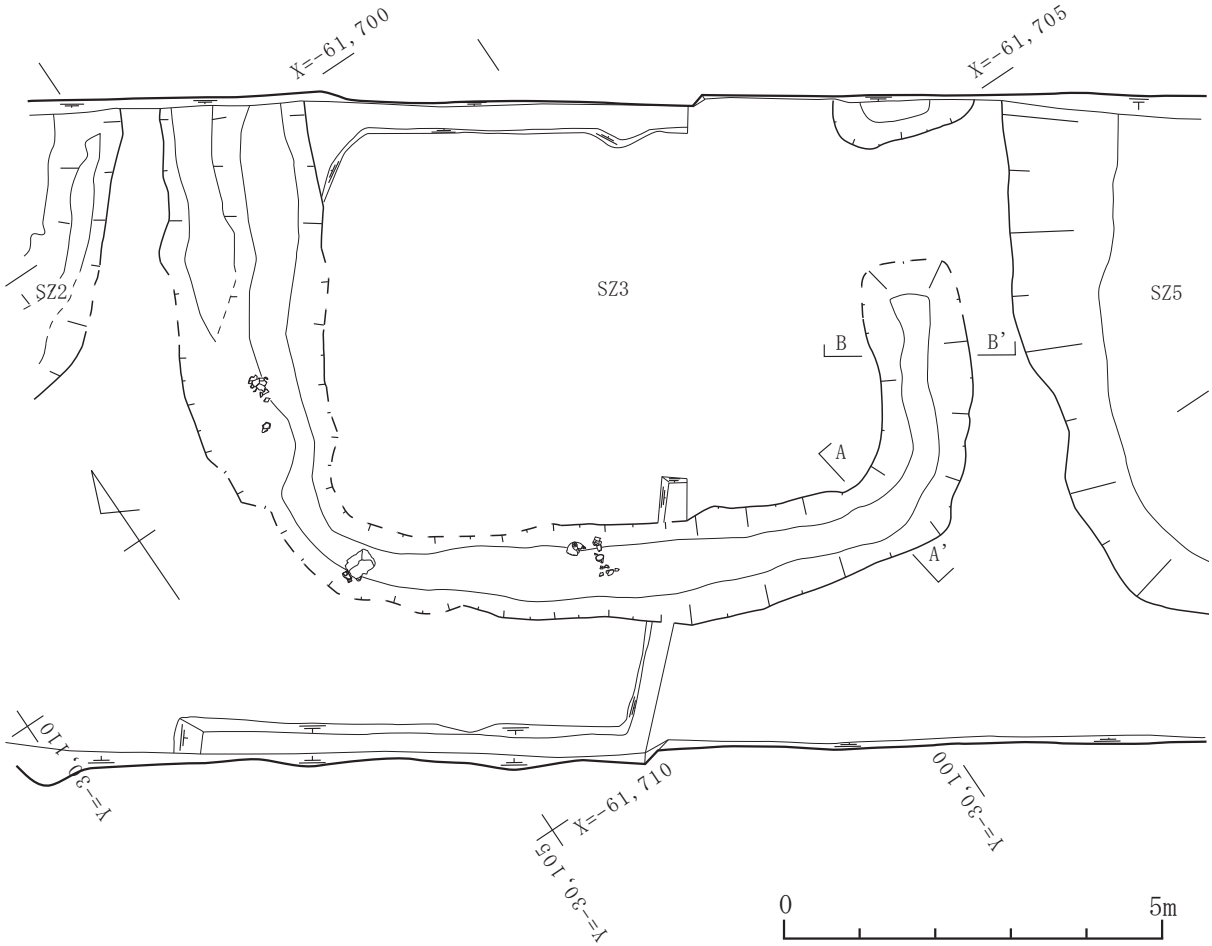
出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代後期末から古墳時代初頭頃に比定できる。

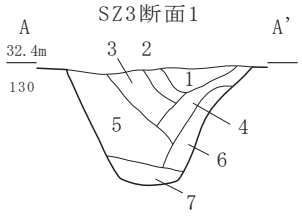
SZ1（第 18・19 図、第 50・51 図、別添図 3）

8 区中央に位置する。南半分は調査区外となる。確認部分で最大約 7.8m、墳丘相当部分で約 5.6m の規模をもつ方形周溝墓である。北側に SZ2、東側に SZ3 が隣接しており、SZ2 の周溝を切る。

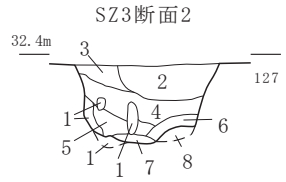
最大幅 1.2m、最小幅 0.7m の周溝がめぐる。周溝の深さは最大 0.9m を測る。周溝が浅くなる箇所、あるいは周溝が途切れる箇所は見られなかった。周溝の断面形状は鋭い逆台形状で、底面は幅 0.3 ～ 0.4m 程度の平底を有する。墳丘外側斜面の傾斜の方がきつく、墳丘側斜面の方が若干ゆるやかな傾向にある。埋土には地山層（Ⅳ～Ⅵ層）のブロック土を含む堆積が明瞭に認められる（断面 1 の 6 ～ 9 層、断面 2 の 6 ～ 9 層）。この SZ1 についても、比較的早い段階で墳丘盛土が流出し、溝の半分以上が埋没したと推定される。墳丘盛土や埋葬主体部は残存していなかった。遺物は全て周溝埋土からのもので、周溝底部より上層で出土した。

80 は口縁および頸部を欠く壺、81 はほぼ完形の壺で、弥生後期末から古墳時代初頭頃である。81 の壺は逆位で出土しており、壺の底部から体部を覆うように 80 の壺が出土している。土器周辺を精査したところ、周溝埋土中に掘方状の断面を確認できたことから、周溝内埋葬の土器棺として利用された可能性が高い。また、81 の土器内埋土を蛍光 X 線分析した結果、リン・カルシウム含有量の多い箇所が検出されたことから、骨や歯などが存在した可能性が高い（第 6 章　自然科学分析参照）。82 ～ 87 は弥生土器である。82 は供献土器の壺と考えられ、弥生時代後期末から古墳時代初頭頃である。83・84 は無頸壺で中期中葉貝田町式、85 は高杯で後期前半山中式である。86 は壺で後期前半山

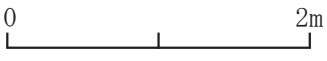




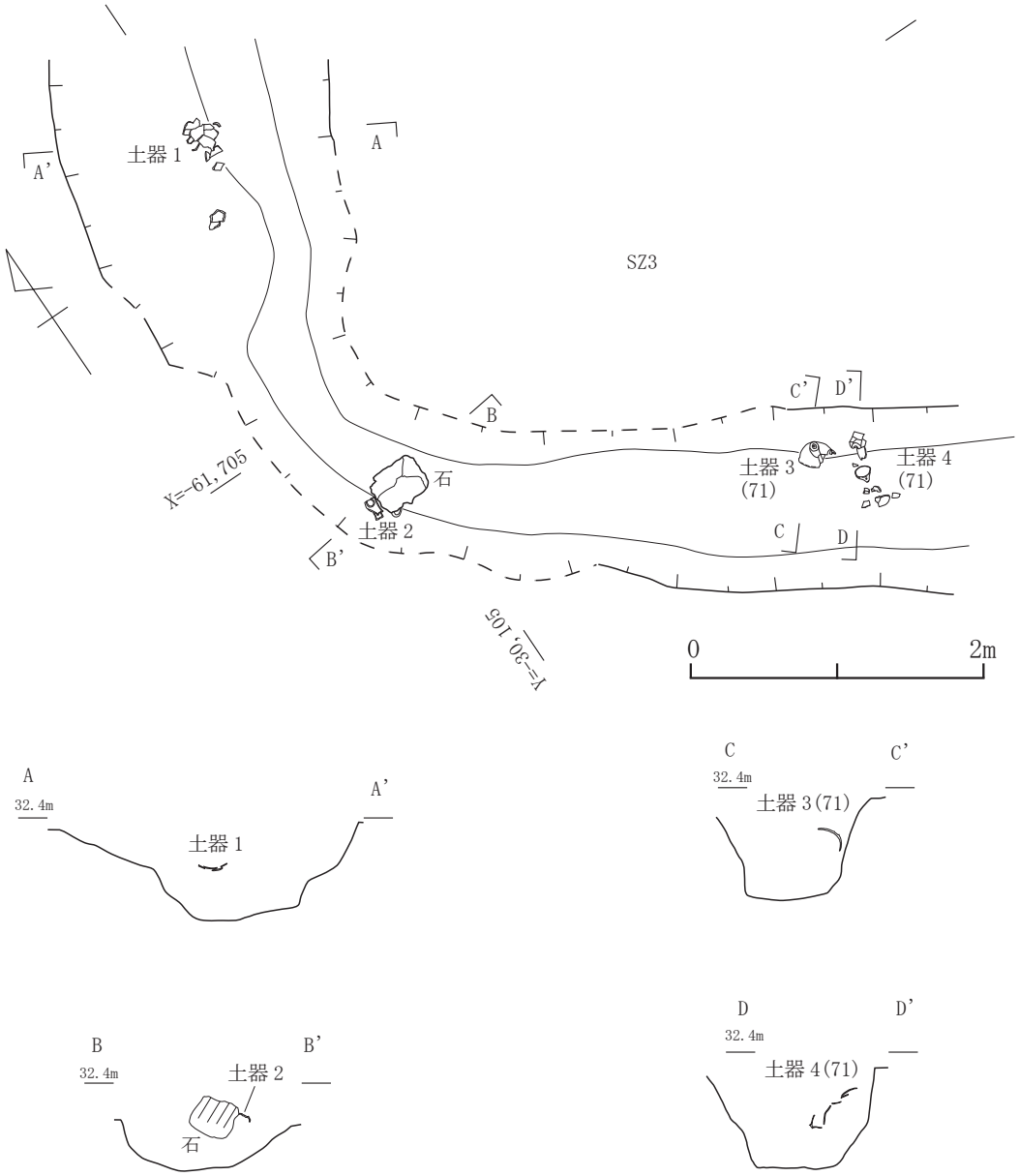
SZ３	1	10YR2/2	黒褐色	シルト しまり弱い 粘性弱い にぶい黄橙色シルトを極まれに含む
SZ３	2	10YR3/1	黒褐色	シルト しまり弱い 粘性弱い にぶい黄橙色シルトを極まれに含む φ1cm前後の黄褐色シルトブロックを極まれに含む
SZ３	3	10YR3/2	黒褐色	シルト しまり弱い 粘性弱い φ1 cm前後の黄褐色シルトブロックをごくまれに含む
SZ３	4	10YR3/1	黒褐色	シルト しまりやや弱い 粘性やや弱い φ1 cm前後の黄褐色シルトブロックをごくまれに含む
SZ３	5	10YR3/3	暗褐色	シルト しまり弱い 粘性やや弱い φ1～3 cmの黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ３	6	10YR3/4	暗褐色	シルト しまり弱い 粘性やや弱い φ1～3 cmの黄褐色シルトブロックを多く含む
SZ３	7	10YR3/4	暗褐色	シルト しまりやや強い 粘性やや強い φ1 ～ 5 cm前後の黄褐色シルトブロックを多く含む



SZ３	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト しまり弱い 粘性弱い （生痕）
SZ３	2	10YR2/2	黒褐色	シルト しまり弱い 粘性弱い にぶい黄橙色シルトをごくまれに含む
SZ３	3	10YR3/1	黒褐色	シルト しまり弱い 粘性やや弱い
SZ３	4	10YR3/4	暗褐色	シルト しまり弱い 粘性やや弱い φ1 cm前後の黄褐色シルトブロックを極まれに含む
SZ３	5	10YR3/3	暗褐色	シルト しまりやや弱い 粘性やや弱い φ1 ～ 3cmの黄褐色シルトブロックを極まれに含む
SZ３	6	10YR3/1	黒褐色	シルト しまりやや弱い 粘性やや強い φ1 ～ 3cm前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ３	7	10YR3/3	暗褐色	シルト しまりやや強い 粘性やや強い 黄褐色シルトブロックを多く含む



第 16 図　SZ3 実測図



第 17 図　SZ3 周溝内遺物実測図

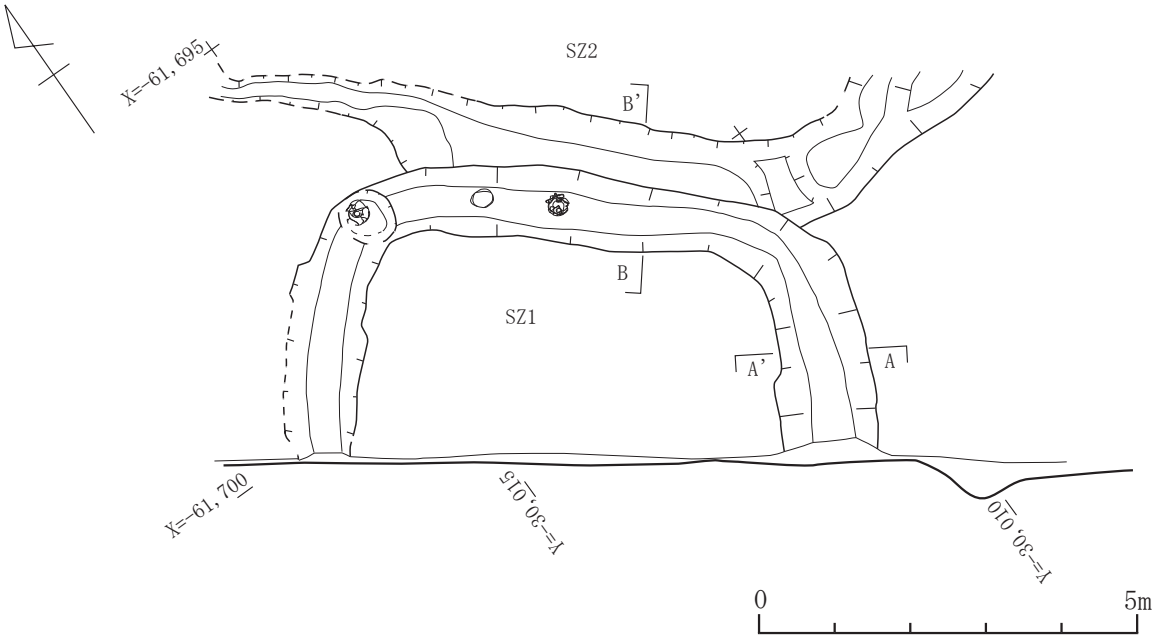
中式である。87 は条痕文系深鉢で、中期中葉から後葉である。88 ～ 90 は石製品である。88 は石鏃で、石材はチャートである。89・90 は石核で石材は下呂石である。

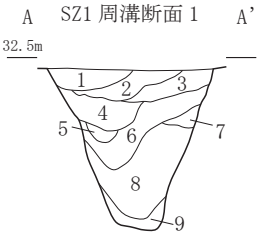
出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代後期末から古墳時代初頭頃に比定できる。

SZ7（第 20・21 図、第 51 図、別添図 5）

14 区西側に位置する。北半分は調査区外へ続く。確認部分で最大 8.0m、墳丘相当部分で 6.6m の規模をもつ方形周溝墓である。西側に SZ6 が隣接する。軸線はほぼ北向きで、この SZ7 については、先行して作られた SZ6 や南側の 8 区方形周溝墓群とは方向基準がやや異なっている。

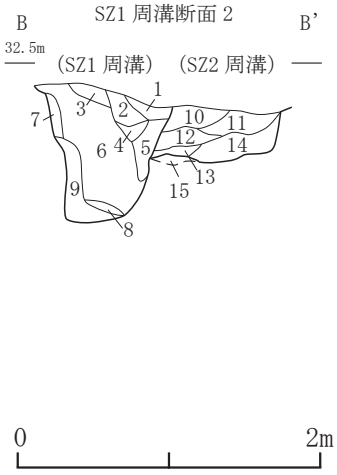
最大幅 1.6m、最小幅 0.8m の周溝がめぐる。周溝の深さは最大 0.55m を測る。周溝墓西側に周溝が途切れる箇所を確認し、陸橋部と判断した。周溝南東側コーナー部では最も浅い部分で深さ 0.35m を測る。周溝の断面形状はU字状あるいは逆台形状である。埋土には地山層（Ⅳ～Ⅵ層）のブロック土





〈SZ1 周溝断面 1〉

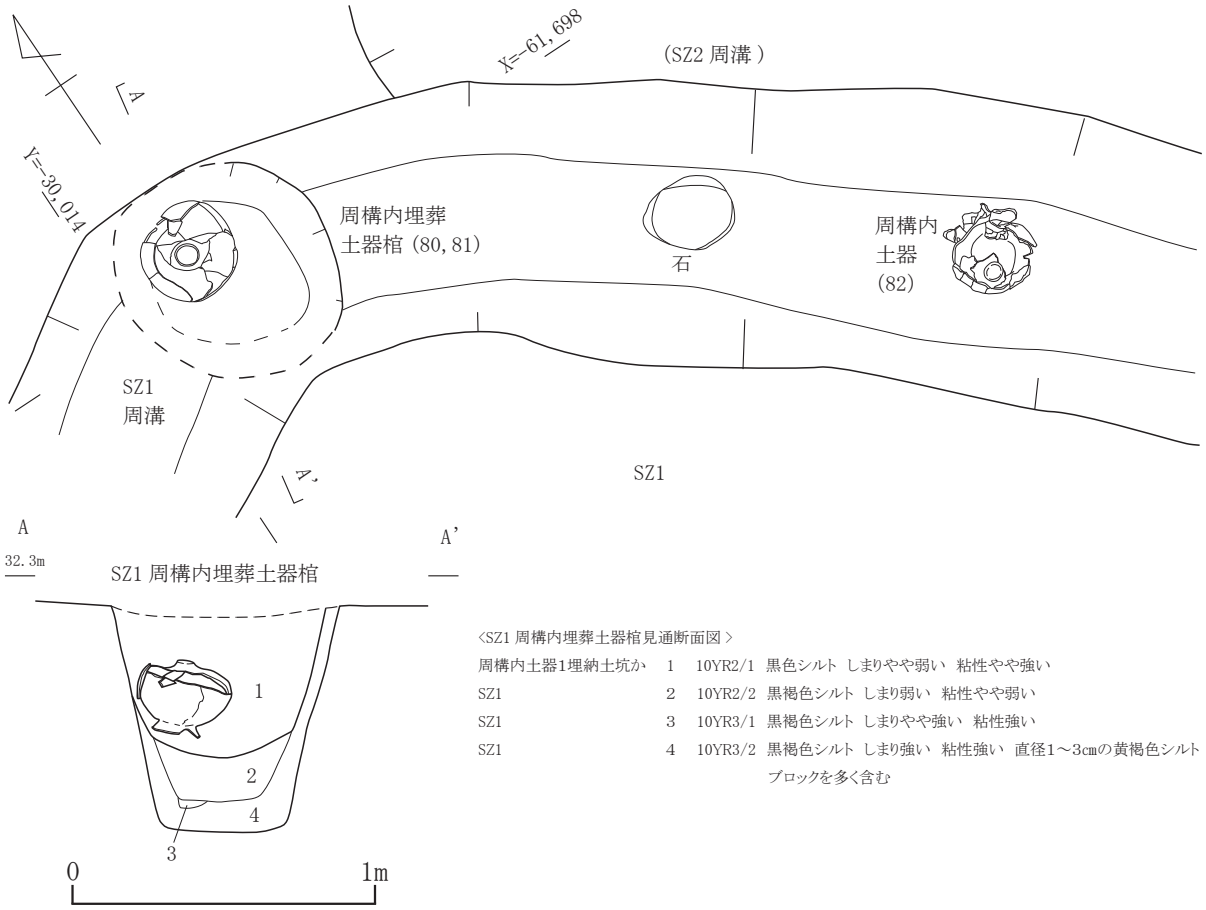
SZ1	1	10YR3/2	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い　黄橙色シルトブロック稀に含む
SZ4	2	10YR3/2	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い　黄橙色シルトブロック稀に含む　直径１～２㎝の黄褐色シルトブロックを極稀に含む
SZ4	3	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性弱い　直径２～３㎝の黄褐色シルトブロックを極稀に含む
SZ4	4	10YR2/2	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い　黄橙色シルトブロック極稀に含む
SZ4	5	10YR2/1	黒色シルト　しまり弱い　粘性やや強い
SZ4	6	10YR2/2	黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　直径２～３㎝の黄褐色シルトブロックを多く含む
SZ4	7	10YR3/4	暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い　直径２～３㎝の黄褐色シルトブロックを稀に含む
SZ4	8	10YR2/2	黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　直径１～３㎝の黄褐色シルトブロックを非常に多く含む
SZ4	9	10YR5/6	黄褐色シルト　しまり強い　粘性やや強い　黒色シルトを多く含む



〈SZ1 周溝断面 2〉

SZ1	1	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い　直径 1cm 前後の黄褐色シルトブロックを極稀含
SZ1	2	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い　直径 1cm 前後の黄褐色シルトブロックを稀含
SZ1	3	10YR3/2	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い　直径 1cm 前後の黄褐色シルトブロックを稀含
SZ1	4	10YR2/3	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや強い　にぶい黄褐色シルトブロックを稀含
SZ1	5	10YR2/2	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや強い
SZ1	6	10YR4/2	灰黄褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　直径１～３㎝前後の黄褐色シルトブロックを非常に多含
SZ1	7	10YR3/3	暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　直径１㎝の黄褐色シルトブロックを極稀含
SZ1	8	10YR3/3	暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い　直径１㎝の黄褐色シルトブロックを極稀含
SZ1	9	10YR3/4	黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　直径 1cm 前後の黄褐色シルトブロックを稀含
SZ2	10	10YR3/4	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
SZ2	11	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性弱い
SZ2	12	10YR3/3	暗褐色シルト　しまり弱い　やや弱い　直径１㎝の黄褐色シルトブロックを極稀含
SZ2	13	10YR3/3	暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや強い
SZ2	14	10YR3/3	暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　直径１～３㎝前後の黄褐色シルトブロックを多含
V層 orVI層	15		黄色地山

第 18 図　SZ1 実測図



第 19 図　SZ1 周溝内土器棺・遺物実測図

を含む堆積が検出面付近まで認められる(断面 1･2 の 2 ～ 4)。この SZ7 についても墳丘盛土が流出し、溝の半分以上が比較的早い段階で埋没したものと推定される。また、後世の削平により、周溝の半分程度しか遺存していなかったと考えられる。墳丘盛土や埋葬施設の痕跡は削平され残存していなかった。遺物は全て周溝埋土からのもので、周溝検出レベルと同じ高さ付近で遺物が出土した。

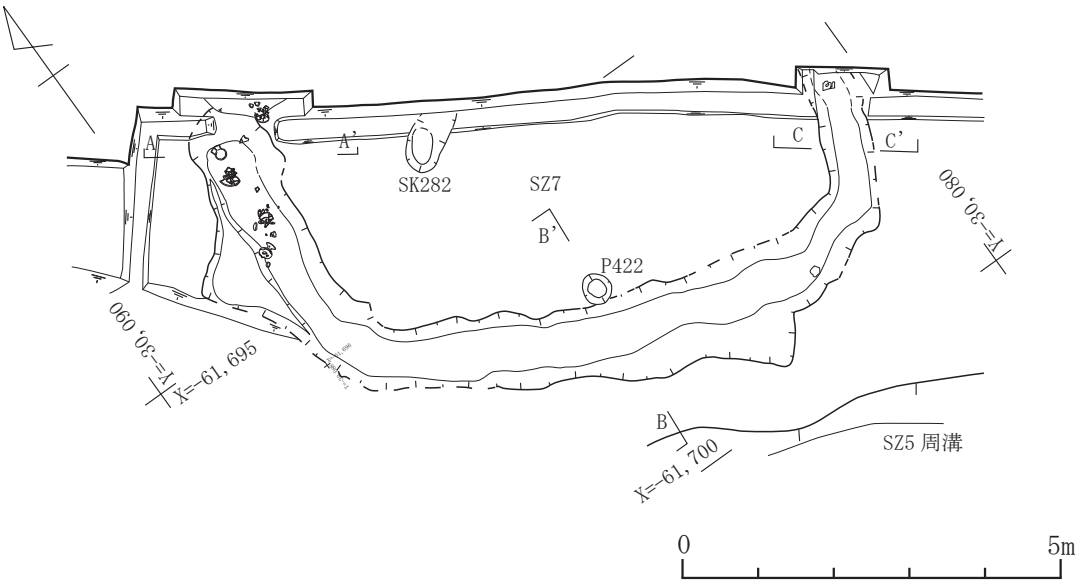
91 ～ 100 は弥生土器である。91 は鉢、92・93 は高杯、94・95 は器台で、弥生時代後期末から古墳時代初頭頃である。いずれも供献土器と考えられる。96 は高杯、97 は脚部で弥生時代後期末から古墳時代初頭頃である。98 は甕で、中期後葉高蔵式である。99 は三河系の壺で、中期中葉瓜郷式である。100 は弥生土器沈線文系甕で中期前葉から中葉である。

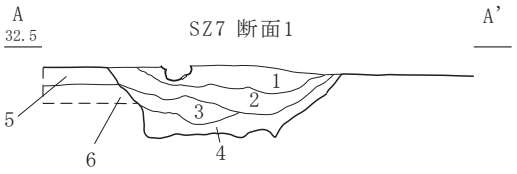
出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代後期末から古墳時代初頭頃に比定できる。

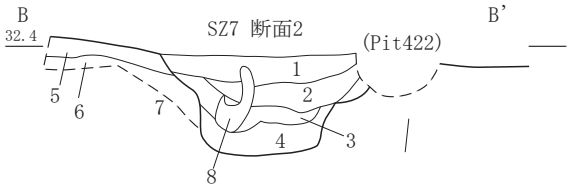
SZ5（第 22 ～ 25 図、第 52・53 図、別添図 2・3・5）

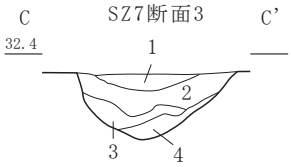
6 区・7 区・14 区にまたがって位置する、大型の前方後方形周溝墓である。主に確認できたのは後方部で、7 区中央から東側に位置する。南東側が前方部で、6 区西端で前方部周溝の一部、14 区南東寄りでは後方部周溝の一部を確認した。北半分と東半部の大半は調査区域外となる。西側に SZ3 が、北側に SZ7 が隣接する。方向基準が同じ周溝墓は確認できなかった。岩田東 A 遺跡で確認した方形周溝墓群の中で最大のもので、これより南東側、5 区以東で周溝墓は確認されなかった。

前方部後方部合わせた全長は確認部分で最大 28m、墳丘相当部分の長さ 22m、後方部の最大幅 19m、







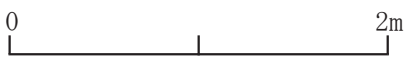


<SZ7 断面 1.2>

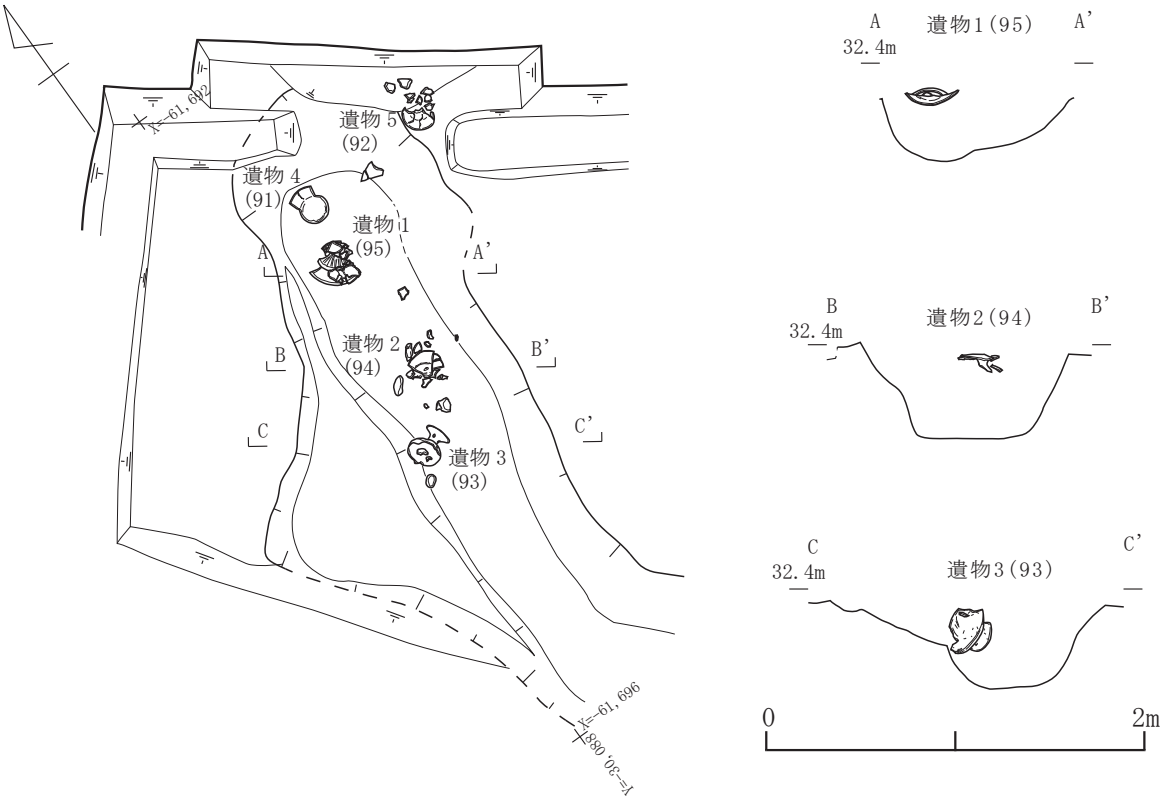
SZ7	1	2.5Y3/1	黒褐色シルト しまりやや強 粘性弱 暗黄灰シルトブロック 0.5 ～ 2cm30% 含 黄褐色シルトブロック 0.5 ～ 2cm10% 含
SZ7	2	2.5Y3/1	黒褐色シルト しまり強 粘性弱 暗黄灰シルトブロック（ブロック硬化）0.5 ～ 3cm20% 含
SZ7	3	2.5Y3/1	黒褐色シルト しまりやや強 粘性やや強 暗黄灰シルトブロック 0.5 ～ 1cm30% 含 オリーブ褐色シルトブロック 0.5 ～ 2cm10% 含
SZ7	4	2.5Y3/1	黒褐色シルト しまりやや強 粘性やや強 暗黄灰シルトブロック 0.5 ～ 1cm10% 含 明黄褐色粘土質シルトブロック 0.5 ～ 3cm30% 含
Ⅳ層地山	5	10YR4/1	褐灰色 粘土質シルト しまりやや強 粘性やや強 明黄褐色粘土質シルトブロック 0.5 ～ 1cm10% 含
Ⅴ層地山	6	10YR4/2	灰黄褐色シルト しまりやや強 粘性強黒色シルトブロック 0.5 ～ 5cm10% 含
Ⅵ層地山	7	10YR7/6	明黄褐色 しまり強 粘性やや強 黒色シルトブロック 0.5 ～ 5cm5% 含
生痕	8		※土色なし

<SZ7 断面 3>

SZ7	1	2.5Y3/1	黒褐色シルト しまりやや強 粘性弱 暗黄灰シルトブロック 0.5 ～ 2cm30% 含 黄褐色シルトブロック 0.5 ～ 2cm10% 含
SZ7	2	2.5Y3/2	黒褐色シルト しまり強 粘性弱 暗黄灰シルトブロック 0.5 ～ 3cm20% 含（Ⅴ層ブロック混じり）
SZ7	3	2.5Y3/1	黒褐色シルト しまりやや強 粘性やや強 暗黄灰シルトブロック 0.5 ～ 1cm30% 含 オリーブ褐色シルトブロック（Ⅴ層）0.5 ～ 2cm10% 含
SZ7	4	2.5Y3/1	黒褐色シルト しまりやや強 粘性やや強 暗黄灰シルトブロック 0.5 ～ 1cm10% 含 明黄褐色粘土質シルトブロック（Ⅵ層）0.5 ～ 3cm30% 含



第 20 図　SZ7 実測図



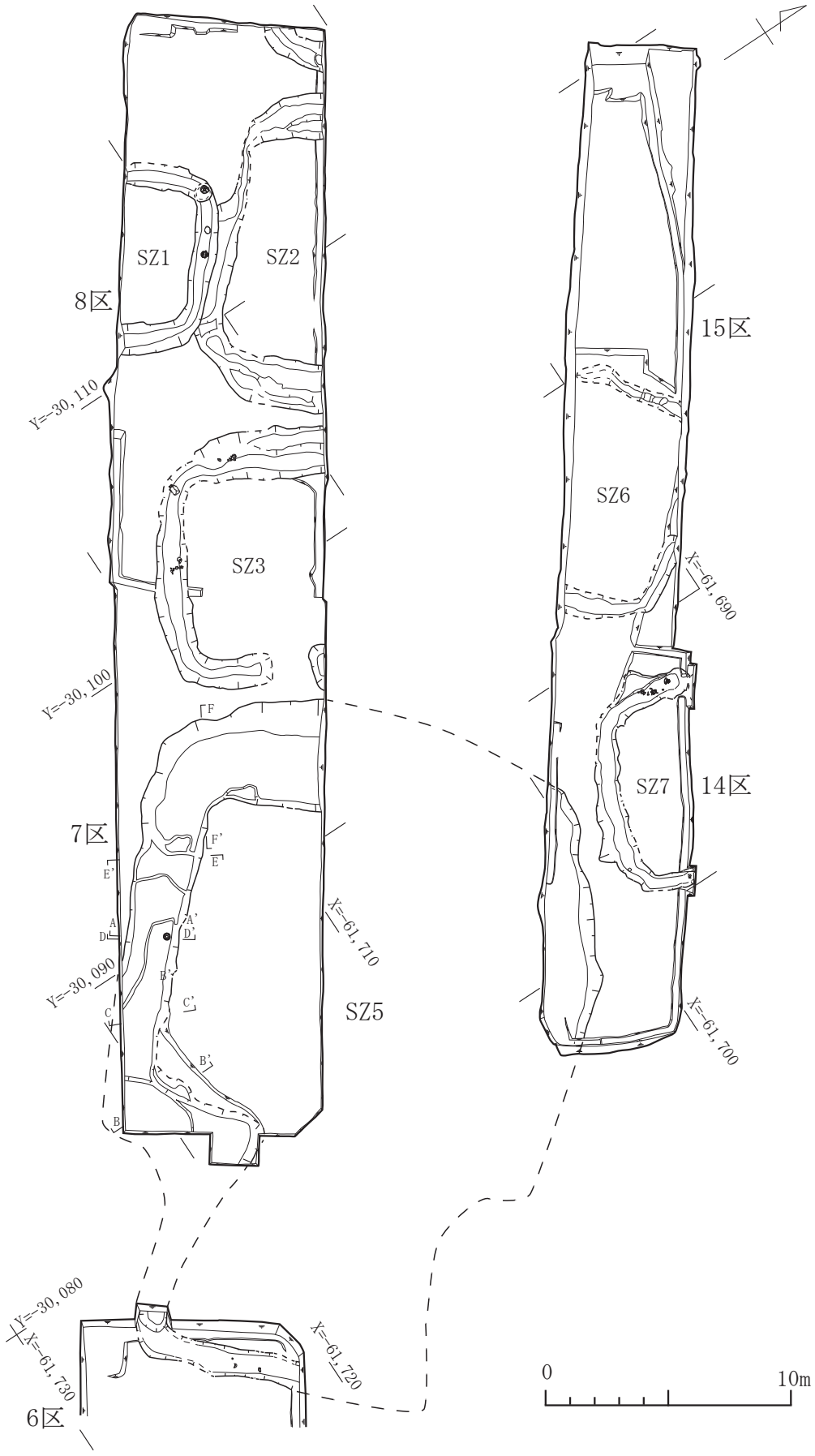
第 21 図　SZ7 周溝内遺物実測図

墳丘相当部分の幅推定 12m の規模をもつ。後方部の周溝は最大幅 4.3m、最小幅 2.8m、深さ最大 1.0m である。前方部の周溝は最大幅 1.5m、最小幅 1.1m、深さ最大 0.3m である。くびれ部の周溝幅は不明である。周溝の断面形状はゆるやかな皿状に近い。埋土には下層（Ⅳ～Ⅵ層地山層）のブロック土を含む堆積が溝底付近でわずかに認められ（断面 5 の 7 ～ 9 層）、一部墳丘盛土が流出している。その後はⅢ層包含層とほぼ同質・同色の埋土によって埋没しており（断面 5 の 3 層）、その後古代から中世にかけて埋没したものと推定される。SZ5 周溝については、規模の大きさからも考えて、比較的長期間かけて埋没したものと推定される。SZ5 の墳丘盛土や埋葬施設の痕跡は残存していなかった。遺物は全て周溝埋土からのものので、多時期にわたる。

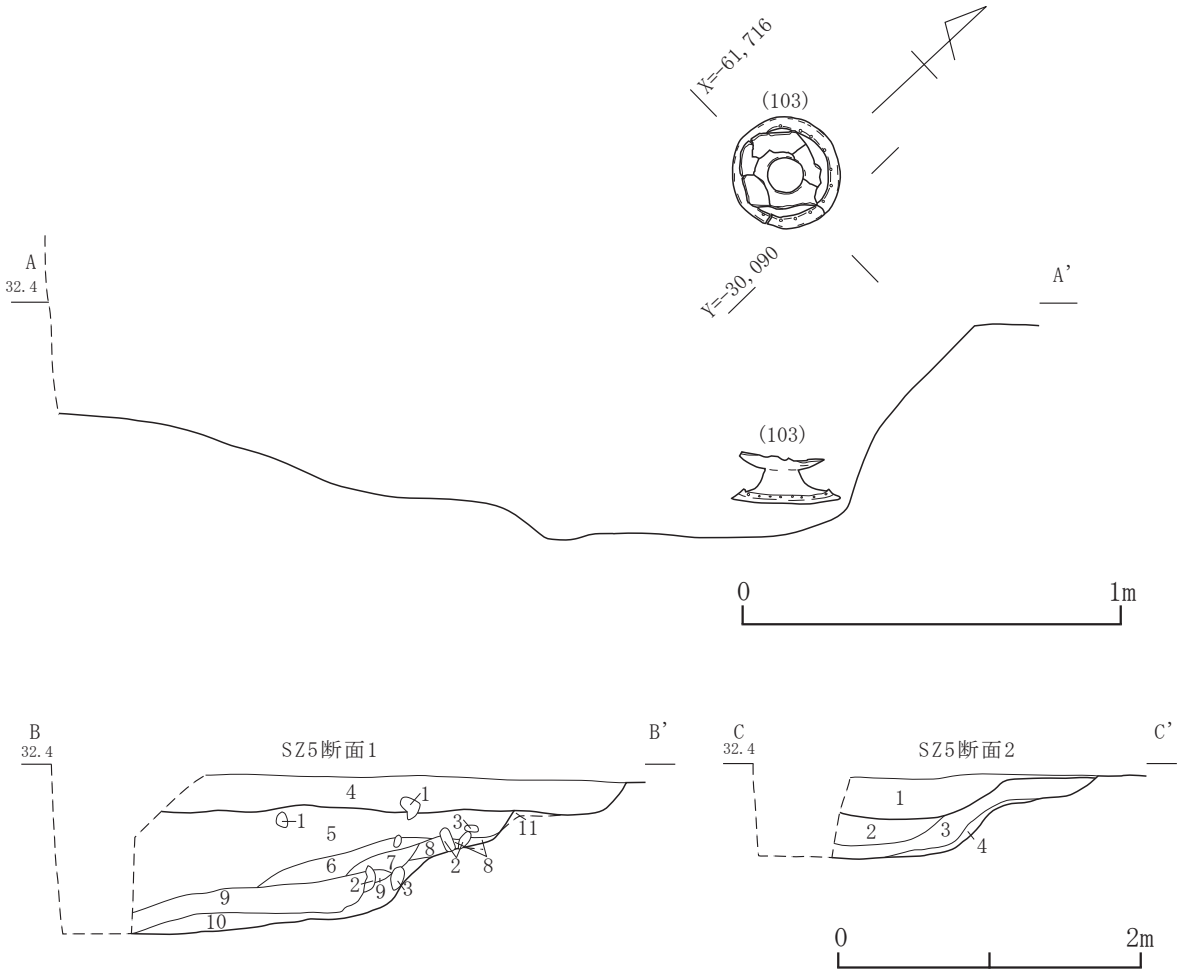
101・102 は 6 区出土遺物の古式土師器二重口縁壺で、弥生時代後期末から古墳時代初頭頃である。

103 ～ 130 は 7 区出土遺物である。103 ～ 105 は古式土師器二重口縁壺で、弥生時代後期末から古墳時代初頭頃である。106 は灰釉陶器椀で 10 世紀末頃である。107 は古式土師器器台もしくは高杯で弥生時代後期末から古墳時代初頭頃である。108 は土製品土錘である。109 は赤彩のある弥生土器壺で弥生時代後期である。110 は弥生土器壺で弥生時代中期である。111 は弥生土器条痕文系深鉢で、中期中葉から後葉である。112 ～ 116 は美濃須衛産須恵器で、112 は 7 世紀末から 8 世紀初の甕、113・115 は 8 世紀代の甕、114 は 9 世紀初頭の杯、116 は 9 世紀初頭の蓋である。117 は石製品剥片である。118 ～ 122 は土師器で、118 は甕、119 はM類の土師器皿、120 は清郷型鍋で 11 世紀から 12 世紀頃である。121 は濃尾型甕で 8 世紀から 9 世紀前後である。122 は土師器甕である。123 ～ 127 は土製品土錘である。128 ～ 130 は弥生土器壺で、128 は中期、129 は後期前半山中式、130 は中期後葉高蔵式である。

131 ～ 139 は 14 区出土遺物である。131 は灰釉陶器椀で 10 世紀初頭前後である。132 は東濃型山



第 22 図　SZ5 全体実測図



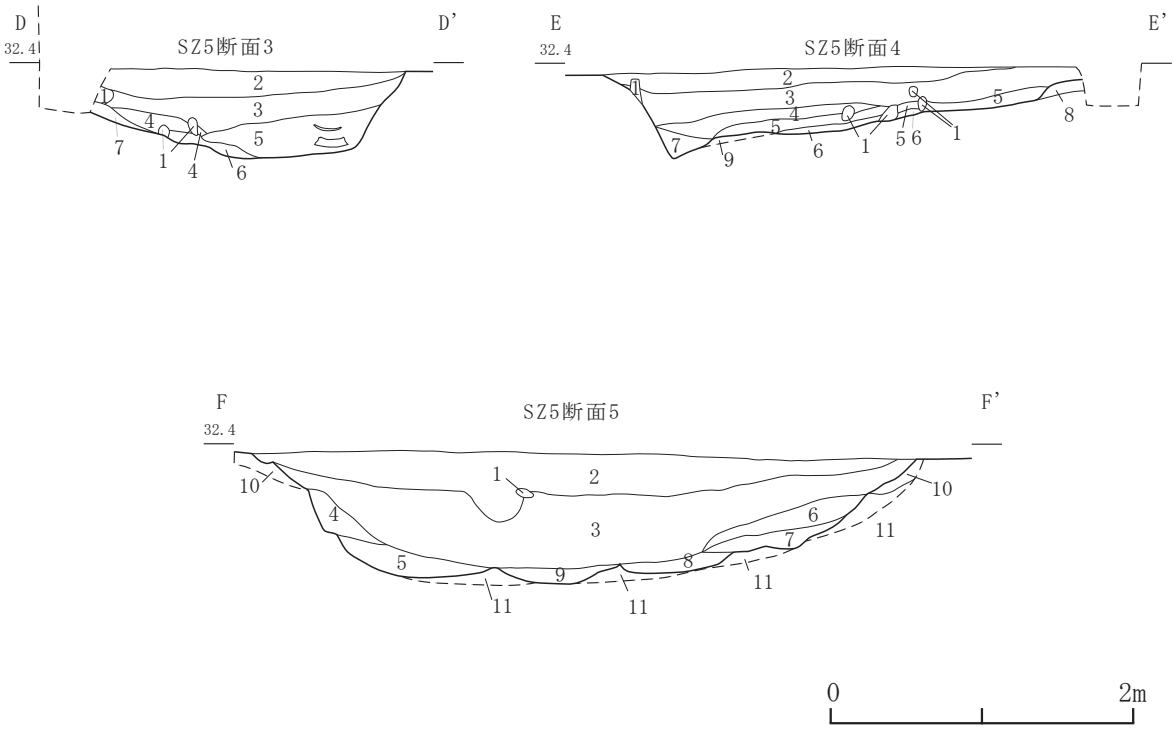
＜7区SZ5断面1＞

生痕	1	10YR3/4	暗褐色シルト　しまり弱い 粘性弱い
生痕	2	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト　しまり弱い 粘性弱い
生痕	3	10YR5/6	黄褐色シルト　しまり弱い 粘性弱い
SX44 掘り込み	4	10YR3/3	暗褐色シルト　しまり弱い 粘性やや弱い 黄橙色シルトブロック極少量含
SZ5 周溝	5	10YR2/2	黒褐色シルト　しまりやや弱い 粘性やや弱い 黄橙色シルトブロックを極少量含
SZ5 周溝	6	10YR2/1	黒色シルト　しまりやや弱い 粘性やや強い 他の色の土をほとんど含まない
SZ5 周溝	7	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱い 粘性やや弱い 直径1㎝前後の黄褐色シルトブロックを極稀に含
SZ5 周溝	8	10YR3/4	暗褐色シルト　しまりやや強い　粘性やや弱い　直径1㎝前後の黄褐色シルトブロックを極稀に含
SZ5 周溝	9	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い 直径1㎝前後の黄褐色シルトブロックを稀に含
SZ5 周溝	10	10YR3/3	暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い 直径1～3㎝前後の黄褐色シルトブロックを多く含
Ⅳ層	11		地山

＜7区SZ5断面2＞

SX44掘り込み	1	10YR3/3	暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い　黄橙色シルトブロックを極まれに含む
SZ5周溝	2	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い φ1㎝前後の黄褐色シルトブロックを極まれに含む
SZ5周溝	3	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い φ1㎝前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ5周溝	4	10YR3/3	暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い φ1～3㎝前後の黄褐色シルトブロックを多く含む

第23図　7区SZ5断面・周溝内遺物実測図



〈7 区 SZ5 断面 3〉

生痕	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	しまり弱い　粘性弱い
SZ5周溝	2	10YR3/3	暗褐色	シルト	しまり弱い　粘性やや弱い　黄橙色シルトブロックをごくまれに含む
SZ5周溝	3	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまりやや弱い　粘性やや弱い　黄橙色シルトブロックをごくまれに含む
SZ5周溝	4	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまりやや弱い　粘性やや強い
SZ5周溝	5	10YR3/1	黒褐色	シルト	しまりやや弱い　粘性やや弱い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ5周溝	6	10YR3/3	暗褐色	シルト	しまりやや弱い　粘性弱い　φ1～3cm前後の黄褐色シルトブロックを多く含む
SZ5周溝	7	10YR3/4	暗褐色	シルト	しまりやや弱い　粘性やや弱い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックを多く含む

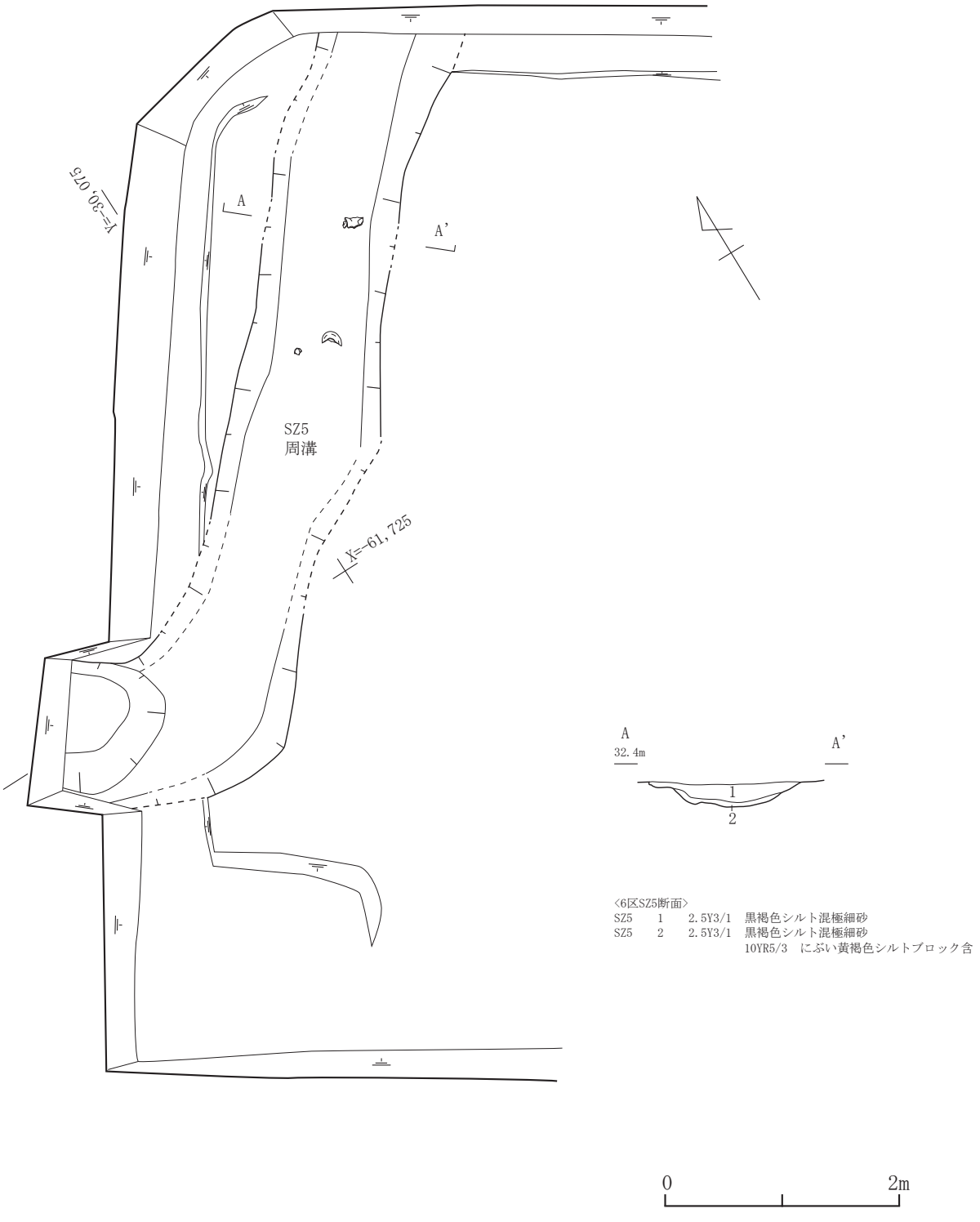
〈7 区 SZ5 断面 4〉

生痕	1	10YR3/4	暗褐色シルト	しまり弱い、粘性弱い	
SZ5周溝	2	10YR3/3	暗褐色シルト	しまりやや弱い　粘性やや弱い　橙色シルトブロックをごくまれに含む	
SZ5周溝	3	10YR3/1	黒褐色シルト	しまりやや弱い　粘性やや弱い	
SZ5周溝	4	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり弱い　粘性やや弱い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックを極まれに含む	
SZ5周溝	5	10YR3/2	黒褐色シルト	しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1 cm前後の黄褐色シルトブロックを極まれに含む	
SZ5周溝	6	10YR3/3	暗褐色シルト	しまりやや強い　粘性やや強い	
SZ5周溝	7	10YR3/3	暗褐色シルト	しまりやや弱い　粘性やや強い	

〈7 区 SZ5 断面 5〉

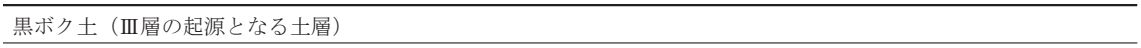
生痕	1	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	しまり弱い　粘性弱い	
SZ5周溝	2	10YR3/3	暗褐色シルト	しまり弱い　粘性やや弱い　黄橙色シルトブロックを極まれに含む	
SZ5周溝	3	10YR3/1	黒褐色シルト	しまりやや弱い　粘性やや弱い　黄橙色シルトブロックを極まれに含む	
SZ5周溝	4	10YR3/3	暗褐色シルト	しまり弱い　粘性やや弱い　1 cm前後の黄褐色シルトを極まれに含む	
SZ5周溝	5	10YR3/4	暗褐色シルト	しまりやや弱い　粘性やや弱い　1 cm前後の黄褐色シルトを極まれに含む	
SZ5周溝	6	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり弱い　粘性やや弱い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックを極まれに含む	
SZ5周溝	7	10YR3/1	黒褐色シルト	しまりやや弱い 粘性やや弱い　φ1 cm前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む	
SZ5周溝	8	10YR3/3	暗褐色シルト	しまりやや強い　粘性やや強い　φ1～3 cm前後の黄褐色シルトブロックを多く含む	
SZ5周溝	9	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	しまり弱い　粘性やや強い	
Ⅳ層	10	※土層注記なし			
Ⅴ層	11	※土層注記なし			

第 24 図　7 区 SZ5 断面実測図

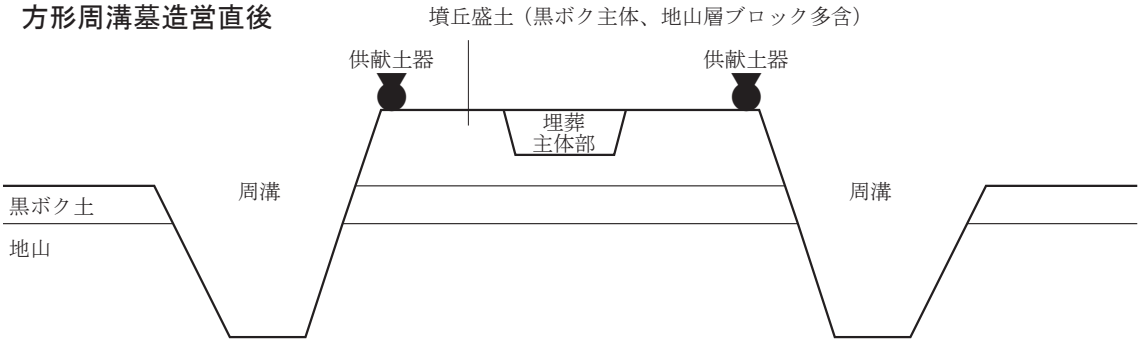


第25図　6区SZ5実測図

1. 方形周溝墓造営前

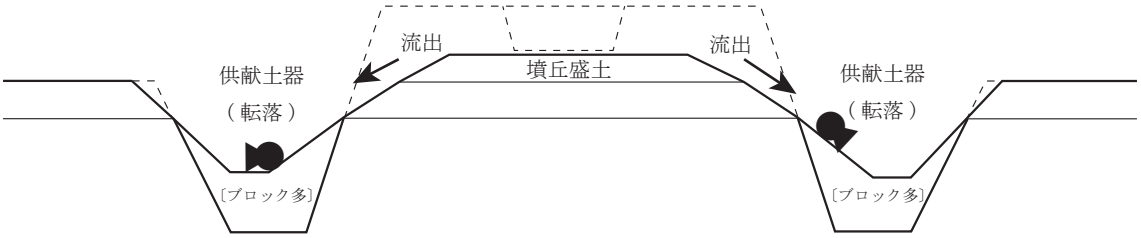


2．方形周溝墓造営直後



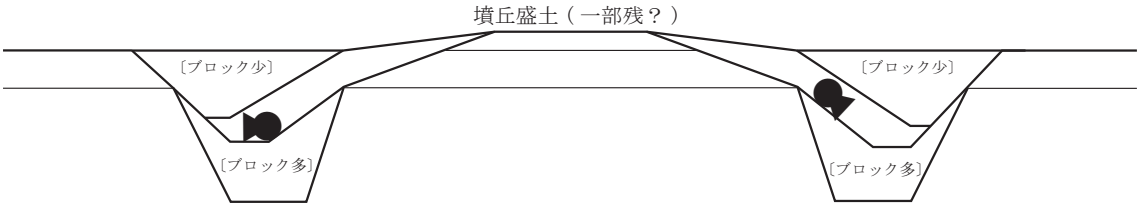
供献土器は墳丘上に据えられていた（周溝内の可能性はほぼ無い）

3．墳丘盛土の流出・周溝の埋没



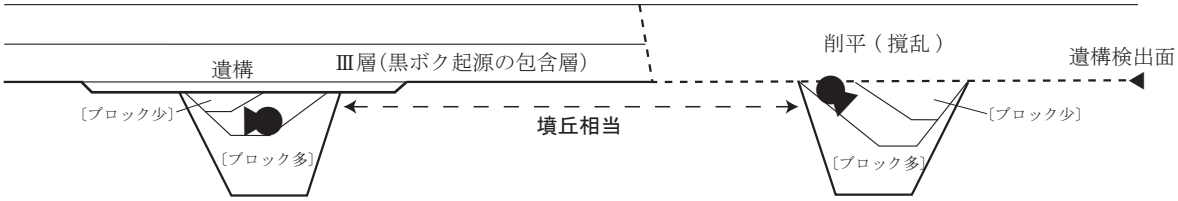
しまりのない土層であるため、墳丘盛土の流出速度は速かったと考えられる
供献土器は周溝埋土上に転落したと推定される

4．周溝の完全埋没＜～古墳時代＞



地山層ブロックを多く含む流出土は下層に、地山層ブロックの少ない流出土は周溝上に残った溝状窪みに堆積する
遺構の切り合いなどから、古墳時代後期までに埋没したと推定される

5．上層遺構の形成および削平



古墳時代後期以後は、墳丘や周溝上層に遺構が掘り込まれ、削平を受け続ける
調査時には墳丘盛土・埋葬主体部は失われている
遺構検出面よりやや下層、もしくは同一レベルで供献土器が出土する

第 26 図　周溝埋没過程想定模式図

茶碗皿で明和1号から大畑大洞4号窯式期である。133は打製石斧で、134は弥生土器の壺である。弥生時代の後期である135は土師器皿M類である。136は弥生土器受口状口縁甕で弥生時代中期末から後期初頭である。137は弥生土器三河系壺で中期中葉である。138は石製品刃器である。139は土師器台付甕で、古墳時代前期である。

出土遺物から、本遺構の時期は弥生時代後期末から古墳時代初頭頃に比定できる。また、少なくとも平安時代までには埋没したものと推定され、周溝の規模が大きいことから、他の方形周溝墓より埋没速度は遅かったと考えられる。

＜岩田東A遺跡の方形周溝墓周溝埋没過程について＞

岩田東A遺跡で確認した方形周溝墓の特徴として、周溝埋土に地山層ブロックを含む土層が堆積する、供献土器が周溝底部より浮いた状態もしくは周溝検出レベル付近で出土する、周溝盛土や埋葬主体部が遺存しない等が挙げられる。これらが生じうる周溝埋没過程を想定し、模式図として表した(第26図)。

まず、周溝墓の墳丘盛土には周溝掘削時の土を利用したと考えられ、地山層がブロックとして混じる、しまりのない黒ボク主体の土層であったと推定される（第26図1・2)。この黒ボク主体の土層は風雨で容易に飛散、流出しやすい土壌であることから、おそらく墳丘盛土は早い段階に流出し、周溝の半分近くがこの土壌によって埋没したと考えられる（第26図2)。

また、供献土器は周溝底部より浮いた状態で出土する例がほとんどである（第26図3)。美濃地域で確認されている方形周溝墓では、大垣市東町田遺跡SZ2水銀朱付着石臼に見られる特殊な出土例のように、周溝底部に供献土器や遺物を据える例は非常に少ない（鈴木・小村2004)。今回の調査では供献土器を据えた原位置は全く確認できないことから、周溝内出土位置から復元・推定することになるが、岩田東A遺跡出土の供献土器は周溝墓上に据えられていたものであり、盛土流出とともに周溝内に転落したと考えるのが妥当である。

その後、周溝埋没の最終段階になると、周溝上層部には地山層ブロックの少ない土層が堆積する（第26図4)。この時点でもわずかに溝状の窪みが残っていたと推定される。墳丘盛土は大半が失われおり、周溝上層部埋土には墳丘盛土の流入が少なかったと考えられる。周溝埋没後は、古墳時代後期から平安時代に遺構が多く掘り込まれる。中世以降も削平・改変が繰り返され、墳丘盛土は完全に失われたと考えられる（第26図5)。

以上のような周溝埋没過程を想定しているが、岩田東A遺跡のように黒ボク土が形成された段丘上という立地条件が主な要因にあると考えている。河川に近く洪水や氾濫の影響を受けやすい立地条件では、周溝墓盛土の状況や周溝埋没過程は全く異なる。

＜参考文献＞

鈴木　元・小村美代子　「東町田遺跡」　大垣市教育委員会　2004

第３節　古墳時代から古代の遺構と遺物

＜古墳時代＞

SD31（別添図 2、第 54 図）

6 区中央付近に位置する。北北東を向く溝で、北側は調査区外へ続き、南側は中世の溝 SD21 ～ 24 に切られており不明である。また、Pit241 に切られる。規模は確認部分で長さ 2.6m、幅 0.8 ～ 1.0m、深さ 0.2m である。断面形状は浅い皿状である。

140 は土師器甕で、6 世紀から 7 世紀頃である。

出土遺物から、本遺構の時期は古墳時代後期頃に比定できる。

SB4（第 27 図、第 54 図）

6 区西側に位置する。南側の立ち上がり、および南東・南西コーナーは中世の溝 SD21 に切られており遺存しない。プラン方形の竪穴式住居跡と考えられ、軸線は北北西を向く。規模は確認部分で長軸方向 5.4 ｍ、短軸方向 4.0m、深さ 0.3m である。カマドや焼土範囲は確認できなかった。上層遺構である中世溝のサブトレンチ掘削時に土器集積を確認した。住居跡埋土を掘削すると、土師器片が北東コーナー付近から中央部にかけての範囲に広がっていた。また、住居跡東側で SK132・133・134、Pit301・302・303 を、西側で Pit227・300 を確認した。

SK133・SK134 は土器集積の下に位置する。SK133 はプラン不整形の土坑で、SK134 を切る。規模は長軸方向 2.2m、短軸方向 0.8 ～ 1.0m、深さ 0.3m である。SK134 はプラン不整形の土坑で、長軸方向 1.3m、短軸方向 0.9m、深さ 0.3m である。SK133 に切られる。このほか、住居跡西側では川原石 1 点が出土している。

141 ～ 143 は美濃須衛窯の須恵器である。141 は杯蓋で、7 世紀中葉から後半頃の須衛 65 号窯産である。142 は甕で、7 世紀前半代である。143 は杯蓋で、6 世紀末頃である。

144 ～ 149 は土師器である。144 は甑、145 は無頸の鉢である。146 はミニチュアの可能性が考えられる。147 ～ 149 は甕である。いずれも 6 世紀から 7 世紀頃である。

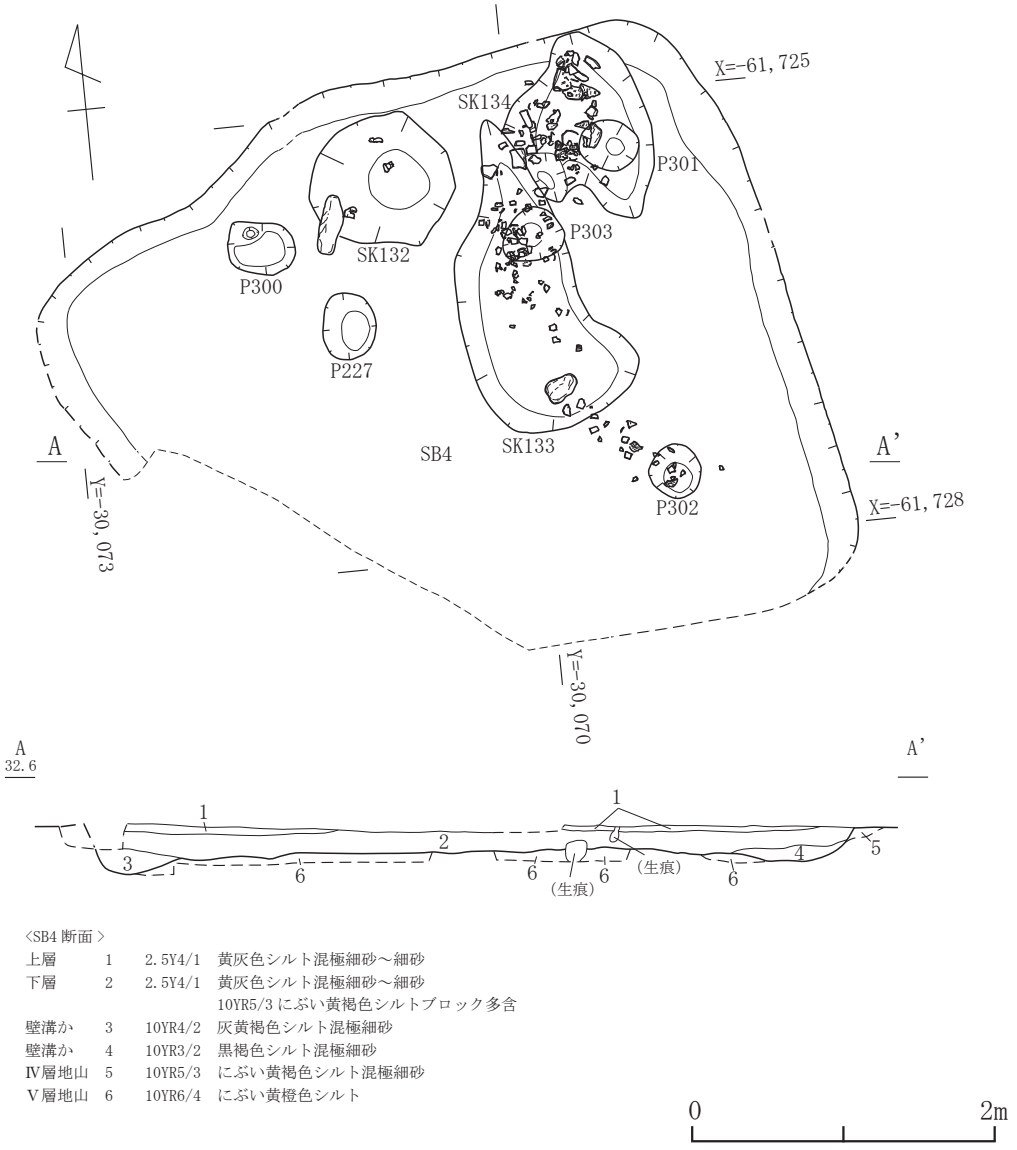
出土遺物から、本遺構の時期は古墳時代後期頃に比定できる。

SB6（第 28 図、第 54 図）

8 区西側に位置する。東側の立ち上がり部分は中世の SK180 に切られており遺存しない。また、弥生時代の周溝墓 SZ1 プラン検出の際に一部掘り過ぎている。プラン方形の竪穴住居跡と考えられる。軸線は北西を向く。規模は確認部分で長軸方向 3.2m、短軸方向 3.0m、深さ 0.2m である。住居跡内の遺構として、北西方向にカマドおよび煙道を確認した。煙道は全長 1.2m、幅 0.3m、深さ 0.1m で、断面形状は浅い皿状である。カマドは両袖間の幅が 1.2m で、左袖部分の残りが悪かった。カマド内の埋土は炭・焼土が目立つ。カマド両袖部分の南側で土器が出土した。

150 ～ 152 は畿内系の須恵器である。150 は杯蓋、151・152 は杯で、7 世紀代である。

出土遺物から、本遺構の時期は古墳時代後期後半頃に比定できる。



〈SB4 断面〉

上層	1	2.5Y4/1	黄灰色シルト混極細砂～細砂
下層	2	2.5Y4/1	黄灰色シルト混極細砂～細砂 10YR5/3 にぶい黄褐色シルトブロック多含
壁溝か	3	10YR4/2	灰黄褐色シルト混極細砂
壁溝か	4	10YR3/2	黒褐色シルト混極細砂
Ⅳ層地山	5	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト混極細砂
Ⅴ層地山	6	10YR6/4	にぶい黄橙色シルト

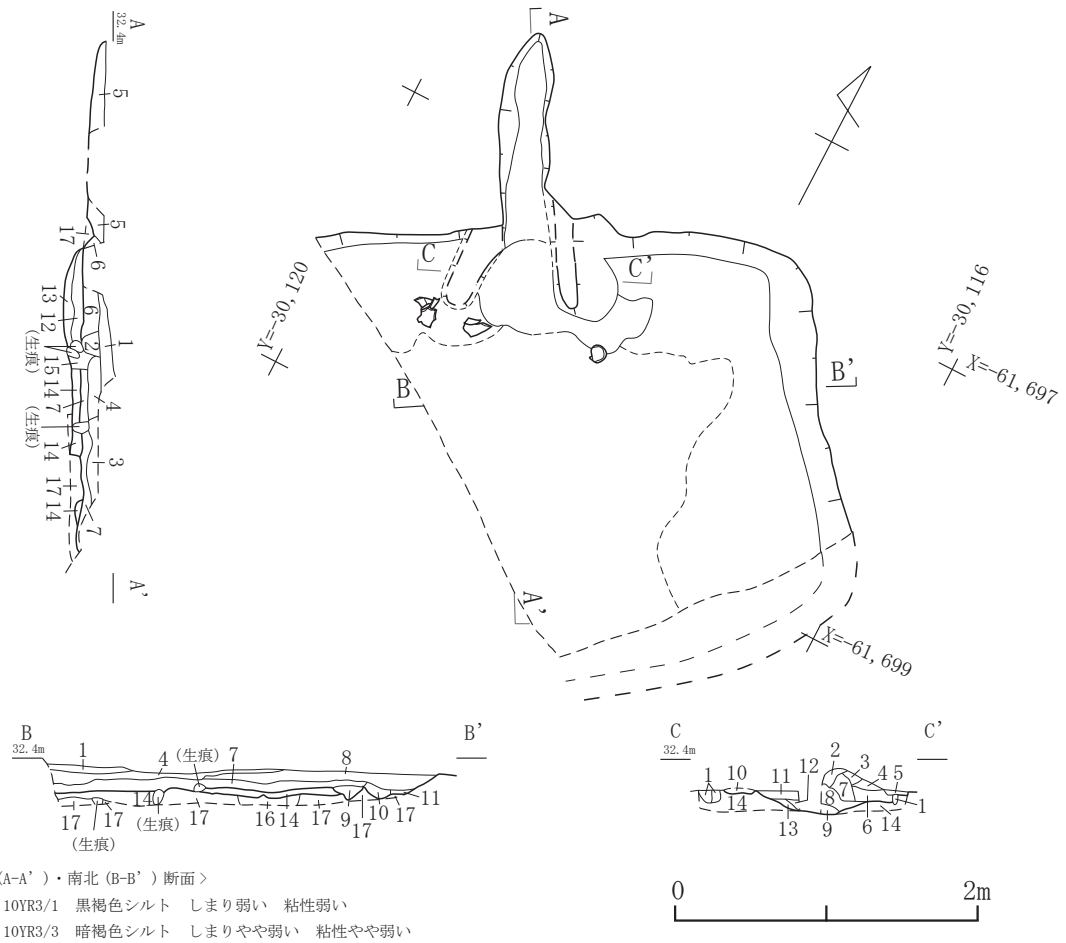
第 27 図　SB4 実測図

SX80（別添図 4）

12 区西側に位置する。東側、西側は調査区外へ続く落ち込みである。南側肩部は SD63・SD66 に切られる。規模は確認部分で長さ 5.0m、幅 4.2m、深さ 0.45m である。落ち込み内からは復元できないが土師器壺の体部片（SX74）が出土した。

岩田東Ａ遺跡には、複数の塚（古墳）が存在したことが地元住民に周知されており、この調査地付近には昭和 40 年頃実施のほ場整備直前まで墳丘が遺存していたようである。また、大正五年の字絵図でも、12 区西側に相当する地点で「塚」と記された円形の区画を読み取ることができる。しかし、調査前の現況では墳丘や周濠の位置は全く不明であり、調査の結果においても墳丘盛土に相当する土層は確認できなかった。字図にある「塚」の位置関係を考慮すると、本遺構が古墳の周濠部分に相当する可能性が考えられる。

当遺跡北側に広がる岩田古墳群や当遺跡南側の中屋敷古墳では、古墳時代後期の横穴式石室が確認



〈SB6 東西（A-A'）・南北（B-B'）断面〉

SB6　1　10YR3/1　黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
SB6　2　10YR3/3　暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い
SB6　3　10YR4/2　灰黄褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
SB6　4　10YR3/2　黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　φ1㎜程度の明黄褐色シルトブロックをごくまれに含む
煙道　5　10YR3/3　暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い　φ0.5～1㎝大の褐色シルトブロックまれに含む
カマド 6　10YR2/1　黒色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1～5㎜程度の赤褐色シルトブロックごくまれに含む
SB6　7　10YR3/1　黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性弱い　φ1㎜程度の明黄褐色シルトブロックをごくまれに含む
SB6　8　10YR3/2　黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い　φ5㎜程度の黄褐色シルトブロックをごくまれに含む
SB6　9　10YR3/3　暗褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
SB6　10　10YR3/2　黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い
SB6　11　10YR3/3　暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い
床土　12　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　しまりやや強い　粘性強い　φ1～3㎝の赤褐色シルトブロック（焼土）を多く含む
床土　13　10YR3/2　黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い
床土　14　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　しまり非常に強い　粘性弱い　黒色と16層の色と混合色
　　15　10YR4/4　褐色シルト　しまりやや強い　粘性やや弱い
　　16　10YR3/1　黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い
地山　17　※土層注記なし

〈SB6 カマド南西－北東（C-C'）断面〉

生痕　1
カマド内　2　10YR3/2　黒褐色シルト　しまりやや強い　粘性やや弱い　φ0.5～1㎝前後の黄褐色シルトブロックをごくまれに含む
カマド内　3　10YR3/3　暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ0.5～1㎝前後の黄褐色シルトブロックをごくまれに含む
カマド内　4　10YR3/2　黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い
カマド内　5　10YR3/1　黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性強い
カマド内　6　10YR3/4　暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　φ0.5～1㎝前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む
カマド内　7　10YR4/4　褐色シルト　しまりやや強い　粘性弱い　φ0.5～1㎝前後の黄褐色シルトブロックを多く含む
カマド内　8　10YR3/2　黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや強い　φ1～2㎝前後の赤褐色シルト（焼土）をまれに含む
カマド内　9　10YR3/1　黒褐色シルト　しまりやや強い　粘性強い
カマド本体の土　10　10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　しまりやや弱い　粘性強い
カマド内　11　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　しまり非常に強い　粘性弱い　住居床面　黒色と16層の色と混合色
カマド内　12　10YR4/4　褐色シルト　しまりやや強い　粘性やや弱い
カマド内　13　10YR2/1　黒色シルト　しまり強い　粘性強い　炭をまれに含む
カマド本体の土　14　10YR5/6　黄褐色シルト混じり粘土　しまり強い　粘性非常に強い

第28図　SB6 実測図

されている。本遺構も古墳時代後期頃に展開する古墳群のうちの一つであるならば、横穴式石室を有していた可能性が高い。

SK80（別添図 1、第 55 図）

4 区西側に位置する。西側立ち上がり部分は古代の溝 SD14 に切られる。プラン不整形の土坑である。規模は確認部分で長軸方向 2.4m、短軸方向 1.5m、深さ 0.35m である。

153 は美濃須衛窯の須恵器甕で、7 世紀後半代である。

遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期は 7 世紀後半頃に比定できる。

＜古代＞

SD14・15（別添図 1、第 55 図）

4 区西側に位置する。2 条ともほぼ南北方向を向く溝で、北側、南側は調査区外に続く。規模は確認部分で SD14 が長さ 9.8m、幅 1.3m、深さ 0.3m、SD15 が長さ 9.8m、幅 1.25m、深さ 0.5m である。両溝は平行に位置しており、溝の中心同士の距離は 5.0 ～ 5.2m となる。道路状遺構の側溝の可能性も考えたが、道路盛土や硬化面などは全く確認できなかった。

154・155 は SD14 出土の灰釉陶器である。154 は皿、155 は椀で、いずれも 10 世紀末から 11 世紀前半のものである。

156 ～ 158 は SD15 出土遺物である。156 は灰釉陶器輪花椀で、11 世紀前半前後である。157 は弥生土器壺で、弥生時代中期である。158 は美濃須衛窯の須恵器有台杯で、9 世紀初頭頃である。

出土遺物から、SD14 は 10 世紀末から 11 世紀前半、SD15 は 11 世紀前半前後に比定でき、両溝は同時期に機能していた可能性が考えられる。

SD16（別添図 1、第 55 図）

5 区西端に位置する。西向きから北西方向に曲がる溝である。東側および西側は調査区外へ続く。中世の SD17 に切られる。規模は確認部分で長さ 5.0m、幅 1.8m、深さ 0.5m である。

159 は灰釉陶器椀で、10 世紀末前後である。160 は弥生土器の条痕文系深鉢で、弥生中期中葉から後葉である。161 は古式土師器の高杯で、弥生時代後期末から古墳時代初頭である。162 は石製品スクレイパーである。

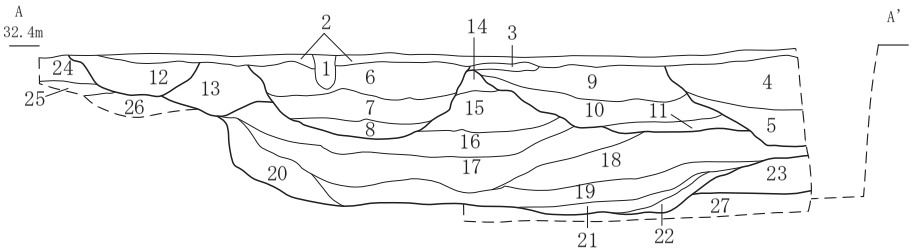
遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期は 10 世紀末前後に比定できる。

SD28・SX34（第 29 図、第 55・56 図、別添図 2）

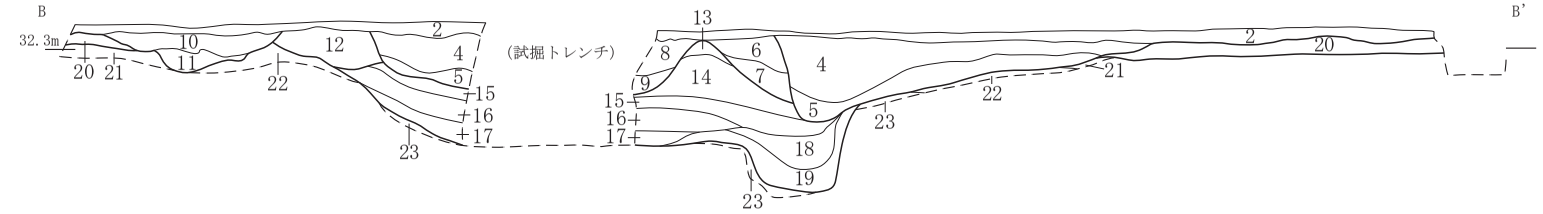
6 区東側から中央付近に位置する。SD28 はほぼ東西を向く溝で、東側および西側は調査区外へ続く。本遺構の上層は中世の溝 SD21 ～ 25 が同位置で重複して切り合っており、SD28 本来の溝肩部はほとんど遺存しない。溝の規模は確認部分で長さ 17.5m、幅は東側と西側で異なり、東側は 3.8m、西側は 1.5m である。深さは最深部で 0.95m である。断面形状は逆台形状に近い。

溝内埋土を除去すると、調査区中央付近で SX34 を、溝肩部や底部で Pit267 ～ 271・282・283・285・286 を確認した。

SX34 はプラン不整形の落ち込みで、SD28 と切り合いはなく一連となって埋没したと考えられる。



生痕	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色シルト混細砂　5Y5/2 灰オリーブ色細砂ブロック含
Ⅱ層	2	5Y4/3	暗オリーブ色シルト混細砂
盛土か	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色シルト混極細砂～細砂 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト互層に含
SD21	4	2.5Y4/3	オリーブ褐色シルト混細砂
SD21	5	2.5Y4/3	オリーブ褐色シルト混極細砂
SD22	6	2.5Y4/3	オリーブ褐色シルト混極細砂
SD22	7	2.5Y4/3	オリーブ褐色シルト混極細砂～細砂
SD22	8	2.5Y4/3	オリーブ褐色シルト混極細砂 10YR7/6 橙色シルトブロック小含
SD23	9	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混極細砂～細砂　炭少含
SD23	10	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混極細砂
SD23	11	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混極細砂　10YR4/2 灰黄褐色シルトブロック少含
SD26	12	2.5Y4/3	オリーブ褐色シルト混極細砂
SD25	13	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混細砂
盛土か	14	2.5Y4/1	黄灰色シルト混極細砂
SD28	15	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混細砂　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック少含
SD28	16	2.5Y3/2	黒褐色シルト混細砂　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック少含
SD28	17	2.5Y3/2	黒褐色シルト混極細砂～細砂　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック少含
SD28	18	2.5Y3/2	黒褐色シルト混極細砂　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック少含
SD28	19	2.5Y3/1	黒褐色シルト混極細砂　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック少含
SD28	20	2.5Y3/2	黒褐色シルト混細砂　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック少含
SD28	21	10YR7/6	にぶい黄橙色シルト　2.5Y3/1 黒褐色シルトブロック多含
SD28	22	2.5Y3/1	黒褐色シルト混極細砂　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック多含
SX35	23	2.5Y3/1	黒褐色シルト混細砂
Ⅲ層	24	10YR3/2	黒褐色シルト混極細砂～細砂
Ⅳ層	25	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト混極細砂
Ⅴ層	26	10YR6/4	にぶい黄橙色シルト
Ⅵ層	27	10YR7/6	明黄褐色シルト



Ⅱ層	1	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト混細
SD21	2	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混細砂
SD21	3	2.5Y3/2	黒褐色シルト混極細砂～細砂 10YR5/3 にぶい黄褐色シルトブロック少含
SD22	4	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混細砂
SD22	5	2.5Y3/2	黒褐色シルト混極細砂～細砂
SD23	6	2.5Y5/3	黄褐色シルト混細砂
SD23	7	2.5Y4/3	オリーブ褐色シルト混極細砂～細砂 10YR5/3 にぶい黄褐色シルトブロック少含
SD24	8	2.5Y5/3	黄褐色シルト混極細砂～細砂
SD24	9	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混極細砂
SD26	10	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混細砂
SD26	11	2.5Y4/1	黄灰色シルト混極細砂
SD25	12	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混極細砂～細砂
盛土か	13	2.5Y4/4	オリーブ褐色シルト混細砂
SD28	14	2.5Y3/2	黒褐色シルト混極細砂～細砂　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック含
SD28	15	2.5Y3/1	黒褐色シルト　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック少含
SD28	16	2.5Y3/1	黒褐色シルト混極細砂　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック少含
SD28	17	2.5Y3/2	黒褐色シルト　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック多い含
SX34	18	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混極細砂
SX34	19	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混極細砂　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック多く含
Ⅲ層	20	10YR3/2	黒褐色シルト混極細砂～細砂
Ⅳ層	21	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト混極細砂
Ⅴ層	22	10YR6/4	にぶい黄橙色シルト
Ⅵ層	23	10YR7/6	明黄褐色シルト

第 29 図　SD28 断面実測図

規模は長軸方向 3.6m、短軸方向 0.7 ～ 1.4m、深さ 0.4m である。また、Pit については、溝機能時に存在した可能性も考え、各 Pit の位置及び配列を確認した。結果、直線状に並ぶなどの規則性は見られなかった。

163 ～ 169 は SX34 出土遺物である。163 は回転台土師器椀で、11 世紀前半頃である。164 ～ 169 は灰釉陶器椀で、いずれも 11 世紀前半頃である。169 の椀には墨書「六」が記される。

170 ～ 209 は SD28 出土遺物である。170 ～ 176 は回転台土師器で､170 は皿､171 ～ 176 は椀である。いずれも 11 世紀前半頃である。177 ～ 197 は灰釉陶器である。177・184 は皿で、184 には内面見込みと底部外面に墨書「亥」が記される。178 ～ 181・185・187 ～ 190・193 ～ 197 は椀である。185 は墨書が記されるが、判読できなかった。188 は底部外面に墨書「帀（ソウ・めぐる)」もしくは「両」が記される。182・186 は輪花椀である。これらは 183 を除き全て 11 世紀前半頃のものである。183 は壺もしくは鉢である。灰釉もしくは山茶碗の可能性が考えられるもので、11 世紀から 12 世紀頃である。191 は壺、192 は耳皿で、どちらも 11 世紀前半頃である。

198 ～ 204 は美濃須衛窯の須恵器である。198 は甕で 8 世紀後半から 9 世紀初頭である。199 は椀で、9 世紀初頭である。200・204 は蓋で、8 世紀中頃から後半である。201 は擂鉢、202 は壺で、8 世紀後半から 9 世紀初頭である。203 は甕口縁で 8 世紀後半である。205 は土製品土錘である。206 は土師器甕である。207 は緑釉陶器皿底部破片で、11 世紀前半頃である。208 は中世陶器の甕で、産地不明である。209 は灰釉陶器椀で、11 世紀前半頃である。

出土遺物から、本遺構の時期は 11 世紀前半頃に比定できる。

Pit277（別添図 2、第 56 図）

6 区西側に位置する。下層の住居跡 SB5 を切るピットである。プランはほぼ円形で､規模は直径 0.3m、深さ 0.4cm。

210 は土師器濃尾型甕で、8 世紀から 9 世紀頃である。

出土遺物から、本遺構の時期は 8 世紀から 9 世紀頃に比定できる。

Pit256（別添図 2、第 56 図）

6 区西側に位置する。中世の溝 SD21 に切られる円形のピットである。規模は直径 0.2m、深さ 0.2m である。

211 は灰釉陶器椀で、11 世紀前半頃である。

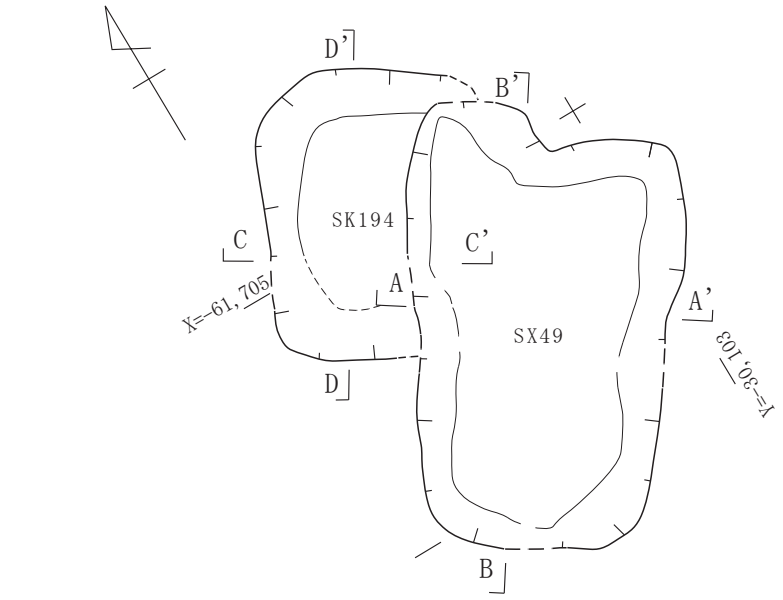
出土遺物から、本遺構の時期は 11 世紀前半頃に比定できる。

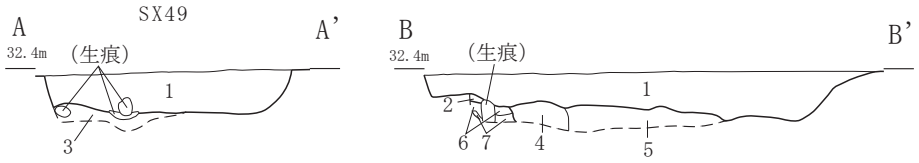
Pit244（別添図 2、第 56 図）

6 区中央に位置する。Ⅳ層上面で確認した。Pit243 に切られ、SX36・Pit245 を切る楕円形状のピットである。規模は確認部分で長軸方向 0.3m、短軸方向 0.25m、深さ 0.35m である。

212 は灰釉陶器椀で、11 世紀前半頃である。

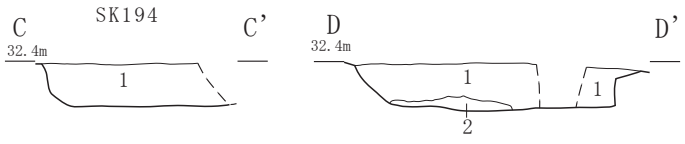
出土遺物から、本遺構の時期は 11 世紀前半頃に比定できる。





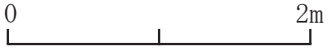
〈SX49 断面〉

SX49 埋土	1	10YR3/3 暗褐色シルト しまり弱い 粘性弱い 直径 1 ㎝前後の黄褐色シルトブロック含
SB8 埋土か	2	10YR3/3 暗褐色シルト しまり強い 粘性やや弱い
SZ3 周溝埋土	3	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまりやや弱い 粘性やや弱い
SZ3 周溝埋土	4	10YR3/2 黒褐色シルト しまり弱い 粘性やや弱い
SZ3 周溝埋土	5	10YR3/3 暗褐色シルト しまりやや弱い 粘性弱い 直径 0.5 ㎝前後の明黄褐色シルトブロック含
Ⅴ層地山	6	10YR4/3 暗褐色シルト しまりやや弱い 粘性弱い
Ⅵ層地山	7	※注記なし



〈SK194 断面〉

SK194	1	10YR3/1 黒褐色シルト しまりやや弱い 粘性やや弱い 直径 0.5 ㎝の明褐色シルトブロック稀に含
SK194	2	10YR3/3 暗褐色シルト しまりやや強い 粘性やや弱い 黄褐色シルト多含



第 30 図　SX49・SK194 実測図

SK146（別添図 3、第 56 図）

7 区西側に位置する。SZ5 周溝埋土上面で確認した。プラン長方形の土坑である。規模は長軸方向 0.95m、短軸方向 0.5m、深さ 0.1m である。

213 は美濃須衛窯の須恵器鉢で、8 世紀後半である。

出土遺物から、本遺構の時期は 8 世紀後半頃に比定できる。

SX49（第 30 図、第 56 図）

8 区東側に位置する。SB8、SB9、SK194、SZ3 を切る竪穴状の遺構である。プランは一部不整形であるが、ほぼ長方形である。規模は長軸方向 3.0m、短軸方向 1.65m、深さ 0.4m である。

214 は灰釉陶器椀で、10 世紀末前後である。215 は美濃須衛窯の須恵器有台杯で、9 世紀初頭である。216・217 は土製品土錘である。

遺構の切り合い関係や出土遺物から、本遺構の時期は 10 世紀末前後に比定できる。

SK194（別添図 3、第 56 図）

8 区東側に位置する。東肩は SX49 に切られ全体は不明であるが、プラン方形と考えられる土坑である。また、下層の SZ3 を切る。規模は確認部分で長軸方向 1.9m、短軸方向 1.0m、深さ 0.35m である。

218 は弥生土器壺で、弥生時代後期である。

図化遺物では時期の決め手を欠く。出土遺物に須恵器片が含まれることや遺構の切り合い関係などから、本遺構の時期は古墳時代から平安時代の間に比定できる。

SK193（別添図 3、第 56 図）

8 区中央に位置する。SK182 に切られる土坑で、プラン長方形である。規模は確認部分で長軸方向 1.2m、短軸方向 1.0m、深さ 0.25m である。

219 は灰釉陶器椀で、11 世紀前半前後である。

出土遺物から、本遺構の時期は 11 世紀前半前後に比定できる。

SK191（別添図 3、第 56 図）

8 区中央に位置する。プランは楕円形の埋納土坑である。規模は長軸方向 0.8m、短軸方向 0.6m、深さ 0.4m である。埋土中から口縁部を上方に向けた完形の土器が出土した。

220 は灰釉陶器皿で、11 世紀前半頃である。

出土遺物から、本遺構の時期は 11 世紀前半頃に比定できる。

SK186（別添図 3、第 56 図）

8 区東側に位置する。プランは一部不整形であるが、ほぼ楕円形状に近い土坑である。規模は長軸方向 0.75m、短軸方向 0.6m、深さ 0.2m である。

221 は回転台土師器椀で、10 世紀末から 11 世紀前半頃である。222 は灰釉陶器椀で、10 世紀代のものである。

出土遺物から、本遺構の時期は 10 世紀末から 11 世紀前半頃に比定できる。

SK196（別添図 3、第 57 図）

8 区南東側に位置する。サブトレンチ掘削時に確認した埋納土坑である。プランの全体は不明である。規模は確認部分で長軸方向 0.8m、短軸方向 0.5m、深さ 0.3m である。埋土中から口縁部を斜め上方に向けた状態で、完形の須恵器が出土した。なお、土器の内容物については自然化学分析を実施した。その結果、シイ族の炭化子葉が含まれること、炭片や植物珪酸体化石が多く含まれること、リン含有量が高いことから骨片（動物・魚骨）が含まれていた可能性が高いことが判明した（第 6 章自然化学分析参照）。

223 は美濃須衛窯の須恵器鉢で、9 世紀初頭である。底部に人為的な打ち欠きを有する。

出土遺物から、本遺構の時期は 9 世紀初頭に比定できる。

SB8（第 31 図、第 57・58 図、別添図 3）

8 区南東部に位置する。北側は SX49、西側は SB7 に切られておりプラン全体は不明である。南側は調査区外へ続く。カマド袖と東側立ち上がりの一部を確認したことから、住居跡と判断した。

規模は確認部分で長軸方向 2.4m、短軸方向 1.6m、深さ 0.3m である。カマドは住居東側に位置する。カマドの開口部は西側で、両袖には川原石を用いる。開口部の幅は確認部分で 0.6m である。カマド構築の際に、右袖部分に土師器甕を逆位に設置して使用している。カマド検出高から底面まで深さ 0.3m である。カマド内、カマド袖、カマド袖前面で集中して土器が出土した。

224・225 は美濃須衛窯の須恵器である。224 は杯蓋、225 は鉢で、ともに 9 世紀初頭である。226 は土製品土錘である。227・228 は粘土塊で、カマド構築物の一部と考えられる。229・230・235・236 は土師器の濃尾型甕で、9 世紀代である。231 ～ 234・237・238 は土師器甕である。239 ～ 244 は美濃須衛窯の須恵器である。239 ～ 242 は杯で、239 は 9 世紀前半、240 ～ 242 は 9 世紀初頭である。243・244 は蓋で、9 世紀初頭である。245・246 は土製品土錘である。247 ～ 253 は土師器甕である。247 と 249 はカマド右袖から出土したもので、構築材として利用されたものと考えられる。248・249 は頸部から体部上部に粘土接合痕を残し、体部上部から底部までケズリ調整を施す特徴的な甕で、関東地方の武蔵型甕に似ている。254・255 は土師器の濃尾型甕で、9 世紀代である。256 は弥生土器沈線文系壺で、弥生時代中期前葉から中葉である。

出土遺物から、本遺構の時期は 9 世紀初頭頃に比定できる。

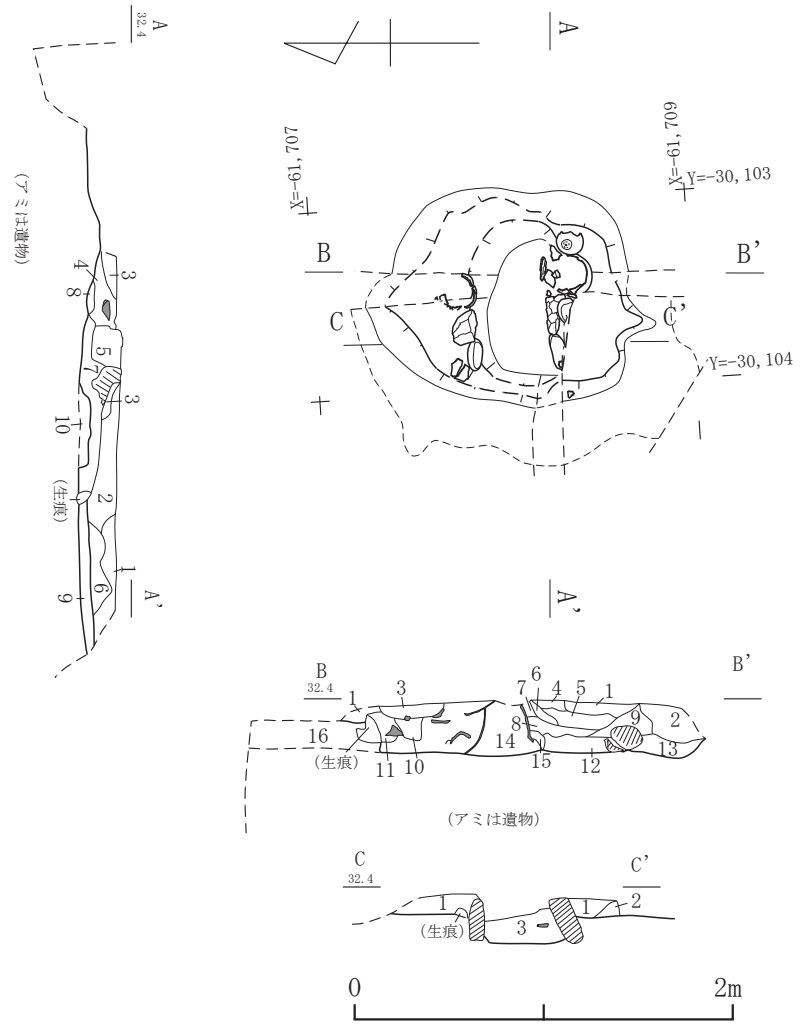
SB7（第 32 図、第 58 図、別添図 3）

8 区南東部に位置する。検出時より遺存状態が悪く、立ち上がりを確認することが困難であった。東側でカマドに相当する土坑を確認した。南側は調査区外へ続く。プラン長方形の住居跡と判断した。

規模は確認部分で長軸方向 2.4m、短軸方向 2.3m、深さ 0.15m である。カマドに相当する焼土範囲は東側に位置する。カマド袖は確認できなかった。焼土範囲の規模は長軸方向 1.0m、短軸方向 0.8m、深さ 0.3m である。

257 ～ 260 は土師器である。257 は底部糸切を有する平底甕で、9 世紀前半である。258・260 は土師器甕である。259 は土師器の濃尾型甕で、9 世紀頃である。

遺構の切り合い関係と出土遺物から、本遺構の時期は 9 世紀前半頃に比定できる。



〈SB8 カマド東西（A-A’）断面〉

	1	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性弱い
	2	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性弱い
			φ1㎝前後の赤褐色シルトブロックおよびφ1㎝前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む
カマド本体の土	3	10YR5/4	にぶい黄褐色細砂混じりシルト　しまり弱い粘性弱い ※色調無 ※土色無し ※土質無し
カマド本体崩落土 or 構築本体	4		
	5	10YR5/8	黄褐色シルト　しまり非常に強い　粘性弱い
	6	10YR3/2	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い φ1㎝前後の赤褐色シルトブロックを極まれに含む
	7	10YR3/3	暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性弱い φ1㎝前後の赤褐色シルトブロックをまれに含
	8	10YR1.7/1	黒色炭化木片
床面の土	9	10YR2/2	黒褐色粘土混じりシルト　しまり非常に強い
粘性やや強い 黄色地山	10		※土層注記なし

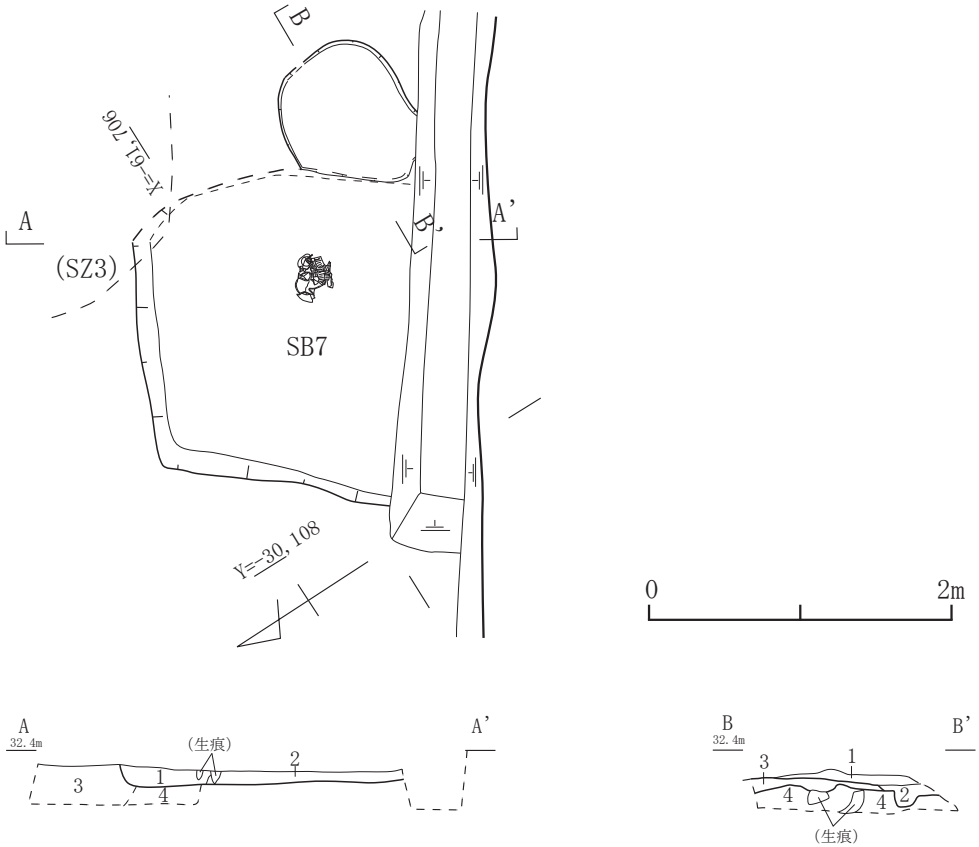
〈SB8 カマド南北（B-B’）断面〉

	1	10YR3/4	暗褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
	2	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
	3	10YR3/2	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い φ1㎝前後の赤褐色シルトブロックをごくまれに含む
カマド崩れ土 or 生痕か	4	10YR4/4	褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
カマド崩れ土	5	10YR3/2	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い
カマド本体の土	6	10YR5/6	黄褐色シルト　しまりやや弱い　粘性弱い
カマド本体の土	7	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
	8	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い
	9	10YR3/2	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
	10	10YR3/3	暗褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い φ1㎝前後の赤褐色シルトブロックを多く含む
	11	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
	12	10YR3/2	黒褐色粘土混じりシルト　しまりやや強い　粘性強い
	13	10YR3/2	黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
被熱部分	14	2.5Y5/8	明赤褐色シルト　しまりやや強い　粘性弱い　カマド崩れ
カマド本体の土	15	10YR4/4	褐色粘土　しまり強い　粘性やや強い
SZ3 周溝埋土	16		

〈SB8 カマド南北（C-C’）断面〉

カマド本体の土	1	10YR3/3	暗褐色シルト　しまりやや強い　粘性やや弱い
カマド本体の土	2		※土層注記なし
カマド崩れ　被熱部分	3	2.5YR5/8	明赤褐色シルト　しまりやや強い　粘性弱い

第 31 図　SB8 実測図



〈SB7 断面〉

1	SB7 埋土	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりやや強い 粘性弱い 直径 1cm 前後の黄色シルトブロック含
2	SB7 埋土	10YR3/1	黒褐色シルト しまりやや弱い 粘性弱い
3	SZ3 周溝埋土	10YR3/1	黒褐色シルト しまりやや弱い 粘性やや強い
4	地山	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト しまり強い 粘性弱い

〈SB7 焼土範囲断面〉

1	SB7 カマド内焼土	5YR5/8	明赤褐色　細砂まじりシルト　粘性非常に弱い
2	SB7 床面の土	10YR2/2	黒褐色シルト　しまり強い　粘性やや弱い
3	SB8 埋土	10YR2/1	黒色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い
4	地山	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト　しまりやや強い 粘性強い

第 32 図　SB7 実測図

Pit340（別添図 3、第 59 図）

8 区中央に位置する。試掘トレンチ内で確認した埋納ピットである。プランや断面等の詳細な記録は取ることができなかった。埋土中より完形の土器が出土した。

261 は灰釉陶器皿で、11 世紀初頭から前半頃である。

出土遺物から、本遺構の時期は 11 世紀初頭から前半頃に比定できる。

Pit336（別添図 3、第 59 図）

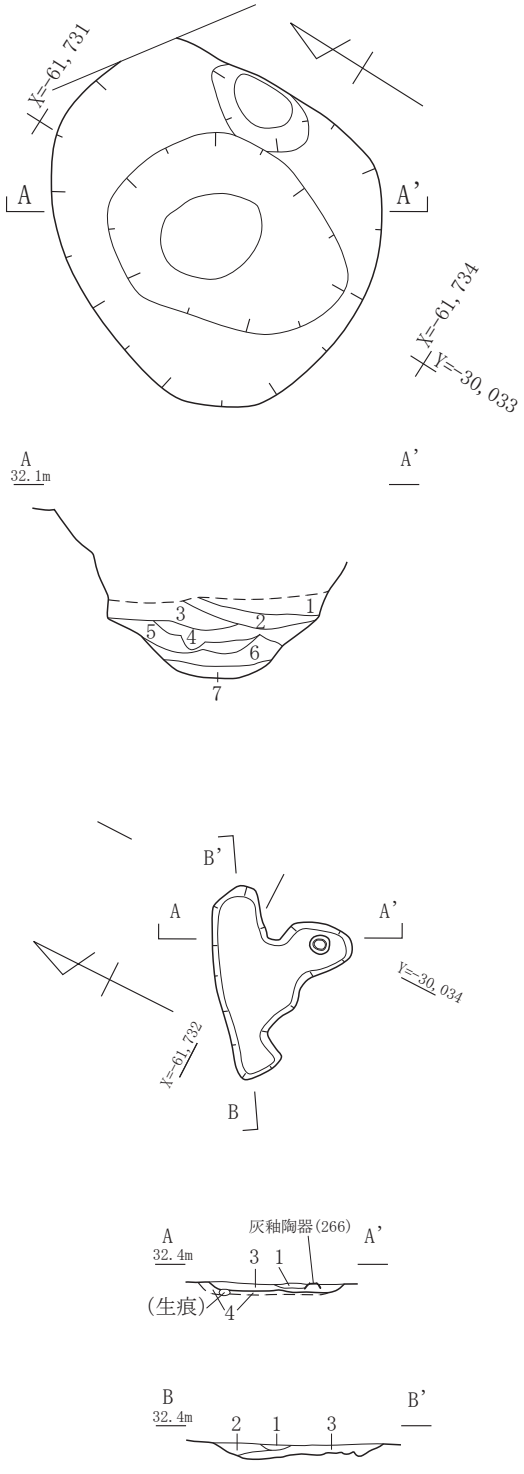
8 区西側に位置する。古墳時代の住居跡 SB6 掘削時に確認した。SB6 を切る埋納ピットである。プランは円形で、規模は直径 0.35m、深さ 0.25m。埋土中よりほぼ完形の土器が口縁部を上に向けた状態で出土した。

262 は灰釉陶器皿で、11 世紀前半頃である。

出土遺物から、本遺構の時期は 11 世紀初めから前半頃に比定できる。

Pit374（別添図 4、第 59 図）

11 区中央に位置する。プラン楕円形のピットである。規模は長軸方向 0.35m、短軸方向 0.25m、深



〈SK253 断面〉

SK253	1	10YR2/1	黒色シルト　しまりやや強　粘性やや強　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山 6）0.2 ～ 0.5cm15% 含
SK253	2	2.5Y7/6	明黄褐色粘土質シルト　しまり強　粘性強　黒色シルトブロック粒子 0.3 ～ 4cm30% 含
SK253	3	10YR2/1	黒色シルト　しまりやや強　粘性やや強　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山 6）0.5 ～ 0.8cm20% 含
SK253	4	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山 6）0.2 ～ 0.5cm40% 含　細かいブロック粒子を多く含む
SK253	5	2.5Y7/6	明黄褐色粘土質シルト　しまり強　粘性強　黒色シルトブロック粒子 0.2 ～ 3cm30% 含
SK253	6	2.5Y3/1	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性やや強　明黄褐色粘土質シルトブロック 0.2 ～ 0.8cm40% 含
SK253	7	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱　粘性強　明黄褐色粘土質シルトブロック 0.2 ～ 3cm30% 含

〈SX71 断面〉

SX71	1	2.5Y7/6	明黄褐色細砂　締まり弱　粘性弱　炭化物 0.5 ～ 3cm 10%含、 焼土ブロック 0.2 ～ 0.5cm　5%含
SX71	2	10YR4/2	灰黄褐色シルト混細砂　締まりやや強　粘性やや弱　炭化物　0.2 ～ 0.5cm　15%含　焼土ブロック 0.5 ～ 0.8cm10%含　黒色シルトブロック　1 ～ 2cm　20%含
SX71	3	10YR4/1	褐灰色シルト　締まりやや弱　粘性やや弱　炭化物 0.2 ～ 0.5cm　5%含
V層地山	4	10YR4/2	灰黄褐色シルト　締まりやや強　粘性やや強

第 33 図　SK253・SX71 実測図

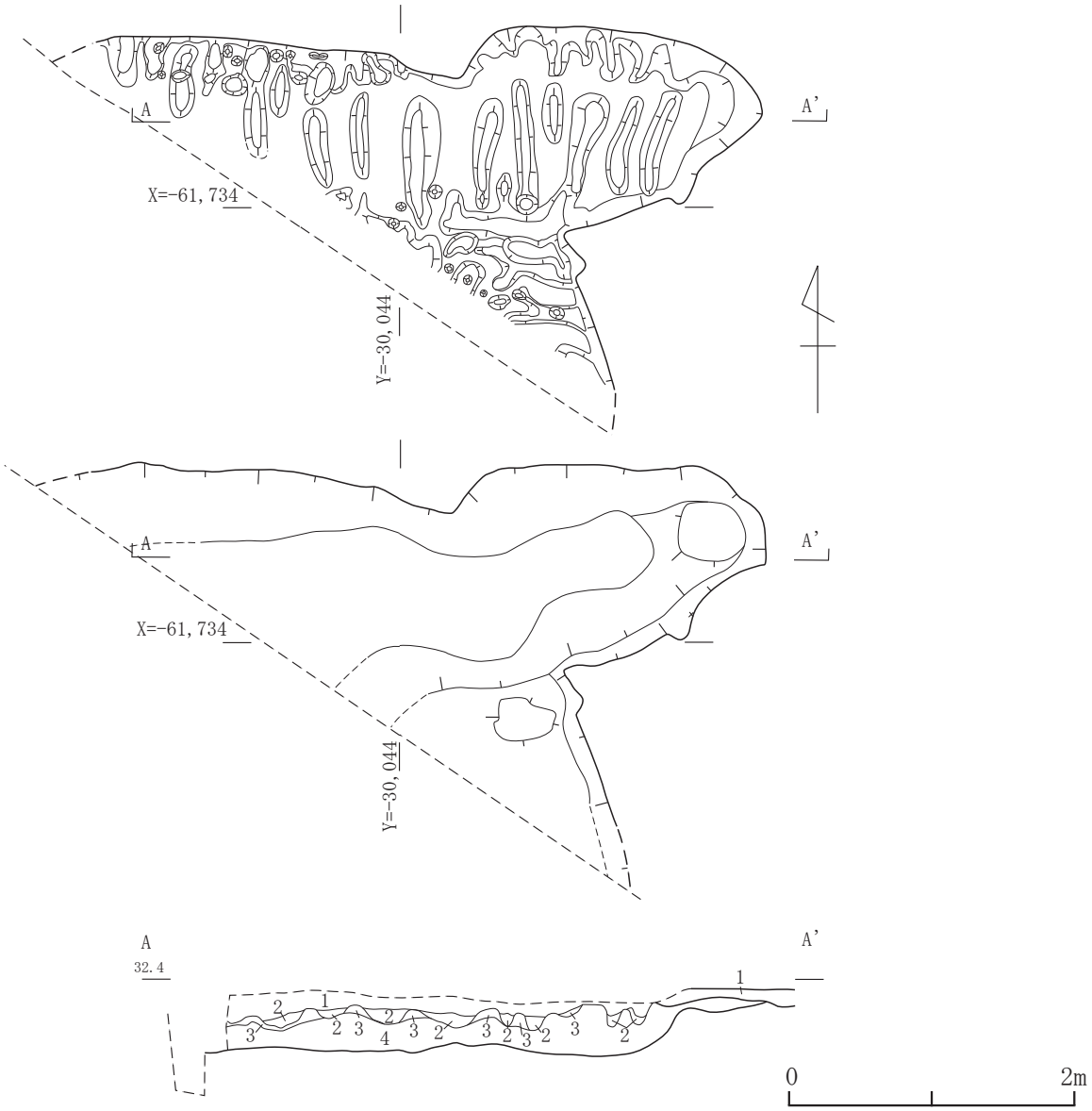
さ 0.1m である。

263 は灰釉陶器椀で、10 世紀後半から 10 世紀末頃である。

出土遺物から、本遺構の時期は 10 世紀後半から 10 世紀末頃に比定できる。

SD67（別添図 4、第 59 図）

12 区東側に位置する。ほぼ北を向く溝で、SD60 に切られ、SK253 を切る。規模は確認部分で長さ 6.0m、幅 1.85m、深さ 0.5m である。



〈SX72 断面〉

Ⅲ層	1	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり強　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（Ⅵ層地山）0.2～0.5cm5% 含 2.5Y6/4　にぶい黄色粘土質黒色シルトブロック 40% 含
SX72	2	2.5Y2/1	黒色シルト　しまり強　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック 0.2～0.5cm20% 含 黒色シルトブロック 0.5～1cm5% 含 灰黄褐色シルトブロック（Ⅴ層地山）0.5～1cm10% 含　SX の機能後自然堆積？　粒径細かい
SX72	3	2.5Y2/1	黒色シルト　しまり強　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山 6）0.5～1cm25% 含 黒色シルトブロック 1～2cm5% 含 灰黄褐色シルトブロック（Ⅴ層地山）0.5～1.5cm10% 含　　粒径大まじり多い
SX72	4	5Y3/2	オリーブ黒色シルト　しまり強　粘性やや弱　　灰黄褐色シルトブロック（Ⅴ層地山）0.5～3cm10% 含 明黄褐色粘土質シルトブロック（Ⅵ層地山）0.5～3cm20% 含 黒色シルトブロック（Ⅲ層）1～4cm10% 含　粒径大まじり多　やや明るい土まじる

第 34 図　SX72 実測図

264・265 は灰釉陶器椀で、ともに 10 世紀代のものである。

出土遺物から、本遺構の時期は 10 世紀代に比定できる。

SK253（第 33 図）

12 区東側に位置する。SD60 に切られ、SD67 に切られる。プランは楕円形に近い土坑である。規模は確認部分で長軸方向 2.4m、短軸方向 2.1m、深さ 1.5m である。

出土遺物は無かった。遺構の切り合いから、本遺構の時期は10世紀以前に比定できる。

SX71（別添図4、第59図）

12区東側に位置する。プラン不整形の埋納遺構である。規模は長軸方向1.3m、短軸方向1.0m、深さ0.1mである。埋土中より完形の土器が口縁部を下方に向けた状態で出土した。土器の内容物について自然科学分析を行ったところ、炭化種子（アワ、イネ、マメ科種子、ムギ等）が多く含まれること、炭片が多く含まれること、リン含有量がやや高く、動物や魚骨を含んでいた可能性が考えられることが判明した（第6章自然化学分析参照）。

266は灰釉陶器皿で、10世紀後半から10世紀末頃である。底部外面に墨書が記されており、「万」と判読できる。

出土遺物から、本遺構の時期は10世後半から10世紀末頃に比定できる。

SX72（第34図）

12区東側に位置する。プラン不整形の不明遺構である。南西側は調査区外へ続く。規模は確認部分で長軸方向5.1m、短軸方向2.9m、深さ0.4mである。上層と下層で埋土の土質が大きく異なる。上層のブロック混じり層（1･2層）を除去すると、下層で固く締まる黒色シルトが畝状に確認できた（3層）。この畝状の土層を除去し完掘すると、ほぼ平坦な底面を確認できた。道路状遺構あるいは古い耕作痕と考えたが、遺構の性質・用途は不明である。

図化可能な遺物は無かった。出土遺物には土師器片が主で、須恵器・灰釉陶器は混じらない。層の前後関係から、本遺構の時期を古代と判断したが、さらに古くなる可能性も考えられる。

SX78（別添図4、第59図）

12区東側に位置する。SX72の東側で確認した、南北方向の高まり部分である。規模は確認部分で長さ3.5m、幅1.0～1.2mである。上述のSX71はこの高まり上に位置する。道として利用された可能性が考えられるが、硬化面は見られなかった。高まり上の土壌は包含層であるⅢ層に似ている。
267は灰釉陶器椀で、10世紀末前後である。268は美濃須衛窯の須恵器有台杯で、9世紀初頭である。

出土遺物から、本遺構の時期は9世紀初頭から10世末頃に比定できる。

SD75・76（別添図5、第59図）

13西区中央に位置する。東北東を向く溝で、北側および南側は調査区外へ続く。規模は確認部分でSD75は長さ6.6m、幅0.85m、深さ0.2m、SD76は長さ6.6m、幅1.1m、深さ0.4mである。両溝は平行の位置にあり、溝の中心同士の距離は3.0～3.4mとなる。道路状遺構の側溝の可能性も考えたが、道路盛土や硬化面などは確認できなかった。

269・270はSD75出土の灰釉陶器皿で、269は10世紀後半から10世紀末頃、270は10世紀末前後である。

出土遺物から、SD75の時期は10世紀後半から10世紀末頃に比定できる。また、平行するSD76も同時期となる可能性が高い。

SK293（別添図5、第59図）

15区東端に位置する。プラン楕円形の土坑である。規模は長軸方向0.5m、短軸方向0.4m、深さ0.1mである。検出レベル付近で、口縁部を下に向けた状態でほぼ完形の土器が出土した。

271は灰釉陶器皿で、10世紀末から11世紀前半頃である。

出土遺物から、本遺構の時期は10世紀末から11世紀前半頃に比定できる。

SK292（別添図5、第59図）

15区西端に位置する。SK291に切られるため、全体は不明である。確認部分でプラン楕円形の土坑である。規模は確認部分で長軸方向1.0m、短軸方向0.5m、深さ0.5mである。

272は灰釉陶器椀で、11世紀前半前後である。

出土遺物から、本遺構の時期は11世紀前半前後に比定できる。

SK280（別添図5、第59図）

14区西側に位置する。南側は調査区外へと続くため全体は不明である。確認部分ではプラン円形と推定される土坑である。規模は確認部分で長軸方向1.25m、短軸方向0.75m、深さ0.3mである。

273は美濃須衛窯の須恵器長頸壺で、8世紀後半頃である。

出土遺物から、本遺構の時期は8世紀後半頃に比定できる。

第４節　中世の遺構と遺物

SD2・3・4（第35図、第60図）

1区西端に位置する。いずれも東北東－西南西方向の溝で、北側および南側は調査区外へ続く。SD2を掘削したところ、底面で２条の溝を確認し、それぞれSD3・4とした。両溝ともSD2によって切られる。

SD2の規模は確認部分で長さ9.0m、幅3.2m、深さ0.2mで、断面形状は緩やかな皿状である。SD3の規模は長さ8.8m、幅1.1m、深さ0.4mで、断面形状は逆台形状に近い。SD4は長さ8.8m、幅1.1m、深さ0.3mで、断面形状は逆台形状である。いずれの遺構も大正五年の字絵図の区画に一致する溝であり、本遺構の方向を現代まで踏襲していると考えられる。

274・275はSD3出土遺物である。274は土師器皿Ｂ２－ｂ類である。275は東濃型山茶碗の碗で、脇之島３号窯式期である。

276・277はSD4出土遺物である。276は土師器皿Ｂ２－ｂ類である。277は東濃型山茶碗の碗で、大洞東１号窯式期から脇之島３号窯式期である。

278～280はSD2出土遺物である。278は瀬戸美濃産陶器縁釉小皿で、古瀬戸後期Ⅳ期新段階である。279は土師器皿Ｃ２類である。280は灰釉陶器甕で、11世紀前半のものである。

各遺構の時期は、遺構の切り合い関係や出土遺物から、SD3・4が15世紀後半頃、両溝を切るSD2が15世紀後半から16世紀前半頃に比定できる。

SK7（第35図、第60図）

1区西側に位置する。軸線がSD2・3・4と同じ東北東方向の土坑である。SD2に切られる。プランは長方形である。規模は確認部分で長軸方向1.2m、短軸方向0.55m、深さ0.12mである。

281は土師器皿Ｃ２類である。

遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期は15世紀後半から16世紀代に比定できる。

SK1・2・3（別添図1）

1区中央に位置する。軸線が北東方向の土坑である。プランはSK1・SK2が隅丸長方形、SK3が楕円形状に近い。規模はSK1が長軸方向1.1m、短軸方向0.7m、深さ0.3mである。SK2が長軸方向1.0m、短軸方向0.55m、深さ0.3mである。SK3が長軸方向1.2m、短軸方向0.7m、深さ0.3mである。

図化可能な遺物は出土しなかった。

各遺構の時期はSK7と同様にⅢ層上面で確認できること、近接する方形土坑と規格や埋土が似ていることから同時期と考えられ、中世以降に比定できる。

SK25・26・30（第36図、第60図）

2区中央に位置する。SK25・30は軸線が北、SK26は軸線が東方向の土坑である。SK25がSK26・30両土坑を切る。SK26・30の切り合いは不明である。プランはいずれも隅丸長方形に近い。規模はSK25が長軸方向1.8m、短軸方向0.7m、深さ0.35mである。SK26が確認部分で長軸方向0.8m、短軸方向0.7m、深さ0.3mである。SK30が長軸方向1.1m、短軸方向0.7m、深さ0.25mである。

282はSK25出土遺物で、土製品土錘である。

各遺構の時期は図化遺物のみで決め手を欠く。いずれの遺構もⅢ層上面で確認できること、近接する方形土坑と規格や埋土が似ていることから同時期の遺構と考えられ、中世以降に比定できる。

SK24・33（第36図）

2区中央西寄りに位置する。いずれも軸線が東方向の土坑である。SK24がSK33を切る。プランはSK24が隅丸長方形、SK33は楕円形状に近い長方形である。規模はSK24が長軸方向2.0m、短軸方向0.8m、深さ0.5mである。SK33が確認部分で長軸方向1.8m、短軸方向0.9m、深さ0.3mである。

図化可能な遺物は出土しなかった。

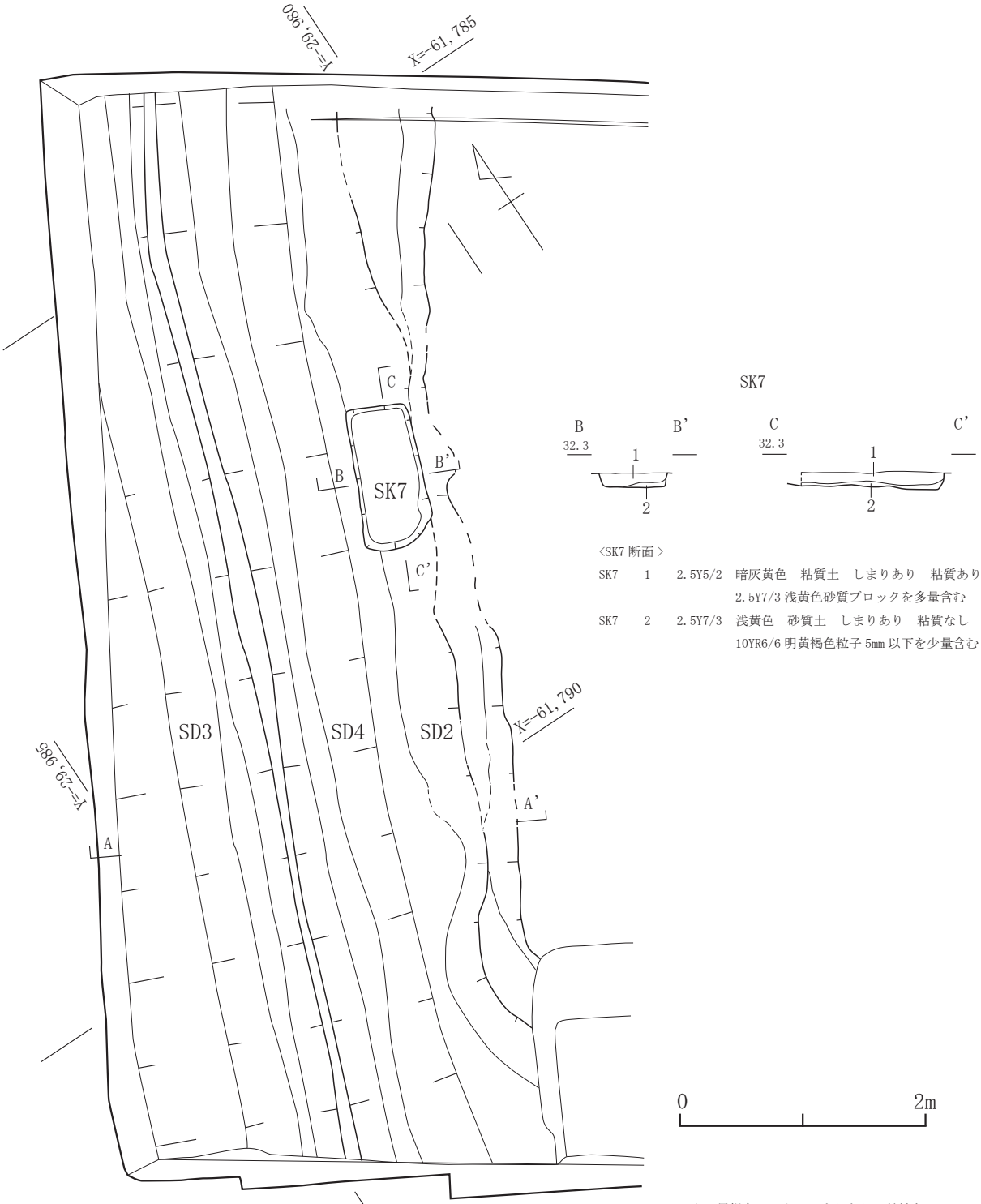
各遺構の時期はSK25・26・30と同じⅢ層上面で確認できること、近接する方形土坑と規格や埋土が似ていることから同時期の遺構と考えられ、中世以降に比定できる。

SK51・52（別添図1）

3区中央西寄りに位置する。いずれも軸線が東方向の土坑である。SK51がSK52を切る。プランはともに隅丸長方形である。規模はSK51が長軸方向1.7m、短軸方向0.7m、深さ0.5mである。SK52が確認部分で長軸方向1.0m、短軸方向0.4m、深さ0.2mである。

図化可能な遺物は出土しなかった。

各遺構の時期はⅢ層上面で確認できること、近接する方形土坑と規格や埋土が似ていることから同時期の遺構と考えられ、中世以降に比定できる。

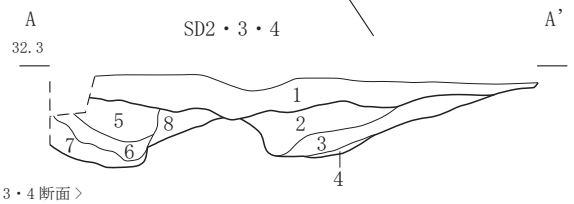


SK7

〈SK7 断面〉

SK7　1　2.5Y5/2　暗灰黄色　粘質土　しまりあり　粘質あり
2.5Y7/3 浅黄色砂質ブロックを多量含む

SK7　2　2.5Y7/3　浅黄色　砂質土　しまりあり　粘質なし
10YR6/6 明黄褐色粒子 5mm 以下を少量含む



〈SD2・3・4 断面〉

SD2　1　10YR4/2　灰黄褐色シルト　しまりなし　粘性なし　細砂含
10YR7/6 明黄褐色粒子最大 2mm 大の少量含

SD4　2　10YR3/2　黒褐色シルト　しまりややあり　粘性なし　細砂少量含
明黄褐色粒子少量含

SD4　3　10YR2/2　黒褐色シルト　しまりあり　粘性なし
極細砂極少量含む　明黄褐色粒子多量に含

SD4　4　10YR2/2　黒褐色シルト　しまりあり　粘性なし
明黄褐色粒子少量に含

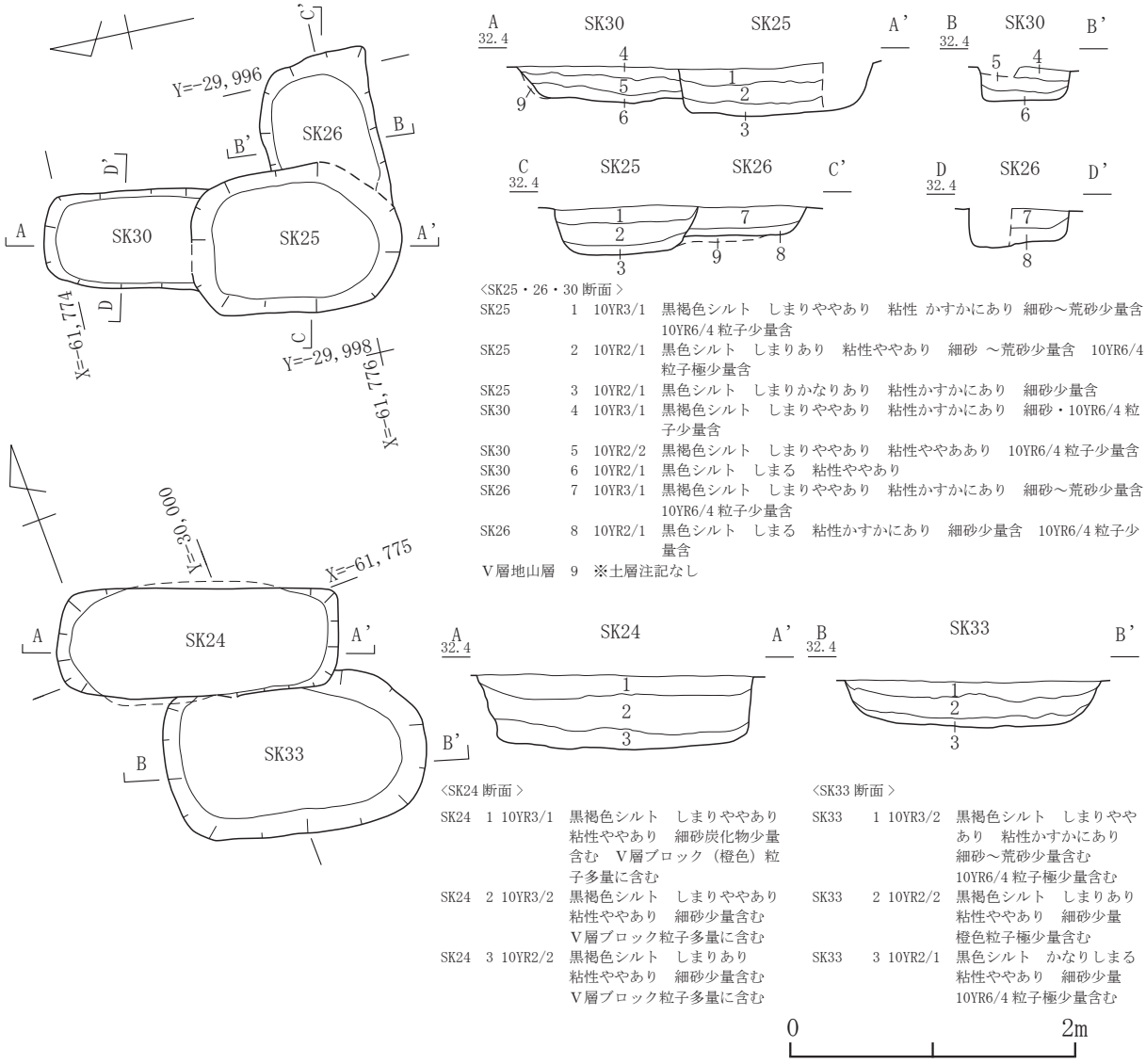
SD3　5　7.5YR3/1 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり
細砂少量含

SD3　6　7.5Y2/1　黒色シルト　しまりあり　粘性ややあり
細砂少量含む　明黄褐色粒子少量含

SD3　7　7.5YR2/1 黒色シルト　しまりあり　粘性ややあり
明黄褐色粒子多量含

SD3　8　10YR2/2　黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり
細砂極少量含む　Ⅵ層ブロックを含

第 35 図　SD2・3・4、SK7 実測図



〈SK25・26・30 断面〉

SK25	1	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりややあり　粘性 かすかにあり 細砂～荒砂少量含 10YR6/4 粒子少量含
SK25	2	10YR2/1	黒色シルト　しまりあり　粘性ややあり　細砂 ～荒砂少量含　10YR6/4 粒子極少量含
SK25	3	10YR2/1	黒色シルト　しまりかなりあり　粘性かすかにあり　細砂少量含
SK30	4	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりややあり　粘性かすかにあり　細砂・10YR6/4 粒子少量含
SK30	5	10YR2/2	黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややああり　10YR6/4 粒子少量含
SK30	6	10YR2/1	黒色シルト　しまる　粘性ややあり
SK26	7	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりややあり　粘性かすかにあり　細砂～荒砂少量含 10YR6/4 粒子少量含
SK26	8	10YR2/1	黒色シルト　しまる　粘性かすかにあり　細砂少量含　10YR6/4 粒子少量含
V層地山層	9		※土層注記なし

〈SK24 断面〉

SK24	1	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　細砂炭化物少量含む　V層ブロック（橙色）粒子多量に含む
SK24	2	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　細砂少量含む　V層ブロック粒子多量に含む
SK24	3	10YR2/2	黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　細砂少量含む　V層ブロック粒子多量に含む

〈SK33 断面〉

SK33	1	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりややあり　粘性かすかにあり　細砂～荒砂少量含む　10YR6/4 粒子極少量含む
SK33	2	10YR2/2	黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　細砂少量　橙色粒子極少量含む
SK33	3	10YR2/1	黒色シルト　かなりしまる　粘性ややあり　細砂少量　10YR6/4 粒子極少量含む

第 36 図　SK24・25・26・30・33 実測図

SK53 ～ 56・65（別添図 1）

3 区西および東側に位置する。いずれも軸線が東方向の土坑である。SK53・54・65 は SB1 を切る。プランはいずれも隅丸長方形である。規模は SK53 が長軸方向 1.1m、短軸方向 0.5m、深さ 0.2m である。SK54 が長軸方向 1.0m、短軸方向 0.6m、深さ 0.35m である。SK55 が長軸方向 1.3m、短軸方向 0.7m、深さ 0.2m である。SK56 が長軸方向 1.45m、短軸方向 0.55m、深さ 0.2m である。SK65 が長軸方向 1.15m、短軸方向 0.7m、深さ 0.05m である。

図化可能な遺物は出土しなかった。

各遺構の時期はⅢ層上面で確認できること、近接する方形土坑と規格や埋土が似ていることから同時期の遺構と考えられ、中世以降に比定できる。

SD12（別添図 1、第 60 図）

4 区東側に位置する。軸線が南－北方向の溝で、北側および南側は調査区外へ続く。規模は確認部分で長さ 9.0m、幅 1.0 ～ 1.3m、深さ 0.1 ～ 0.35m。断面形状は皿状である。大正五年の字絵図に一

致する溝であり、本遺構の方向を現代まで踏襲していると考えられる。

283 は土師器皿Ｂ２－ｂ類である。

出土遺物から、本遺構の時期は室町時代以降に比定できる。

SD17（別添図 1、第 60 図）

5 区北西隅に位置する。軸線が東西方向の溝で、西側および東側は調査区外へ続く。規模は確認部分で長さ 3.0m、幅 1.25m、深さ 0.4m。断面形状は皿状に近い。

284・285・287 は東濃型山茶碗である。284・285 は碗で、大畑大洞４号窯式期である。287 は碗で、大畑大洞４号窯式期から大畑大洞４号窯式期新段階である。286 はＳ字状口縁台付甕口縁部で、Ｂ類である。岩田東Ａ・岩田西遺跡でＳ字状口縁台付甕の出土は非常に少なく、図化可能なものはこの 1 点のみである。288 は土師器皿Ｍ類である。

出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代後半から室町時代初頭頃に比定できる。

SK105（別添図 1、第 60 図）

5 区西側に位置する。軸線が北北東方向の土坑である。プランは長方形である。規模は長軸方向 2.1m、短軸方向 1.7m、深さ 0.35m である。土坑内の掘削を行ったところ、底面で Pit198 を確認した。

289 ～ 291 は SK105 出土遺物である。289・290 は東濃型山茶碗である。289 は碗で大畑大洞４号窯式期、290 は碗で大畑大洞４号窯式期から大畑大洞４号窯式期新段階である。291 は灰釉陶器椀で、10 世紀末から 11 世紀前半頃である。

出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代後半から室町時代初頭頃に比定できる。

SK82（別添図 1、第 60 図）

4 区西側に位置する。プランの大半が撹乱されており、軸線不明の土坑である。プランは残存部では楕円形状である。規模は確認部分で長軸方向 1.2m、短軸方向 0.4m、深さ 0.05m である。

292 は東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期から大畑大洞４号窯式期新段階である。

出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代後半から室町時代初頭頃に比定できる。

SK83 ～ 85（別添図 1、第 60 図）

4 区西側に位置する。いずれも軸線が東南東方向の土坑で、古代の SD15 を切る。また、SK85 が SK84 に切られる。プランはいずれも長方形である。規模は SK83 が長軸方向 1.9m、短軸方向 0.85m、深さ 0.5m である。SK84 が長軸方向 1.55m、短軸方向 0.85m、深さ 0.3m である。SK85 が確認部分で長軸方向 1.15m、短軸方向 0.4m、深さ 0.2m である。

293 は SK83 出土遺物で、東濃型山茶碗の碗で生田２号窯式期である。

出土遺物から、SK83 の時期は 15 世紀後半頃に比定できる。また、SK84・85 については、切り合い関係や、近接する方形土坑と規格や埋土が似ていることから、中世に比定できる。なお、SK83 埋土を蛍光 X 線分析した結果、リン・カルシウムの含有量が多いことから、人骨の埋葬された土坑壺の可能性が高い（第 6 章　自然科学分析参照）。

SK91（別添図1、第60図）

5区西側に位置する。軸線がほぼ北方向の土坑である。プランは長方形である。規模は長軸方向1.1m、短軸方向0.6m、深さ0.2mである。土坑内の掘削を行ったところ、底面でPit159を確認した。

294は東濃型山茶碗の碗で、生田２号窯式期である。

出土遺物から、SK91の時期は15世紀後半頃に比定できる。

SK92（別添図1、第60図）

5区西側に位置する。軸線が東南東－西北西方向の土坑である。SK96を切り、Pit156に切られる。プランは長方形状である。規模は確認部分で長軸方向0.9m、短軸方向0.6m、深さ0.1mである。

295は灰釉陶器椀で、11世紀前半である。

出土遺物はこの土器と土師器細片で、時期の決め手を欠く。近接する方形土坑と規格や埋土が似ていることから、本遺構の時期は中世以降と判断したが、平安時代にさかのぼる可能性も考えられる。

SK93（別添図1、第60図）

4区西側に位置する。軸線が東南東－西北西方向の土坑である。SD12に切られる。プランは長方形である。規模は長軸方向1.15m、短軸方向0.55m、深さ0.35mである。

296は東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期から大畑大洞４号窯式期新段階である。

遺構の切り合い関係や出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代後半から室町時代初頭頃に比定できる。

SK98（別添図1、第60図）

5区中央部に位置する。軸線がほぼ北方向の土坑である。SK101・104を切り、Pit149に切られる。プランは隅丸正方形に近い。規模は長軸方向1.1m、短軸方向1.0m、深さ0.2mである。

297は美濃須衛窯の須恵器椀で、９世紀初頭頃である。

図化した遺物以外に出土遺物はなく、遺物では時期の決め手を欠く。遺構の切り合い関係や、近接する方形土坑と特徴が似ていることから、本遺構の時期を中世以降と考えたい。

SX31（別添図2、第60図）

6区西側に位置する。Ⅲ層上面で確認した。ほぼ東西方向の溝状の耕作痕で、西側はやや蛇行する。規模は長さ4.35m、幅0.4m、深さ0.2mである。

298は東濃型山茶碗で、大洞東１号窯式期である。

出土遺物から、本遺構の時期については室町時代前半頃に比定できる。

SK127（別添図2、第60図）

6区西側に位置する。Ⅲ層上面で確認した。下層のSZ5周溝を切る土坑で、プランは隅丸方形に近い。規模は一辺0.95m、深さ0.38mである。

299は美濃須衛型山茶碗の碗で、５型式である。

出土遺物から、本遺構の時期については鎌倉時代前半頃に比定できる。

SK125（別添図2、第60図）

6区西側に位置する。Ⅲ層上面で確認した。下層のSB4を切る土坑で、プランは長方形である。規模は長軸方向1.5m、短軸方向0.8m、深さ0.2mである。

300は石製品剥片で、下呂石製である。

遺物はこの１点のみで詳細な時期を決められないが、Ⅲ層上面で確認できること、他調査区の方形土坑と特徴が似ていることから、本遺構の時期については中世以降に比定できる。なお、埋土を蛍光X線分析した結果、リン・カルシウムの含有量が多いことから、土坑壺の可能性が高い（第6章　自然科学分析参照）。

SK123（別添図2、第60図）

6区東側に位置する。Ⅲ層上面で確認した。プランは楕円形の土坑である。長軸方向0.65m、短軸方向0.45m、深さ0.1mである。

301は土師器皿でＣ２類である。

出土遺物から、本遺構の時期については室町時代以降に比定できる。

SD30（別添図2、第60図）

6区北東端に位置する。SD24・25に切られており、プランはほとんど確認できなかった。方向は不明で、北壁で断面のみ確認することができた。深さは0.5mで、下層の古代溝SD28を切る。

302は東濃型山茶碗の碗で、５型式である。

遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期については鎌倉時代前半頃に比定できる。

SD26（第38図、別添図2、第60図）

6区中央から東側に位置する。ほぼ東西を向く溝で、西側は調査区外へ伸び、東側はSD23に切られておりプランは不明である。またSD25・28を切る。規模は確認部分で長さ13.0m、幅0.6～1.0m、深さ0.4mである。断面形状は皿状に近い。

303は土師器皿で、M類である。

遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期については鎌倉時代後半から室町時代初頭頃に比定できる。

SD25（第38図、別添図2、第60図）

6区中央から東側に位置する。ほぼ東西を向く溝で、西側および東側は調査区外へ続く。SD24・26に切られ、下層の古代溝SD28を切る。規模は確認部分で長さ15.0m、幅1.0～1.4m、深さ0.4mである。断面形状は皿状に近い。

304・305は東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期新段階である。

遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期については鎌倉時代末から室町時代初頭頃に比定できる。

SD24（第 38 図、別添図 2、第 60 図）

6 区西側から東側に位置する。ほぼ東西を向く溝で、西側および東側は調査区外へ続く。SD22 に切られ、SD25 や下層の古代溝 SD28 を切る。規模は確認部分で長さ 18.0m、幅 0.75 ～ 0.9m、深さ 0.5m である。断面形状はU字状に近い。

306 は回転台土師器椀で、11 世紀前半頃である。307 は中国産磁器の白磁碗Ⅱ類である。308 は常滑甕である。309 は東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期新段階である。310 は瀬戸美濃産陶器の天目茶碗で、古瀬戸後Ⅳ期古段階である。311 は産地不明の壺である。

遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期については鎌倉時代末から室町時代前半頃に比定できる。

SD23（第 38 図、別添図 2、第 60 図）

6 区西側から東側にかけて位置する。ほぼ東西を向く溝であるが、西側は一部蛇行する。西側および東側は調査区外へ続く。SD21 に切られ、SD26 や下層の古代溝 SD28 を切る。規模は確認部分で長さ 18.5m、幅 0.6 ～ 1.0m、深さ 0.45m である。断面形状は皿状に近い。

312 は石製品砥石である。313 は灰釉陶器椀で、10 世紀末前後である。314 は中国産陶磁器の白磁小杯で、16 世紀代の森田Ｅ群である。315 は土師器皿でM類である。316･317 は東濃型山茶碗である。316 は碗で大畑大洞４号窯式期、317 は碗で大畑大洞４号窯式期から大畑大洞４号窯式期新段階である。318・319 は瀬戸美濃産陶器である。318 は平碗で古瀬戸後Ⅲ期、319 は擂鉢で大窯第１～４段階である。

遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期については鎌倉時代末から室町時代後半頃に比定できる。先述の SD24 と並行していた可能性も考えられるが、やや時期的に新しい傾向が見られる。

SD22（第 38 図、別添図 2、第 60 図）

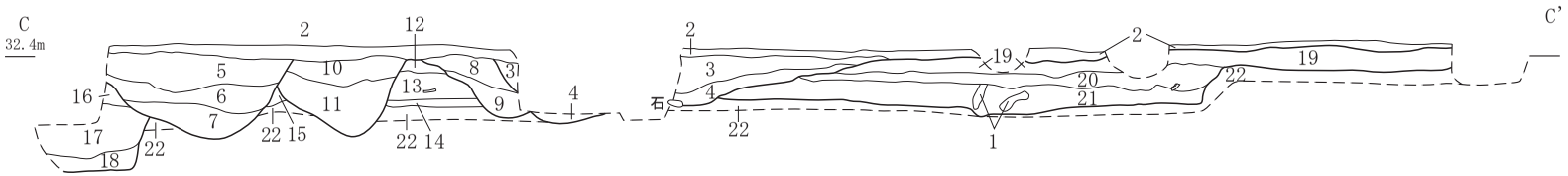
6 区西側から東側にかけて位置する。ほぼ東西を向く溝であるが、わずかに南へ振る。西側および東側は調査区外へ続く。SD23･SD26 や下層の古代溝 SD28 を切る。規模は確認部分で長さ 18.5m、幅 1.4 ～ 1.9m、深さ 0.5m である。断面形状は南肩が緩やかで、薬研状に近い。

320･321 は回転台土師器椀で、11 世紀前半である。322･323 灰釉陶器である。322 は皿で 11 世紀前半、323 は椀で 11 世紀前半の美濃産である。324 は美濃須衛窯の須恵器杯で 7 世紀後葉である。325 は中国産磁器白磁小杯で、16 世紀代の森田Ｅ群である。326 は土師器皿Ｂ１類である。327 ～ 329 は東濃型山茶碗の碗である。327 は大畑大洞４号窯式期、328 は大畑大洞４号窯式期から大畑大洞４号窯式期新段階、329 は生田２号窯式期である。330 は瀬戸美濃産陶器の擂鉢で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。

遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期については室町時代前半から後半頃に比定できる。

SD21（第 38 図、別添図 2、第 61 図）

6 区西側から東側にかけて位置する。ほぼ東西を向く溝であるが、わずかに南へ振る。西側および東側は調査区外へ続く。SD23･SD26 や下層の古代溝 SD28 を切る。規模は確認部分で長さ 15.0m、幅 1.6 ～ 2.2m、深さ 0.45m である。断面形状は北肩が緩やかで、薬研状に近い。また SD21 は、SD22 やそれ以前の SD23 ～ 26 とともに大正五年の字絵図の区画に一致する溝である。



＜SD21 ～ 24.28 断面＞

生痕	1	2.5Y5/3	黄褐色シルトに 10YR3/2 黒褐色シルトブロック含
Ⅱｂ層	2	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト混細砂
SD21	3	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混細砂
SD21	4	2.5Y3/2	黒褐色シルト混極細砂～細砂　10YR5/3 にぶい黄褐色シルトブロック少含
SD22	5	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混細砂
SD22	6	2.5Y3/2	黒褐色シルト混極細砂～細砂
SD22	7	2.5Y3/2	黒褐色シルト混細砂
SD23	8	2.5Y5/3	黄褐色シルト混細砂
SD23	9	2.5Y4/3	オリーブ褐色シルト混極細砂～細砂　10YR5/3 にぶい黄褐色シルトブロック少含
SD24	10	2.5Y5/3	黄褐色シルト混極細砂～細砂
SD24	11	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混極細砂
盛土か	12	2.5Y4/4	オリーブ褐色シルト混細砂
盛土か	13	5Y3/2	オリーブ黒色シルト混極細砂
SX37	14	5Y3/2	オリーブ黒色シルト混極細砂　硬くしまる　10YR5/3 にぶい黄褐色シルトブロック多く含
SX38	15	2.5Y4/3	オリーブ褐色シルト混極細砂
SD28	16	2.5Y3/2	黒褐色シルト混極細砂～細砂　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック含
SD28	17	2.5Y3/1	黒褐色シルト　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック少含
SD28	18	2.5Y3/1	黒褐色シルト混極細砂　10YR7/6 明黄褐色シルトブロック少含
Ⅲ層	19	10YR3/2	黒褐色シルト混極細砂～細砂
SB4	20	2.5Y4/1	黄灰色シルト混極細砂～細砂
SB4	21	2.5Y4/1	黄灰色シルト混極細砂～細砂　10YR5/3 にぶい黄褐色シルトブロック多く含
Ⅴ層	22	10YR6/4	にぶい黄橙色シルト

0　2m

第 37 図　SD21 ～ 24 断面実測図

331・338・339 は瀬戸美濃産陶器である。331 は擂鉢で古瀬戸後Ⅳ期新段階、338 は縁釉はさみ皿で大窯第１段階、339 は直縁大皿で古瀬戸後Ⅳ期古段階である。332 は石製品砥石で、使用面は１面である。333 は回転台土師器椀で、11 世紀前半頃である。334 ～ 336 は土師器皿である。334 はＭ４類、335 はＢ２－ａ類、336 はＢ２類である。337 は東濃型山茶碗の碗で、生田２号窯式期である。

遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期については室町時代前半から中頃に比定できる。また、時期的にはほぼ重なることからも、先述の SD22 と並行していた可能性が考えられる。

Pit264（別添図 2、第 61 図）

6 区東側に位置する。プランは楕円形状。規模は長軸方向 25m、短軸方向 20m、深さ 0.15m である。近接する Pit263・265 とは直交する位置にあり、また間隔は約 1.8m と等しい距離にあるため、柱穴列の可能性も考えられるが、遺構規模や深さが異なるためやや根拠に乏しい。

340 は東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期から大畑大洞４号窯式期新段階である。

出土遺物から、本遺構の時期については鎌倉時代後半から室町時代初頭頃に比定できる。

SK140（別添図 3、第 61 図）

7 区西側に位置する。Ⅲ層上面で確認した。北側は撹乱を受け残存しないが、プラン長方形と推定できる土坑である。規模は確認部分で長軸方向 1.0m、短軸方向 0.9m、深さ 0.2m である。

341 は東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期から大畑大洞４号窯式期新段階である。

出土遺物から、本遺構の時期については鎌倉時代後半から室町時代初頭頃に比定できる。

SK137（別添図 3、第 61 図）

7 区西側に位置する。Ⅲ層上面で確認した。北側は調査区外のため全体は不明であるが、プラン長方形と推定される土坑である。規模は確認部分で長軸方向 1.3m、短軸方向 0.65m、深さ 0.15m である。

342 は土製品土錘である。

Ⅲ層上面で確認できることから、本遺構の時期については中世以降に比定できる。

SK184（別添図 3、第 61 図）

8 区中央に位置する。Ⅲ層上面で確認した。西肩は SX47 に切られる。プラン長方形の土坑である。規模は確認部分で長軸方向 1.3m、短軸方向 1.0m、深さ 0.2m である。

343 は土師器の伊勢型鍋である。

Ⅲ層上面で確認できることや出土遺物から、本遺構の時期については鎌倉時代以降に比定できる。

SK183（別添図 3、第 61 図）

8 区中央に位置する。Ⅲ層上面で確認した。プラン長方形の土坑である。規模は長軸方向 1.3m、短軸方向 0.75m、深さ 0.55m である。

344 は石製品石錐である。345 は東濃型山茶碗の皿で、大畑大洞４号窯式期から大畑大洞４号窯式期新段階である。

Ⅲ層上面で確認できることや出土遺物から、本遺構の時期については鎌倉時代後半から室町時代初頭

頃に比定できる。

SK180（別添図3、第61図）

8区に位置する。Ⅲ層上面で確認した。南側は調査区外へ続くため全体は不明であるが、プラン楕円形に近い大型の土坑である。規模は確認部分で長軸方向2.8m、短軸方向1.7m、深さ0.1mである。

346は条痕文系深鉢で弥生時代中期中葉から後葉である。

図化遺物のみでは時期の決め手を欠く。この他に時期不明の瀬戸美濃産陶器片が出土していること、Ⅲ層上面で確認できることから、本遺構の時期については中世以降に比定できる。

SK179（別添図3、第61図）

8区中央に位置する。プランは一部不整形であるが、長方形状に近い。規模は確認部分で長軸方向1.8m、短軸方向0.8～1.2m、深さ0.3mである。

347は東濃型山茶碗の皿で、大畑大洞4号窯式期から大畑大洞4号窯式期新段階である。

Ⅲ層上面で確認できることや出土遺物から、本遺構の時期については鎌倉時代後半から室町時代初頭頃に比定できる。

SK176・177（別添図3、第61図）

8区西側に位置する。SK176はプラン方形の土坑である。規模は一辺1.0m、深さ0.35m。SK177はSK176に西側肩部を切られるため全体のプランは不明であるが、方形と考えられる土坑である。規模は確認部分で長軸方向0.5m、短軸方向0.45m、深さ0.1mである。

348はSK177出土の灰釉陶器椀で10世紀末前後である。349はSK176・177出土の弥生土器脚部で、赤彩が施される。弥生時代後期である。350はSK176出土の東濃型山茶碗の皿で、大畑大洞4号窯式期から大畑大洞4号窯式期新段階である。

Ⅲ層上面で確認できることや出土遺物から、SK176の時期については鎌倉時代後半頃に比定できる。またSK177については図化遺物がもっとも新しく、時期の決め手を欠く。Ⅲ層上面で確認できることから、中世以降に比定したが、平安時代にさかのぼる可能性も考えられる。

SD44（別添図3、第61図）

8区西側に位置する。北側と南側で途切れるように確認した。北側および南側は調査区外へ続く。プランは近現代の撹乱により半分以上確認できないが、ほぼ北を向く溝と考えられる。一連の溝として考えた場合の規模は、確認部分で長さ9.0m、幅0.25～0.45m、深さ0.1mである。

351は瀬戸美濃産陶器の直縁大皿で、古瀬戸後Ⅲ期である。

Ⅲ層上面で確認できることや出土遺物から、本遺構の時期については室町時代前半頃に比定できる。

Pit329（別添図3、第61図）

8区西側に位置する。プラン楕円形の埋納ピットである。規模は長軸方向0.25、短軸方向0.2m、深さ0.1m。埋土を掘削したところ、口縁を上方に向けた状態で完形の山茶碗が出土した。

352は東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞4号窯式期新段階である。底部外面に墨書が記される。一部

「申」と読める部分もあるが、詳細な判読はできなかった。

Ⅲ層上面で確認できることや出土遺物から、本遺構の時期については鎌倉時代末から室町時代初頭頃に比定できる。

SK219（別添図4、第61図）

9区中央に位置する。SX55に切られる。プラン長方形の土坑である。規模は長軸方向1.8m、短軸方向0.7m、深さ0.35mである。

353は東濃型山茶碗の碗で、明和1号窯式期から大畑大洞4号窯式期である。

出土遺物から、本遺構の時期については鎌倉時代後半頃に比定できる。

SK206～208（別添図4、第61図）

9区中央に位置する。3基ともほぼ平行に並ぶ方形土坑である。いずれもプランは隅丸長方形である。規模はSK206が長軸方向1.3m、短軸方向0.4m、深さ0.25m、SK207が長軸方向1.5m、短軸方向0.3m、深さ0.4m、SK208が長軸方向1.5m、短軸方向0.3m、深さ0.3mである。

354はSK207出土遺物である。354は東濃型山茶碗の碗で、大洞東1号窯式期である。

355はSK206出土遺物である。355は尾張型山茶碗の大平鉢で、10型式である。

出土遺物から、SK206・SK207の時期については室町時代前半頃に比定できる。またSK208についても、SK206・207方形土坑と規格や埋土が似ていることから、ほぼ同じ時期に比定できる。

Pit356（別添図4）

10区西側に位置する。Ⅲ層上面で確認した。プランは楕円形で、規模は長軸方向0.5m、短軸方向0.4m、深さ0.25mである。埋土を除去したところ、こぶし大の川原石がピットの底面まで充填されていた。掘立柱建物の柱穴の基礎とも考えられたが、近接地に並ぶようなピットは確認できなかった。単独で機能していたと仮定すれば、川原石そのものを埋納した貯蔵穴の可能性も考えられるが、使用目的は不明である。

遺物は出土しなかった。Ⅲ層上面で確認したことから中世以降に比定しているが、さらに時代が古くなる可能性も考えられる。

SD58～61（別添図4、第61図）

11区中央から12区東側にかけて位置する。11区ではほぼ東西を向く溝で、西側の12区では流れを北向きに変える。東側および西側は調査区外へ続く。字図に一致する溝である。

溝は中央の高まりを残して造られたと考えられる。古い段階の溝がSD60・61である。それぞれの規模はSD60が東西10.5m、南北4m、幅1.5～1.7m、深さ0.45m、SD61が長さ12m、幅0.5m、深さ0.1mである。

新しい段階の溝はSD58・59である。それぞれの規模はSD58が東西11m、南北4.5m、幅0.6～0.8m、深さ0.15m、SD59が長さ12.0m、幅0.5m、深さ0.1mである。これら溝の埋没後に方形土坑群SK246～SK251に切られる。

356～359はSD58出土遺物である。356は灰釉陶器椀で、10世紀代である。357～359は東濃型山

茶碗の碗で、357・358は大畑大洞４号窯式期新段階、359は大畑大洞４号窯式期から大洞東１号窯式期である。

363～366はSD60出土遺物である。363は土師器皿M類である。364は尾張型山茶碗の碗で、５型式である。365は東濃型山茶碗大畑大洞４号窯式期の皿で、内面に墨書が記されるが判読できなかった。366は12区出土の東濃型山茶碗の碗で、明和１号窯式期から大畑大洞４号窯式期である。

367はSD61出土の東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期である。

古い段階のSD60・61の時期については遺構の切り合い関係や出土遺物から、鎌倉時代前半から後半頃に比定できる。また新しい段階のSD58の時期については室町時代初頭までに埋没したものと考えられる。

SD56・57（別添図４、第61図）

11区中央から12区北東隅にかけて位置する。上述のSD58～61の溝埋没後に交差するように造られた溝である。いずれも北北東を向く溝で、中央の高まりSX67を残して造られたと考えられる。また、方形土坑群のうちSK246～248を切る。規模は確認部分でSD56が長さ9.0m、幅0.4～0.8m、深さ0.15m、SD57が長さ10.0m、幅0.4～1.2m、深さ0.15mである。

360～362はSD57出土遺物である。360は11区出土の東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期である。

361・362は12区出土遺物である。361は平瓦で、凹面に布目を有する。362は土師器の伊勢型鍋で、12世紀頃である。

遺構の切り合い関係や出土遺物から、本遺構の時期については方形土坑群の埋没後、室町時代初頭以降に造られたと考えたい。

SD63（別添図４、第61図）

12区西側に位置する。北東を向く溝で、下層のSD66を切る。北側および南側は調査区外へ続く。規模は確認部分で長さ5.5m、幅1.8～3.5m、深さ0.3mである。

368は回転台土師器椀で、10世紀末から11世紀初頭頃である。369は弥生土器甕で、弥生中期である。370は弥生土器条痕文系深鉢で弥生時代中期中葉から後葉である。

図化遺物のみでは時期の決めてを欠く。遺物はこの他土師器破片が出土している。断面ではⅠｂ層の直下から遺構埋土が存在し、Ⅲ層上面で遺構を確認できることから、本遺構の時期を少なくとも中世以降に比定したが、時代が古くなる可能性も考えられる。

SK246～249・251（別添図４、第61図）

11区西側に位置する。先行するSD59・61を切る方形土坑群である。いずれもプランは長方形である。SK246は長軸方向2.4m、短軸方向0.75m、深さ0.2mの土坑である。SK247は北側を現代の撹乱に切られる土坑である。規模は確認部分で長軸方向1.8m、短軸方向0.8m、深さ0.55mである。

SK248はSK251と現代の撹乱に切られる土坑で、規模は確認部分で長軸方向1.3m、短軸方向0.75m以上、深さ0.2mである。SK251はSK248を切り、SK249に切られる土坑で、方向はこれだけ東西を向く。規模は長軸方向2.1m、短軸方向0.85m、深さ0.5mである。SK249はSK251と直行するように切る土坑で、

南側は調査区外へ続く。規模は確認部分で長軸方向 2.0m、短軸方向 0.9m、深さ 0.45m である。

371 は SK249 出土の東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期から大洞東１号窯式期である。

372 は SK246 出土の東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期である。

前後に造られる溝との切り合い関係や出土遺物から、これらの土坑群の時期については、室町時代初頭頃に比定できる。

SX67（別添図 4、第 61 図）

11 区から 12 区にかけて位置する。SD56･57 間の高まりである。高まり上の土壌はⅢ層より明るく、Ⅱ層に近い。規模は確認部分で長さ 9.0m、幅 0.4 ～ 0.75m である。

373 ～ 376 は 11 区出土遺物である。373 は土師器皿Ｃ２類。374 ～ 376 は瀬戸美濃産陶器である。

374 は小杯で古瀬戸後Ⅲ期から後Ⅳ期、375 は擂鉢で後Ⅳ期新段階、376 は稜皿で大窯第２段階である。377 は 12 区出土遺物の土師器皿Ｂ２類である。

出土遺物から、本遺構の時期については室町時代前半から中頃に比定できる。

SX77（別添図 4、第 61 図）

12 区中央に位置する。SD66 の南側で、東西方向の高まりで、東側で SX78 へつながる。規模は確認部分で長さ 6.5m、幅 1.0 ～ 1.2m である。道として利用された可能性が考えられるが、硬化面は見られなかった。高まり上の土壌は包含層であるⅢ層より明るく、Ⅱ層によく似ている。

378 は石製品の石錘で、縄掛部分のくぼみが一周する。

図化遺物のみでは時期の決め手を欠く。層の前後関係から､本遺構の時期を中世以降と判断したが、古代以前にさかのぼる可能性が考えられる。

SX75（別添図 4、第 61 図）

12 区西端に位置する。SD62 西側の高まりである。高まり上層の土壌はⅢ層より明るく、Ⅱ層によく似る。この土層を除去するとⅢ層が検出できる。規模は確認部分で長さ 5.6m､幅 0.4 ～ 0.75m である。

379 は焼土塊で、平滑面を 2 面有する。

図化遺物のみでは時期の決め手を欠く。この他に東濃型山茶碗破片が出土すること、層の前後関係から、本遺構の時期を中世以降に比定できる。

Pit383（別添図 4、第 62 図）

12 区西側に位置する。SD66 を切るピットで、プランは不整形状である。規模は長軸方向 0.6m、短軸方向 0.5m、深さ 0.3m である。

380 は石製品砥石で、砥面は 1 面である。

図化遺物のみでは時期の決め手を欠く。遺構の切り合い関係から、中世以降に比定できる。

SD74（別添図 5、第 62 図）

13 東区から 13 西区にかけて位置する。ほぼ南北を向く大きな溝である。規模は確認部分で長さ 5.0m、幅 8.0m、深さ 0.8m である。字絵図に記される「塚」の西側周溝の想定位置に近い。しかしながら、

今回の調査では古墳時代の遺物はほとんど無く、中世から戦国時代の遺物が主であった。また、埋土最下層からも中世の遺物が多く出土している。

381 ～ 388 は 13 東区出土遺物である。381 は土製品土錘である。382 は土師器皿Ｂ２－ａ類である。383 は瀬戸美濃産陶器の縁釉小皿で、古瀬戸後Ⅳ期古段階。384・385 は東濃型山茶碗の碗で、384 は生田２号窯式期、385 は大洞東１号窯式期である。386 は近江系の弥生土器受口状口縁甕で弥生時代後期前半頃である。387・388 は土師器皿で、387 はＢ２類、388 はＣ１類である。

389・390 は 13 西区出土遺物である。389 は灰釉陶器椀で、10 世紀末前後である。390 は東濃型山茶碗の皿で、明和１号窯式期から大畑大洞４号窯式期である。

出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代後半から室町時代前半頃に比定できる。

SX91（別添図 5、第 62 図）

13 東区に位置する。SD74 を切る溝状の落ち込みである。北側は調査区外へ続く。規模は確認部分で長軸方向 2.1m、短軸方向 0.75m、深さ 0.15m である。

391 は瀬戸美濃産陶器の縁釉小皿で、古瀬戸後Ⅲ期から後Ⅳ期である。

出土遺物から、本遺構の時期は室町時代前半頃に比定できる。

SK262（別添図 5、第 62 図）

13 西区に位置する。プラン円形の土坑である。古代の SD75 を切る。規模は直径 1.25m、深さ 0.35m である。

392 は東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期から大洞東１号窯式期である。

出土遺物から、本遺構の時期は室町時代前半頃に比定できる。

SK263 ～ 265（別添図 5、第 62 図）

13 西区に位置する。いずれも方向はほぼ北を向く、プラン隅丸長方形の方形土坑である。規模は確認部分で SK263 が長軸方向 1.15m、短軸方向 0.8m、深さ 0.25m、SK264 が長軸方向 0.9m、短軸方向 0.6m、深さ 0.2m、SK265 が長軸方向 1.35m、短軸方向 0.6m、深さ 0.4m である。

393 は SK264 出土の土師器皿Ｍ類である。394 は SK265 出土の東濃型山茶碗の皿で、明和１号窯式期から大畑大洞４号窯式期である。

Ⅲ層上面確認できることや出土遺物から、SK264・265 の時期は鎌倉時代後半から室町時代初頭頃に比定できる。また SK263 についても、近接する SK264・265 と規格や埋土が似ていることから、同じ時期に比定できる。なお、SK264 の埋土を蛍光 X 線分析した結果、リン・カルシウムの含有量が多いことから、土坑墓の可能性が高い（第６章　自然科学分析参照）。

SX98（別添図 5、第 62 図）

13 西区に位置する。古代の SD75 を切る。プランはほぼ方形の浅い落ち込み状遺構で、規模は一辺 0.6m、深さ 0.05m である。

395 は美濃須衛窯の須恵器蓋で、7 世紀後葉である。

図化遺物のみでは時期の決め手を欠く。Ⅲ層上面で確認できることや遺構の切り合いなどから、本

遺構の時期は中世以降に比定できる。

SX100（別添図5、第62図）

13西区に位置する。西側は調査区外へ続き、北側で一部突出する部分がある大きな落ち込み状遺構である。突出部以外のプランは隅丸方形状と推定される。規模は確認部分で長軸方向4.2m、短軸方向2.3m、深さ0.6mである。

396は石製品砥石で、使用面は2面である。397は美濃須衛窯須恵器長頸壺で、8世紀中頃から末である。398・401～405・408は東濃型山茶碗である、398は碗で、大畑大洞4号窯式期から大洞東1号窯式期である。401・402は明和1号窯式期から大畑大洞4号窯式期の皿で、底部外面に墨書が記されるが、判読はできなかった。403は皿で、白土原1号窯式期である。404は碗で大畑大洞4号窯式期である。　405は碗で、大畑大洞4号窯式期から大洞東1号窯式期である。408は碗で、明和1号窯式期から大畑大洞4号窯式期である。399・406は土師器皿M類である。400は土師器羽釜である。407は土製品土錘である。

Ⅲ層上面で確認できることや出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代～室町時代前半に比定できる。

Pit406（別添図5、第62図）

13西区に位置する。プランほぼ円形のピットである。近現代のSX94に切られる規模は直径0.3m、深さ0.5mである。

409は土師器羽釜である。

Ⅲ層上面で確認できることや出土遺物から、本遺構の時期は室町時代以降に比定できる。

SK281（別添図5、第62図）

14区東側に位置する。プラン楕円形の土坑である。規模は確認部分で長軸方向0.6m、短軸方向0.45m、深さ0.2mである。

410は土師器皿M類である。

出土遺物から、本遺構の時期は中世以降に比定できる。

SK291（別添図5、第62図）

15区西側に位置する。中世のSD101を切る、プランは不整形の土坑である。規模は長軸方向1.2m、短軸方向0.9m、深さ0.2mである。

411は灰釉陶器皿で、11世紀前半である。412は東濃型山茶碗の皿で、大洞東1号窯式期から脇之島3号窯式期である。

遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期は室町時代前半に比定できる。

SD101（別添図5、第62図）

15区西側に位置する。遺構の南側は撹乱されている。SK291に切られ、SD103を切る。東北東を向く溝で、断面形状は逆凸字状に近い。規模は確認部分で長さ1.8m、幅1.2m、深さ0.45mである。

413は美濃須衛の灰釉陶器もしくは山茶碗で、4型式併行である。414は灰釉陶器椀で、１０世紀

末から 11 世紀前半である。415 は美濃須衛型山茶碗の碗で、5 型式である。416 ～ 418 は東濃型山茶碗の碗で、416 は脇之島３号窯式期、417・418 は大洞東 1 号窯式期である。

遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期は室町時代前半頃に比定できる。

SD103（別添図 5、第 62 図）

15 区西側に位置する。遺構の南側は撹乱されており、SD101 に切られる。ほぼ北を向く溝で、断面形状は皿状を呈する。規模は確認部分で長さ 1.5m、幅 1.1m、深さ 0.4m である。

419 は弥生土器条痕文系土器の深鉢で、弥生時代中期中葉から後葉である。

図化遺物だけでは時期の決め手を欠く。他の遺物は土師器破片のみであった。Ⅲ層上面で確認できることから、本遺構の時期を中世以降に比定したが、古くなる可能性も考えられる。

第 5 節　近世以降の遺構と遺物

SD11（別添図 1、第 63 図）

4 区東側に位置する。字図に一致する、ほぼ北を向く溝で、北側および南側はは調査区外へ続く。下層の SB3・SX16 ・SX20 を切る。規模は確認部分で長さ 9.0m、幅 1.3 ～ 1.5m、深さ 0.1 ～ 0.35m である。断面形状はゆるやかなU字状である。

420 は東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期から大畑大洞４号窯式期新段階である。421 は近世瀬戸美濃産陶器の灯明皿で、連房式登窯第８から第９小期である。422 は土師器皿Ｃ１類である。

出土遺物などから、本遺構の時期は江戸時代後期頃に比定できる。

SX24（別添図 1、第 63 図）

4・5 区に位置する。Ⅱ層より掘り込む耕作痕である。幅は 0.4 ～ 0.5m、深さ平均 0.3m である。一部はⅤ層の地山層上面まで達しており、下層の遺構を撹乱していた。

423 は近代の瀬戸窯染付である。424 は弥生土器条痕文系深鉢で、弥生時代中期中葉から後葉である。425 は土師器皿で、Ｃ１類である。426 は東濃型山茶碗の碗で、生田２号窯式期である。427 は土師器皿で、Ｂ２類である。

層の前後関係や遺構の切り合いから、本遺構の時期は近世以降に比定できる。

SX52・SX54（第 63 図）

8 区に位置する。いずれもⅡ層より掘り込む耕作痕である。一部はⅣ層の地山層上面まで達しており、下層の遺構を撹乱していた。

428 は SX54 出土の近世瀬戸美濃産陶器で、連房式登窯第 10 から 11 小期の箱形湯のみである。429･430 は SX52 出土の灰釉陶器椀で、429 は 11 世紀初頭から前半頃、430 は 9 世紀中頃のものである。

層の前後関係や遺構の切り合い、出土遺物から、本遺構の時期は近世後半以降に比定できる。

SD41（別添図 3、第 63 図）

8 区西側に位置する。中世の SD42 を切る溝である。南側は途中で行き止まり、北側は調査区外へ続く。

規模は確認部分で長さ 4.5m、幅 2.5m、深さ 0.2m である。断面形状は浅い逆台形状を呈する。431 は中国産磁器白磁碗Ⅴ類である。432 は東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期から大畑大洞４号窯式期新段階である。

図化遺物以外では、近世の陶磁器片を含んでいることから、本遺構の時期は近世以降に比定できる。

第 6 節　包含層その他出土遺物

Ⅲ層下層出土遺物（第 63・64 図）

Ⅲ層は岩田東Ａ遺跡全調査区で確認できる、黒ボクが起源となる包含層である。これらは全て 8 区の下層遺構検出時に出土した遺物である。

433 ～ 438 は灰釉陶器である。433 は椀で、10 世紀代の美濃産である。434・435 は椀で、10 世紀末前後である。436 は段皿で 11 世紀前半前後である。437 は鉢で、9 世紀後半から 10 世紀代のものである。438 は椀で、10 世紀から 11 世紀である。439 は畿内系の須恵器杯蓋で、7 世紀前半である。440 ～ 445 は美濃須衛窯の須恵器である。440 は甕体部で、7 世紀後半である。441 は高杯で 7 世紀代である。442 は蓋で、7 世紀から 8 世紀代である。443 は杯で、8 世紀代である。444 は鉢で、8 世紀後半から 9 世紀初頭である。445 は杯もしくは椀で、9 世紀初頭である。446 ～ 450 は石製品である。446 は剥片で、石材は下呂石である。447 は砥石で、使用面は 1 面のみである。448 は有茎平基の石鏃で、石材は下呂石である。449 は二次剥片で、石材は下呂石である。450 は有茎凸基の石鏃で、先端と基部を欠く。石材はチャートである。451 ～ 454 は土製品土錘である。

455 は縄文土器深鉢口縁部である。外面は指頭による弧状文が施される。456 は被熱土器で、ふいごの羽口の可能性が考えられる。457 ～ 467 は弥生土器である。457 は壺で弥生時代中期中葉である。458 は甕で、弥生時代中期後葉である。459 は高杯で、後期前半である。460・461 はいずれもベンガラが施される脚付長頸壺で、弥生時代後期前半である。462 は壺で、弥生時代中期である。463 は壺で、弥生時代中期前葉から中葉である。464 は高杯脚部で弥生時代中期である。465 は底部に布目圧痕を有する条痕文系深鉢で、弥生時代中期中葉から後葉である。466 は条痕文系深鉢で、弥生時代中期中葉から後葉である。467 は弥生土器沈線文系の壺で、弥生時代中期前葉から中葉である。

出土遺物から、本層の形成時期は弥生時代中期から 11 世紀代に比定できる。

Ⅲ層出土遺物（第 64 ～ 67 図）

包含層掘削時もしくは下層遺構検出時に出土した遺物である。

468 ～ 470 は 1 区出土遺物である。468 は土師器皿で、Ｍ４類である。469 は弥生土器鉢で、弥生時代中期後葉である。470 は弥生土器条痕文系深鉢で、弥生時代中期中葉から後葉である。

471 ～ 483 は 2 区出土遺物である。471 は弥生土器壺で、弥生時代中期中葉である。472 ～ 477 は石製品である。472 は剝片(UF)で、石材はチャートである。473･474 は有茎平基の石鏃で、石材はチャートである。475 は有茎平基の石鏃で、石材は下呂石である。476・477 は石製品砥石で、476 は表と裏の 2 面、477 は表と側面の 2 面を使用している。478 は弥生土器壺で、弥生時代中期後葉である。479 は弥生土器甕で、弥生時代中期後葉である。480 ～ 483 は弥生土器条痕文系深鉢で、弥生時代中期中

葉から中期後葉である。

484 ～ 488 は 3 区出土遺物である。484・485 は石製品である。484 は有茎凸基の石鏃で、石材は下呂石、485 は有茎平基の石鏃で、石材はチャートである。486 は弥生土器壺で、弥生時代中期中葉である。487 は弥生土器条痕文系深鉢で、弥生時代中期中葉から中期後葉である。488 は弥生土器沈線文系壺で、弥生時代中期前葉から中期中葉である。

489 ～ 497 は 4・5 区出土遺物である。489 は灰釉陶器の椀で、10 世紀末前後である。490 は美濃須衛窯須恵器高杯で、７世紀代である。491 は石製品大形剥片で、石材はチャートである。492 は土師器濃尾型甕で、8 世紀から 9 世紀である。493 は弥生土器壺で、弥生時代中期中葉である。494 は弥生土器条痕文系壺で、弥生時代中期中葉から中期後葉である。495 ～ 497 は弥生土器条痕文系深鉢で、弥生時代中期中葉から中期後葉である。

498 ～ 509 は 6 区出土遺物である。498 は回転台土師器の椀で、11 世紀初頭頃である。499 は灰釉陶器もしくは山茶碗の壺で、11 世紀から 12 世紀代のものである。500 は灰釉陶器椀で、11 世紀前半頃である。501 は美濃須衛型山茶碗の片口鉢で、5 型式前後である。502 は美濃須衛窯須恵器甑破片である。503 は石製品有茎平基の石鏃で、石材はチャートである。504 は美濃須衛窯須恵器蓋つまみ部分で 7 世紀代である。505 は土師器皿M類である。506 は土製品土錘である。507 は瀬戸美濃産陶器の浅碗で、古瀬戸後ⅠからⅡ期である。508・509 は弥生土器壺で、508 は後期前半、509 は弥生時代中期後葉から後期前葉である。

510 ～ 516 は 7 区出土遺物である。510 は灰釉陶器椀で、10 世紀末前後である。511 は美濃須衛擂鉢で、８世紀後半から 9 世紀初頭頃である。512 は石製品の無茎凹基石鏃で、石材はチャートである。513 は焼成粘土塊で、平坦面 2 面を有し、断面にワラ状の繊維痕が残る。514・515 は土製品土錘である。516 は弥生土器高杯で、後期初頭である。

517 ～ 545 は 8 区出土遺物である。517 は灰釉陶器椀で、10 世紀末前後である。518 ～ 521 は美濃須衛窯須恵器である。518 は壺で、７世紀前半である。519 は椀、520 は有台杯、521 は杯蓋で、いずれも 9 世紀初頭頃である。522 ～ 529 は石製品である。522 は有茎平基の石鏃で、石材はチャートである。523 は磨製石鏃である。524・525 は楔形石器で、524 の石材は下呂石、525 は安山岩である。526 は有茎平基の石鏃で、石材は下呂石である。527 は有茎凸基の五角形鏃で、石材は下呂石である。528 は石鏃未製品で、石材は下呂石である。529 は異形石器で、X 字状を呈する。縄文時代後期頃に多く見られるものである。石材は下呂石である。530 は鉄製品刀子である。531 ～ 533 は土師器甕である。534・535 は土師器濃尾型甕である。536 ～ 538 は土製品土錘である。539 は瀬戸美濃産陶器の卸皿で、古瀬戸後Ⅱ期である。540 ～ 542 は弥生土器壺で、540・542 は弥生中期、541 は弥生時代中期中葉である。543 は弥生土器三河系の鉢で、弥生時代中期中葉である。544 は弥生土器条痕文系深鉢で、弥生時代中期中葉から中期後葉である。545 は弥生土器沈線文系壺と考えられる。弥生時代中期前葉から中期中葉である。

546 ～ 550 は 9 区出土遺物である。546 は灰釉陶器椀で、11 世紀代である。547 は土師器皿で、C２類である。548 は土製品土錘である。549・550 は弥生土器壺で、549 は弥生時代中期前葉、550 は弥生時代中期後葉である。

551 ～ 554 は 10 区出土の弥生土器である。551 は壺、552 は甕、553 は壺で、ともに弥生中期である。554 は条痕文系深鉢で、弥生時代中期中葉から後葉である。

555 ～ 563 は 11 区出土遺物である。555 は灰釉陶器椀で、10 世紀中頃から末である。556 は東濃型山茶碗大畑大洞４号窯式期の碗で、底部に墨書が記されるが、判読できなかった。557 は石製品の敲石で、両端部と側面に敲打痕がみられる。558 は砥石で、使用面２面と敲打痕が残る。559・560 は弥生土器壺で、559 は弥生中期、560 は弥生時代中期中葉である。561 ～ 563 は条痕文系深鉢で、いずれも弥生時代中期中葉から中期後葉である。

564 は 12 区出土の石製品砥石で、使用面は 1 面である。

565 は 13 東区出土の弥生土器で、櫛描文を有する弥生中期の壺と考えられる。

566・567 は 13 西区出土遺物である。566 は灰釉陶器皿で、11 世紀前半前後である。567 は条痕文系深鉢で、弥生時代中期中葉から中期後葉である。

568 ～ 570 は 14 区出土遺物である。568 は弥生土器受口状口縁甕で、弥生時代後期初頭である。569 は弥生土器高杯で、弥生時代後期末から古墳時代初頭である。570 は条痕文系深鉢で、弥生時代中期中葉から中期後葉である。

出土遺物から、本層の形成時期は弥生時代中期から鎌倉時代頃に比定できる。

Ⅱ層下層出土遺物（第 68 図）

全て 8 区表土重機掘削直後の遺構検出時に出土した遺物である。

571 ～ 573 は美濃須衛窯須衛器である。571 は椀で、9 世紀初頭である。572 は高杯で、７世紀後半である。573 は杯蓋で、7 世紀代である。574 は瀬戸美濃産陶器の折縁深皿で、古瀬戸中期Ⅳ段階である。575 ～ 577 は石製品である。575 は剥片で、石材は黒曜石である。576 は有茎平基の石鏃で、石材は下呂石である。577 は有茎平基の五角形鏃で、石材は下呂石である。

出土遺物から、本層の形成時期は鎌倉時代以降に比定できる。

Ⅱ層出土遺物（第 68 図）

表土重機掘削直後の遺構検出時に出土した遺物である。

578 は 2 区出土の条痕文系深鉢で、弥生時代中期中葉から中期後葉である。

579 ～ 590 は 4・5 区出土遺物である。579 は灰釉陶器椀で、10 世紀後半前後である。580 は石製品剥片で、石材は下呂石である。581 ～ 583 は土師器皿で、581・582 はM類、583 はＢ２類である。584･585 は瀬戸美濃産陶器である。584 は小壺か小瓶で、時期不明の古瀬戸である。585 は天目茶碗で、古瀬戸後Ⅳ期古段階である。586 ～ 590 は弥生土器である。586 ～ 589 は壺で、586・589 は弥生時代中期前葉、587・588 は弥生時代中期中葉である。590 は鉢で、弥生時代中期後葉である。

591 ～ 593 は 6 区出土遺物である。591 は東濃型山茶碗の椀で、生田２号窯式期である。592 は土師器皿Ｃ２類である。593 は瀬戸美濃産陶器擂鉢で、古瀬戸後Ⅳ期古段階である。

594 は 7 区出土の土師器皿で、Ｍ３からＭ４類である。

595 ～ 597 は 8 区出土遺物である。595 は美濃須衛窯須恵器有台杯で、９世紀初頭頃である。596 は弥生土器甕で、弥生時代中期後葉である。597 は条痕文系深鉢で、弥生時代中期中葉から中期後葉である。

598・599 は 9 区出土遺物である。598 は近世瀬戸美濃産陶器の丸椀で、連房式登窯第５から７小期の美濃窯である。599 は瀬戸美濃産陶器平椀で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。

600・601 は 11 区出土遺物である。600 は東濃型山茶碗で、生田２号窯式期である。601 は瀬戸美濃産陶器の直縁大皿で、古瀬戸後Ⅲ期である。

602･603 は 12 区出土遺物である。602 は瀬戸美濃産陶器の縁釉小皿で､古瀬戸後Ⅳ期古段階である。603 は弥生土器壺で、弥生中期である。

604・605 は 13 西区出土の近世瀬戸美濃産陶器である。604 は蓋で、連房式登窯第３から４小期の美濃窯である。605 は行平鍋で、連房式登窯第 10 から 11 小期の美濃窯である。

出土遺物から、本層の形成時期は戦国時代から江戸時代後期頃に比定できる。

Ⅱ～Ⅲ層出土遺物（第 69 図）

表土重機掘削時もしくはサブトレンチ掘削時に出土した遺物である。

606 ～ 609 は 1 区出土遺物である。606 は灰釉陶器椀で、11 世紀初頭から前半頃である。607 は中国産磁器染付碗で、16 世紀後半である。608 は近世瀬戸美濃産陶器の折縁鉄絵皿で、連房式登窯第 3 小期である。609 は瀬戸美濃産陶器の平碗で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。

610 は 3 区出土の弥生土器条痕文系深鉢で、弥生時代中期中葉から中期後葉である。

611 ～ 616 は 6 区出土遺物である。611 は灰釉陶器皿で､11 世紀前半頃である。612 は石製品砥石で、使用面は 2 面である。613 は土師器皿Ｃ２類である。614 は土製品土錘である。615 は瀬戸美濃産陶器の平碗で、古瀬戸後Ⅳ期古段階である。

616･617 は 8 区出土遺物である。616 は土師器皿Ｂ２－ａ類である。617 は弥生土器条痕文系深鉢で、弥生時代中期中葉から中期後葉である。

618 は 12 区出土の東濃型山茶碗で、大畑大洞４号窯式期から大洞東１号窯式期である。

619・620 は 13 西区出土遺物である。619 は東濃型山茶碗で、大畑大洞４号窯式期新段階である。620 は瀬戸美濃産陶器の小鉢で、古瀬戸後Ⅳ期古段階である。

621・622 は 15 区出土遺物である。621 は瀬戸美濃産陶器の卸目大皿で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。622 は弥生土器の高杯もしくは器台で、弥生時代後期末から古墳時代初頭頃である。

Ⅰ層出土遺物（第 69 図）

表土重機掘削時もしくは壁面精査時に出土した遺物である。

623・624 は 8 区出土遺物である。623 は灰釉陶器椀で、11 世紀前半前後である。624 は土師器清郷型鍋で、11 世紀から 12 世紀頃である。

625 は 11 区出土、近世瀬戸美濃産陶器の尾呂茶碗で、連房式登窯第 5 から 6 小期である。

626 ～ 629 は 13 東区出土遺物である。626・629 は弥生土器壺で、弥生中期である。627 は瀬戸美濃産陶器擂鉢で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。628 は近世瀬戸美濃産陶器の灯明皿で、連房式登窯第 8 小期の美濃窯である。

Ⅰ～Ⅱ層出土遺物（第 69 図）

表土重機掘削時もしくは壁面精査時に出土した遺物である。全て 6 区出土遺物である。

630 は土師器皿Ｂ２類である。631 は瀬戸美濃産陶器内耳鍋で、古瀬戸後Ⅱ期である。

Ⅰ～Ⅲ層出土遺物（第 69 図）

表土重機掘削時もしくは壁面精査時に出土した遺物である。

632 は 1 区出土の土製品土錘である。

633 ～ 635 は 4・5 区出土遺物である。633 は美濃須衛窯の須恵器杯もしくは鉢で、8 世紀後半から 9 世紀初頭頃である。634・635 は瀬戸美濃産陶器である。634 は天目茶碗、635 は擂鉢で、いずれも後Ⅳ期古段階である。

636 は 6 区出土の近世瀬戸美濃産陶器志野皿で、連房式登窯第 2 小期である。

637 ～ 641 は 7 区出土遺物である。637 は回転台土師器皿で、10 世紀末から 11 世紀前半頃である。638 は灰釉陶器椀で、10 世紀末前後である。639・640 は美濃須衛窯の須恵器である。639 は杯、640 は杯蓋で、9 世紀初頭である。641 は弥生土器受口状口縁甕で後期前半である。

642 ～ 648 は 13 東区出土遺物である。642 は弥生土器の高杯もしくは器台で、後期前半である。643・646 は灰釉陶器椀で、10 世紀代である。644 は瀬戸美濃産陶器天目茶碗で、大窯第 4 段階後半である。645 は土師器皿Ｂ２－ａ類である。647 は美濃須衛型山茶碗の碗で、５型式である。648 は東濃型山茶碗の碗で、生田２号窯式期である。

649･650 は 15 区出土の灰釉陶器である。649 は椀で、10 世紀末から 11 世紀初頭である。650 は皿で、11 世紀初頭から前半頃である。

その他出土遺物（第 70 図）

651・652 は 9 区生痕内出土遺物である。651 は弥生土器条痕文系深鉢で弥生時代中期中葉から後葉である。652 は瀬戸美濃産陶器の天目茶碗で、古瀬戸後Ⅳ期古段階である。

653 ～ 659 は調査前もしくは調査区近接地の表採遺物である。653 は 6 区表採の美濃須衛窯の須恵器短頸壺で、８世紀中から後半頃である。654 は 6 区表採の土師器の壺もしくは甕で、古墳時代初頭と考えられる。655・656 は 6 区表採の弥生土器壺で、いずれも弥生時代後期前半である。657 は 6 区表採の弥生土器高杯で、弥生時代後期前半である。658 は 10 区表採の弥生土器壺で、弥生時代中期である。659 は 11 区表採の瀬戸美濃産陶器の平碗で、古瀬戸後Ⅳ期古段階である。

660 ～ 663 は撹乱内出土遺物である。660 は近世瀬戸美濃産陶器水滴で、連房式登窯第 9 ～ 11 小期である。661 は 8 区出土の弥生土器広口壺で、弥生時代中期後葉である。662 は 12 区出土の近世陶磁器肥前の碗である。663 は 15 区出土の弥生土器条痕文系深鉢で弥生時代中期中葉から後葉である。

664・665 は 8 区試掘坑埋め戻し土出土遺物である。664 は瓦質土器火鉢、665 は土師器羽釜で、いずれも室町時代から戦国時代である。

第５章　岩田西遺跡の遺構と遺物

第１節　弥生時代～平安時代の遺構と遺物

岩田西遺跡における当該時期の遺構は、Ⅳ層（暗灰褐色シルト層）上面と、Ⅳ層除去後に検出したⅤ層(青灰色～明灰色シルト層)上面で確認した。サブトレンチ掘削時に下層から遺物が出土したこと、中世の溝完掘後に底面で下層遺構を確認できたことから、可能な限り下層確認掘削を実施した。その結果、16・17 区、22 ～ 25 区・27・28 区において遺構を確認した。

また、下層確認の土壌については自然科学分析を実施した。その結果、16 区･25 区･27 区ではⅣ層、18 区ではⅤａ層、21 区ではⅤｂ層においてプラントオパールが確認できたことから、当遺跡における稲作の開始時期が平安時代、もしくはそれ以前までさかのぼる可能性も出てきている（第６章自然科学分析参照)。

SD32（第 38 図、第 71 図）

28 区南側に位置する。Ⅴ層上面で確認した。岩田西遺跡においては最も古い遺構と考えられる。ほぼ東西方向の溝で、両端部は調査区外へ続く。規模は確認部分で長さ 11.2m、幅 0.45 ～ 0.6m、深さ 0.2m。断面形状は皿状である。埋土はⅣ層の茶褐色シルト層に似ている。

666 は弥生土器甕で、弥生時代中期後葉高蔵式である。

出土遺物や層序の前後関係から、本遺構の時期は弥生時代中期後葉以降に比定できる。

SD1（第 38 図）

17 区中央付近に位置する。Ⅳ層上面で確認した。北北西－南南東方向の溝で、両端部は調査区外へ続く。規模は確認部分で長さ 10.2m、幅 0.7m、深さ 0.25m。断面形状は皿状である。

実測可能な遺物は無かったが、土師器破片がわずかに出土した。

出土遺物や層序の前後関係から、本遺構の時期は奈良時代から平安時代までの時期に比定できる。

SD22（第 39 図）

25 区中央に位置する。Ⅳ層上面で確認した。やや蛇行する南北方向の溝で、北側および南側は調査区外へ続く。南側は低地 SX11 へと合流する。規模は確認部分で長さ 7.7m、幅 0.7m、深さ 0.05m である。断面形状は浅い皿状である。

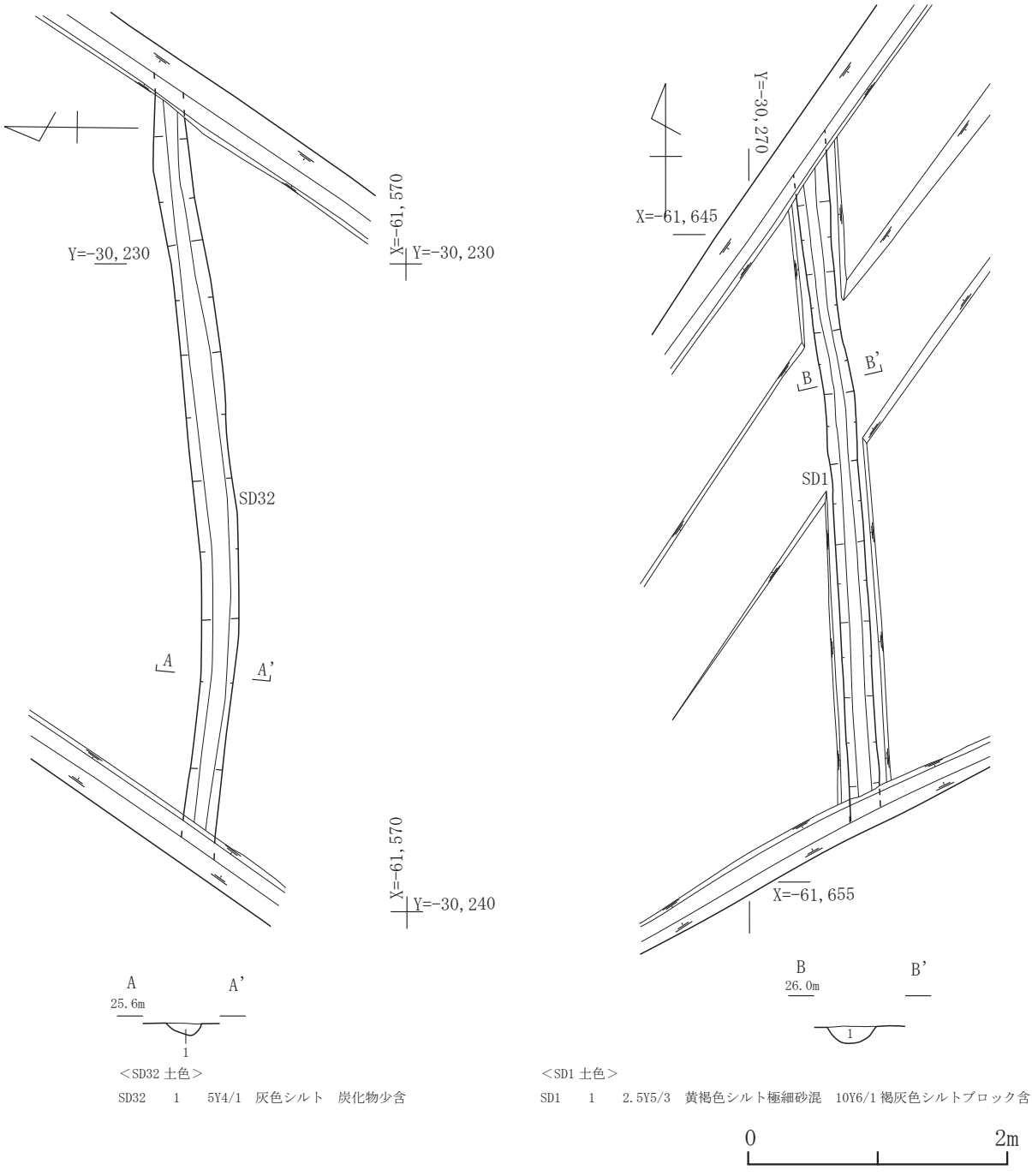
実測可能な遺物は無かったが、須恵器・土師器破片がわずかに出土した。

出土遺物や層序の前後関係から、本遺構の時期は奈良時代から平安時代までの時期に比定できる。

SD21（第 39 図、第 71 図）

25 区中央に位置する。Ⅳ層上面で確認した。南北方向の溝で、北側および南側は調査区外へ続く。南側は低地 SX11 へと合流する。規模は確認部分で長さ 7.7m、幅 1.1m、深さ 0.1m である。断面形状は浅い皿状である。

667 ～ 669 は美濃須衛窯の須恵器である。667 は無台杯、668 は杯蓋でともに 7 世紀後葉から 8 世紀初頭頃である。669 は短頸壺で、9 世紀初頭頃である。



第 38 図　SD32・SD1 実測図

出土遺物から、本遺構の時期は奈良時代から平安時代頃に比定できる。

SX11（第 39・40 図、第 71 図）

25 区南側に位置する。Ⅳ層上面で確認した。緩やかに南へ傾斜する低地状の地形である。確認部分で長軸方向 11.5m、短軸方向 6.0m、深さ 0.5m である。自然堆積の泥・シルトが顕著に認められる。その層中からは自然木や大量の須恵器・土師器片が、低地内のより低い範囲に溜まるような状況で出土した。なお、低地の堆積物の珪藻化石分析を実施したところ、下層ではやや水深のある場所を伴う沼沢湿地で、水域環境であったこと、上層は珪藻化石の保存状態が悪いものの、沼沢湿地から河川の流れ込みを伴う沼沢地環境へと変化したことが明らかとなっている（第 6 章　自然科学分析参照）。

このことから、ゆっくりと埋没していた低地は、ある時期に河川からの氾濫堆積も加わって埋没していく状況が推定される。

670 ～ 681 はは美濃須衛窯の須恵器である。670 は碗（はそう）、671 は短頸壺で、ともに 7 世紀後葉頃である。672 は有台杯で、7 世紀後葉から 8 世紀初頭である。673 は鉢で、7 世紀後葉から 8 世紀前半代である。674 は鉢で 8 世紀代である。675 は蓋、676 は提瓶もしくは平瓶で、ともに 8 世紀初頭である。676 の体部片には縦方向の文字で「美濃国」の刻印を有する。677 は長頸壺、678 は壺、679 は鉢、680 は蓋、681 は有台杯、682 は無台杯で、いずれも 9 世紀初頭頃のものである。682 の底部外面にはヘラ記号を有する。683 ～ 685 は 8 世紀代の猿投窯須恵器である。683 は蓋、684 は高杯の可能性が高い。685 は杯蓋である。686 は灰釉陶器椀で、11 世紀前半頃である。687 は土師器把手である。688 は平瓦で、凹面に布目痕を有する。689 ～ 699 は土製品土錘である。一部欠損はあるもののほぼ完形品で、紡錘状、棒状、なつめ玉状など形状は様々である。700 ～ 702 は土製品土馬である。700 は頭部で、轡および面繋は線刻によって表現されている。701 は胴部と考えられ、鞍の前輪と後輪は粘土貼付によって、障泥は線刻によって表現されている。頭部および胴部の断面部を観察すると、藁のような茎を芯材として製作した痕跡をとどめている。702 は脚部と判断した。

出土遺物などから、低地の時期は奈良時代から平安時代に比定できる。遺物の時期は 7 世紀末から 8 世紀初頭、9 世紀初頭頃、10 世紀末から 11 世紀前半と大きく 3 時期に集中する。

SX8（別添図 9、第 72 図）

22 区北西端に位置する。SD13 掘削後、南肩の一部分を確認した。北肩と東側および西側は調査区外である。中世の溝 SD13 に切られており、本来の南肩は遺存していない。規模は確認部分で長さ 3.4m、幅 1.9m、深さ 0.5 ～ 0.6m である。落ち込みと判断したが、断面形状の一部は皿状に近いため、溝の可能性も考えられる。

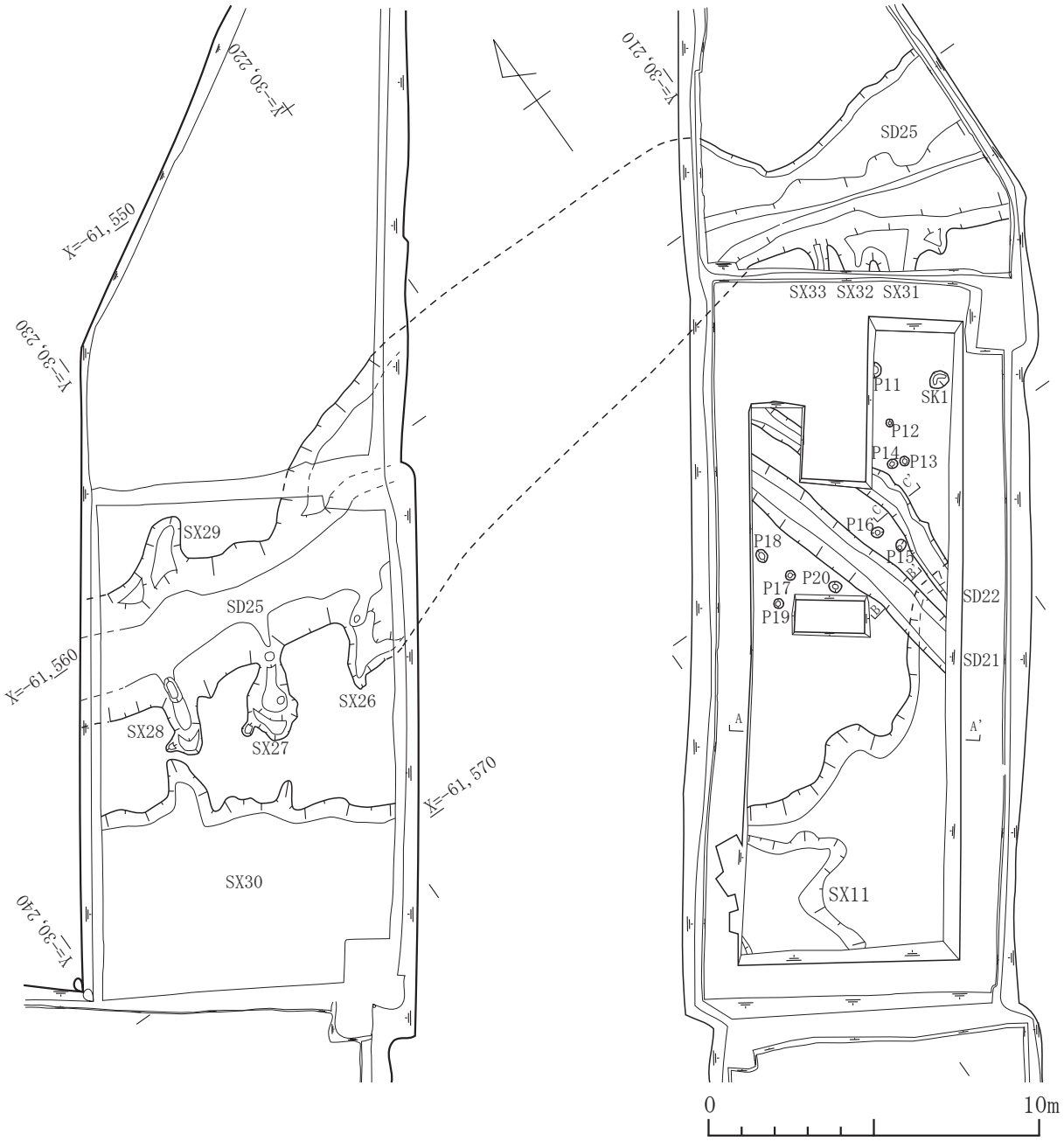
703 は美濃須衛窯の須恵器有台杯で、8 世紀後半から 9 世紀初頭である。704 は美濃須衛窯の須恵器甕もしくは鉢で、7 世紀から 8 世紀代である。705 は灰釉陶器椀で、10 世紀末前後である。706 は灰釉陶器椀で、11 世紀後半から末頃の尾張産である。707 は土師器濃尾型甕で、8 世紀から 9 世紀代である。708 は弥生土器壺で、弥生時代中期中葉の貝田町式である。

出土遺物などから、低地の時期は奈良時代から平安時代頃に比定できる。遺物の時期は 8 世紀後半から 9 世紀初頭、10 世紀末前後、11 世紀後半から末頃と大きく 3 時期に集中する。

SD25（第 39 ～ 42 図、第 72 ～ 80 図）

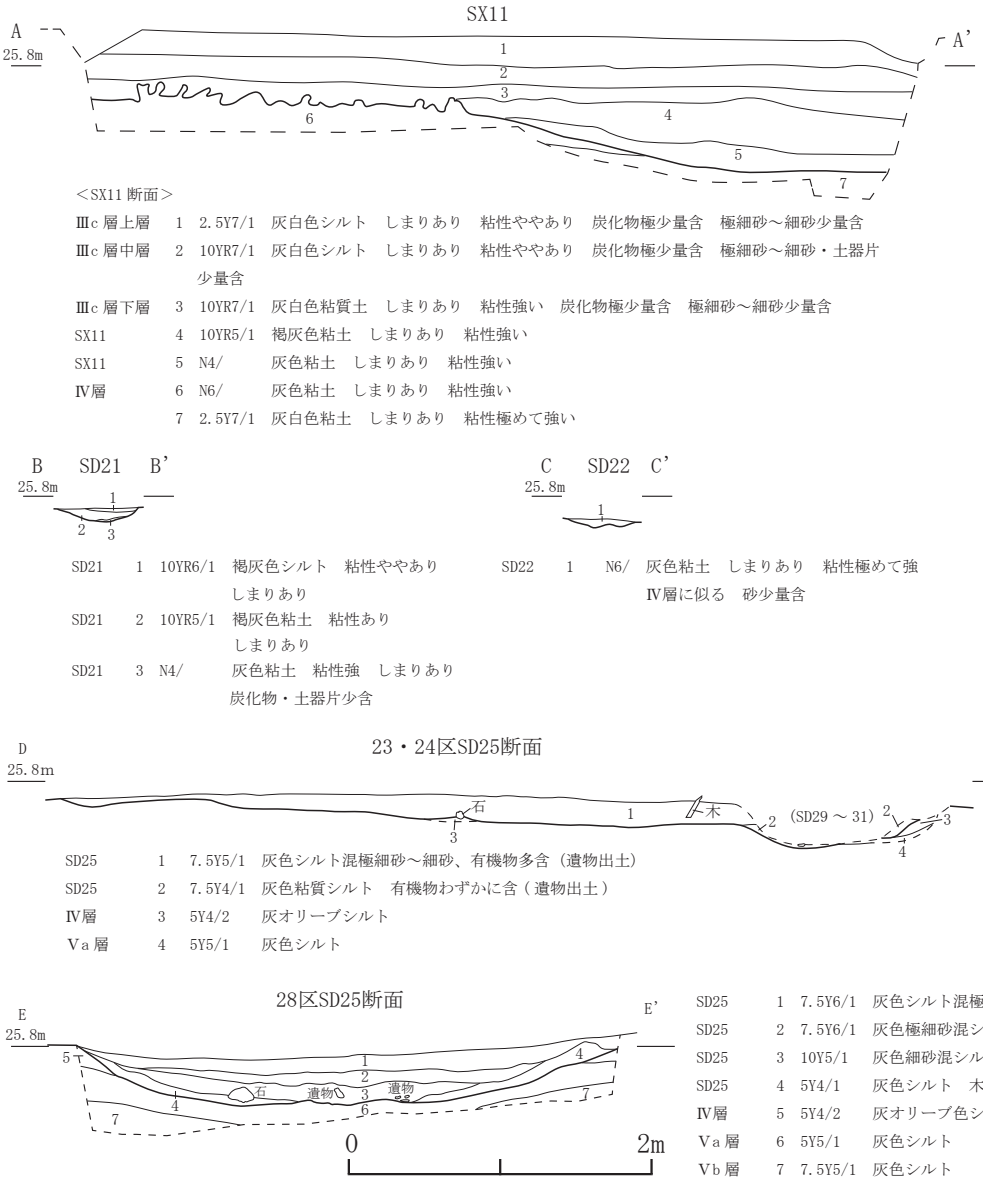
23・24 区南側、27 区南端、28 区北側に位置する。Ⅳ層上面で確認した。溝の両肩は直線的ではないが、ほぼ東西方向の溝と考えられる。溝の両肩は入り江状の窪み部分が複数みられ（SX26 ～ 29・31 ～ 33）、不整形状である。溝の両端部である 23・24 区の東側、28 区西側は調査区外へ続く。中世の溝 SD29 ～ 31 に切られる。規模は確認部分で長さ 32.0m、最大幅 5.1m、最小幅 3.0m、深さは 0.4 ～ 0.55m である。断面形状は西側の 28 区では緩やかな皿状に近いが、東側の 23・24 区では北肩の傾斜が非常にゆるやかで、低地縁辺部に掘削された溝のような様相を呈している。遺物は下層部分に集中し、木片・炭・川原石などとともに大量に出土した。

709 ～ 767 は 23・24 区出土遺物である。709 ～ 728 は美濃須衛窯の須恵器である。709 は杯蓋で、



第 39 図　SX11・SD21・SD22・SD25 実測図

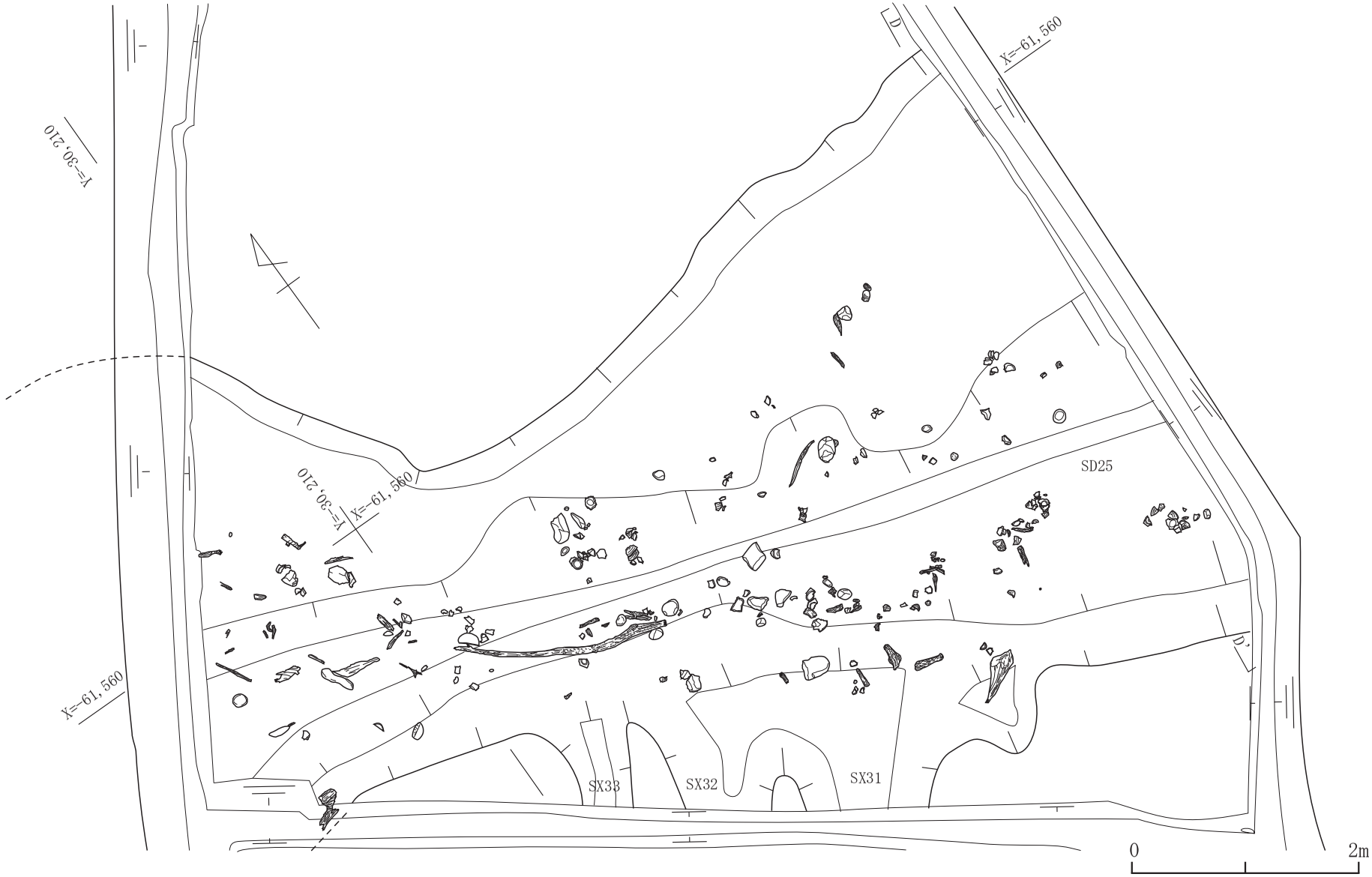
7 世紀末から 8 世紀初頭頃のものである。蓋の内面にはヘラ描きで文字「十天」が記されている。710 は広口瓶で、7 世紀末以降のものである。711 は壺で、7 世紀末頃のものである。712 ～ 714 は長頸壺で、712 は 8 世紀初頭、713 は 8 世紀後半から 9 世紀初頭、714 は 8 世紀後半頃である。715 ～ 722 は椀で、全て 9 世紀初頭頃である。715 には墨書が記されるが、判読できなかった。716 の内面、722 の内外面には煤が付着する。720 の底部外面には墨が付着しており、転用硯と考えられる。723 ～ 726 は無台杯、727 は有台杯、728 は横瓶で、9 世紀初頭頃である。729 ～ 752 は灰釉陶器である。729 ～ 736 は椀で、9 世紀末頃の美濃産である。735 の底部外面には墨書「中」が記される。737 は椀で、9 世紀末頃の尾張産である。738 は輪花椀で、9 世紀末から 10 世紀前半の美濃産である。739 ～ 744 は椀で、9 世紀末から 10 世紀前半の美濃産である。745 ～ 747 は椀で、10 世紀前半頃の美濃産である。748 は皿、749 は椀で、10 世紀前半から中頃の美濃産である。748 の底部外面には墨が付着しており、転用硯と考えられる。750 は輪花椀で、11 世紀初頭から前半である。751・752 は椀で、11 世紀中頃



第 40 図　SX11・SD21・SD22・SD25 断面実測図

である。753 は丸瓦で、凹面に布目痕を有する。754 ～ 759 は土師器甕である。757 は濃尾型甕の可能性が考えられる。760・761 は土製品土錘である。762 ～ 764 は木製品杭である。762 は先端を平坦に加工している。全て木取りは芯持丸木で、樹種はマツ族複維管束亜属である。765・766 は木製品の火付け木で、先端部分が炭化している。767 は上層遺構の混入と考えられる尾張型山茶碗の碗で、5 型式のものである。内面にススが付着する。

768 ～ 910 は 28 区出土遺物である。768 ～ 771 は回転台土師器の椀で、いずれも 10 世紀末から 11 世紀前半頃のものである。772・773 は灰釉陶器の壺もしくは鉢で、いずれも 10 世紀末から 11 世紀前半頃のものである。772 には外面にヘラ文字「美〇（判読不能）」が記される。774 は灰釉陶器椀で、10 世紀中頃前後のものである。底部外面に縦方向の墨書「毋万（ム・マ）」が記される。775 は灰釉陶器椀で、10 世紀末から 11 世紀前半頃のものである。底部内面に墨書「万」が記される。776 ～ 778 は灰釉陶器椀で、9 世紀末から 10 世紀前半頃である。779 は灰釉陶器椀で、9 世紀末から 10 世紀前半頃である。780 は灰釉陶器壺で 9 世紀末である。底部外面にはヘラ記号を有する。781 は灰釉陶



第 41 図　23・24 区 SD25 実測図

第 42 図　28 区 SD25 実測図

器椀で、9 世紀末頃である。782 ～ 789 は灰釉陶器椀で、10 世紀末から 11 世紀前半頃である。786 以外のものは美濃産と考えられる。790・791 は灰釉陶器椀、792 は灰釉陶器鉢で、10 世紀末前後のものである。793 ～ 800 は瓦破片である。793 ～ 797 は丸瓦、798 ～ 800 は平瓦で、いずれも内面に布目痕を有するものである。

801 ～ 847 は美濃須衛窯の須恵器である。801 ～ 807 は杯蓋である。801 は 6 世紀代のものである。802 は 7 世紀後半、803・804 は 7 世紀後葉、805 は 7 世紀後葉から 8 世紀初頭頃、806 は 8 世紀代、807 は 8 世紀後半から 9 世紀初頭頃である。808・809 は短頸壺の蓋と考えられる。8 世紀代である。810 は杯で、7 世紀代のものである。811・812 は無台杯で、811 は 7 世紀後葉から 8 世紀初頭、812 は 8 世紀初頭である。813 は有台杯で､8 世紀初頭である。底部内面に三角形状に配された文字で「美濃国」の刻印を有する。814 は金属器模倣品と考えられる椀で、7 世紀後葉から 8 世紀初頭である。815 は擂鉢で、8 世紀代である。底面に刺突痕を有する。816 は高杯で、7 世紀後半である。脚部欠損後に転用したものと考えられる。817・818 は透かしを有する高杯脚部片、819 は把手で、8 世紀代である。820 ～ 822 は壺、823 は壺もしくは甕で、8 世紀代である。824・825 は短頸壺である。824 は 7 世紀代、825 は 8 世紀代である。826 ～ 832 は甕である。826 は 7 世紀代、827 ～ 831 は 8 世紀代、832 は 8 世紀後半代である。833 は鉢で、9 世紀初頭である。834 は杯蓋で、9 世紀初頭である。内面に墨書が記されるが、判読不能であった。835 は盤、836・837 は無台杯、838 ～ 845 は有台杯で、9 世紀初頭である。838 の底部内面には墨書「井」が記される。846・847 は横瓶で、9 世紀初頭である。

848 は土師器の脚部である。849 ～ 854 は土師器甕である。855 は土師器甑で、7 世紀代である。856 は古式土師器の高杯脚部で、古墳時代初頭頃である。857・858 は不明土製品で、土馬の可能性も考えられる。859 ～ 896 はいずれもほぼ完形の土製品土錘である。形状としては紡錘状・筒状・鼓状・なつめ玉状に分類できる。大型品は筒状・鼓状のものが多く。小型品は紡錘状・なつめ玉状のものが多い。土錘については時代が下るにつれ法量が大型化、もしくは小型化する可能性も考えたが、溝内ではほぼ同一層で大型品・小型品が混ざって出土しており、いずれの傾向も見られなかった。897 は被熱を受けた土器で、器種は不明である。898 ～ 904 は弥生土器である。898・899 は弥生土器条痕文系深鉢で､弥生時代中期中葉から後葉のものである。900 は凹線文を有する壺で､弥生時代中期である。901 は壺口縁で、弥生時代後期前半山中式である。902 は受口状口縁甕で弥生時代後期前半山中式である。903･904 は弥生土器壺で、いずれも弥生時代後期頃である。905 は木製品の用途不明品である。四方向面取り加工を行っており、うち一面は平坦に加工を施す。樹種はヒノキである。906 ～ 910 は石製品である。906・907 は砥石で、906 は使用面 2 面、907 は使用面 4 面の大型品である。908・909 は先端を欠損する有茎凸基の石鏃で、いずれも石材は下呂石である。910 は石鏃先端部のみで、基部は欠損する。石材は下呂石である。

911・912 は 27 区 SD25 出土遺物である。911 は灰釉陶器椀で、9 世紀末から 10 世紀前半頃の美濃産である。912 は美濃須衛窯の須恵器の鉢で、9 世紀初頭頃のものである。

913 は SD25 の窪み部分 SX26 出土遺物である。913 は石製品くさびで、石材はチャートである。

出土遺物などから、本遺構の時期は奈良時代から平安時代頃に比定できる。遺物の時期は 7 世紀末から 8 世紀初頭頃、9 世紀初頭頃、9 世紀末から 10 世紀前半頃、11 世紀前半から中頃と大きく 4 時期に集中する。

SX30（第 39 図、第 80 図）

28 区南側でに位置する。Ⅳ層上面で確認できる。緩やかに南西側へ傾斜する低地状の地形である。規模は確認部分で長軸方向 8.5m、短軸方向 7.0m、深さ 0.2m である。Ⅲｃ層が上部を覆うように堆積しており、層中からはわずかに土器片が出土している。

914 は美濃須衛窯の須恵器短頸壺で、9 世紀初頭のものである。

出土遺物や層序の前後関係から、低地の時期は平安時代頃に比定できる。

Ⅳ層上面出土遺物（第 80 図）

主に 23・24・25 区の遺構検出時に出土した遺物である。

915 ～ 919 は 23・24 区出土遺物である。915・916 は灰釉陶器椀で、9 世紀末頃である。917 は 9 世紀初頭の美濃須衛窯の須恵器有台杯で、底部外面に墨書「井」が記される。918 は美濃須衛窯の須恵器高杯で、7 世紀後葉である。919 は土師器濃尾型甕で、8 世紀から 9 世紀である。

920 ～ 934 は 25 区出土遺物である。920・921 は灰釉陶器椀で、920 は 10 世紀末から 11 世紀前半、921 は 10 世紀前半前後である。922 は平瓦で、凹面に布目痕を有する。923 は畿内系の須恵器有台杯で、7 世紀後葉から 8 世紀初頭頃である。924 ～ 933 は美濃須衛窯の須恵器である。924 は杯で、7 世紀後葉から 8 世紀初頭頃である。925 は壺で、9 世紀初頭である。926 は碗（はそう）で、8 世紀初頭である。927 は高杯で 7 世紀後葉である。928 は甕で、8 世紀後半頃である。929 は壺で、8 世紀後半から 9 世紀初頭頃である。930 は杯で、7 世紀後半から末頃である。931 は脚付椀で、7 世紀初頭頃である。932 は短頸壺で、7 世紀後葉である。933 は壺で、7 世紀末までのものである。934 は土師器甕である。

Ⅳ層上面の時期は、出土遺物や層序の前後関係から奈良時代から平安時代頃に比定できる。

杭列 1（別添図 9、第 81 図）

16 区西側に位置する。下層の深掘りを行った際、Ⅲｃ層～Ⅳ層上面で確認した。杭列長は 9.5m である。中世の水田跡から打ち込まれた杭の可能性を考えたが、年代を特定するため、杭本体の放射性炭素分析を実施した。

その結果 935 の杭（杭 5）については 830-837cal AD（0.7%）および 868-980cal AD（94.7%）で、9 世紀前半から 10 世紀後半の範囲を示した。また、936 の杭（杭 7）については 779-793cal AD（6.2%）および 802-900cal AD（21.4%）で、8 世紀後半から 10 世紀後半の範囲を示した（第 6 章自然科学分析参照）。

935 ～ 938 は木製品杭で、いずれも先端部に加工痕を有する。木取りはいずれも芯持丸木で、樹種は 935・936 がツバキ族、937 はコナラ族アカガシ亜属、938 はヒサカキである。

自然科学分析結果から、本遺構の時期は平安時代頃に比定できる。また、プラントオパール分析結果も合わせると、16 区周辺では平安時代に水田が営まれていた可能性が考えられる。

第２節　中世の遺構と遺物

岩田西遺跡における中世の遺構は、Ⅲａ層（暗灰色～黄灰色シルト）上面、Ⅲｂ層（灰色シルト）上面、Ⅲｃ層（灰色～灰白色シルト）上面で確認した。

主な遺構は水田と畦畔、水田に伴う溝であり、中世の生産域の広がりをとらえることができた。また水田土壌（Ⅲａ・Ⅲｂ層）については 16・18・25 区で自然科学分析を実施した。層中にはイネのプラントオパールだけでなく穎（えい・籾殻部分）が非常に多く含まれることから、安定して水田が営まれていたことがより明確となった（第６章自然科学分析）

＜中世下層＞

SD2（別添図 9、第 81 図）

19 区南側に位置する。北東－南西方向の溝である。畦 15 に切られる。規模は長さ 4.3m、幅 1.1m、深さ 0.05m である。

939 は瀬戸美濃産陶器の仏供で、古瀬戸後Ⅳ期古段階である。

出土遺物から、本遺構の時期は室町時代前半頃に比定できる。

SD13（別添図 9・11、第 81 図）

22 区西端に位置する。東北東－西南西方向の溝で、両端部は調査区外へ続く。肩部は上層の近現代溝 SD12 に切られており遺存しない。また、下層の SX8 を切る。規模は確認部分で長さ 5.0m、幅 1.3m、深さ 0.2m。残存部分の断面形状は皿状である。泥・シルトの堆積によって埋没している。

940 ～ 945 は尾張型山茶碗である。940 ～ 942 は碗で 5 型式である。942 の内面にはススが付着している。943 ～ 945 は碗で 6 型式である。944 の内面にはススが付着している。946・947 は瀬戸美濃産陶器である。946 は桶で古瀬戸後Ⅳ期、947 は志野皿で大窯第 4 段階である。948 ～ 951 は灰釉陶器である。948 は椀で 9 世紀末から 10 世紀前半である。949・950 は椀で 10 世紀末から 11 世紀前半頃である。950 の底部内面には赤色顔料ベンガラが付着する。951 は椀で 11 世紀中葉前後である。952 は猿投窯の須恵器椀か杯で、8 世紀代である。953・954 は美濃須衛窯の須恵器である。953 は杯で 7 世紀後葉、954 は蓋で 8 世紀後半である。955 は石製品有茎凸基の石鏃で、石材はチャートである。

出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代から戦国時代後半頃に比定できる。ただし、存続期間を考えると、溝の掘り直し等を行っていた可能性が考えられる。

SD31（別添図 12、第 81 図）

23・24 区南側および 27 区南側に位置する。SD30 に切られており、断面でしか確認できなかった。また、古代の溝 SD25 を切る。規模は確認部分で長さ 34.0m、幅 0.7m、深さ 0.1m である。

956 は尾張型山茶碗の皿で、5 型式である。

遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代前半頃に比定できる。

SD30（別添図 10・12、第 81・82 図）

23・24 区南側および 27 区南側に位置する。23・24 区では北西方向、27 区では西北西方向と、大

きく蛇行する溝である。近現代のSD26や近世のSD27に切られており、溝の肩部はほとんど遺存しない。規模は確認部分で長さ34.0m、幅1.0m、深さ0.1mである。

957～959は23・24区出土遺物である。957は瀬戸美濃産陶器で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。958は土師器皿でＭ３類である。959は木製品火付け木で、先端は炭化している。樹種はヒノキである。

960～978は27区出土遺物である。960～963は尾張型山茶碗の碗である。960は4型式、961は5型式、962・963は6型式である。963は底部外面に墨書が記されるが、判読不能であった。964～968は東濃型山茶碗である。964は碗で5型式丸石3号窯式期、965は碗で5型式窯洞1号窯式期である。966は皿で6型式白土原1号窯式期である。967・968は碗で6型式白土原1号窯式期である。969は碗で、大畑大洞４号窯式期新段階である。970～972は美濃須衛型山茶碗の碗で、ともに5型式である。970の内外面、971の内面にススが付着する。973は中国産磁器青磁碗で、龍泉窯系Ⅰ類である。974は土師器羽釜破片である。975は土師器皿で、Ｍ３かＭ４類である。976は須恵器無台杯で、7世紀後葉から8世紀前半である。977は土製品土錘である。978は石製品砥石で、使用面は2面である。

一部新しい遺物を含むが、遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代前半から室町時代初頭頃に比定できる。

SD29（別添図10･12、第82図）

23・24区南側および27区南側に位置する。近世のSD27・近現代のSD26と同位置にあり、プランの大半を切られる。規模は長さ34.0m、幅1.2m、深さ0.15mである。

979は尾張型山茶碗で、瀬戸窯のものか。7型式である。980～982は東濃型山茶碗の碗である。980は5型式併行の丸石2号窯式期、981は大洞東１号窯式期から脇之島３号窯式期、982は脇之島３号窯式期である。983は瀬戸美濃産陶器擂鉢で、古瀬戸後Ⅳ期新段階から大窯第1段階である。

遺構の切り合いや出土遺物から、本遺構の時期は室町時代前半から戦国時代頃に比定できる。

畦51（別添図9・11、第82図）

16区中央に位置する。北北東－南南西方向の水田畦畔で、調査区を縦断するように確認した。南側は調査区外へ伸びる。確認長は10.5mで、畦の断面形状は薄い台形状である。畦の幅は下端で0.8～1.0m、上端で0.35～0.45m、高さ0.1mである。

遺構検出時より遺存状態が悪く、畦の痕跡程度しか確認できなかった。出土遺物は少ない。

984は土師器皿Ｃ２類である。

出土遺物から、本遺構の時期は室町時代以降に比定できる。

田68（別添図9・11、第82図）

22区東側に位置する。畦26・畦29に囲まれた耕作地である。北側・南側および西側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向13.5m、短軸方向10.0mである。

985は尾張型山茶碗の碗で、5型式である。986～988は瀬戸美濃産陶器である。986は袴腰形香炉で古瀬戸後Ⅱ期、987は擂鉢、988は天目茶碗で大窯第1段階である。989は土師器皿Ｂ１類である。990・991は土製品土錘である。

出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代前半から室町時代前半頃に比定できる。

田 75（別添図 10・12、第 82 図）

28 区南側、29 区北西に位置する。畦 94・畦 95 に囲まれた耕作地である。南側および東側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 17.0m、短軸方向 13.8m である。

992・993 は 28 区出土遺物である。992 は瀬戸美濃産陶器の卸皿で、大窯第 1 段階である。993 は土師器皿Ｃ２類で、内面にタールが付着する。

994 ～ 999 は 29・30 区出土遺物である。994 ～ 996 は尾張型山茶碗である。994・995 は碗で 5 型式である。996 は 6 型式の碗で、底部外面に墨書「一」が記される。997 は土師器伊勢型鍋で 12 世紀頃である。998 は土師器甕である。999 は土製品土錘である。

出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代前半から室町時代前半頃に比定できる。

田 76（別添図 10・12、第 82 図）

29・30 区に位置する。畦 95・畦 96 に囲まれた耕作地である。北側および南側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 22.6m、短軸方向 8.8m である。

1000 ～ 1003 は尾張型山茶碗である。1000 は碗で、4 型式から 6 型式である。内面に漆が付着する。1001 は皿で５型式である。1002・1003 は碗で 6 型式である。1004 は東濃型山茶碗の碗で、脇之島３号窯式期である。1005 は美濃須衛型山茶碗の碗で５型式である。1006 は中国産磁器白磁碗で、同安窯系Ⅰ類である。1007 は土師器伊勢型鍋で、12 世紀頃である。1008 は土師器羽釜である。1009 は土師器皿で、Ｍ２かＭ３類である。1010 ～ 1015 は土製品土錘である。

出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代前半から室町時代前半頃に比定できる。

田 82（別添図 10･12、第 82 図）

27 区南側、28 区北側に位置する。畦 93・SD29・30 に囲まれた耕作地である。西側および東側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 21.0m、短軸方向 13.6m である。

1016 は瀬戸美濃産陶器袴腰型香炉で、古瀬戸後Ⅲ期である。1017 は中国産磁器青磁碗で、16 世紀後半代である。1018 は土師器伊勢型鍋で､12 世紀頃である。1019 は土師器皿で､Ｍ１かＭ２類である。

出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代前半から室町時代前半頃に比定できる。

SX1（別添図 8・9・11、第 83 図）

16 区西側に位置する。段丘崖の崩落土をベースにした高まりと考えられる。規模は確認部分で長さ 12.0m、幅 1.0 ～ 3.5m、高さ 0.3m である。

1020 は東濃型山茶碗皿で､白土原 1 号窯式期である。底部外面に墨書が記されるが､判読不能であった。1021 は中国産磁器青磁碗で、龍泉窯系Ⅰ－５類である。1022 は回転台土師器椀で、10 世紀末から 11 世紀前半頃である。1023 ～ 1026 は灰釉陶器である。1023 は椀で 10 世紀末から 11 世紀前半頃である。底部内面・外面に墨書が記されており、ともに「亥」と判読できる。1024 は椀で 11 世紀前半前後である。底部外面墨書が記されるが、判読はできなかった。1025 は椀、1026 は皿で 11 世紀前半前後である。1027 は北陸系の古式土師器有段口縁甕で､弥生時代後期末から古墳時代初頭頃である。1028 は土師器壺、1029 は土師器くの字甕で、古墳時代初頭頃である。

出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代前半頃に比定できる。

SX6（別添図 9、第 83 図）

19 区南側に位置する。不整形の落ち込みである。規模は確認部分で長軸方向 3.9m、短軸方向 1.2 ～ 1.6m、深さ 0.1m である。

1030 は東濃型山茶碗の皿で、白土原 1 号窯式期である。

出土遺物から、本遺構の時期は鎌倉時代以降に比定できる。

SX7（別添図 9、第 83 図）

19 区北側に位置する。不整形の溝状落ち込みである。規模は確認部分で長軸方向 1.6m、短軸方向 1.2 ～ 1.5m、深さ 0.1m である。

1031 は土師器皿Ｂ２－ｂ類で、外面にタールが付着する。1032 は美濃須衛窯の須恵器蓋で、７世紀後葉である。

出土遺物から、本遺構の時期は室町時代以降に比定できる。

杭列２（別添図 9、第 83 図）

19 区南側に位置する。Ⅲｂ層除去中に確認した。畦 15 の東側で平行に並んでおり、痕跡も含め 5 本確認した。杭列長は確認部分で 4.5m である。

1033・34 は木製品杭である。先端部に加工痕を有する。いずれも木取りは芯持丸木と考えられ、樹種はマツ族複維管束亜種である。

層の前後関係から、本遺構の時期は鎌倉時代以降に比定できる。

Ⅲｃ層出土遺物（第 83 ～ 85 図）

Ⅲｃ層は下層水田面の耕作土であるⅢｂ層除去後に確認できる層である。本層中からもプラント・オパールが検出されており、畦等の遺構は確認できないが、水田耕土であることが明らかとなった（第 6 章自然科学分析参照）。下層遺構検出や平面精査、調査区周囲のサブトレンチ掘削、あるいは下層確認調査時に出土した遺物で、確実に本層に含まれるものである。

1035 ～ 1043 は 17 区出土遺物である。1035 は灰釉陶器椀で、11 世紀中頃前後である。1036 は東濃型山茶碗皿で、明和１号窯式期である。1037 は美濃須衛型山茶碗の碗で、5 型式である。1038 は中国産磁器で、同安窯系白磁碗Ⅰ類である。1039 ～ 1042 は土師器皿である。1039・1040 はＭ２かＭ３類、1041 Ｍ３類、1042 はＣ１類である。1043 は土製品土錘である。

1044 は 19 区出土遺物で、土師器皿Ｃ１類である。

1045 ～ 1055 は 23・24 区出土遺物である。1045 は灰釉陶器椀で、11 世紀中頃である。1046 は灰釉陶器椀で、9 世紀末から 10 世紀前半頃の美濃産である。底部内面にヘラ描きで「大〇（判読不能）」が記される。1047 は灰釉陶器輪花椀で、11 世紀初めから前半である。1048 は尾張型山茶碗の皿で、６型式である。1049 ～ 1051 は東濃型山茶碗である。1049 は碗、1050 は皿で大畑大洞 4 号窯式期である。1051 は碗で、脇之島３号窯式期である。1050・1051 の底部外面には墨書が記されるが、判読不能であった。1052・1053 は土師器皿である。1052 はＣ２類、1053 はＢ２－ａ類である。1054 は土師器甕である。1055 は土製品土錘である。

1056 ～ 1093 は 25 区出土遺物である。1056・1057 は回転台土師器の椀で、10 世紀末から 11 世紀

前半頃である。1058は平瓦で、凹面に布目痕を有する。1059～1065は尾張型山茶碗である。1059・1060は大平鉢で、ともに５型式である。1061・1062は碗で、５型式である。1063～1065は碗で、６型式である。1066～1070は東濃型山茶碗である。1066･1067は皿で､ともに明和１号窯式期である。1068･1069は碗で､大畑大洞４号窯式期である｡1069の底部外面にはヘラ記号が見られる｡1070は碗で、大洞東１号窯式期である。1071は中国産磁器青磁碗で、龍泉窯Ⅰ－５類である。1072～1074は瀬戸美濃産陶器である。1072は平碗で古瀬戸中Ⅳ期、1073は直縁大皿で古瀬戸後Ⅲから後Ⅳ期、1074は天目茶碗で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。1075は土師器皿で、Ｍ１からＭ２類である。1076・1077は土師器甕で、６世紀から７世紀頃である。1078･1079はは土師器甑で、６世紀から７世紀頃である。1080～1084は美濃須衛窯の須恵器である。1080は甕で７世紀後葉から８世紀初頭、1081は有台杯で８世紀初頭、1082は壺で８世紀後半から９世紀初頭、1083は杯で９世紀初頭以降である。1084は杯で９世紀初頭である。底部外面に墨書が記されるが、文字の一部である「一」しか判読できなかった。1085は猿投窯の須恵器壺で８世紀代である。1086～1090は土製品土錘である。1091～1093は石製品砥石で、いずれの砥石も使用面は４面である。

1094は26区出土遺物の瀬戸美濃産陶器擂鉢で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。

1095～1097は27区出土遺物である。1095は瀬戸美濃産陶器縁釉小皿で、古瀬戸後Ⅲ期～Ⅳ期古段階である。1096は瀬戸美濃産陶器平碗で、古瀬戸後Ⅳ期古段階である。1097は土師器内耳鍋で、室町時代である。

1098～1103は28区出土遺物である。1098は灰釉陶器小椀で、10世紀末から11世紀前半である。内外面にススが付着する。1099・1100は灰釉陶器椀で、10世紀末から11世紀前半である。1101は尾張型山茶碗の皿で、5型式である。1102は中国産磁器白磁碗で、Ⅳ－１類である。1103は瀬戸美濃産陶器志野皿で、大窯第４段階後半である。1104は美濃須衛窯の須恵器壺で８世紀代である。1105は土製品土錘である。

1106～1110は29・30区出土遺物である。1106は灰釉陶器椀で、10世紀前半である。内面にススが付着する。1107は常滑産陶器甕か広口壺で、12世紀代である。1108は土師器皿で、Ｂ２－ａ類である。1109・1110は土製品土錘である。

Ⅲｃ層の時期は、一部新しい遺物も混じるが、平安時代後半から鎌倉時代前半頃に比定できる。

Ⅲｂ層出土遺物（第85図）

Ⅲｂ層は下層水田面の耕作土である。下層水田面の耕作土の掘削、下層の畦検出時、調査区周囲のサブトレンチ掘削時に出土した遺物で、確実に本層に含まれるものである。

1111～1121は16区出土遺物である。1111は尾張型山茶碗の碗で、6型式である。1112は東濃型山茶碗の碗で、大洞東１号窯式期である。1113は中国産磁器白磁碗で、同安窯系Ⅳ類である。1114は瀬戸美濃産陶器の内耳鍋で後Ⅳ期古段階である。1115は瀬戸美濃産陶器志野皿で、大窯第４段階後半である。1116・1117は近世瀬戸美濃産陶器である。1116は擂鉢で、連房式登窯第１小期、1117は耳付水注で、連房式登窯第１～４小期である。1118～1120は土師器皿で、1118はＢ１類、1119はＢ２－ｂ類、1120はＢ２－ａ類である。1121は灰釉陶器椀で、11世紀前半前後の美濃窯である。

1122～1130は26区出土遺物である。1122･1123は東濃型山茶碗である。1122は皿で明和１号窯式期、1123は碗で大畑大洞４号窯式期である。1124は瀬戸美濃産陶器の折縁深皿で、古瀬戸後Ⅰ期である。

1125・1126 は中国産磁器である。1125 は白磁碗Ⅳ類、1126 は染付碗で 16 世紀代である。1127・1128 は土師器皿で、1127 はＭ２かＭ３類、1128 はＭ３類である。1129・1130 は土製品土錘である。

1131 ～ 1134 は 29・30 区出土遺物である。1131・1132 は尾張型山茶碗の皿で、6 型式である。1133・1134 は美濃須衛型山茶碗である。1133 は碗、1134 は皿で、ともに 5 型式である。

Ⅲｂ層の時期は、一部新しい遺物も混じるが、鎌倉時代前半から戦国時代前半頃に比定できる。

〈中世上層〉

SD39（別添図 10・12、第 86 図）

27 区に位置する。SD26・SD27 両溝に切られ、SD30 を切る。南側で断面とプランの一部を確認した。規模は確認部分で長さ 9.8m、幅 0.5m、深さ 0.3m である。

1135 は瀬戸美濃産陶器天目茶碗で大窯第 3 段階である。1136 は近世瀬戸美濃産陶器の中皿で、連房式登窯第 1 ～ 2 小期である。1137 は尾張型山茶碗の碗で、6 型式である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代から近世初頭頃に比定できる。

畦 1（別添図 8、第 86 図）

16 区中央に位置する。北北東－南南西方向の水田畦畔である。北側は畦 2・3・4 と交わり、調査区を縦断するように確認した。南側は調査区外へ伸びる。規模は確認部分で長さ 10.5m で、畦の断面形状は薄い台形状である。畦の幅は下端で 1.0 ～ 1.2m、上端で 0.8 ～ 1.0m、高さ 0.05m である。遺構検出時より遺存状態が悪く、畦の痕跡程度しか確認できなかった。

1138 は土製品土錘である。

土層の前後関係や出土遺物などから、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

畦 2（別添図 8、第 86 図）

16 区西側に位置する。東西方向の水田畦畔である。東側は畦 1・3・4 と交わり、西側は調査区外へ伸びる。規模は確認部分で長さ 7.2m で、畦の断面形状は薄い台形状である。畦の幅は下端で 1.2 ～ 1.5m、上端で 0.8 ～ 1.1m、高さ 0.15m である。

1139 は瀬戸美濃産陶器端反皿で、大窯第 1 段階である。1140 は土製品土錘である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

畦 15・16（別添図 8、第 86 図）

19 区に位置する。ほぼ南北方向の水田畦畔である。南側で畦 18 と、中央で畦 17・19 と交わる。北側および南側は調査区外へ続く。規模は確認部分で長さは両畦あわせると 19.0m。畦の断面形状は台形状である。畦の幅は下端で 1.2 ～ 1.6m、上端で 1.1 ～ 1.3m、高さ 0.2m である。周辺の畦と比較して規模が大きいことから、南西側耕作域の幹線畦畔である可能性が高い。また、字図に一致しており、本遺構の方向や区画を昭和 40 年代のほ場整備直前まで踏襲していたと考えられる。

1141 ～ 1150 は畦 15 出土遺物である。1141 は東濃型山茶碗で生田 2 号窯式期である。1142 は常滑甕である。1143 は玉状の不明石製品である。1144 ～ 1147 は土師器皿で、1144 はＢ１類、1145 はＢ２類、1146 はＣ１類である。1147 はＣ２類で、内外面にタールが付着する。1148 ～ 1150 は瀬戸美濃産陶

器である。1148 は平碗で、古瀬戸後Ⅲ期である。加工円盤に転用されたもので、本来は地元流通品である。1149 は折縁小鉢で古瀬戸後Ⅳ期古段階である。1150 は擂鉢で大窯第 1 段階である。

1151・1152 は畦 16 出土遺物である。1151 は土師器皿Ｂ２－ｂ類である。1152 は瀬戸美濃産陶器擂鉢で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

畦 18（別添図 8、第 86 図）

19 区南側に位置する。南西－北東方向の水田畦畔である。北東側で畦 15 と交わり、南西側は調査区外へ続く。規模は確認部分で長さ 3.0m、畦の断面形状は薄い台形状である。畦の幅は下端で 0.6m、上端で 0.45 ～ 0.5m、高さ 0.1m である。

1153 は東濃型山茶碗の碗で、生田 2 号窯式期である。1154 ～ 1156 は瀬戸美濃産陶器である。1154・1155 は直縁大皿で古瀬戸後Ⅳ期新段階、1156 は天目茶碗で大窯第 1 段階である。1157 は土師器皿Ｂ２－ａ類である。1158 は美濃須衛窯の須恵器有台杯で 7 世紀後葉から 8 世紀初である。1159 は土製品土錘である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

畦 19（別添図 8、第 86 図）

19 区北側に位置する。東西方向の水田畦畔である。西側で畦 15・16 と、西側で畦 20・21 と交わる。規模は確認部分で長さ 4.8m である。畦の断面形状は薄い台形状である。畦の幅は下端で 0.7 ～ 0.9m、上端で 0.6 ～ 0.8m、高さ 0.1m である。

1160・1161 は東濃型山茶碗である。1160 は碗で明和 1 号窯式期から大畑大洞 4 号窯式期、1161 は皿で大畑大洞 4 号窯式期新段階である。1162 は土師器皿でＢ２－ｂ類である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

畦 21（別添図 8、第 86 図）

19 区東側に位置する。ほぼ南北方向の水田畦畔である。北側で畦 19・20 と交わり、南側は調査区外へ続く。規模は確認部分で長さ 2.2m である。畦の断面形状は薄い台形状である。畦の幅は下端で 0.45 ～ 0.55m、上端で 0.3 ～ 0.35m、高さ 0.15m である。

1163 は東濃型山茶碗で白土原 1 号窯式期である。1164 は土師器皿でＢ２－ｂ類である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

畦 22（別添図 8、第 86 図）

20 区に位置する。ほぼ南北方向の水田畦畔である。北側で畦 23 ～ 25 と交わり、南側は調査区外へ続く。規模は確認部分で長さ 17.8m である。畦の断面形状は薄い台形状である。畦の幅は下端で 0.9 ～ 1.0m、上端で 0.75 ～ 0.8m、高さ 0.15m である。

1165・1166 は瀬戸美濃産陶器天目茶碗で、1165 は古瀬戸後Ⅳ期、1166 は大窯第 4 段階である。1167 は中国産磁器染付碗で 16 世紀後半代である。1168 は土師器皿Ｂ２－ｂ類で、内面にタールが付着している。1169・1170 は近世瀬戸美濃産陶器である。1169 は擂鉢で連房式登窯第 1 小期、1170 は

片口で江戸後期の美濃窯である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代から近世初頭頃に比定できる。

畦 30（別添図 10、第 86 図）

26 区に位置する。ほぼ東西方向の水田畦畔である。西側で畦 31･32 と交わり、東側は調査外へ続く。規模は確認部分で長さ 3.2m である。畦の断面形状は薄い台形状である。畦の幅は下端で 0.4 ～ 0.45m、上端で 0.3 ～ 0.35m、高さ 0.1m である。

1171・1172 は東濃型山茶碗の碗で、1171 は大畑大洞４号窯式期、1172 は大畑大洞４号窯式期から大畑大洞４号窯式期新段階である。1172 の内面にはススが付着する。

層序の前後関係や出土遺物から、本遺構の時期は室町時代から戦国時代頃に比定できる。

畦 31（別添図 10、第 86 図）

26 区に位置する。ほぼ東西方向の水田畦畔である。東側で畦 30・32 と交わり、西側は調査外へ続く。規模は確認部分で長さ 13.0m である。畦の断面形状は薄い台形状である。畦の幅は下端で 0.4 ～ 0.45m、上端で 0.3m、高さ 0.1m である。

1173 は東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期である。1174 は土師器皿Ｍ４類である。1175・1176 は瀬戸美濃産陶器である。1175 は擂鉢で大窯第 1 段階、1176 は稜皿で大窯第 2 段階である。1177 は美濃須衛窯の須恵器有台杯で、9 世紀初頭である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

畦 32（別添図 10、第 87 図）

25 区・26 区に位置する。ほぼ南北方向の水田畦畔である。中央で畦 30・31 と、北側で畦 33・35 と交わり、南側は調査区外へ続く。規模は確認部分で長さ 25.0m である。畦の断面形状は薄い台形状である。26 区北半では畦検出を間違えており、誤検出した畦の東側に本来の畦が存在した可能性が高い。南側および北端確認部分の畦の幅は下端で 0.7 ～ 1.0m、上端で 0.5 ～ 0.75m、高さ 0.15m である。

1178・1179 は東濃型山茶碗の碗で、1178 は大畑大洞４号窯式期、1179 は脇之島３号窯式期である。1180・1181 は瀬戸美濃産陶器である。1180 は縁釉小皿で古瀬戸後Ⅳ期古段階、1181 は擂鉢で古瀬戸後Ⅳ期新段階である。1182 は中国産磁器青磁碗で、龍泉窯の 15 ～ 16 世紀代である。1183・1184 は土師器皿である。1183 はＢ２－ａ類で、内面にタールが付着する。1184 はＢ２類である。1185 は灰釉陶器椀で、10 世紀末から 11 世紀初頭である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

畦 33（別添図 10、第 87 図）

25 区に位置する。ほぼ東西方向の水田畦畔である。東側で畦 32･35 と交わり、西側は調査区外へ続く。規模は確認部分で長さ 3.9m である。畦の断面形状は薄い台形状である。畦の幅は下端で 0.55 ～ 0.65m、上端で 0.45 ～ 0.5m、高さ 0.1m である。

1186 は東濃型山茶碗の碗で、大洞東 1 号窯式期である。1187 は土師器内耳鍋で、15 ～ 16 世紀頃である。

出土遺物から、本遺構の時期は室町時代から戦国時代頃に比定できる。

畦35（別添図10、第87図）

25区に位置する。ほぼ南北方向の水田畦畔である。南側で畦33･34と交わり、北側は調査外へ続く。規模は確認部分で長さ6.4mである。畦の断面形状は薄い台形状である。畦の幅は下端で0.7～0.9m、上端で0.7～0.8m、高さ0.1mである。

1188は東濃型山茶碗の碗で、明和1号窯式期である。

層序の前後関係や出土遺物から、本遺構の時期は室町時代から戦国時代頃に比定できる。

畦36（別添図10、第87図）

23・24区に位置する。南西－北東水田畦畔である。南西側は調査区外へ続く。規模は確認部分で長さ3.1mである。畦の断面形状は薄い台形状である。畦の幅は下端で0.65～0.7m、上端で0.45m、高さ0.15mである。

1189は土師器皿Ｂ２－ｂ類である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

畦37・38（別添図10、第87図）

23・24区に位置する。いずれも南東－北西方向の畦で、西側および東側は調査区外へ続く。SD23に伴う水田畦畔である。畦37の規模は確認部分で長さ6.4m、畦38の規模は確認部分で長さ5.0mである。畦の断面形状はどちらも薄い台形状である。畦37の幅は下端で0.6～0.7m、上端で0.35～0.45m、高さ0.1～0.15mである。畦38の幅は下端で1.0～1.2m、上端で0.7～0.85m、高さ0.1～0.15mである。

1190～1193は畦37出土遺物である。1190は東濃型山茶碗の碗で、明和1号窯式期である。1191は土師器甕である。1192・1193は土製品土錘である。

1194～1197は畦38出土遺物である。1194・1195は土師器皿である。1194はＣ２類、1195はＢ２－ｂ類である。1196は瀬戸美濃産陶器丸皿で、大窯第2段階前半頃である。1197は近世瀬戸美濃産陶器小杯で、連房式登窯第3～第４小期の美濃窯である。

出土遺物から、両遺構の時期は戦国時代以降に比定できる。

畦42（別添図10、第87図）

27区に位置する。東北東－西南西方向の水田畦畔である。西側で畦40と交わり、東側は調査区外へ続く。上層のSD26・27に切られる。規模は確認部分で長さ4.2mである。畦の断面形状は薄い台形状である。畦の幅は下端で0.6～1.3m、上端で0.5～1.2m、高さ0.1～0.15mである。

1198は瀬戸美濃産陶器稜皿で、大窯第2段階である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代以降に比定できる。

畦45（別添図10、第87図）

29・30区に位置する。ほぼ南北を向く水田畦畔である。北側および南側は調査区外へ続く。規模

は確認部分で長さ 15.5m である。畦の断面形状は薄い台形状である。畦の幅は下端で 0.75 ～ 1.0m、上端で 0.6 ～ 0.75m、高さ 0.1 ～ 0.15m である。

1199 は木製品火付け木で、先端部は炭化している。木取りは割材で、樹種はマツ族複維管束亜属である。

出土遺物のみでは時期の決め手を欠く。層序の前後関係から、本遺構の時期は戦国時代以降に比定できる。

田 1（別添図 8、第 87 図）

16 区西側に位置する。畦 1･畦 4･SX1 に囲まれた耕作地である。南側および東側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 10.5m、短軸方向 7.2 ～ 8.6m である。

1200 ～ 1203 は東濃型山茶碗である。1200･1201 は碗で、生田 2 号窯式期である。1202 は碗で大洞東 1 号窯式期である。1203 は皿で、明和 1 号窯式期である。1204 は時期不明の皿で、外面に墨書が記されるが、判読不能である。1205 は猿投窯須恵器杯で 8 世紀代である。1206 は土師器皿でＢ２－ｂ類である。1207 は土師器清郷型鍋で 11 世紀から 12 世紀頃である。1208 は土製品土鈴で、下半は欠損している。1209 は土製品土錘である。1210 ～ 1212 は瀬戸美濃産陶器である。1210 は柄付片口で古瀬戸後Ⅰ期、1211 は折縁深皿で古瀬戸後Ⅱ期、1212 は擂鉢で大窯第 1 段階である。1213 は近世瀬戸美濃産陶器丸碗で、連房式登窯第 4 小期の美濃窯である。1214 は回転台土師器椀で、10 世紀末から 11 世紀前半である。1215・1216 は灰釉陶器である。1215 は椀で 10 世紀前半の美濃窯、1216 は皿で 11 世紀前半前後の美濃窯である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代から近世初頭頃に比定できる。

田 2（別添図 8、第 87 図）

16 区に位置する。畦 1・2・5 に囲まれた耕作地である。南側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 10.5m、短軸方向 7.8m である。

1217・1218 は東濃型山茶碗の碗で、1217 は 5 型式、1218 は大洞東 1 号窯式期である。1219 は中国産磁器青磁碗で龍泉窯系Ⅰ類である。1220 は土師器皿Ｂ２－ｂ類である。1221 は土師器羽釜である。1222 は瀬戸美濃産陶器の縁釉小皿で、古瀬戸後Ⅳ古段階である。1223 は近世瀬戸美濃産陶器の筒型碗で、連房式登窯第１～２小期の美濃窯である。1224 は石製品刃器で、石材は安山石と考えられる。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代から近世初頭頃に比定できる。

田 3（別添図 8、第 87 図）

16 区に位置する。畦 2・3 に囲まれた耕作地である。南東部のみの確認で、北側および西側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 7.5m、短軸方向 2.8m である。

1225 は東濃型山茶碗の碗で、明和 1 号窯式期から大畑大洞 4 号窯式期である。1226 は土師器皿でＣ２類である。1227 は軒平瓦で、凹面に布目圧痕を有する。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

田５（別添図８、第88図）

17区に位置する。畦10に囲まれた耕作地である。南側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向14.8m、短軸方向7.2mである。

1228～1230は土師器皿で、1228はＭ３類、1229はＣ２類、1230はＢ２－ａ類である。1231は瀬戸美濃産陶器擂鉢で古瀬戸後Ⅳ期新段階である。1232は近世瀬戸美濃の蓋で、連房式登窯第３～４小期の美濃窯である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代以降に比定できる。

田６（別添図８、第88図）

17区に位置する。畦７・11・12に囲まれた耕作地である。南側および東側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向6.2m、短軸方向5.6mである。

1233は土師器皿Ｂ２－ｂ類で、内面にススが付着する。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

田７（別添図８、第88図）

17区に位置する。畦６～９に囲まれた耕作地である北西側および南東側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向17.4m、短軸方向10.8mである。

1234は東濃型山茶碗大畑大洞４号窯式期新段階の碗である。底部外面に墨書が記されるが、判読不能であった。1235・1236は土師器皿で、1235はＢ２－ｂ類、1236はＢ１類である。1237は土製品土鈴である。1238・1239は土製品土錘である。1240～1245は瀬戸美濃産陶器である。1240は縁釉小皿、1241は平碗で、ともに古瀬戸後Ⅳ期古段階である。1242・1243は天目茶碗で古瀬戸後Ⅳ期新段階である。1244は卸目大皿で古瀬戸後Ⅳ期新段階である。1245は口広有耳壺で大窯第１～２段階である。1246～1248は近世瀬戸美濃産陶器である。1246は碗で連房式登窯第１～２小期、1247は丸皿、1248は壺で、ともに連房式登窯第３～４小期の美濃窯である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代から近世初頭頃に比定できる。

田８（別添図８、第88図）

17区・19区に位置する。畦８・10・20・21に囲まれた耕作地である。遺構中央部は調査区外で、北西および南東部のプランのみ確認した。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向17.4m、短軸方向7.5mである。

1249～1255は17区出土遺物である。1249東濃型山茶碗で、大畑大洞４号窯式期新段階である。底部外面に墨書が記されるが、判読不能であった。1250～1253は土師器皿で、1250はＢ２－ａ類、1251はＣ１類、1252はＣ２類、1253はＢ２－ｂ類の大型品である。1254・1255は瀬戸美濃産陶器である。1254は折縁深皿で古瀬戸後Ⅰ期、1255は腰折皿で古瀬戸後Ⅳ期新段階である。

1256は19区出土の土師器皿で、Ｂ２－ｂ類である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

田 9（別添図 8、第 88 図）

19 区に位置する。畦 15・19・21 に囲まれた耕作地である。南側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 12.4m、短軸方向 5.5m である。

1257・1258 は東濃型山茶碗の碗で、1257 は大洞東 1 号窯式期から脇之島 3 号窯式期、1258 は生田 2 号窯式期である。1259 ～ 1261 は美濃須衛窯の須恵器である。1259 は蓋で 8 世紀代、1260 は鉢で 8 世紀代、1261 は把手で 8 世紀後半頃である。1262 ～ 1265 は土師器皿である。1262 はＣ 2 類、1263 はＣ 1 類、1264 はＢ 2 － a 類、1265 はＢ 1 類である。1266 は土製品土錘である。1267 ～ 1270 は瀬戸美濃産陶器である。1267 は直縁大皿で古瀬戸後Ⅳ期古段階、1268 は縁釉小皿で古瀬戸後Ⅳ期古段階、1269 は擂鉢で古瀬戸後Ⅳ期新段階、1270 は天目茶碗で大窯第 1 段階である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

田 11（別添図 8、第 88 図）

19 区に位置する。畦 15・18 に囲まれた耕作地である。南側および西側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 9.8m、短軸方向 3.7m である。

1271 は尾張型山茶碗の碗で、5 型式である。1272 は美濃須衛窯の須恵器蓋で、7 世紀後葉である。1273 ～ 1275 は土師器皿である。1273 はＣ 2 類で、内面にタールが付着する。1274 はＢ 1 類、1275 はＣ 1 類である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

田 14（別添図 8、第 88 図）

17 区・18 区・20 区に位置する。畦６・11・13・22・23 に囲まれた耕作地である。遺構中央部は調査区外で、北西および南東部のプランのみ確認した。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 24.8m、短軸方向 15.0m である。

1276 は 17 区出土の土師器皿Ｃ 2 類で、内面にタールが付着する。1277 は 20 区出土の中国産磁器白磁小杯で、15 ～ 16 世紀代の森田 D 群である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

田 15（別添図 8、第 89 図）

19 区・20 区に位置する。畦 16・19・20・22・25 に囲まれた耕作地である。南側および西側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 24.8m、短軸方向 11.6m である。

1278 ～ 1285 は 19 区出土遺物である。1278 は東濃型山茶碗の皿で、5 型式の窯洞 1 号窯式期である。1279 は土師器皿Ｃ 2 類である。1280 は土製品土錘である。1281 ～ 1284 は瀬戸美濃産陶器である。1281 は擂鉢で古瀬戸後Ⅳ期新段階、1282 は擂鉢で大窯第 1 段階、1283 は丸皿で大窯第 2 段階、1284 は天目茶碗で大窯第 4 段階前半である。1285 は近世瀬戸美濃産陶器鉄絵皿で、連房式登窯第 1 小期である。

1286 ～ 1295 は 20 区出土遺物である。1286 は東濃型山茶碗の皿で、明和 1 号窯式期である。1287 は灰釉陶器椀で、11 世紀前半前後の美濃窯である。1288 は中国産磁器の青磁大盤で、龍泉窯系 14 ～ 15 世紀代である。1289 は土師器皿Ｃ 2 類で、内面にタールが付着する。1290 ～ 1293 は瀬戸美濃産

陶器である。1290 は腰折皿で古瀬戸後Ⅳ期新段階、1291 は燭台で古瀬戸後Ⅳ期、1292 は端反皿で大窯第 1 段階、1293 は灯明皿で大窯第 1 段階である。1294 は近世瀬戸美濃産陶器天目茶碗で、連房式登窯第 2 小期である。1295 は石製品砥石で、硯の転用品である。使用面は 2 面である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代から近世初頭頃に比定できる。

田 16（別添図 8、第 89 図）

21 区・22 区に位置する。畦 23・24・26 に囲まれた耕作地である。南側および西側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 15.6m、短軸方向 12.0m である。

1296 ～ 1309 は 21 区出土遺物である。1296 瀬戸美濃産陶器天目茶碗で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。1297 は尾張型山茶碗大平鉢で、6 型式である。1298 は美濃須衛窯の須恵器蓋で、7 世紀後葉である。1299 ～ 1302 は土師器皿である。1299・1300 はＢ２－ｂ類で、1300 の内面にタールが付着する。1301 はＢ１類、1302 はＢ２－ａ類で、1302 の内面にタールが付着する。1303 は土製品土錘である。1304 ～ 1306 は瀬戸美濃産陶器である。1304 は擂鉢で大窯第 1 段階、1305 は天目茶碗で大窯第 3 段階、1306 は折縁皿で大窯第 4 段階前半である。1307 ～ 1309 は近世瀬戸美濃産陶器である。1307 は皿で連房式登窯第 2 小期、1308 は天目茶碗で連房式登窯第 3 ～ 4 小期の美濃窯、1309 は丸碗で連房式登窯第 3 ～ 4 小期の美濃窯である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代から近世初頭頃に比定できる。

田 18（別添図 8、第 89 図）

22 区・30 区に位置する。畦 26・29・46 に囲まれた耕作地である。南側および西側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 19.2m、短軸方向 16.4m である。

1310 ～ 1316 は 22 区出土遺物である。1310・1311 は東濃型山茶碗の碗で、1310 は大洞東 1 号窯式期、1311 は生田 2 号窯式期である。1312 は中国産磁器の青磁小盤で、13 世紀代である。1313 は土師器皿Ｃ２類で、内面にタールが付着する。1314 は瀬戸美濃産陶器の大皿で、大窯第 4 段階である。1315 は近世瀬戸美濃産陶器天目茶碗で、連房式登窯第 1 小期である。1316 は土製品土錘である。

出土遺物から本遺構の時期は戦国時代から近世初頭頃に比定できる。

田 19（別添図 8、第 89 図）

22 区に位置する。畦 27・SD13 に囲まれた耕作地である。北側および南側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 26.0m、短軸方向 6.4m である。

1317 は東濃型山茶碗の碗で明和 1 号窯式期である。1318 は土師器皿Ｂ２－ａ類である。1319 は土製品土錘である。1320・1321 は瀬戸美濃産陶器である。1320 は折縁深皿で古瀬戸後Ⅱ期、1321 は土瓶蓋で古瀬戸後期である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

田 21（別添図 10、第 90 図）

25・26 区に位置する。畦 30・32・34 に囲まれた耕作地である。ただし、26 区北側については畦 32 を誤検出しているため、田 22 との境界が不明稜である。東側は調査区外へ続く。水田一筆の規模

は確認部分で長軸方向 15.5m、短軸方向 6.9m である。

1322・1323 は東濃型山茶碗の碗である。1322 は大畑大洞４号窯式期新段階である。1323 は大洞東１号窯式期である。底部外面に墨書が記されるが、判読不能であった。1324 は土製品土錘である。1325 は弥生土器壺で、弥生時代中期である。

出土遺物から、本遺構の時期は室町時代から戦国時代頃に比定できる。

田 22（別添図 10、第 90 図）

25 区・26 区に位置する。畦 31 ～ 33 に囲まれた耕作地である。ただし、26 区北側については畦 32 を誤検出しているため、田 21 との境界が不明稜である。西側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 14.2m、短軸方向 13.0m である。

1326 ～ 1329 は東濃型山茶碗である。1326 は碗、1327 は皿で、大畑大洞４号窯式期である。1328 は碗で、大洞東１号窯式期である。1329 は皿で、生田２号窯式期である。1330 は灰釉陶器の壺で、９世紀代である。1331 ～ 1334 は瀬戸美濃産陶器である。1331 の卸皿で古瀬戸後Ⅱ期、1332 は浅碗で古瀬戸後Ⅱ期、1333 は平碗で古瀬戸後Ⅳ期古段階、1334 は直縁大皿で古瀬戸後Ⅳ期古段階である。1335 は近世瀬戸美濃産陶器の丸碗で、連房式登窯第３～４小期の美濃窯である。1336・1337 は土製品土錘である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代以降に比定できる。

田 23（別添図 10、第 90 図）

23 ～ 25 区に位置する。畦 34 ～ 36・SD29 に囲まれた耕作地である。南側および東側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 19.2m、短軸方向 15.0m である。

1338・1339 は 23 区出土遺物である。1338 は土師器皿Ｃ１類である。1339 は土製品土錘である。

1340 ～ 1365 は 25 区出土遺物である。1340 ～ 1343 は東濃型山茶碗皿で、いずれも大畑大洞４号窯式期である。1344 は尾張型山茶碗の大平鉢で、11 形式である。1345 は美濃須衛窯の須恵器短頸壺で、9 世紀初頭である。1346 は石製品扁平片刃石斧である。全体を丁寧に研磨しており、基部と刃部の一部を欠損する。1347 は中国産磁器口禿碗で、Ⅸ類である。1348 ～ 1352 は土師器皿である。1348 はＣ２類、1349 はＣ１類である。1350 はＢ２－ｂ類で内外面にタールが付着する。1351 はＢ２－ｂ類、1352 はＢ２－ａ類である。1353 ～ 1355 は瀬戸美濃産陶器である。1353 は縁釉小皿、1354 は天目茶碗でともに古瀬戸後Ⅲ期、1355 は丸皿で大窯第 2 段階前半である。1356 は近世瀬戸美濃産陶器天目茶碗で、連房式登窯第３～４小期である。1357・1358 は土製品土鈴である。1359 ～ 1363 は土製品土錘である。1364・1365 は木製品火付け木で、先端は炭化している。木取りは割材で、樹種はマツ族複維管束亜属である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代以降に比定できる。

田 24（別添図 10、第 90 図）

25 区に位置する。畦 33・35 に囲まれた耕作地である。東側および北側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 8.2m、短軸方向 4.4m である。

1366 は土師器皿Ｂ２－ａ類で、内面にタールが付着する。1367 は土製品土鈴である。1368 は土製

品土錘である。1369 ～ 1372 は瀬戸美濃産陶器である。1369 は内耳鍋で古瀬戸後Ⅳ期古段階、1370 は擂鉢で古瀬戸後Ⅳ期新段階、1371 は天目茶碗で大窯第 1 段階、1372 は稜皿で大窯第 2 段階である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

田 25（別添図 10、第 91 図）

28・29・30 区に位置する。畦 44・畦 45 に囲まれた耕作地である。南側および東側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 17.4m、短軸方向 13.8m である。

1373 は尾張型山茶碗の漆付小碗で、４型式である。1374 は尾張型山茶碗の碗で、6 型式である。1375 は美濃須衛型山茶碗の碗で 5 型式である。1376 は土製品土錘である。

層序の前後関係や出土遺物から、本遺構の時期は室町時代から戦国時代頃に比定できる。

田 26（別添図 10、第 91 図）

29・30 区に位置する。畦 45・畦 46 に囲まれた耕作地である。北側および南側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 22.6m、短軸方向 8.8m である。

1377 は尾張型山茶碗 6 型式の碗で、墨書が記されるが、文字の一部「日」しか判読できなかった。1378 は尾張型山茶碗の碗で、６型式である。1379 ～ 85 は東濃型山茶碗である。1379 は皿で白土原１号窯式期、1380・1381 は碗で白土原１号窯式期、1382 は碗で明和１号窯式期、1383 は碗で大洞東１号窯式期、1384 は碗で大洞東１号窯式期から脇之島３号窯式期、1385 は皿で脇之島３号窯式期である。1386 は土師器皿で、Ｍ１からＭ２類である。内外面にススが付着する。1387 は灰釉陶器椀で、10 世紀末頃である。1388 ～ 1390 は土製品土錘である。

層序の前後関係や出土遺物から、本遺構の時期は室町時代から戦国時代頃に比定できる。

田 27（別添図 10、第 91 図）

23・24 区に位置する。畦 38 に囲まれた耕作地である。北側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 7.2m、短軸方向 5.0m である。

1391 ～ 1393 は土師器皿である。1391 はＢ２－ａ類、1392・1393 はＢ２－ｂ類である。1394 は土師器伊勢型鍋で 12 世紀頃である。1395 は土師器羽釜である。1396 は縁釉小皿で古瀬戸後Ⅳ期古段階、1397 は端反皿で大窯第 1 段階、1398 は擂鉢で古瀬戸後Ⅰ期から大窯第 1 段階、1399 は擂鉢で大窯第 1 段階、1400 は擂鉢で大窯第 3 段階後半である。1401・1402 は土製品土鈴である。1403 ～ 1406 は土製品土錘である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

田 28（別添図 10、第 91 図）

23・24 区に位置する。SD29・畦 37 に囲まれた耕作地である。南側および西側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 6.6m、短軸方向 2.0m である。

1407 は東濃型山茶碗の碗で、生田２号窯式期である。1408・1409 は土師器内耳鍋で、ともに室町時代から戦国時代頃である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

田 32（別添図 10、第 91 図）

27・28 区に位置する。畦 43・SD29 に囲まれた耕作地である。東側および西側は調査区外へ続く。水田一筆の規模は確認部分で長軸方向 21.0m、短軸方向 13.6m である。

1410 ～ 1412 は 27 区出土遺物である。1410・1411 は土師器皿である。1410 はＭ３からＭ４類、1411 はＢ２－ｂ類である。1412 は瀬戸美濃産陶器内耳鍋で、古瀬戸後Ⅳ期古段階である。

1413・1414 は 28 区出土遺物である。1413 は中国産磁器青磁碗で、Ｂ－１類である。1414 は瀬戸美濃産陶器内耳鍋で、古瀬戸後Ⅳ期古段階である。

出土遺物から、本遺構の時期は戦国時代頃に比定できる。

Ⅲａ層出土遺物（第 92 ～ 94 図）

Ⅲａ層は上層水田面の耕作土である。主に上層水田面耕作土の掘削、調査区周囲のサブトレンチ掘削、あるいは畦畔検出時に出土した遺物で、確実に本層に含まれるものである。

1415 は 16 区出土遺物で、銅製品煙管吸口である。

1416 ～ 1435 は 17 区出土遺物である。1416 は銅製品煙管雁首である。1417 ～ 1420 は尾張型山茶碗である。1417 は５型式の碗、1418 は６型式の碗で、1418 の底部外面に墨書「八木」もしくは「以」が記される。1419・1420 は大平鉢で、1419 は６型式、1420 は 10 型式である。1421・1422 は東濃型山茶碗の碗である。1421 は５型式丸石３号窯式期、1422 は明和１号窯式期である。1422 の底部外面に墨書「五」が記される。1423・1424 は瀬戸美濃産陶器擂鉢で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。1425 は瀬戸美濃産陶器の志野皿で、大窯第４段階後半である。1426 は近世瀬戸美濃産陶器の蓋で、連房式登窯第３～４小期の美濃窯である。1427 は近世陶器肥前の蕎麦猪口である。1428 ～ 1430 は土師器皿である。1428 はＢ２－ａ類、1429 はＢ２－ｂ類、1430 はＣ１類である。1431 は美濃須衛窯の須恵器壺で、８世紀初頭以降である。1432 は猿投窯の須恵器杯蓋で、7 世紀代である。1433・1434 は灰釉陶器椀である。1433 は 10 世紀中頃前後の美濃窯である。1434 は 10 世紀末～ 11 世紀前半頃の美濃窯で、内面見込み部に墨が付着している。1435 は土製品土鈴である。

1436 ～ 1445 は 18 区出土遺物である。1436 は瀬戸美濃産陶器擂鉢で、大窯第４段階後半である。1437 は近世瀬戸美濃産陶器擂鉢で、連房式登窯第２小期である。1438 は美濃須衛窯の須恵器高杯で、７世紀後葉である。1439 は灰釉陶器椀で９世紀末から 10 世紀前半である。1440 ～ 1442 は土製品土鈴である。1443 は石製品砥石で、使用面は３面である。1444 は石製品有舌尖頭器で、石材はチャートである。先端部は欠損している。1445 は木製品火付け木で、先端部分は炭化している。樹種はマツ族複維管束亜属である。

1446 は 19 区出土の近世瀬戸美濃産陶器丸皿で、連房式登窯第３～４小期の美濃窯である。

1447 ～ 1452 は 20 区出土遺物である。1447・1448 は近世瀬戸美濃産陶器である。1447 は皿で連房式登窯第３～４小期の美濃窯、1448 は反り皿で連房式登窯第４小期である。1449 ～ 1451 は土製品土鈴である。1452 は土製品土錘である。

1453 は 22 区出土の土師器羽釜である。

1454 は 23・24 区出土の石製品砥石で、使用面は２面である。

1455 ～ 1467 は 25 区出土遺物である。1455 ～ 1457 は尾張型山茶碗である。1455・1456 は皿で５型式である。1457 は６型式の碗で、底部外面に墨書「十」が記される。1458 は美濃須衛型もしくは

東濃型山茶碗の碗で、５型式である。1459 は東濃型山茶碗の碗で、生田２号窯式期である。1460 は中国産磁器の白磁六角杯で、15 世紀前半から中頃のＢ群である。1461 は瀬戸美濃産陶器内耳鍋で、古瀬戸後Ⅳ期古段階である。1462 は瀬戸美濃産陶器内禿皿で、大窯第３段階後半である。1463 は土師器皿で、Ｂ２－ｂ類である。1464 は美濃須衛窯の須恵器無台杯で、７世紀後葉から８世紀初頭である。1465 は灰釉陶器長頸瓶で、10 世紀末前後である。1466 は鉄製品不明品である。1467 は石製品砥石で、使用面は４面である。

1468 ～ 1476 は 26 区出土遺物である。1468 は東濃型山茶碗脇之島３号窯式の碗で、内面に漆が付着し、底部外面に墨書が記されるが、判読不能であった。1469 は瀬戸美濃産陶器内禿皿で、大窯第３段階後半である。1470 は近世瀬戸美濃産陶器の蓋で、連房式登窯第３～４小期の美濃窯である。1471 は土師器皿で、Ｂ２－ｂ類である。1472・1473 は美濃須衛窯の須恵器有台杯で、９世紀初頭である。1474 は土製品土錘である。1475・1476 は木製品火付け木で、先端部が炭化している。樹種はともにマツ族複維管束亜属である。

1477 ～ 1483 は 27 区出土遺物である。1477 は尾張型山茶碗の碗で、５型式である。1478 は東濃型山茶碗の皿で、５型式丸石３号窯式期である。1479 は瀬戸美濃産陶器擂鉢で、大窯第１段階である。1480 は瀬戸美濃産陶器稜皿で、大窯第３段階である。1481 は近世瀬戸美濃産陶器鉄絵皿で、連房式登窯第１小期の美濃窯である。1482 は土師器皿Ｍ３類である。1483 は土製品土鈴である。

1484 ～ 1516 は 28 区出土遺物である。1484 ～ 1487 は尾張型山茶碗の碗である。1484 は４型式、1485 は５型式、1486・1487 は６型式である。1488 は尾張型山茶碗片口鉢で、６型式である。1489 ～ 1494 は東濃型山茶碗の皿である。1489 はは白土原１号窯式期、1490 は明和１号窯式期、1491 は大畑大洞４号窯式期、1492・1493 は大洞東１号窯式期から脇之島３号窯式期、1494 は生田２号窯式期である。1495 は美濃須衛型山茶碗小碗で、４型式である。1496 は中国産磁器青磁碗で 12 ～ 13 世紀頃である。1497 は中国産磁器染付で、16 世紀後半である。1498 ～ 1503 は瀬戸美濃産陶器である。1498 は折縁中皿で古瀬戸後Ⅰ期、1499 は卸皿で古瀬戸後Ⅳ期古段階、1500 は縁釉小皿で古瀬戸後Ⅳ期古段階、1501・1502 は擂鉢で古瀬戸後Ⅳ期新段階、1503 は天目茶碗で大窯第４段階後半である。1504 ～ 1508 は土師器皿である。1504・1505 はＭ２かＭ３類、1506 はＢ２－ｂ類で、外面に煤が付着する。1507 はＣ１類、1508 はＣ２類で、口縁外面にタールが付着する。1509 は土師器伊勢型鍋で 12 世紀代である。1510 は美濃須衛窯の須恵器壺で、９世紀初頭である。1511 は美濃須衛窯の須恵器脚部で、時期不明である。1512 ～ 1515 は土製品土錘である。1516 は銅製品銅銭で、「開元通宝」である。

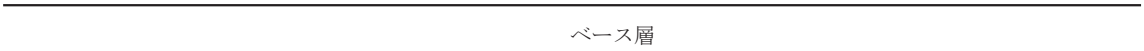
1517 は 29・30 区出土の火付け木で、先端部は炭化している。樹種はマツ族複維管束亜属である。

出土遺物から、本層の形成時期は戦国時代から近世初頭頃に比定できる。

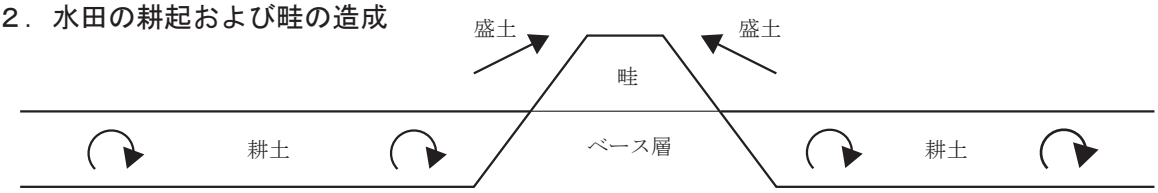
〈水田耕土の形成過程および水田区画の変遷について〉

岩田西遺跡では、Ⅲａ層とⅢｂ層の計２面で水田跡や畦を確認した。いずれも層厚は 0.1 ～ 0.15 m程度で、層中のプラント・オパール数量が多いことから、安定した水田経営が行われていたと考えられる。また、これらの水田耕土形成過程を考えると、鎌倉時代以降、水田耕土を浸食するような大規模氾濫は無いが、水田が水浸しになり、泥が覆うような氾濫は頻繁に発生していたと考えられる（図 43 の 3)。岩田西遺跡の場合、氾濫堆積がそれほど厚くなかったため、水田復旧の耕起により元々の

１．ベースとなる氾濫堆積もしくは水田耕土

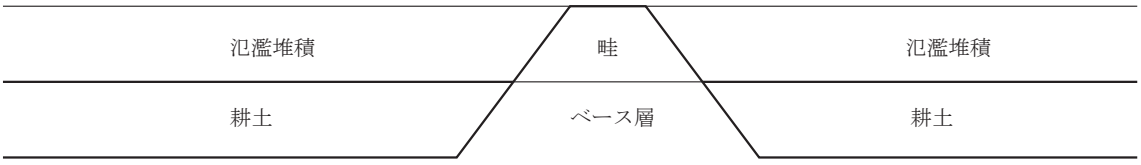


２．水田の耕起および畦の造成



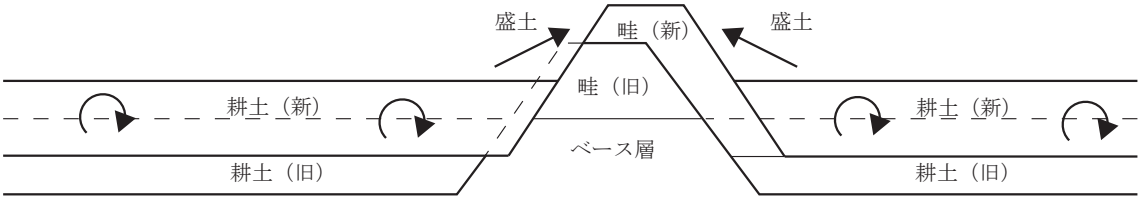
ベースとなる氾濫堆積もしくは水田耕土に含まれる遺物は、耕起の際に上層へと巻き上げあられる

３．氾濫堆積による埋没

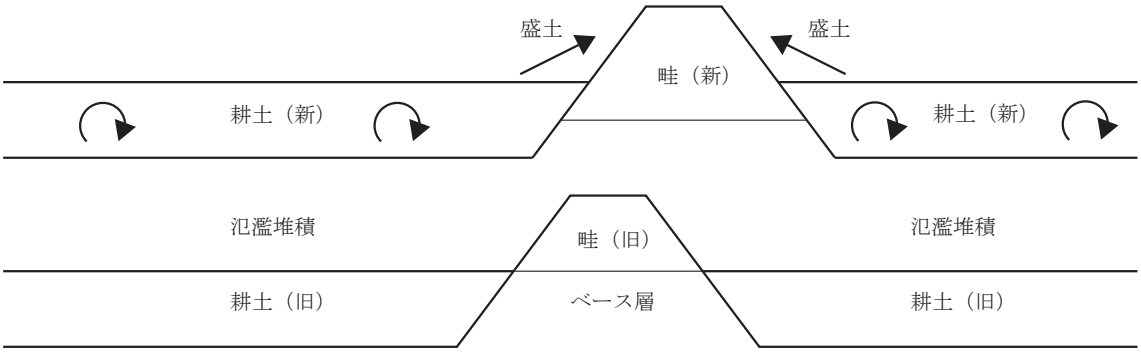


立地条件から見て、長良川の氾濫の影響を受けていたと考えられるが、岩田西遺跡付近では流路が大きく変動するような氾濫は中世段階では無かったと推定される

４．水田の復旧（再耕起および畦の再造成）

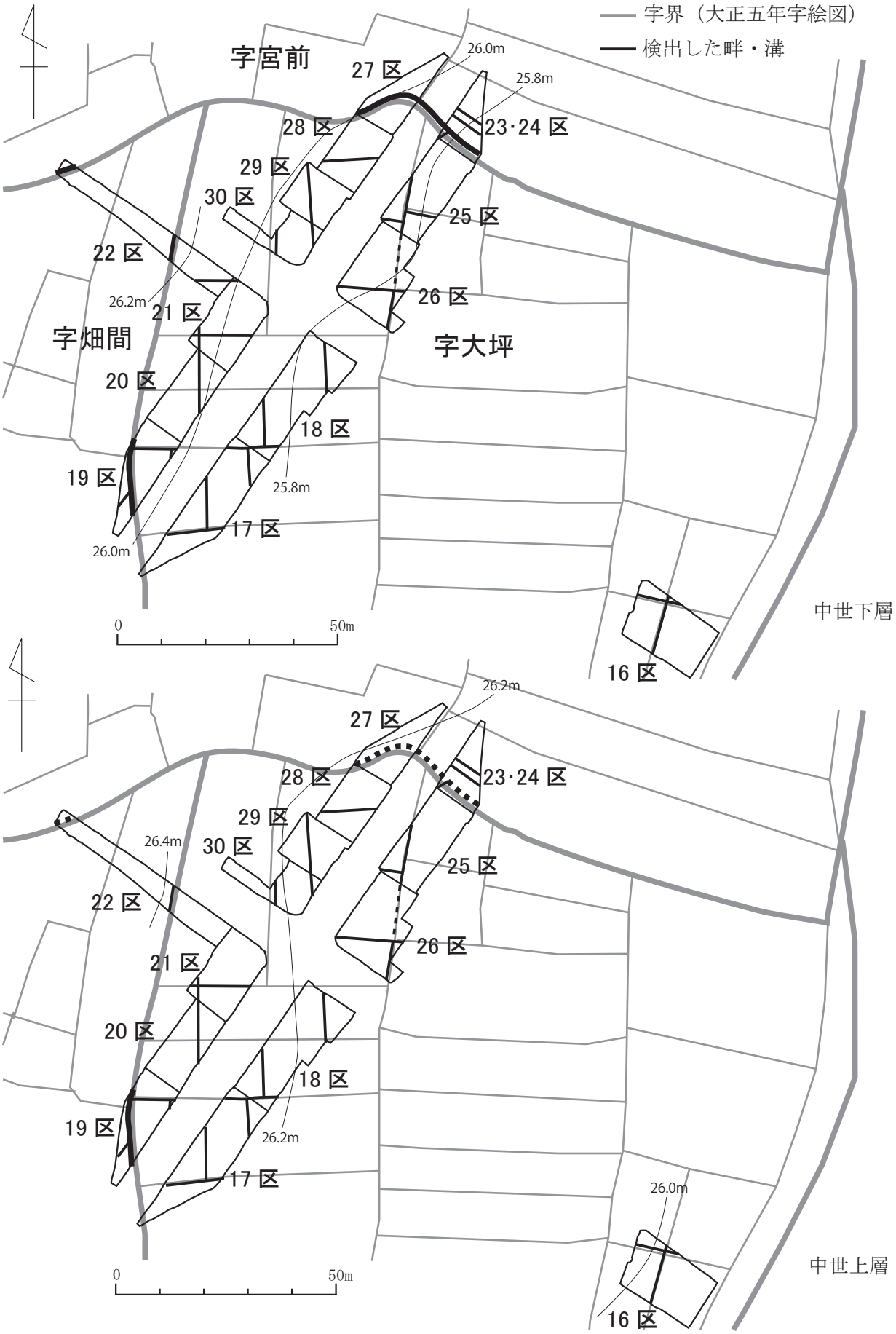


氾濫堆積が少ないと、元の水田耕作面や畦の一部は上層からの耕起によって壊される復旧の度に、畦の位置を踏襲し続けていたと推定される
畦（旧）が耕土（新）と同一レベルにあると、新しい遺物の混入する可能性が高い



岩田西遺跡では見られないが、氾濫堆積が多いと元の水田耕作面や畦はパックされ、上層からの耕起によって壊されず、新しいの遺物の混入はまず無い

第 43 図　水田耕土の形成過程模式図



第 44 図　水田区画変遷図

耕作土と堆積物が混じり合い、氾濫の痕跡は残らなかったと推定される。また、水田耕作土は遺物の一括性は保たれておらず、下層や上層の遺物が混じり合うような状況である（図 43 の 4）。

また、畦復旧の際は、下層の畦を取り込むようにほぼ同位置に畦を再造成するケースがほとんどである（図 43 の 4）。Ⅲａ層とⅢｂ層の水田区画を比較すると、畦や水田・溝の位置はほぼ同位置に造られており、22 区・25 区の一部を除き、区画を踏襲し続けていたことが明らかとなった（図 44）。

水田区画および畔の形成、溝の掘削は、西側の微高地から東側の微低地に向かって傾斜する旧地形に沿っており、地形に合わせて計画的に行ってていたと考えられる。西から東へ、傾斜を利用した配水を行うため、「字畑間」と「字大坪」の間で大きく南北方向に区画し、「字大坪」の中で細かく南北方向の畔を形成し区画している。また、SD26 ～ 30 が位置する「字宮前」と「字大坪」の字界付近は微高地から微低地へと変わる地点であり、溝を同位置で何度も造ること、字界として長期にわたり存続することから、元々存在した流路など自然地形を利用した可能性が高い。その後中世以降、近現代までの間に水田区画については軸線が東西方向中心に変わっていくが、大畦畔や主要な溝は同位置に造り続けられており、土地条件に合わせた水田経営を続けていたといえよう。

第 3 節　近世以降の遺構と遺物

SD27（別添図 10・12、第 95 図）

23・24 区南側、27 区中央付近に位置する。23・24 区では北西方向、27 区では西北西方向と、大きく蛇行する溝である。SD26・28・29 とほぼ同じ位置にあり、近現代の SD26 に切られ、下層の SD28・29 を切る。本来の溝の肩部はほとんど遺存しないが、27 区では溝の両側に畦 39・畦 43 を伴うことが確認できた。西側および東側は調査区外である。規模は確認部分で長さ 34.0m、幅 2.5m、深さ 0.35m である。断面形状は皿状である。

1518・1519 は東濃型山茶碗である。1518 は碗で明和 1 号窯式期から大畑大洞 4 号窯式期である。1519 は大畑大洞 4 号窯式期の皿で、底部外面に墨書が記されるが、判読不能であった。1520 は瀬戸美濃産陶器の擂鉢で、大窯第 2 段階である。1521 は近世瀬戸美濃産陶器端反り碗で、連房式登窯第 10 ～ 11 小期である。1522 はサブトレンチ出土で、土製品土錘である。

出土遺物から、本遺構の時期は近世後半頃に比定できる。

SD14（別添図 8、第 95 図）

20 区中央付近に位置する。西北西を向く溝である。規模は長さ 4.6m、幅 0.5m、深さ 0.1m である。断面形状は浅い皿状で、耕作痕の可能性が考えられる。

1523 は近世瀬戸美濃産陶器の志野皿で、連房式登窯第 1 小期である。

出土遺物から、本遺構の時期は江戸時代前半頃に比定できる。

SD12（別添図 8、第 95 図）

22 区西端に位置する。東北東を向く溝で、北側および南側は調査区外へ続く。中世の SD13 を切る。規模は確認部分で長さ 5.0m、幅 1.7m、深さ 0.7m である。断面形状はU字形に近い。字図に一致する

溝であり、本遺構の方向や区画を昭和 40 年代のほ場整備直前まで踏襲していたと考えられる。

1524 は回転台土師器碗で、10 世紀末から 11 世紀前半である。1525 は平瓦で、凹面に布目痕を有する。1526 は美濃須衛窯の須恵器壺で、8 世紀代である。1527 は土師器皿Ｃ２類である。1528 は尾張型山茶碗の碗で、5 型式である。

図化した遺物の他、近世陶器や明治以降の染付が含まれることから、本遺構の時期は近世から近現代頃に比定できる。

Ⅱ層出土遺物（第 95 図）

Ⅱ層は近世以降の水田耕作土と考えられる。主に重機掘削直後の上層水田面検出時に出土した遺物で、確実に本層に含まれるものはここで報告する。

1529 ～ 1534 は 16 区出土遺物である。1529 は尾張型山茶碗の碗で 5 型式である。1530 は土製品土錘である。1531 は土製品土鈴である。1532 ～ 1534 は近世瀬戸美濃産陶器である。1532 は折縁鉄絵皿で、連房式登窯第 1 小期の美濃窯である。1533 は天目茶碗で、連房式登窯第 3 ～ 4 小期である。1534 は反り皿で、連房式登窯第 3 ～ 4 小期の美濃産である。1535 は瀬戸美濃産陶器端反丸皿で、大窯第 1 ～ 2 段階である。

1536 は 17 区出土の近世陶磁器で肥前の碗である。

1537 ～ 1547 は 19 区出土遺物である。1537 は尾張型山茶碗の碗で、5 型式である。1538 は美濃須衛窯の須恵器の蓋つまみで、7 世紀後葉である。1539 は中国産磁器青磁端反碗で、同安窯系Ⅳ－１類である。1540 ～ 1542 は土師器皿で 1540 はＢ２－ｂ類、1541・1542 はＣ２類である。いずれも内外面にタールが付着する。1543 は土製品土鈴である。1544 は近世瀬戸美濃産陶器の天目茶碗で、連房式登窯第２小期である。1545 は瀬戸美濃産陶器縁釉小皿で、古瀬戸後Ⅳ期古段階である。1546 は瀬戸美濃産陶器丸皿で、大窯第２段階である。1547 は近世陶器伊万里の碗である。

1548 ～ 1554 は 20 区出土遺物である。1548・1549 は土師器皿Ｂ２－ｂ類である。1550・1551 は近世瀬戸美濃産陶器天目茶碗で、1550 は連房式登窯第 1 小期、1551 は連房式登窯第 5 ～ 6 小期である。1552 は近世瀬戸美濃産陶器丸碗で、連房式登窯第 3 ～ 4 小期の美濃窯である。1553 は筒型碗で、連房式登窯第 3 ～ 4 小期の美濃窯である。1554 は稜皿で、大窯第 3 段階である。

1555・1556 は 25 区出土遺物である。1555 は近世瀬戸美濃産陶器擂鉢で、連房式登窯以降である。1556 は東濃型山茶碗の碗で、明和１号窯式期である。

1557 ～ 1561 は 28 区出土遺物である。1557 は土師器皿Ｃ２類である。1558 は土製品土錘である。1559・1560 は土製品土玉である。1561 は瀬戸美濃産陶器稜皿で、大窯第 3 段階前半である。

SD26（別添図 10、第 96 図）

23・24 区南側、27 区南側、28 区北西に位置する。23・24 区ではほぼ北西を向き、27 区で西南西へと向きを変える溝である。SD27・29 とほぼ同じ位置にあり、これら下層の溝を切る。規模は確認部分で長さ 34m、幅 1.8 ～ 2.0m、深さ 0.6m である。大正五年の字絵図に一致する溝であり、本遺構の方向や区画を昭和 40 年代のほ場整備直前まで踏襲していたと考えられる。

1562 は土製品土錘である。1563 は尾張型山茶碗の碗で、７型式の瀬戸窯である。1564 は東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期新段階である。1565・1566 は近世陶器肥前の碗である。1567 は瀬

戸美濃産陶器の灯明皿で、大窯第１段階である。1568 は近世瀬戸美濃産陶器の灯明皿で、連房式登窯第９小期の美濃産である。1569 は瀬戸美濃産陶器の端反碗で連房式登窯第 10 ～ 11 小期である。

出土遺物はこの他、明治以降の染付やガラス瓶が出土する。出土遺物から、本遺構の時期は近現代以降に比定できる。

第４節　包含層その他出土遺物

包含層その他出土遺物は、主に重機掘削や調査区周囲のサブトレンチ、もしくは深掘掘削時に出土したものである。

Ⅴ層出土遺物（第 96 図）

1570 は 18 区出土の石製品用途不明品である。1571・1572 は 20 区出土遺物である。1571 は猿投窯の須恵器杯で、7 世紀後半である。1572 は弥生土器壺で、弥生時代中期中葉である。1573 は 22 区出土の弥生土器高杯もしくは壺で、弥生時代中期である。

Ⅳ層出土遺物（第 96 図）

1574 ～ 1578 は 16 区出土遺物である。1574 は灰釉陶器鉢で、10 世紀末前後である。1575 は灰釉陶器椀で、9 世紀末から 10 世紀前半である。1576 は美濃須衛窯の須恵器有台杯で、9 世紀初頭頃である。1577 は土師器甕である。1578 は弥生土器壺で、弥生時代中期中葉である。

1579 は 17 区出土遺物で常滑片口鉢である。

1580・1581 は 18 区出土遺物である。1580 は灰釉陶器椀で、9 世紀末から 10 世紀前半である。1581 は尾張型山茶碗の碗で５型式である。

1582 ～ 1584 は 19 区出土遺物である。1582 は東濃型山茶碗の碗で、５型式の窯洞１号窯式期である。1583 は東濃型山茶碗の皿で大畑大洞４号窯式期新段階である。1584 は尾張型山茶碗の碗で５型式である。

1585 は 20 区出土遺物の尾張型山茶碗の碗で、４から５型式である。

1586 ～ 1588 は 23･24 区出土遺物 1586 は灰釉陶器碗で、11 世紀初頭から前半頃である。1587 は美濃須衛型山茶碗の碗で、5 型式である。1588 は美濃須衛窯の須恵器の椀で、9 世紀初頭である。

1589 は 25 区出土遺物で、美濃須衛窯の須恵器有台杯で、9 世紀初頭である。

1590・1591 は 28 区出土遺物である。1590 は土製品土錘である。1591 は弥生土器高杯で、弥生時代後期末から古墳時代初頭である。

Ⅳ～Ⅴ層出土遺物（第 97 図）

1592 ～ 1594 は 28 区出土遺物である。1592 は土師器高杯、1593 は土師器台付甕で、古墳時代初頭頃である。1594 は土師器把手である。

Ⅲｂ～ｃ層出土遺物（第 97 図）

1595 ～ 1598 は 17 区出土遺物である。1595 は東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞４号窯式期である。

底部外面に墨書「大」が記される。1596 は美濃須衛窯の須恵器椀で、９世紀初頭である。1597 は瀬戸美濃産陶器天目茶碗で、大窯第３段階である。1598 は瀬戸美濃産陶器の擂鉢型小鉢で、古瀬戸後Ⅲ期の地元流通品である。

1599 ～ 1608 は 18 区出土遺物である。1599 は東濃型山茶碗の皿で、白土原１号窯式期である。1600 は尾張型山茶碗の皿で、6 型式である。1601 は常滑産陶器擂鉢である。
1602 は石製品石鏃で、石材は下呂石である。1603・1604 は土師器皿Ｂ２－ｂ類である。1605 は土製品土錘である。1606 は瀬戸美濃産陶器擂鉢で、後Ⅳ期新段階である。1607 は瀬戸美濃産陶器天目茶碗で後Ⅳ期新段階である。1608 は瀬戸美濃産陶器卸皿で、後ⅡからⅢ期である。

1609 ～ 1611 は 27 区出土遺物である。1609 は中国産磁器青磁碗で龍泉窯系Ⅰ類である。1610 は土製品土錘である。1611 は瀬戸美濃産陶器擂鉢で、大窯第１段階である。

Ⅲａ～ｃ層出土遺物（第 97 図）

1612 ～ 1614 は 18 区出土遺物である。1612 は灰釉陶器椀で、11 世紀後半の尾張窯である。1613 は近世瀬戸美濃産陶器の志野皿で、連房式登窯第１小期である。1614 は瀬戸美濃産陶器端反皿または丸皿で、大窯第１～２段階である。

1615・1616 は 26 区出土遺物である。1615 は東濃型山茶碗で、大畑大洞４号窯式期である。1615 は底部外面に墨書「小」が記される。1616 は土師器皿Ｍ２からＭ３類である。

Ⅲａ～ｂ層出土遺物（第 97 図）

1617 ～ 1625 は 18 区出土遺物である。1617 は東濃型山茶碗の碗で生田２号窯式期である。1618 は中国産磁器青磁碗で龍泉窯系Ⅰ－５類である。1619 は中国産磁器青磁碗で、龍泉窯系 15 世紀から 16 世紀の上田Ｂ－Ⅳ群である。1620 は中国産磁器白磁碗５類である。1621 ～ 1623 は土師器皿である。1621 はＢ１類、1622・1623 はＢ２－ｂ類である。1624 は土製品土錘である。1625 は瀬戸美濃産陶器端反皿で、大窯第１段階である。

Ⅲａ～Ⅳ層出土遺物（第 97 図）

1626 ～ 1629 は 28 区出土遺物である。1626・1627 は灰釉陶器椀で、10 世紀末から 11 世紀前半である。1628 は瀬戸美濃産陶器天目茶碗で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。1629 は瀬戸美濃産陶器擂鉢で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。

Ⅲ～Ⅴ層出土遺物（第 97 図）

1630 は 20 区出土遺物の土師器皿Ｍ３類で、タールが付着している。

Ⅲ～Ⅳ層出土遺物（第 98 図）

1631 ～ 1636 は 16 区出土遺物である。1631 は東濃型山茶碗の碗で５型式である。1632 は東濃型山茶碗の皿で、５型式窯洞１号窯式期である。1633 は東濃型山茶碗の碗で、明和１号窯式期から大畑大洞４号窯式期である。1634 は尾張型山茶碗の碗で、５型式である。1635 は美濃須衛窯の須恵器の杯で、８世紀後半頃である。1636 は近世瀬戸美濃産陶器の反り皿で、連房式登窯第３～４小期の美

濃窯である。

1637 ～ 1639 は 17 区出土遺物である。1637 は尾張型山茶碗の皿で、6 型式である。底部外面に墨書「十」が記される。1638 は尾張型山茶碗の碗で、6 型式である。片口を有し、内面に墨が付着する。1639 は美濃須衛窯の須恵器の瓶で、7 世紀後葉である。

1640・1641 は 19 区出土遺物である。1640 は灰釉陶器椀で、時期不明の美濃産である。1641 は東濃型山茶碗の碗で、大畑大洞 4 号窯式期から大畑大洞 4 号窯式期新段階である。外面にタール、内面に漆が付着する。

Ⅱ～Ⅲ層出土遺物（第 98 図）

1642 ～ 1648 は 16 区出土遺物である。1642 は東濃型山茶碗の碗で、５型式窯洞 1 号窯式期である。1643 は中国産磁器の青磁碗で、龍泉窯系 15 ～ 16 世紀の上田Ｂ－Ⅳ群である。1644 は土師器伊勢型鍋で、12 世紀頃である。1645 は土製品土錘である。1646 ～ 1648 は近世瀬戸美濃産陶器である。1646 は小杯で連房式登窯第 3 ～ 4 小期、1647・1648 は菊皿で連房式登窯第 4 小期の美濃窯である。

1649・1650 は 17 区出土遺物である。1649 は常滑産陶器広口壺で、13 世紀後半頃である。1650 は近世瀬戸美濃産陶器の丸碗で、連房式登窯第 3 ～ 4 小期の美濃窯である。

1651 ～ 1659 は 19 区出土遺物である。1651 は東濃型山茶碗型の皿で、明和 1 号窯式期である。1652 は尾張型山茶碗の碗で、５型式である。1653・1654 は土師器皿で、1653 はＢ２－ｂ類、1654 はＣ２類である。1655・1656 は土製品土錘である。1657 は近世瀬戸美濃産陶器の尾呂茶碗で、連房式登窯第５～６小期の美濃窯である。1658 は瀬戸美濃産陶器の折縁深皿で、古瀬戸後Ⅱ期である。1659 は瀬戸美濃産陶器の縁釉小皿で、古瀬戸後Ⅳ期古段階である。

1660 ～ 1664 は 21 区出土遺物である。1660 は東濃型山茶碗の碗で、明和 1 号窯式期である。1661 は東濃型山茶碗の皿で、生田 2 号窯式期である。1662 は尾張型山茶碗の碗で、6 型式である。1663 は中国産磁器青磁碗で、龍泉窯 14 ～ 16 世紀の上田Ｃ群である。1664 は土師器皿Ｂ２－ｂ類で、外面にタールが付着する。

1665 は 22 区出土遺物の土師器皿Ｂ２－ｂ類である。

1666 は 25 区出土遺物の近世瀬戸美濃産陶器丸皿で、連房式登窯第３～４小期の美濃窯である。

1667 は 26 区出土遺物の近世瀬戸美濃産陶器丸皿で、連房式登窯第１小期の美濃窯である。

1668 ～ 1671 は 28 区出土遺物である。1668 は灰釉陶器椀で、10 世紀末から 11 世紀前半頃である。1669 は東濃型山茶碗の碗で、脇之島 3 号窯式期である。1670 は土師器皿M類である。1671 は近世瀬戸美濃産陶器丸碗で、連房式登窯第３～４小期の美濃窯である。

Ⅱ～Ⅲｃ層出土遺物（第 98 図）

1672 は 26 区出土遺物の瀬戸美濃産陶器の卸目大皿で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。

Ⅱ～Ⅲａ層出土遺物（第 98 図）

1673・1674 は 23・24 区出土遺物である。1673 は近世瀬戸美濃産陶器の練り鉢か片口で、連房式登窯第８小期の美濃窯である。1674 は瀬戸美濃産陶器天目茶碗で、古瀬戸後Ⅳ期新段階である。

1675 は 25 区出土遺物の近世瀬戸美濃産陶器尾呂茶碗で連房式登窯第５～６小期の美濃窯である。

Ⅰ層出土遺物（第 99 図）

1676 は 25 区出土遺物の土師器皿で、Ｂ２－ｂである。

Ⅰ～Ⅲ層出土遺物（第 99 図）

1677 ～ 1679 は 17 区出土遺物である。1677 は石製品砥石で、使用面は表裏２面である。1678・1679 は土師器皿である。1678 はＢ１類、1679 はＢ２－ｂ類で、1679 の内外面にタールが付着する。

1680・1681 は 18 区出土遺物である。1680 は近世瀬戸美濃産陶器の湯のみで、連房式登窯第８小期の瀬戸窯である。1681 は瀬戸美濃産陶器の擂鉢で古瀬戸後Ⅳ期新段階である。

1682・1683 は 22 区出土遺物である。1682 は美濃須衛の蓋で、７世紀後葉である。1683 は瀬戸美濃産陶器の擂鉢で古瀬戸後Ⅳ期新段階である。

1684 ～ 1687 は 23・24 区出土遺物である。1684 は平瓦で、近世である。1685 ～ 1687 は近世瀬戸美濃産陶器である。1685 は皿で、連房式登窯第８～９小期美濃窯である。1686 は擂鉢で、連房式登窯第２小期である。1687 は丸碗で、連房式登窯第４～５小期美濃窯である。

1688 は 27 区出土遺物の近世瀬戸美濃産陶器擂鉢で、連房式登窯第１小期である。

Ⅰ～Ⅱ層出土遺物（第 99 図）

1689 は 26 区出土遺物の近世瀬戸美濃産陶器端反碗で、連房式登窯第３～４小期の美濃窯である。

撹乱出土遺物（第 99 図）

1690 は 25 区出土遺物の近世瀬戸美濃産陶器天目茶碗で、連房式登窯第１～２小期の美濃窯である。加工円盤として転用したものである。

1691 は 23・24 区出土遺物の土師器焙烙で、近世である。

排土中出土遺物（第 99 図）

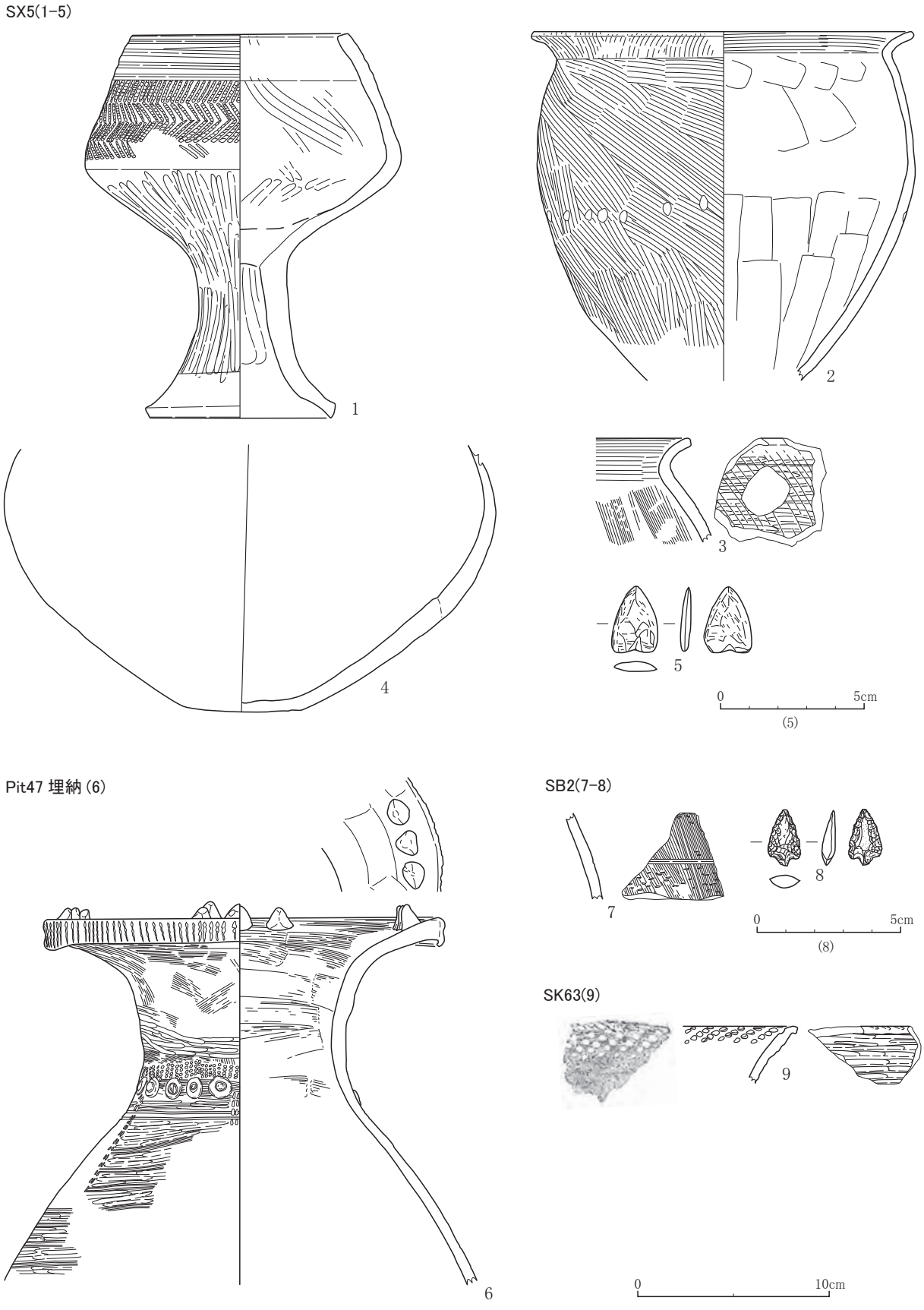
1692 は 23・24 区出土遺物の土製品土錘である。

1693 は 25 区出土遺物の灰釉陶器椀で、9 世紀末から 10 世紀前半である。

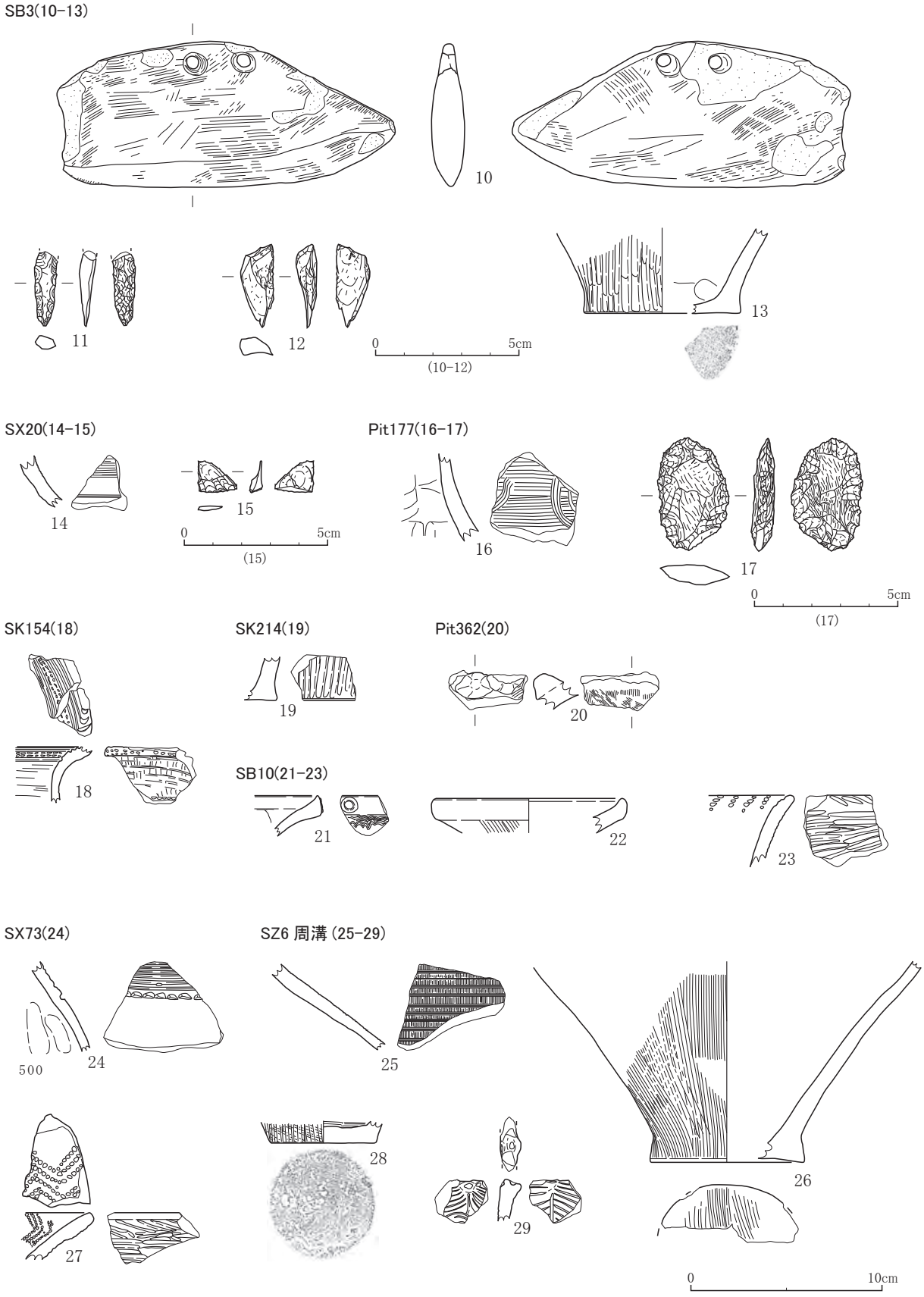
1694・1695 は 26 区出土遺物である。1694 は石製品磨製石鏃である。1695 は近世瀬戸美濃産陶器の瀬戸皿で、連房式登窯第１～２小期である。

表採出土遺物（第 99 図）

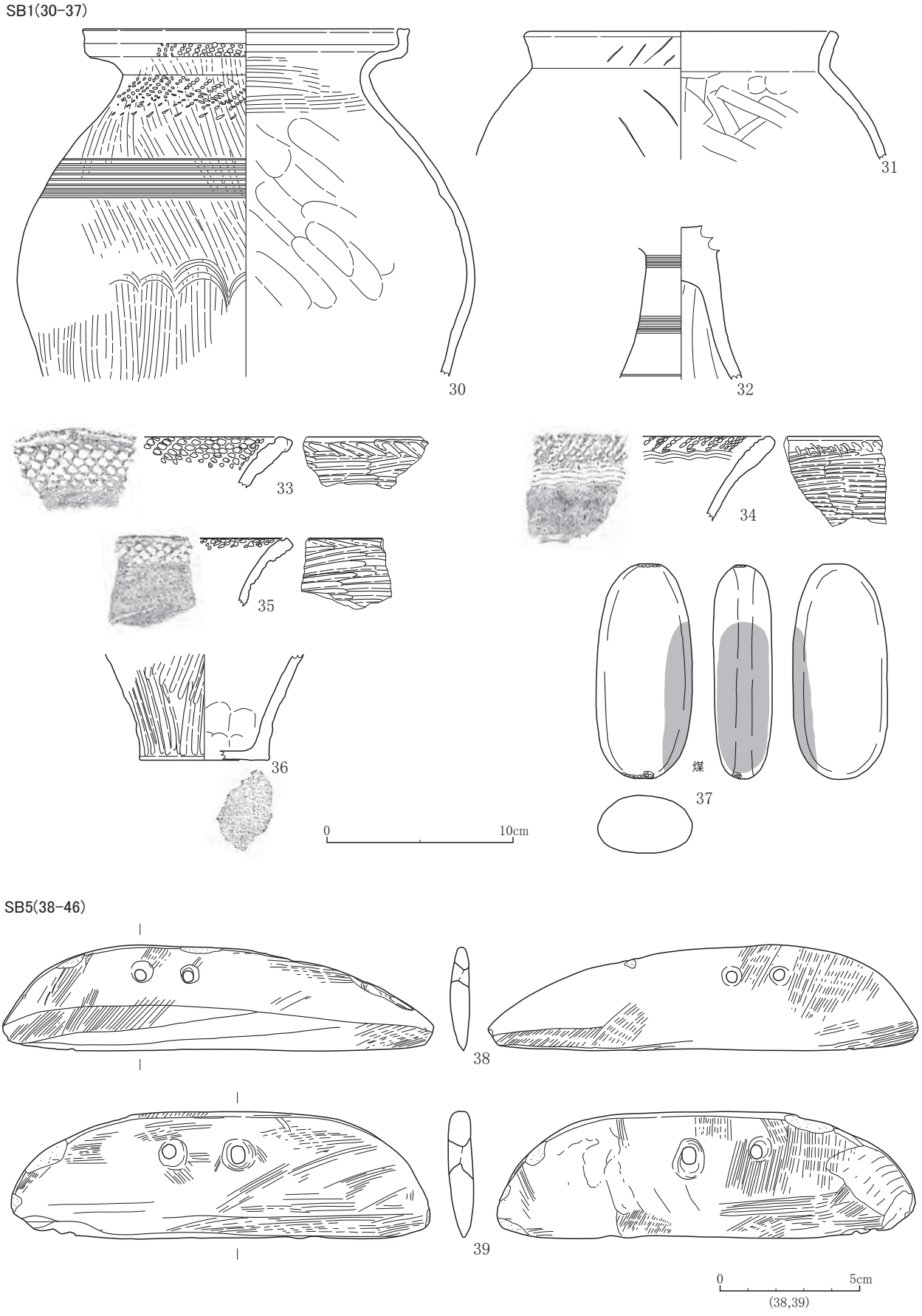
1696 ～ 1699 は 26 区出土遺物である。1696 は尾張型山茶碗の碗で 6 型式である。1697 は土師器皿Ｂ２－ｂ類である。1698 は瀬戸美濃産陶器卸皿で、古瀬戸後Ⅱ～Ⅲ期である。1699 は瀬戸美濃産陶器擂鉢で、大窯第 1 段階である。



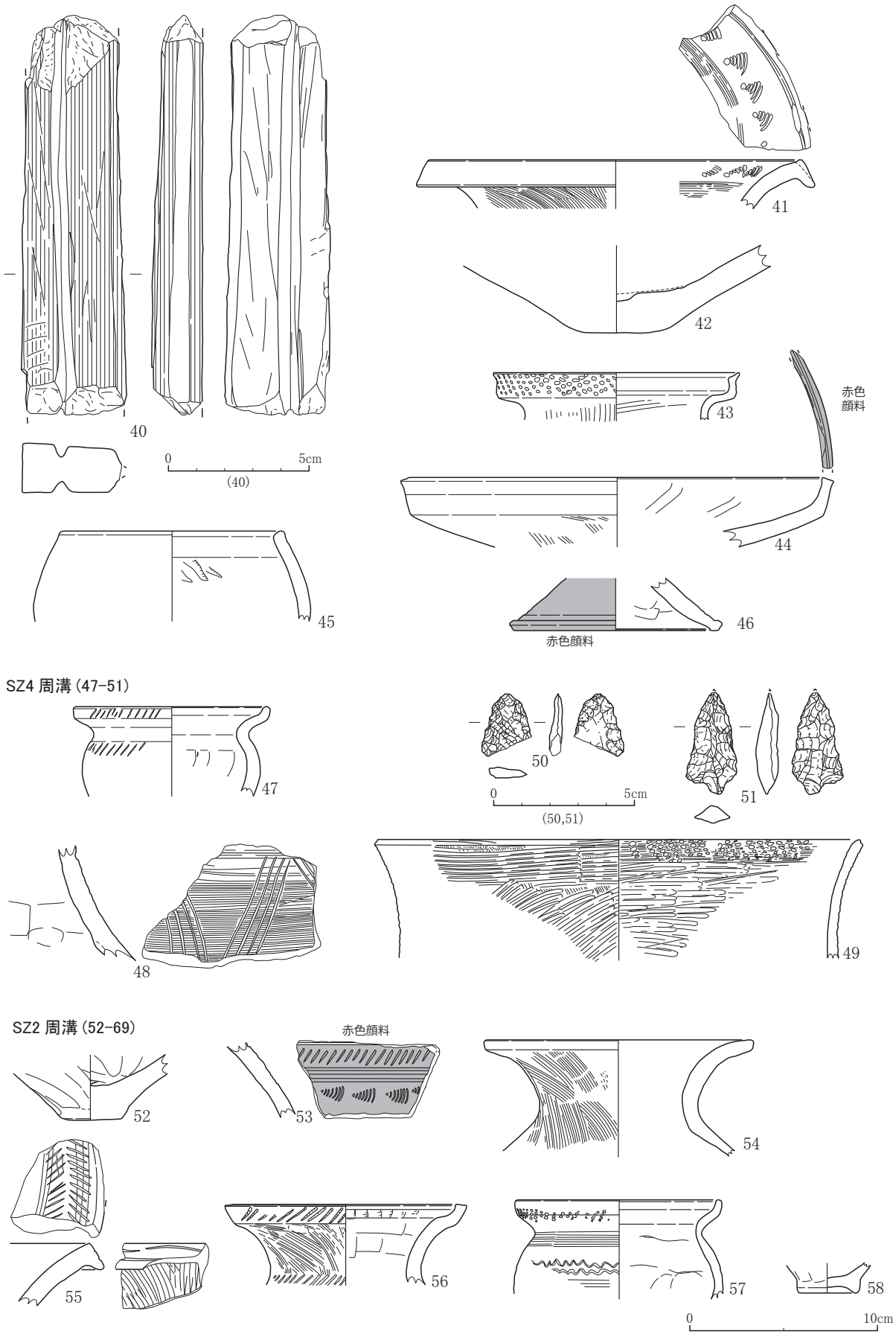
第 45 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（１）



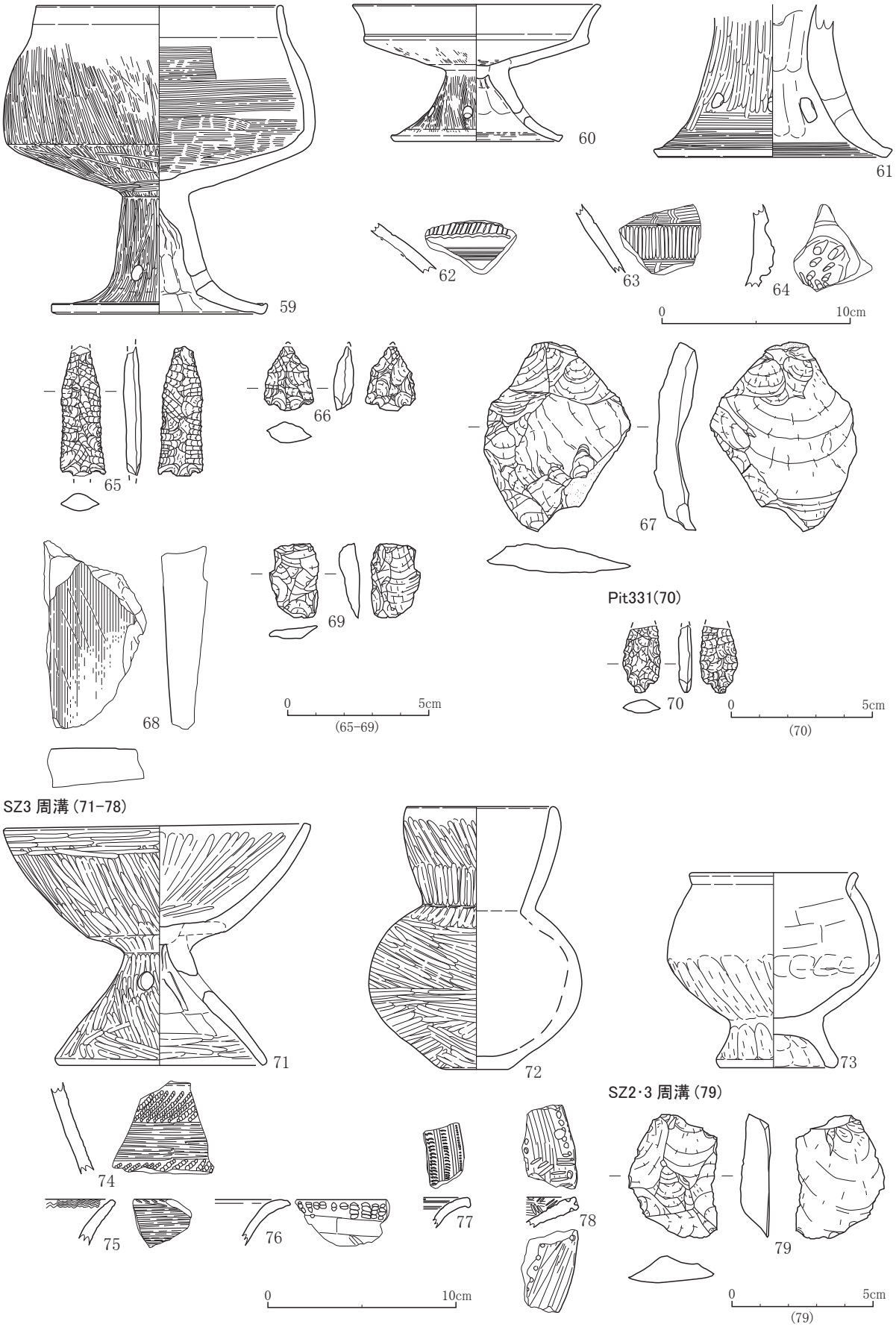
第 46 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（２）



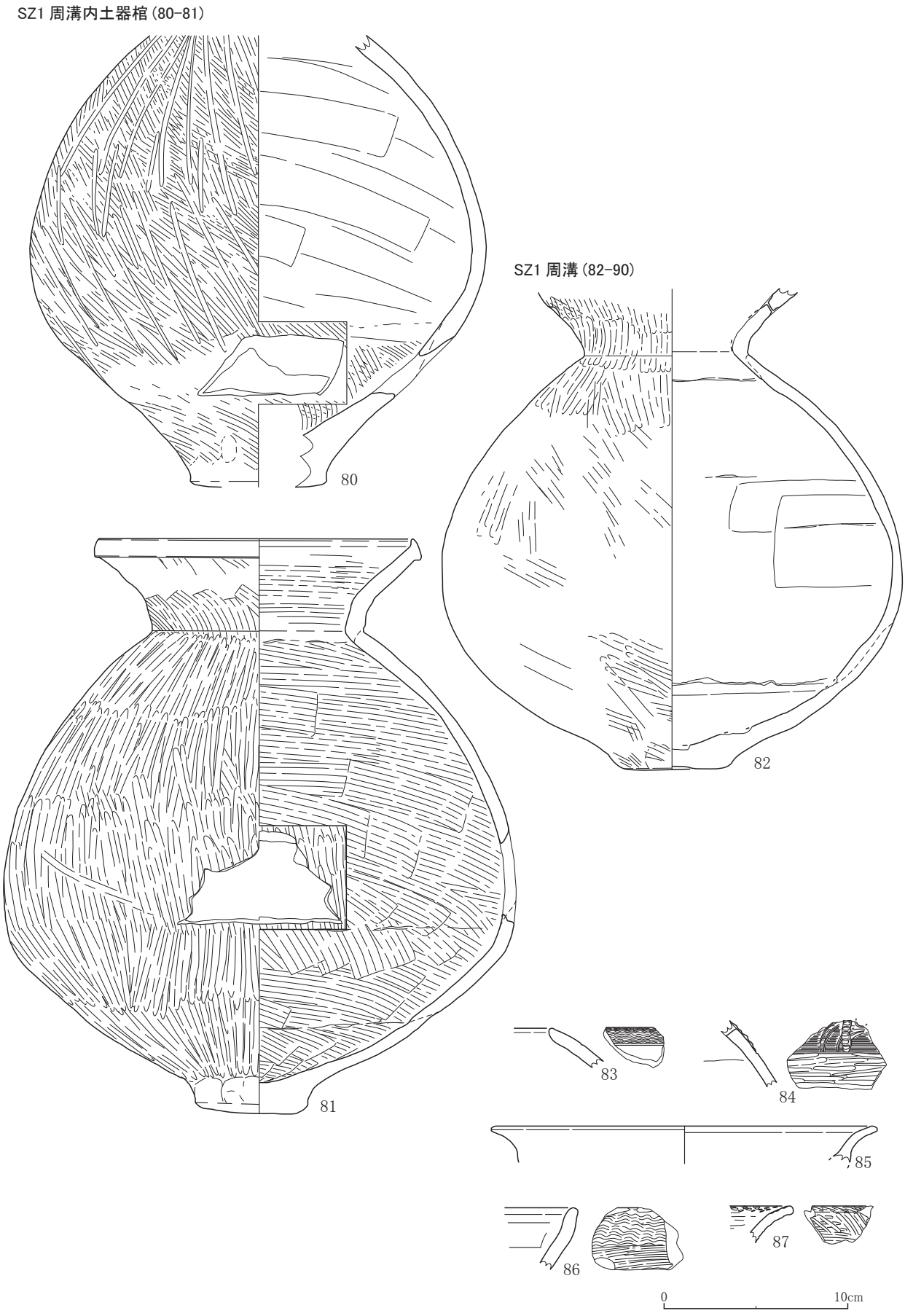
第 47 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（３）



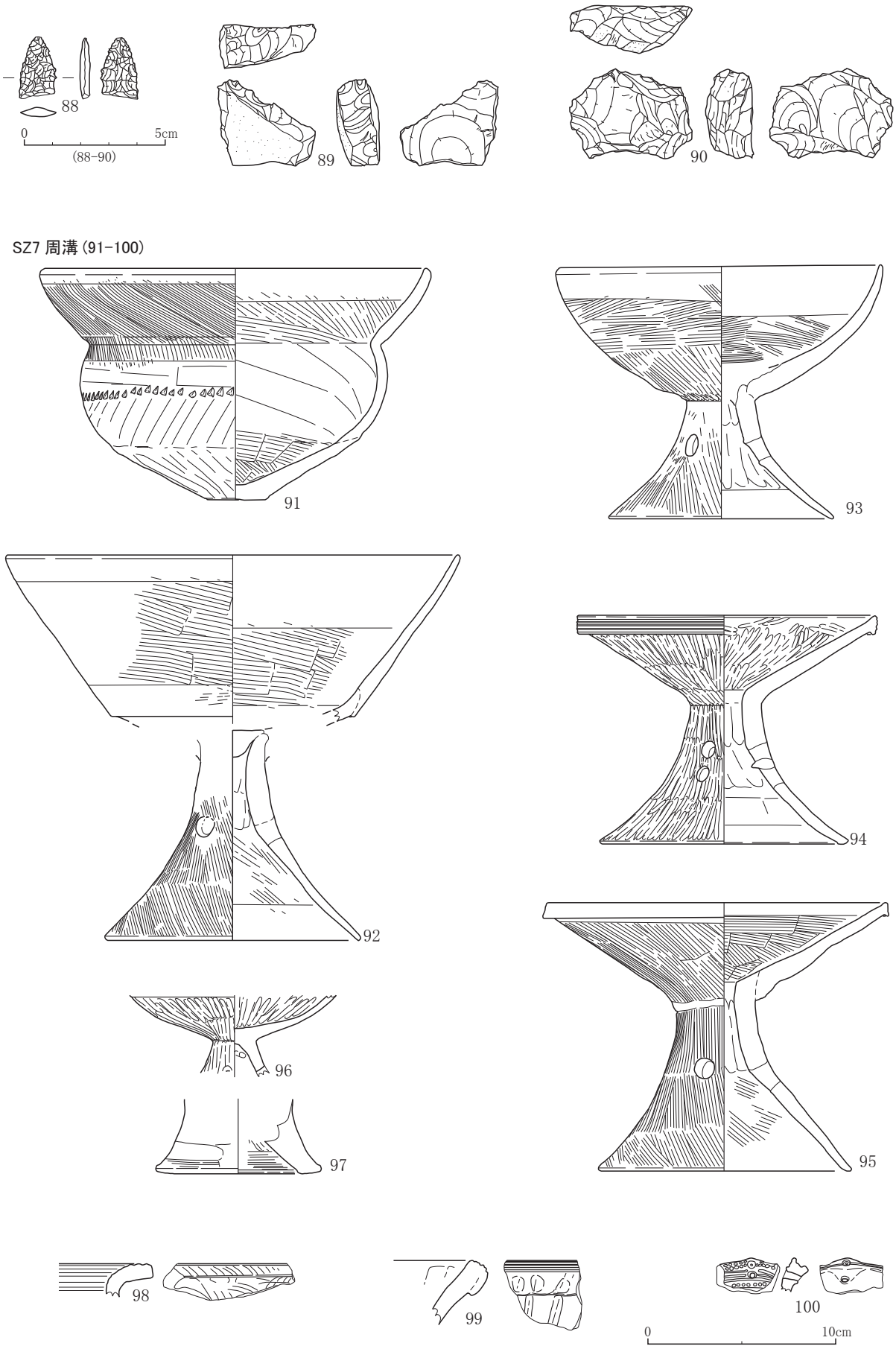
第 48 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（４）



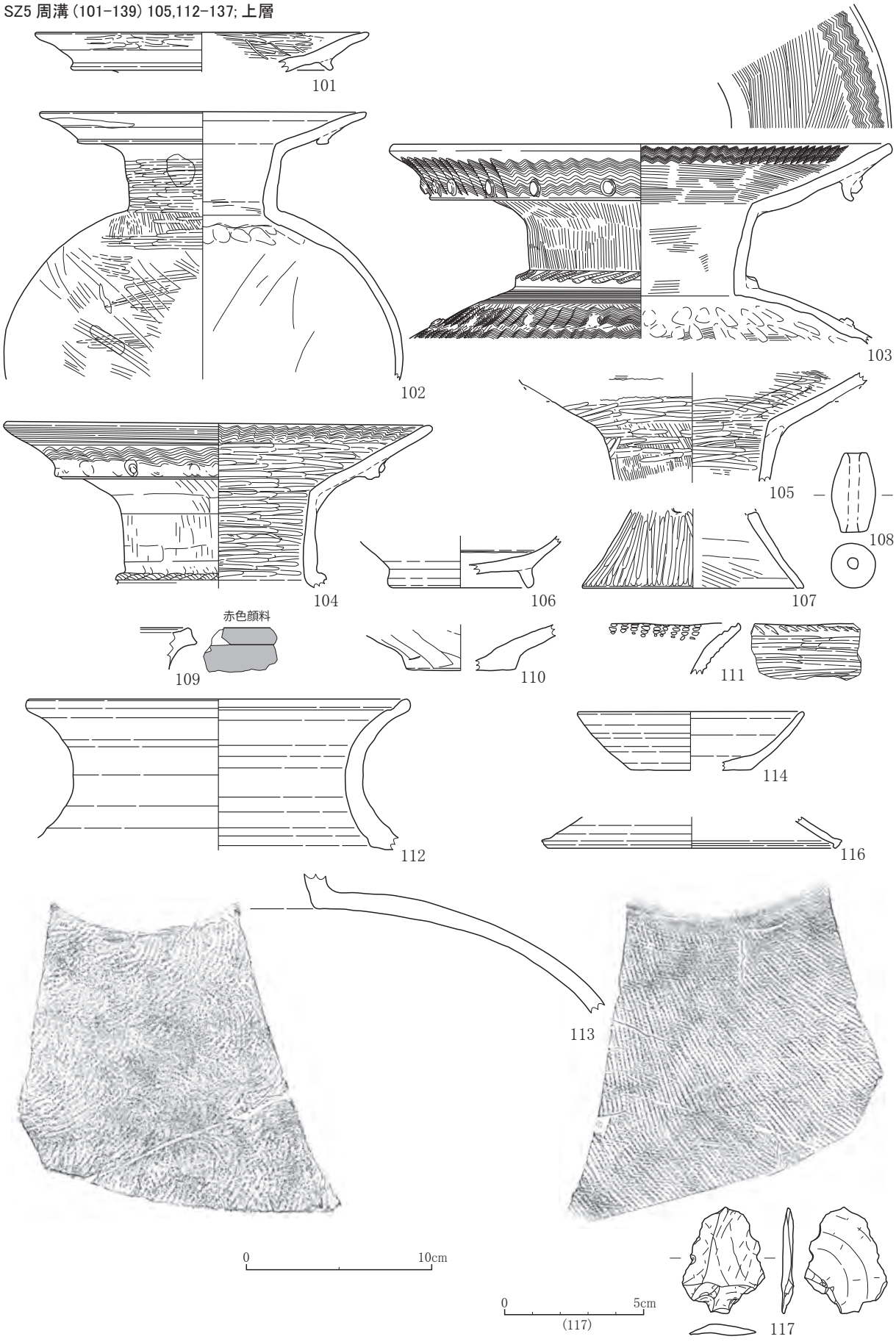
第 49 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（５）



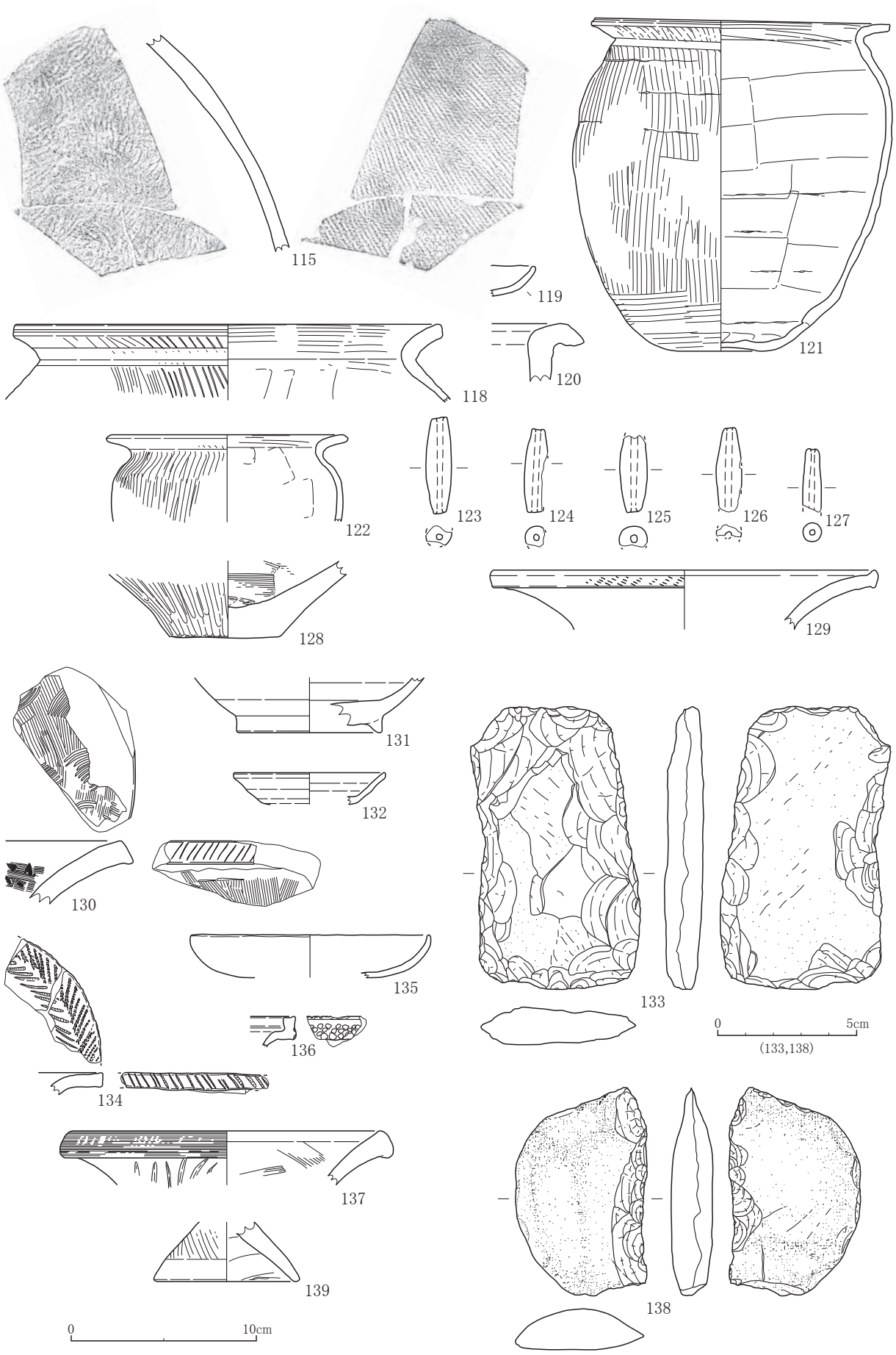
第 50 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（６）



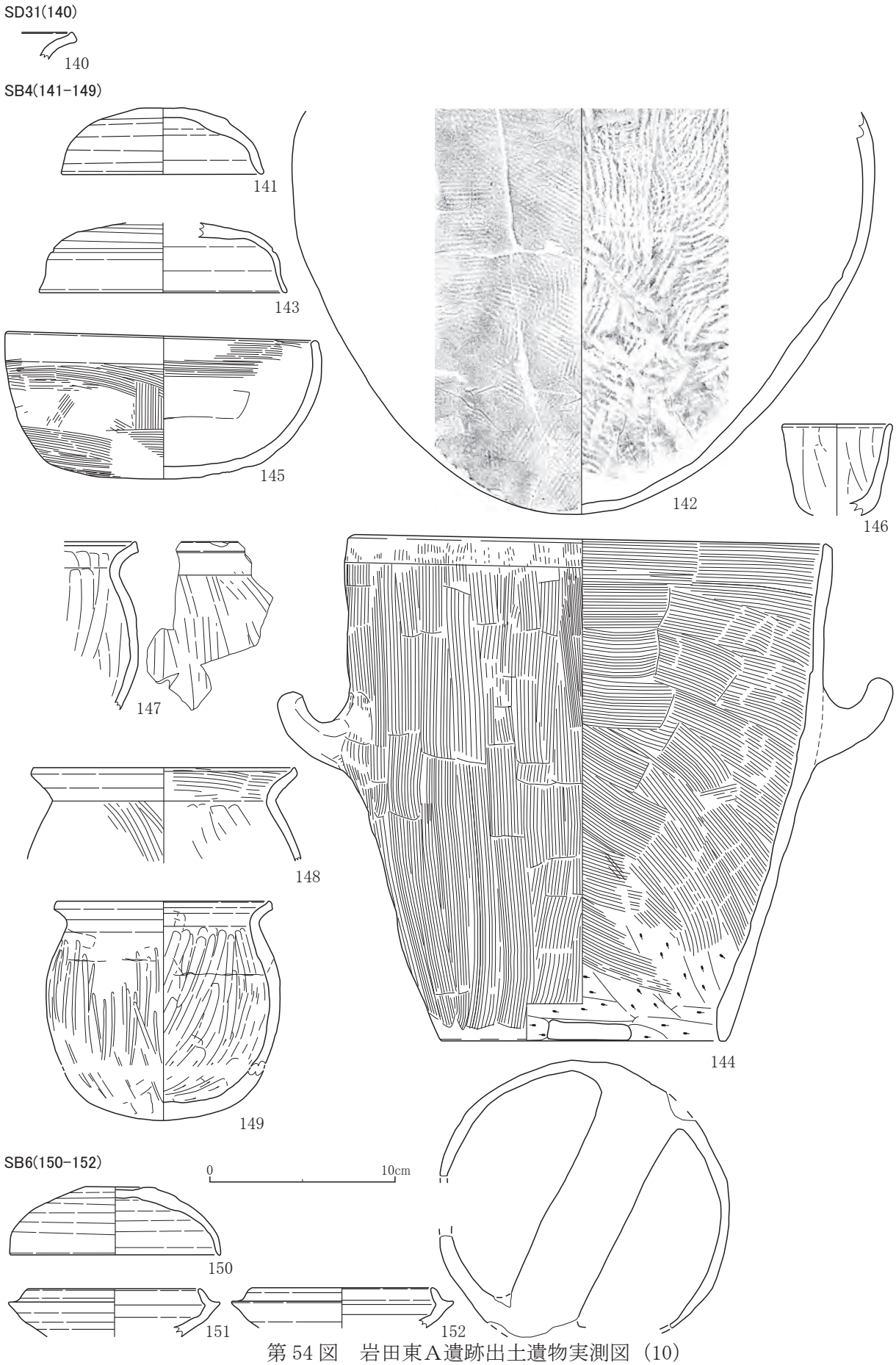
第 51 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（７）



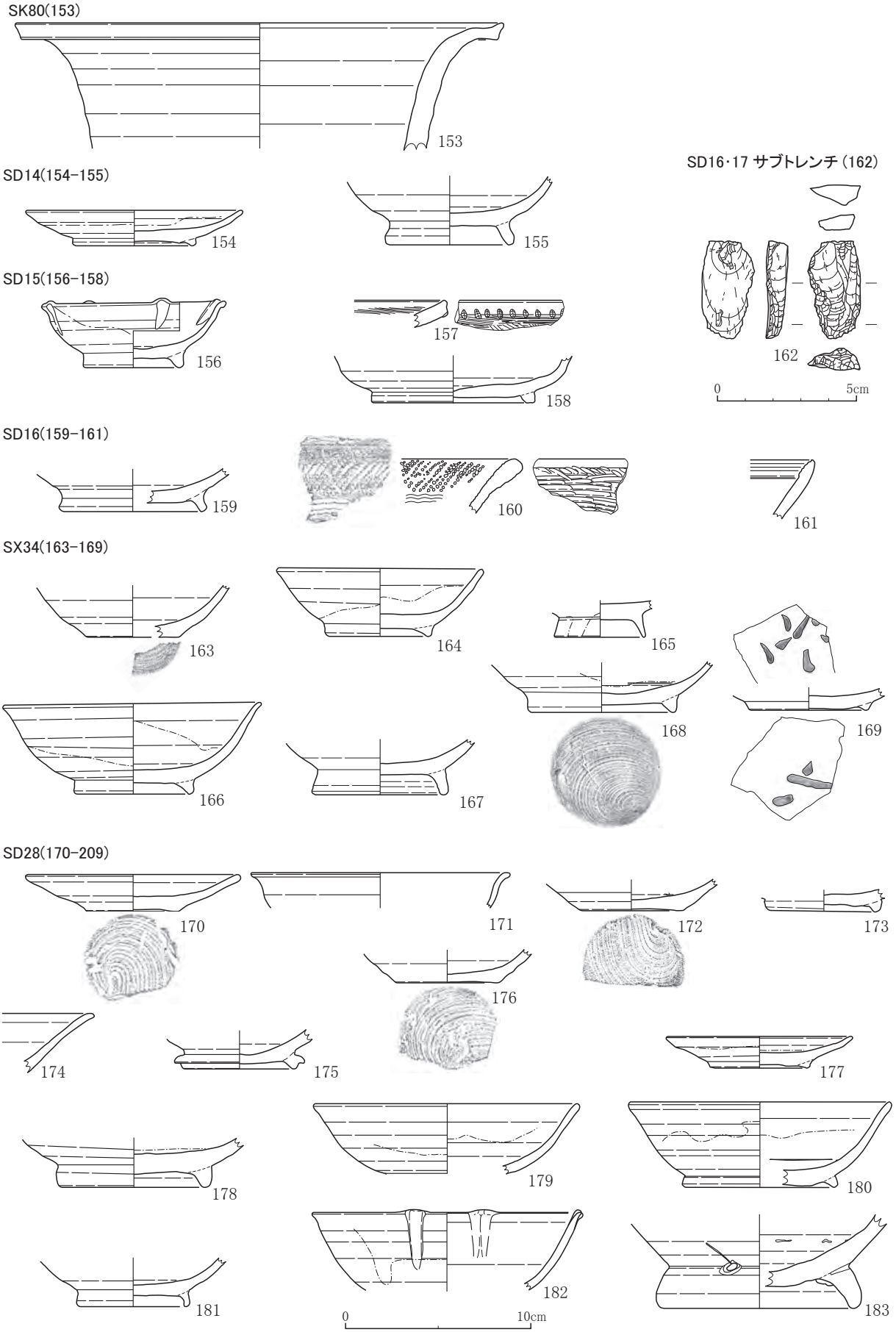
第 52 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（８）



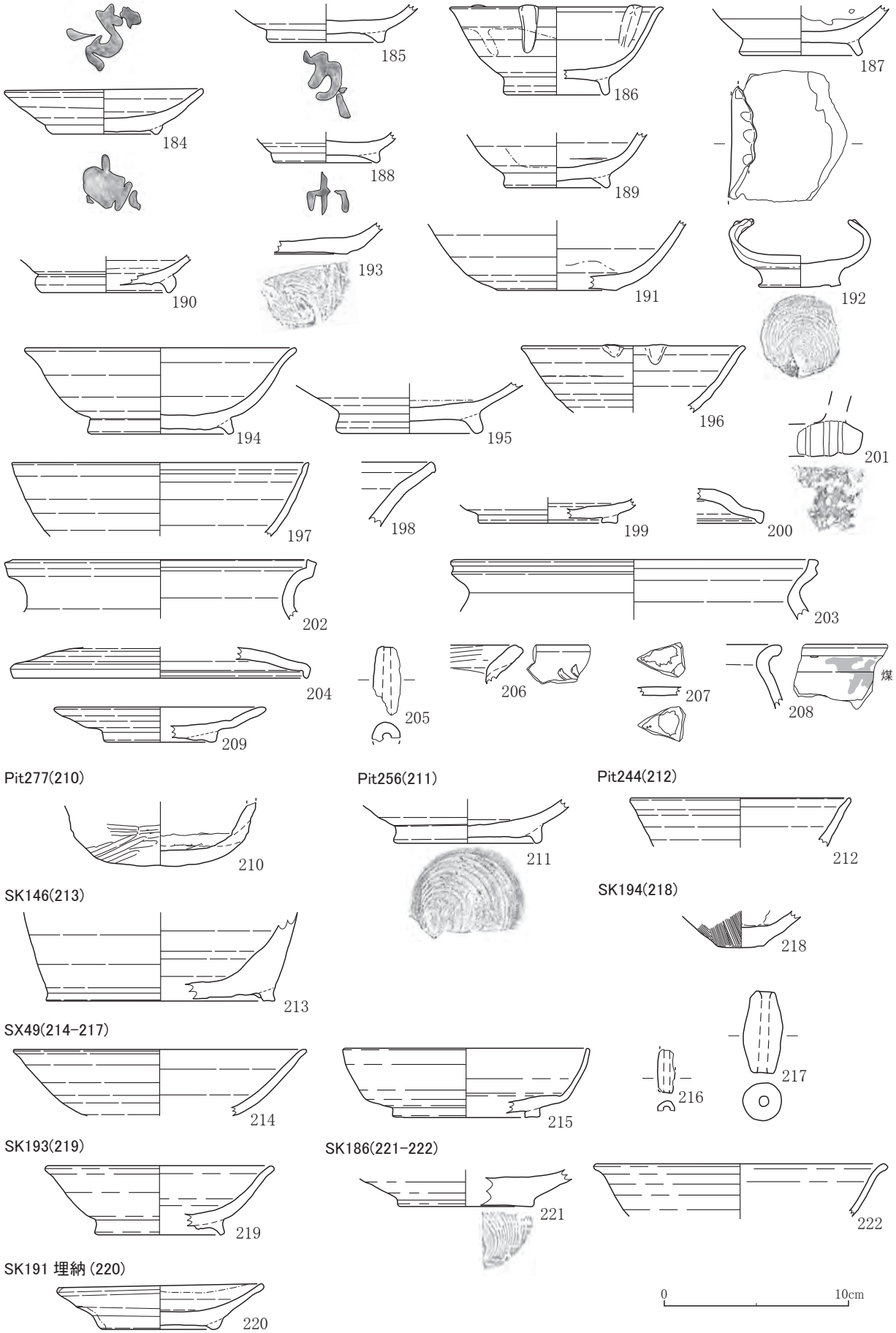
第 53 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（９）



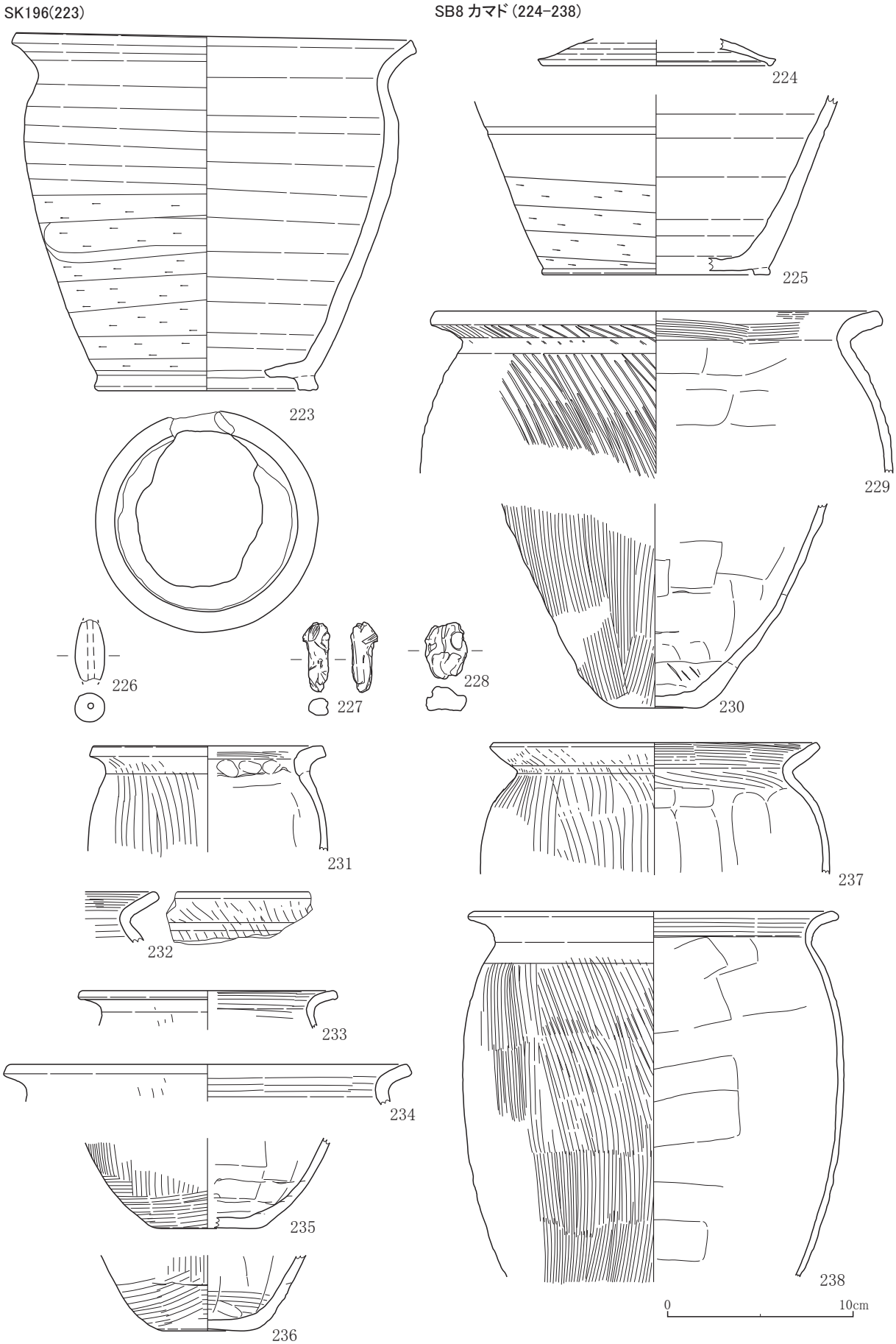
第 54 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（10）



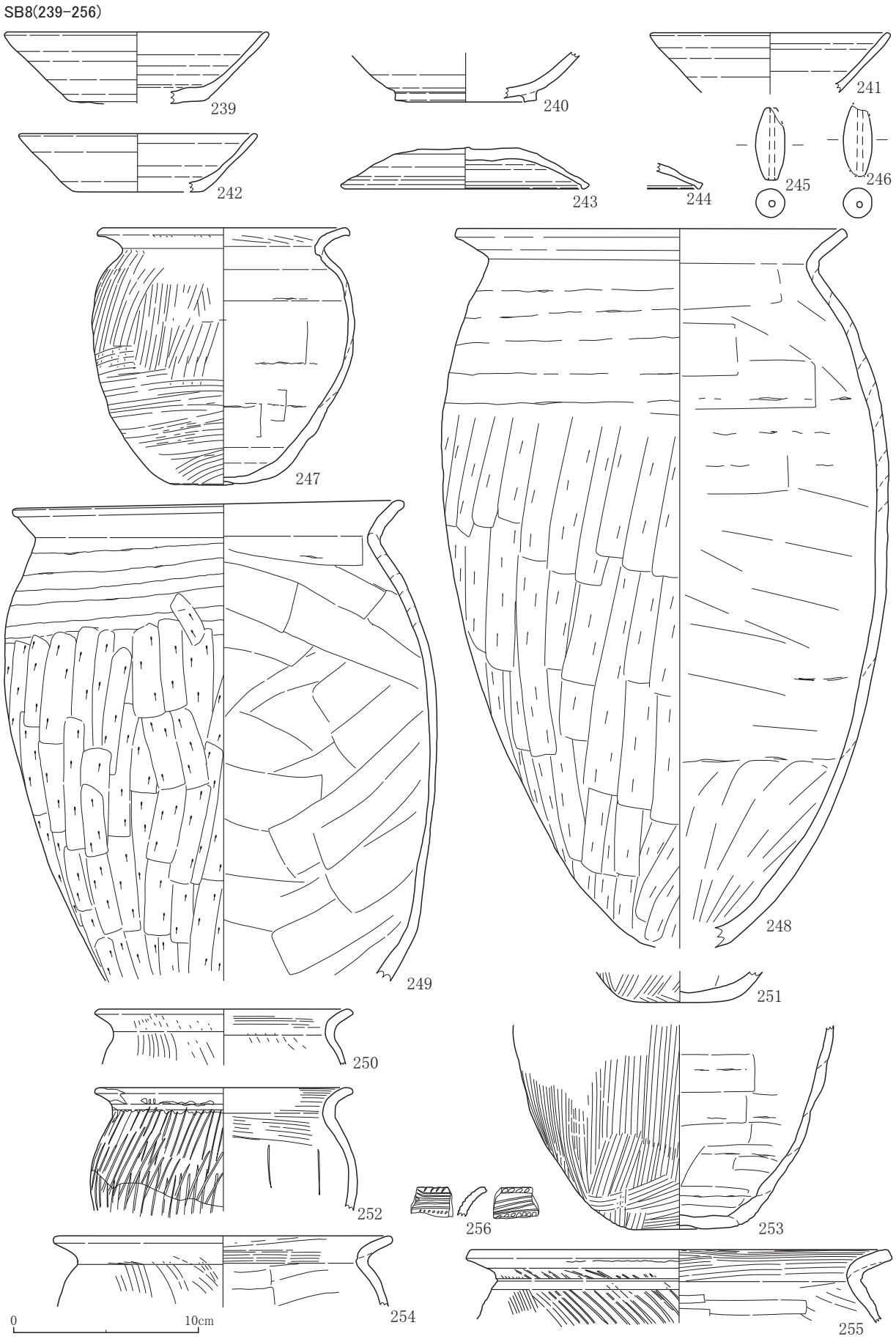
第 55 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（11）



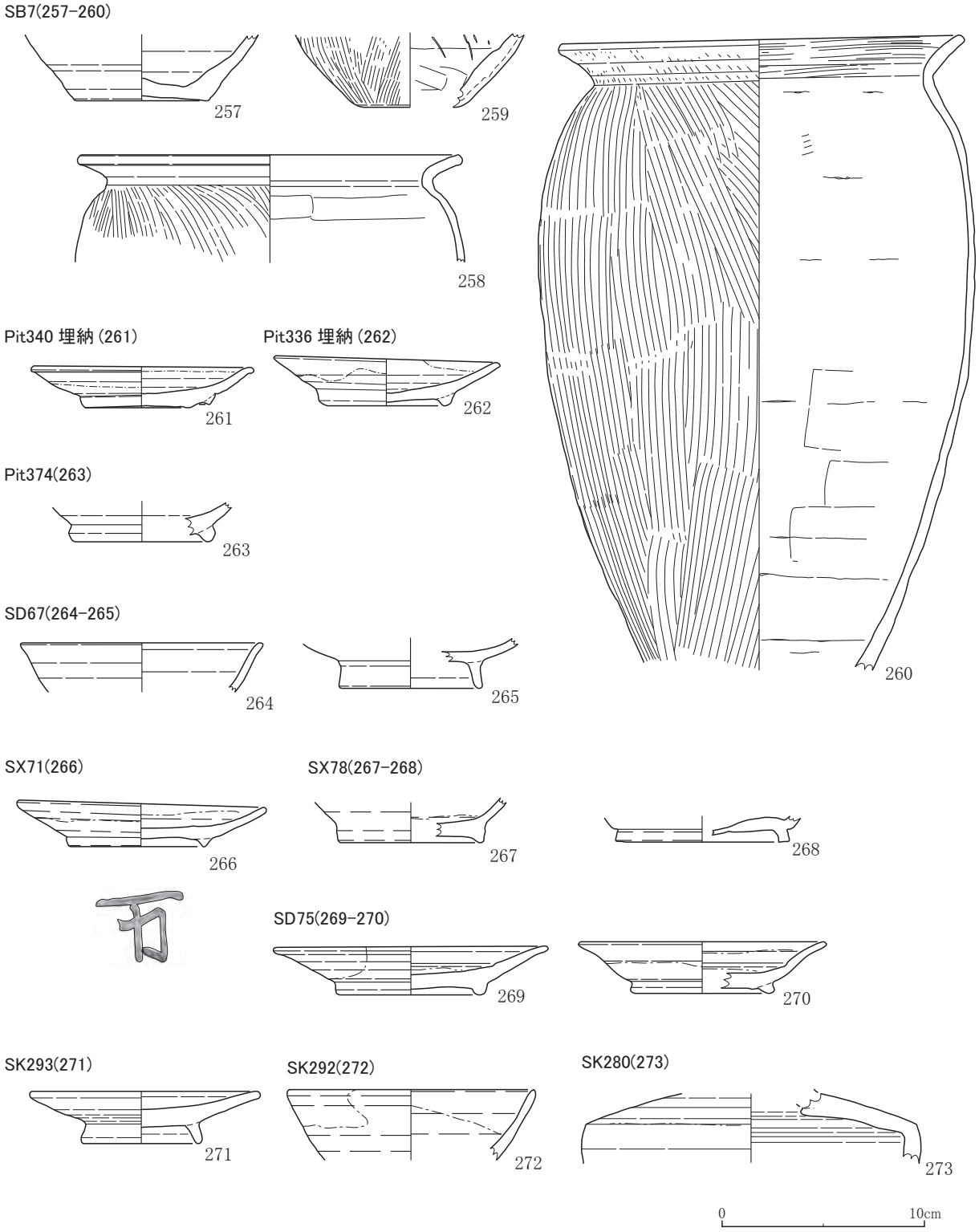
第 56 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（12）



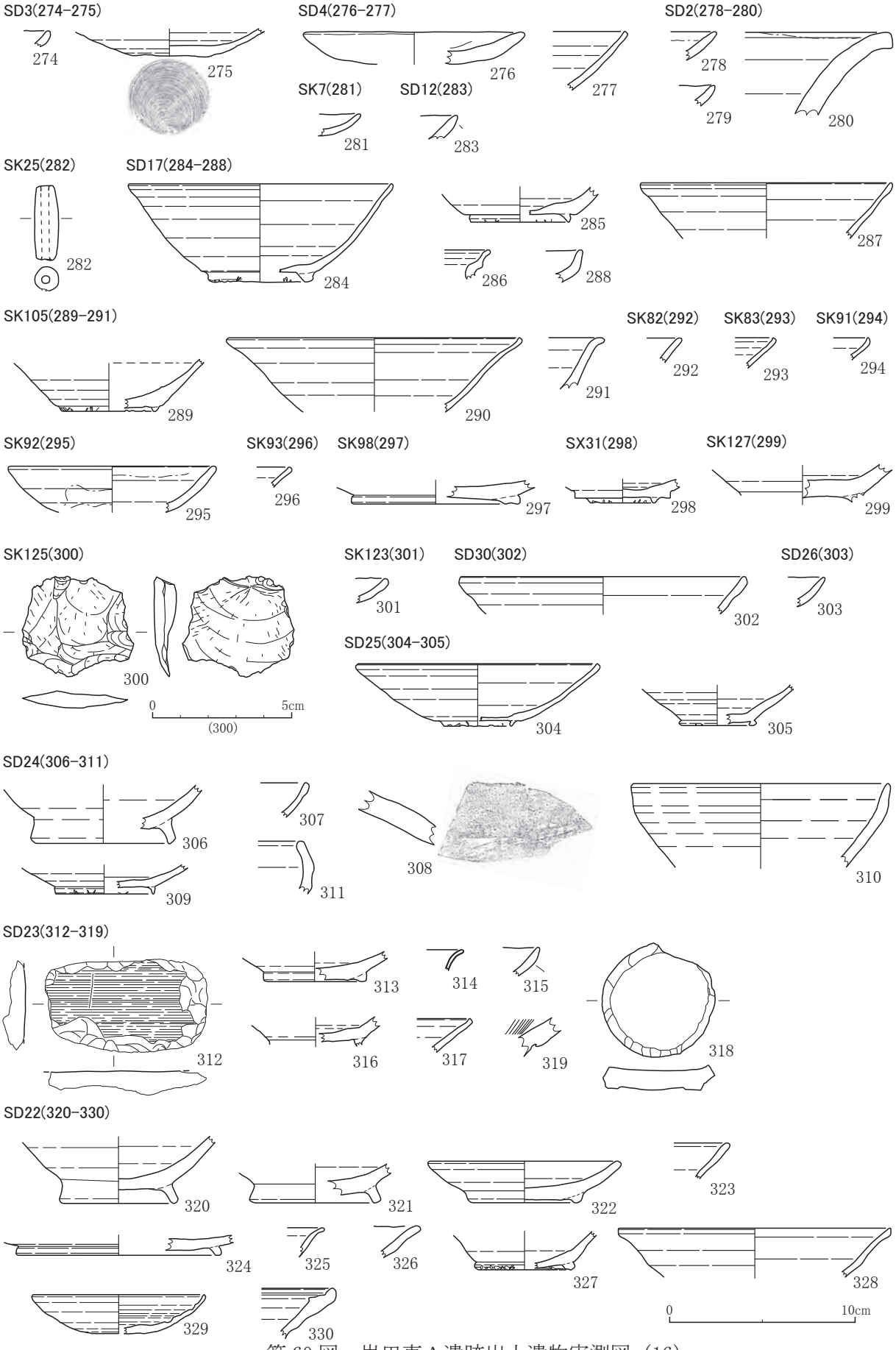
第 57 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（13）



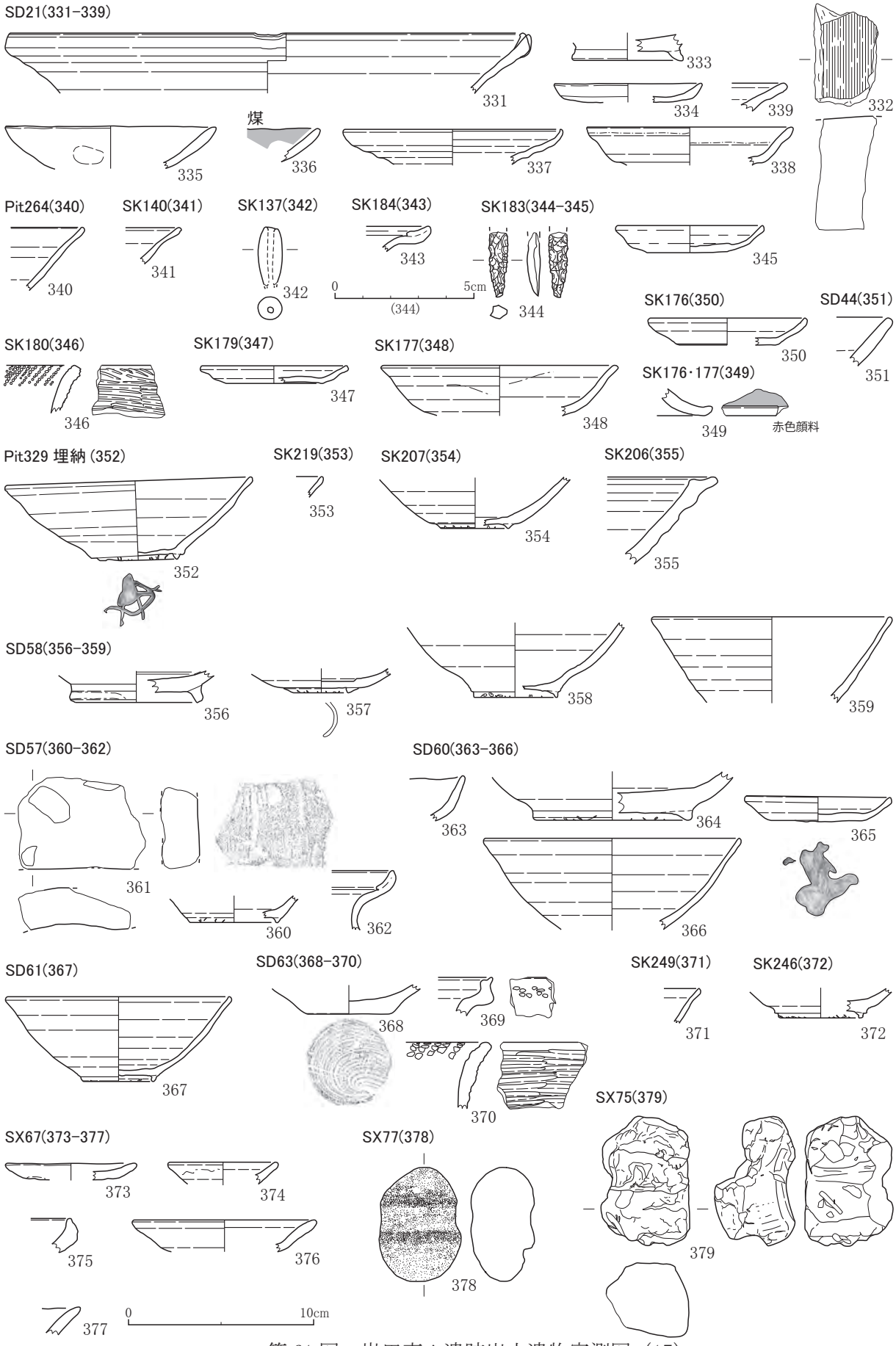
第 58 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（14）



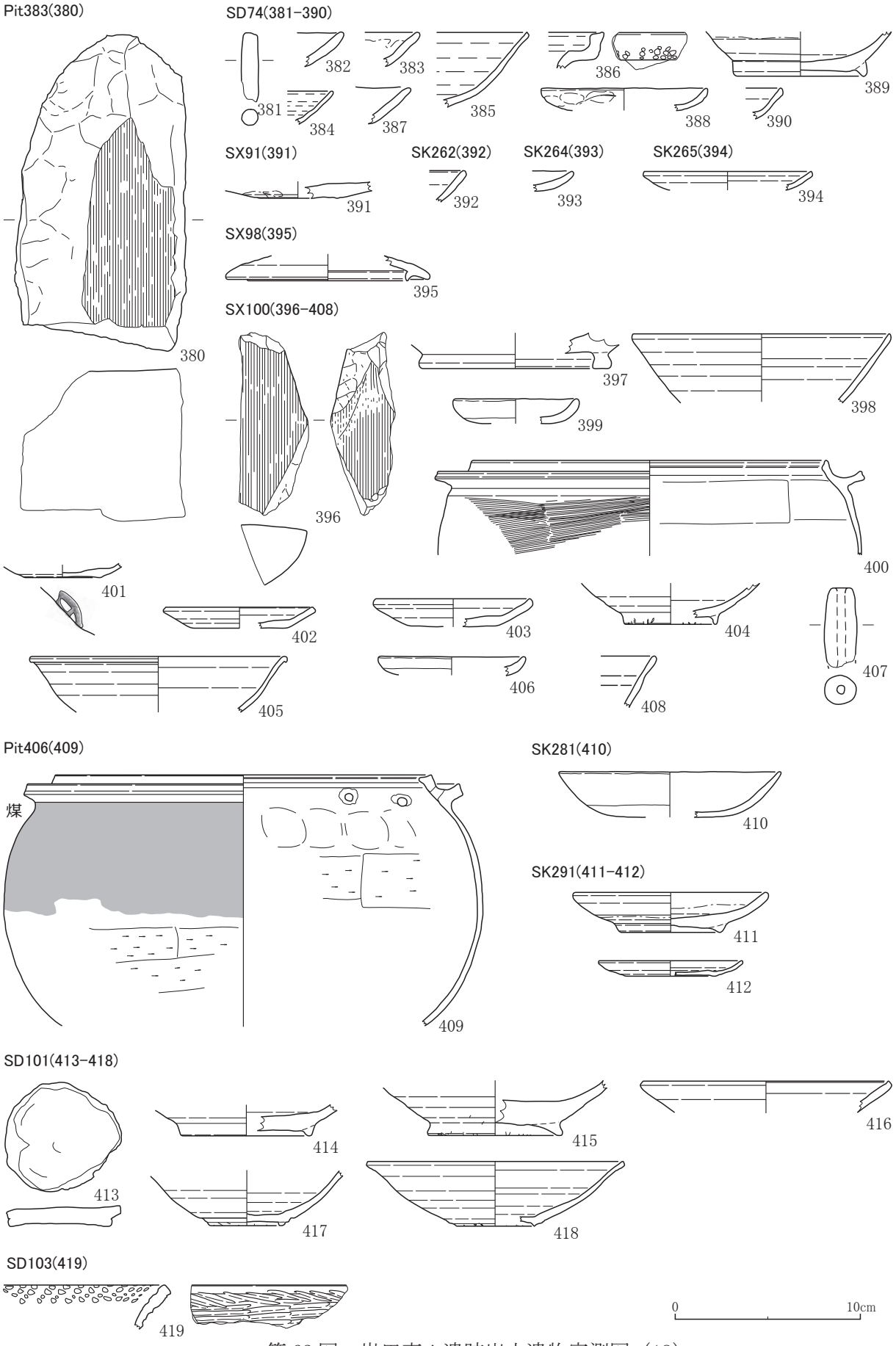
第 59 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（15）



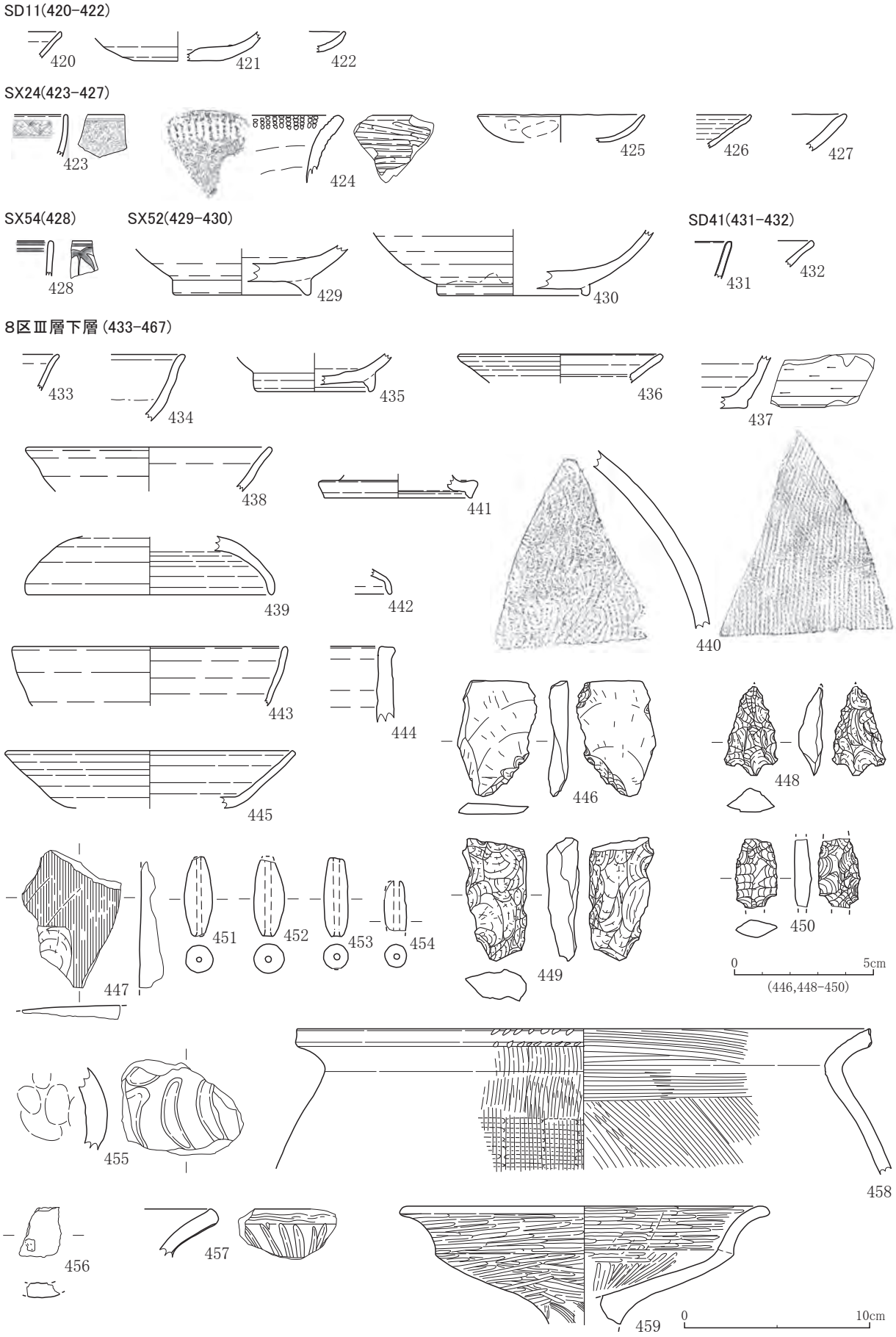
第 60 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（16）



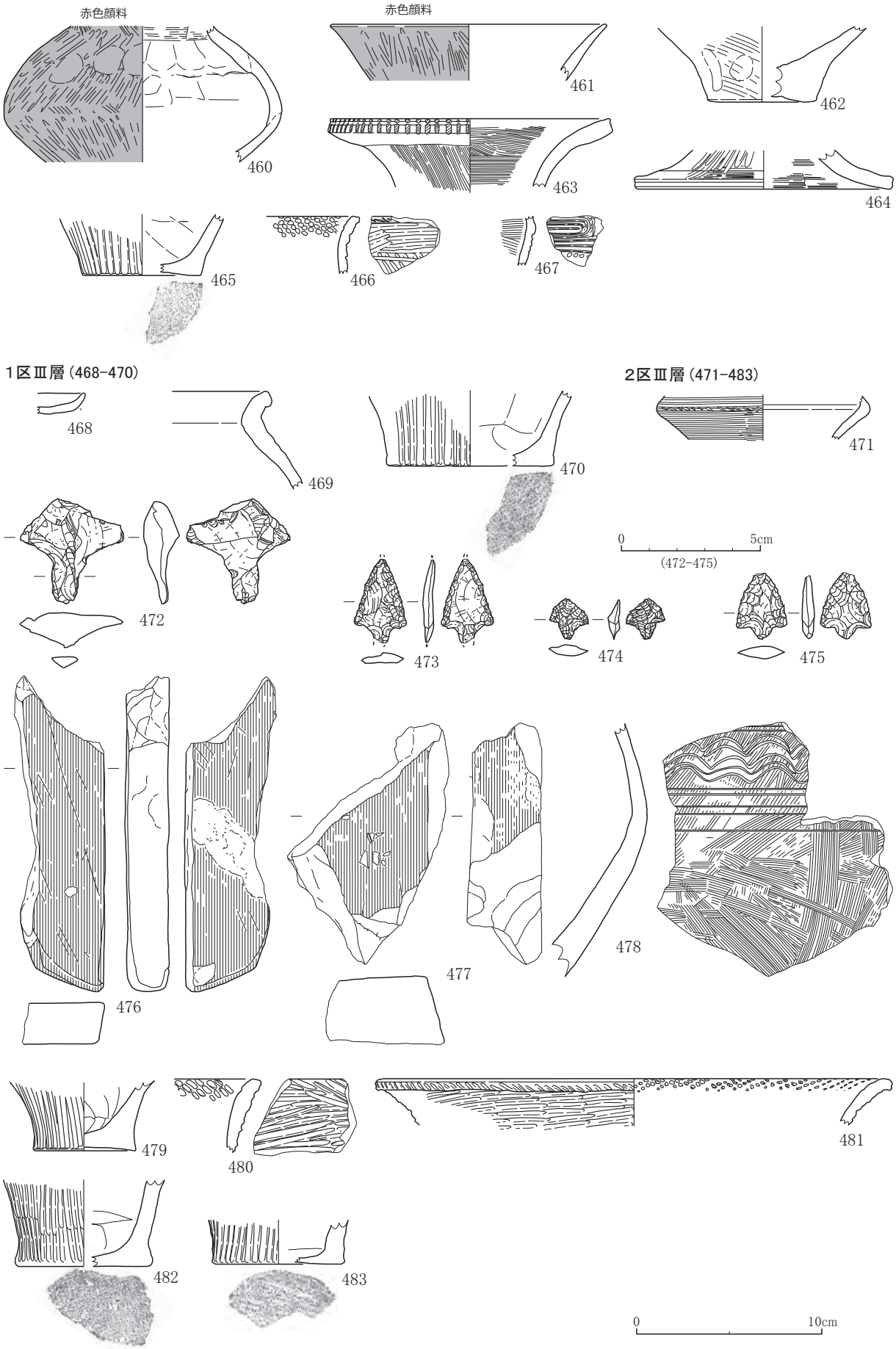
第 61 図　岩田東A遺跡出土遺物実測図（17）



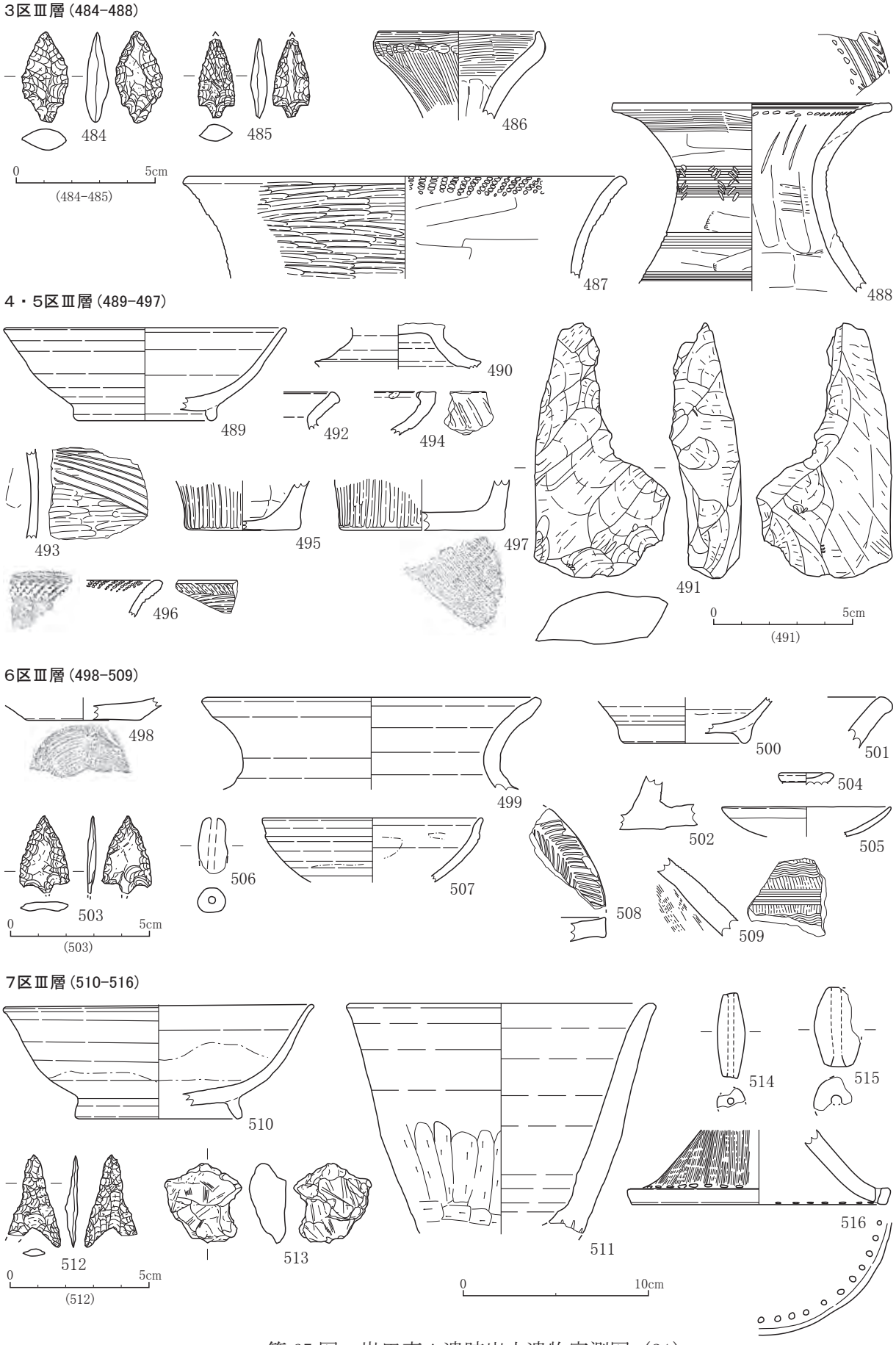
第 62 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（18）



第 63 図　岩田東A遺跡出土遺物実測図（19）

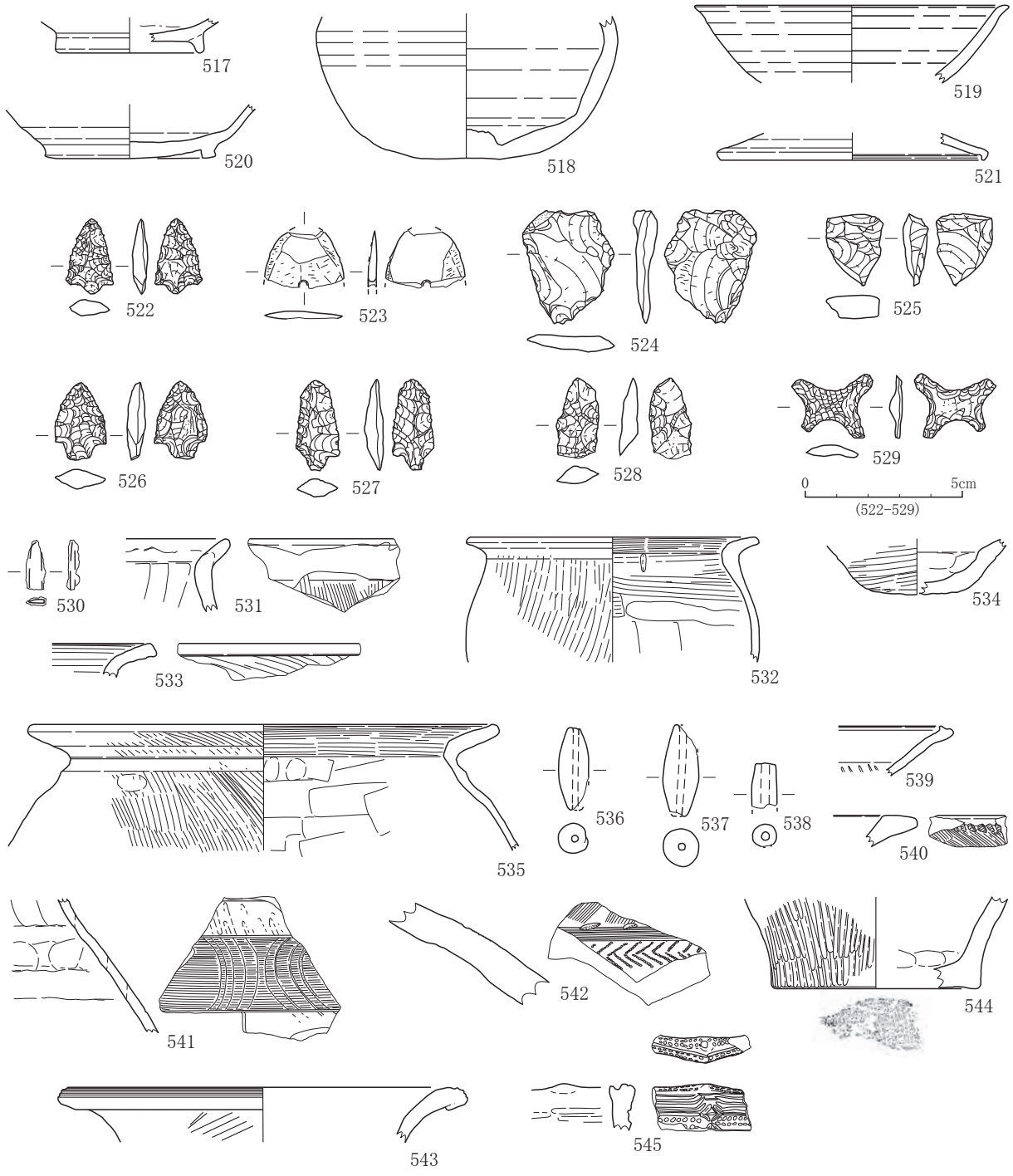


第 64 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（20）

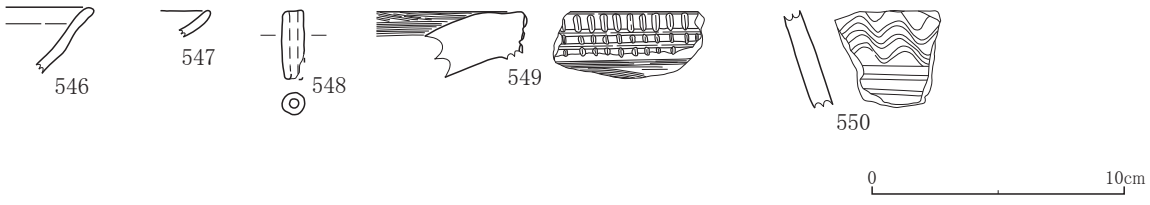


第 65 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（21）

8区Ⅲ層（517–545）

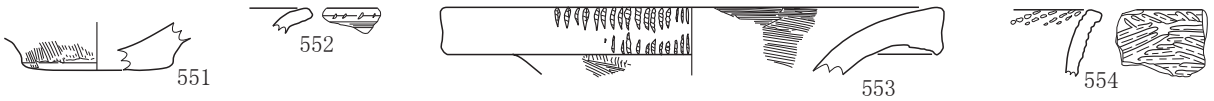


9区Ⅲ層（546–550）

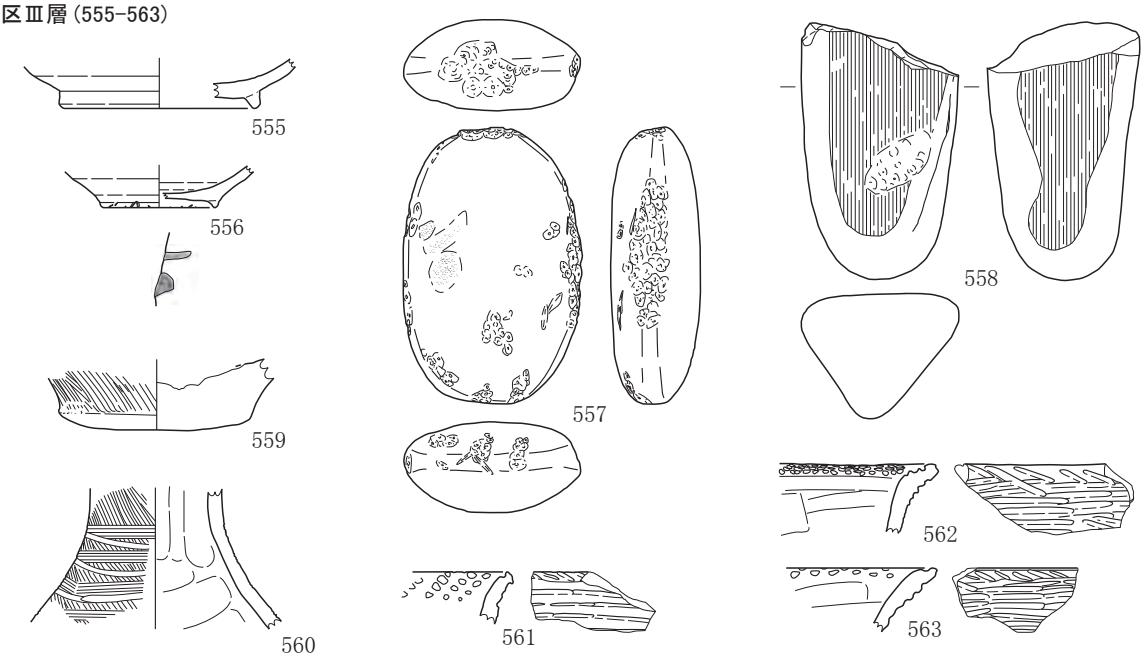


第 66 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（22）

10区Ⅲ層(551-554)

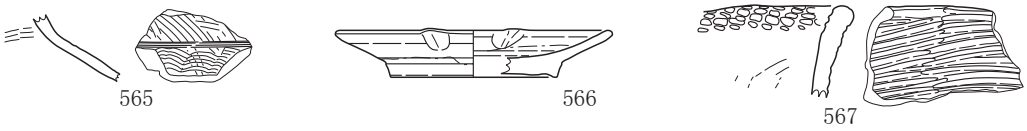


11区Ⅲ層(555-563)

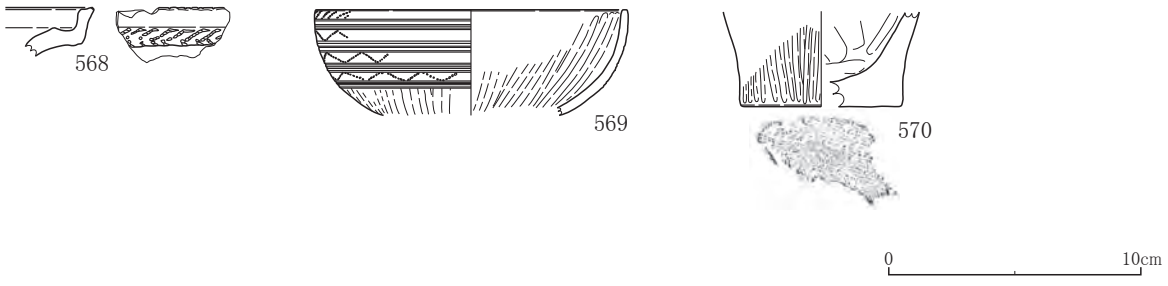


12区Ⅲ層(564)

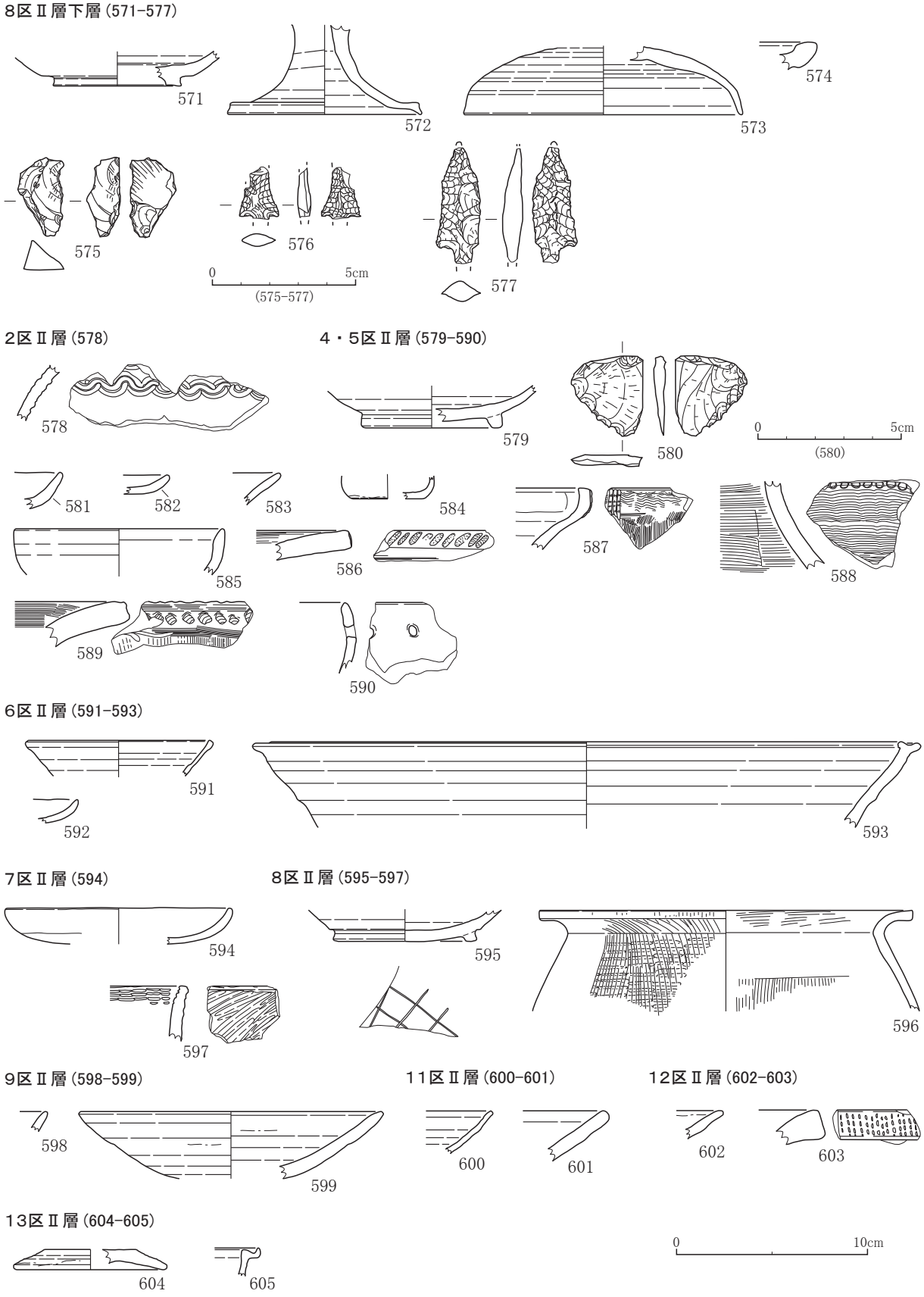
13区Ⅲ層(565-567)



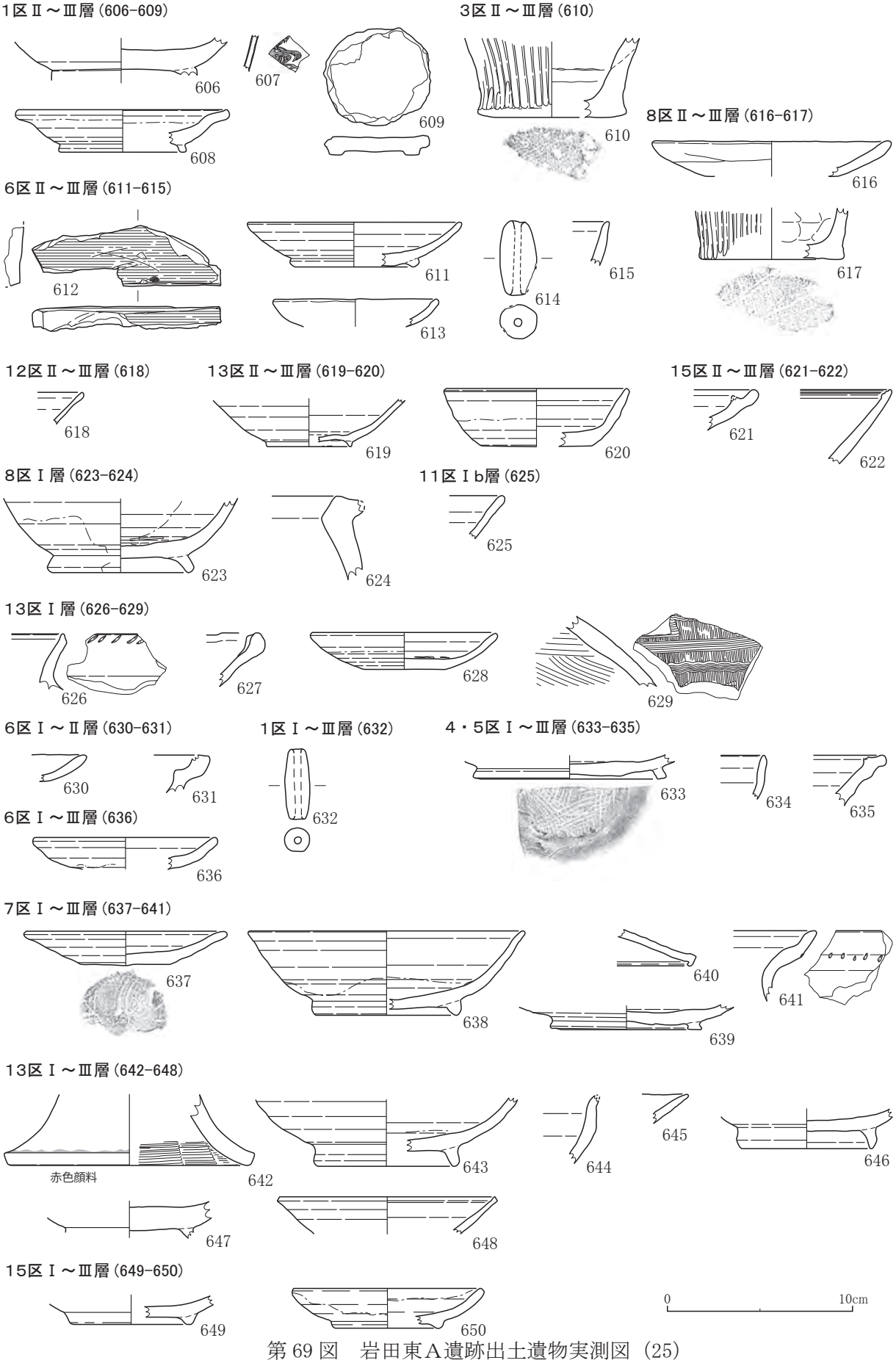
14区Ⅲ層(568-570)



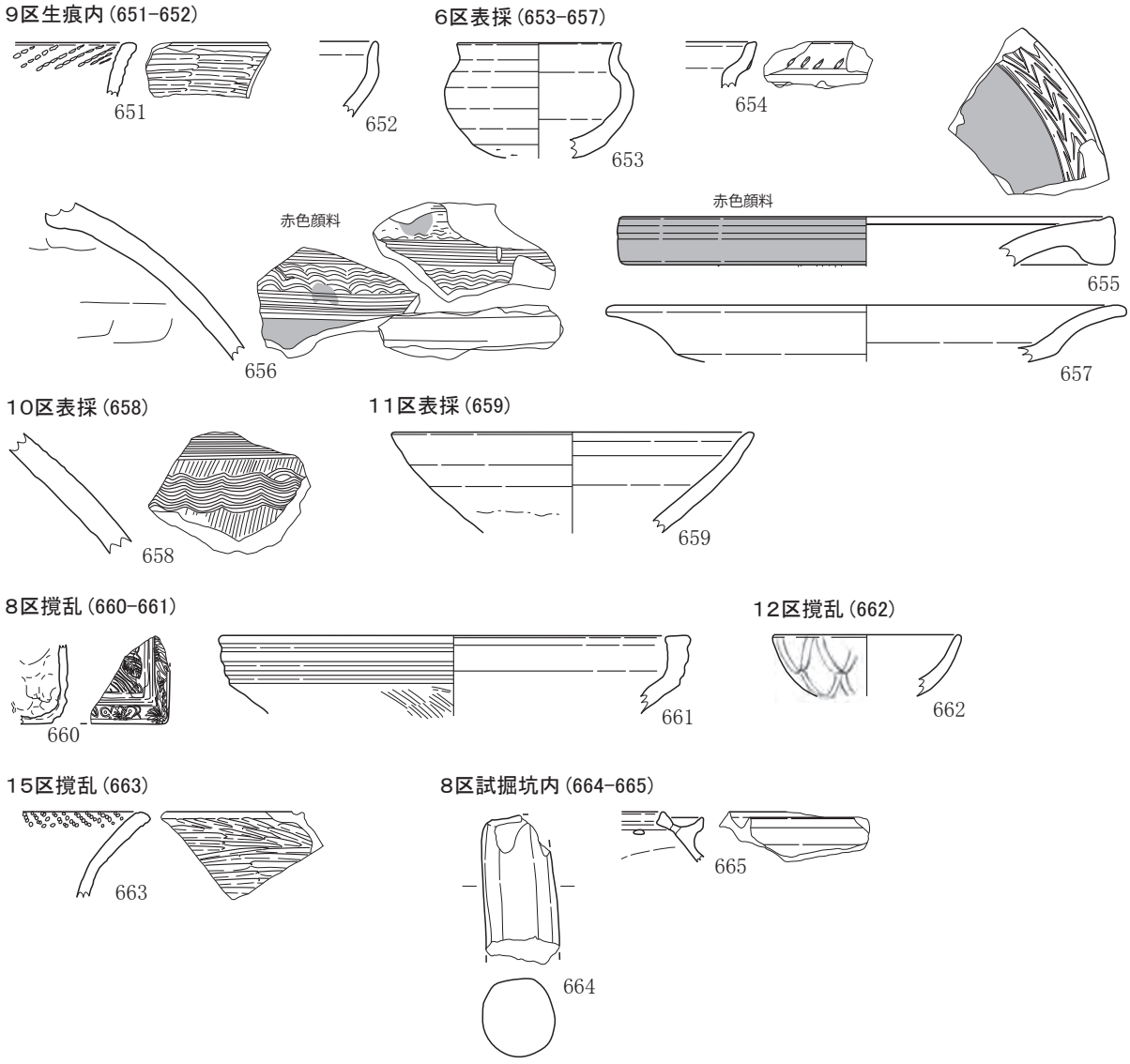
第 67 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（23）



第 68 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（24）

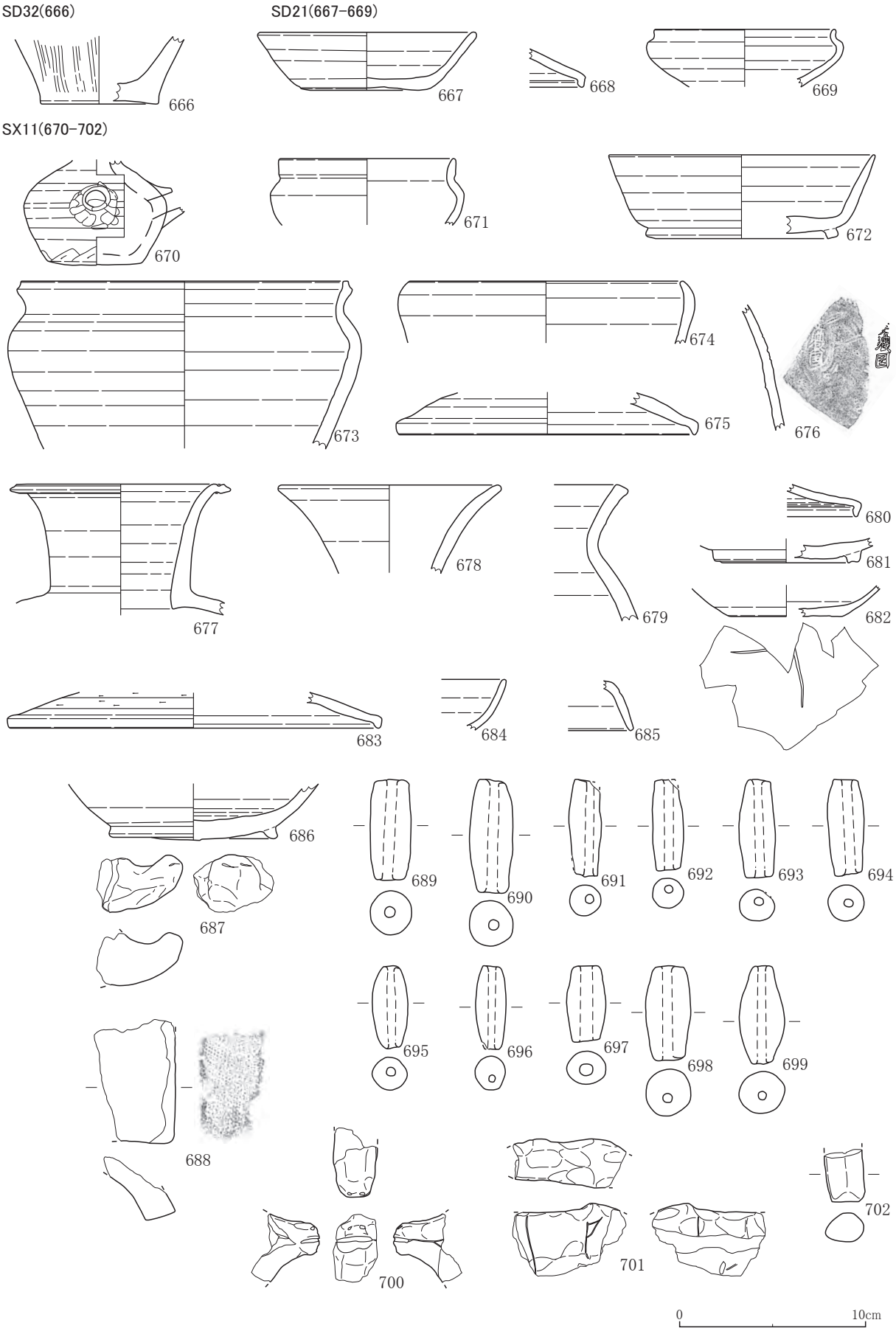


第 69 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（25）

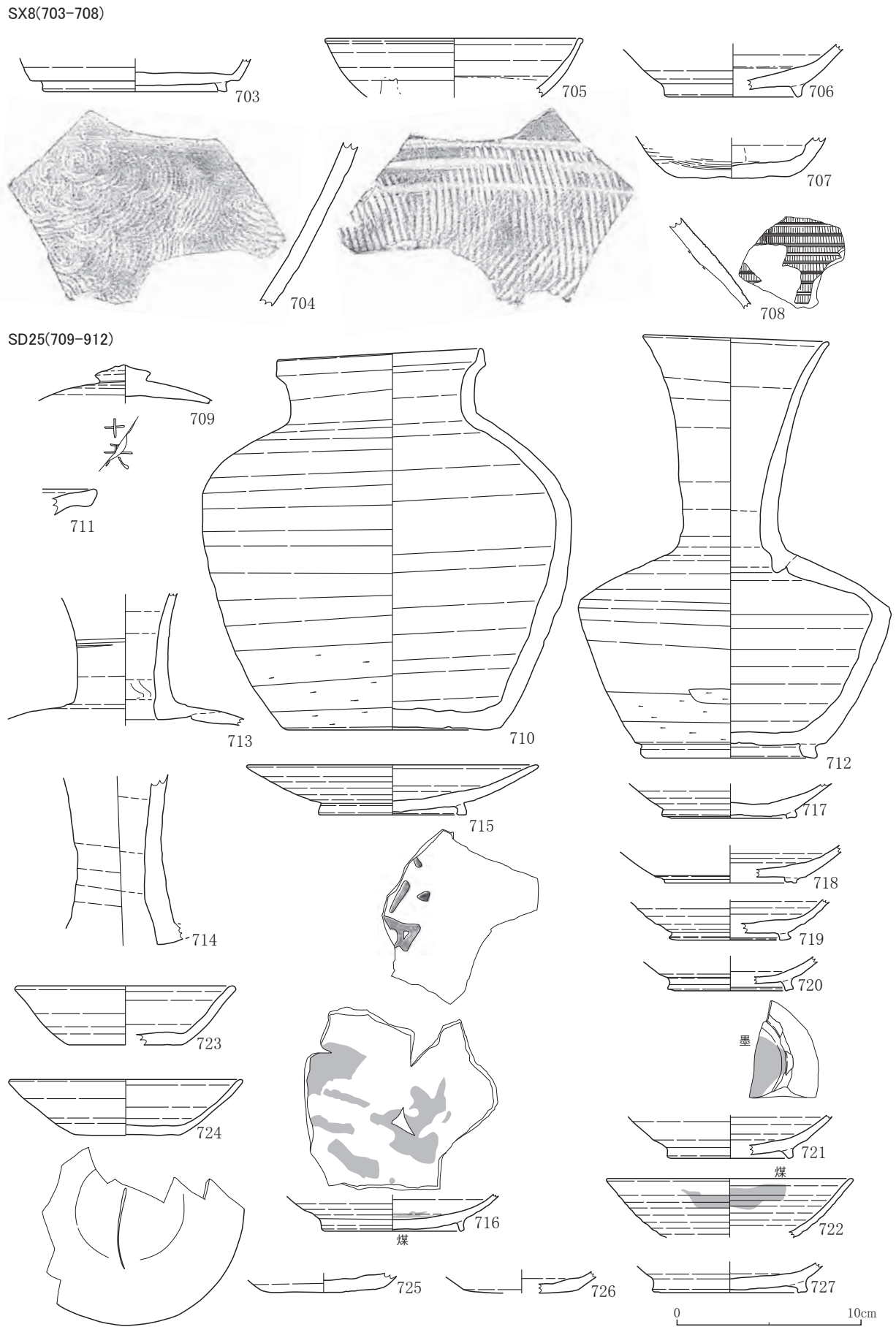


0 10cm

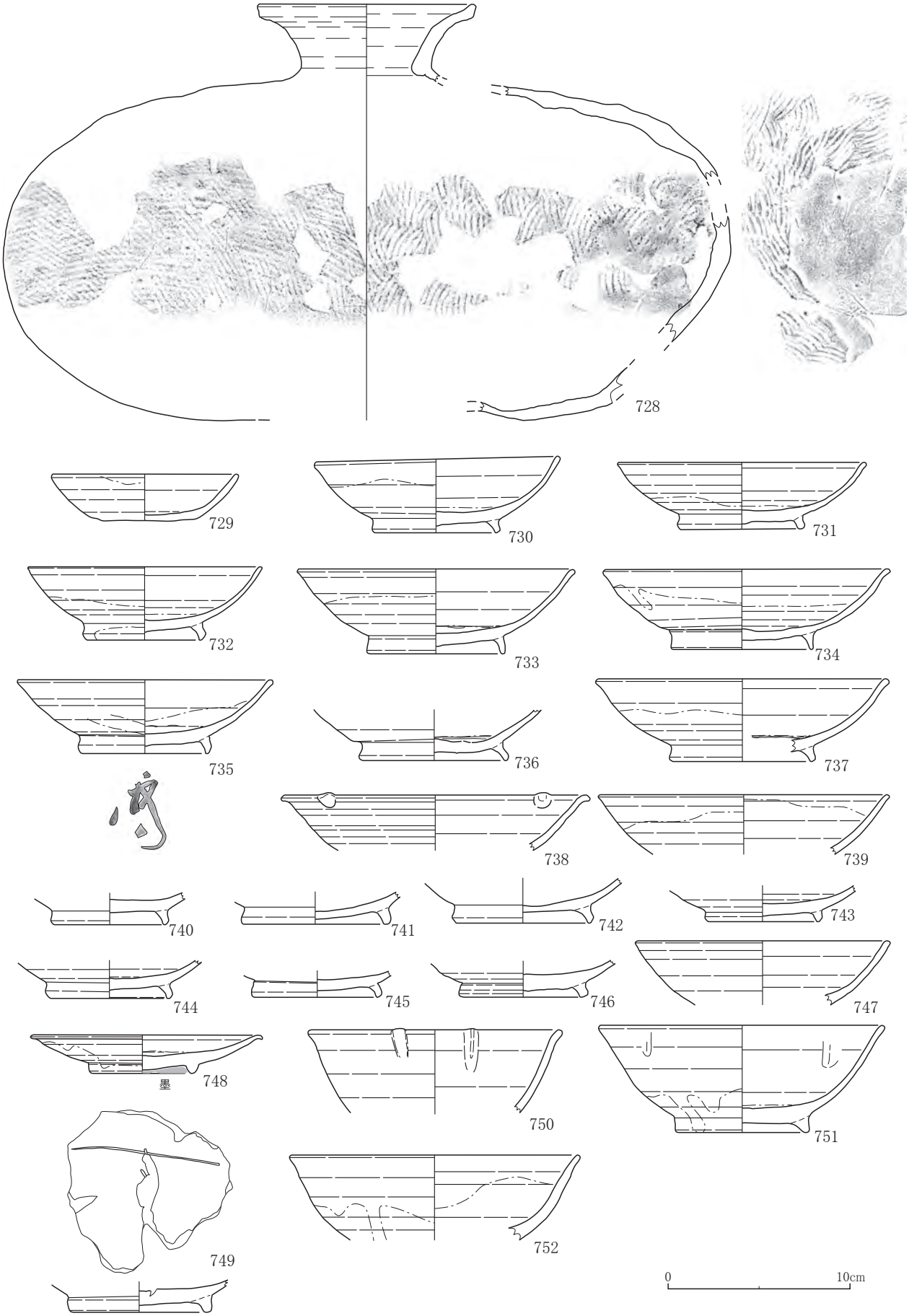
第 70 図　岩田東Ａ遺跡出土遺物実測図（26）



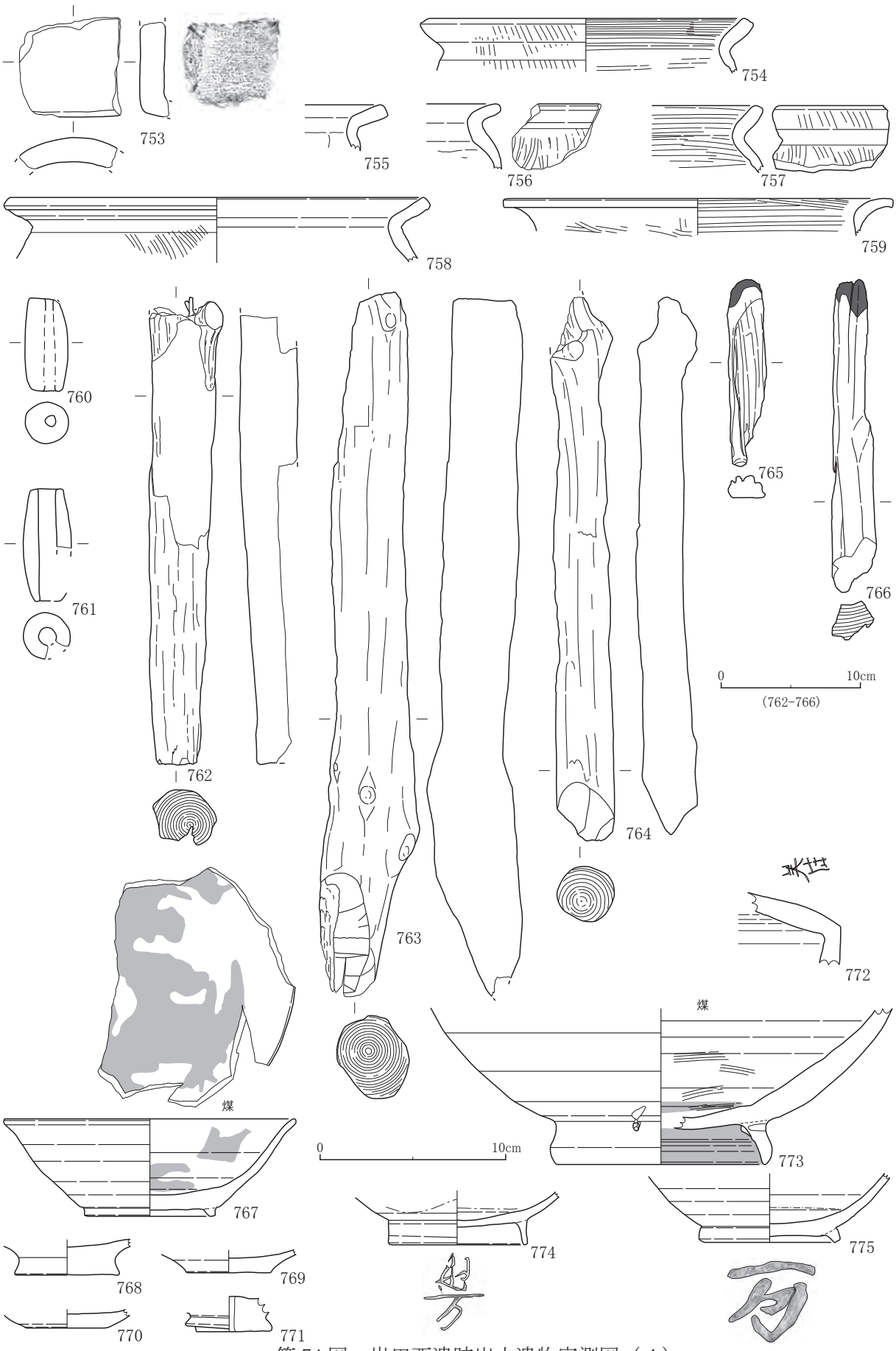
第 71 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（１）



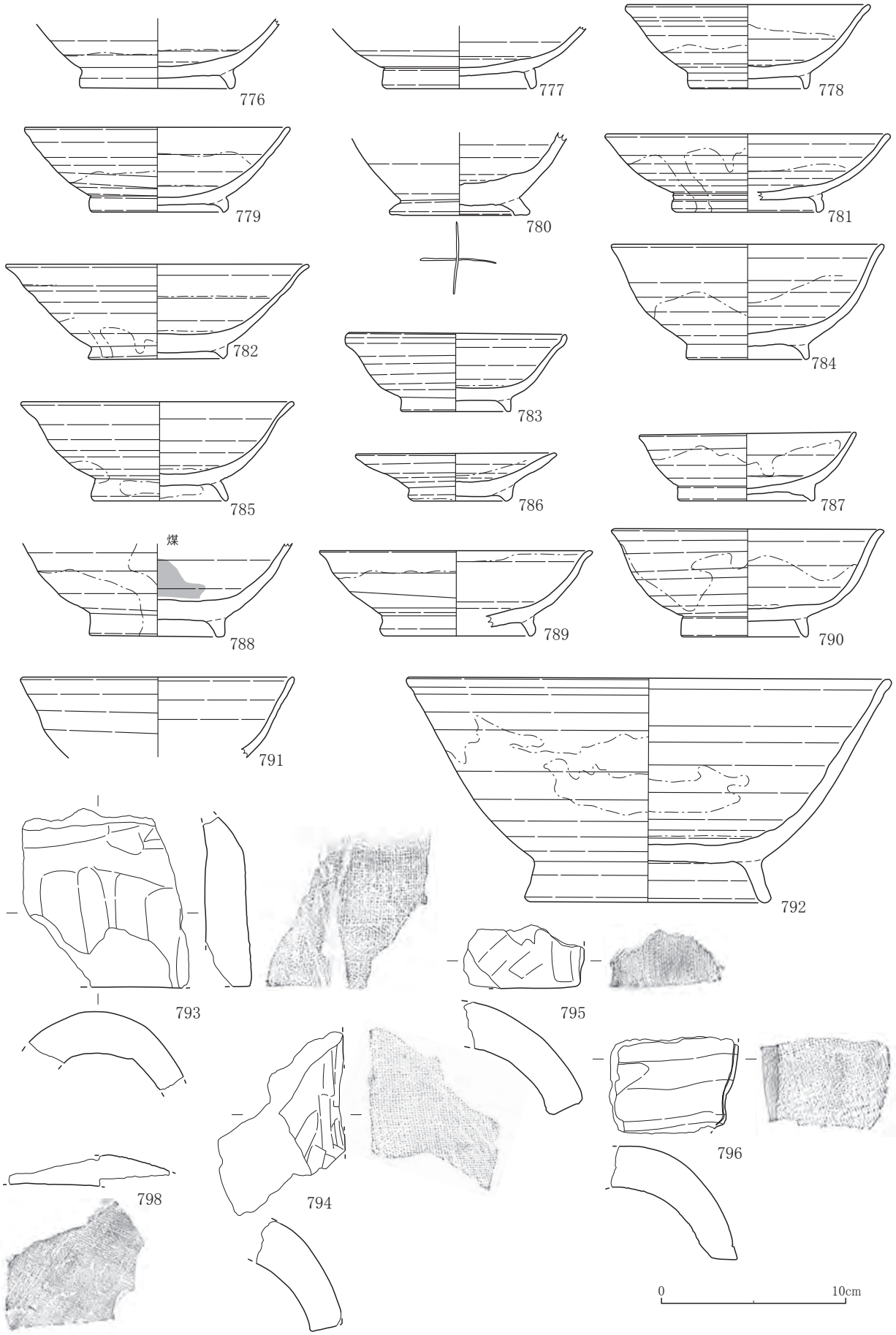
第 72 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（２）



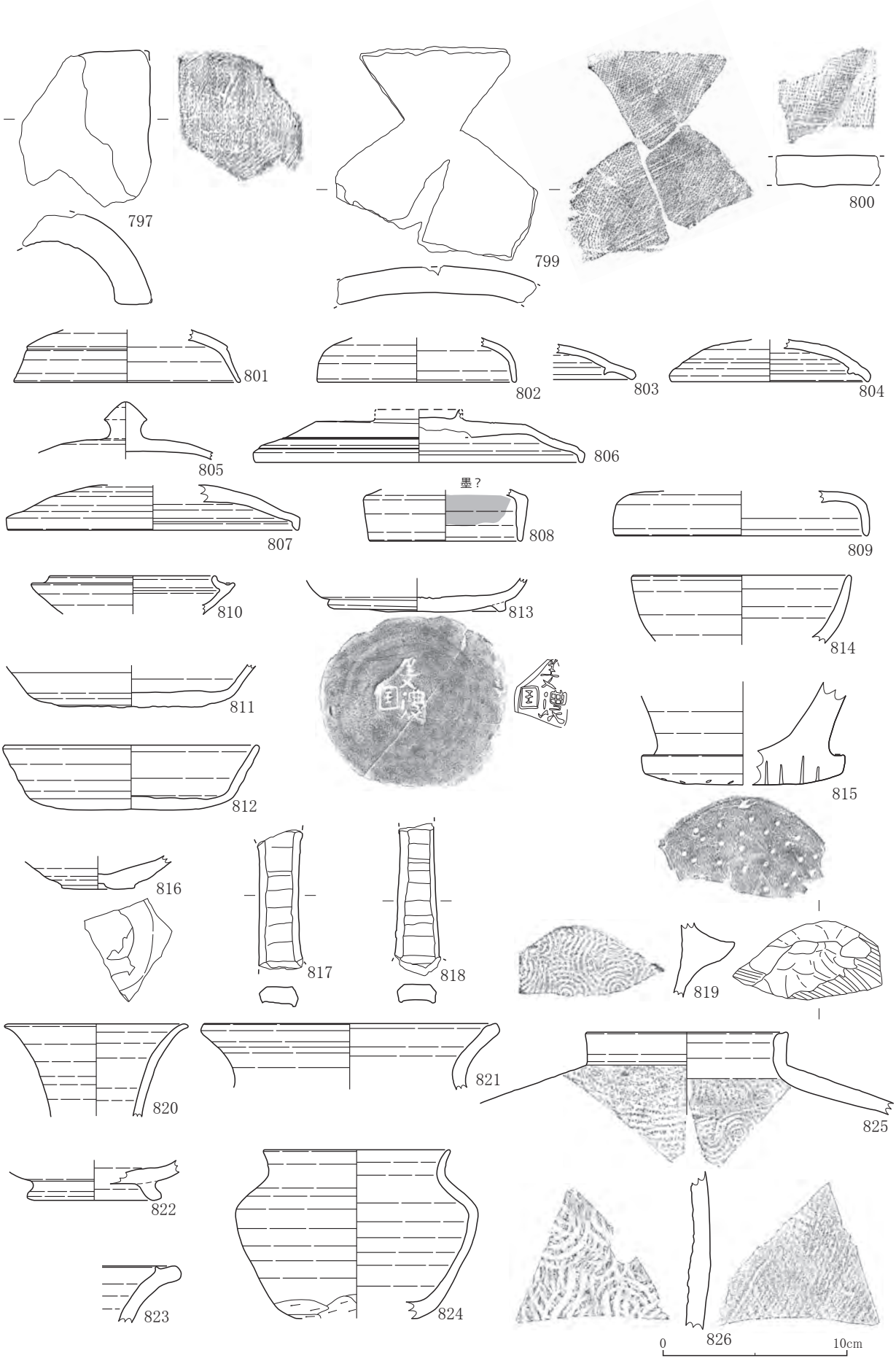
第 73 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（３）



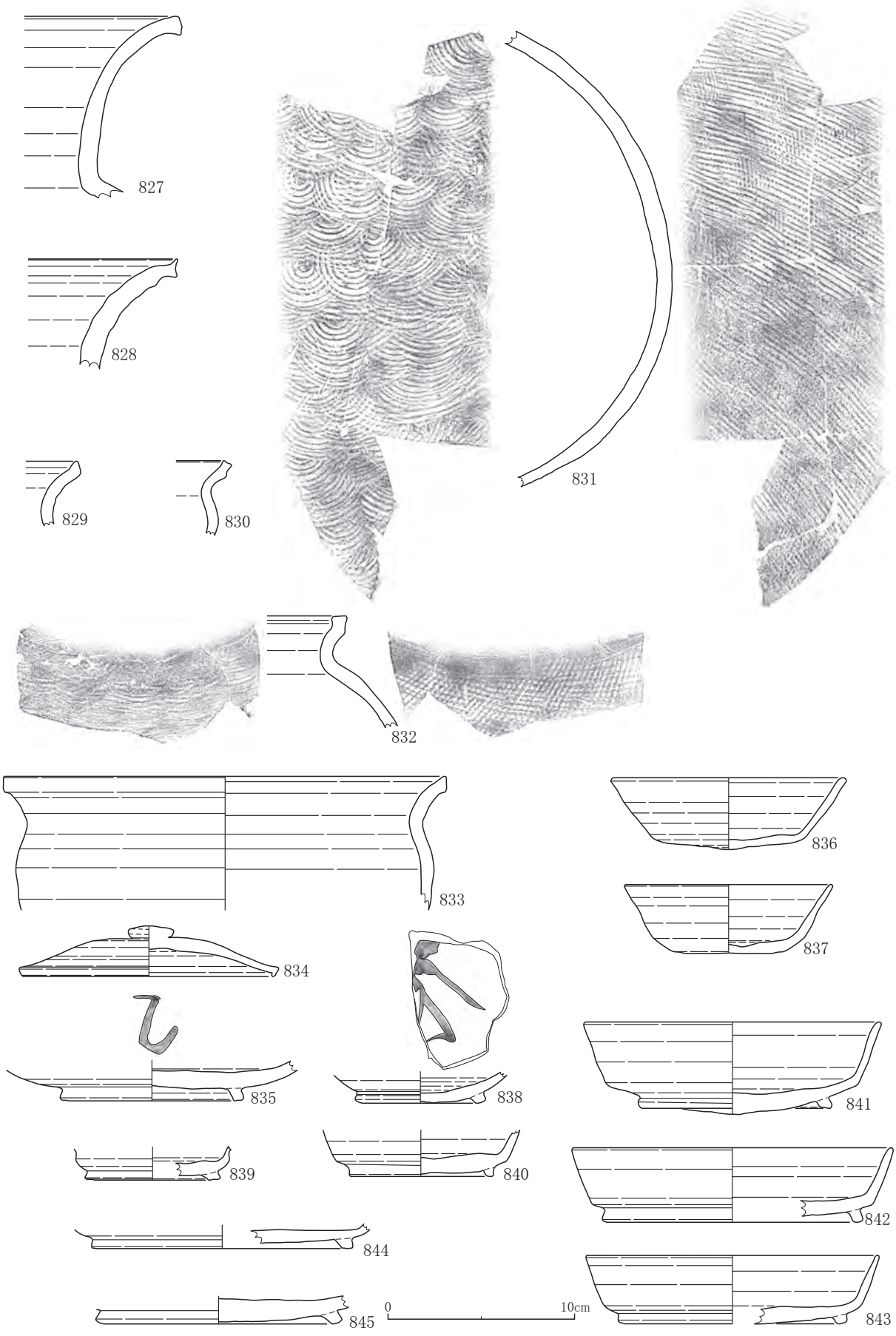
第 74 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（４）



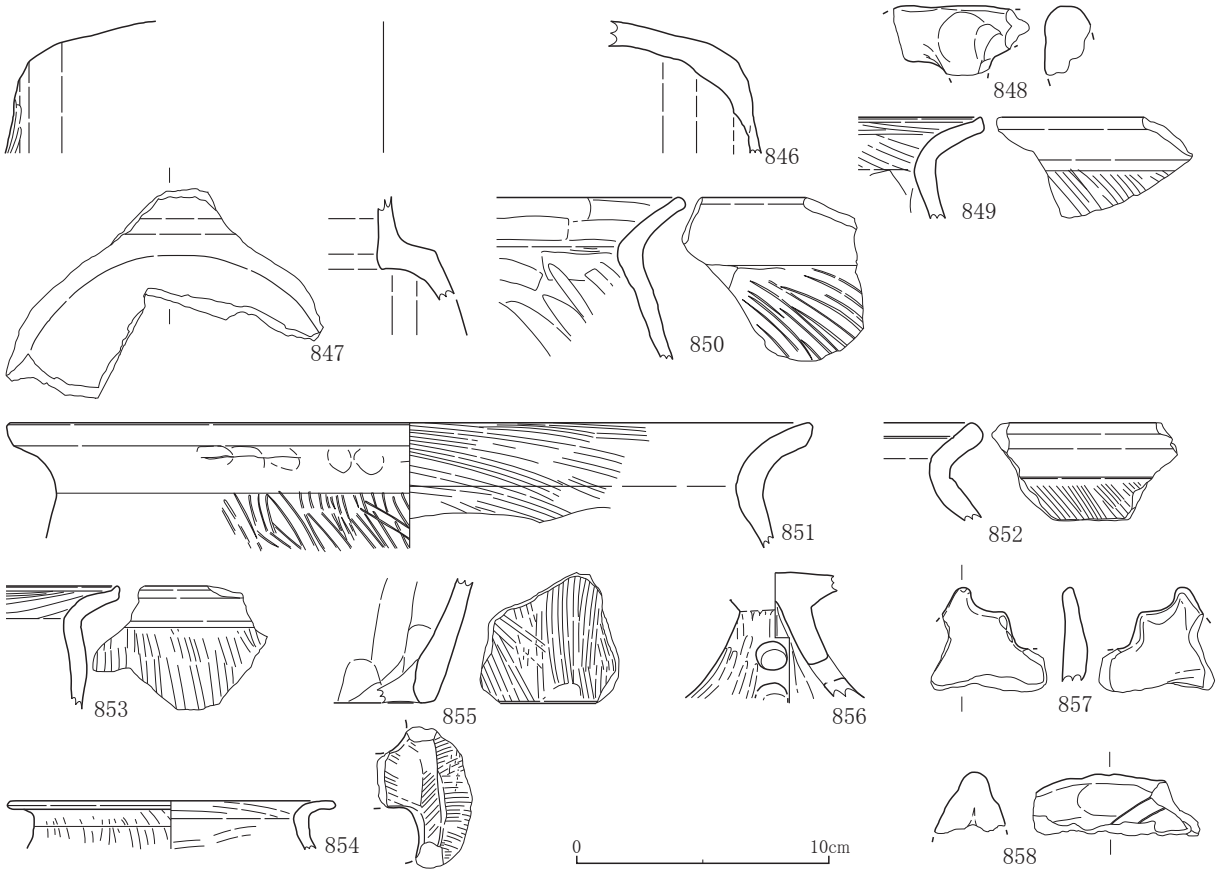
第 75 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（５）

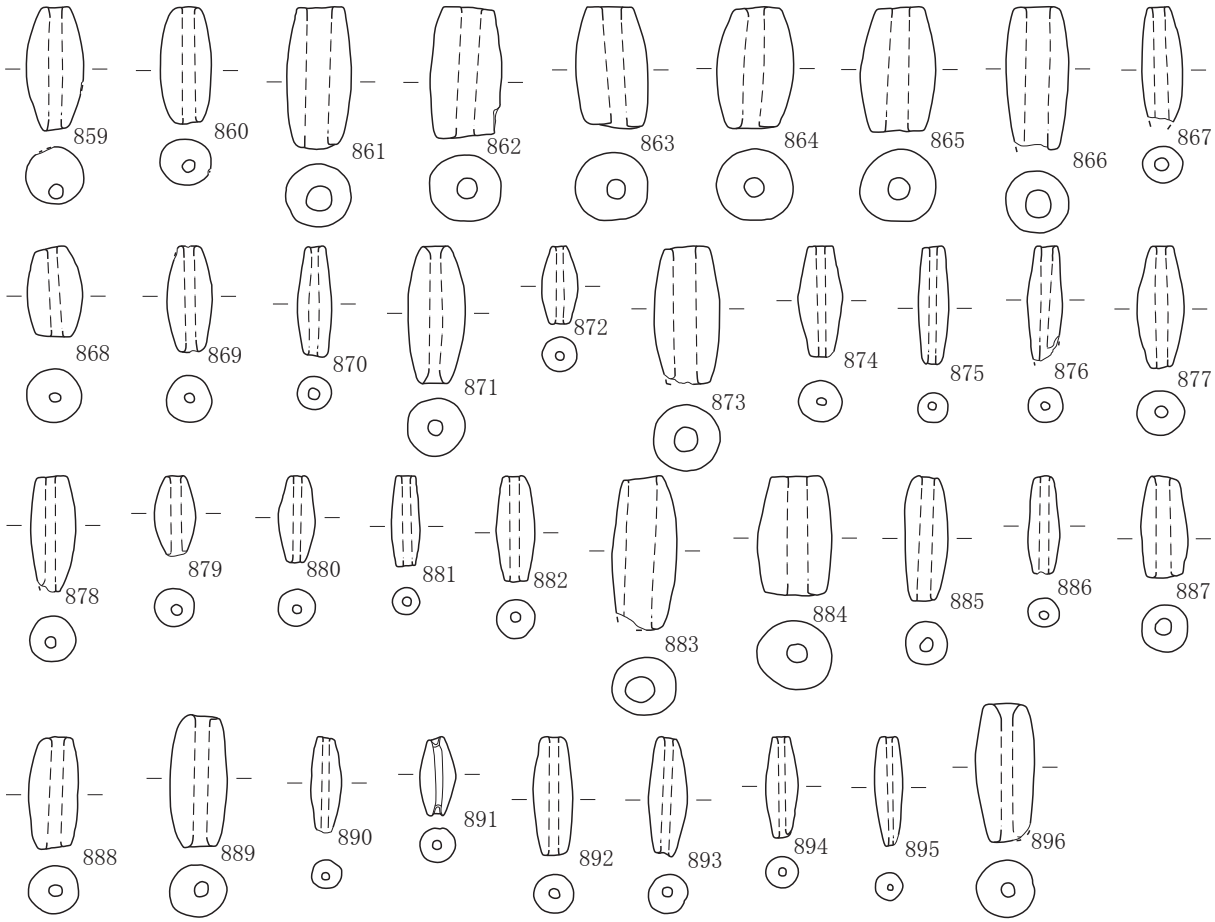


第 76 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（６）

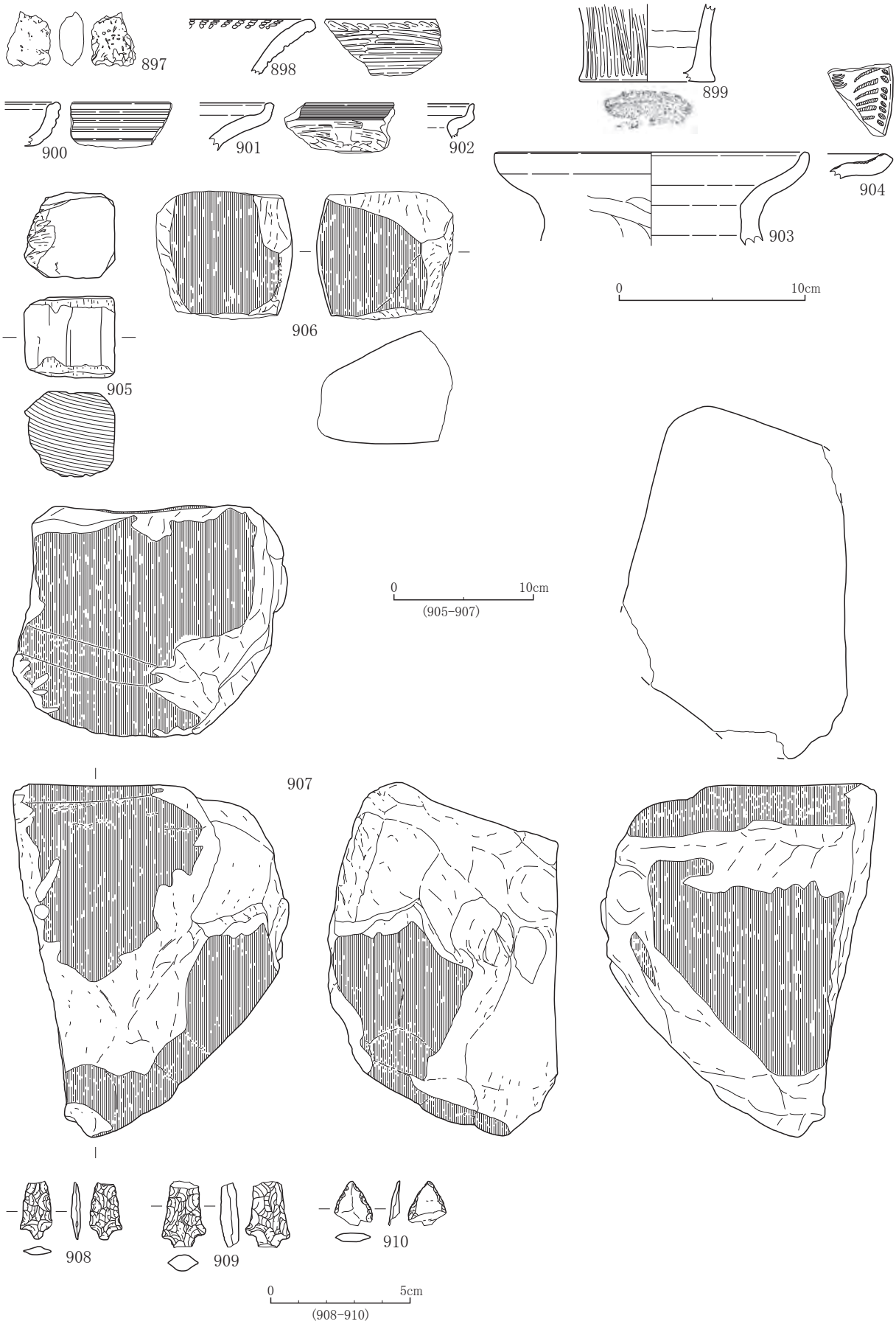


第 77 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（７）

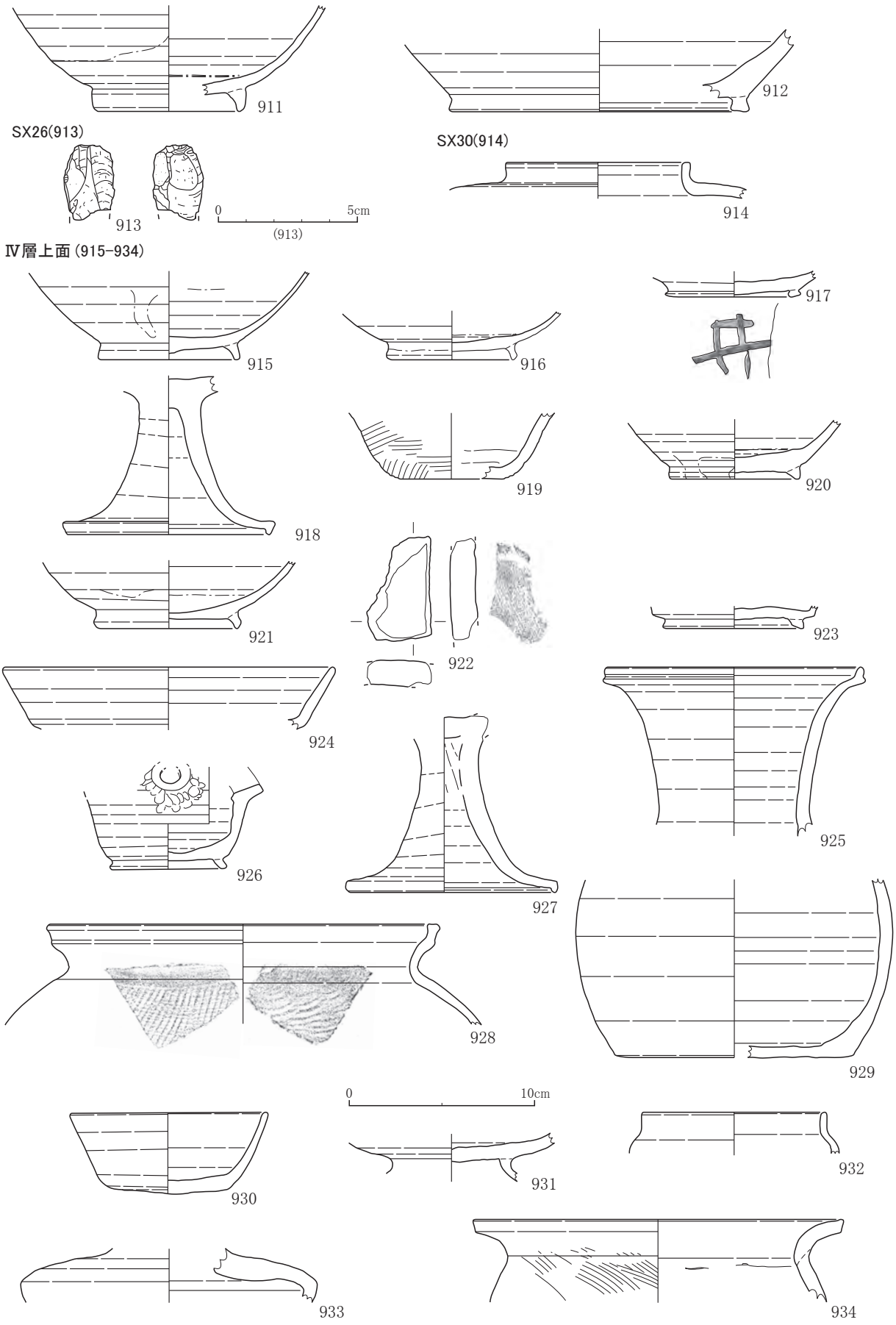




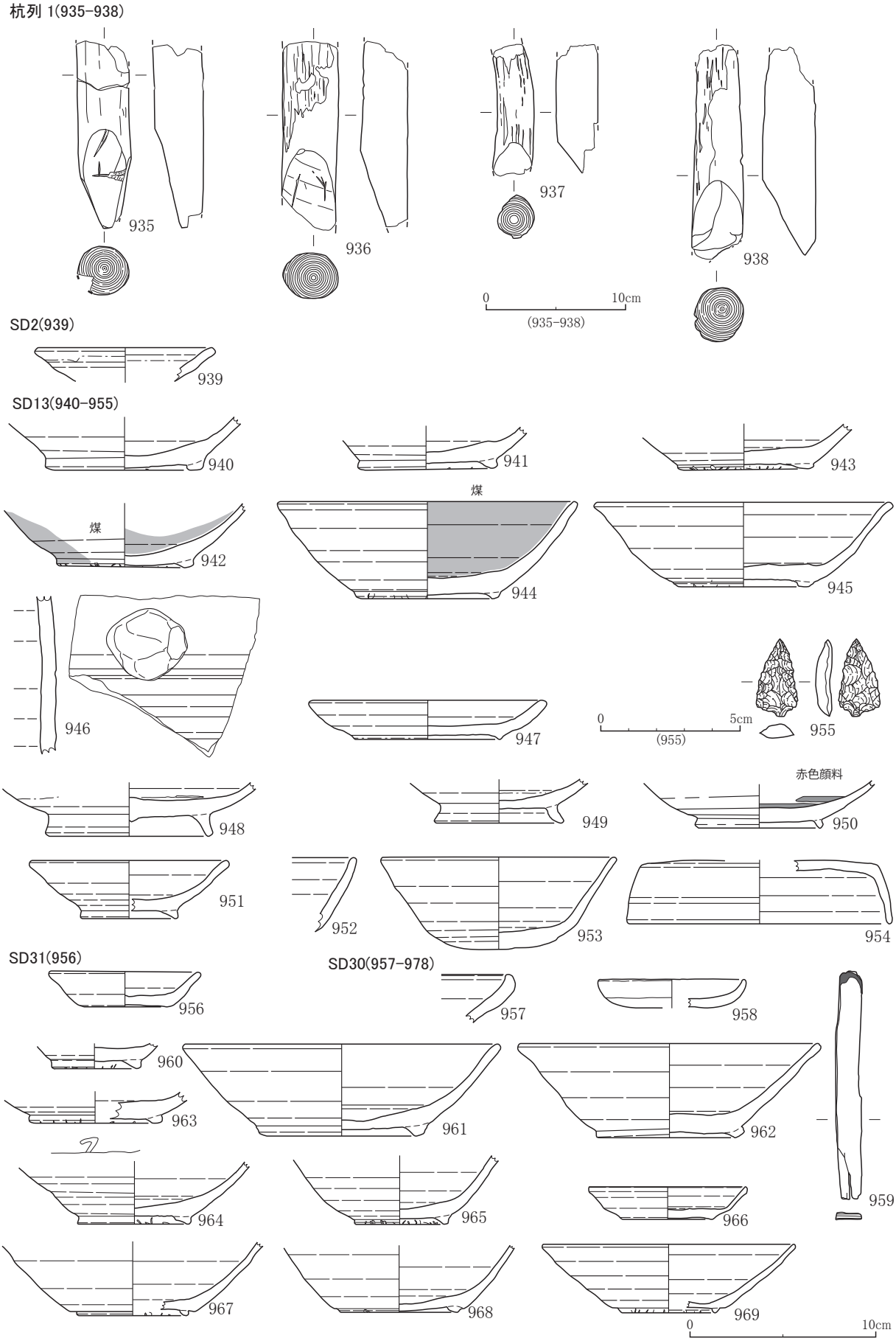
第 78 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（８）



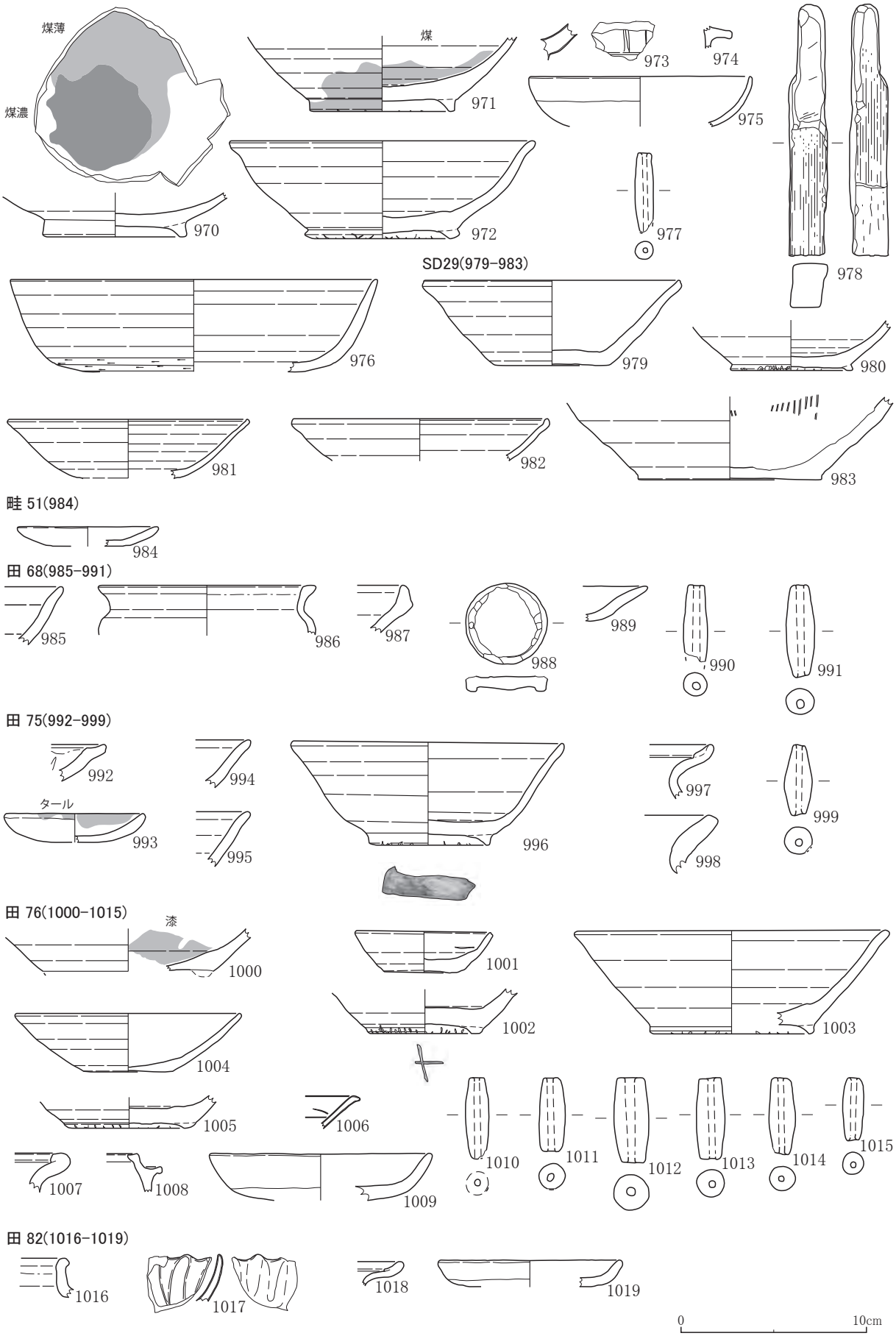
第 79 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（9）



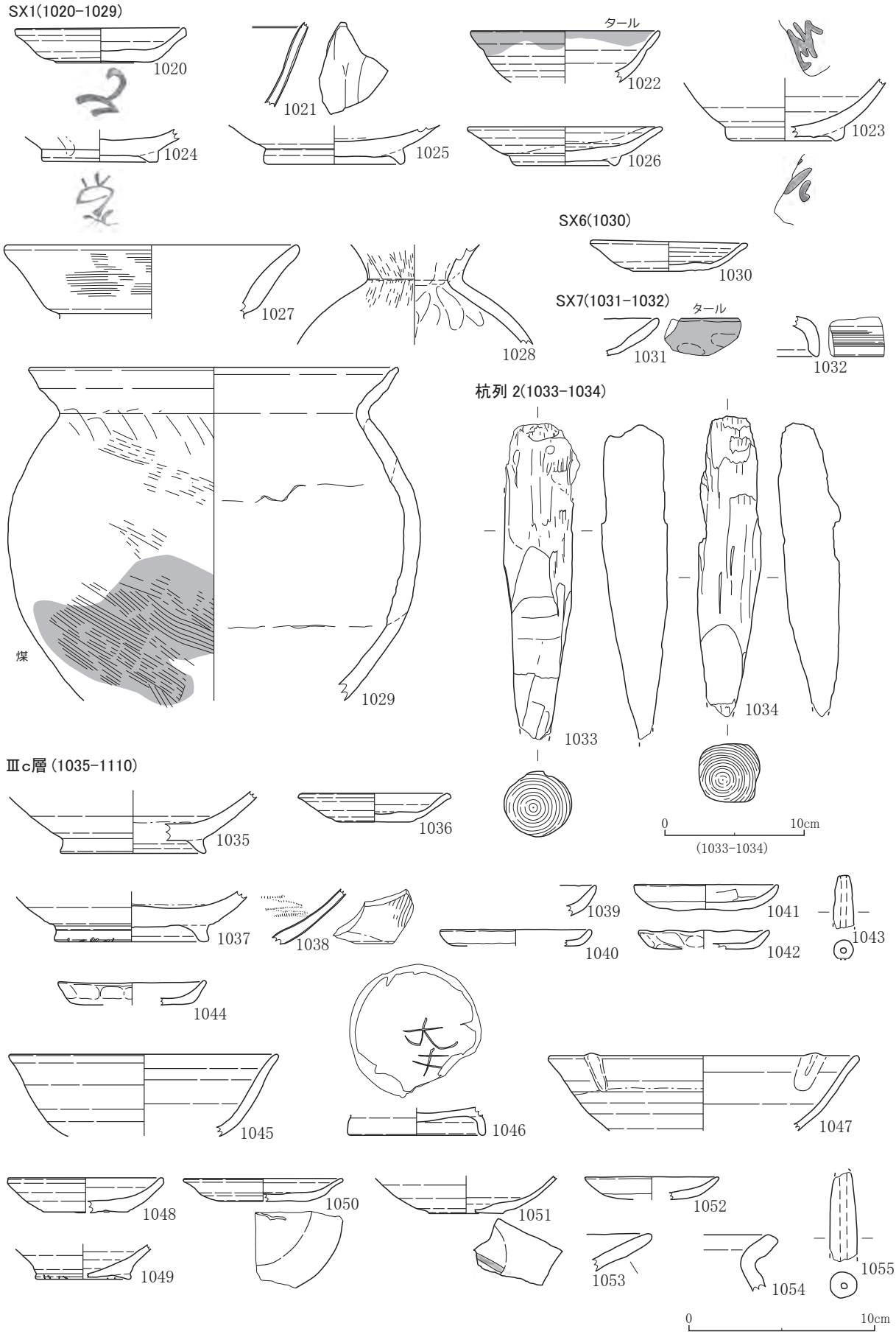
第 80 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（10）



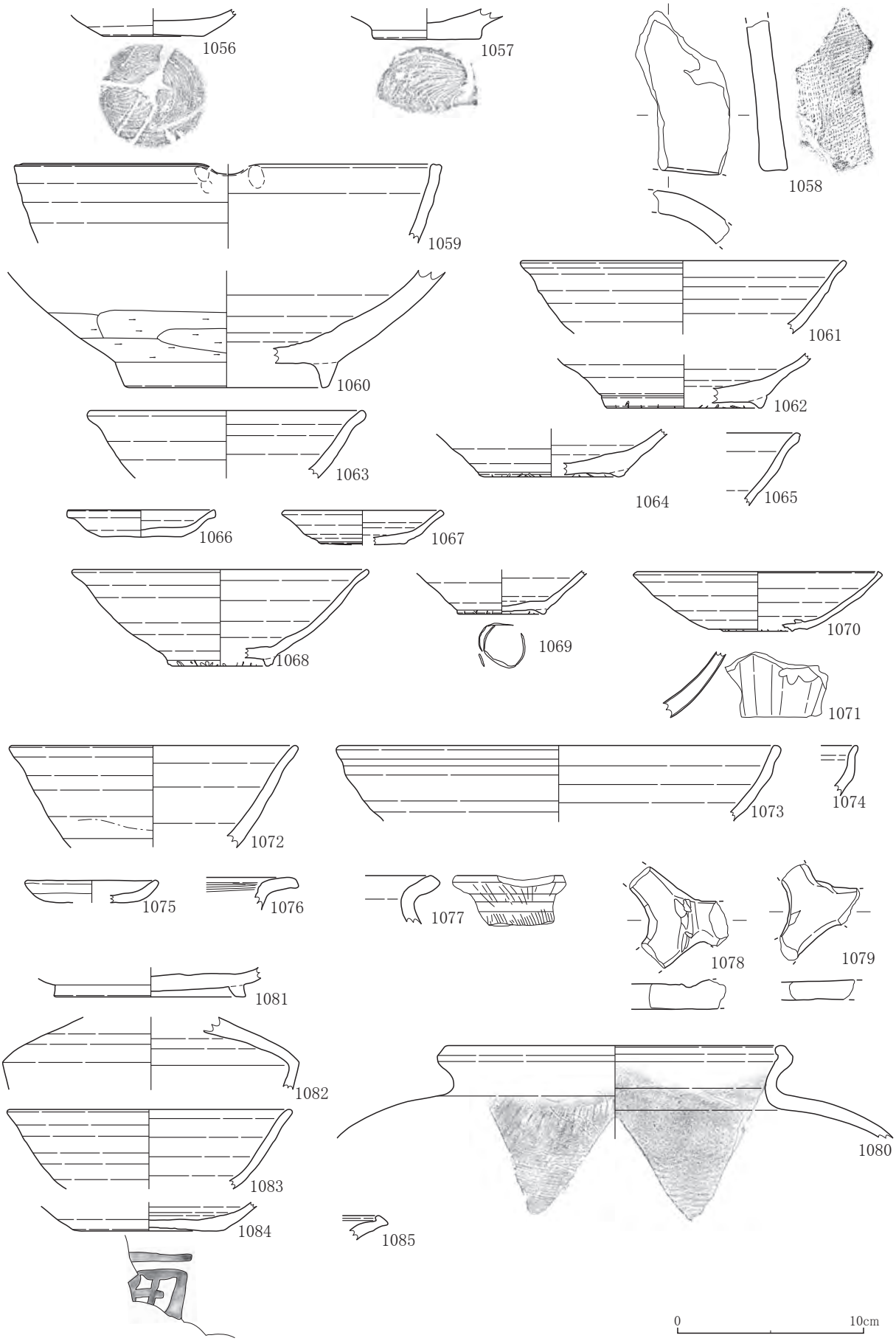
第 81 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（11）



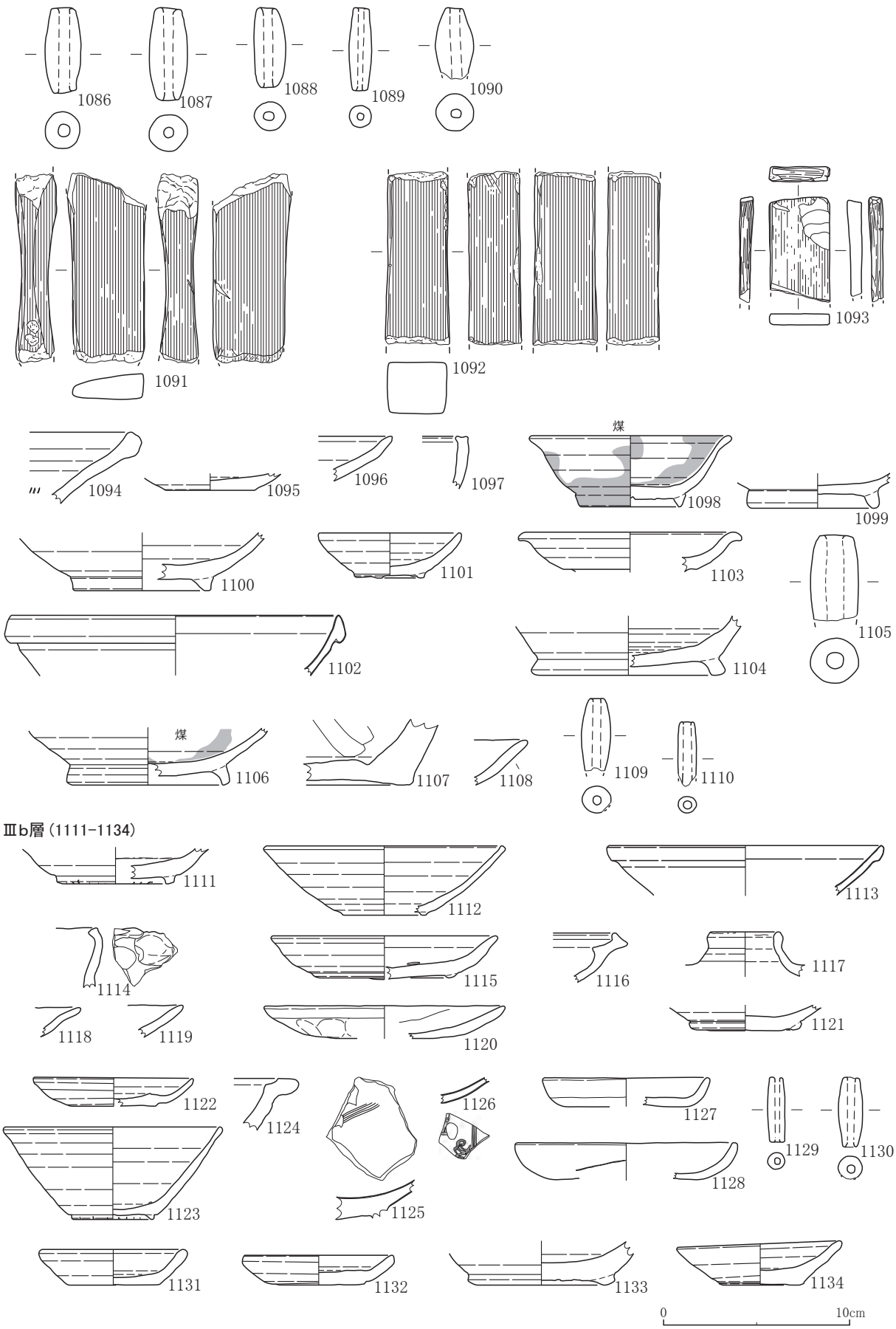
第 82 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（12）



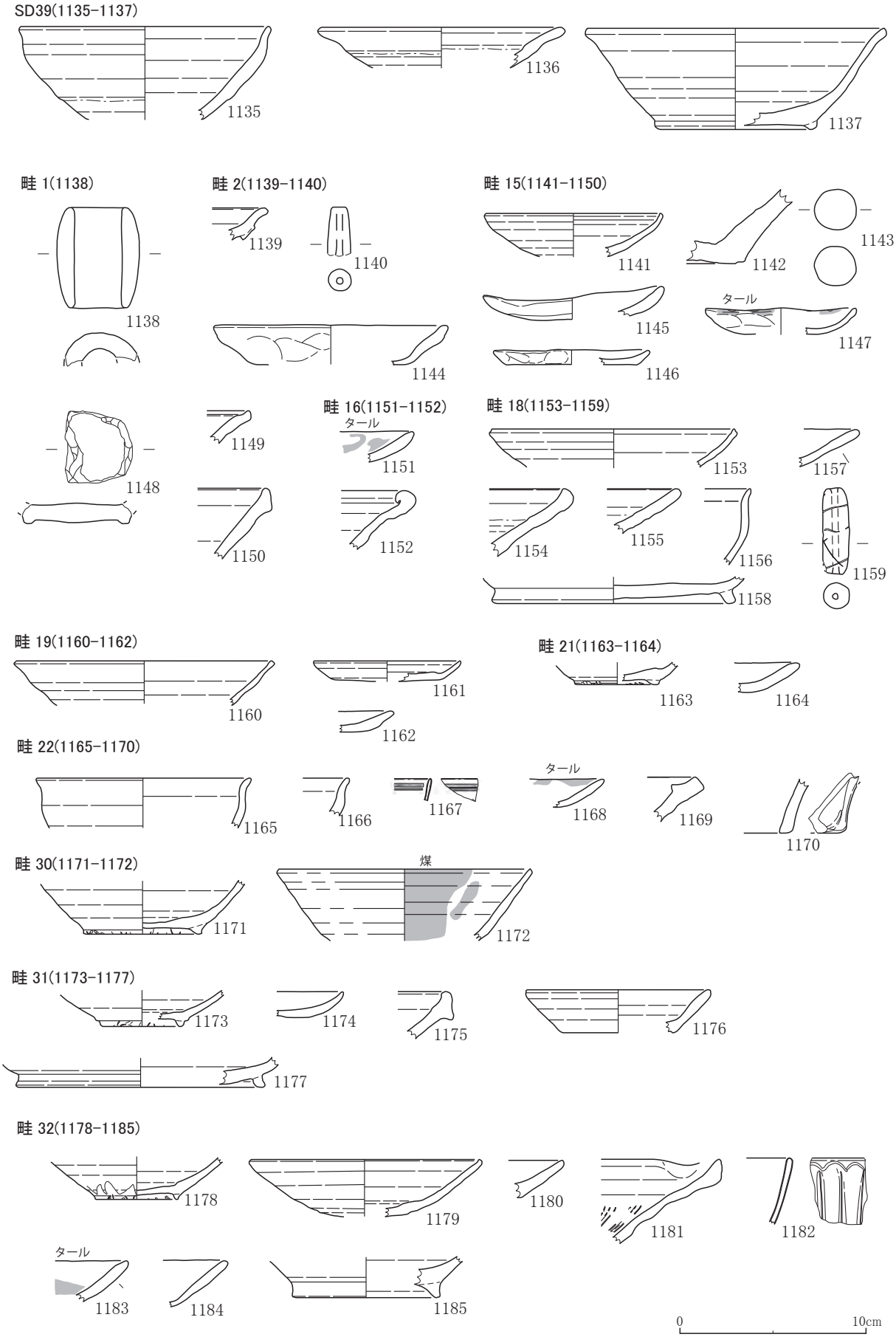
第 83 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（13）



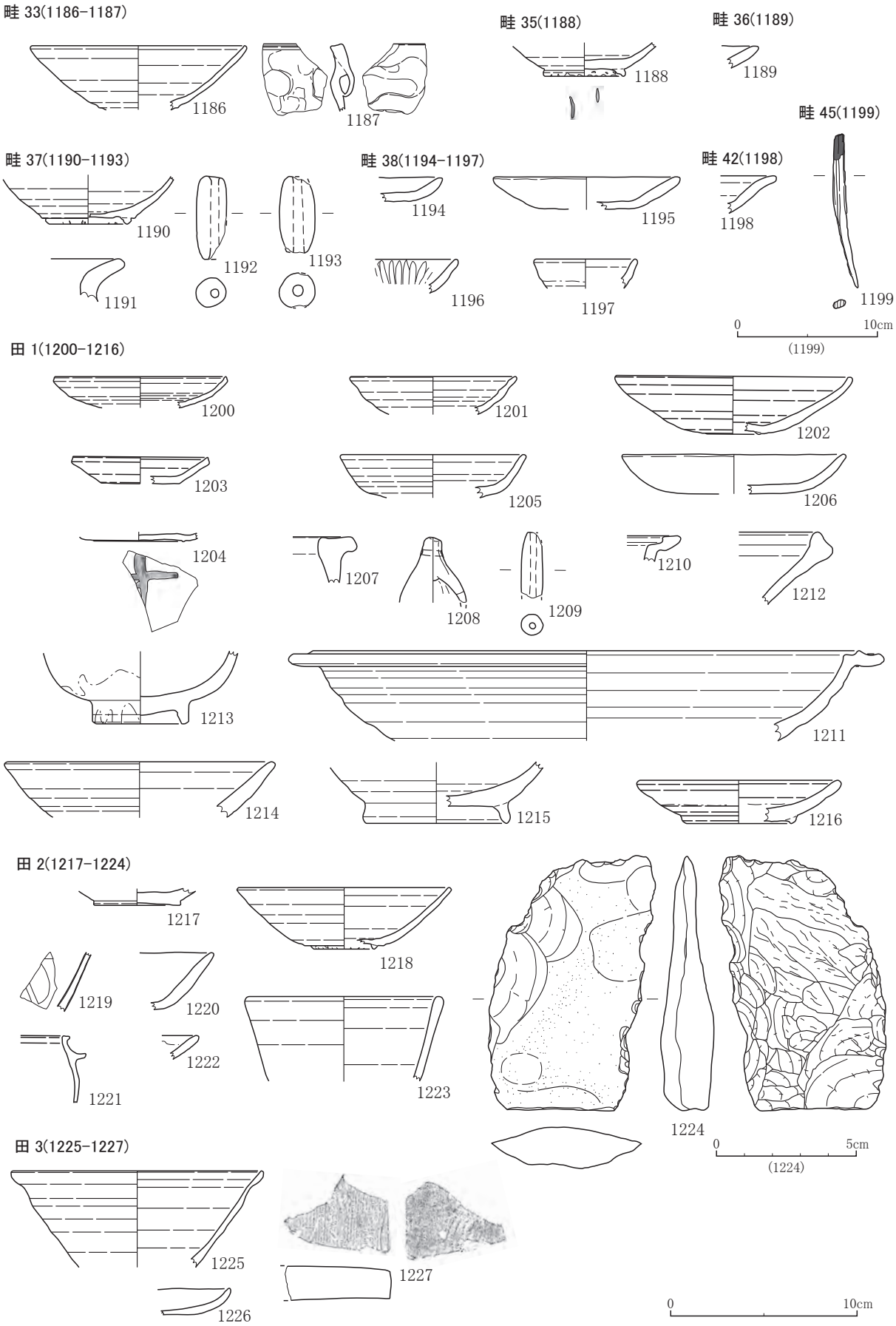
第 84 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（14）



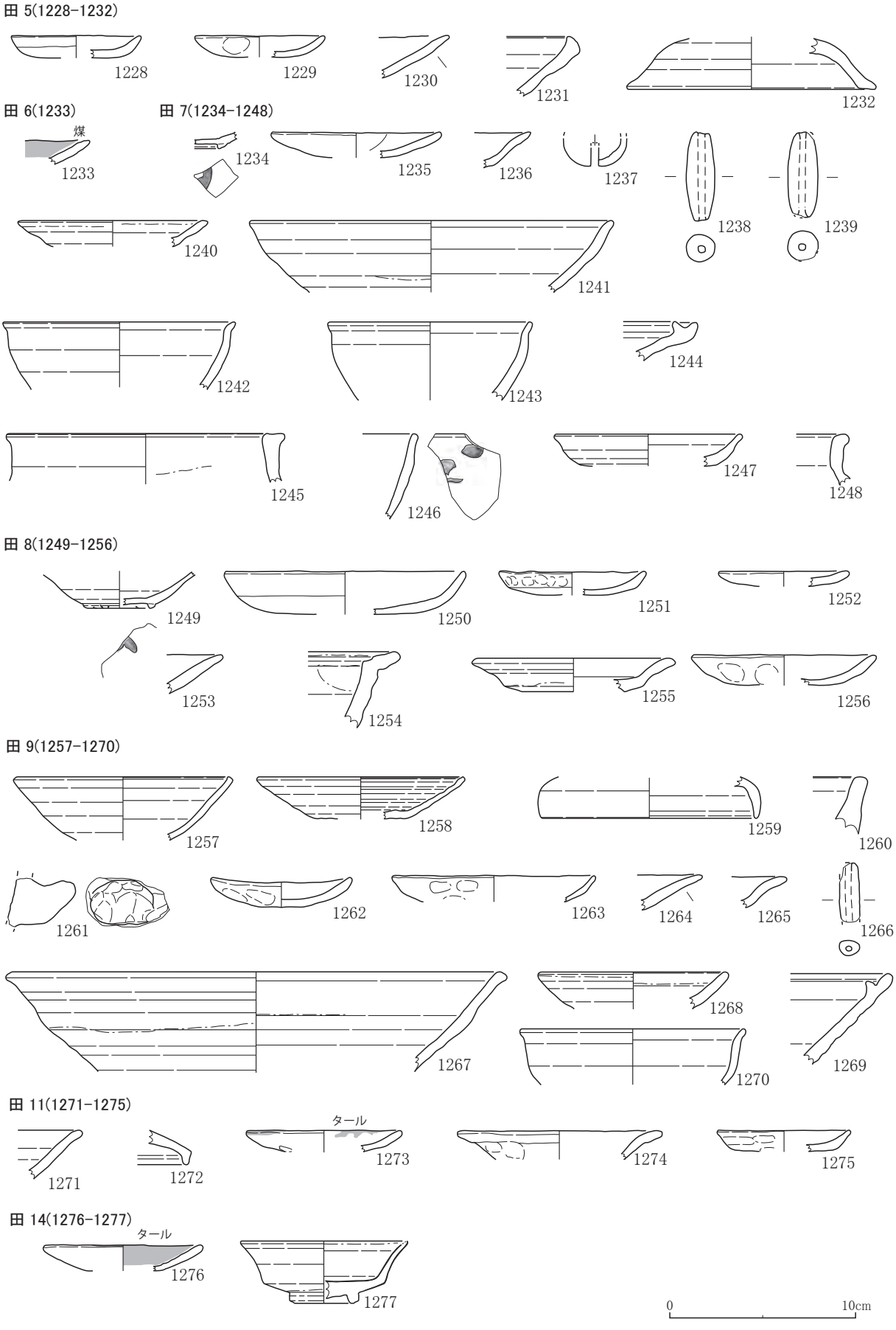
第 85 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（15）



第 86 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（16）

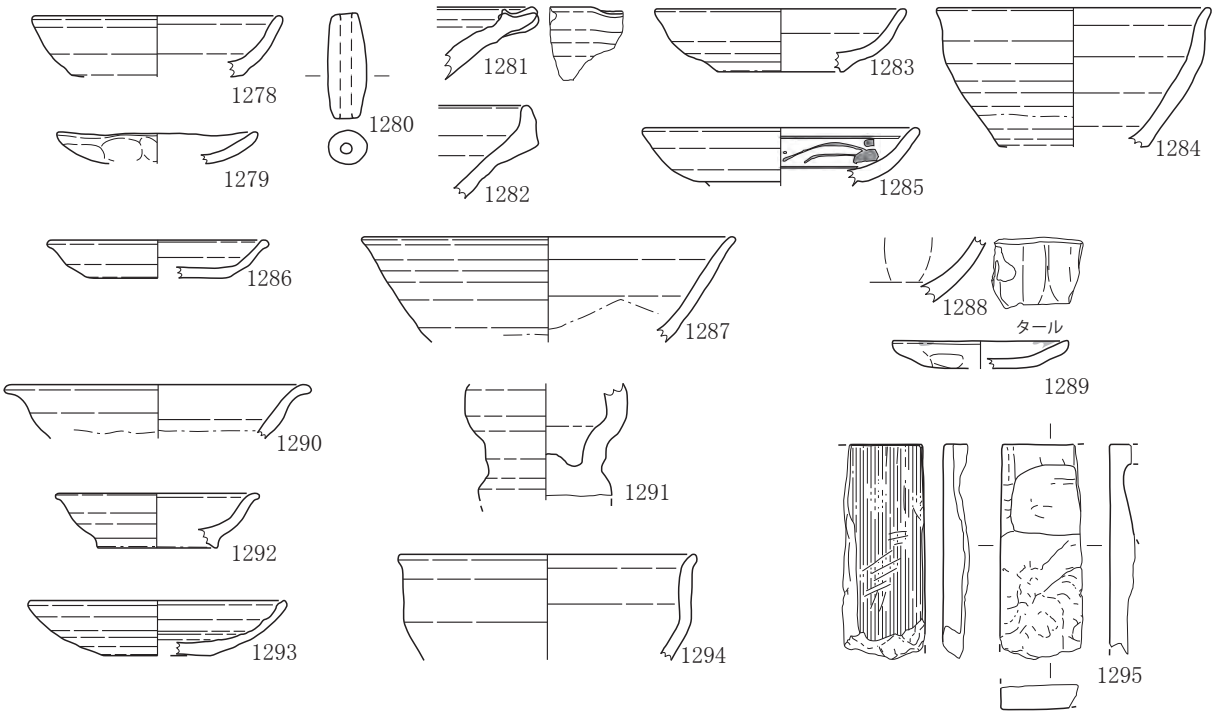


第 87 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（17）

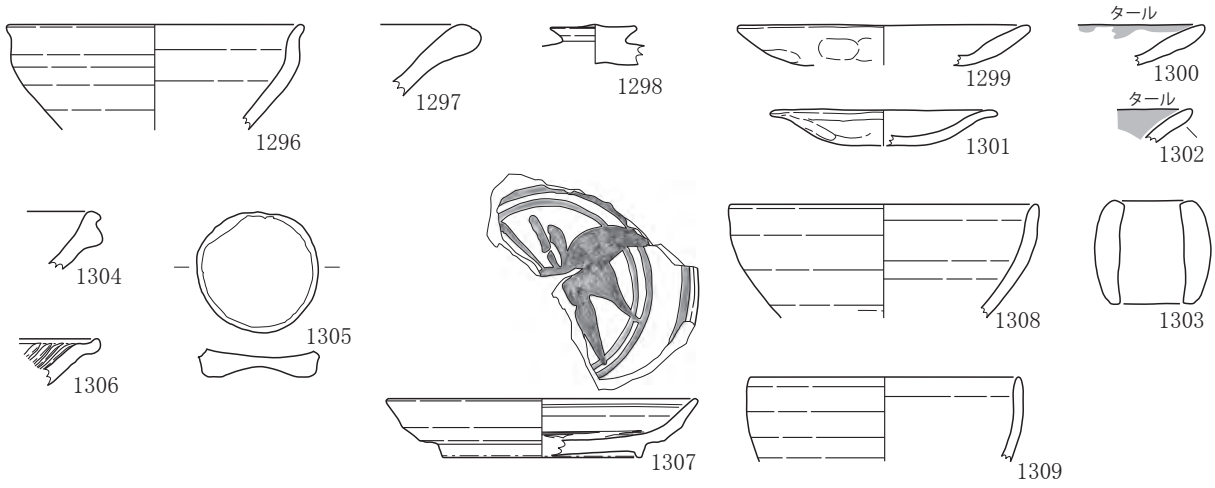


第 88 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（18）

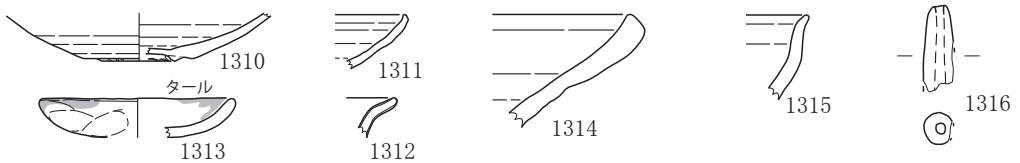
田 15(1278-1295)



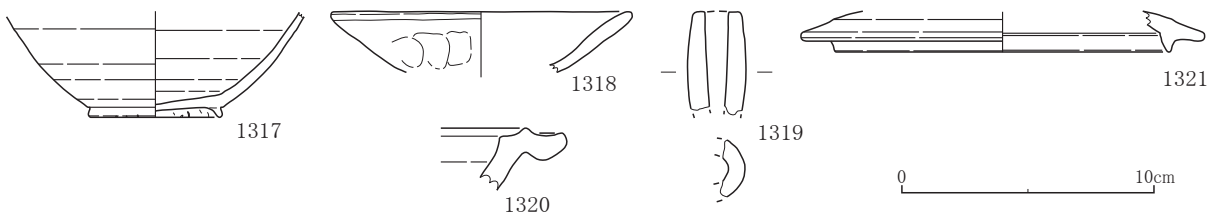
田 16(1296-1309)



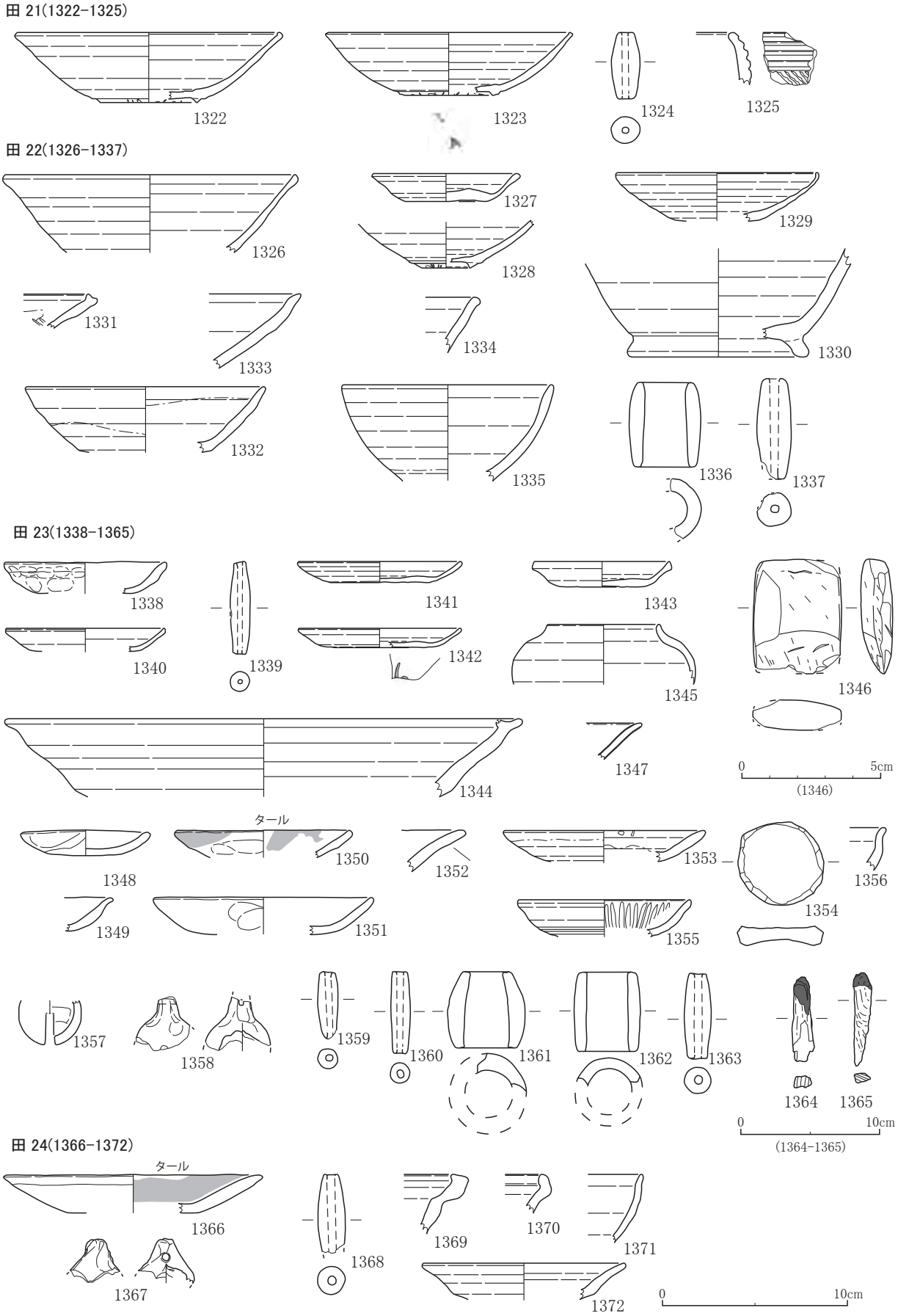
田 18(1310-1316)



田 19(1317-1321)

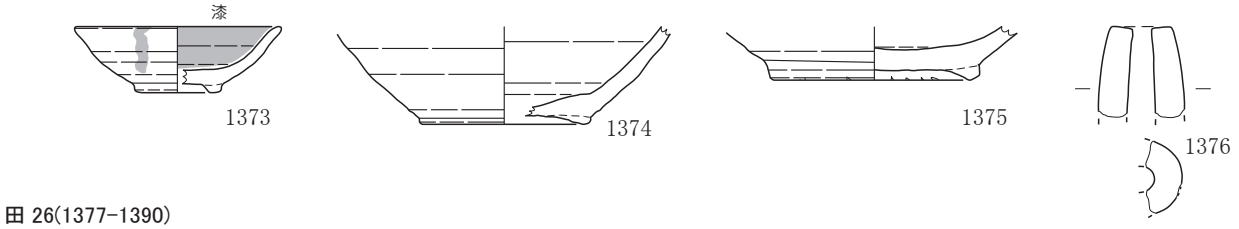


第 89 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（19）

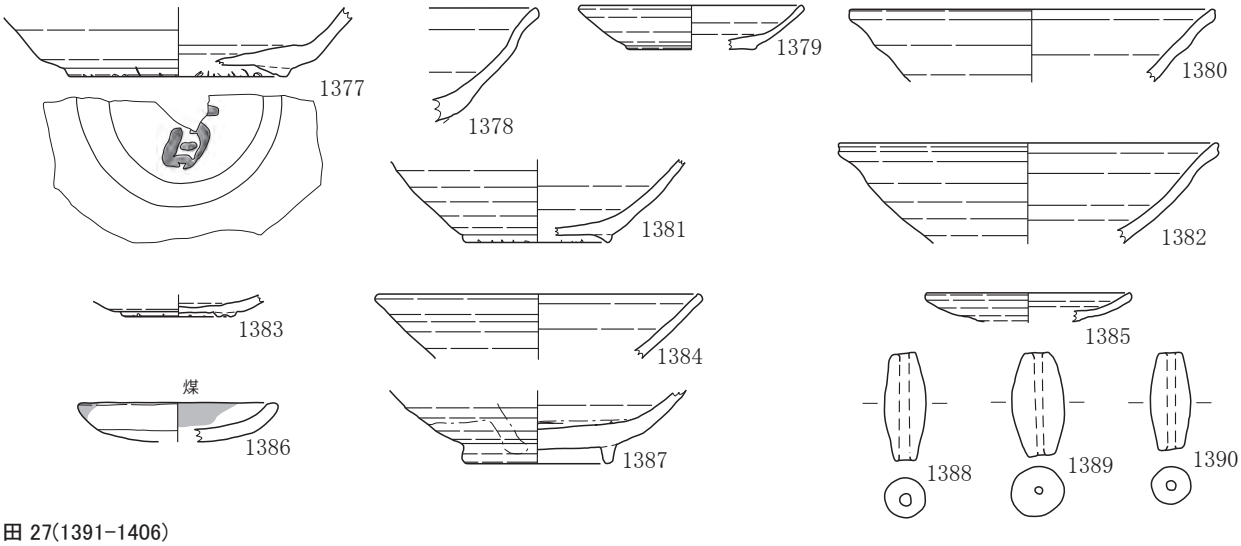


第 90 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（20）

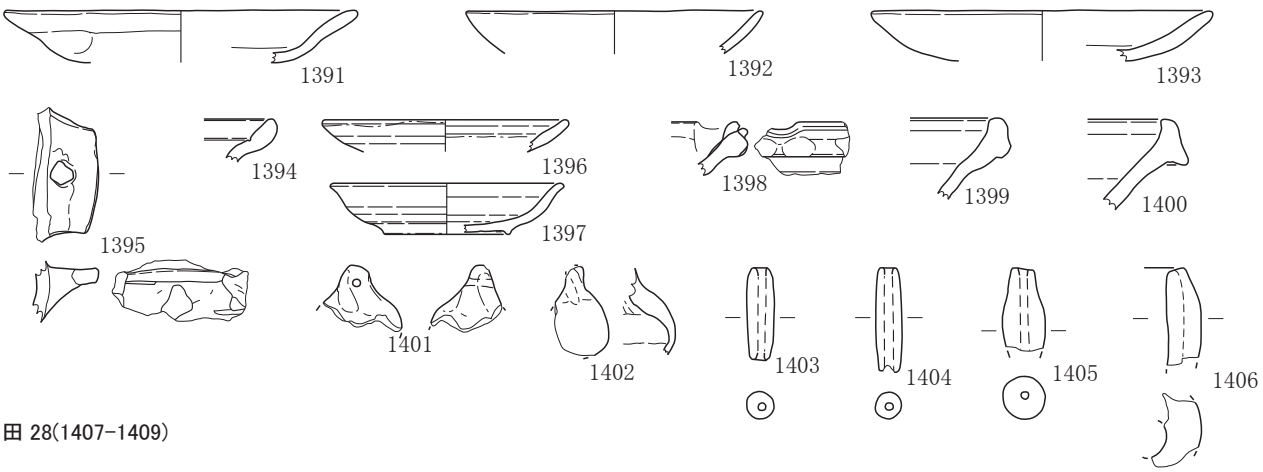
田 25(1373-1376)



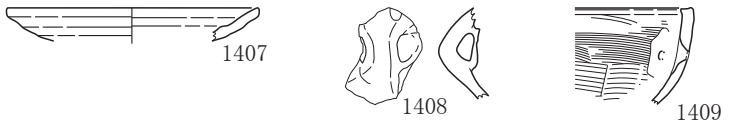
田 26(1377-1390)



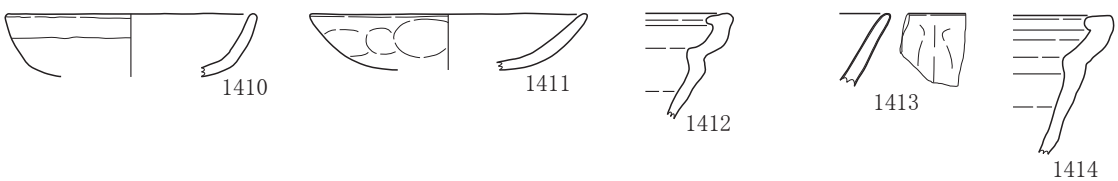
田 27(1391-1406)

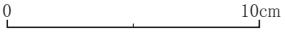


田 28(1407-1409)

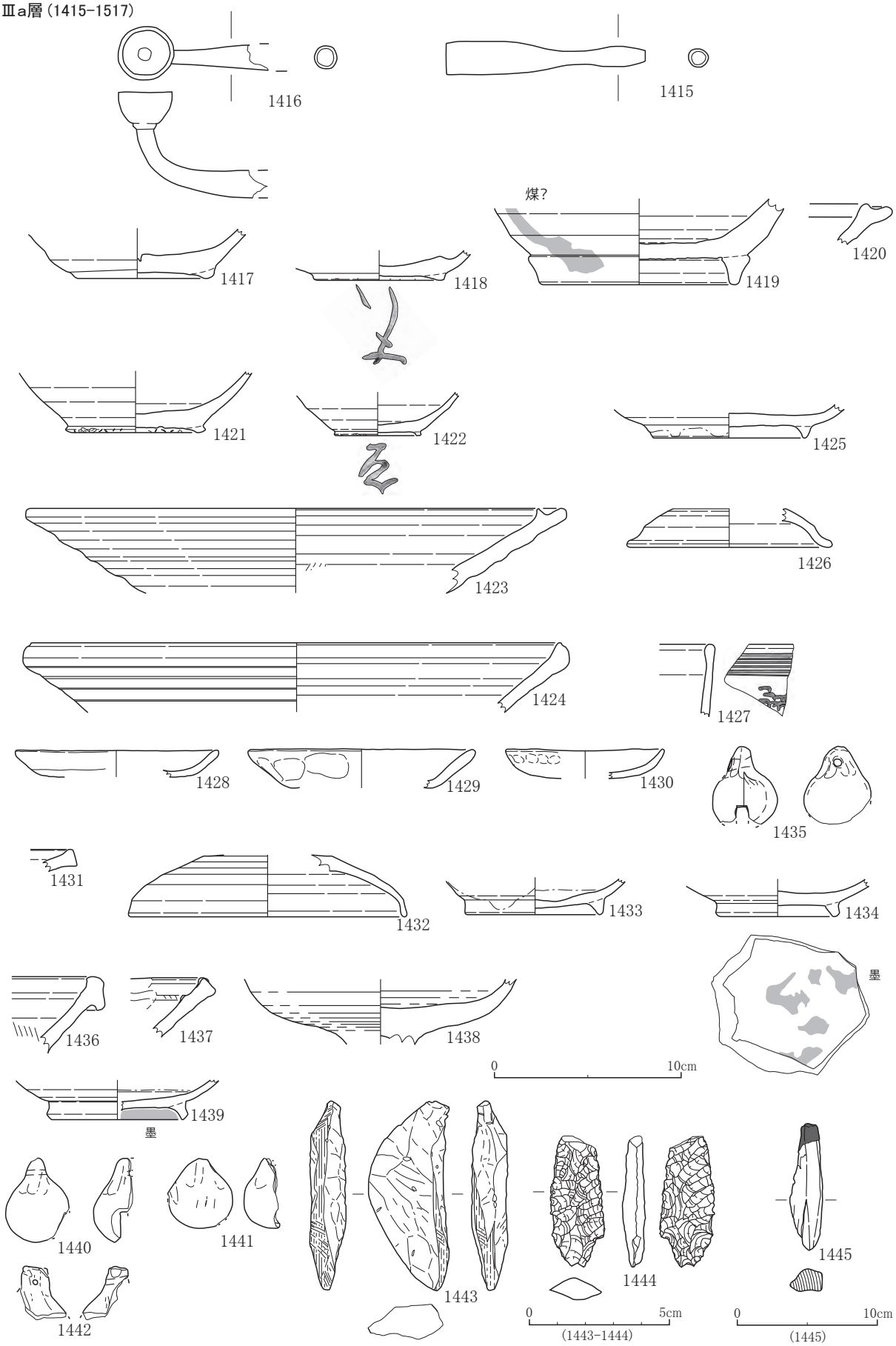


田 32(1410-1414)

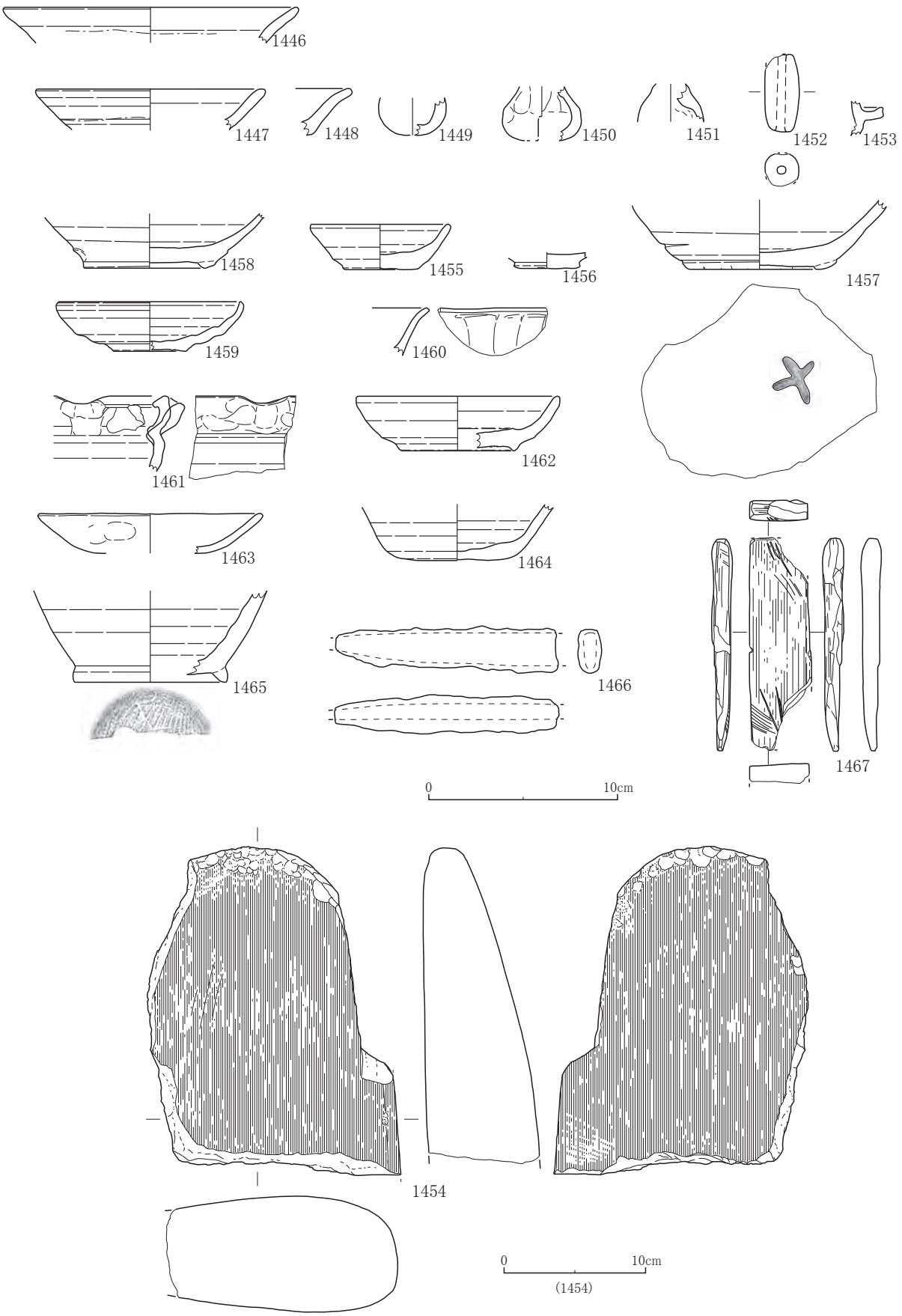




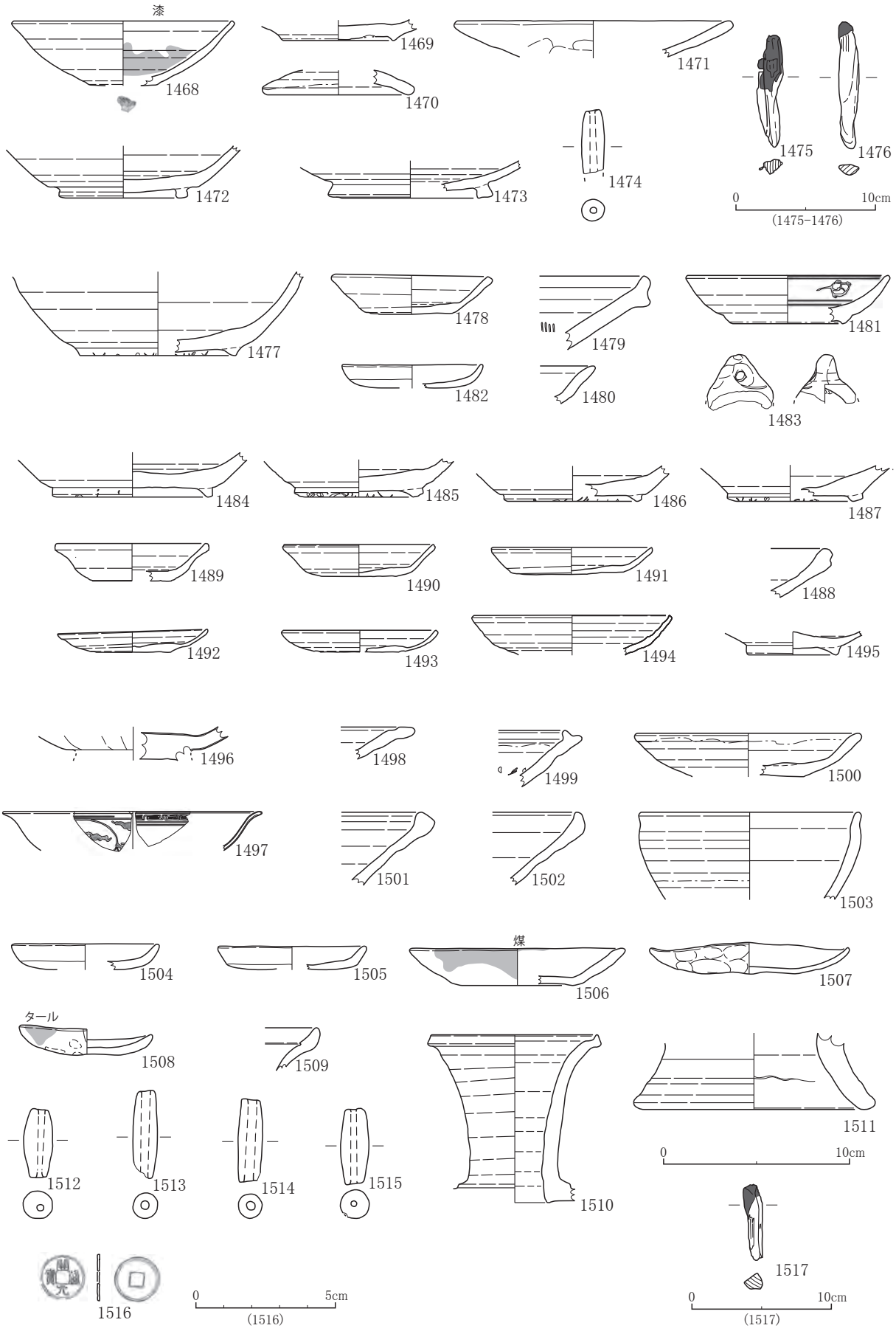
第 91 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（21）



第 92 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（22）

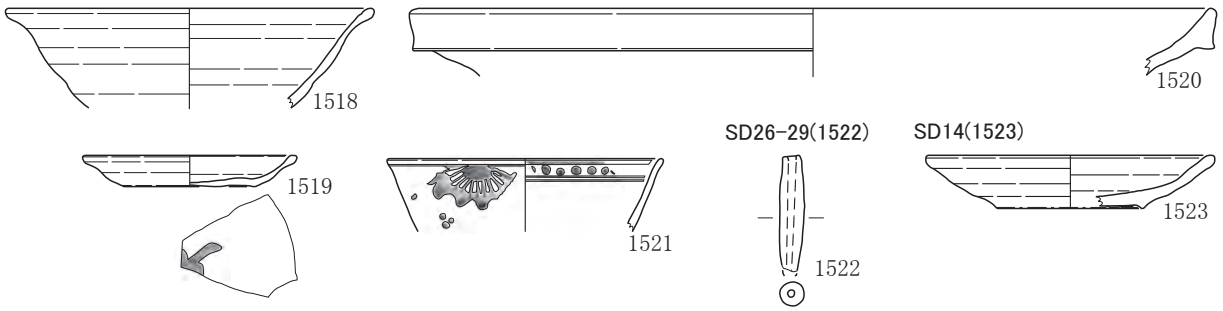


第 93 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（23）

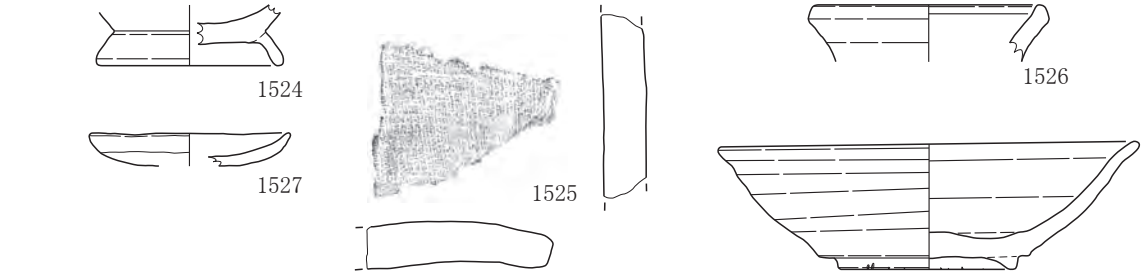


第 94 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（24）

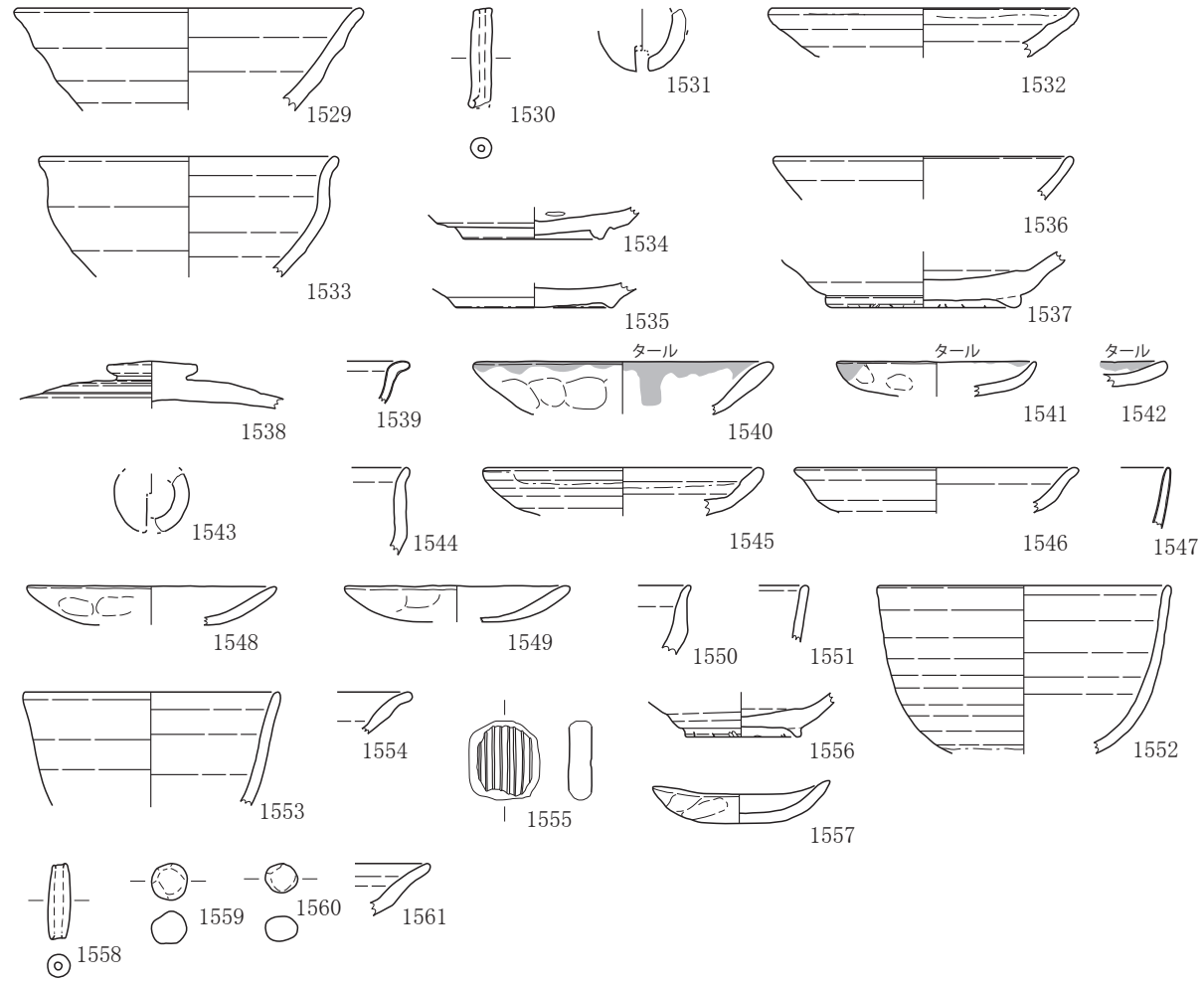
SD27(1518-1521)



SD12(1524-1528)

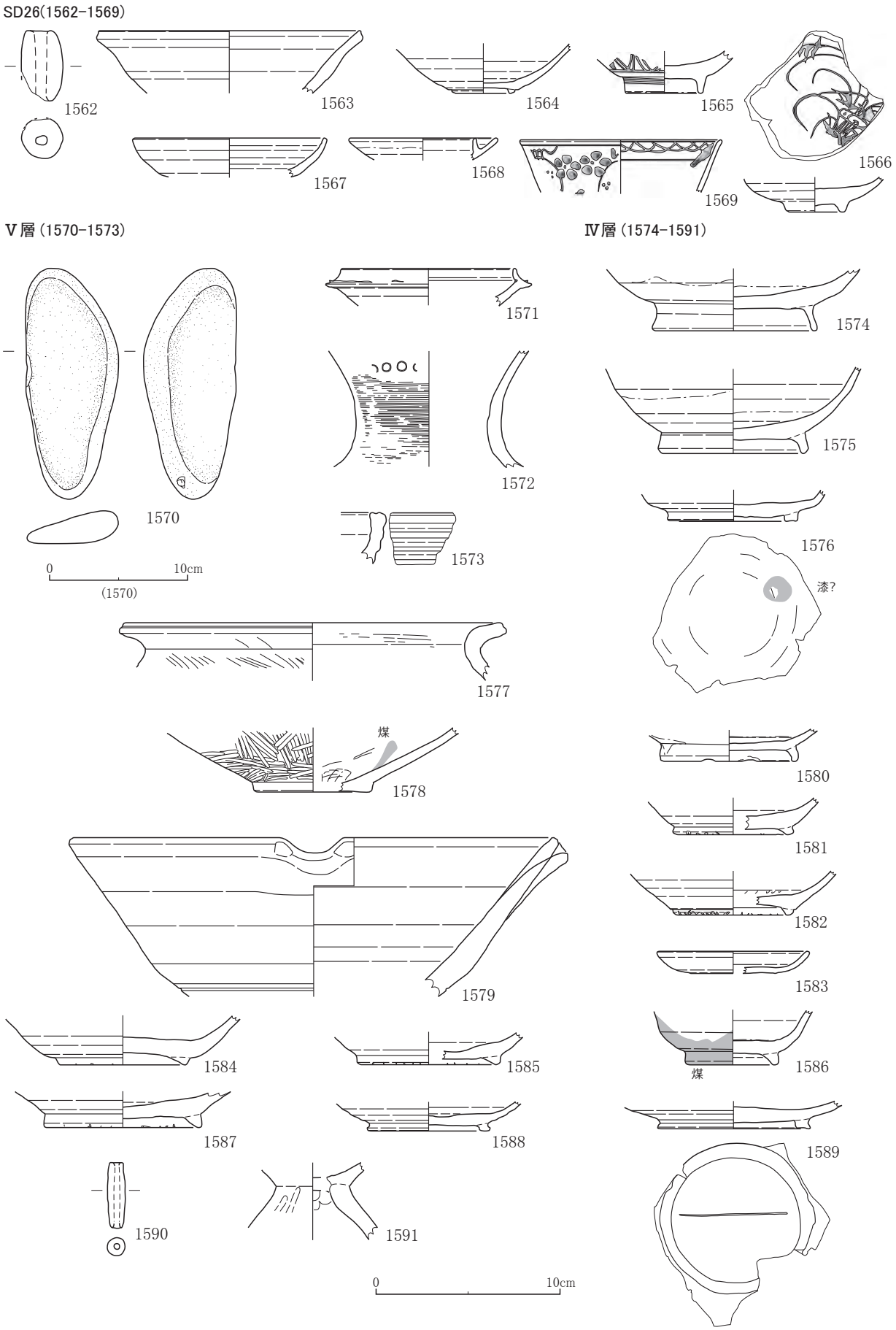


Ⅱ層(1529-1561)



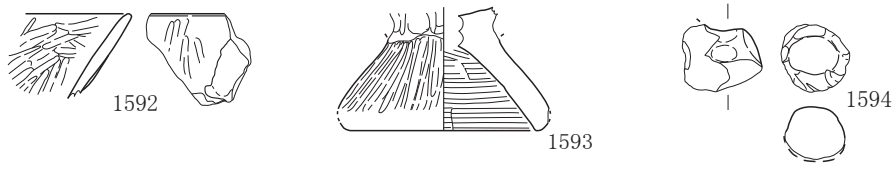
0 10cm

第 95 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（25）

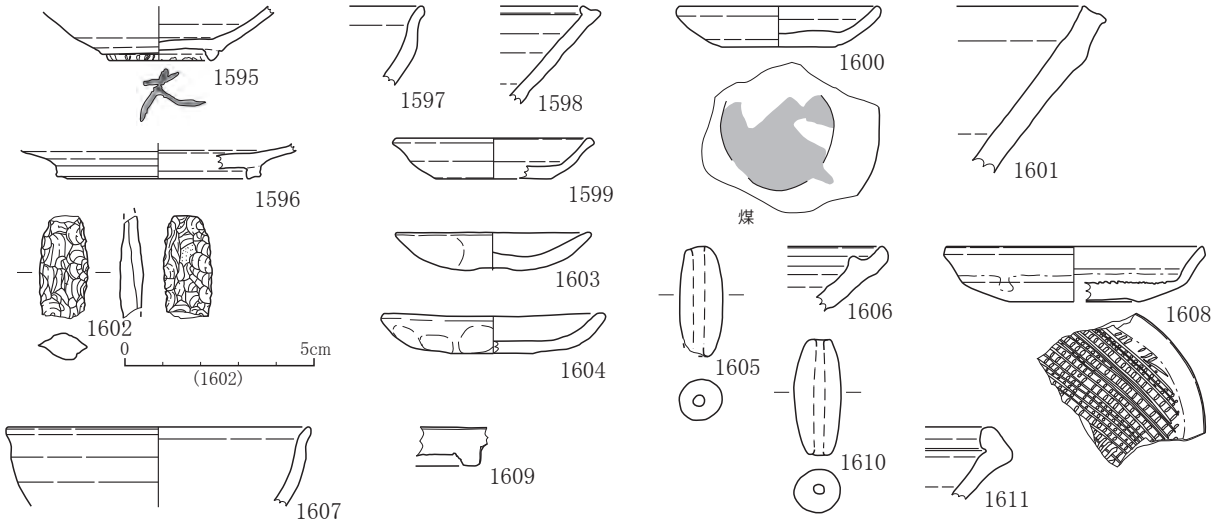


第 96 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（26）

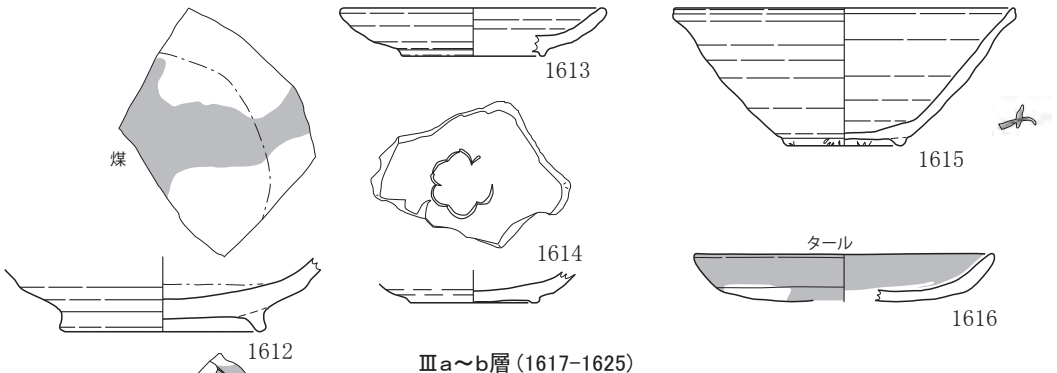
Ⅳ～Ⅴ層（1592-1594）



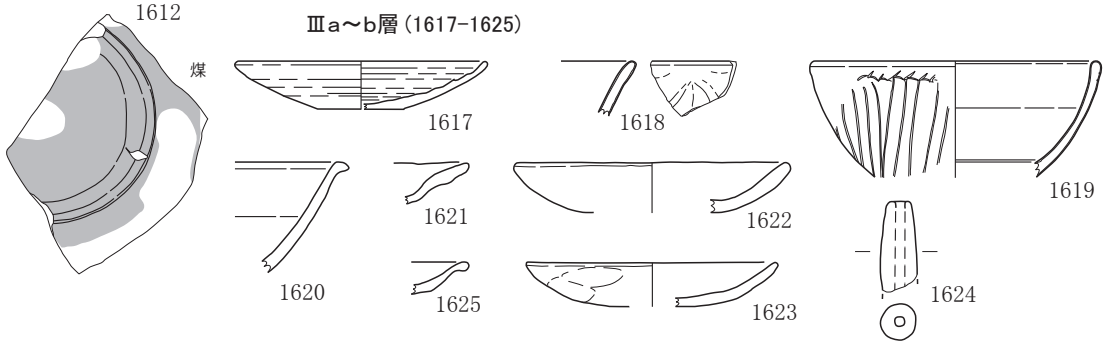
Ⅲb～c層（1595-1611）



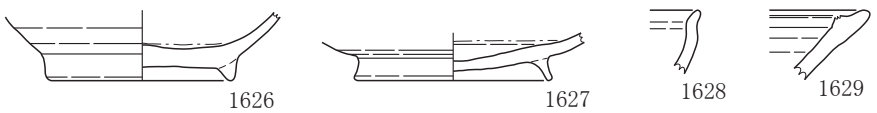
Ⅲa～c層（1612-1616）



Ⅲa～b層（1617-1625）



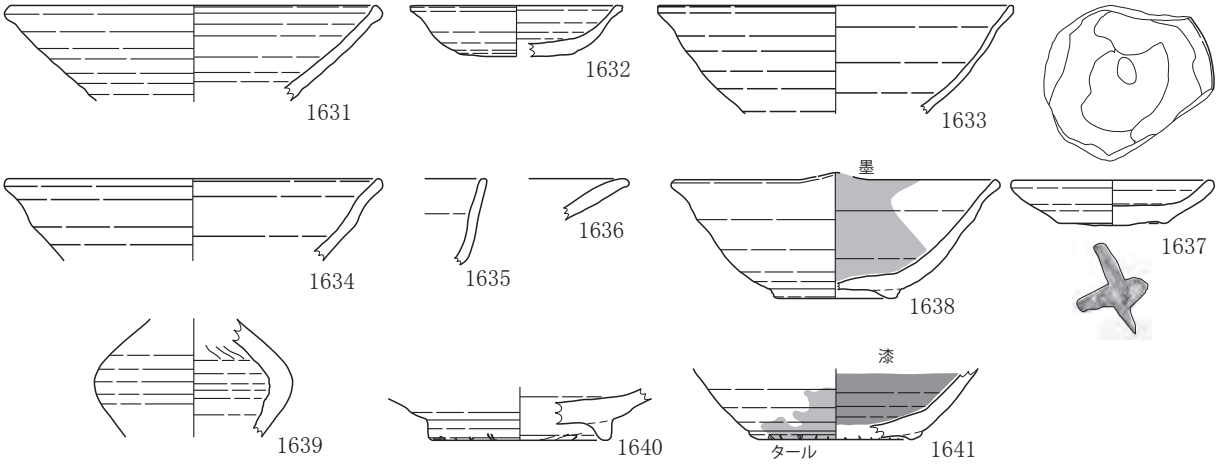
Ⅲa～Ⅳ層（1626-1629）



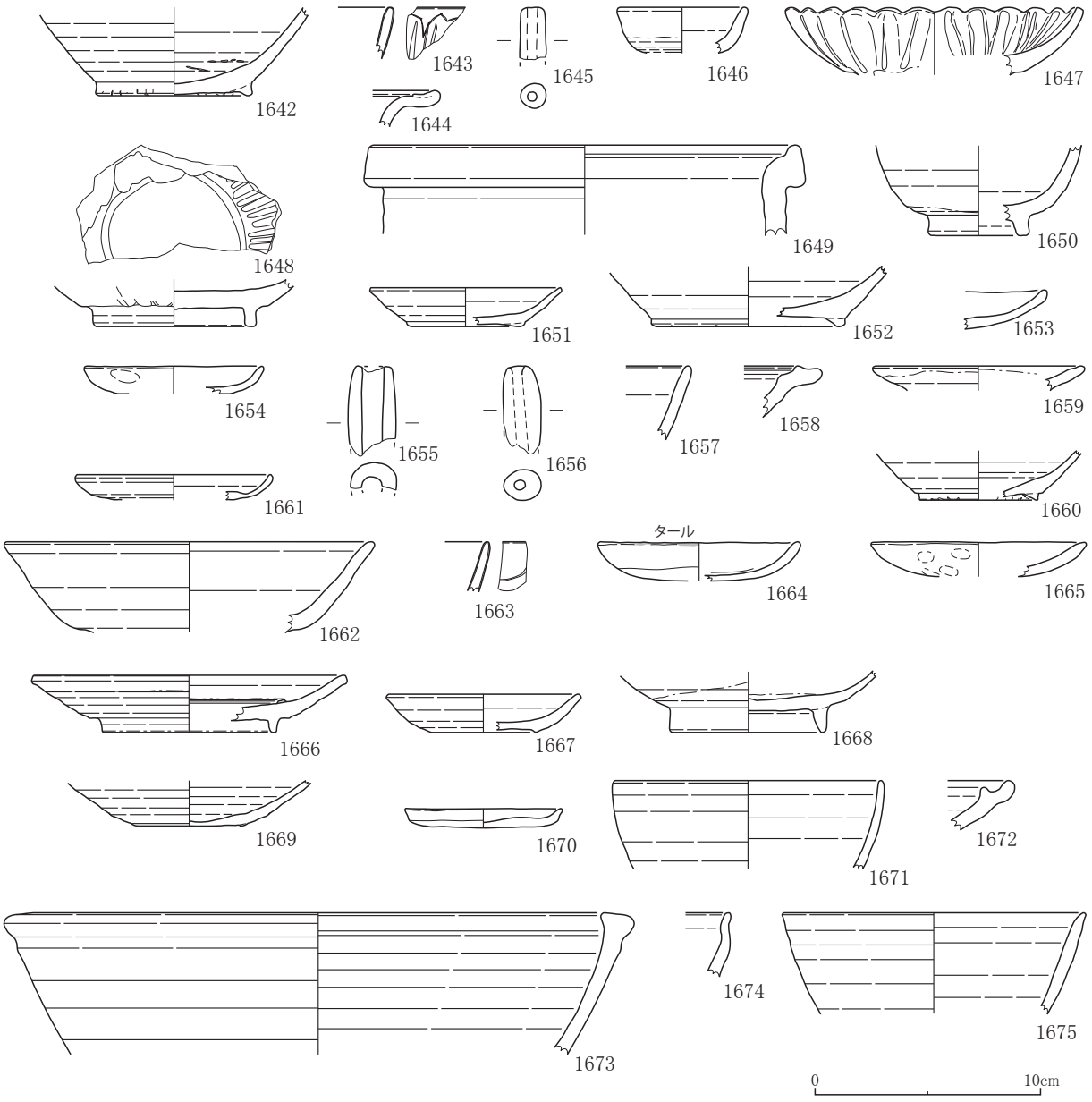
Ⅲ～Ⅴ層（1630）

第 97 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（27）

Ⅲ～Ⅳ層（1631-1641）

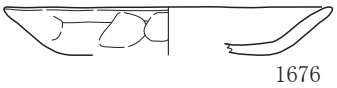


Ⅱ～Ⅲ層（1642-1675）



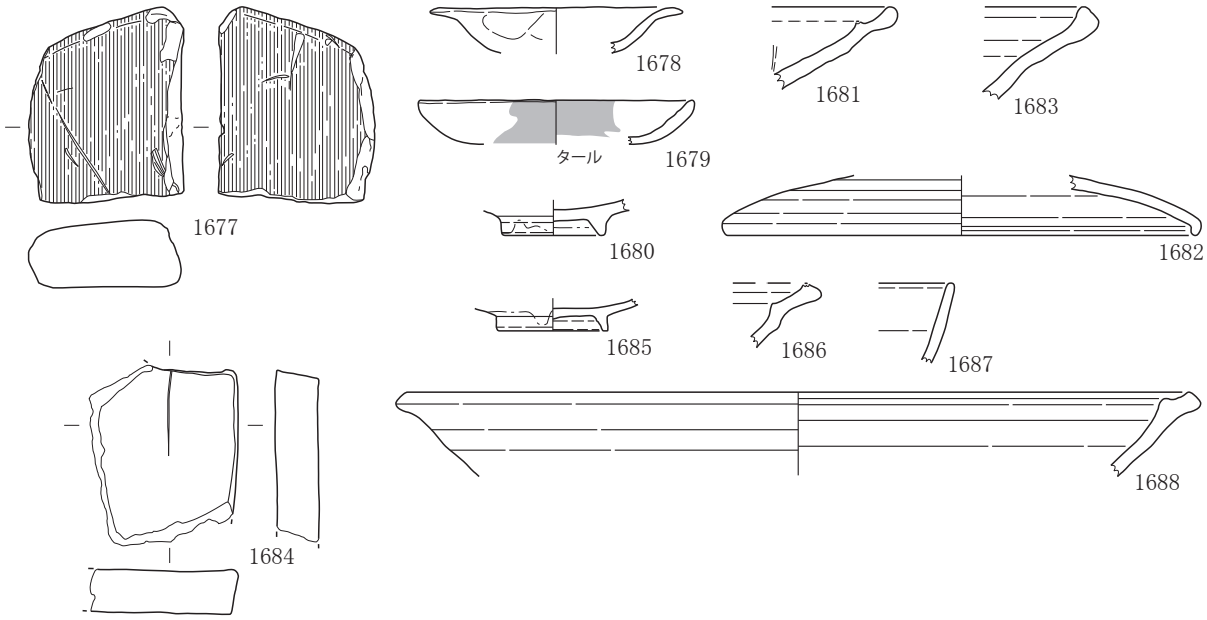
第 98 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（28）

Ⅰ層(1676)

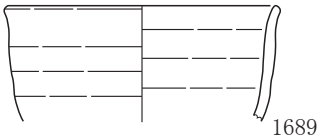


1676

Ⅰ～Ⅲ層(1677-1688)

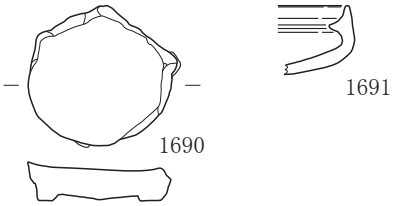


Ⅰ～Ⅱ層(1689)

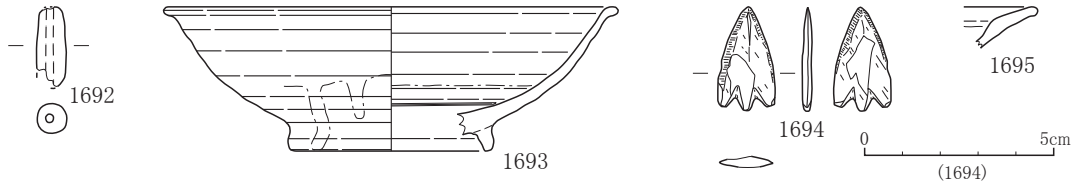


1689

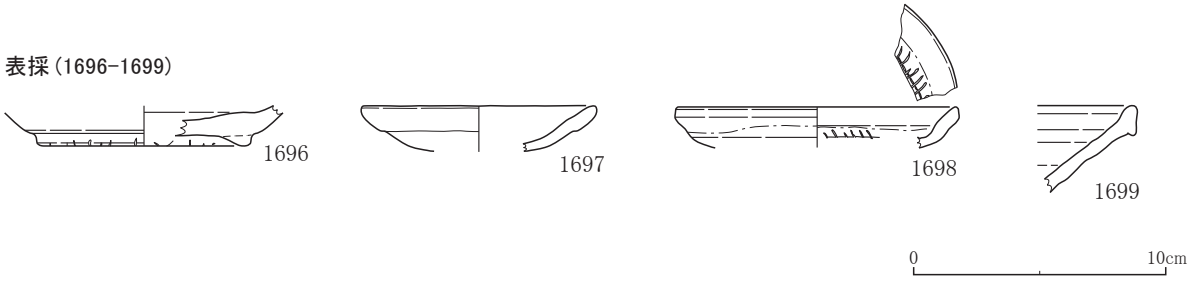
撹乱(1690-1691)



排土(1692-1695)



表採(1696-1699)



第 99 図　岩田西遺跡出土遺物実測図（29）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1	岩田東A	2	SX5	弥生土器	高杯	弥生時代中期末（高蔵式後半）	11.2	20.1	(9.4)					杯部凹線文4条、櫛状工具刺突文	61
2	岩田東A	2	SX5	弥生土器	甕	弥生時代中期後葉（高蔵式）	19.7	−	−						555
3	岩田東A	2	SX5	弥生土器	甕	弥生時代中期後葉（高蔵式）	−	−	−					外面タタキのち刷毛目	639
4	岩田東A	2	SX5	弥生土器	細頸壺	弥生時代中期末（高蔵式後半）	−	−	6.0						657
5	岩田東A	2	SX5	石製品	磨製石鏃	弥生時代中期				2.3	1.6	0.4	1.5	無茎凹基、全体研磨	70
6	岩田東A	2	Pit47 埋納	弥生土器	壺	弥生時代中期後葉（高蔵式）	20.4	−	−					口縁内部3ケ1単位の突起4方向	12
7	岩田東A	3	SB2	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	−	−	−						599
8	岩田東A	3	SB2	石製品	石鏃	−				2.6	1.5	0.6	2.1	有茎平基、石材下呂石	60
9	岩田東A	3	SK63	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	−	−	−						67
10	岩田東A	4･5	SB3	石製品	石庖丁	弥生時代中期				−	5.1	1.2	93.1	先端欠損有、石材粘板岩	19
11	岩田東A	4･5	SB3	石製品	石錐	弥生時代中期				(2.6)	0.8	0.5	1.0	先端部のみ、風化著しい、石材下呂石か	280
12	岩田東A	4･5	SB3（炉跡含）	石製品	剥片	−				3.9	1.6	1.0	4.1	石材下呂石	101
13	岩田東A	4･5	SB3（炉跡含）	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	−	−	(8.0)					底部布目圧痕	100
14	岩田東A	4･5	SX20	弥生土器	壺	弥生時代中期	−	−	−						131
15	岩田東A	4･5	SX20	石製品	剥片	−				1.5	1.8	0.6	0.8	石材下呂石	102
16	岩田東A	4･5	Pit177	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	−	−	−						108
17	岩田東A	4･5	Pit177	石製品	石核	−				5.3	3.4	1.1	18.1	石材チャート	109
18	岩田東A	7	SK154	弥生土器（沈線文系）	壺	弥生時代中期前葉～中葉（朝日式～貝田町式）	−	−	−						270
19	岩田東A	9	SK214	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	−	−	−						439
20	岩田東A	10	Pit362	弥生土器	壺	弥生時代中期	−	−	−					口縁内部突起	449
21	岩田東A	11	SB10	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	−	−	−						456
22	岩田東A	11	SB10	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	(9.7)	−	−						457
23	岩田東A	11	SB10	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	−	−	−						458
24	岩田東A	12	SX73	弥生土器	壺	弥生時代中期	−	−	−					モミ圧痕有	500
25	岩田東A	15	SZ6 周溝	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	−	−	−						674
26	岩田東A	15	SZ6 周溝	弥生土器	甕	弥生時代中期後葉（高蔵式）	−	−	(7.9)						696
27	岩田東A	15	SZ6 周溝	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	−	−	−						646
28	岩田東A	15	SZ6 周溝	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	−	−	5.3					底部布目圧痕	647
29	岩田東A	15	SZ6 周溝	弥生土器（沈線文系）	甕	弥生時代中期前葉～中葉（朝日式～貝田町式）	−	−	−						673
30	岩田東A	3	SB1	弥生土器	受口状口縁甕	弥生時代中期末～後期初（高蔵式末～山中式初）	(13.6)	−	−					近江系	847
31	岩田東A	3	SB1	弥生土器	有台鉢	弥生時代後期前半（山中式）	(16.2)	−	−						1407
32	岩田東A	3	SB1	弥生土器	高杯	弥生時代後期前半（山中式）	−	−	−						1406
33	岩田東A	3	SB1	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	−	−	−						64
34	岩田東A	3	SB1	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	−	−	−						65
35	岩田東A	3	SB1	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	−	−	−						66
36	岩田東A	3	SB1	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	−	−	(6.8)					底部布目圧痕	1404
37	岩田東A	3	SB1	石製品	敲石	−				11.6	5.2	3.1	295.0	両端敲打痕、側面被熱範囲有、スス付着	63
38	岩田東A	6	SB5	石製品	石庖丁	−				15.4	3.8	0.7	62.6	ほぼ完形、石材粘板岩	21
39	岩田東A	6	SB5	石製品	石庖丁	−				15.0	4.6	0.9	91.8	ほぼ完形、石材緑色片岩	20
40	岩田東A	6	SB5	石製品	砥石	−				14.3	3.7	1.8	151.2	使用面表裏2面、溝表裏計4本	22
41	岩田東A	6	SB5	弥生土器	壺	弥生時代後期前半（山中式）	(19.7)	−	−						148
42	岩田東A	6	SB5	弥生土器	壺	弥生時代後期前半（山中式）	−	−	(3.9)						143
43	岩田東A	6	SB5	弥生土器	受口状口縁甕	弥生時代後期前半（山中式）	(13.0)	−	−					近江系	611
44	岩田東A	6	SB5	弥生土器	高杯	弥生時代後期前半（山中式）	(11.9)	−	−					口縁端部に赤彩有、ベンガラ	145
45	岩田東A	6	SB5	弥生土器	高杯	弥生時代後期前半（山中式）	−	−	11.8						171

第5表　遺物観察表（1）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
46	岩田東A	6	SB5	弥生土器	高杯	弥生時代後期前半（山中式）	−	−	(10.6)					外面に赤彩有、ベンガラ	146
47	岩田東A	8	SZ4 周溝	弥生土器（近江系）	受口状口縁甕	弥生時代後期	(10.2)	−	−						365
48	岩田東A	8	SZ4 周溝	弥生土器（三河系）	壺	弥生時代中期中葉	−	−	−						367
49	岩田東A	8	SZ4 周溝	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	(25.6)	−	−						366
50	岩田東A	8	SZ4 周溝	石製品	石鏃	−				(2.2)	(1.8)	(0.4)	1.5	基部欠損、石材チャート	306
51	岩田東A	8	SZ4 周溝	石製品	石鏃	−				(3.6)	1.8	0.6	3.7	有茎平基、石材下呂石	329
52	岩田東A	8	SZ2 周溝	弥生土器	壺	弥生時代後期前半（山中式）	−	−	3.1						595
53	岩田東A	8	SZ2 周溝	弥生土器	壺	弥生時代後期前半（山中式）	−	−	−					外面に赤彩有、ベンガラ	1707
54	岩田東A	8	SZ2 周溝	弥生土器	壺	弥生時代後期前半（山中式）	(14.1)	−	−						303
55	岩田東A	8	SZ2 周溝	弥生土器	壺	弥生時代後期前半（山中式）	−	−	−						352
56	岩田東A	8	SZ2 周溝	弥生土器	受口壺	弥生時代後期初（山中式初）	(11.7)	−	−						351
57	岩田東A	8	SZ2 周溝	弥生土器（近江系）	受口状口縁鉢	弥生時代後期前半（山中式）	(10.6)	−	−					近江系	350
58	岩田東A	8	SZ2 周溝	弥生土器	小型鉢	弥生時代後期前半（山中式）	−	−	(3.0)						594
59	岩田東A	8	SZ2 周溝	弥生土器	高杯	弥生時代後期中葉（山中式末）	(13.0)	(16.5)	(10.8)						324
60	岩田東A	8	SZ2 周溝	弥生土器	高杯	弥生時代後期中葉（山中式末）	(12.8)	(7.3)	(8.7)						349
61	岩田東A	8	SZ2 周溝	弥生土器	器台	弥生時代後期初（山中式初）	−	−	(12.1)					穿孔６方向	298
62	岩田東A	8	SZ2 周溝	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	−	−	−						348
63	岩田東A	8	SZ2 周溝	弥生土器	壺	弥生時代中期	−	−	−						360
64	岩田東A	8	SZ2 周溝	縄文土器	深鉢	縄文後期か	−	−	−						353
65	岩田東A	8	SZ2 周溝	石製品	石鏃	−				(4.6)	(1.6)	0.6	4.5	有茎平基五角形族、先端・基部欠、石材下呂石	32
66	岩田東A	8	SZ2 周溝	石製品	石鏃	−				(2.3)	1.8	0.8	2.2	有茎平基五角形鏃、石材下呂石	328
67	岩田東A	8	SZ2 周溝	石製品	剥片	−				6.7	5.2	1.0	34.3	石材チャート	347
68	岩田東A	8	SZ2 周溝	石製品	砥石	−				(10.0)	(5.0)	(2.4)	−	使用面１面	354
69	岩田東A	8	SZ2 周溝	石製品	楔形石器	−				2.6	1.7	0.4	2.3	石材チャート	1443
70	岩田東A	8	Pit331	石製品	石鏃	−				−	1.3	0.5	1.7	有茎凸基、先端欠、石材下呂石	374
71	岩田東A	8	SZ3 周溝	弥生土器	高杯	弥生時代末～古墳時代初頭（元屋敷式、廻間２）	15.8	12.8	10.8						10
72	岩田東A	8	SZ3 周溝	弥生土器	壺	弥生時代末～古墳時代初頭（元屋敷式、廻間２）	7.7	14.0	3.4						11
73	岩田東A	8	SZ3 周溝	弥生土器	脚付鉢	弥生時代後期前半（山中式）	(8.6)	(10.4)	(6.0)						299
74	岩田東A	8	SZ3 周溝	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉(貝田町式)地元産	−	−	−						361
75	岩田東A	8	SZ3 周溝	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代後期前半（山中式）	−	−	−						358
76	岩田東A	8	SZ3 周溝	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	−	−	−						359
77	岩田東A	8	SZ3 周溝	弥生土器（沈線文系）	壺	弥生時代中期前葉～中葉（朝日式～貝田町式）	−	−	−						357
78	岩田東A	8	SZ3 周溝	弥生土器（沈線文系）	甕	弥生時代中期前葉～中葉（朝日式～貝田町式）	−	−	−						362
79	岩田東A	8	SZ2･3 周溝	石製品	剥片	−				4.4	3.1	1.0	11.6	石材下呂石	355
80	岩田東A	8	SZ1 周溝内土器棺	弥生土器	壺	弥生時代末～古墳時代初頭（欠山式～元屋敷式、廻間１末～２初）		(24.6)	(7.4)					焼成後穿孔有	1718
81	岩田東A	8	SZ1 周溝内土器棺	弥生土器	壺	弥生時代末～古墳時代初頭（欠山式～元屋敷式、廻間１末～２初）	17.0	31.3	5.0					ほぼ完形、焼成後穿孔有	326
82	岩田東A	8	SZ1 周溝	弥生土器	壺	弥生時代末～古墳時代初頭（欠山式～元屋敷式、廻間１末～２初）	−	−	5.3						437
83	岩田東A	8	SZ1 周溝	弥生土器	無頸壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	−	−	−						341
84	岩田東A	8	SZ1 周溝	弥生土器	無頸壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	−	−	−						344
85	岩田東A	8	SZ1 周溝	弥生土器	高杯	弥生時代後期前半（山中式）	(20.4)	−	−						342
86	岩田東A	8	SZ1 周溝	弥生土器	壺	弥生時代後期前半（山中式）	−	−	−						346
87	岩田東A	8	SZ1 周溝	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	−	−	−						345
88	岩田東A	8	SZ1 周溝	石製品	石鏃	−				(2.2)	1.3	0.4	1.2	基部欠損、石材チャート	1437
89	岩田東A	8	SZ1 周溝	石製品	石核	−				3.1	3.5	1.5	13.8	石材下呂石	1446
90	岩田東A	8	SZ1 周溝	石製品	石核	−				3.2	4.3	1.7	22.3	石材下呂石	1447

第６表　遺物観察表（2）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
91	岩田東A	14	SZ7 周溝	弥生土器	鉢	弥生時代末～古墳時代初頭（欠山式、廻間 1-3 ～ 4）	(20.2)	(12.4)	(3.0)						562
92	岩田東A	14	SZ7 周溝	弥生土器	高杯	弥生時代末～古墳時代初頭（欠山式、廻間 1-3 ～ 4）	(24.0)	(20.0)	(13.5)					ミガキ省略、ハケ調整顕著	638
93	岩田東A	14	SZ7 周溝	弥生土器	高杯	弥生時代末～古墳時代初頭（欠山式、廻間 1-3）	17.1	13.5	11.6					ミガキ省略、ハケ調整顕著	1704
94	岩田東A	14	SZ7 周溝	弥生土器	器台	弥生時代末～古墳時代初頭（欠山式、廻間 1-3）	15.6	12.2	12.6						1703
95	岩田東A	14	SZ7 周溝	弥生土器	器台	弥生時代末～古墳時代初頭（欠山式、廻間 1-3）	18.4	13.4	14.5					ミガキ省略、ハケ調整顕著	1705
96	岩田東A	14	SZ7 周溝	弥生土器	高杯	弥生時代末～古墳時代初頭（欠山式、廻間 1-3 ～ 4）	－	－	－						635
97	岩田東A	14	SZ7 周溝	弥生土器	脚部	弥生後期か	－	－	(8.7)					甕もしくは鉢	637
98	岩田東A	14	SZ7 周溝	弥生土器	甕	弥生時代中期後葉（高蔵式）	－	－	－						636
99	岩田東A	14	SZ7 周溝	弥生土器（三河系）	壺	弥生時代中期中葉	－	－	－						642
100	岩田東A	14	SZ7 周溝	弥生土器（沈線文系）	甕	弥生時代中期前葉～中葉	－	－	－						641
101	岩田東A	6	SZ5 周溝	古式土師器	二重口縁壺	弥生時代末～古墳時代初頭（元屋敷式、廻間 2 中葉）	(17.3)	－	－						163
102	岩田東A	6	SZ5 周溝	古式土師器	二重口縁壺	弥生時代末～古墳時代初頭（元屋敷式、廻間 2 中葉）	(17.4)	－	－						314
103	岩田東A	7	SZ5 周溝	古式土師器	二重口縁壺	弥生時代末～古墳時代初頭（元屋敷式、廻間 2 中葉）	26.8	－	－						1706
104	岩田東A	14	SZ5 周溝	古式土師器	二重口縁壺	弥生時代末～古墳時代初頭（元屋敷式、廻間 2 中葉）	(22.6)	－	－						697
105	岩田東A	14	SZ5 周溝上層	古式土師器	二重口縁壺	弥生時代末～古墳時代初頭（元屋敷式、廻間 2 中葉）	－	－	－						658
106	岩田東A	7	SZ5 周溝	灰釉陶器	椀	10c 末前後（Ⅶ新前後）	－	－	(7.3)						296
107	岩田東A	7	SZ5 周溝	古式土師器	脚部	弥生時代後期末～古墳時代初頭か	－	－	(12.0)					器台 or 高杯	601
108	岩田東A	7	SZ5 周溝	土製品	土錘	－				4.3	2.4	－	－	ほぼ完形	632
109	岩田東A	7	SZ5 周溝	弥生土器	壺	弥生時代後期	－	－	－					口縁外面・端部に赤彩有、ベンガラ	294
110	岩田東A	7	SZ5 周溝	弥生土器	壺	中期	－	－	(6.0)						600
111	岩田東A	7	SZ5 周溝	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	－						295
112	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	須恵器（美濃須衛）	甕	7c 後葉～ 8c 初　Ⅲ -3 ～Ⅳ -1	(20.4)	－	－						264
113	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	須恵器（美濃須衛）	甕	8c 代　Ⅳ	－	－	－					内面同心円当て具痕	265
114	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	須恵器（美濃須衛）	杯	9c 初　Ⅴ -1	(12.0)	(3.2)	(6.0)						290
115	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	須恵器（美濃須衛）	甕	8c 代　Ⅳ	－	－	－					内面同心円当て具痕	605
116	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	須恵器（美濃須衛）	蓋	9c 初　Ⅴ -1	(15.5)	－	－						617
117	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	石製品	剥片	－				3.8	3.0	0.4	3.7	石材下呂石	305
118	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	土師器	甕	古代	(22.7)	－	－						285
119	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	土師器	皿	M 類	－	－	－						289
120	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	土師器	清郷型鍋	11 ～ 12c	－	－	－						292
121	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	土師器	濃尾型甕	8c ～ 9c	15.8	18.0	4.7						517
122	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	土師器	甕	古代	(12.5)	－	－						608
123	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	土製品	土錘	－				5.3	1.4	－	－		286
124	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	土製品	土錘	－				4.5	－	－	－		287
125	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	土製品	土錘	－				4.2	1.5	－	－		288
126	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	土製品	土錘	－				－	1.5	－	－		615
127	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	土製品	土錘	－				－	1.0	－	－		616
128	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	弥生土器	壺	弥生時代中期	－	－	5.8						266
129	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	弥生土器	壺	弥生時代後期前半（山中式）	(20.6)	－	－					表面調整不明瞭	282
130	岩田東A	7	SZ5 周溝上層	弥生土器	壺	弥生時代中期後葉（高蔵式）	－	－	－					内面扇形文	291
131	岩田東A	14	SZ5 周溝上層	灰釉陶器	椀	10c 初前後（Ⅶ古前後）	－	－	(7.6)						662
132	岩田東A	14	SZ5 周溝上層	山茶碗（東濃型）	皿	明和～大畑大洞	(8.0)	(1.7)	(4.9)						663
133	岩田東A	14	SZ5 周溝上層	石製品	打製石斧	－				10.2	5.8	1.4	120.0	石材安山岩か	1439
134	岩田東A	14	SZ5 周溝上層	弥生土器	壺	弥生時代後期	－	－	－					内外面刷毛状工具刺突文	664
135	岩田東A	14	SZ5 周溝上層	土師器	皿	M 類	(12.8)	－	－						665

第 7 表　遺物観察表（3）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
136	岩田東A	14	SZ5 周溝上層	弥生土器	受口状口縁甕	弥生時代中期末～後期初（高蔵式末～山中式初）	－	－	－					近江系	660
137	岩田東A	14	SZ5 周溝上層	弥生土器（三河系）	壺	弥生時代中期中葉	(16.4)	－	－						661
138	岩田東A	14	SZ5 周溝	石製品	刃器	－				7.5	4.7	1.5	66.4	刃部両面、石材安山岩か	666
139	岩田東A	14	SZ5 周溝	土師器	台付甕	古墳時代前期	－	－	(7.6)						644
140	岩田東A	6	SD31	土師器	甕	6～7c	－	－	－					伊勢型甕か	208
141	岩田東A	6	SB4	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	7c 中～後半　Ⅲ　須衛65	10.6	3.6	－						15
142	岩田東A	6	SB4	須恵器（美濃須衛）	甕	7c 前半（6c 末？）	－	－	－					内面同心円当て具痕	590
143	岩田東A	6	SB4	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	6c 末	(13.2)	－	－						606
144	岩田東A	6	SB4	土師器	甑	6c～7c	25.4	27.3	(15.4)						13
145	岩田東A	6	SB4	土師器	鉢	6c～7c	16.1	8.0	5.1					完形	71
146	岩田東A	6	SB4	土師器	ミニチュア	6c～7c	(5.7)	－	－					甑か	481
147	岩田東A	6	SB4	土師器	甕	6c～7c	－	－	－						482
148	岩田東A	6	SB4	土師器	甕	6c～7c	(14.1)	－	－						483
149	岩田東A	6	SB4	土師器	甕	6c～7c	(11.4)	(11.9)	－						659
150	岩田東A	8	SB6	須恵器（畿内）	杯蓋	7c 前半	11.3	3.7	－						5
151	岩田東A	8	SB6	須恵器（畿内）	杯	7c 前半	(9.2)	－	－						325
152	岩田東A	8	SB6	須恵器（畿内）	杯	7c 前半	(9.8)	－	－						630
153	岩田東A	4･5	SK80	須恵器（美濃須衛）	甕	7c 後半　Ⅲ	(26.2)	－	－						74
154	岩田東A	4･5	SD14	灰釉陶器	皿	10c 末～11c 前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	(11.5)	(1.9)	(6.3)						69
155	岩田東A	4･5	SD14	灰釉陶器	椀	10c 末～11c 前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	－	－	(6.5)					焼成不良	82
156	岩田東A	4･5	SD15	灰釉陶器	輪花椀	11c 前半前後（Ⅷ古前後）	(9.7)	(3.3)	(5.0)					完形	68
157	岩田東A	4･5	SD15	弥生土器	壺	弥生時代中期	－	－	－						83
158	岩田東A	4･5	SD15	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ-1	－	－	(8.6)						84
159	岩田東A	4･5	SD16	灰釉陶器	椀	10c 末前後（Ⅶ新前後）	－	－	(7.4)						85
160	岩田東A	4･5	SD16	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	－					底部布目圧痕	86
161	岩田東A	4･5	SD16	古式土師器	高杯	弥生時代末～古墳時代初頭（元屋敷式、廻間2）	－	－	－						87
162	岩田東A	4･5	SD16･17 ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ	石製品	スクレイパー	旧石器～縄文草創期				3.5	1.9	0.7	5.9	押圧剥離顕著、石材チャート	88
163	岩田東A	6	SX34	回転台土師器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	－	－	(4.8)					底部糸切	238
164	岩田東A	6	SX34	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	10.9	3.7	5.2						14
165	岩田東A	6	SX34	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	－	－	(4.9)						149
166	岩田東A	6	SX34	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	13.7	5.0	6.0						165
167	岩田東A	6	SX34	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	－	－	7.0					焼成不良	168
168	岩田東A	6	SX34	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	－	－	7.7					底部糸切	170
169	岩田東A	6	SX34	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	－	－	(6.2)					底部内外面墨書「六」	237
170	岩田東A	6	SD28	回転台土師器	皿	11c 前半（Ⅷ古）	(11.3)	－	4.9					底部糸切	152
171	岩田東A	6	SD28	回転台土師器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	(13.6)	－	－						154
172	岩田東A	6	SD28	回転台土師器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	－	－	5.4					底部糸切	226
173	岩田東A	6	SD28	回転台土師器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	－	－	5.6						604
174	岩田東A	6	SD28	回転台土師器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	－	－	－						607
175	岩田東A	6	SD28	回転台土師器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	－	－	(5.8)						610
176	岩田東A	6	SD28	回転台土師器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	－	－	(5.4)					底部糸切	614
177	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	皿	11c 前半（Ⅷ古）	9.9	1.7	5.0						16
178	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	－	－	7.8						150
179	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	(14.2)	－	－						151
180	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	(14.0)	(4.6)	(8.0)						153

第8表　遺物観察表（4）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
181	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅶ古）	−	−	(5.6)					焼成不良	155
182	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	輪花椀	11c 前半（Ⅶ古）	(14.4)	−	−						157
183	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	壺 or 鉢	11 ～ 12c（灰釉末～山茶碗初期）	−	−	(10.2)						158
184	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	皿	11c 前半（Ⅶ古） 美濃	10.6	2.5	5.6					完形、底部内外面墨書「亥」	159
185	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅶ古）	−	−	6.0					底部外面墨書、判読不能	160
186	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	輪花椀	11c 前半（Ⅶ古）	(11.3)	(4.8)	(5.4)						166
187	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅶ古）	−	−	(6.2)					内面スス付着、焼成不良	167
188	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅶ古）	−	−	5.4					底部外面墨書「両」もしくは「帀（メグル）」か	169
189	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅶ古） 美濃	−	−	(5.4)						213
190	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅶ古）	−	−	(6.8)						214
191	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	壺	11c 前半（Ⅶ古）	−	−	(6.3)						216
192	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	耳皿	11c 前半（Ⅶ古） 美濃	−	3.7	(4.3)					底部糸切	218
193	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅶ古） 美濃	−	−	−					底部糸切	222
194	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅶ古）	(14.6)	(4.7)	(7.4)						224
195	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅶ古）	−	−	(7.4)						227
196	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅶ古） 美濃	(11.9)	−	−						602
197	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅶ古） 美濃	(16.0)	−	−						603
198	岩田東A	6	SD28	須恵器（美濃須衛）	甕	8c 後半～ 9c 初 Ⅳ -3 ～ Ⅴ -1	−	−	−						209
199	岩田東A	6	SD28	須恵器（美濃須衛）	椀	9c 初 Ⅴ -1	−	−	(7.4)						215
200	岩田東A	6	SD28	須恵器（美濃須衛）	蓋	8c 中～後半 Ⅳ -2 ～ 3	−	−	−						217
201	岩田東A	6	SD28	須恵器（美濃須衛）	擂鉢	8c 後半～ 9c 初 Ⅳ -3 ～ Ⅴ -1	−	−	−					底部刺突痕	219
202	岩田東A	6	SD28	須恵器（美濃須衛）	壺	8c 後半～ 9c 初 Ⅳ -3 ～ Ⅴ -1	(16.0)	−	−						220
203	岩田東A	6	SD28	須恵器（美濃須衛）	甕	8c 後半 Ⅳ -3	(19.0)	−	−						223
204	岩田東A	6	SD28	須恵器（美濃須衛）	蓋	8c 中～後半 Ⅳ -2 ～ 3	(15.8)	−	−						228
205	岩田東A	6	SD28	土製品	土錘	−				−	1.5	−	−		225
206	岩田東A	6	SD28	土師器	甕	古代	−	−	−						221
207	岩田東A	6	SD28	緑釉陶器	皿か	11c 前半（Ⅶ古） 併行 美濃	−	−	−						211
208	岩田東A	6	SD28	灰釉陶器	甕	産地不明	−	−	−					外面スス付着	210
209	岩田東A	6	SD28（ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ下層）	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅶ古）	(13.1)	(1.9)	(5.8)						230
210	岩田東A	6	Pit277	土師器	濃尾型甕	8c ～ 9c	−	−	(6.0)						655
211	岩田東A	6	Pit256	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅶ古）	−	−	7.6					底部糸切のち高台付加	234
212	岩田東A	6	Pit244	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅶ古）	(11.7)	−	−						233
213	岩田東A	7	SK146	須恵器（美濃須衛）	鉢	8c 後半 Ⅳ -3	−	−	(12.2)						269
214	岩田東A	8	SX49	灰釉陶器	椀	10c 末前後（Ⅶ新前後）	(15.6)	−	−						300
215	岩田東A	8	SX49	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初 Ⅴ -1	(13.1)	(3.8)	(7.6)						369
216	岩田東A	8	SX49	土製品	土錘	−				−	0.9	−	−		368
217	岩田東A	8	SX49	土製品	土錘	−				4.4	2.1	−	−	ほぼ完品	370
218	岩田東A	8	SK194	弥生土器	壺	後期	−	−	2.5						323
219	岩田東A	8	SK193	灰釉陶器	椀	11c 前半前後（Ⅶ古前後）	(12.0)	(38.0)	(6.7)						322
220	岩田東A	8	SK191 埋納	灰釉陶器	皿	11c 前半（Ⅶ古）	11.1	2.5	6.1						2
221	岩田東A	8	SK186	回転台土師器	椀	10c 末～ 11c 前半（Ⅶ新～Ⅷ古併行）	−	−	(7.1)					底部糸切	321
222	岩田東A	8	SK186	灰釉陶器	椀	10c 代（Ⅶ）	(15.7)	−	−						320
223	岩田東A	8	SK196	須恵器（美濃須衛）	鉢	9c 初 Ⅴ -1	21.3	19.3	11.8					底部人為的打ち欠き	6
224	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	9c 初 Ⅴ -1	(12.2)	−	−						331
225	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	須恵器（美濃須衛）	鉢	9c 初 Ⅴ -1	−	−	(12.0)						593

第９表　遺物観察表（5）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
226	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	土製品	土錘	-				-	1.6	-	-		330
227	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	土製品	粘土塊	-				3.8	1.5	0.9	-	ワラ繊維痕有	332
228	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	土製品	粘土塊	-				3.0	2.2	1.3	-	ワラ繊維痕有	333
229	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	土師器	濃尾型甕	9c	(13.6)	-	-						591
230	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	土師器	濃尾型甕	9c	-	-	4.3						592
231	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	土師器	甕	9c	(12.2)	-	-						618
232	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	土師器	甕	9c	-	-	-						620
233	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	土師器	甕	9c	(13.5)	-	-						621
234	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	土師器	甕	9c	(21.3)	-	-						624
235	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	土師器	濃尾型甕	9c	-	-	(5.3)						625
236	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	土師器	濃尾型甕	9c	-	-	4.4						626
237	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	土師器	甕	9c	(17.4)	-	-					濃尾型甕か	667
238	岩田東A	8	SB8 ｶｸﾄﾞ	土師器	甕	9c	(19.4)	-	-						849
239	岩田東A	8	SB8	須恵器（美濃須衛）	杯	9c 前半　Ⅴ-1～2	(14.1)	(3.9)	(7.0)						301
240	岩田東A	8	SB8	須恵器（美濃須衛）	杯	9c 初　Ⅴ-1	-	-	(6.3)						335
241	岩田東A	8	SB8	須恵器（美濃須衛）	杯	9c 初　Ⅴ-1	(12.6)	-	-						338
242	岩田東A	8	SB8	須恵器（美濃須衛）	杯	9c 初　Ⅴ-1	(12.6)	(3.2)	(7.0)						339
243	岩田東A	8	SB8	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	9c 初　Ⅴ-1	(12.8)	(2.3)	-						340
244	岩田東A	8	SB8	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	9c 初　Ⅴ-1	-	-	-						629
245	岩田東A	8	SB8	土製品	土錘	-				3.9	1.6	-	-		334
246	岩田東A	8	SB8	土製品	土錘	-				-	1.6	-	-		336
247	岩田東A	8	SB8	土師器	甕	9c	(13.1)	13.9	3.3						7
248	岩田東A	8	SB8	土師器	甕	9c	20.7	-	-					体部外面ケズリ調整、関東地方武蔵型甕に似る肩部接合痕顕著	8
249	岩田東A	8	SB8	土師器	甕	9c	20.7	-	-					体部外面ケズリ調整、関東地方武蔵型甕に似る肩部接合痕顕著	9
250	岩田東A	8	SB8	土師器	甕	9c	(13.4)	-	-						619
251	岩田東A	8	SB8	土師器	甕	9c	-	-	4.7						622
252	岩田東A	8	SB8	土師器	甕	古代	(13.4)	-	-						656
253	岩田東A	8	SB8	土師器	甕	9c	-	-	5.7					底部体部のみ	848
254	岩田東A	8	SB8	土師器	濃尾型甕	9c	(18.0)	-	-						1401
255	岩田東A	8	SB8	土師器	濃尾型甕	9c	(22.4)	-	-						1403
256	岩田東A	8	SB8	弥生土器（沈線文系）	壺	弥生時代中期前葉～中葉（朝日式～貝田町式）	-	-	-						337
257	岩田東A	8	SB7	土師器	平底甕	9c 前半（美濃須衛Ⅴ-1併行）	-	-	(6.4)					底部糸切	1221
258	岩田東A	8	SB7	土師器	甕	9c	(18.5)	-	-						302
259	岩田東A	8	SB7	土師器	濃尾型甕	9c	-	-	(4.6)						1102
260	岩田東A	8	SB7	土師器	甕	9c	19.5	-	-					平底甕か	1222
261	岩田東A	8	Pit340 埋納	灰釉陶器	皿	11c 前半（Ⅷ古）	10.6	2.1	6.1						1
262	岩田東A	8	Pit336 埋納	灰釉陶器	皿	11c 前半（Ⅷ古）	10.0	2.5	5.8						3
263	岩田東A	11	Pit374	灰釉陶器	碗	10c 後半～末（Ⅷ中～新）	-	-	(6.5)						474
264	岩田東A	12	SD67	灰釉陶器	椀	10c 代（Ⅷ）	(11.6)	-	-						496
265	岩田東A	12	SD67	灰釉陶器	椀	10c 代（Ⅷ）	-	-	(6.8)						497
266	岩田東A	12	SX71	灰釉陶器	皿	10c 後半～末（Ⅷ中～新）	12.0	2.3	6.6					完形、底部外面墨書有り「万」	315
267	岩田東A	12	SX78	灰釉陶器	椀	10c 末前後（Ⅷ新前後）	-	-	(6.8)						503
268	岩田東A	12	SX78	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ-1	-	-	(7.6)						504
269	岩田東A	13 西	SD75	灰釉陶器	皿	10c 後半～末（Ⅷ中～新）	13.1	2.4	7.0						533
270	岩田東A	13 西	SD75	灰釉陶器	皿	10c 末前後（Ⅷ新前後）	(12.1)	(2.6)	(6.6)						534

第10表　遺物観察表（6）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
271	岩田東A	15	SK293	灰釉陶器	皿	10c 末～11c 前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	11.2	2.6	5.7					焼成不良	645
272	岩田東A	15	SK292	灰釉陶器	椀	11c 前半前後（Ⅷ古前後）	(12.2)	-	-						679
273	岩田東A	14	SK280	須恵器（美濃須衛）	長頸壺	8c 後半　Ⅳ-3	-	-	-						672
274	岩田東A	1	SD3	土師器	皿	B2-b 類	-	-	-						40
275	岩田東A	1	SD3	山茶碗（東濃型）	碗	脇之島	-	-	4.0						41
276	岩田東A	1	SD4	土師器	皿	B2-b 類	12.0	-	-						42
277	岩田東A	1	SD4	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東～脇之島	-	-	-						43
278	岩田東A	1	SD2	陶器（瀬戸美濃）	縁釉小皿	後Ⅳ新	-	-	-						37
279	岩田東A	1	SD2	土師器	皿	C2 類	-	-	-						38
280	岩田東A	1	SD2	灰釉陶器	甕	11c 前半（Ⅷ古）	-	-	-						39
281	岩田東A	1	SK7	土師器	皿	C2 類	-	-	-						44
282	岩田東A	2	SK25	土製品	土錘	-				4.0	1.3	-	-		58
283	岩田東A	4･5	SD12	土師器	皿	B2 類	-	-	-						80
284	岩田東A	4･5	SD17	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	(14.1)	(5.3)	(4.8)						75
285	岩田東A	4･5	SD17	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	-	-	(5.3)						91
286	岩田東A	4･5	SD17	土師器	S 字甕	B 類	-	-	-						92
287	岩田東A	4･5	SD17ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大畑大洞新	(13.4)	-	-						89
288	岩田東A	4･5	SD17ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ	土師器	皿	M 類	-	-	-						90
289	岩田東A	4･5	SK105	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	-	-	(4.9)						72
290	岩田東A	4･5	SK105	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大畑大洞新	(14.6)	-	-						73
291	岩田東A	4･5	SK105	灰釉陶器	椀	10c 末～11c 前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	-	-	-						99
292	岩田東A	4･5	SK82	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大畑大洞新	-	-	-						93
293	岩田東A	4･5	SK83	山茶碗（東濃型）	碗	生田	-	-	-						94
294	岩田東A	4･5	SK91	山茶碗（東濃型）	碗	生田	-	-	-						95
295	岩田東A	4･5	SK92	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	(11.0)	-	-						96
296	岩田東A	4･5	SK93	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大畑大洞新	-	-	-						97
297	岩田東A	4･5	SK98	須恵器（美濃須衛）	椀	9c 初　Ⅴ-1	-	-	(8.8)						98
298	岩田東A	6	SX31	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東	-	-	(3.2)						236
299	岩田東A	6	SK127	山茶碗（美濃須衛型）	碗	5 型式	-	-	-						232
300	岩田東A	6	SK125	石製品	剥片	-				3.6	4.0	0.8	9.5	石材下呂石	132
301	岩田東A	6	SK123	土師器	皿	C2 類	-	-	-						231
302	岩田東A	6	SD30	山茶碗（東濃型）	碗	5 型式	(15.2)	-	-						207
303	岩田東A	6	SD26	土師器	皿	M 類	-	-	-						206
304	岩田東A	6	SD25	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞新	(12.9)	(3.4)	(3.6)						156
305	岩田東A	6	SD25	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞新	-	-	(4.0)						205
306	岩田東A	6	SD24	回転台土師器	椀	11c 前半（Ⅷ古併行）	-	-	(7.1)						199
307	岩田東A	6	SD24	中国産磁器	白磁碗	Ⅱ類	-	-	-						204
308	岩田東A	6	SD24	常滑	甕	-	-	-	-						202
309	岩田東A	6	SD24	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞新	-	-	(5.2)						201
310	岩田東A	6	SD24	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	後Ⅳ古	(13.7)	-	-						198
311	岩田東A	6	SD24	陶器（産地不明）	壺か	中世か	-	-	-						203
312	岩田東A	6	SD23	石製品	砥石	-				(8.8)	(5.0)	(1.2)	-	使用面 1 面	192
313	岩田東A	6	SD23	灰釉陶器	椀	10c 末前後（Ⅶ新前後）	-	-	(5.0)						133
314	岩田東A	6	SD23	中国産磁器	白磁小杯	森田E群　16C	-	-	-						196
315	岩田東A	6	SD23	土師器	皿	M 類	-	-	-						194

第 11 表　遺物観察表（7）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
316	岩田東A	6	SD23	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	−	−	−						193
317	岩田東A	6	SD23	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大畑大洞新	−	−	−						195
318	岩田東A	6	SD23	陶器（瀬戸美濃）	平碗	古瀬戸後Ⅲ期	−	−	5.0					加工円盤	144
319	岩田東A	6	SD23	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	大窯	−	−	−					口縁直下か	197
320	岩田東A	6	SD22	回転台土師器	椀	11c 前半（Ⅷ古併行）	−	−	6.0						135
321	岩田東A	6	SD22	回転台土師器	椀	11c 前半（Ⅷ古併行）	−	−	(6.4)						190
322	岩田東A	6	SD22	灰釉陶器	皿	11c 前半（Ⅷ古）	(10.0)	(2.3)	(5.6)						141
323	岩田東A	6	SD22	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅷ古）美濃	−	−	−						187
324	岩田東A	6	SD22	須恵器（美濃須衛）	杯	7c 後葉　Ⅲ-3	−	−	(10.8)						191
325	岩田東A	6	SD22	中国産磁器	白磁小杯	森田E群　16C	−	−	−						185
326	岩田東A	6	SD22	土師器	皿	B1 類	−	−	−						186
327	岩田東A	6	SD22	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	−	−	(5.0)						140
328	岩田東A	6	SD22	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大畑大洞新	(14.6)	−	−						189
329	岩田東A	6	SD22	山茶碗（東濃型）	碗	生田	(7.2)	(2.1)	(2.8)						612
330	岩田東A	6	SD22	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	−	−	−						188
331	岩田東A	6	SD21・SD23 ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	(27.6)	−	−						229
332	岩田東A	6	SD21	石製品	砥石	−				(5.5)	(3.5)	(6.2)	−	使用面 1 面	130
333	岩田東A	6	SD21	回転台土師器	椀	11c 前半（Ⅷ古併行）	−	−	(5.9)						129
334	岩田東A	6	SD21	土師器	皿	M 類	(7.8)	−	−						136
335	岩田東A	6	SD21	土師器	皿	B2-a 類	(11.4)	−	−						138
336	岩田東A	6	SD21	土師器	皿	B2 類	−	−	−					内面スス付着	173
337	岩田東A	6	SD21	山茶碗（東濃型）	碗	生田	(11.7)	−	−						184
338	岩田東A	6	SD21	陶器（瀬戸美濃）	縁釉はさみ皿	大窯 1	(11.0)	−	−						137
339	岩田東A	6	SD21	陶器（瀬戸美濃）	直縁大皿	後Ⅳ古	−	−	−						172
340	岩田東A	6	Pit264	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大畑大洞新	−	−	−						235
341	岩田東A	7	SK140	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大畑大洞新	−	−	−						268
342	岩田東A	7	SK137	土製品	土錘	−				−	1.3	−	−		267
343	岩田東A	8	SK184	土師器	伊勢型鍋	12 ～ 13c	−	−	−						319
344	岩田東A	8	SK183	石製品	石錐	−				2.5	0.7	0.5	0.7	先端部のみ、石材チャート	317
345	岩田東A	8	SK183	山茶碗（東濃型）	皿	大畑大洞～大畑大洞新	(7.9)	(1.5)	4.3						318
346	岩田東A	8	SK180	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	−	−	−						316
347	岩田東A	8	SK179	山茶碗（東濃型）	皿	大畑大洞～大畑大洞新	(7.8)	(1.0)	(5.1)						313
348	岩田東A	8	SK177	灰釉陶器	椀	10c 末前後（Ⅷ新前後）	(12.4)	−	−						312
349	岩田東A	8	SK176・177	弥生土器	脚部	弥生時代後期	−	−	−					外面に赤彩有、ベンガラ	311
350	岩田東A	8	SK176	山茶碗（東濃型）	皿	大畑大洞～大畑大洞新	(8.3)	(2.0)	(5.2)						310
351	岩田東A	8	SD44	陶器（瀬戸美濃）	直縁大皿	後Ⅲ	−	−	−						309
352	岩田東A	8	Pit329 埋納	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞新	13.2	4.5	4.1					底部墨書「申」か	4
353	岩田東A	9	SK219	山茶碗（東濃型）	碗	明和～大畑大洞	−	−	−						441
354	岩田東A	9	SK207	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東	−	−	(3.5)						438
355	岩田東A	9	SK206	山茶碗（尾張型）	大平鉢	10 型式	−	−	−						440
356	岩田東A	11	SD58	灰釉陶器	椀	10c 代（Ⅷ）美濃	−	−	(6.5)					重ね焼き痕有	461
357	岩田東A	11	SD58	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞新	−	−	(2.9)					底部外面ヘラ記号有	460
358	岩田東A	11	SD58	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞新	−	−	(4.3)						462
359	岩田東A	11	SD58	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大洞東	(12.7)	−	−						463
360	岩田東A	11	SD57	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	−	−	(4.7)						459

第 12 表　遺物観察表（8）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
361	岩田東A	12	SD57	瓦	平瓦	古代				-	-	2.0	-	凹面布目痕	490
362	岩田東A	12	SD57	土師器	伊勢型鍋	12c	-	-	-						491
363	岩田東A	11	SD60	土師器	皿	M類	-	-	-						464
364	岩田東A	11	SD60	山茶碗（尾張型）	碗	5型式	-	-	(8.0)						465
365	岩田東A	11	SD60	山茶碗（東濃型）	皿	大畑大洞	7.7	1.4	5.0					底部内面墨書、判読不能	466
366	岩田東A	12	SD60	山茶碗（東濃型）	碗	明和～大畑大洞	(13.8)	-	-						492
367	岩田東A	11	SD61	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	(12.0)	(4.6)	(3.7)						467
368	岩田東A	12	SD63	回転台土師器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古併行）	-	-	4.4					底部糸切	495
369	岩田東A	12	SD63	弥生土器	甕	弥生時代中期	-	-	-						494
370	岩田東A	12	SD63	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	-	-	-						493
371	岩田東A	11	SK249	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大洞東	-	-	-						473
372	岩田東A	11	SK246	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	-	-	(4.4)						472
373	岩田東A	11	SX67	土師器	皿	C2類	(7.1)	-	-						471
374	岩田東A	11	SX67	陶器（瀬戸美濃）	小杯	後Ⅲ～Ⅳ	(5.7)	-	-						468
375	岩田東A	11	SX67	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	-	-	-						469
376	岩田東A	11	SX67	陶器（瀬戸美濃）	稜皿	大窯2	(9.6)	-	-						470
377	岩田東A	12	SX67	土師器	皿	B2類	-	-	-						505
378	岩田東A	12	SX77	石製品	石錘	-				6.2	4.5	3.4	125.0	縄掛部分窪み有	502
379	岩田東A	12	SX75	土製品	焼土塊	-				7.0	4.7	4.0	-	平滑面2面有	501
380	岩田東A	12	Pit383	石製品	砥石	中世				17.0	9.3	8.3	-	使用面1面	498
381	岩田東A	13東	SD74	土製品	土錘	-				3.7	0.9	-	-		511
382	岩田東A	13東	SD74	土師器	皿	B2-a類	-	-	-						512
383	岩田東A	13東	SD74	陶器（瀬戸美濃）	緑釉小皿	後Ⅳ古	-	-	-						513
384	岩田東A	13東	SD74	山茶碗（東濃型）	碗	生田	-	-	-						514
385	岩田東A	13東	SD74	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東	-	-	-						515
386	岩田東A	13東	SD74	弥生土器	受口状口縁甕	弥生時代後期前半	-	-	-					近江系	516
387	岩田東A	13東	SD74	土師器	皿	B2類	-	-	-						518
388	岩田東A	13東	SD74	土師器	皿	C1類	(8.8)	-	-						519
389	岩田東A	13西	SD74	灰釉陶器	椀	10c末前後（Ⅶ新前後）	-	-	(6.8)						535
390	岩田東A	13西	SD74	山茶碗（東濃型）	皿	明和～大畑大洞	-	-	-						536
391	岩田東A	13東	SX91	陶器（瀬戸美濃）	緑釉小皿	後Ⅲ～Ⅳ	-	-	(4.5)						521
392	岩田東A	13西	SK262	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大洞東	-	-	-						537
393	岩田東A	13西	SK264	土師器	皿	M類	-	-	-						538
394	岩田東A	13西	SK265	山茶碗（東濃型）	皿	明和～大畑大洞	(9.0)	-	-						539
395	岩田東A	13西	SX98	須恵器（美濃須衛）	蓋	7c後葉　Ⅲ-3	(10.7)	-	-						540
396	岩田東A	13西	SX100	石製品	砥石	-				(9.9)	(3.7)	(3.3)	-	使用面2面	541
397	岩田東A	13西	SX100	須恵器（美濃須衛）	長頸壺	8c中～末　Ⅳ-2～3	-	-	(10.0)						542
398	岩田東A	13西	SX100	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大洞東	(13.8)	-	-						543
399	岩田東A	13西	SX100	土師器	皿	M類	(6.5)	-	-						544
400	岩田東A	13西	SX100	土師器	羽釜	中世	(19.0)	-	-						545
401	岩田東A	13西	SX100	山茶碗（東濃型）	皿	明和～大畑大洞	-	-	(4.0)					底部内面墨書、判読不能	546
402	岩田東A	13西	SX100	山茶碗（東濃型）	皿	明和～大畑大洞	(7.8)	(1.1)	(5.0)					底部内面墨書、判読不能	547
403	岩田東A	13西	SX100	山茶碗（東濃型）	皿	白土原	(8.2)	(1.5)	(4.6)						548
404	岩田東A	13西	SX100	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	-	-	(4.8)						549
405	岩田東A	13西	SX100	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大洞東	(13.6)	-	-						550

第13表　遺物観察表（9）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
406	岩田東A	13西	SX100	土師器	皿	M類	(7.7)	-	-						551
407	岩田東A	13西	SX100	土製品	土錘	-				-	1.7	-	-		552
408	岩田東A	13西	SX100	山茶碗（東濃型）	碗	明和～大畑大洞	-	-	-						553
409	岩田東A	13西	Pit406	土師器	羽釜	中世	(20.3)	-	-						554
410	岩田東A	14	SK281	土師器	皿	M類	(11.9)	-	-						668
411	岩田東A	15	SK291	灰釉陶器	皿	11c前半前後（Ⅷ古前後）	(10.3)	(2.2)	(5.3)						653
412	岩田東A	15	SK291	山茶碗（東濃型）	皿	大洞東～脇之島	(7.7)	(0.8)	(4.7)						652
413	岩田東A	15	SD101	灰釉陶器or山茶碗（美濃須衛型）	椀	（山茶碗なら4型式）	-	-	5.3					加工円盤	651
414	岩田東A	15	SD101	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	-	-	(6.7)						675
415	岩田東A	15	SD101	山茶碗（美濃須衛型）	碗	5型式	-	-	(7.1)						650
416	岩田東A	15	SD101	山茶碗（東濃型）	碗	脇之島	(13.2)	-	-						649
417	岩田東A	15	SD101	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東	-	-	3.7						676
418	岩田東A	15	SD101	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東	(13.7)	(3.5)	(4.2)						677
419	岩田東A	15	SD103	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	-	-	-						678
420	岩田東A	4･5	SD11	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大畑大洞新	-	-	-						77
421	岩田東A	4･5	SD11	陶器（近世瀬戸美濃）	灯明皿	登り8～9	-	-	(4.8)						78
422	岩田東A	4･5	SD11	土師器	皿	C1類	-	-	-						79
423	岩田東A	4･5	SX24	陶磁器（近代瀬戸）	碗	近代	-	-	-					内外染付、 明治以降	103
424	岩田東A	4･5	SX24	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	-	-	-						104
425	岩田東A	4･5	SX24	土師器	皿	C1類	(8.9)	(1.5)	-						105
426	岩田東A	4･5	SX24	山茶碗（東濃型）	碗	生田	-	-	-						106
427	岩田東A	4･5	SX24	土師器	皿	B2類	-	-	-						107
428	岩田東A	8	SX54	陶器（近世瀬戸美濃）	箱型湯のみ	登り10～11	-	-	-						373
429	岩田東A	8	SX52	灰釉陶器	椀	11c初～前半 Ⅷ古～中	-	-	7.2					焼成不良	371
430	岩田東A	8	SX52	灰釉陶器	椀	9c中（Ⅵ古）尾張	-	-	8.0						372
431	岩田東A	8	SD41	中国産磁器	白磁碗	Ⅴ類	-	-	-						308
432	岩田東A	8	SD41	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大畑大洞新	-	-	-						307
433	岩田東A	8	Ⅲ層下層	灰釉陶器	椀	10c代（Ⅶ）美濃	-	-	-						381
434	岩田東A	8	Ⅲ層下層	灰釉陶器	椀	10c末前後（Ⅶ新前後）	-	-	-						399
435	岩田東A	8	Ⅲ層下層	灰釉陶器	椀	10c末前後（Ⅶ新前後）	-	-	(6.0)						403
436	岩田東A	8	Ⅲ層下層	灰釉陶器	段皿	11c前半前後（Ⅷ古前後）	(10.8)	-	-						406
437	岩田東A	8	Ⅲ層下層	灰釉陶器	鉢	9c後半～10c（Ⅵ中～Ⅶ）	-	-	-						408
438	岩田東A	8	Ⅲ層下層	灰釉陶器	椀	10～11c（Ⅶ～Ⅷ）	(13.0)	-	-						415
439	岩田東A	8	Ⅲ層下層	須恵器（畿内）	杯蓋	7c前半	(7.1)	-	-						404
440	岩田東A	8	Ⅲ層下層	須恵器（美濃須衛）	大甕	7c後半	-	-	-					内面同心円当て具痕	407
441	岩田東A	8	Ⅲ層下層	須恵器（美濃須衛）	高杯	7c代	-	-	(7.9)						409
442	岩田東A	8	Ⅲ層下層	須恵器（美濃須衛）	蓋	7～8c	-	-	-						412
443	岩田東A	8	Ⅲ層下層	須恵器（美濃須衛）	杯	8c代 Ⅳ	(14.6)	-	-						413
444	岩田東A	8	Ⅲ層下層	須恵器（美濃須衛）	鉢	8c後半～9c初 Ⅳ-3～Ⅴ-1	-	-	-						414
445	岩田東A	8	Ⅲ層下層	須恵器（美濃須衛）	杯or椀	9c初 Ⅴ-1	(15.4)	-	-						628
446	岩田東A	8	Ⅲ層下層	石製品	剥片	-				4.2	2.8	0.4	6.4	石材下呂石	375
447	岩田東A	8	Ⅲ層下層	石製品	砥石	-				7.4	5.3	1.2	-	使用面1面	380
448	岩田東A	8	Ⅲ層下層	石製品	石鏃	-				(3.2)	1.9	9.0	3.7	有茎平基、石材下呂石	327
449	岩田東A	8	Ⅲ層下層	石製品	二次剥片	-				4.4	2.2	1.1	11.8	石材下呂石	411
450	岩田東A	8	Ⅲ層下層	石製品	石鏃	-				(2.5)	1.5	0.6	3.0	有茎凸基、先端・基部欠、石材チャート	29

第14表　遺物観察表（10）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
451	岩田東A	8	Ⅲ層下層	土製品	土錘	-				4.3	1.5	-	-		417
452	岩田東A	8	Ⅲ層下層	土製品	土錘	-				-	1.6	-	-		418
453	岩田東A	8	Ⅲ層下層	土製品	土錘	-				4.2	1.3	-	-	ほぼ完品	419
454	岩田東A	8	Ⅲ層下層	土製品	土錘	-				-	1.2	-	-		420
455	岩田東A	8	Ⅲ層下層	縄文土器	深鉢	縄文後期～	-	-	-						410
456	岩田東A	8	Ⅲ層下層	被熱土器	羽口か	-	-	-	-						376
457	岩田東A	8	Ⅲ層下層	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	-	-	-					口縁端部波状文・外面沈線　三河？	377
458	岩田東A	8	Ⅲ層下層	弥生土器	甕	弥生時代中期後葉（高蔵式）	(30.9)	-	-						378
459	岩田東A	8	Ⅲ層下層	弥生土器	高杯	弥生時代後期前半（山中式）	(19.0)	-	-						640
460	岩田東A	8	Ⅲ層下層	弥生土器	脚付長頸壺	弥生時代後期前半（山中式）	(7.2)	-	-					赤彩有、ベンガラ	1701
461	岩田東A	8	Ⅲ層下層	弥生土器	脚付長頸壺	弥生時代後期前半（山中式）	(14.8)	-	-					赤彩有、ベンガラ	1702
462	岩田東A	8	Ⅲ層下層	弥生土器	壺	弥生時代中期	-	-	(5.9)						400
463	岩田東A	8	Ⅲ層下層	弥生土器	壺	弥生時代中期前葉～中葉（朝日式～貝田町式）	(15.0)	-	-					端部沈線付加後刷毛工具による刻目	401
464	岩田東A	8	Ⅲ層下層	弥生土器	高杯	中期	-	-	(13.6)						421
465	岩田東A	8	Ⅲ層下層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	(6.4)	-	-					底部布目圧痕	402
466	岩田東A	8	Ⅲ層下層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	-	-	-						405
467	岩田東A	8	Ⅲ層下層	弥生土器（沈線文系）	壺	弥生時代中期前葉～中葉（朝日式～貝田町式）	-	-	-						379
468	岩田東A	1	Ⅲ層	土師器	皿	M4類	-	-	-						46
469	岩田東A	1	Ⅲ層	弥生土器	鉢	弥生時代中期後葉（高蔵式）	-	-	-						36
470	岩田東A	1	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	-	-	(9.0)					底部布目圧痕	45
471	岩田東A	2	Ⅲ層（SB1付近）	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	-	-	-						596
472	岩田東A	2	Ⅲ層	石製品	剝片（UF）	-				3.8	3.7	1.3	8.7	石材チャート	33
473	岩田東A	2	Ⅲ層	石製品	石鏃	-				(3.0)	1.9	0.4	1.9	有茎平基、基部僅欠、石材チャート	35
474	岩田東A	2	Ⅲ層	石製品	石鏃	-				2.0	1.9	0.5	1.4	有茎平基、石材チャート	57
475	岩田東A	2	Ⅲ層	石製品	石鏃	-				(2.4)	1.8	0.5	1.8	有茎平基、先端僅欠、石材下呂石	293
476	岩田東A	2	Ⅲ層	石製品	砥石	-				(17.1)	(4.9)	(2.2)	-	使用面表裏2面	52
477	岩田東A	2	Ⅲ層	石製品	砥石	-				(13.1)	(8.6)	(3.7)	-	使用面表裏2面	53
478	岩田東A	2	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代中期後葉（高蔵式）	-	-	-					櫛描2本一単位、3条の波状文と直線文	1408
479	岩田東A	2	Ⅲ層	弥生土器	甕	弥生時代中期後葉（高蔵式）	-	-	5.4					底部完存、底部外面実測（刷毛目）	56
480	岩田東A	2	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	-	-	-						597
481	岩田東A	2	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	(27.0)	-	-						598
482	岩田東A	2	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	-	-	(7.0)					底部布目圧痕	54
483	岩田東A	2	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	-	-	(6.9)					底部布目圧痕	55
484	岩田東A	3	Ⅲ層	石製品	石鏃	-				3.3	1.7	0.8	3.5	有茎凸基、石材下呂石	25
485	岩田東A	3	Ⅲ層	石製品	石鏃	-				(3.8)	1.9	0.8	4.2	有茎平基、先端僅欠、石材チャート	59
486	岩田東A	3	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	(8.7)	-	-						62
487	岩田東A	3	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	(23.4)	-	-						259
488	岩田東A	3	Ⅲ層	弥生土器（沈線文系）	壺	弥生時代中期前葉～中葉（朝日式～貝田町式）	(14.8)	-	-						633
489	岩田東A	4･5	Ⅲ層	灰釉陶器	椀	10c末前後（Ⅶ新前後）	(15.1)	(5.0)	(7.4)						112
490	岩田東A	4･5	Ⅲ層	須恵器（美濃須衛）	高杯	7c代	-	-	-						179
491	岩田東A	4･5	Ⅲ層	石製品	大型剝片	-				9.2	4.8	1.8	74.0	石材チャート	200
492	岩田東A	4･5	Ⅲ層	土師器	濃尾型甕	8～9c	-	-	-						114
493	岩田東A	4･5	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	-	-	-						164
494	岩田東A	4･5	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	壺	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	-	-	-						110
495	岩田東A	4･5	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	-	-	(5.8)						111

第15表　遺物観察表（11）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
496	岩田東A	4･5	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	－						113
497	岩田東A	4･5	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	(8.6)					底部布目圧痕	115
498	岩田東A	6	Ⅲ層	回転台土師器	椀	11c 前半（Ⅷ古併行）	－	－	(6.1)					底部糸切	134
499	岩田東A	6	Ⅲ層	灰釉陶器か山茶碗	壺	11～12c（灰釉末～山茶碗初期）	(17.6)	－	－						161
500	岩田東A	6	Ⅲ層	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅷ古）	－	－	(6.4)						241
501	岩田東A	6	Ⅲ層	山茶碗（美濃須衛型）	片口鉢	5型式前後	－	－	－						162
502	岩田東A	6	Ⅲ層	須恵器（美濃須衛）	甑	－	－	－	－						1400
503	岩田東A	6	Ⅲ層	石製品	石鏃	－				(2.8)	1.8	0.3	1.7	有茎平基、石材チャート	24
504	岩田東A	6	Ⅲ層	須恵器（美濃須衛）	蓋	7c 代	－	－	－						142
505	岩田東A	6	Ⅲ層	土師器	皿	M 類	(9.0)	－	－						147
506	岩田東A	6	Ⅲ層	土製品	土錘	－				－	1.6	－	－		128
507	岩田東A	6	Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	浅碗	後Ⅰ～Ⅱ	(11.7)	－	－						139
508	岩田東A	6	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代後期前半（山中式）	－	－	－					内面羽状文	239
509	岩田東A	6	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代中期後葉～後期前葉（高蔵式～山中式）	－	－	－						240
510	岩田東A	7	Ⅲ層	灰釉陶器	椀	10c 末前後（Ⅷ新前後）	16.5	6.2	(8.5)						284
511	岩田東A	7	Ⅲ層	須恵器（美濃須衛）	擂鉢	8c 後半～9c 初　Ⅳ-3～Ⅴ-1	(16.0)	－	－						283
512	岩田東A	7	Ⅲ層	石製品	石鏃	－				3.3	(1.8)	0.4	1.4	無茎凹基、右側基部欠、石材チャート	304
513	岩田東A	7	Ⅲ層	土製品	粘土塊	－				4.3	4.2	2.0	－	ワラ繊維痕あり	271
514	岩田東A	7	Ⅲ層	土製品	土錘	－				4.6	1.5	－	－		272
515	岩田東A	7	Ⅲ層	土製品	土錘	－				4.3	－	－	－		273
516	岩田東A	7	Ⅲ層	弥生土器	高杯	弥生時代後期初頭（山中式初）	－	－	(13.6)						274
517	岩田東A	8	Ⅲ層	灰釉陶器	椀	10c 末前後（Ⅷ新前後）	－	－	(6.7)						386
518	岩田東A	8	Ⅲ層	須恵器（美濃須衛）	壺	7c 前半	－	－	3.0						297
519	岩田東A	8	Ⅲ層	須恵器（美濃須衛）	椀	9c 初　Ⅴ-1	(14.8)	－	－						385
520	岩田東A	8	Ⅲ層	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ-1	－	－	(6.9)					底部ヘラ記号	398
521	岩田東A	8	Ⅲ層	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	9c 初　Ⅴ-1	(12.4)	－	－						631
522	岩田東A	8	Ⅲ層	石製品	石鏃	－				2.4	1.5	0.5	1.5	有茎平基、石材チャート	383
523	岩田東A	8	Ⅲ層	石製品	磨製石鏃	弥生時代				－	－	－	1.3	先端・下半欠損、穿孔有、全体研磨	384
524	岩田東A	8	Ⅲ層	石製品	楔形石器	－				3.6	2.9	0.5	5.8	石材下呂石	1444
525	岩田東A	8	Ⅲ層	石製品	楔形石器	－				2.3	1.8	0.8	3.6	石材安山岩か	1445
526	岩田東A	8	Ⅲ層	石製品	石鏃	－				2.5	1.6	0.6	2.2	有茎平基、石材下呂石	26
527	岩田東A	8	Ⅲ層	石製品	石鏃	－				2.9	1.4	0.6	1.6	有茎凸基五角形鏃、石材下呂石	27
528	岩田東A	8	Ⅲ層	石製品	石鏃未成品	－			.	2.5	1.4	0.6	1.7	石材下呂石	30
529	岩田東A	8	Ⅲ層	石製品	異形石器	縄文時代後期頃				2.0	2.6	0.4	1.2	X字状、先端僅欠、石材下呂石	34
530	岩田東A	8	Ⅲ層	鉄製品	刀子	－				－	－	－	－	先端部のみ	396
531	岩田東A	8	Ⅲ層	土師器	甕	古代	－	－	－						382
532	岩田東A	8	Ⅲ層	土師器	甕	古代	(13.6)	－	－						391
533	岩田東A	8	Ⅲ層	土師器	甕	古代	－	－	－						623
534	岩田東A	8	Ⅲ層	土師器	濃尾型甕	8c～9c	－	－	(4.6)						627
535	岩田東A	8	Ⅲ層	土師器	濃尾型甕	8c～9c	(22.0)	－	－						1402
536	岩田東A	8	Ⅲ層	土製品	土錘	－				3.9	1.5	－	－		388
537	岩田東A	8	Ⅲ層	土製品	土錘	－				4.4	1.7	－	－		389
538	岩田東A	8	Ⅲ層	土製品	土錘	－				－	1.2	－	－		393
539	岩田東A	8	Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	卸皿	後Ⅱ	－	－	－						394
540	岩田東A	8	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代中期	－	－	－						387

第16表　遺物観察表（12）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
541	岩田東A	8	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	－	－	－						392
542	岩田東A	8	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代中期	－	－	－					大型壺か	397
543	岩田東A	8	Ⅲ層	弥生土器（三河系）	鉢	弥生時代中期中葉	(18.0)	－	－						416
544	岩田東A	8	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	(9.8)					底部布目圧痕	390
545	岩田東A	8	Ⅲ層	弥生土器（沈線文系）	壺	弥生時代中期前葉～中葉（朝日式～貝田町式）	－	－	－						395
546	岩田東A	9	Ⅲ層	灰釉陶器	椀	11c 代（Ⅷ）	－	－	－						443
547	岩田東A	9	Ⅲ層	土師器	皿	C2 類	－	－	－						444
548	岩田東A	9	Ⅲ層	土製品	土錘	－				2.8	0.9	－	－		442
549	岩田東A	9	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代中期前葉（朝日式）	－	－	－						257
550	岩田東A	9	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代中期後葉（高蔵式）	－	－	－					外面櫛描波状文	258
551	岩田東A	10	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代中期	－	－	(6.0)						450
552	岩田東A	10	Ⅲ層	弥生土器	甕	弥生時代中期	－	－	－					口縁端部刻目	451
553	岩田東A	10	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代中期	(19.6)	－	－					口縁端部刷毛状工具刺突	453
554	岩田東A	10	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	－						452
555	岩田東A	11	Ⅲ層	灰釉陶器	椀	10c 中～末（Ⅶ中～新）	－	－	(7.5)						484
556	岩田東A	11	Ⅲ層	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	－	－	(4.4)					底部内面墨書、判読不能	478
557	岩田東A	11	Ⅲ層	石製品	敲石	－				11.0	7.0	3.6	415.0	両端部・側面に敲打痕有	480
558	岩田東A	11	Ⅲ層	石製品	砥石	－				(10.2)	(6.0)	(5.0)	－	使用面２面、敲打痕有り	485
559	岩田東A	11	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代中期	－	－	7.5					底部完存	475
560	岩田東A	11	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	－	－	－					外面櫛描文	476
561	岩田東A	11	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	－						477
562	岩田東A	11	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	－						479
563	岩田東A	11	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	－						643
564	岩田東A	12	Ⅲ層	石製品	砥石	－				5.7	3.6	1.7	－	使用面１面	506
565	岩田東A	13東	Ⅲ層	弥生土器	壺	弥生時代中期	－	－	－					外面櫛描文	520
566	岩田東A	13西	Ⅲ層	灰釉陶器	皿	11c 前半前後（Ⅷ古前後）	(10.8)	(1.9)	(6.6)						556
567	岩田東A	13西	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	－						557
568	岩田東A	14	Ⅲ層	弥生土器	受口状口縁甕	弥生時代後期初頭（山中式初）	－	－	－					近江系	669
569	岩田東A	14	Ⅲ層	弥生土器	高杯	弥生時代末～古墳時代初頭（欠山式、廻間１末）	(12.0)	－	－						671
570	岩田東A	14	Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	(6.2)					底部布目圧痕	670
571	岩田東A	8	Ⅱ層下層	須恵器（美濃須衛）	椀	9c 初　Ⅴ-1	－	－	(6.6)						425
572	岩田東A	8	Ⅱ層下層	須恵器（美濃須衛）	高杯	7c 後半　Ⅲ-2～3	－	－	(10.0)						426
573	岩田東A	8	Ⅱ層下層	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	7c 代	(14.5)	－	－						427
574	岩田東A	8	Ⅱ層下層	陶器（瀬戸美濃）	折縁深皿	中Ⅳ	－	－	－						424
575	岩田東A	8	Ⅱ層下層	石製品	剥片	－				2.8	1.6	1.0	3.6	石材黒曜石	23
576	岩田東A	8	Ⅱ層下層	石製品	石鏃	－				(1.8)	1.4	0.4	0.8	有茎平基、先端・基部欠、石材下呂石	28
577	岩田東A	8	Ⅱ層下層	石製品	石鏃	－				(4.1)	1.5	0.7	3.3	有茎平基五角形族、先端僅欠、石材下呂石	31
578	岩田東A	2	Ⅱ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	－						1405
579	岩田東A	4･5	Ⅱ層	灰釉陶器	椀	10c 末前後（Ⅶ新前後）	－	－	(7.0)						116
580	岩田東A	4･5	Ⅱ層	石製品	剥片	－				2.8	2.5	0.4	3.4	石材下呂石	123
581	岩田東A	4･5	Ⅱ層	土師器	皿	M 類	－	－	－						124
582	岩田東A	4･5	Ⅱ層	土師器	皿	M 類	－	－	－						125
583	岩田東A	4･5	Ⅱ層	土師器	皿	B2 類	－	－	－						126
584	岩田東A	4･5	Ⅱ層	陶器（瀬戸美濃）	小壺か小瓶	不明	－	－	(3.8)						120
585	岩田東A	4･5	Ⅱ層	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	後Ⅳ古	(10.8)	－	－						127

第17表　遺物観察表（13）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
586	岩田東A	4･5	Ⅱ層	弥生土器	壺	弥生時代中期前葉（朝日式）	－	－	－					口縁内面、端部刷毛工具による刺突	117
587	岩田東A	4･5	Ⅱ層	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	－	－	－					口縁波状文のち粘土浮文貼付	118
588	岩田東A	4･5	Ⅱ層	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	－	－	－					外面櫛描文・竹管文図示	119
589	岩田東A	4･5	Ⅱ層	弥生土器	壺	弥生時代中期前葉（朝日式）	－	－	－					口縁内面、端部刷毛工具による刺突	121
590	岩田東A	4･5	Ⅱ層	弥生土器	鉢	弥生時代中期後葉（高蔵式）	－	－	－						122
591	岩田東A	6	Ⅱ層	山茶碗（東濃型）	碗	生田	(9.5)	－	－						247
592	岩田東A	6	Ⅱ層	土師器	皿	C2類	－	－	－						249
593	岩田東A	6	Ⅱ層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ古	(33.0)	－	－						248
594	岩田東A	7	Ⅱ層	土師器	皿	M3～M4類	(11.6)	－	－						275
595	岩田東A	8	Ⅱ層	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c初　V-1	－	－	(7.0)					底部外面ヘラ記号	428
596	岩田東A	8	Ⅱ層	弥生土器	甕	弥生時代中期後葉（高蔵式）	(19.5)	－	－						430
597	岩田東A	8	Ⅱ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	－						429
598	岩田東A	9	Ⅱ層	陶器（近世瀬戸美濃）	丸碗	登り5～7美濃	－	－	－						446
599	岩田東A	9	Ⅱ層	陶器（瀬戸美濃）	平碗	後Ⅳ新	(15.8)	－	－					被熱受け変色	445
600	岩田東A	11	Ⅱ層	山茶碗（東濃型）	碗	生田	－	－	－						487
601	岩田東A	11	Ⅱ層	陶器（瀬戸美濃）	直縁大皿	後Ⅲ	－	－	－						486
602	岩田東A	12	Ⅱ層	陶器（瀬戸美濃）	縁釉小皿	後Ⅳ古	－	－	－						508
603	岩田東A	12	Ⅱ層	弥生土器	壺	弥生時代中期	－	－	－						509
604	岩田東A	13西	Ⅱ層	陶器（近世瀬戸美濃）	盌	登り3～4美濃	(7.7)	(1.1)	(4.7)						560
605	岩田東A	13西	Ⅱ層	陶器（近世瀬戸美濃）	行平鍋	登り10～11美濃	－	－	－						561
606	岩田東A	1	Ⅱ～Ⅲ層	灰釉陶器	椀	11c初～前半　Ⅷ古～中	－	－	－						47
607	岩田東A	1	Ⅱ～Ⅲ層	中国産磁器	染付碗	16C後半　明代	－	－	－						50
608	岩田東A	1	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（近世瀬戸美濃）	折縁鉄絵皿	登り3　美濃	(11.2)	(2.3)	(6.7)						48
609	岩田東A	1	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	平碗	後Ⅳ新	－	－	4.8					底部、加工円板か、見込部プラン	49
610	岩田東A	3	Ⅱ～Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	(8.0)	－	－					底部布目圧痕およびモミ圧痕	260
611	岩田東A	6	Ⅱ～Ⅲ層	灰釉陶器	皿	11c前半（Ⅷ古）	(11.3)	(2.4)	(6.3)						246
612	岩田東A	6	Ⅱ～Ⅲ層	石製品	砥石	－				10.2	3.2	1.1	－	使用面2面、砥面窪み有	244
613	岩田東A	6	Ⅱ～Ⅲ層	土師器	皿	C2類	(8.8)	－	－						242
614	岩田東A	6	Ⅱ～Ⅲ層	土製品	土錘	－				4.0	2.0	－	－	ほぼ完品	243
615	岩田東A	6	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	平碗	後Ⅳ古	－	－	－						245
616	岩田東A	8	Ⅱ～Ⅲ層	土師器	皿	B2－a類	(12.6)	－	－						422
617	岩田東A	8	Ⅱ～Ⅲ層	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	(7.6)					底部布目圧痕	423
618	岩田東A	12	Ⅱ～Ⅲ層	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大洞東	－	－	－						507
619	岩田東A	13西	Ⅱ～Ⅲ層	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞新	－	－	(4.5)						558
620	岩田東A	13西	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	小鉢	後Ⅳ古	(9.7)	(3.2)	(6.0)						559
621	岩田東A	15	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	卸目大皿	後Ⅳ新	－	－	－						680
622	岩田東A	15	Ⅱ～Ⅲ層	弥生土器	高杯or器台	弥生時代末～古墳時代初頭（欠山式～元屋敷式、廻間1末～2初）	－	－	－					口縁内面端部沈線	699
623	岩田東A	8	Ⅰ層	灰釉陶器	椀	11c前半前後（Ⅷ古前後）	－	－	(7.4)						431
624	岩田東A	8	Ⅰ層	土師器	清郷型鍋	11～12c	－	－	－						432
625	岩田東A	11	Ⅰb層	陶器（近世瀬戸美濃）	尾呂茶碗	登り5～6　美濃	－	－	－						488
626	岩田東A	13東	Ⅰ層	弥生土器	壺	弥生時代中期	－	－	－					口縁端部刻目	529
627	岩田東A	13東	Ⅰ層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	－	－	－						530
628	岩田東A	13東	Ⅰ層	陶器（近世瀬戸美濃）	灯明皿	登り8　美濃	(9.9)	(2.0)	(4.4)						531
629	岩田東A	13東	Ⅰ層	弥生土器	壺	弥生時代中期	－	－	－					体部櫛描文	532
630	岩田東A	6	Ⅰ～Ⅱ層	土師器	皿	B2類	－	－	－						252

第18表　遺物観察表（14）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
631	岩田東A	6	Ⅰ～Ⅱ層	陶器（瀬戸美濃）	内耳鍋	後Ⅱ	－	－	－						251
632	岩田東A	1	Ⅰ～Ⅲ層	土製品	土錘	－				3.8	1.4	－	－		51
633	岩田東A	4･5	Ⅰ～Ⅲ層	須恵器（美濃須衛）	杯or鉢	8c後半～9c初　Ⅳ-3～Ⅴ-1	－	－	(9.5)					底部刷毛調整	262
634	岩田東A	4･5	Ⅰ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	後Ⅳ古	－	－	－						261
635	岩田東A	4･5	Ⅰ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ古	－	－	－						263
636	岩田東A	6	Ⅰ～Ⅲ層	陶器（近世瀬戸美濃）	志野皿	登り2	(9.6)	－	－						250
637	岩田東A	7	Ⅰ～Ⅲ層	回転台土師器	皿	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古併行）	(10.5)	(1.9)	(4.8)					底部糸切	278
638	岩田東A	7	Ⅰ～Ⅲ層	灰釉陶器	椀	10c末前後（Ⅶ新前後）	(14.8)	(4.6)	(7.6)						277
639	岩田東A	7	Ⅰ～Ⅲ層	須恵器（美濃須衛）	杯	9c初　Ⅴ-1	－	－	7.9						276
640	岩田東A	7	Ⅰ～Ⅲ層	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	9c初　Ⅴ-1	－	－	－						279
641	岩田東A	7	Ⅰ～Ⅲ層	弥生土器	受口状口縁甕	弥生時代後期前半（山中式）	－	－	－						609
642	岩田東A	13東	Ⅰ～Ⅲ層	弥生土器	高杯or器台	弥生時代後期前半（山中式）	－	－	(12.8)					外面・端部に赤彩有、ベンガラ	522
643	岩田東A	13東	Ⅰ～Ⅲ層	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	－	－	(7.2)						523
644	岩田東A	13東	Ⅰ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	大窯4後	－	－	－						524
645	岩田東A	13東	Ⅰ～Ⅲ層	土師器	皿	B2－a類	－	－	－						525
646	岩田東A	13東	Ⅰ～Ⅲ層	灰釉陶器	椀	10c代（Ⅶ古～新）	－	－	(7.0)						526
647	岩田東A	13東	Ⅰ～Ⅲ層	山茶碗（美濃須衛型）	碗	5型式	－	－	－						527
648	岩田東A	13東	Ⅰ～Ⅲ層	山茶碗（東濃型）	碗	生田	(11.5)	－	－						528
649	岩田東A	15	Ⅰ～Ⅲ層	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）美濃	－	－	(6.2)						681
650	岩田東A	15	Ⅰ～Ⅲ層	灰釉陶器	皿	11c初～前半　Ⅷ古～中	(10.0)	(2.2)	(5.6)						682
651	岩田東A	9	生痕内（Ⅲ層土）	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	－						448
652	岩田東A	9	生痕内（Ⅱ層土）	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	後Ⅳ古	－	－	－						447
653	岩田東A	6	表採	須恵器（美濃須衛）	短頸壺	8c中～後半　Ⅳ-2～3	(6.8)	－	－						256
654	岩田東A	6	表採	土師器	壺or甕	古墳時代	－	－	－						613
655	岩田東A	6	表採	弥生土器	壺	弥生時代後期前半（山中式）	(20.7)	－	－					口縁内面・端部に赤彩有、ベンガラ	253
656	岩田東A	6	表採	弥生土器	壺	弥生時代後期前半（山中式）	－	－	－					外面に赤彩有、ベンガラ	254
657	岩田東A	6	表採	弥生土器	高杯	弥生時代後期前半（山中式）	(21.4)	－	－						255
658	岩田東A	10	表採	弥生土器	壺	弥生時代中期	－	－	－					表面櫛描文波状文	454
659	岩田東A	11	表採	陶器（瀬戸美濃）	平碗	後Ⅳ古	(15.2)	－	－						489
660	岩田東A	8	撹乱内	陶器（近世瀬戸美濃）	水滴	登り9～11	－	－	－						433
661	岩田東A	8	撹乱内	弥生土器	広口壺	弥生時代中期後葉（高蔵式）	(19.6)	－	－						434
662	岩田東A	12	撹乱内	陶器（肥前）	碗	近世	(7.8)	－	－						510
663	岩田東A	15	撹乱内	弥生土器（条痕文系）	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	－	－	－						683
664	岩田東A	8	H19試掘坑内埋土中	瓦質土器	火鉢	室町～戦国時代				－	3.3	－	－		436
665	岩田東A	8	H19試掘坑内埋土中	土師器	羽釜	室町～戦国時代	－	－	－						435
666	岩田西	28	SD32	弥生土器	甕	弥生時代中期後葉（高蔵式）	－	－	(6.0)						1623
667	岩田西	25	SD21	須恵器（美濃須衛）	無台杯	7c後葉～8c初　Ⅲ-3～Ⅳ-1	11.5	3.1	6.0					ほぼ完形	583
668	岩田西	25	SD21	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	7c後葉～8c初　Ⅲ-3～Ⅳ-1	－	－	－						1473
669	岩田西	25	SD21	須恵器（美濃須衛）	短頸壺	9c初　Ⅴ-1	(9.6)	－	－						1211
670	岩田西	25	SX11	須恵器（美濃須衛）	甕	7c後葉　Ⅲ-3	－	－	5.0						584
671	岩田西	25	SX11	須恵器（美濃須衛）	短頸壺	7c後葉　Ⅲ-3	(9.3)	－	－						1201
672	岩田西	25	SX11	須恵器（美濃須衛）	有台杯	7c後葉～8c初　Ⅲ-3～Ⅳ-1	(14.2)	(4.5)	(9.3)						1199
673	岩田西	25	SX11	須恵器（美濃須衛）	鉢	7c後葉～8c前半　Ⅲ-3～Ⅳ-2	(17.0)	－	－						1204
674	岩田西	25	SX11	須恵器（美濃須衛）	鉢	8c代　Ⅳ	(14.6)	－	－						1217
675	岩田西	25	SX11	須恵器（美濃須衛）	蓋	8c初頭　Ⅳ-1	(15.9)	－	－						1215

第19表　遺物観察表（15）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
676	岩田西	25	SX11	須恵器（美濃須衛）	提瓶 or 平瓶	8c 初頭　Ⅳ-1	-	-	-					体部破片、刻印「美濃国」	18
677	岩田西	25	SX11	須恵器（美濃須衛）	長頸壺	9c 初　Ⅴ-1	(10.0)	-	-						1208
678	岩田西	25	SX11	須恵器（美濃須衛）	壺	9c 初　Ⅴ-1	-	-	(11.6)						1210
679	岩田西	25	SX11	須恵器（美濃須衛）	鉢	9c 初　Ⅴ-1	-	-	-						1571
680	岩田西	25	SX11	須恵器（美濃須衛）	蓋	9c 初　Ⅴ-1	-	-	-						1214
681	岩田西	25	SX11	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ-1	-	-	6.8						1200
682	岩田西	25	SX11	須恵器（美濃須衛）	無台杯	9c 初　Ⅴ-1	(6.0)	-	-					底部ヘラ記号	1209
683	岩田西	25	SX11	須恵器（猿投）	蓋	8c 代	(19.8)	-	-						1216
684	岩田西	25	SX11	須恵器（猿投）	高杯？	8c 代	-	-	-						1203
685	岩田西	25	SX11	須恵器（猿投）	杯蓋	8c 代	-	-	-						1202
686	岩田西	25	SX11	灰釉陶器	椀	11c 前半（Ⅷ古～中）	-	-	8.7						1198
687	岩田西	25	SX11	土師器	把手	古代	-	-	-						1186
688	岩田西	25	SX11	瓦	平瓦	古代				-	-	1.6	-	凹面布目痕	1479
689	岩田西	25	SX11	土製品	土錘	古代				5.5	2.2	-	-	ほぼ完品、紡錘状太型	1491
690	岩田西	25	SX11	土製品	土錘	古代				6.1	2.3	-	-	ほぼ完品、紡錘状太型	1492
691	岩田西	25	SX11	土製品	土錘	古代				5.2	1.7	-	-	端部一部欠、棒状中型	1493
692	岩田西	25	SX11	土製品	土錘	古代				4.9	1.7	-	-	端部一部欠、棒状中型	1494
693	岩田西	25	SX11	土製品	土錘	古代				5.3	1.9	-	-	完品、柱状中型	1495
694	岩田西	25	SX11	土製品	土錘	古代				5.2	1.9	-	-	ほぼ完品、柱状中型	1496
695	岩田西	25	SX11	土製品	土錘	古代				4.5	1.9	-	-	ほぼ完品、紡錘状小型	1497
696	岩田西	25	SX11	土製品	土錘	古代				4.5	1.6	-	-	端部一部欠、紡錘状小型、側面工具ナデ跡あり	1498
697	岩田西	25	SX11	土製品	土錘	古代				4.1	2.1	-	-	完品、なつめ玉状小型	1499
698	岩田西	25	SX11	土製品	土錘	古代				5.1	2.4	-	-	ほぼ完品、なつめ玉状中型	1500
699	岩田西	25	SX11	土製品	土錘	古代				5.3	2.5	-	-	ほぼ完品、紡錘状中型	1501
700	岩田西	25	SX11	土製品	土馬	古代				-	-	-	-	土馬頭部、正面・上方・両側面	1513
701	岩田西	25	SX11	土製品	土馬	古代				-	-	-	-	土馬胴部、上方・両側面	1514
702	岩田西	25	SX11	土製品	土馬	古代				-	-	-	-	土馬脚部か	1515
703	岩田西	22	SX8	須恵器（美濃須衛）	有台杯	8c 後半～9c 初　Ⅳ-3～Ⅴ-1	-	-	9.7						993
704	岩田西	22	SX8	須恵器（美濃須衛）	甕 or 鉢	7c ～8c	-	-	-					内面同心円当て具痕	1000
705	岩田西	22	SX8	灰釉陶器	椀	10c 末前後（Ⅷ新前後）	(13.7)	-	-						1029
706	岩田西	22	SX8	灰釉陶器	椀	11c 後半～末（Ⅷ新前後）尾張	-	-	(7.0)						1030
707	岩田西	22	SX8	土師器	濃尾型甕	8c ～9c	-	-	5.4						998
708	岩田西	22	SX8	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	-	-	-					刷毛目のち櫛描文	1025
709	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	7c 末～8c 初頭　Ⅲ-3～Ⅳ-1	-	-	-					内面ヘラ文字有「十天」か	992
710	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	広口瓶	7c 末以降　Ⅲ-3～	11.0	20.7	10.9						1148
711	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	壺	7c 末　Ⅲ-3	-	-	-						1136
712	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	長頸壺	8c 初頭　Ⅳ-1	(9.9)	(23.0)	9.2						1149
713	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	長頸壺	8c 後半～9c 初　Ⅳ-3～Ⅴ-1	-	-	-						1129
714	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	長頸壺	8c 後半　Ⅳ-3	-	-	-						1130
715	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	椀	9c 初　Ⅴ-1	(15.5)	(2.7)	(7.8)					底部外面墨書、判読不能	1109
716	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	椀	9c 初　Ⅴ-1	-	-	7.3					内面スス付着	1120
717	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	椀	9c 初　Ⅴ-1	-	-	6.3						1110
718	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	椀	9c 初　Ⅴ-1	-	-	(7.0)						1121
719	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	椀	9c 初　Ⅴ-1	-	-	(5.6)						1132
720	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	椀	9c 初　Ⅴ-1	-	-	(6.0)					底部外面墨付着	1133

第 20 表　遺物観察表（16）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
721	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	椀	9c 初　Ⅴ-1	-	-	(6.4)						1137
722	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	椀	9c 初　Ⅴ-1	(13.0)	-	-					外面スス付着	1154
723	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	無台杯	9c 初　Ⅴ-1	(11.6)	(3.2)	(6.2)						1115
724	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	無台杯	9c 初　Ⅴ-1	(12.5)	(3.0)	(5.8)					底部外面ヘラ記号有	1117
725	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	無台杯	9c 初　Ⅴ-1	-	-	6.1						1131
726	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	無台杯	9c 初　Ⅴ-1	-	-	(6.3)						1135
727	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ-1	-	-	(7.4)						1134
728	岩田西	23	SD25	須恵器（美濃須衛）	横瓶	9c 初　Ⅴ-1	(11.6)	(22.9)	-					内面同心円当て具痕	1699
729	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末（Ⅵ新）　美濃	(10.0)	(2.6)	(5.0)					底部糸切	1574
730	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末（Ⅵ新）　美濃	13.2	4.2	6.6						1575
731	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末（Ⅵ新）　美濃	(13.4)	(3.7)	6.5						1576
732	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末（Ⅵ新）　美濃	(12.7)	(4.0)	6.1						1577
733	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末（Ⅵ新）　美濃	(15.0)	(4.6)	(7.4)						1113
734	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末（Ⅵ新）　美濃	15.5	4.4	7.6						1114
735	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末（Ⅵ新）　美濃	(13.8)	(4.1)	6.9					底部外面墨書「中」	1118
736	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末（Ⅵ新）　美濃	-	-	7.8						1119
737	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末（Ⅵ新）　尾張	(15.8)	(4.6)	(7.5)						1125
738	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	輪花椀	9c 末～10c 前半（Ⅵ新～Ⅶ古）美濃	(16.6)	-	-						1151
739	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末～10c 前半（Ⅵ新～Ⅶ古）美濃	-	-	6.0						1144
740	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末～10c 前半（Ⅵ新～Ⅶ古）美濃	(15.8)	-	-						1145
741	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末～10c 前半（Ⅵ新～Ⅶ古）美濃	-	-	6.0						1138
742	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末～10c 前半（Ⅵ新～Ⅶ古）美濃	-	-	7.6						1139
743	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末～10c 前半（Ⅵ新～Ⅶ古）美濃	-	-	7.2						1142
744	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	碗	9c 末～10c 前半（Ⅵ新～Ⅶ古）美濃	-	-	6.4						1141
745	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	10c 前半（Ⅶ古）　美濃	-	-	6.6						1140
746	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	10c 前半（Ⅶ古）　美濃	-	-	6.4					内面スス？付着	1143
747	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	10c 前半（Ⅶ古）　美濃	(13.6)	-	-						1146
748	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	皿	10c 前半～中（Ⅶ古～中）美濃	12.3	2.1	5.5					底部外面墨付着、転用硯か	1116
749	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	10c 前半～中（Ⅶ古～中）美濃	-	-	7.3					底部内面ヘラ記号有	1108
750	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	輪花椀	11c 初～前半（Ⅷ古～中）	(13.7)	-	-						1152
751	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	11c 中（Ⅷ中）	(15.5)	(5.9)	7.0						1107
752	岩田西	23	SD25	灰釉陶器	椀	11c 中（Ⅷ中）	(15.7)	-	-						1122
753	岩田西	23	SD25	瓦	丸瓦	古代				-	-	1.3	-	凹面布目痕	1155
754	岩田西	23	SD25	土師器	甕	古代	(17.0)	-	-						1112
755	岩田西	23	SD25	土師器	甕	古代	-	-	-						1123
756	岩田西	23	SD25	土師器	甕	古代	-	-	-						1124
757	岩田西	23	SD25	土師器	濃尾型甕	古代	-	-	-						1156
758	岩田西	23	SD25	土師器	甕	古代	(22.3)	-	-						1157
759	岩田西	23	SD25	土師器	甕	古代	(20.6)	-	-						1158
760	岩田西	23	SD25	土製品	土錘	-				5.0	2.3	-	-	完形	1128
761	岩田西	23	SD25	土製品	土錘	-				6.1	2.6	-	-	体部 3/4 残存	1127
762	岩田西	23	SD25	木製品	杭	中世				(33.3)	(4.5)	(4.2)	-	木取り芯持丸木、樹種マツ族複維管束亜属	567
763	岩田西	23	SD25	木製品	杭	中世				(50.6)	(6.8)	(6.2)	-	木取り芯持丸木、樹種マツ族複維管束亜属	568
764	岩田西	23	SD25	木製品	杭	中世				(39.0)	(4.1)	(3.8)	-	木取り芯持丸木、樹種マツ族複維管束亜属	569
765	岩田西	23	SD25	木製品	火付け木？	中世				(13.4)	(2.7)	(1.6)	-	先端部炭化、木取り割材、樹種ヒノキ	580

第 21 表　遺物観察表（17）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
766	岩田西	23	SD25	木製品	火付け木？	中世				(22.5)	(3.2)	(2.5)	－	先端部炭化、木取り割材、樹種マツ族複維管束亜属	581
767	岩田西	23	SD25	山茶碗（尾張型）	碗	5型式	(15.6)	(5.3)	(6.5)					内面スス付着	1111
768	岩田西	28	SD25	回転台土師器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古併行）	－	－	(5.4)						1428
769	岩田西	28	SD25	回転台土師器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古併行）	－	－	(4.5)						1429
770	岩田西	28	SD25	回転台土師器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古併行）	－	－	(4.5)						1430
771	岩田西	28	SD25	回転台土師器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古併行）	－	－	(4.5)					底部穿孔あり。加工円盤転用品か	1431
772	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	壺or鉢	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	－	－	－					外面ヘラ文字有「美○」	174
773	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	壺or鉢	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	－	－	(11.1)					底部内面スス付着	175
774	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	10c中前後（美濃Ⅶ中前後）	－	－	7.3					底部外面墨書「毋万（ムマ）」（縦書）	1010
775	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	－	－	7.0					底部墨書「万」	177
776	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	9c末（Ⅵ新） 美濃	－	－	(8.0)						1581
777	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	9c末（Ⅵ新） 美濃	－	－	(8.0)					内面スス付着	1582
778	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	10c前半（Ⅶ古）	13.1	5.6	6.3						1583
779	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	10c前半（Ⅶ古）	(14.1)	(4.6)	7.1						1584
780	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	壺	9c末（Ⅵ新） 美濃	－	－	6.1					底部外面ヘラ記号有	1585
781	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	9c末（Ⅵ新） 美濃	(15.1)	(4.3)	(7.6)						1586
782	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）美濃	(16.3)	(5.1)	7.1						1587
783	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）美濃	11.7	4.3	5.8						1588
784	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）美濃	(14.5)	(6.3)	(6.3)					底部外面スス付着	1589
785	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）美濃	(14.6)	(5.4)	7.1						1590
786	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	Ⅲ	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	10.7	2.6	5.0						1591
787	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）美濃	11.7	3.8	7.1						1592
788	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）美濃	－	－	7.1					底部内面スス付着	1593
789	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）美濃	14.6	(4.6)	(7.8)						1594
790	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	10c末前後（Ⅶ新前後） 美濃	(14.4)	(5.8)	6.6					東山72号窯併行	585
791	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	椀	10c末前後（Ⅶ新前後） 美濃	(14.6)	－	－						1607
792	岩田西	28	SD25	灰釉陶器	鉢	10c末前後（Ⅶ新前後） 美濃	(26.0)	－	－						1629
793	岩田西	28	SD25	瓦	丸瓦	古代				－	－	2.2	－	凹面布目痕	1536
794	岩田西	28	SD25	瓦	丸瓦	古代				－	－	2.5	－	凹面布目痕	1537
795	岩田西	28	SD25	瓦	丸瓦	古代				－	－	2.4	－	凹面布目痕	1538
796	岩田西	28	SD25	瓦	丸瓦	古代				－	－	2.4	－	凹面布目痕	1539
797	岩田西	28	SD25	瓦	丸瓦	古代				－	－	1.8	－	凹面布目痕	1540
798	岩田西	28	SD25	瓦	平瓦	古代				－	－	－	－	凹面布目痕	1541
799	岩田西	28	SD25	瓦	平瓦	古代				－	－	1.5	－	凹面布目痕	1543
800	岩田西	28	SD25	瓦	平瓦	古代				－	－	1.7	－	凹面布目痕	1544
801	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	6c代	(12.1)	－	－						1640
802	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	7c後半 Ⅲ-2～3	(10.6)	－	－						1650
803	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	7c後葉 Ⅲ-3	－	－	－						1653
804	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	7c後葉 Ⅲ-3	(10.7)	－	－						1635
805	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	7c後葉～8c初 Ⅲ-3～Ⅳ-1	－	－	－						1654
806	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	8c代 Ⅳ	(17.6)	－	－					金属器模倣か	1455
807	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	8c後半～9c初 Ⅳ-3～Ⅴ-1	(15.7)	－	－						1599
808	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	蓋	8c代 Ⅳ	(8.2)	－	－					短頸壺蓋か，内面炭？付着	1649
809	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	蓋	8c代 Ⅳ	(13.7)	－	－					短頸壺蓋か	1637
810	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	杯	7c代 Ⅲ	(8.8)	－	－						1636

第22表　遺物観察表（18）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
811	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	無台杯	7c 後葉～ 8c 初　Ⅲ -3 ～Ⅳ -1	－	－	(7.8)						183
812	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	無台杯	8c 初頭　Ⅳ -1	(13.7)	(3.5)	(8.0)						180
813	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	有台杯	8c 初頭　Ⅳ -1	－	－	9.0					底部内面刻印「美濃国」	17
814	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	椀	7c 後葉～ 8c 初　Ⅲ -3 ～Ⅳ -1	(11.8)	－	－					鉄鉢模倣品	178
815	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	擂鉢	8c 代　Ⅳ	(6.2)	－	－					底面刺突痕あり	76
816	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	高杯	7c 後半	－	－	－					脚外れ後再利用、摩滅有り	182
817	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	脚部か	8c 代　Ⅳ	－	－	－					透かし有する高杯脚部か	1655
818	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	脚部か	8c 代　Ⅳ	－	－	－					透かし有する高杯脚部か	1656
819	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	把手	8c 代　Ⅳ	－	－	－					内面同心円当て具痕	1644
820	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	壺	8c 代　Ⅳ	(9.6)	－	－						1631
821	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	壺	8c 代　Ⅳ	(15.9)	－	－						1633
822	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	壺	8c 代　Ⅳ	－	－	(6.6)						1641
823	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	壺 or 甕	8c 代　Ⅳ	－	－	－						1632
824	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	短頸壺	7c 代　Ⅲ	(10.7)	－	－						176
825	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	短頸壺	8c 代　Ⅳ	(10.0)	－	－						1448
826	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	甕	7c 代　Ⅲ	－	－	－					内面やや荒い同心円当て具痕	181
827	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	甕	8c 代　Ⅳ	－	－	－						1450
828	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	甕	8c 代　Ⅳ	－	－	－						1452
829	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	甕	8c 代　Ⅳ	－	－	－						1608
830	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	甕	8c 代　Ⅳ	－	－	－						1609
831	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	甕	8c 代　Ⅳ	－	－	－					内面同心円当て具痕	1630
832	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	甕	8c 後半　Ⅳ -3	－	－	－					内面同心円当て具痕	1449
833	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	鉢	9c 初　Ⅴ -1	(23.5)	－	－						1451
834	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	杯蓋	9c 初　Ⅴ -1	(13.3)	(2.7)	－					底部外面墨書、判読不能	1454
835	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	盤	9c 初　Ⅴ -1	－	－	(9.0)						1648
836	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	無台杯	9c 初　Ⅴ -1	(12.3)	(3.8)	(6.4)						1651
837	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	無台杯	9c 初　Ⅴ -1	(11.0)	(3.7)	(6.0)						1652
838	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ -1	－	－	(6.0)					底部内面墨書「井」	934
839	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ -1	－	－	(6.0)						1639
840	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ -1	－	－	(7.4)						1642
841	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ -1	(15.7)	(5.0)	10.0						1453
842	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ -1	(17.0)	(4.0)	(13.6)						1643
843	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ -1	(15.4)	(3.7)	(11.4)						1647
844	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ -1	－	－	(13.6)						1645
845	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ -1	－	－	(12.3)						1646
846	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	横瓶	9c 初　Ⅴ -1	－	－	－						1456
847	岩田西	28	SD25	須恵器（美濃須衛）	横瓶	9c 初　Ⅴ -1	－	－	－						1457
848	岩田西	28	SD25	土師器	脚部	－	－	－	－						1546
849	岩田西	28	SD25	土師器	甕	古代	－	－	－						1611
850	岩田西	28	SD25	土師器	甕	古代	－	－	－						1612
851	岩田西	28	SD25	土師器	甕	古代	(31.7)	－	－						1610
852	岩田西	28	SD25	土師器	甕	古代	－	－	－						1613
853	岩田西	28	SD25	土師器	甕	古代	－	－	－						1614
854	岩田西	28	SD25	土師器	甕	古代	(12.6)	－	－						1615
855	岩田西	28	SD25	土師器	甑	7c 代	－	－	－						1616

第 23 表　遺物観察表（19）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
856	岩田西	28	SD25	古式土師器	高杯	古墳時代初頭	-	-	-					透かし孔３方向	1617
857	岩田西	28	SD25	土製品	不明	-	-	-	-					土馬か	1409
858	岩田西	28	SD25	土製品	不明	-				-	-	-	-	土馬立髪部分か	1542
859	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				5.0	2.3	-	-	完形、紡錘状小型	1661
860	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.6	2.0	-	-	完形、紡錘状小型	1662
861	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				5.6	2.5	-	-	筒状大型	1663
862	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				5.3	2.9	-	-	一部欠、鼓状大型	1664
863	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.9	2.9	-	-	完形、鼓状大型	1665
864	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.9	3.0	-	-	完形、鼓状大型	1666
865	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				5.0	3.0	-	-	完形、鼓状大型	1667
866	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				5.7	2.5	-	-	一部欠、筒状大型	1668
867	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				-	1.5	-	-	一部欠、筒状大型	1669
868	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				3.6	2.2	-	-	完形、鼓状小型	1670
869	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.2	1.8	-	-	一部欠、紡錘状中型	1671
870	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.4	1.3	-	-	一部欠、紡錘状細型	1672
871	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				5.5	2.3	-	-	一部欠、紡錘状大型	1673
872	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				3.2	1.3	-	-	完形、なつめ玉状小型	1674
873	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				5.5	2.6	-	-	一部欠、紡錘状大型	1675
874	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.4	1.7	-	-	完形、なつめ玉状中型	1676
875	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.7	1.2	-	-	一部欠、筒状中型	1677
876	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				-	1.3	-	-	一部欠、筒状中型	1678
877	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.9	1.9	-	-	完形、なつめ玉状中型	1679
878	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.7	1.8	-	-	完形、紡錘状小型	1680
879	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				3.2	1.6	-	-	一部欠、なつめ玉状小型	1681
880	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				3.5	1.5	-	-	一部欠、なつめ玉状小型	1682
881	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				3.6	1.1	-	-	完形、筒状小型	1683
882	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.2	1.5	-	-	完形、なつめ玉状中型	1684
883	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				6.2	2.5	-	-	一部欠、紡錘状大型	1685
884	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.8	3.0	-	-	一部欠、鼓状大型	1686
885	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				5.0	1.7	-	-	一部欠、紡錘状中型	1687
886	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.0	1.2	-	-	完形、紡錘状小型	1688
887	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.1	1.9	-	-	完形、鼓状小型	1689
888	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.4	2.0	-	-	完形、紡錘状中型	1690
889	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				5.3	2.3		-	完形、紡錘状大型	1691
890	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				3.9	1.2	-	-	一部欠、紡錘状小型	1692
891	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				3.1	1.5	-	-	一部欠、なつめ玉状小型	1693
892	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.8	1.6	-	-	完形、紡錘状中型	1694
893	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.8	1.5	-	-	完形、紡錘状中型	1695
894	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.1	1.3	-	-	完形紡錘状中型	1696
895	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				4.4	1.1	-	-	一部欠、紡錘状小型	1697
896	岩田西	28	SD25	土製品	土錘	-				5.5	2.3	-	-	一部欠、紡錘状大型	1698
897	岩田西	28	SD25	被熱土器	不明	-	-	-	-					焼土塊か	1545
898	岩田西	28	SD25	条痕文系土器	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	-	-	-						1624
899	岩田西	28	SD25	条痕文系土器	深鉢	弥生時代中期中葉～後葉（貝田町式～高蔵式）	-	-	(7.0)					底部布目圧痕	1625
900	岩田西	28	SD25	弥生土器	壺	弥生時代中期	-	-	-					外面凹線文	1618

第24表　遺物観察表（20）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
901	岩田西	28	SD25	弥生土器	壺	弥生時代後期前半（山中式）	－	－	－						1619
902	岩田西	28	SD25	弥生土器	受口状口縁甕	弥生時代後期前半（山中式）	－	－	－						1620
903	岩田西	28	SD25	弥生土器	壺	弥生時代後期	(16.5)	－	－						1621
904	岩田西	28	SD25	弥生土器	壺	弥生時代後期	－	－	－						1622
905	岩田西	28	SD25	木製品	用途不明品	－				(5.9)	(6.5)	(6.1)	－	木取り芯無削出、樹種ヒノキ	572
906	岩田西	28	SD25	石製品	砥石	－				9.2	9.8	8.0	－	使用面２面	990
907	岩田西	28	SD25	石製品	砥石	－				25.2	19.8	15.9	－	使用面４面、大型品	991
908	岩田西	28	SD25	石製品	石鏃	－				(2.1)	1.2	0.3	1.0	有茎凸基、先端部欠、石材下呂石	1436
909	岩田西	28	SD25	石製品	石鏃	－				(2.4)	1.6	0.6	2.4	有茎凸基、先端部欠損、石材下呂石	1441
910	岩田西	28	SD25	石製品	石鏃	－				(1.6)	(1.4)	(0.3)	0.6	基部欠損、石材下呂石	1442
911	岩田西	27	SD25	灰釉陶器	椀	9c 末～ 10c 前半（Ⅵ新～Ⅶ古）美濃	－	－	(7.6)						1578
912	岩田西	27	SD25	須恵器（美濃須衛）	鉢	9c 初　Ⅴ-1	－	－	(15.8)						1464
913	岩田西	28	SX26	石製品	くさび	縄文				2.6	1.6	0.6	3.8	石材チャート	1708
914	岩田西	28	SX30	須恵器（美濃須衛）	短頸壺	9c 初　Ⅴ-1	(9.7)	－	－						1638
915	岩田西	23	Ⅳ層	灰釉陶器	椀	9c 末（Ⅵ新）	－	－	(7.3)						1126
916	岩田西	23	Ⅳ層	灰釉陶器	椀	9c 末（Ⅵ新）　美濃	－	－	(6.5)						1573
917	岩田西	23	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ-1	－	－	(6.1)					底部外面墨書「井」	634
918	岩田西	23	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	高杯	7c 後葉　Ⅲ-3	－	－	(10.9)						1106
919	岩田西	23	Ⅳ層	土師器	濃尾型甕	8c ～ 9c	－	－	(5.6)						1147
920	岩田西	25	Ⅳ層	灰釉陶器	椀	10c 末～ 11c 前半（Ⅶ新～Ⅶ古）	－	－	6.9						1165
921	岩田西	25	Ⅳ層	灰釉陶器	椀	10c 前半前後（Ⅶ古前後）	－	－	7.3						1166
922	岩田西	25	Ⅳ層	瓦	平瓦	古代				－	－	1.4	－	凹面布目痕	1178
923	岩田西	25	Ⅳ層	須恵器（畿内）	有台杯	7c 後葉～ 8c 初　Ⅲ-3 ～Ⅳ-1	－	－	7.4						1167
924	岩田西	25	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	杯	7c 後葉～ 8c 初　Ⅲ-3 ～Ⅳ-1	(17.7)	－	－						1168
925	岩田西	25	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	壺	9c 初　Ⅴ-1	(13.6)	－	－						1170
926	岩田西	25	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	甕	8c 初頭　Ⅳ-1	－	－	(5.8)						1171
927	岩田西	25	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	高杯	7c 後葉　Ⅲ-3	(20.0)	－	－						1172
928	岩田西	25	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	甕	8c 後半　Ⅳ-3	－	－	(11.1)					内面同心円当て具痕	1173
929	岩田西	25	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	壺	8c 後半～ 9c 初　Ⅳ-3 ～Ⅴ-1	－	－	12.8						1175
930	岩田西	25	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	無台杯	7c 後葉　Ⅲ-3	10.5	4.4	5.6						1176
931	岩田西	25	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	脚付椀	7c 初	－	－	－						1180
932	岩田西	25	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	短頸壺	7c 後葉	(9.8)	－	－						1185
933	岩田西	25	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	壺	7c 末まで　～Ⅲ-3	－	－	－						1206
934	岩田西	25	Ⅳ層	土師器	甕	7c	(19.7)	－	－					伊勢型甕	1174
935	岩田西	16	杭列１(No.5)	木製品	杭	平安時代				(17.9)	(4.9)	(4.6)	－	木取り芯持丸木、樹種サクラ族	563
936	岩田西	16	杭列１(No.7)	木製品	杭	平安時代				(18.0)	(5.3)	(4.3)	－	木取り芯持丸木、樹種ツバキ族	564
937	岩田西	16	杭列１(No.11)	木製品	杭	平安時代				(12.6)	(3.5)	(4.0)	－	木取り芯持丸木、樹種コナラ族アカガシ亜属	565
938	岩田西	16	杭列１(No.14)	木製品	杭	平安時代				(20.5)	(4.7)	(5.1)	－	木取り芯持丸木、樹種ヒサカキ	566
939	岩田西	19	SD2	陶器（瀬戸美濃）	仏供	後Ⅳ古	(9.2)	－	－						902
940	岩田西	22	SD13	山茶碗（尾張型）	碗	5 型式	－	－	(7.5)						1410
941	岩田西	22	SD13	山茶碗（尾張型）	碗	5 型式	－	－	6.9						997
942	岩田西	22	SD13	山茶碗（尾張型）	碗	5 型式	－	－	6.6					内外面スス付着	1002
943	岩田西	22	SD13	山茶碗（尾張型）	碗	6 型式	－	－	6.7					内面種子圧痕	1001
944	岩田西	22	SD13	山茶碗（尾張型）	碗	6 型式	(15.8)	(5.3)	(7.0)					内面スス付着	1004
945	岩田西	22	SD13	山茶碗（尾張型）	碗	6 型式	(15.7)	(4.6)	(7.0)						1005

第 25 表　遺物観察表（21）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
946	岩田西	22	SD13	陶器（瀬戸美濃）	桶	後Ⅳ	－	－	－						1008
947	岩田西	22	SD13	陶器（瀬戸美濃）	志野皿	大窯4	(12.3)	(2.1)	(7.8)						1009
948	岩田西	22	SD13	灰釉陶器	椀	9c末～10c前半（Ⅵ新～Ⅶ古）	－	－	(8.5)						1006
949	岩田西	22	SD13	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）美濃	－	－	(6.7)						996
950	岩田西	22	SD13	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）美濃								底部内面に赤彩有り、ベンガラ	999
951	岩田西	22	SD13	灰釉陶器	椀	11c中前後（Ⅷ中前後）美濃	(10.5)	(3.1)	(5.0)						1003
952	岩田西	22	SD13	須恵器（猿投）	椀or杯	8c代	－	－	－						994
953	岩田西	22	SD13	須恵器（美濃須衛）	杯	7c後葉　Ⅲ-3	(12.5)	(5.0)	6.0						1007
954	岩田西	22	SD13	須恵器（美濃須衛）	蓋	8c後半　Ⅳ-3	(14.0)	(3.4)	－						995
955	岩田西	22	SD13	石製品	石鏃	－				2.3	1.5	0.5	2.4	有茎平基、石材チャート	455
956	岩田西	23	SD31	山茶碗（尾張型）	皿	5型式	7.9	1.9	4.5					完形	587
957	岩田西	23	SD30	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	－	－	－						1159
958	岩田西	23	SD30	土師器	皿	M3類	(78.0)	(1.6)	－						1160
959	岩田西	23	SD30	木製品	火付け木	中世				(12.3)	(1.4)	(0.4)	－	先端部炭化、木取り割材、樹種ヒノキ	574
960	岩田西	27	SD30	山茶碗（尾張型）	碗	4型式	－	－	(4.4)						1309
961	岩田西	27	SD30	山茶碗（尾張型）	碗	5型式	(16.8)	(5.0)	(8.0)						1310
962	岩田西	27	SD30	山茶碗（尾張型）	碗	6型式	(16.0)	(5.1)	(7.2)						1313
963	岩田西	27	SD30	山茶碗（尾張型）	碗	6型式	－	－	(6.5)					底部外面墨書、判読不能	1467
964	岩田西	27	SD30	山茶碗（東濃型）	碗	5型式（丸石）	－	－	5.8						1320
965	岩田西	27	SD30	山茶碗（東濃型）	碗	5型式（窯洞）	－	－	4.7						1321
966	岩田西	27	SD30	山茶碗（東濃型）	皿	6型式（白土原）	(8.3)	(1.8)	(4.8)						1322
967	岩田西	27	SD30	山茶碗（東濃型）	碗	6型式（白土原）	－	－	(5.8)						1323
968	岩田西	27	SD30	山茶碗（東濃型）	碗	6型式（白土原）	－	－	(6.2)						1324
969	岩田西	27	SD30	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞新	(13.5)	(3.7)	(5.0)						1328
970	岩田西	27	SD30	山茶碗（美濃須衛型）	碗	5型式	－	－	7.3					内面スス付着	1314
971	岩田西	27	SD30	山茶碗（美濃須衛型）	碗	5型式	－	－	(7.6)					内外面スス付着	1465
972	岩田西	27	SD30	山茶碗（美濃須衛型）	碗	5型式	(16.2)	(5.3)	7.3						1315
973	岩田西	27	SD30	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系Ⅰ類	－	－	－						1397
974	岩田西	27	SD30	土師器	羽釜	中世	－	－	－						1471
975	岩田西	27	SD30	土師器	皿	M3～M4類	(11.8)	－	－						1470
976	岩田西	27	SD30	須恵器（美濃須衛）	無台杯	7c後葉～8c初　Ⅲ-3～Ⅳ-1	(19.6)	－	－						1331
977	岩田西	27	SD30	土製品	土錘	－				－	1.0	－	－		1458
978	岩田西	27	SD30	石製品	砥石	－				13.6	2.1	2.3	－	使用面2面	1463
979	岩田西	27	SD29	山茶碗（尾張型）	碗	7型式　瀬戸	(13.6)	(4.6)	(6.0)						1317
980	岩田西	27	SD29	山茶碗（東濃型）	碗	5型式（丸石）	－	－	(6.0)						1318
981	岩田西	27	SD29	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東～脇之島	(12.8)	－	－						1329
982	岩田西	27	SD29	山茶碗（東濃型）	碗	脇之島	(13.7)	－	－						1330
983	岩田西	27	SD29	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新～大窯1	－	－	(9.9)						1295
984	岩田西	16	畦51	土師器	皿	C2類	(7.4)	－	－						686
985	岩田西	29・30	田68	山茶碗（尾張型）	碗	5型式	－	－	－						1375
986	岩田西	29・30	田68	陶器（瀬戸美濃）	袴腰形香炉	後Ⅱ	(11.0)	－	－						1367
987	岩田西	29・30	田68	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	大窯1	－	－	－						1368
988	岩田西	29・30	田68	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	大窯1	－	－	3.9					加工円盤	1369
989	岩田西	29・30	田68	土師器	皿	B1類	－	－	－						1565
990	岩田西	29・30	田68	土製品	土錘	－				－	1.3	－	－		1547

第26表　遺物観察表（22）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
991	岩田西	29・30	田 68	土製品	土錘	-				5.0	1.5	-	-	ほぼ完品。紡錘状中型	1548
992	岩田西	28	田 75	陶器（瀬戸美濃）	卸皿	大窯 1	-	-	-						1344
993	岩田西	28	田 75	土師器	皿	C2 類	(7.3)	-	-					内面タール付着	1602
994	岩田西	29・30	田 75	山茶碗（尾張型）	碗	5 型式	-	-	-						1372
995	岩田西	29・30	田 75	山茶碗（尾張型）	碗	5 型式	-	-	-						1374
996	岩田西	29・30	田 75	山茶碗（尾張型）	碗	6 型式	14.5	5.6	(6.1)					底部外面墨書「一」	1011
997	岩田西	29・30	田 75	土師器	伊勢型鍋	12c	-	-	-						1564
998	岩田西	29・30	田 75	土師器	甕	古代	-	-	-						1570
999	岩田西	29・30	田 75	土製品	土錘	-				3.9	1.5	-	-	端部少欠。なつめ玉状小型	1559
1000	岩田西	29・30	田 76	山茶碗（尾張型）	碗	4 型式～6 型式	-	-	-					内面漆付着	1371
1001	岩田西	29・30	田 76	山茶碗（尾張型）	皿	5 型式	7.1	2.2	3.9						1376
1002	岩田西	29・30	田 76	山茶碗（尾張型）	碗	6 型式	-	-	(5.9)						1378
1003	岩田西	29・30	田 76	山茶碗（尾張型）	碗	6 型式	(16.5)	(5.6)	(8.3)						1382
1004	岩田西	29・30	田 76	山茶碗（東濃型）	碗	脇之島	(12.0)	(3.1)	(4.8)						1393
1005	岩田西	29・30	田 76	山茶碗（美濃須衛型）	碗	5 型式	-	-	6.0						1384
1006	岩田西	29・30	田 76	中国産磁器	白磁碗	同安窯系Ⅰ類	-	-	-						1569
1007	岩田西	29・30	田 76	土師器	伊勢型鍋	12c				5.3	1.5	-	-		1563
1008	岩田西	29・30	田 76	土師器	羽釜	中世				-	1.3	-	-		1562
1009	岩田西	29・30	田 76	土師器	皿	M2 ～ M3 類	(11.6)	-	-						1568
1010	岩田西	29・30	田 76	土製品	土錘	-				4.4	(1.3)	-	-	ほぼ完品、紡錘状中形	1552
1011	岩田西	29・30	田 76	土製品	土錘	-				4.0	1.4	-	-	ほぼ完品、紡錘状中形	1553
1012	岩田西	29・30	田 76	土製品	土錘	-				4.6	1.9	-	-	ほぼ完品、鼓状細形	1554
1013	岩田西	29・30	田 76	土製品	土錘	-				4.6	1.5	-	-	ほぼ完品、紡錘状中形	1555
1014	岩田西	29・30	田 76	土製品	土錘	-				4.2	1.4	-	-	ほぼ完品、紡錘状中形	1556
1015	岩田西	29・30	田 76	土製品	土錘	-				3.4	1.1	-	-	端部少欠、紡錘状小型	1557
1016	岩田西	28	田 82	陶器（瀬戸美濃）	袴腰形香炉	後Ⅲ	-	-	-						1336
1017	岩田西	28	田 82	中国産磁器	青磁碗	16C 後	-	-	-						1366
1018	岩田西	28	田 82	土師器	伊勢型鍋	12c	-	-	-						1606
1019	岩田西	28	田 82	土師器	皿	M1 ～ M2 類	(9.7)	-	-						1604
1020	岩田西	16	SX1	山茶碗（東濃型）	皿	白土原	8.9	1.9	5.1					底部外面墨書、判読不能	711
1021	岩田西	16	SX1	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系Ⅰ-5 類	-	-	-					内面端部沈線、外面蓮弁文	722
1022	岩田西	16	SX1	回転台土師器	椀	10c 末～11c 前半（Ⅶ新～Ⅷ古併行）	10.0	-	-					口縁タール付着	713
1023	岩田西	16	SX1	灰釉陶器	椀	10c 末～11c 前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	-	-	(5.4)					底部外面墨書「亥」か	709
1024	岩田西	16	SX1	灰釉陶器	椀	11c 前半前後（Ⅷ古前後）	-	-	6.1					底部内面墨書、判読不能	708
1025	岩田西	16	SX1	灰釉陶器	椀	11c 前半前後（Ⅷ古前後）	-	-	7.1						712
1026	岩田西	16	SX1	灰釉陶器	皿	11c 前半前後（Ⅷ古前後）	(10.2)	(2.1)	(5.2)						710
1027	岩田西	16	SX1	古式土師器（北陸系）	有段口縁甕	弥生時代後期末～古墳時代初頭	(15.6)	-	-					口縁外面櫛描文	1579
1028	岩田西	16	SX1	土師器	壺	古墳時代初頭	-	-	-						1580
1029	岩田西	16	SX1	土師器	くの字甕	古墳時代初頭	(19.7)	-	-					体部スス付着	1700
1030	岩田西	19	SX6	山茶碗（東濃型）	皿	白土原	8.2	1.7	4.0						903
1031	岩田西	19	SX7	土師器	皿	B2-b 類	-	-	-					外面タール付着	904
1032	岩田西	19	SX7	須恵器（美濃須衛）	蓋	7c 後葉　Ⅲ-3	-	-	-					外面カキ目有	911
1033	岩田西	19	杭列 2	木製品	杭	中世				(22.7)	(4.9)	(4.7)	-	木取り芯持丸木、樹種マツ族複維管束亜属	570
1034	岩田西	19	杭列 2	木製品	杭	中世				(21.5)	(4.3)	(4.2)	-	木取り芯持丸木か、樹種マツ族複維管束亜属	571
1035	岩田西	17	Ⅲc 層	灰釉陶器	椀	11c 中前後（Ⅷ中前後）	-	-	(7.6)						820

第 27 表　遺物観察表（23）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1036	岩田西	17	Ⅲc層	山茶碗（東濃型）	皿	明和	(7.8)	(1.6)	(3.9)						822
1037	岩田西	17	Ⅲc層	山茶碗（美濃須衛型）	碗	5型式	−	−	(7.8)					籾圧痕あり	821
1038	岩田西	17	Ⅲc層	中国産磁器	白磁碗	同安窯系Ⅰ類	−	−	−						819
1039	岩田西	17	Ⅲc層	土師器	皿	M2 ～ M3 類	−	−	−						818
1040	岩田西	17	Ⅲc層	土師器	皿	M3 類	(8.0)	−	−						823
1041	岩田西	17	Ⅲc層	土師器	皿	M3 類	(7.6)	(1.4)	−						817
1042	岩田西	17	Ⅲc層	土師器	皿	C1 類	(6.9)	−	−						816
1043	岩田西	17	Ⅲc層	土製品	土錘	−				−	1.1	−	−		815
1044	岩田西	19	Ⅲc層	土師器	皿	C1 類	(7.8)	−	−						910
1045	岩田西	23	Ⅲc層	灰釉陶器	椀	11c 中（Ⅷ中）	(14.2)	−	−						1093
1046	岩田西	23	Ⅲc層	灰釉陶器	椀	9c 末～ 10c 前半（Ⅵ新～Ⅶ古）美濃	−	−	7.1					底部内面ヘラ記号「大○（判読不能）」	1094
1047	岩田西	23	Ⅲc層	灰釉陶器	輪花椀	11c 初～前半　Ⅷ古～中	(16.6)	−	−						1150
1048	岩田西	23	Ⅲc層	山茶碗（尾張型）	皿	6型式	(8.0)	(1.9)	(4.4)						1092
1049	岩田西	23	Ⅲc層	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	−	−	(5.0)						1090
1050	岩田西	23	Ⅲc層	山茶碗（東濃型）	皿	大畑大洞	(8.5)	(1.2)	(4.8)					底部外面墨書、判読不能	1091
1051	岩田西	23	Ⅲc層	山茶碗（東濃型）	碗	脇之島	−	−	(4.0)					底部外面墨書、判読不能	1103
1052	岩田西	23	Ⅲc層	土師器	皿	C2 類	(7.0)	−	−						1069
1053	岩田西	23	Ⅲc層	土師器	皿	B2-a 類	−	−	−						1071
1054	岩田西	23	Ⅲc層	土師器	濃尾型平底甕	8 ～ 9 世紀	−	−	−						1096
1055	岩田西	23	Ⅲc層	土製品	土錘	−				−	1.5	−	−		1060
1056	岩田西	25	Ⅲc層	回転台土師器	椀	10c 末～ 11c 前半（Ⅶ新～Ⅷ古併行）	5.4	−	−					底部糸切	1195
1057	岩田西	25	Ⅲc層	回転台土師器	椀	10c 末～ 11c 前半（Ⅶ新～Ⅷ古併行）	−	−	(5.6)					底部糸切	1196
1058	岩田西	25	Ⅲc層	瓦	平瓦	古代				−	−	1.2	−	凹面布目痕	1480
1059	岩田西	25	Ⅲc層	山茶碗（尾張型）	大平鉢	5型式	(22.0)	−	−						1213
1060	岩田西	25	Ⅲc層	山茶碗（尾張型）	大平鉢	5型式	−	−	10.4						1191
1061	岩田西	25	Ⅲc層	山茶碗（尾張型）	碗	5型式	(17.3)	−	−						1239
1062	岩田西	25	Ⅲc層	山茶碗（尾張型）	碗	5型式	−	−	(8.2)						1240
1063	岩田西	25	Ⅲc層	山茶碗（尾張型）	碗	6型式	(14.6)	−	−						1241
1064	岩田西	25	Ⅲc層	山茶碗（尾張型）	碗	6型式	−	−	(7.2)						1242
1065	岩田西	25	Ⅲc層	山茶碗（尾張型）	碗	6型式	−	−	−						1243
1066	岩田西	25	Ⅲc層	山茶碗（東濃型）	皿	明和	(7.8)	(1.5)	(4.2)						1246
1067	岩田西	25	Ⅲc層	山茶碗（東濃型）	皿	明和	(8.3)	(2.4)	(4.6)						1247
1068	岩田西	25	Ⅲc層	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	(15.7)	(5.2)	(5.0)						1248
1069	岩田西	25	Ⅲc層	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	−	−	(4.4)					底部外面ヘラ記号有	1249
1070	岩田西	25	Ⅲc層	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東	(13.0)	(3.2)	(3.7)						1253
1071	岩田西	25	Ⅲc層	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系Ⅰ -5 類	−	−	−						1187
1072	岩田西	25	Ⅲc層	陶器（瀬戸美濃）	平碗	中Ⅳ	(15.3)	−	−						1223
1073	岩田西	25	Ⅲc層	陶器（瀬戸美濃）	直縁大皿	後Ⅲ～Ⅳ	(23.2)	−	−						1227
1074	岩田西	25	Ⅲc層	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	後Ⅳ新	−	−	−						1230
1075	岩田西	25	Ⅲc層	土師器	皿	M1 ～ M2 類	(6.8)	(1.3)	−						1489
1076	岩田西	25	Ⅲc層	土師器	甕	古代	−	−	−						1193
1077	岩田西	25	Ⅲc層	土師器	甕	古代	−	−	−						1481
1078	岩田西	25	Ⅲc層	土師器	甑	−	−	−	−						1474
1079	岩田西	25	Ⅲc層	土師器	甑	−				−	−	−	−		1475
1080	岩田西	25	Ⅲc層	須恵器（美濃須衛）	甕	7c 後葉～ 8c 初　Ⅲ -3 ～Ⅳ -1	(17.8)	−	−					内面同心円当て具痕	1205

第 28 表　遺物観察表（24）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1081	岩田西	25	Ⅲc層	須恵器（美濃須衛）	有台杯	8c初頭　Ⅳ-1	-	-	10.0						1197
1082	岩田西	25	Ⅲc層	須恵器（美濃須衛）	壺	8c後半～9c初　Ⅳ-3～Ⅴ-1	-	-	-						1207
1083	岩田西	25	Ⅲc層	須恵器（美濃須衛）	杯	9c初以降　Ⅴ-1～	(15.0)	-	-						1218
1084	岩田西	25	Ⅲc層	須恵器（美濃須衛）	杯	9c初　Ⅴ-1	-	-	(7.4)					底部外面墨書、文字の一部「一」と「田」か	933
1085	岩田西	25	Ⅲc層	須恵器（猿投）	壺	8c代	-	-	-						1219
1086	岩田西	25	Ⅲc層	土製品	土錘	古代～中世				4.7	1.9	-	-	端部一部欠、なつめ玉状中型	1502
1087	岩田西	25	Ⅲc層	土製品	土錘	古代～中世				5.0	2.1	-	-	ほぼ完品、なつめ玉状中型	1503
1088	岩田西	25	Ⅲc層	土製品	土錘	古代～中世				4.4	1.7	-	-	ほぼ完品、紡錘状小型	1504
1089	岩田西	25	Ⅲc層	土製品	土錘	古代～中世				4.5	1.2	-	-	ほぼ完品、なつめ玉状細型	1505
1090	岩田西	25	Ⅲc層	土製品	土錘	中世				-	2.0	-	-	端部一部欠、紡錘状中型	1506
1091	岩田西	25	Ⅲc層	石製品	砥石	-				(10.2)	(3.8)	(1.4)	-	使用面4面	698
1092	岩田西	25	Ⅲc層	石製品	砥石	-				(9.3)	(3.4)	(2.7)	-	使用面4面、柱状	1220
1093	岩田西	25	Ⅲc層	石製品	砥石	-				(5.6)	(3.2)	(0.6)	-	使用面4面	1432
1094	岩田西	26	Ⅲc層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	-	-	-						1262
1095	岩田西	27	Ⅲc層	陶器（瀬戸美濃）	緑釉小皿	後Ⅲ～Ⅳ古	-	-	4.8						1292
1096	岩田西	27	Ⅲc層	陶器（瀬戸美濃）	平碗	後Ⅳ古	-	-	-						1293
1097	岩田西	27	Ⅲc層	土師器	内耳鍋	室町時代	-	-	-					外面スス付着	1332
1098	岩田西	28	Ⅲc層	灰釉陶器	小椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	(10.6)	(3.9)	(5.2)					内外面スス付着	1424
1099	岩田西	28	Ⅲc層	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	-	-	6.5						1601
1100	岩田西	28	Ⅲc層	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	-	-	(7.0)						1595
1101	岩田西	28	Ⅲc層	山茶碗（尾張型）	皿	5型式	(7.4)	(2.5)	3.6						1351
1102	岩田西	28	Ⅲc層	中国産磁器	白磁	Ⅳ-1	(17.5)	-	-						1364
1103	岩田西	28	Ⅲc層	陶器（瀬戸美濃）	志野皿	大窯4後	(11.0)	-	-						1346
1104	岩田西	28	Ⅲc層	須恵器（美濃須衛）	壺	8c代　Ⅳ	-	-	(10.0)						1600
1105	岩田西	28	Ⅲc層	土製品	土錘	-				-	2.6	-	-		1415
1106	岩田西	29・30	Ⅲc層	灰釉陶器	碗	10c前半（Ⅶ古）	-	-	(8.0)					内面スス付着	1394
1107	岩田西	29・30	Ⅲc層	常滑	甕or広口壺	12世紀代	-	-	-						1396
1108	岩田西	29・30	Ⅲc層	土師器	皿	B2-a	-	-	-						1566
1109	岩田西	29・30	Ⅲc層	土製品	土錘	-				-	1.5	-	-	紡錘状中型	1560
1110	岩田西	29・30	Ⅲc層	土製品	土錘	-				-	1.0	-	-	棒状細形	1561
1111	岩田西	16	Ⅲb層	山茶碗（尾張型）	碗	6型式	-	-	(5.6)						742
1112	岩田西	16	Ⅲb層	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東	(12.6)	(3.7)	(4.4)						747
1113	岩田西	16	Ⅲb層	中国産磁器	白磁碗	同安窯系Ⅳ類	(15.6)	-	-						735
1114	岩田西	16	Ⅲb層	陶器（瀬戸美濃）	内耳鍋	後Ⅳ古	-	-	-						749
1115	岩田西	16	Ⅲb層	陶器（瀬戸美濃）	志野皿	大窯4後	(12.0)	(2.3)	(7.0)						745
1116	岩田西	16	Ⅲb層	陶器（近世瀬戸美濃）	擂鉢	登り1	-	-	-						743
1117	岩田西	16	Ⅲb層	陶器（近世瀬戸美濃）	耳付き水柱	登り1～4	(3.6)	-	-						752
1118	岩田西	16	Ⅲb層	土師器	皿	B1類	-	-	-						739
1119	岩田西	16	Ⅲb層	土師器	皿	B2-b類	-	-	-						746
1120	岩田西	16	Ⅲb層	土師器	皿	B2-a類	(12.8)	(1.8)	-						738
1121	岩田西	16	Ⅲb層	灰釉陶器	椀	11c前半前後（Ⅷ古前後）美濃	-	-	(5.0)						741
1122	岩田西	26	Ⅲb層	山茶碗（東濃型）	皿	明和	8.4	1.6	4.4						1275
1123	岩田西	26	Ⅲb層	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	(11.5)	(5.0)	(4.2)						1277
1124	岩田西	26	Ⅲb層	陶器（瀬戸美濃）	折縁深皿	後Ⅰ	-	-	-						1255
1125	岩田西	26	Ⅲb層	中国産磁器	白磁碗	Ⅳ類	-	-	-						1518

第29表　遺物観察表（25）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1126	岩田西	26	Ⅲb層	中国産磁器	染付碗	16C　明代	－	－	－						1519
1127	岩田西	26	Ⅲb層	土師器	皿	M2～M3類	(8.7)	(1.6)	－						1522
1128	岩田西	26	Ⅲb層	土師器	皿	M3類	(11.5)	(2.0)	－						1523
1129	岩田西	26	Ⅲb層	土製品	土錘	－				3.6	0.9	－	－	棒状細形	1533
1130	岩田西	26	Ⅲb層	土製品	土錘	－				3.8	1.3	－	－	紡錘状小型	1534
1131	岩田西	29･30	Ⅲb層	山茶碗（尾張型）	皿	6型式	(7.6)	(1.9)	(4.9)						1379
1132	岩田西	29･30	Ⅲb層	山茶碗（尾張型）	皿	6型式	7.9	1.6	4.5						1380
1133	岩田西	29･30	Ⅲb層	山茶碗（美濃須衛型）	碗	5型式	－	－	(7.0)						1386
1134	岩田西	29･30	Ⅲb層	山茶碗（美濃須衛型）	皿	5型式	8.2	2.4	4.6						1383
1135	岩田西	27	SD39	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	大窯3	(13.2)	－	－						1302
1136	岩田西	27	SD39	陶器（瀬戸美濃）	中皿	登り1～2　瀬戸美濃	(12.8)	－	－						1305
1137	岩田西	27	SD39	山茶碗（尾張型）	碗	6型式	(15.9)	(5.4)	(8.2)						1312
1138	岩田西	16	畦1	土製品	土錘	－				5.4	－	－			685
1139	岩田西	16	畦2	陶器（瀬戸美濃）	端反皿	大窯1	－	－	－						688
1140	岩田西	16	畦2	土製品	土錘	－				－	1.2	－	－		687
1141	岩田西	19	畦15	山茶碗（東濃型）	碗	生田	(9.3)	－	－						850
1142	岩田西	19	畦15	常滑	甕	－	－	－	－						852
1143	岩田西	19	畦15	石製品	不明品	－				2.3	2.2	2.1	12.3	玉状、全体研磨	855
1144	岩田西	19	畦15	土師器	皿	B1類	(12.2)	－	－					外面スス付着	853
1145	岩田西	19	畦15	土師器	皿	B2類	(9.5)	－	－						854
1146	岩田西	19	畦15	土師器	皿	C1類	(8.6)	－	－						856
1147	岩田西	19	畦15	土師器	皿	C2類	(8.0)	－	－					内外面タール付着	857
1148	岩田西	19	畦15	陶器（瀬戸美濃）	平碗	後Ⅲ期	－	－	(5.5)					加工円板、地元流通品	851
1149	岩田西	19	畦15	陶器（瀬戸美濃）	折縁小鉢	後Ⅳ古	－	－	－						859
1150	岩田西	19	畦15	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	大窯1	－	－	－						858
1151	岩田西	19	畦16	土師器	皿	B2-b類	－	－	－					内面タール付着	861
1152	岩田西	19	畦16	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	－	－	－						860
1153	岩田西	19	畦18	山茶碗（東濃型）	碗	生田	(13.0)	－	－						867
1154	岩田西	19	畦18	陶器（瀬戸美濃）	直縁大皿	後Ⅳ新	－	－	－						864
1155	岩田西	19	畦18	陶器（瀬戸美濃）	直縁大皿	後Ⅳ新	－	－	－						865
1156	岩田西	19	畦18	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	大窯1	－	－	－						866
1157	岩田西	19	畦18	土師器	皿	B2－a類	－	－	－						868
1158	岩田西	19	畦18	須恵器（美濃須衛）	有台杯	7c後葉～8c初　Ⅲ-3～Ⅳ-1	－	－	(12.6)						863
1159	岩田西	19	畦18	土製品	土錘	－				4.7	1.4	－	－	端部一部欠、長細型	862
1160	岩田西	19	畦19	山茶碗（東濃型）	碗	明和～大畑大洞	(13.6)	－	－						869
1161	岩田西	19	畦19	山茶碗（東濃型）	皿	大畑大洞新	(7.8)	(1.1)	(5.6)						870
1162	岩田西	19	畦19	土師器	皿	B2-b類	－	－	－						871
1163	岩田西	19	畦21	山茶碗（東濃型）	碗	白土原	－	－	(4.3)						873
1164	岩田西	19	畦21	土師器	皿	B2-b類	－	－	－						872
1165	岩田西	21	畦22	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	後Ⅳ新	(11.4)	－	－						964
1166	岩田西	21	畦22	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	大窯4	－	－	－						965
1167	岩田西	21	畦22	中国産磁器	染付碗	16C後　明代	－	－	－						966
1168	岩田西	21	畦22	土師器	皿	B2-b類	－	－	－					内面タール付着	963
1169	岩田西	21	畦22	陶器（近世瀬戸美濃）	擂鉢	登り1	－	－	－						962
1170	岩田西	21	畦22	陶器（近世瀬戸美濃）	片口	江戸後期　美濃	－	－	－						967

第30表　遺物観察表（26）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1171	岩田西	26	畦30	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	－	－	(6.0)						1276
1172	岩田西	26	畦30	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞～大畑大洞新	(13.5)	－	－					内面スス付着	1725
1173	岩田西	26	畦31	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞新	－	－	(4.0)						1282
1174	岩田西	26	畦31	土師器	皿	M4類	－	－	－						1527
1175	岩田西	26	畦31	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	大窯1	－	－	－						1264
1176	岩田西	26	畦31	陶器（瀬戸美濃）	稜皿	大窯2	(9.7)	－	－						1266
1177	岩田西	26	畦31	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c初　V－1	－	－	(13.1)						1289
1178	岩田西	26	畦32	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞新	－	－	(4.2)						1281
1179	岩田西	26	畦32	山茶碗（東濃型）	碗	脇之島	12.2	－	－						1287
1180	岩田西	26	畦32	陶器（瀬戸美濃）	縁釉小皿	後Ⅳ古	－	－	－						1258
1181	岩田西	26	畦32	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	－	－	－						1261
1182	岩田西	26	畦32	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系15～16C 上田B-Ⅳ群	－	－	－						1520
1183	岩田西	26	畦32	土師器	皿	B2-a類	－	－	－					内面タール付着	1524
1184	岩田西	26	畦32	土師器	皿	B2類	－	－	－						1528
1185	岩田西	26	畦32	灰釉陶器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	－	－	(7.5)						1290
1186	岩田西	25	畦33	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東	(11.4)	－	－						1254
1187	岩田西	25	畦33	土師器	内耳鍋	15～16C	－	－	－						1482
1188	岩田西	25	畦35	山茶碗（東濃型）	碗	明和	－	－	(4.2)						1244
1189	岩田西	23	畦36	土師器	皿	B2-b類	－	－	－						1063
1190	岩田西	23	畦37	山茶碗（東濃型）	碗	明和	－	－	(4.2)						1086
1191	岩田西	23	畦37	土師器	甕	古代	－	－	－						1097
1192	岩田西	23	畦37	土製品	土錘	－				4.5	1.6	－	－		1051
1193	岩田西	23	畦37	土製品	土錘	－				－	1.9	－	－		1052
1194	岩田西	23	畦38	土師器	皿	C2類	－	－	－						1064
1195	岩田西	23	畦38	土師器	皿	B2-b類	(9.6)	－	－						1065
1196	岩田西	23	畦38	陶器（瀬戸美濃）	丸皿	大窯2前	－	－	－						1073
1197	岩田西	23	畦38	陶器（近世瀬戸美濃）	小杯	登り3～4　美濃	(5.3)	－	－						1077
1198	岩田西	27	畦42	陶器（瀬戸美濃）	稜皿	大窯2	－	－	－						1300
1199	岩田西	29･30	畦45	木製品	火付け木	－				(11.0)	(1.0)	(0.5)	－	先端部炭化、木取り割材、樹種マツ族複維管束亜属	578
1200	岩田西	16	田1	山茶碗（東濃型）	碗	生田	(9.2)	－	－						716
1201	岩田西	16	田1	山茶碗（東濃型）	碗	生田	(8.8)	－	－						719
1202	岩田西	16	田1	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東	(12.5)	(3.0)	(2.7)						725
1203	岩田西	16	田1	山茶碗（東濃型）	皿	明和	(7.2)	(1.5)	(4.2)						726
1204	岩田西	16	田1	山茶碗（東濃型）	皿	時期不明	－	－	(4.8)					底部外面墨書、判読不能	729
1205	岩田西	16	田1	須恵器（猿投）	杯	8c代	(9.8)	－	－						707
1206	岩田西	16	田1	土師器	皿	B2-b類	(11.7)	(2.1)	－						689
1207	岩田西	16	田1	土師器	清郷型鍋	11～12c	－	－	－						694
1208	岩田西	16	田1	土製品	土鈴	－	－	－	－						695
1209	岩田西	16	田1	土製品	土錘	－				－	(1.2)	－	－		727
1210	岩田西	16	田1	陶器（瀬戸美濃）	柄付片口	後Ⅰ	－	－	－						691
1211	岩田西	16	田1	陶器（瀬戸美濃）	折縁深皿	後Ⅱ	(29.2)	－	－						690
1212	岩田西	16	田1	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	大窯1	－	－	－						700
1213	岩田西	16	田1	陶器（近世瀬戸美濃）	丸碗	登り4　美濃	－	－	(4.5)						692
1214	岩田西	16	田1	回転台土師器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古併行）	(14.1)	－	－						701
1215	岩田西	16	田1	灰釉陶器	椀	10c前半（Ⅶ古）　美濃	－	－	(7.5)						693

第34表　遺物観察表（27）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1216	岩田西	16	田1	灰釉陶器	皿	11c 前半前後（Ⅷ古前後）美濃	(10.6)	(2.3)	(5.6)						732
1217	岩田西	16	田2	山茶碗（東濃型）	碗	5型式	−	−	(4.3)						704
1218	岩田西	16	田2	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東	(11.2)	(3.3)	(3.2)						717
1219	岩田西	16	田2	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系Ⅰ類	−	−	−					内面草花文	730
1220	岩田西	16	田2	土師器	皿	B2−b 類	−	−	−						702
1221	岩田西	16	田2	土師器	羽釜	中世	−	−	−						731
1222	岩田西	16	田2	陶器（瀬戸美濃）	縁釉小皿	後Ⅳ古	−	−	−						728
1223	岩田西	16	田2	陶器（近世瀬戸美濃）	筒型碗	登り1〜2　美濃	(10.1)	−	−						703
1224	岩田西	16	田2	石製品	刃器	−				9.1	5.5	1.9	94.8	石材安山岩か	1440
1225	岩田西	16	田3	山茶碗（東濃型）	碗	明和〜大畑大洞	(13.4)	−	−						718
1226	岩田西	16	田3	土師器	皿	C2 類	−	−	−						706
1227	岩田西	16	田3	瓦	軒平瓦	古代				−	−	1.9	−	凹面タタキ目のち布目痕	705
1228	岩田西	17	田5	土師器	皿	M3 類	(6.8)	(1.2)	−						786
1229	岩田西	17	田5	土師器	皿	C2 類	(6.9)	(1.2)	−						782
1230	岩田西	17	田5	土師器	皿	B2 − a 類	−	−	−						785
1231	岩田西	17	田5	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	−	−	−						784
1232	岩田西	17	田5	陶器（近世瀬戸美濃）	蓋	登り3〜4　美濃	(13.2)	−	−						783
1233	岩田西	17	田6	土師器	皿	B2−b 類	−	−	−					内面スス付着	787
1234	岩田西	17	田7	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞新	−	−	−					底部外面墨書、判読不能	790
1235	岩田西	17	田7	土師器	皿	B2−b 類	(9.0)	−	−						807
1236	岩田西	17	田7	土師器	皿	B1 類	−	−	−						808
1237	岩田西	17	田7	土製品	土鈴	−				−	−	−	−		789
1238	岩田西	17	田7	土製品	土錘	−				4.8	1.5	−	−	ほぼ完品	791
1239	岩田西	17	田7	土製品	土錘	−				4.6	1.6	−	−	ほぼ完形	806
1240	岩田西	17	田7	陶器（瀬戸美濃）	縁釉小皿	後Ⅳ古	(9.7)	−	−						796
1241	岩田西	17	田7	陶器（瀬戸美濃）	平碗	後Ⅳ古	(19.4)	−	−					灰釉	804
1242	岩田西	17	田7	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	後Ⅳ新	(12.3)	−	−						792
1243	岩田西	17	田7	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	後Ⅳ新	(10.6)	−	−						793
1244	岩田西	17	田7	陶器（瀬戸美濃）	卸目大皿	後Ⅳ新	−	−	−					灰釉	805
1245	岩田西	17	田7	陶器（瀬戸美濃）	口広有耳壺	大窯1〜2	(13.0)	−	−						794
1246	岩田西	17	田7	陶器（近世瀬戸美濃）	碗	登り1〜2	−	−	−						803
1247	岩田西	17	田7	陶器（近世瀬戸美濃）	丸皿	登り3〜4　美濃	(10.0)	−	−						788
1248	岩田西	17	田7	陶器（近世瀬戸美濃）	壺	登り3〜4　美濃	−	−	−					灰釉	795
1249	岩田西	17	田8	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞新	−	−	(3.3)					底部外面墨書、判読不能	799
1250	岩田西	17	田8	土師器	皿	B2 − a 類	(12.8)	(2.3)	−						800
1251	岩田西	17	田8	土師器	皿	C1 類	(7.8)	−	−						801
1252	岩田西	17	田8	土師器	皿	C2 類	(6.8)	−	−						802
1253	岩田西	17	田8	土師器	皿	B2−b 類	−	−	−						809
1254	岩田西	17	田8	陶器（瀬戸美濃）	折縁深皿	後Ⅰ	−	−	−						798
1255	岩田西	17	田8	陶器（瀬戸美濃）	腰折皿	後Ⅳ新	(10.0)	−	−						797
1256	岩田西	19	田8	土師器	皿	B2−b 類	(9.6)	−	−						874
1257	岩田西	19	田9	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東〜脇之島	(11.3)	−	−						884
1258	岩田西	19	田9	山茶碗（東濃型）	碗	生田	(11.0)	−	−						885
1259	岩田西	19	田9	須恵器（美濃須衛）	蓋	8c 代	(11.4)	−	−						886
1260	岩田西	19	田9	須恵器（美濃須衛）	鉢	8c 代	−	−	−						887

第32表　遺物観察表（28）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1261	岩田西	19	田 9	須恵器（美濃須衛）	把手	8c 後半　Ⅳ-3	−	−	−						888
1262	岩田西	19	田 9	土師器	皿	C2 類	(7.4)	−	−						875
1263	岩田西	19	田 9	土師器	皿	C1 類	(10.8)	−	−						876
1264	岩田西	19	田 9	土師器	皿	B2 − a 類	−	−	−						877
1265	岩田西	19	田 9	土師器	皿	B1 類	−	−	−						878
1266	岩田西	19	田 9	土製品	土錘	−				−	1.1	−	−	両端部一部欠損。小型品	879
1267	岩田西	19	田 9	陶器（瀬戸美濃）	直縁大皿	後Ⅳ古	(26.2)	−	−						881
1268	岩田西	19	田 9	陶器（瀬戸美濃）	縁釉小皿	後Ⅳ古	(10.0)	−	−					鉄釉	883
1269	岩田西	19	田 9	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	−	−	−						880
1270	岩田西	19	田 9	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	大窯 1	(12.0)	−	−						882
1271	岩田西	19	田 11	山茶碗（尾張型）	碗	5 型式	−	−	−						892
1272	岩田西	19	田 11	須恵器（美濃須衛）	蓋	7c 後葉　Ⅲ-3	−	−	−						893
1273	岩田西	19	田 11	土師器	皿	C2 類	(8.1)	−	−					内外面タール付着	889
1274	岩田西	19	田 11	土師器	皿	B1 類	(10.3)	−	−						890
1275	岩田西	19	田 11	土師器	皿	C1 類	(7.0)	−	−						891
1276	岩田西	17	田 14	土師器	皿	C2 類	(8.3)	−	−					内面タール付着	810
1277	岩田西	20	田 14	中国産磁器	白磁小杯	森田 D 群　15 〜 16C	(8.9)	(3.4)	(3.0)						936
1278	岩田西	19	田 15	山茶碗（東濃型）	皿	5 型式（窯洞）	(9.7)	−	−						899
1279	岩田西	19	田 15	土師器	皿	C2 類	(7.8)	−	−						900
1280	岩田西	19	田 15	土製品	土錘	−				4.2	1.5	−	−	ほぼ完形	901
1281	岩田西	19	田 15	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	−	−	−						897
1282	岩田西	19	田 15	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	大窯 1	−	−	−						896
1283	岩田西	19	田 15	陶器（瀬戸美濃）	丸皿	大窯 2	(9.8)	(2.5)	(4.9)						898
1284	岩田西	19	田 15	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	大窯 4 前半	(10.6)	−	−						894
1285	岩田西	19	田 15	陶器（近世瀬戸美濃）	鉄絵皿	登り 1	(10.7)	−	−						895
1286	岩田西	20	田 15	山茶碗（東濃型）	皿	明和	(8.2)	1.5	(5.5)						937
1287	岩田西	20	田 15	灰釉陶器	椀	11c 前半前後（Ⅷ古前後）美濃	(14.4)	−	−						942
1288	岩田西	20	田 15	中国産磁器	青磁大盤	龍泉窯系 14 〜 15C	−	−	−					内外面連弁文	938
1289	岩田西	20	田 15	土師器	皿	C2 類	(6.9)	(1.1)	−					内外面タール付着	940
1290	岩田西	20	田 15	陶器（瀬戸美濃）	腰折皿	後Ⅳ新	(11.6)	−	−						944
1291	岩田西	20	田 15	陶器（瀬戸美濃）	燭台	後Ⅳ	−	−	−						943
1292	岩田西	20	田 15	陶器（瀬戸美濃）	端反皿	大窯 1	(7.8)	(2.2)	(4.7)						939
1293	岩田西	20	田 15	陶器（瀬戸美濃）	灯明皿	大窯 1	(10.0)	(2.2)	(4.2)						945
1294	岩田西	20	田 15	陶器（近世瀬戸美濃）	天目茶碗	登り 2	(11.6)	−	−						941
1295	岩田西	20	田 15	石製品	砥石	−				(8.5)	(3.3)	(1.0)	−	使用面 2 面。硯の転用品	935
1296	岩田西	21・22	田 16	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	後Ⅳ新	(11.6)	−	−						971
1297	岩田西	21	田 16	山茶碗（尾張型）	大平鉢	6 型式併行	−	−	−						981
1298	岩田西	21	田 16	須恵器（美濃須衛）	蓋	7c 後葉　Ⅲ-3	−	−	−						970
1299	岩田西	21	田 16	土師器	皿	B2-b 類	(11.3)	−	−						969
1300	岩田西	21	田 16	土師器	皿	B2-b 類	−	−	−					内面タール付着	975
1301	岩田西	21	田 16	土師器	皿	B1 類	(8.4)	−	−						974
1302	岩田西	21	田 16	土師器	皿	B2 − a 類	−	−	−					内面タール付着	983
1303	岩田西	21	田 16	土製品	土錘	−				4.1	(4.6)	−	−		973
1304	岩田西	21	田 16	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	大窯 1	−	−	−						982
1305	岩田西	21	田 16	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	大窯 3	−	−	(3.9)					高台部のみ。加工円盤か	978

第 33 表　遺物観察表（29）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1306	岩田西	21	田 16	陶器（瀬戸美濃）	折縁皿	大窯 4 前半	−	−	−						977
1307	岩田西	21	田 16	陶器（近世瀬戸美濃）	皿	登り 2　瀬戸美濃	(12.2)	(2.3)	(7.8)						979
1308	岩田西	21	田 16	陶器（近世瀬戸美濃）	天目茶碗	登り 3 ～ 4　美濃	(12.0)	−	−						972
1309	岩田西	21	田 16	陶器（近世瀬戸美濃）	丸碗	登り 3 ～ 4　美濃	(10.6)	−	−						980
1310	岩田西	22	田 18	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東	−	−	(2.8)						1022
1311	岩田西	22	田 18	山茶碗（東濃型）	碗	生田	−	−	−						1019
1312	岩田西	22	田 18	中国産磁器	青磁小盤	13C	−	−	−						1016
1313	岩田西	22	田 18	土師器	皿	C2 類	(7.5)	(1.5)	−					内外面タール付着	1018
1314	岩田西	22	田 18	陶器（瀬戸美濃）	大皿	大窯 4	−	−	−						1013
1315	岩田西	22	田 18	陶器（近世瀬戸美濃）	天目茶碗	登り 1	−	−	−						1017
1316	岩田西	23	田 18	土製品	土錘	−				−	1.3	−	−		1062
1317	岩田西	22	田 19	山茶碗（東濃型）	碗	明和	−	−	(5.0)						1026
1318	岩田西	22	田 19	土師器	皿	B2 － a 類	(11.7)	−	−						1024
1319	岩田西	22	田 19	土製品	土錘	−				−	(2.3)	−	−		1028
1320	岩田西	22	田 19	陶器（瀬戸美濃）	折縁深皿	後Ⅱ	−	−	−						1014
1321	岩田西	22	田 19	陶器（瀬戸美濃）	土瓶蓋	後期	(13.2)	−	−						1015
1322	岩田西	26	田 21	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞新	(14.0)	(3.8)	(5.1)						1283
1323	岩田西	26	田 21	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東	(13.0)	(3.4)	(4.8)					底部外面墨書、判読不能	1284
1324	岩田西	26	田 21	土製品	土錘	−				3.6	1.6	−	−	なつめ玉状	1530
1325	岩田西	26	田 21	弥生土器	壺	弥生中期	−	−	−						1529
1326	岩田西	26	田 22	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	(15.0)	−	−						1279
1327	岩田西	26	田 22	山茶碗（東濃型）	皿	大畑大洞	(7.7)	(1.5)	4.3						1280
1328	岩田西	26	田 22	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東	−	−	(2.6)						1285
1329	岩田西	26	田 22	山茶碗（東濃型）	皿	生田	(10.7)	−	−						1288
1330	岩田西	26	田 22	灰釉陶器	壺	9ｃ代	−	−	(9.2)						1291
1331	岩田西	25	田 22	陶器（瀬戸美濃）	卸皿	後Ⅱ	−	−	−						1224
1332	岩田西	26	田 22	陶器（瀬戸美濃）	浅碗	後Ⅱ	(12.6)	−	−						1256
1333	岩田西	26	田 22	陶器（瀬戸美濃）	平碗	後Ⅳ古	−	−	−						1259
1334	岩田西	26	田 22	陶器（瀬戸美濃）	直縁大皿	後Ⅳ古	−	−	−						1260
1335	岩田西	26	田 22	陶器（瀬戸美濃）	丸碗	登り 3 ～ 4　美濃	(11.2)	−	−						1271
1336	岩田西	26	田 22	土製品	土錘	−				4.6	(3.9)	−	−	鼓状太型	1531
1337	岩田西	26	田 22	土製品	土錘	−				5.5	1.9	−	−	紡錘状中型	1532
1338	岩田西	23	田 23	土師器	皿	C1 類	(8.6)	−	−						1070
1339	岩田西	23	田 23	土製品	土錘	−				5.2	1.1	−	−	ほぼ完形。細	1057
1340	岩田西	25	田 23	山茶碗（東濃型）	皿	大畑大洞	(8.5)	(1.3)	−						1472
1341	岩田西	25	田 23	山茶碗（東濃型）	皿	大畑大洞	(8.7)	(1.2)	5.1						1250
1342	岩田西	25	田 23	山茶碗（東濃型）	皿	大畑大洞	(8.7)	(1.1)	(5.0)					底部外面墨書、判読不能	1251
1343	岩田西	25	田 23	山茶碗（東濃型）	皿	大畑大洞	(7.2)	(1.4)	(4.0)						1252
1344	岩田西	25	田 23	山茶碗（尾張型）	大平鉢	11 型式	(27.5)	−	−						1192
1345	岩田西	25	田 23	須恵器（美濃須衛）	短頸壺	9c 初　Ⅴ -1	(6.0)	−	−						1212
1346	岩田西	25	田 23	石製品	扁平片刃石斧	−				4.7	3.6	1.3	37.0	基部・刃部一部欠損、全体研磨、石材緑色片岩	684
1347	岩田西	25	田 23	中国産磁器	口禿碗	Ⅸ類	−	−	−						1189
1348	岩田西	25	田 23	土師器	皿	C2 類	(6.7)	(1.4)	−						1483
1349	岩田西	25	田 23	土師器	皿	C1 類	−	−	−						1486
1350	岩田西	25	田 23	土師器	皿	B2-b 類	(9.2)	−	−					内外面タール付着	1484

第 34 表　遺物観察表（30）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1351	岩田西	25	田 23	土師器	皿	B2-b 類	(11.7)	−	−						1487
1352	岩田西	25	田 23	土師器	皿	B2 − a 類	−	−	−						1485
1353	岩田西	25	田 23	陶器（瀬戸美濃）	縁釉小皿	後Ⅲ	(10.8)	−	−						1225
1354	岩田西	25	田 23	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	後Ⅲ	−	−	3.6						1226
1355	岩田西	25	田 23	陶器（瀬戸美濃）	丸皿	大窯 2 前	(9.2)	−	−					内面菊花文	1232
1356	岩田西	25	田 23	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	登り 3 〜 4	−	−	−						1236
1357	岩田西	25	田 23	土製品	土鈴	室町〜戦国時代				−	−	−	−		1476
1358	岩田西	25	田 23	土製品	土鈴	室町〜戦国時代				−	−	−	−		1477
1359	岩田西	25	田 23	土製品	土錘	−				3.7	1.1	−	−	ほぼ完品。紡錘状細型	1507
1360	岩田西	25	田 23	土製品	土錘	−				4.5	1.1	−	−	柱状細型	1508
1361	岩田西	25	田 23	土製品	土錘	−				4.1	4.1	−	−	鼓状太型	1509
1362	岩田西	25	田 23	土製品	土錘	−				4.3	3.6	−	−	鼓状太型	1510
1363	岩田西	25	田 23	土製品	土錘	−				4.7	1.5	−	−	柱状中型	1511
1364	岩田西	25	田 23	木製品	火付け木	−				(6.1)	(1.6)	(0.8)	−	先端部炭化、木取り割材、樹種マツ族複維管束亜属	575
1365	岩田西	25	田 23	木製品	火付け木	−				(6.8)	(1.2)	(1.7)	−	先端部炭化、木取り割材、樹種マツ族複維管束亜属	582
1366	岩田西	25	田 24	土師器	皿	B2 − a 類	(13.6)	−	−					内面タール付着	1488
1367	岩田西	25	田 24	土製品	土鈴	室町〜戦国時代				−	−	−	−		1478
1368	岩田西	25	田 24	土製品	土錘	−				−	1.5	−	−	紡錘状中型	1512
1369	岩田西	25	田 24	陶器（瀬戸美濃）	内耳鍋	後Ⅳ古	−	−	−						1228
1370	岩田西	25	田 24	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	−	−	−						1229
1371	岩田西	25	田 24	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	大窯 1	−	−	−						1231
1372	岩田西	25	田 24	陶器（瀬戸美濃）	稜皿	大窯 2	(10.9)	−	−						1233
1373	岩田西	29・30	田 25	山茶碗（尾張型）	漆付き小碗	4 型式	(8.0)	(2.6)	(2.6)					内外面漆付着	1370
1374	岩田西	29・30	田 25	山茶碗（尾張型）	碗	6 型式	−	−	(6.4)						1377
1375	岩田西	29・30	田 25	山茶碗（美濃須衛型）	碗	5 型式	−	−	7.7						1385
1376	岩田西	29・30	田 25	土製品	土錘	−				−	(3.4)	−	−	鼓状太型。	1558
1377	岩田西	23	田 26	山茶碗（尾張型）	碗	6 型式	−	−	(8.5)					底部外面墨書、文字の一部「日」か	1104
1378	岩田西	29・30	田 26	山茶碗（尾張型）	碗	6 型式	−	−	−						1381
1379	岩田西	29・30	田 26	山茶碗（東濃型）	皿	白土原	(8.7)	(1.8)	(5.0)						1387
1380	岩田西	29・30	田 26	山茶碗（東濃型）	碗	白土原	(14.4)	−	−						1388
1381	岩田西	29・30	田 26	山茶碗（東濃型）	碗	白土原	−	−	5.6						1389
1382	岩田西	26	田 26	山茶碗（東濃型）	碗	明和	(15.0)	−	−						1274
1383	岩田西	29・30	田 26	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東	−	−	(3.2)						1390
1384	岩田西	29・30	田 26	山茶碗（東濃型）	碗	大洞東〜脇之島	(12.6)	−	−						1391
1385	岩田西	29・30	田 26	山茶碗（東濃型）	皿	脇之島	(8.0)	−	−						1392
1386	岩田西	29・30	田 26	土師器	皿	M1 〜 M2 類	(7.7)	−	−					内外面スス付着	1567
1387	岩田西	29・30	田 26	灰釉陶器	碗	10 世紀末（Ⅶ新）	−	−	(5.6)						1395
1388	岩田西	29・30	田 26	土製品	土錘	−				4.3	1.6	−	−	ほぼ完品。紡錘状中型	1549
1389	岩田西	29・30	田 26	土製品	土錘	−				4.2	2.1	−	−	ほぼ完品。穴細い。なつめ玉状中型	1550
1390	岩田西	29・30	田 26	土製品	土錘	−				3.9	1.5	−	−	ほぼ完品。なつめ玉状細形	1551
1391	岩田西	23	田 27	土師器	皿	B2 − a 類	(13.8)	−	−						1066
1392	岩田西	23	田 27	土師器	皿	B2-b 類	(11.6)	−	−						1067
1393	岩田西	23	田 27	土師器	皿	B2-b 類	(13.5)	−	−						1068
1394	岩田西	23	田 27	土師器	伊勢型鍋	12 世紀代	−	−	−						1101
1395	岩田西	23	田 27	土師器	羽釜	中世	−	−	−						1100

第 35 表　遺物観察表（31）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1396	岩田西	23	田 27	陶器（瀬戸美濃）	緑釉小皿	後Ⅳ古	(9.5)	－	－						1081
1397	岩田西	23	田 27	陶器（瀬戸美濃）	端反皿	大窯 1	(9.0)	(2.0)	(4.9)						1074
1398	岩田西	23	田 27	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅰ～大窯 1	－	－	－						1080
1399	岩田西	23	田 27	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	大窯 1	－	－	－						1078
1400	岩田西	23	田 27	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	大窯 3 後	－	－	－						1079
1401	岩田西	23	田 27	土製品	土鈴	－				－	－	－	－		1058
1402	岩田西	23	田 27	土製品	土鈴	－				－	－	－	－		1059
1403	岩田西	23	田 27	土製品	土錘	－				3.7	1.1	－	－	ほぼ完形。細型	1053
1404	岩田西	23	田 27	土製品	土錘	－				4.2	1.0	－	－		1054
1405	岩田西	23	田 27	土製品	土錘	－				－	1.7	－	－		1055
1406	岩田西	23	田 27	土製品	土錘	－				－	－	－	－		1056
1407	岩田西	23	田 28	山茶碗（東濃型）	碗	生田	(9.4)	－	－						1087
1408	岩田西	23	田 28	土師器	内耳鍋	室町～戦国時代	－	－	－					内耳部分	1095
1409	岩田西	23	田 28	土師器	内耳鍋	室町～戦国時代	－	－	－						1099
1410	岩田西	27	田 32	土師器	皿	M3 ～ M4 類	(10.7)	－	－						1469
1411	岩田西	27	田 32	土師器	皿	B2-b 類	(9.6)	－	－						1468
1412	岩田西	27	田 32	陶器（瀬戸美濃）	内耳鍋	後Ⅳ古	－	－	－						1294
1413	岩田西	28	田 32	中国産磁器	青磁碗	B-1	－	－	－					外面蓮弁文	1365
1414	岩田西	28	田 32	陶器（瀬戸美濃）	内耳鍋	後Ⅳ古	－	－	－						1339
1415	岩田西	16	Ⅲ a 層	銅製品	煙管吸口	戦国～近世				5.3				口付径 0.3cm、小口径 0.9cm	1710
1416	岩田西	17	Ⅲ a 層	銅製品	煙管雁首	戦国～近世				(4.2)				火皿径 1.4cm	1709
1417	岩田西	17	Ⅲ a 層	山茶碗（尾張型）	碗	5 型式	－	－	(6.9)						764
1418	岩田西	17	Ⅲ a 層	山茶碗（尾張型）	碗	6 型式	－	－	6.6					底部外面墨書、「以」もしくは「八木」（縦書）	766
1419	岩田西	17	Ⅲ a 層	山茶碗（尾張型）	大平鉢	6 型式	－	－	(10.4)					外面スス？付着	765
1420	岩田西	17	Ⅲ a 層	山茶碗（尾張型）	大平鉢	10 型式	－	－	－						779
1421	岩田西	17	Ⅲ a 層	山茶碗（東濃型）	碗	5 型式（丸石）	－	－	(6.6)						778
1422	岩田西	17	Ⅲ a 層	山茶碗（東濃型）	碗	明和	－	－	(4.5)					底部外面墨書、「五」	777
1423	岩田西	17	Ⅲ a 層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	(28.4)	－	－						772
1424	岩田西	17	Ⅲ a 層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	(28.2)	－	－						773
1425	岩田西	17	Ⅲ a 層	陶器（瀬戸美濃）	志野皿	大窯 4 後	－	－	10.0						770
1426	岩田西	17	Ⅲ a 層	陶器（近世瀬戸美濃）	蓋	登り 3 ～ 4　美濃	(10.6)	－	－						771
1427	岩田西	17	Ⅲ a 層	陶器（肥前）	蕎麦猪口	近世	－	－	－						763
1428	岩田西	17	Ⅲ a 層	土師器	皿	B2-a 類	(10.7)	(1.5)	－						774
1429	岩田西	17	Ⅲ a 層	土師器	皿	B2-b 類	(11.8)	(2.1)	－						775
1430	岩田西	17	Ⅲ a 層	土師器	皿	C 1 類	(7.8)	(1.6)	－						781
1431	岩田西	17	Ⅲ a 層	須恵器（美濃須衛）	壺	8c 初頭以降　Ⅳ-1 ～	－	－	－						776
1432	岩田西	17	Ⅲ a 層	須恵器（猿投）	杯蓋	7c 代	(14.6)	－	－						780
1433	岩田西	17	Ⅲ a 層	灰釉陶器	椀	10c 中前後（美濃Ⅶ中前後）	－	－	7.1						768
1434	岩田西	17	Ⅲ a 層	灰釉陶器	椀	10c 末～ 11c 前半（Ⅶ新～Ⅷ古）美濃	－	－	6.0					底部外面墨付着	767
1435	岩田西	17	Ⅲ a 層	土製品	土鈴	－				4.2	3.6	－	－		769
1436	岩田西	18	Ⅲ a 層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	大窯 4 後	－	－	－						1041
1437	岩田西	18	Ⅲ a 層	陶器（近世瀬戸美濃）	擂鉢	登り 2	－	－	－						1042
1438	岩田西	18	Ⅲ a 層	須恵器（美濃須衛）	高杯	7c 後葉　Ⅲ-3	－	－	－						1050
1439	岩田西	18	Ⅲ a 層	灰釉陶器	椀	9c 末～ 10c 前半（Ⅵ新～Ⅶ古）	－	－	(7.0)					底部外面墨付着、転用硯か	1032
1440	岩田西	18	Ⅲ a 層	土製品	土鈴	－				4.5	－	－	－		1035

第 36 表　遺物観察表（32）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1441	岩田西	18	Ⅲa層	土製品	土鈴	-				-	-	-	-		1036
1442	岩田西	18	Ⅲa層	土製品	土鈴	-				-	-	-	-		1037
1443	岩田西	18	Ⅲa層	石製品	砥石	-				10.1	4.0	1.8	-	使用面3面	1049
1444	岩田西	18	Ⅲa層	石製品	有舌尖頭器	縄文時代草創期				(4.7)	2.0	0.8	8.3	先端部欠損、有茎凸基、石材チャート	1438
1445	岩田西	18	Ⅲa層	木製品	火付け木	中世				(9.1)	(2.3)	(1.5)	-	先端部炭化、木取り割材、樹種マツ族複維管束亜属	573
1446	岩田西	19	Ⅲa層	陶器（近世瀬戸美濃）	丸皿	登り3～4　美濃	(15.3)	-	-						912
1447	岩田西	20	Ⅲa層	陶器（近世瀬戸美濃）	皿	登り3～4　美濃	(12.0)	-	-						950
1448	岩田西	20	Ⅲa層	陶器（近世瀬戸美濃）	反り皿	登り4	-	-	-						949
1449	岩田西	20	Ⅲa層	土製品	土鈴	-				-	-	-	-		952
1450	岩田西	20	Ⅲa層	土製品	土鈴	-				-	-	-	-		953
1451	岩田西	20	Ⅲa層	土製品	土鈴	-				-	-	-	-		954
1452	岩田西	20	Ⅲa層	土製品	土錘	-				4.1	1.8	-	-		958
1453	岩田西	22	Ⅲa層	土師器	羽釜	中世	-	-	-						1020
1454	岩田西	23	Ⅲa層	石製品	砥石	-				23.2	18.0	8.1	-	使用面2面	989
1455	岩田西	25	Ⅲa層	山茶碗（尾張型）	皿	5型式	7.2	2.4	3.8					ほぼ完形。	1162
1456	岩田西	25	Ⅲa層	山茶碗（尾張型）	皿	5型式	-	-	3.0						1163
1457	岩田西	25	Ⅲa層	山茶碗（尾張型）	碗	6型式	-	-	6.9					底部外面墨書「十」	1164
1458	岩田西	25	Ⅲa層	山茶碗（美濃須衛型もしくは東濃型）	碗	5型式	-	-	6.3						1188
1459	岩田西	25	Ⅲa層	山茶碗（東濃型）	碗	生田	(9.6)	(2.6)	(3.8)						1183
1460	岩田西	25	Ⅲa層	中国産磁器	白磁六角杯	B群15c前～中 古瀬戸併行	-	-	-						1181
1461	岩田西	25	Ⅲa層	陶器（瀬戸美濃）	内耳鍋	後Ⅳ古	-	-	-						1161
1462	岩田西	25	Ⅲa層	陶器（瀬戸美濃）	内禿皿	大窯3後	(10.6)	(2.9)	(6.0)						1182
1463	岩田西	25	Ⅲa層	土師器	皿	B2-b類	(11.6)	-	-						1184
1464	岩田西	25	Ⅲa層	須恵器（美濃須衛）	無台杯	7c後葉～8c初　Ⅲ-3～Ⅳ-1	-	-	4.2						1169
1465	岩田西	25	Ⅲa層	灰釉陶器	長頸瓶か	10c末前後（Ⅶ新前後）	-	-	(8.0)					底部刷毛目調整	1177
1466	岩田西	25	Ⅲa層	鉄製品	不明	-	-	-	-	(11.8)	(2.3)			刀子状	1715
1467	岩田西	25	Ⅲa層	石製品	砥石	-				(11.3)	(3.3)	(1.1)	-	使用面4面	1433
1468	岩田西	26	Ⅲa層	山茶碗（東濃型）	碗	脇之島	(11.6)	(3.5)	(3.6)					内面漆付着、底部外面墨書、判読不能	1286
1469	岩田西	26	Ⅲa層	陶器（瀬戸美濃）	内禿皿	大窯3後半	-	-	(6.0)						1267
1470	岩田西	26	Ⅲa層	陶器（近世瀬戸美濃）	蓋	登り3～4　美濃	(7.6)	-	-						1272
1471	岩田西	26	Ⅲa層	土師器	皿	B2-b類	(14.6)	-	-						1525
1472	岩田西	26	Ⅲa層	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c初　Ⅴ-1	-	-	(6.2)						1516
1473	岩田西	26	Ⅲa層	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c初　Ⅴ-1	-	-	(7.4)						1517
1474	岩田西	26	Ⅲa層	土製品	土錘	-				-	1.3	-	-		1535
1475	岩田西	26	Ⅲa層	木製品	火付け木	中世				(8.0)	(1.7)	(1.1)	-	先端部炭化、木取り割材、樹種マツ族複維管束亜属	577
1476	岩田西	26	Ⅲa層	木製品	火付け木	中世				(9.1)	(1.5)	(0.7)	-	先端部炭化、木取り割材、樹種マツ族複維管束亜属	576
1477	岩田西	27	Ⅲa層	山茶碗（尾張型）	碗	5型式	-	-	(8.2)						1311
1478	岩田西	27	Ⅲa層	山茶碗（東濃型）	皿	5形式（丸石）	8.2	2.1	4.4						1319
1479	岩田西	27	Ⅲa層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	大窯1	-	-	-						1298
1480	岩田西	27	Ⅲa層	陶器（瀬戸美濃）	稜皿	大窯3	-	-	-						1301
1481	岩田西	27	Ⅲa層	陶器（近世瀬戸美濃）	鉄絵皿	登り1　美濃	(10.8)	(2.8)	(5.8)						1303
1482	岩田西	27	Ⅲa層	土師器	皿	M3類	(7.4)	(1.3)	-						1466
1483	岩田西	27	Ⅲa層	土製品	土鈴	-				-	-	-	-		1462
1484	岩田西	28	Ⅲa層	山茶碗（尾張型）	碗	4型式	-	-	(8.2)						1349
1485	岩田西	28	Ⅲa層	山茶碗（尾張型）	碗	5型式	-	-	(6.0)						1350

第37表　遺物観察表（33）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1486	岩田西	28	Ⅲa層	山茶碗（尾張型）	碗	6型式	－	－	(7.0)						1352
1487	岩田西	28	Ⅲa層	山茶碗（尾張型）	碗	6型式	－	－	(6.8)						1353
1488	岩田西	28	Ⅲa層	山茶碗（尾張型）	片口鉢	6型式	－	－	－						1354
1489	岩田西	28	Ⅲa層	山茶碗（東濃型）	皿	白土原	(6.0)	(2.0)	(4.2)						1356
1490	岩田西	28	Ⅲa層	山茶碗（東濃型）	皿	明和	(8.0)	(1.7)	(4.0)						1358
1491	岩田西	28	Ⅲa層	山茶碗（東濃型）	皿	大畑大洞	8.5	1.5	5.7						1359
1492	岩田西	28	Ⅲa層	山茶碗（東濃型）	皿	大洞東～脇之島	7.9	1.2	4.4						1360
1493	岩田西	28	Ⅲa層	山茶碗（東濃型）	皿	大洞東～脇之島	(8.1)	(1.2)	(4.2)						1361
1494	岩田西	28	Ⅲa層	山茶碗（東濃型）	皿	生田	(10.5)	－	－						1363
1495	岩田西	28	Ⅲa層	山茶碗（美濃須衛型）	小碗	4型式	－	－	4.6						1355
1496	岩田西	28	Ⅲa層	中国産磁器	青磁碗	12～13c	－	－	－						1427
1497	岩田西	28	Ⅲa層	中国産磁器	染付碗	16C後　明代	(13.6)	－	－						1399
1498	岩田西	28	Ⅲa層	陶器（瀬戸美濃）	折縁中皿	後Ⅰ	－	－	－						1335
1499	岩田西	28	Ⅲa層	陶器（瀬戸美濃）	卸皿	後Ⅳ古	－	－	－						1338
1500	岩田西	28	Ⅲa層	陶器（瀬戸美濃）	縁釉小皿	後Ⅳ古	(11.9)	(2.3)	(6.0)						1337
1501	岩田西	28	Ⅲa層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	－	－	－						1341
1502	岩田西	28	Ⅲa層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	－	－	－						1343
1503	岩田西	28	Ⅲa層	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	大窯4後	(11.6)	－	－						1347
1504	岩田西	28	Ⅲa層	土師器	皿	M2～M3類	(7.8)	(1.4)	－						1420
1505	岩田西	28	Ⅲa層	土師器	皿	M2～M3類	(7.8)	(1.3)	－						1421
1506	岩田西	28	Ⅲa層	土師器	皿	B2-b類	(11.3)	(2.0)	－					外面スス付着	1423
1507	岩田西	28	Ⅲa層	土師器	皿	C1類	(10.5)	(1.7)	－						1422
1508	岩田西	28	Ⅲa層	土師器	皿	C2類	7.0	1.6	－					外面タール付着	589
1509	岩田西	28	Ⅲa層	土師器	伊勢型鍋	12c代	－	－	－						1426
1510	岩田西	28	Ⅲa層	須恵器（美濃須衛）	壺	9c初　Ⅴ-1	(8.9)	－	－						1634
1511	岩田西	28	Ⅲa層	須恵器（美濃須衛）	脚部	－	－	－	(12.0)						1425
1512	岩田西	28	Ⅲa層	土製品	土錘	－				3.7	1.6	－	－	完形、紡錘状小型	1657
1513	岩田西	28	Ⅲa層	土製品	土錘	－				4.8	1.3	－	－	一部欠。筒状中型	1658
1514	岩田西	28	Ⅲa層	土製品	土錘	－				4.5	1.3	－	－	完形、筒状中型	1659
1515	岩田西	28	Ⅲa層	土製品	土錘	－				4.1	1.6	－	－	完形、紡錘状小型	1660
1516	岩田西	28	Ⅲa層	銅製品	銅銭	中世				－	2.5	0.1		開元通宝、621年初鋳	588
1517	岩田西	29･30	Ⅲa層	木製品	火付け木	－				(5.5)	(1.3)	(1.1)	－	先端部炭化、木取り割材、樹種マツ族複維管束亜属	579
1518	岩田西	27	SD27	山茶碗（東濃型）	碗	明和～大畑大洞古	(14.4)	－	－						1325
1519	岩田西	27	SD27	山茶碗（東濃型）	皿	大畑大洞	(8.0)	(1.3)	(5.2)					底部外面墨書、判読不能	1326
1520	岩田西	27	SD27	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	大窯2	(31.4)	－	－						1299
1521	岩田西	27	SD27	陶器（近世瀬戸美濃）	端反り碗	登り10～11	(10.8)	－	－						1307
1522	岩田西	27	SD26～29	土製品	土錘	－				－	1.0	－	－	ほぼ完形、細型	1459
1523	岩田西	20	SD14	陶器（近世瀬戸美濃）	志野皿	登り1	(11.2)	(2.1)	(5.8)						948
1524	岩田西	22	SD12	回転台土師器	椀	10c末～11c前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	－	－	(7.0)						1413
1525	岩田西	22	SD12	瓦	平瓦	古代				－	－	1.7	－	凹面布目痕	1414
1526	岩田西	22	SD12	須恵器（美濃須衛）	壺	8c代	(8.7)	－	－						1412
1527	岩田西	22	SD12	土師器	皿	C2類	(7.8)	－	－						1411
1528	岩田西	22	SD12	山茶碗（尾張型）	碗	5型式	16.5	5.1	6.9					完形	586
1529	岩田西	16	Ⅱ層	山茶碗（尾張型）	碗	5型式	(13.7)	－	－						759
1530	岩田西	16	Ⅱ層	土製品	土錘	－				4.0	0.9	－	－	端部一部欠、長細型	754

第38表　遺物観察表（34）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1531	岩田西	16	Ⅱ層	土製品	土鈴	-				-	-	-	-		755
1532	岩田西	16	Ⅱ層	陶器（近世瀬戸美濃）	折縁鉄絵皿	登り1　美濃	(12.0)	-	-					二次被熱による変色か	758
1533	岩田西	16	Ⅱ層	陶器（近世瀬戸美濃）	天目茶碗	登り3～4	(11.6)	-	-						761
1534	岩田西	16	Ⅱ層	陶器（近世瀬戸美濃）	反り皿	登り3～4　美濃	-	-	5.5					内面トチン跡	762
1535	岩田西	16	Ⅱ層	陶器（瀬戸美濃）	端反丸皿	大窯1～2	-	-	(6.2)						760
1536	岩田西	17	Ⅱ層	陶器（肥前）	碗	近世	(11.5)	-	-						830
1537	岩田西	19	Ⅱ層	山茶碗（尾張型）	碗	5型式	-	-	(7.4)						925
1538	岩田西	19	Ⅱ層	須恵器（美濃須衛or西濃）	蓋	7c後葉　Ⅲ-3併行	-	-	-						923
1539	岩田西	19	Ⅱ層	中国産磁器	青磁端反碗	同安窯系Ⅳ-1類	-	-	-						922
1540	岩田西	19	Ⅱ層	土師器	皿	B2-b類	(11.6)	-	-					内外面タール付着	930
1541	岩田西	19	Ⅱ層	土師器	皿	C2類	(7.8)	-	-					内外面タール付着	931
1542	岩田西	19	Ⅱ層	土師器	皿	C2類	-	-	-					内外面タール付着	932
1543	岩田西	19	Ⅱ層	土製品	土鈴	-				-	-	-	-		929
1544	岩田西	19	Ⅱ層	陶器（近世瀬戸美濃）	天目茶碗	登り2	-	-	-						927
1545	岩田西	19	Ⅱ層	陶器（瀬戸美濃）	縁釉小皿	後Ⅳ古	(10.8)	-	-						924
1546	岩田西	19	Ⅱ層	陶器（瀬戸美濃）	丸皿	大窯2	(11.0)	-	-						928
1547	岩田西	19	Ⅱ層	陶磁器（伊万里）	碗	近世	-	-	-						926
1548	岩田西	20	Ⅱ層	土師器	皿	B2-b類	(9.8)	-	-						951
1549	岩田西	20	Ⅱ層	土師器	皿	B2-b類	(8.6)	-	-						959
1550	岩田西	20	Ⅱ層	陶器（近世瀬戸美濃）	天目茶碗	登り1	-	-	-						955
1551	岩田西	20	Ⅱ層	陶器（近世瀬戸美濃）	天目茶碗	登り5～6	-	-	-						956
1552	岩田西	20	Ⅱ層	陶器（近世瀬戸美濃）	丸碗	登り3～4　美濃	(11.4)	-	-						960
1553	岩田西	20	Ⅱ層	陶器（近世瀬戸美濃）	筒型碗	登り3～4　美濃	(10.0)	-	-						976
1554	岩田西	20	Ⅱ層	陶器（瀬戸美濃）	稜皿	大窯3	-	-	-						961
1555	岩田西	25	Ⅱ層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	登り				3.2	2.8	0.9	-	加工円盤	1238
1556	岩田西	25	Ⅱa～c層	山茶碗（東濃型）	碗	明和	-	-	4.5						1245
1557	岩田西	28	Ⅱ層	土師器	皿	C2類	7.0	-	-						1603
1558	岩田西	28	Ⅱ層	土製品	土錘	-				3.0	0.9	-	-		1417
1559	岩田西	28	Ⅱ層	土製品	土玉	-				1.5	1.4	1.3	-	ほぼ完品。土鈴の玉か	1418
1560	岩田西	28	Ⅱ層	土製品	土玉	-				1.2	1.3	1.0	-	ほぼ完品。土鈴の玉か	1419
1561	岩田西	28	Ⅱ層	陶器（瀬戸美濃）	稜皿	大窯3前半	-	-	-						1345
1562	岩田西	27	SD26	土製品	土錘	-				-	2.3	-	-		1460
1563	岩田西	27	SD26	山茶碗（尾張型）	碗	7型式　瀬戸	(14.2)	-	-						1316
1564	岩田西	27	SD26	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞新	-	-	(3.0)						1327
1565	岩田西	27	SD26	陶器（肥前）	碗	近世	-	-	4.0						1333
1566	岩田西	27	SD26	陶器（肥前）	碗	近世	-	-	3.0						1334
1567	岩田西	27	SD26	陶器（瀬戸美濃）	灯明皿	大窯1	(10.2)	-	-						1297
1568	岩田西	27	SD26	陶器（瀬戸美濃）	灯明皿	登り9　美濃	(8.0)	-	-						1306
1569	岩田西	27	SD26	陶器（瀬戸美濃）	端反り碗	登り10～11	(10.8)	-	-						1308
1570	岩田西	18	Ⅴ層	石製品	不明	-				11.8	6.6	2.1	305.0	使用痕無し	1434
1571	岩田西	20	Ⅴ層	須恵器（猿投）	杯	7c後半　TK209～TK217	(9.4)	-	-						947
1572	岩田西	20	Ⅴ層	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	-	-	-						946
1573	岩田西	22	Ⅴ層	弥生土器	高杯or壺	中期	-	-	-						1021
1574	岩田西	16	Ⅳ層	灰釉陶器	鉢	10c末前後（Ⅶ新前後）	-	-	8.6						714
1575	岩田西	16	Ⅳ層	灰釉陶器	椀	9c末～10c前半（Ⅵ新～Ⅶ古）	-	-	(7.5)						715

第39表　遺物観察表（35）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1576	岩田西	16	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ-1	-	-	6.9					底部内面穴補修痕漆か	744
1577	岩田西	16	Ⅳ層	土師器	甕	古代	(20.3)	-	-						723
1578	岩田西	16	Ⅳ層	弥生土器	壺	弥生時代中期中葉（貝田町式）	-	-	(6.0)						748
1579	岩田西	17	Ⅳ層	常滑	片口鉢	中世	(26.0)	-	-						811
1580	岩田西	18	Ⅳ層	灰釉陶器	椀	9c 末～10c 前半（Ⅵ新～Ⅶ古）	-	-	(7.0)					内面スス付着	1031
1581	岩田西	18	Ⅳ層	山茶碗（尾張型）	碗	5 型式	-	-	(6.0)						834
1582	岩田西	19	Ⅳ層	山茶碗（東濃型）	碗	5 型式（窯洞）	-	-	(6.0)						905
1583	岩田西	19	Ⅳ層	山茶碗（東濃型）	皿	大畑大洞新	(8.0)	(1.2)	(4.5)						906
1584	岩田西	19	Ⅳ層	山茶碗（尾張型）	碗	5 型式	-	-	(6.8)						909
1585	岩田西	20	Ⅳ層	山茶碗（尾張型）	碗	4 ～ 5 型式	-	-	(7.3)						957
1586	岩田西	23	Ⅳ層	灰釉陶器	椀	11c 初～前半（Ⅷ古～中）	-	-	4.6					外面スス付着	1153
1587	岩田西	23	Ⅳ層	山茶碗（美濃須衛型）	椀	5 型式	-	-	(8.3)						1088
1588	岩田西	23	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	椀	9c 初　Ⅴ-1	-	-	(6.0)						1089
1589	岩田西	25	Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	有台杯	9c 初　Ⅴ-1	7.9	-	-					底部外面ヘラ記号有	1194
1590	岩田西	28	Ⅳ層	土製品	土錘	-				3.6	0.9	-	-	完形、細型	1416
1591	岩田西	28	Ⅳ層	弥生土器	高杯	弥生時代末～古墳時代初頭	-	-	-						1626
1592	岩田西	28	Ⅳ～Ⅴ層	土師器	高杯	古墳時代初頭	-	-	-						1572
1593	岩田西	28	Ⅳ～Ⅴ層	土師器	台付甕	古墳時代初頭	-	-	(7.3)						1627
1594	岩田西	28	Ⅳ～Ⅴ層	土師器	把手	古墳時代～古代	-	-	-						1628
1595	岩田西	17	Ⅲｂ～ｃ層	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	-	-	4.0					底部外面墨書「大」	826
1596	岩田西	17	Ⅲｂ～ｃ層	須恵器（美濃須衛）	椀	9c 初　Ⅴ-1	-	-	(7.2)						824
1597	岩田西	17	Ⅲｂ～ｃ層	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	大窯 3	-	-	-						825
1598	岩田西	17	Ⅲｂ～ｃ層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢型小鉢	後Ⅲ　地元流通	-	-	-						827
1599	岩田西	18	Ⅲｂ～ｃ層	山茶碗（東濃型）	皿	白土原	(7.6)	(1.6)	(4.6)						839
1600	岩田西	18	Ⅲｂ～ｃ層	山茶碗（尾張型）	皿	6 型式	(7.9)	(1.6)	(4.5)					底面スス範囲	841
1601	岩田西	18	Ⅲｂ～ｃ層	常滑	擂鉢	中世	-	-	-						838
1602	岩田西	18	Ⅲｂ～ｃ層	石製品	石鏃	-				(2.7)	1.3	0.7	2.5	先端・基部欠損、石材下呂石	1435
1603	岩田西	18	Ⅲｂ～ｃ層	土師器	皿	B2-b 類	(7.6)	(1.5)	-						835
1604	岩田西	18	Ⅲｂ～ｃ層	土師器	皿	B2-b 類	(8.6)	(1.6)	-						1047
1605	岩田西	18	Ⅲｂ～ｃ層	土製品	土錘	-				4.4	1.7	-	-		840
1606	岩田西	18	Ⅲｂ～ｃ層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	-	-	-						836
1607	岩田西	18	Ⅲｂ～ｃ層	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	後Ⅳ新	(12.0)	-	-						837
1608	岩田西	18	Ⅲｂ～ｃ層	陶器（瀬戸美濃）	卸皿（口は縁釉小皿）	後Ⅱ～Ⅲ	(10.3)	(2.2)	(5.0)					内面卸目	1033
1609	岩田西	27	Ⅲｂ～ｃ層	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系Ⅰ類	-	-	-						1398
1610	岩田西	27	Ⅲｂ～ｃ層	土製品	土錘	-				4.6	1.9	-	-		1461
1611	岩田西	27	Ⅲｂ～ｃ層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	大窯 1	-	-	-						1296
1612	岩田西	18	Ⅲａ～ｃ層ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ	灰釉陶器	碗	11c 後半（Ⅷ新）尾張	-	-	(7.7)						843
1613	岩田西	18	Ⅲａ～ｃ層ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ	陶器（近世瀬戸美濃）	志野皿	登り 1	(10.3)	(1.9)	(5.6)						842
1614	岩田西	18	Ⅲａ～ｃ層ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ	陶器（瀬戸美濃）	端反りｏｒ丸皿	大窯 1 ～ 2	5.0	-	-						1045
1615	岩田西	26	Ⅲａ～ｃ層	山茶碗（東濃型）	碗	大畑大洞	(13.4)	(5.5)	(4.4)					底部外面墨書「小」	1278
1616	岩田西	26	Ⅲａ～ｃ層	土師器	皿	M2 ～ M3 類	(11.6)	(1.9)	-					内面タール付着	1521
1617	岩田西	18	Ⅲａ～ｂ層	山茶碗（東濃型）	碗	生田	(9.8)	(1.9)	(3.4)						1046
1618	岩田西	18	Ⅲａ～ｂ層	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系Ⅰ-5 類	-	-	-					表面連弁文	1038
1619	岩田西	18	Ⅲａ～ｂ層	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系 15 ～ 16C、上田 B-Ⅳ群	(11.1)	-	-					表面連弁文	1039
1620	岩田西	18	Ⅲａ～ｂ層	中国産磁器	白磁碗	5 類	-	-	-						1040

第 40 表　遺物観察表（36）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1621	岩田西	18	Ⅲａ～ｂ層	土師器	皿	B1	－	－	－						845
1622	岩田西	18	Ⅲａ～ｂ層	土師器	皿	B2-b 類	(10.6)	－	－						846
1623	岩田西	18	Ⅲａ～ｂ層	土師器	皿	B2-b 類	(9.8)	(1.8)	－						1048
1624	岩田西	18	Ⅲａ～ｂ層	土製品	土錘	－				－	1.5	－	－		1034
1625	岩田西	18	Ⅲａ～ｂ層	陶器（瀬戸美濃）	端反皿	大窯 1	－	－	－						844
1626	岩田西	28	Ⅲａ～Ⅳ層ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ	灰釉陶器	椀	10c 末～ 11c 前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	－	－	7.1						1597
1627	岩田西	28	Ⅲａ～Ⅳ層ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ	灰釉陶器	椀	10c 末～ 11c 前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	－	－	(7.5)						1598
1628	岩田西	28	Ⅲａ～Ⅳ層ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	後Ⅳ新	－	－	－						1340
1629	岩田西	28	Ⅲａ～Ⅳ層ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	－	－	－						1342
1630	岩田西	20	Ⅲ～Ⅴ層	土師器	皿	M3 類	(10.7)	－	－					口縁端部タール付着	968
1631	岩田西	16	Ⅲ～Ⅳ層	山茶碗（東濃型）	碗	5 型式	(14.4)	－	－						721
1632	岩田西	16	Ⅲ～Ⅳ層	山茶碗（東濃型）	皿	5 型式（窯洞）	(7.9)	(2.0)	(4.6)						724
1633	岩田西	16	Ⅲ～Ⅳ層	山茶碗（東濃型）	碗	明和～大畑大洞	(14.0)	－	－						733
1634	岩田西	16	Ⅲ～Ⅳ層	山茶碗（尾張型）	碗	5 型式	(14.7)	－	－						734
1635	岩田西	16	Ⅲ～Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	杯	8c 後半 Ⅳ-3	－	－	－						750
1636	岩田西	16	Ⅲ～Ⅳ層	陶器（近世瀬戸美濃）	反り皿	登り 3～4 美濃	－	－	－						720
1637	岩田西	17	Ⅲ～Ⅳ層	山茶碗（尾張型）	皿	6 型式	(7.7)	(1.8)	(4.1)					底部外面墨書「十」	813
1638	岩田西	17	Ⅲ～Ⅳ層	山茶碗（尾張型）	碗	6 型式	(12.6)	(4.8)	(4.4)					内面墨付着、片口有	814
1639	岩田西	17	Ⅲ～Ⅳ層	須恵器（美濃須衛）	甕	7c 後葉 Ⅲ-3	－	－	－						812
1640	岩田西	19	Ⅲ～Ⅳ層	灰釉陶器	椀	10c 末前後（Ⅶ新前後）美濃	－	－	(7.0)						908
1641	岩田西	19	Ⅲ～Ⅳ層	山茶碗（東濃型）	碗	明和	－	－	(6.0)					外面タール、内面漆付着	907
1642	岩田西	16	Ⅱ～Ⅲ層	山茶碗（東濃型）	碗	5 型式（窯洞）	－	－	(6.6)						756
1643	岩田西	16	Ⅱ～Ⅲ層	中国産磁器	青磁碗	龍泉窯系 15～16C、上田 B-Ⅳ群	－	－	－					外面蓮弁文	736
1644	岩田西	16	Ⅱ～Ⅲ層	土師器	伊勢型鍋	12c	－	－	－						740
1645	岩田西	16	Ⅱ～Ⅲ層	土製品	土錘	－				－	1.1	－	－		753
1646	岩田西	16	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（近世瀬戸美濃）	小杯	登り 3～4 美濃	(5.5)	－	－						751
1647	岩田西	16	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（近世瀬戸美濃）	菊皿	登り 4 美濃	(12.6)	－	－						737
1648	岩田西	16	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（近世瀬戸美濃）	菊皿	登り 4	－	－	6.9						757
1649	岩田西	17	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（常滑）	広口壺	13 世紀後半	(18.6)	－	－						828
1650	岩田西	17	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（近世瀬戸美濃）	丸碗	登り 3～4 美濃	－	－	(4.4)						829
1651	岩田西	19	Ⅱ～Ⅲ層	山茶碗（東濃型）	皿	明和	(8.0)	(1.7)	(4.8)						916
1652	岩田西	19	Ⅱ～Ⅲ層	山茶碗（尾張型）	碗	5 型式	－	－	(8.0)						913
1653	岩田西	19	Ⅱ～Ⅲ層	土師器	皿	B2-b 類	－	－	－						915
1654	岩田西	19	Ⅱ～Ⅲ層	土師器	皿	C2 類	(7.8)	－	－						917
1655	岩田西	19	Ⅱ～Ⅲ層	土製品	土錘	－				－	2.0	－	－		914
1656	岩田西	19	Ⅱ～Ⅲ層	土製品	土錘	－				－	1.6	－	－		921
1657	岩田西	19	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（近世瀬戸美濃）	尾呂茶碗	登り 5～6 美濃	－	－	－						920
1658	岩田西	19	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	折縁深皿	後Ⅱ	－	－	－						918
1659	岩田西	19	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	縁釉小皿	後Ⅳ古	(9.0)	－	－						919
1660	岩田西	21	Ⅱ～Ⅲ層	山茶碗（東濃型）	碗	明和	－	－	(5.2)						986
1661	岩田西	21	Ⅱ～Ⅲ層	山茶碗（東濃型）	皿	生田	(8.5)	(1.1)	(5.4)						987
1662	岩田西	21	Ⅱ～Ⅲ層	山茶碗（尾張型）	碗	6 型式	(16.0)	－	－						985
1663	岩田西	21	Ⅱ～Ⅲ層	中国産磁器	青磁碗	14～16C、上田 C 群	－	－	－					外面巻線文	984
1664	岩田西	21	Ⅱ～Ⅲ層	土師器	皿	B2-b 類	(8.6)	－	－					外面タール付着	988
1665	岩田西	22	Ⅱ～Ⅲ層	土師器	皿	B2-b 類	(9.5)	－	－						1023

第 41 表　遺物観察表（37）

掲載No.	遺跡名	調査区名	報告遺構名・層位名	種類	器種	時期区分	口径	器高	底径・高台径	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
1666	岩田西	25	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	丸皿	登り３～４　美濃	(13.0)	(2.5)	(7.4)						1235
1667	岩田西	26	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	丸皿	登り１　美濃	(8.4)	(2.2)	(4.5)						1268
1668	岩田西	28	Ⅱ～Ⅲ層	灰釉陶器	椀	10c 末～ 11c 前半（Ⅶ新～Ⅷ古）	－	－	6.6						1596
1669	岩田西	28	Ⅱ～Ⅲ層	山茶碗（東濃型）	碗	脇之島	－	－	(4.7)						1362
1670	岩田西	28	Ⅱ～Ⅲ層	土師器	皿	M 類	(6.8)	－	－					コースター状	1605
1671	岩田西	28	Ⅱ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	丸碗	登り３～４　美濃	(11.8)	－	－						1348
1672	岩田西	26	Ⅱ～Ⅲ c 層	陶器（瀬戸美濃）	卸し目大皿	後Ⅳ新	－	－	－						1263
1673	岩田西	23	Ⅱ～Ⅲ a 層	陶器（近世瀬戸美濃）	練り鉢か片口	登り８　美濃	(25.2)	－	－						1072
1674	岩田西	23	Ⅱ～Ⅲ a 層	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	後Ⅳ新	－	－	－						1082
1675	岩田西	25	Ⅱ～Ⅲ a 層	陶器（瀬戸美濃）	尾呂茶碗	登り５～６　美濃	(13.3)	－	－						1237
1676	岩田西	25	Ⅰ層	土師器	皿	B2-b 類	(12.8)	－	－						1490
1677	岩田西	17	Ⅰ～Ⅲ層	石製品	砥石	－				(7.8)	(6.1)	(2.7)	－	使用面２面	833
1678	岩田西	17	Ⅰ～Ⅲ層	土師器	皿	B1	(9.2)	－	－						831
1679	岩田西	17	Ⅰ～Ⅲ層	土師器	皿	B2-b 類	(10.8)	－	－					内外面タール付着	832
1680	岩田西	18	Ⅰ～Ⅲ層	陶器（近世瀬戸美濃）	湯のみ	登り８　瀬戸	－	－	－						1044
1681	岩田西	18	Ⅰ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	－	－	－						1043
1682	岩田西	22	Ⅰ～Ⅲ層	須恵器（美濃須衛）	蓋	7c 後葉　Ⅲ-3	(18.6)	－	－						1027
1683	岩田西	22	Ⅰ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	後Ⅳ新	－	－	－						1012
1684	岩田西	23	Ⅰ～Ⅲ層	瓦	平瓦	近世				－	－	1.8	－	近世瓦か	1085
1685	岩田西	23	Ⅰ～Ⅲ層	陶器（近世瀬戸美濃）	皿	登り８～９　美濃	－	－	4.2						1075
1686	岩田西	23	Ⅰ～Ⅲ層	陶器（近世瀬戸美濃）	擂鉢	登り２	－	－	－						1083
1687	岩田西	23	Ⅰ～Ⅲ層	陶器（近世瀬戸美濃）	丸碗	登り４～５　美濃	－	－	－						1084
1688	岩田西	27	Ⅰ～Ⅲ層	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	登り１　瀬戸美濃	(31.0)	－	－						1304
1689	岩田西	26	Ⅰ～Ⅱ層	陶器（瀬戸美濃）	端反碗	登り３～４　美濃	(10.6)	－	－						1270
1690	岩田西	25	撹乱内	陶器（瀬戸美濃）	天目茶碗	登り１～２　美濃	－	－	(4.8)					加工円盤	1234
1691	岩田西	23	撹乱２内	土師器	焙烙	近世	－	－	－						1098
1692	岩田西	23	排土中	土製品	土錘	－				－	1.2	－	－		1061
1693	岩田西	25	排土中	灰釉陶器	椀	9c 末～ 10c 前半（Ⅵ新～Ⅶ古）	(17.7)	(5.8)	(7.5)						1190
1694	岩田西	26	排土中	石製品	磨製石鏃	弥生時代				2.8	1.5	0.3	1.3	有茎凹基、全体研磨、石材粘板岩か	281
1695	岩田西	26	排土中	陶器（瀬戸美濃）	瀬戸皿	登り１～４	－	－	－						1269
1696	岩田西	26	表採	山茶碗（尾張型）	碗	6 型式	－	－	(8.0)						1273
1697	岩田西	26	表採	土師器	皿	B2-b 類	(9.2)	－	－						1526
1698	岩田西	26	表採	陶器（瀬戸美濃）	卸皿	後Ⅱ～Ⅲ	(11.0)	－	－					内面卸目	1257
1699	岩田西	26	表採	陶器（瀬戸美濃）	擂鉢	大窯１	－	－	－						1265

第 42 表　遺物観察表（38）

岩田東Ａ遺跡

ＳＺ　　方形周溝墓

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
SZ1	8	SZ701・SD703	弥生時代後期末	方形	（最大 7.8、墳丘相当部 5.6、周溝幅 0.7 ～ 1.2、周溝深 0.9）	周溝内土器棺墓有	18・19
SZ2	8	SZ702・SD706	弥生時代後期前半	方形	（最大 12.2、墳丘相当部 9.0、周溝幅 1.1 ～ 2.0、周溝深 0.3 ～ 0.75）		15
SZ3	7・8	SZ703・SD707	弥生時代後期末	方形	（最大 10.8、墳丘相当部 7.0、周溝幅 0.55 ～ 1.0、周溝深 0.35 ～ 0.75）	南東側に陸橋部 1 ヶ所	16
SZ4	8	SZ704・SD705	弥生時代後期前半	（方形）	（周溝幅 1.0、周溝深 0.45）	墳丘部調査区外	14
SZ5	6・7・14	SZ705・SD607・SD708・SD1404	弥生時代後期最終末～古墳時代初頭	前方後方型	（最大長 28.0、墳丘相当部長 22.0、後方部最大幅 19.0、後方部墳丘相当部幅 12.0、後方部周溝幅 2.8 ～ 4.3、後方部周溝深 1.0、前方部周溝幅 1.1 ～ 1.5、前方部周溝深 0.3）	周溝内二重口縁壺出土	22 ～ 25
SZ6	15	SZ1401	弥生時代中期後葉	方形	（最大 9.8、墳丘相当部 8.0、周溝幅 0.5 ～ 1.2、周溝深 0.5）	北東部に陸橋部 1 ヶ所	11
SZ7	14	SZ1402	弥生時代後期末	方形	（最大 8.0、墳丘相当部 6.6、周溝幅 0.8 ～ 1.6、周溝深 0.55）	北西部に陸橋部 1 ヶ所	20・21

ＳＢ　　竪穴住居跡

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
SB1	3	SB301	弥生後期初頭～前半	長方形	（長軸 4.5、短軸 4.5、深 0.35）	炉跡有	12
SB2	3	SX301	弥生中期中葉	楕円形 or 長方形	（長軸 4.3、短軸 3.6、深 0.1）		6
SB3	4	SX406	弥生中期中葉	不明	（長軸 3.7、短軸 3.2、深 0.05）	炉跡有	7
SB4	6	SB601	古墳時代後期	方形	（長軸 5.4、短軸 4.0、深 0.3）	北北西方向	27
SB5	6	SB602	弥生後期前半	長方形	（長軸 4.5、短軸 3.9、深 0.25）	土器集中有	13
SB6	8	SB701	古墳時代後期後半	方形	（長軸 3.2、短軸 3.0、深 0.2）	カマド北西方向	28
SB7	8	SB702	平安時代	長方形	（長軸 2.4、短軸 2.3、深 0.15）	カマド東方向、長軸 1.0、短軸 0.8、深 0.3	32
SB8	8	SB703	平安時代	不明	（長軸 2.4、短軸 1.6、深 0.3）	カマド東方向、開口部幅 0.6、深 0.3、カマド袖川原石・土器利用	31
SB9	8	SB704	弥生中期～後期	不明	（長軸 3.2、短軸 1.5、深 0.35）	SZ3 に切られる	8
SB10	11	SB1101	弥生中期中葉	（長方形 or 楕円形）	（長軸 6.0、短軸 2.4、深 0.18）	炉跡有	9
SB11	15	SB1401	古代以前	不明	（長軸 3.4、短軸 0.6、深 0.25）	形状不明	別 5

ＳＤ　　溝

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
SD1	1	SD101	近世	-	（長 9.0、幅 0.8、深 0.08）	南北方向、字絵図に一致	別 1
SD2	1	SD102	15c 後半～16c 前半	-	（長 9.0、幅 3.2、深 0.2）	南北方向、断面皿状、字絵図に一致、SD3・SD04 を切る	35
SD3	1	SD103	15c 後半	-	（長 8.8、幅 1.1、深 0.4）	南北方向、断面逆台形、字絵図に一致	35
SD4	1	SD104	15c 後半	-	（長 8.8、幅 1.1、深 0.3）	南北方向、断面逆台形、字絵図に一致	35
SD7	3	SD302	古代以前	-	（長 2.4、幅 0.2、深 0.06）	SK69 に切られる	別 1
SD11	4・5	SD401	近世	-	（長 9.0、幅 1.3 ～ 1.4、深 0.1 ～ 0.35）	南北方向、断面U字状、SB3・SX20 を切る	別 1
SD12	4・5	SD402	室町時代以降	-	（長 9.0、幅 1.1 ～ 1.3、深 0.1 ～ 0.35）	南北方向、断面皿状	別 1
SD13	4・5	SD403	古代以降	-	（長 9.4、幅 0.8、深 0.4）	南北方向、断面皿状	別 1
SD14	4・5	SD404	平安時代	-	（長 9.8、幅 1.3、深 0.3）	南北方向、断面皿状	別 1
SD15	4・5	SD405	平安時代	-	（長 9.8、幅 1.25、深 0.5）	南北方向、断面皿状	別 1
SD16	4・5	SD406	平安時代	-	（長 5.0、幅 1.8、深 0.5）	西～北西方向蛇行、断面浅い皿状	別 1
SD17	4・5	SD407	鎌倉時代後半～室町時代初頭	-	（長 3.0、幅 1.25、深 0.4）	東西方向、断面皿状	別 1
SD18	4・5	SD408	不明	-	（長 1.6、幅 0.5、深 0.12）	南北方向	別 1
SD19	4・5	SD409	不明	-	（長 3.1、幅 0.25、深 0.05）	L 字状	別 1
SD20	4・5	SD410	不明	-	（長 0.6、幅 0.25、深 0.05）	北北東方向	別 1
SD21	6	SD601	室町時代前半～戦国時代	-	（長 15.0、幅 1.6 ～ 2.2、深 0.45）	東西方向、断面薬研状、SD23・28 を切る	別 2
SD22	6	SD602	室町時代前半～戦国時代	-	（長 18.5、幅 1.4 ～ 1.9、深 0.5）	東西方向、断面薬研状、SD24・28 を切る	別 2
SD23	6	SD603	鎌倉時代末～戦国時代	-	（長 18.5、幅 0.6 ～ 1.0、深 0.45）	東西方向、断面皿状、SD21 に切られ、SD28 を切る	別 2
SD24	6	SD604	鎌倉時代末～室町時代前半	-	（長 18.0、幅 0.75 ～ 0.9、深 0.5）	東西方向、断面U字状、SD22 に切られ、SD25・28 を切る	別 2
SD25	6	SD605	鎌倉時代末～室町時代初頭	-	（長 15.0、幅 1.0 ～ 1.4、深 0.4）	東西方向、断面皿状、SD24 に切られ、SD28 を切る	39
SD26	6	SD606	鎌倉時代後半～室町時代初頭	-	（長 13.0、幅 0.6 ～ 1.0、深 0.4）	東西方向、断面皿状、SD23 に切られ、SD28 を切る	別 2
SD28	6	SD608	平安時代	-	（長 17.5、幅 1.5 ～ 3.8、深 0.3）	東西方向、断面逆台形、灰釉一括出土	29
SD29	6	SD609	古墳時代後期以前	-	（長 10.0、幅 0.5 ～ 1.5、深 0.2）	SB4 に切られる	別 2
SD30	6	SD610	鎌倉時代前半	-	（深 0.5）	断面のみ、SD24・24 に切られる、SD28 を切る	別 6
SD31	6	SD611	古墳時代後期	-	（長 2.6、幅 0.8 ～ 1.0、深 0.2）	北北東方向、断面浅い皿状	別 2
SD41	8	SD701	近世	-	（長 4.5、幅 0.4、深 0.1）	南北方向	別 3
SD42	8	SD702	中世～近世	-	（長 4.0、幅 2.5、深 0.2）	南北方向	別 3
SD44	8	SD704	室町時代前半	-	（長 9.0、幅 0.25 ～ 0.45、深 0.1）	南北方向、断面形状不明	別 3
SD51	10	SD901	不明	-	（長 2.25、幅 0.5、深 0.1）	北東方向、P1t358・366 に切られる	別 4
SD56	11	SD1101	室町時代初頭以降	-	（長 9.0、幅 0.4 ～ 0.8、深 0.15）	北北東方向、SK246 ～ 248 を切る	別 4
SD57	11	SD1102	室町時代初頭以降	-	（長 10.0、幅 0.4 ～ 1.2、深 0.15）	北北東方向、SK246 ～ 248 を切る	別 4
SD58	11	SD1103	室町時代初頭	-	（東西長 11.0、南北長 4.5、幅 0.6 ～ 0.8、深 0.15）	SK246 ～ 251 に切られる	別 4
SD59	11	SD1104	室町時代初頭か	-	（長 12.0、幅 0.5、深 0.1）	SK246 ～ 251 に切られる	別 4
SD60	11	SD1105	鎌倉時代前半～後半	-	（東西長 10.5、南北長 4.0、幅 1.5 ～ 1.7、深 0.45）	西側で屈折する溝、SD58 に切られる	別 4

第 43 表　遺構一覧表（1）

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
SD61	11	SD1106	鎌倉時代前半～後半	-	（長 12.0、幅 0.5、深 0.1）	SD59 に切られる	別 4
SD62	12	SD1107	近世以降	-	（長 5.4、幅 0.6 ～ 1.9、深 0.6）	北東方向	別 4
SD63	12	SD1108	中世以降	-	（長 5.5、幅 1.8 ～ 3.5、深 0.3）	北東方向、SD66 を切る	別 4
SD64	12	SD1109	中世以降	-	（長 5.8、幅 1.25 ～ 2.1、深 0.25）	北北東方向、SD60 を切る	別 4
SD66	12	SD1111	古代以降	-	（長 7.5、幅 2.0、深 0.12）	東西方向、SD63 に切られる	別 4
SD67	12	SD1112	平安時代	-	（長 6.0、幅 1.85、深 0.5）	北方向、SD60 に切られる、SK253 を切る	別 4
SD71	13 東	SD1301	近世以降	-	（長 5.0、幅 1.25、深 0.25）	南北方向	別 5
SD72	13 東	SD1302	中世以降	-	（長 2.5、幅 0.8、深 0.25）	南北方向	別 5
SD73	13 東	SD1303	中世以降	-	（長 5.0、幅 0.6、深 0.25）	南北方向	別 5
SD74	13 東・西	SD1304	鎌倉時代後半～室町時代前半	-	（長 5.0、幅 8.0、深 0.8）	南北方向	別 5
SD75	13 西	SD1305	平安時代	-	（長 6.6、幅 0.85、深 0.2）	東西方向、SD76 と平行	別 5
SD76	13 西	SD1306	平安時代	-	（長 6.6、幅 1.1、深 0.4）	東西方向、SD75 と平行	別 5
SD77	13 西	SD1307	不明	-	（長 1.9、幅 0.4 ～ 0.5、深 0.1）	南北方向	別 5
SD101	15	SD1401	室町時代前半	-	（長 1.8、幅 1.2、深 0.45）	東北東方向、SK291 に切られ、SD103 を切る	別 5
SD103	15	SD1403	中世以降	-	（長 1.5、幅 1.1、深 0.4）	南北方向、SD101 に切られる	別 5

ＳＫ　　土坑

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
SK1	1	SK101	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.1、短軸 0.7、深 0.3		別 1
SK2	1	SK102	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.0、短軸 0.55、深 0.3		別 1
SK3	1	SK103	中世以降	楕円形	長軸 1.2、短軸 0.7、深 0.3		別 1
SK4	1	SK104	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.05、短軸 0.9、深 0.15		別 1
SK5	1	SK105	中世以降	不明	（長軸 1.0、短軸 0.2、深 0.15）		別 1
SK6	1	SK106	中世以降	不明	（長軸 0.8、短軸 0.45、深 0.1）		別 1
SK7	1	SK107	15c 後半～ 16c	（長方形）	（長軸 1.2、短軸 0.55、深 0.12）	SD2 に切られる	35
SK8	1	SK108	古代以前	不整楕円形	長軸 0.8、短軸 0.35、深 0.2		別 1
SK9	1	SK109	古代以前	楕円形	長軸 1.05、短軸 0.8、深 0.12		別 1
SK10	1	SK123	中世以降	楕円形	長軸 0.85、短軸 0.6、深 0.1		別 1
SK11	1	SK111	中世以前	楕円形	長軸 0.8、短軸 0.5、深 0.25		別 1
SK12	1	SK112	古代以前	不整形	（長軸 0.55、短軸 0.5、深 0.15）		別 1
SK13	1	SK113	古代以前	不明	（長軸 0.45、短軸 0.2、深 0.06）		別 1
SK14	1	SK114	古代以前	不整楕円形	長軸 0.85、短軸 0.6、深 0.12		別 1
SK15	1	SK115	古代以前	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.2		別 1
SK16	1	SK116	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.1、短軸 0.8、深 0.15		別 1
SK17	1	SK117	古代以前	不明	（長軸 0.85、短軸 0.6、深 0.25）		別 1
SK18	1	SK118	古代以前	不明	（長軸 0.55、短軸 0.5、深 0.35）		別 1
SK19	1	SK119	古代以前	楕円形	長軸 0.65、短軸 0.5、深 0.2		別 1
SK20	1	SK120	古代以前	不整楕円形	長軸 1.3、短軸 0.65、深 0.1		別 1
SK21	1	SK121	古代以前	不整楕円形	（長軸 0.8、短軸 0.45、深 0.2）		別 1
SK22	1	SK122	古代以前	不明	（長軸 1.2、短軸 0.5、深 0.3）		別 1
SK23	2	SK323	中世以降	不整楕円形	長軸 0.7、短軸 0.55、深 0.2		別 1
SK24	2	SK324	中世以降	隅丸長方形	長軸 2.0、短軸 0.8、深 0.5	東方向、SK33 を切る	36
SK25	2	SK325	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.8、短軸 0.7、深 0.35	北方向、SK26・30 を切る	36
SK26	2	SK326	中世以降	（隅丸長方形）	（長軸 0.8、短軸 0.7、深 0.3）	東方向、SK25 に切られる	36
SK27	2	SK327	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.0、短軸 0.5、深 0.25	東南東方向	別 1
SK28	2	SK328	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.7、短軸 0.75、深 0.35	東南東方向	別 1
SK29	2	SK329	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.35、短軸 0.5、深 0.15	東南東方向	別 1
SK30	2	SK330	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.1、短軸 0.7、深 0.25	北方向、SK25 に切られる	36
SK31	2	SK331	中世以降	不整長方形	長軸 1.1、短軸 0.6、深 0.25	東南東方向	別 1
SK32	2	SK332	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.1、短軸 0.45、深 0.35	東南東方向	別 1
SK33	2	SK333	中世以降	（楕円形に近い長方形）	（長軸 1.8、短軸 0.9、深 0.3）	東方向、SK24 に切られる	36
SK34	2	SK334	中世以前	楕円形	長軸 0.6、短軸 0.5、深 0.1		別 1
SK35	2	SK335	中世以降	不整長方形	長軸 1.25、短軸 0.7、深 0.12	北北東方向	別 1
SK36	2	SK336	中世以降	隅丸長方形	長軸 0.7、短軸 0.55、深 0.2	北方向	別 1
SK37	2	SK337	中世以前	楕円形	長軸 0.75、短軸 0.6、深 0.2		別 1
SK38	2	SK338	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.4、短軸 0.6、深 0.1		別 1
SK39	2	SK339	古代以前	不整楕円形	長軸 1.2、短軸 0.6、深 0.1		別 1
SK40	2	SK340	古代以前	楕円形	長軸 0.6、短軸 0.55、深 0.1		別 1
SK41	2	SK341	古代以前	不整形	長軸 1.2、短軸 0.7、深 0.18	炭・焼土確認	別 1
SK42	2	SK342	古代以前	楕円形	長軸 0.95、短軸 0.85、深 0.3	貯蔵穴 or 落とし穴	別 1
SK43	2	SK343	古代以前	楕円形	長軸 0.6、短軸 0.5、深 0.25		別 1
SK51	3	SK301	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.7、短軸 0.7、深 0.5	東方向、SK52 を切る	別 1
SK52	3	SK302	中世以降	（隅丸長方形）	（長軸 1.0、短軸 0.4、深 0.2）	東方向、SK51 に切られる	別 1
SK53	3	SK303	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.1、短軸 0.5、深 0.2	東方向、SB1 を切る	別 1
SK54	3	SK304	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.0、短軸 0.6、深 0.35	東方向、SB1 を切る	別 1
SK55	3	SK305	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.3、短軸 0.7、深 0.2	東方向	別 1
SK56	3	SK306	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.45、短軸 0.55、深 0.2	東方向	別 1
SK57	3	SK307	中世以降	円形	直径 0.4、深 0.2		別 1
SK58	3	SK308	中世以降	楕円形	長軸 0.75、短軸、深 0.15		別 1
SK59	3	SK309	中世以降	方形	一辺 0.5、深 0.2		別 1
SK60	3	SK310	中世以降	（不整形）	（長軸 1.05、短軸、深 0.15）		別 1
SK61	3	SK311	中世以降	（長方形）	（長軸 0.65、短軸、深 0.15）	東西方向	別 1
SK62	3	SK312	中世以降	不整形	長軸、短軸 0.4、深 0.1		別 1
SK63	3	SK313	弥生時代中期中葉～後葉	円形	直径 0.5、深 0.15		別 1
SK64	3	SK314	古代以前	不整形	（長軸 0.75、短軸 0.5、深 0.25）		6
SK65	3	SK315	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.15、短軸 0.7、深 0.05	東方向、SB1 を切る	別 1
SK66	3	SK316	古代以前	不整楕円形	長軸 0.8、短軸 0.7、深 0.1		別 1
SK67	3	SK317	古代以前	不整楕円形	長軸 0.75、短軸 0.55、深 0.18		別 1
SK68	3	SK318	古代以前	不整形	長軸 0.75、短軸 0.45、深 0.35		別 1
SK69	3	SK319	古代以前	円形	直径 0.6、深 0.12		別 1
SK70	3	SK320	古代以前	楕円形	長軸 0.55、短軸 0.4、深 0.12		別 1
SK71	3	SK321	古代以前	不整楕円形	長軸 0.55、短軸 0.48、深 0.08		別 1
SK72	3	SK322	弥生時代後期前半	（楕円形）	（長軸 0.64、短軸 0.3、深 0.15）	SB1 内土坑	別 1
SK73	3	SK323	弥生時代後期前半	（不整長方形）	（長軸 0.9 以上、短軸 1.25、深 0.1）	SB1 炉跡か、埋土炭含	12
SK80	4･5	SX402	古墳時代後期	（不整形）	（長軸 2.4、短軸 1.5、深 0.35）	SD14 に切られる	別 1
SK81	4･5	SK401	中世以降	隅丸方形	長軸 1.25、短軸 0.6、深 0.1	東南東方向	別 1

第 44 表　遺構一覧表（2）

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
SK82	4･5	SK402	鎌倉時代後半～室町時代初頭	（楕円形）	（長軸1.2、短軸0.4、深0.05）		別1
SK83	4･5	SK403	中世以降	長方形	長軸1.9、短軸0.85、深0.5	東南東方向、SD15を切る	別1
SK84	4･5	SK404	中世以降	長方形	長軸1.55、短軸0.85、深0.3	東南東方向、SK85･SD15を切る	別1
SK85	4･5	SK405	中世以降	（長方形）	（長軸1.15、短軸0.4、深0.2）	東南東方向、SD15を切る	別1
SK86	4･5	SK406	中世以降	不整長方形	長軸1.0、短軸0.6、深0.1	東西方向	別1
SK87	4･5	SK407	中世以降	隅丸方形	一辺0.8、深0.2	北北東方向	別1
SK88	4･5	SK408	中世以降	長方形	長軸1.5、短軸1.0、深.25	東南東方向	別1
SK89	4･5	SK409	中世以降	隅丸長方形	長軸1.25、短軸1.0、深0.22	東南東方向	別1
SK90	4･5	SK410	中世以降	長方形	長軸1.25、短軸0.88、深0.12	東南東方向	別1
SK91	4･5	SK411	15c後半	長方形	長軸1.1、短軸0.6、深0.2	北方向、底面でPit159確認	別1
SK92	4･5	SK412	平安時代～中世	（長方形）	（長軸0.9、短軸0.6、深0.1）	東南東方向、SK96を切る、Pit156に切られる	別1
SK93	4･5	SK413	鎌倉時代後半～室町時代初頭	（長方形）	（長軸1.15、短軸0.55、深0.35）	東南東方向、SD12に切られる	別1
SK94	4･5	SK414	-	不整形	長軸0.9、短軸0.5、深0.1	北東方向	別1
SK95	4･5	SK415	-	（楕円形）	（長軸0.85、短軸0.6、深0.15）		別1
SK96	4･5	SK416	-	（不整形）	（長軸0.6、短軸0.5、深0.2）	北東方向、SK92、Pit172に切られる	別1
SK97	4･5	SK417	-	不整長方形	長軸1.3、短軸1.0、深0.12	東西方向	別1
SK98	4･5	SK418	中世以降	隅丸方形	長軸1.1、短軸1.0、深0.2	北方向、SK101･104を切る、Pit149に切られる	別1
SK99	4･5	SK419	中世以降	長方形	長軸0.9、短軸0.8、深0.1	東西方向	別1
SK100	4･5	SK420	-	（不整長方形）	（長軸0.9、短軸0.8、深0.1）	北方向	別1
SK101	4･5	SK421	中世以降	（長方形）	（長軸0.8、短軸0.5、深0.1）	南北方向	別1
SK102	4･5	SK422	中世以降	長方形	長軸1.45、短軸0.5、深0.15	南北方向	別1
SK103	4･5	SK423	-	長方形	長軸1.0、短軸0.36、深0.15	東西方向	別1
SK104	4･5	SK424	-	（長方形）	（長軸1.5、短軸0.5、深0.15）	南北方向	別1
SK105	4･5	SK425	鎌倉時代後半～室町時代初頭	長方形	長軸2.1、短軸1.7、深0.35	北北東方向、底面でPit198確認	別1
SK106	4･5	SK426	中世以降	（長方形）	（長軸0.9、短軸0.75、深0.12）	南北方向、SK107に切られる	別1
SK107	4･5	SK427	中世以降	不整形	長軸1.15、短軸1.1、深0.3	SK106を切る	別1
SK121	6	SK601	中世以降	（不整形）	（長軸0.6、短軸0.5、深0.15）		別2
SK122	6	SK602	中世以降	（不整長方形）	（長軸0.8、短軸0.4、深0.05）	南北方向	別2
SK123	6	SK603	室町時代以降	楕円形	長軸0.65、短軸0.45、深0.1		別2
SK124	6	SK604	中世以降	楕円形	長軸0.55、短軸0.5、深0.05		別2
SK125	6	SK605	中世以降	長方形	長軸1.5、短軸0.8、深0.2	SB4を切る	別2
SK126	6		中世以降	長方形	長軸1.3、短軸0.7、深0.15	南北方向	別2
SK127	6	SK607	鎌倉時代前半	隅丸方形	一辺0.95、深0.38	SZ5周溝を切る	別2
SK128	6	SK608	-	（長方形）	（長軸0.9、短軸0.7、深0.2）	南北方向	別2
SK129	6	SK609	-	（不整楕円形）	（長軸0.85、短軸0.7、深0.15）	南北方向、SD29を切る	別2
SK130	6	SK610	-	長方形	長軸1.1、短軸0.6、深0.1	南北方向	13
SK131	6	SK611	-	（不整形）	（長軸1.0、短軸0.4、深0.1）	Pit287に切られる	別2
SK132	6		古墳時代後期	（不整形）	（長軸1.0、短軸0.9、深0.1）	SB4内	別2
SK133	6		古墳時代後期	（不整形）	（長軸2.1、短軸0.9、深0.2）	SB4内	別2
SK134	6	SK614	古墳時代後期	（不整形）	（長軸1.3、短軸1.0、深0.08）	SB4内	別2
SK137	7		中世以降	（長方形）	（長軸1.3、短軸0.65、深0.15）	南北方向	別3
SK138	7	SK728	中世以降	（長方形）	（長軸1.1、短軸0.7、深0.2）	東西方向	別3
SK139	7	SK729	中世以降	（長方形）	（長軸0.7、短軸0.65、深0.08）	南北方向	別3
SK140	7	SK730	鎌倉時代後半～室町時代初頭	（長方形）	（長軸1.0、短軸0.9、深0.2）	南北方向	別3
SK141	7	SK731	中世以降	隅丸方形	一辺0.9、深0.1		別3
SK142	7	SK732	中世以降	長方形	長軸1.0、短軸0.8、深0.1	南北方向	別3
SK143	7	SK733	中世以降	長方形	長軸1.0、短軸0.7、深0.1	南北方向	別3
SK144	7	SK734	中世以降	長方形	長軸1.2、短軸0.8、深0.13	東西方向	別3
SK145	7	SK735	-	長方形	長軸1.2、短軸0.7、深0.15	東北東方向	別3
SK146	7	SK736	平安時代	長方形	長軸0.95、短軸0.5、深0.1	東西方向	別3
SK147	7	SK737	-	不整長方形	長軸1.1、短軸0.7、深0.1	南北方向	別3
SK148	7	SK738	-	（不整形）	（長軸1.2、短軸1.0、深0.1）		別3
SK149	7	SK739	-	（長方形）	（長軸1.3、短軸0.7、深0.08）	南北方向	別3
SK150	7	SK740	中世以降	（長方形）	長軸1.6、短軸0.9、深0.08	南北方向、SK152に切られる	別3
SK151	7	SK741	-	（不明）	（長軸1.0、短軸0.4、深0.45）	北壁壁面	別3
SK152	7	SK742	中世以降	長方形	長軸1.2、短軸0.6、深0.05	北西方向、SK150を切る	別3
SK153	7	SK743	-	（不整形）	（長軸1.35、短軸0.5、深0.5）	SX43を切る	別3
SK154	7	SK744	弥生時代中期	（長方形）	（長軸1.6、短軸1.0、深0.25）	南北方向	別3
SK171	8	SK701	中世以降	（長方形）	（長軸1.0、短軸0.95、深0.15）	南北方向	別3
SK172	8	SK702	中世以降	（隅丸方形）	（一辺1.3、深0.25）		別3
SK173	8	SK703	中世以降	長方形	長軸1.5、短軸0.75、深0.15	東西方向	別3
SK174	8	SK704	中世以降	（不整形）	（長軸1.2、短軸0.7、深0.1）	南北方向	別3
SK175	8	SK705	中世以降	長方形	（長軸1.25、短軸0.95、深0.2）	南北方向	別3
SK176	8	SK706	平安時代～中世	方形	一辺1.0、深0.35		別3
SK177	8	SK707	平安時代～中世	（方形）	（長軸0.5、短軸0.45、深0.1）	SK176に切られる	別3
SK178	8	SK708	室町	（不整長方形）	（長軸1.1、短軸0.7、深0.2）	南北方向	別3
SK179	8	SK709	鎌倉時代後半～室町時代初頭	（長方形一部不形）	（長軸1.8、短軸0.8～1.2、深0.3）	東西方向	別3
SK180	8	SK710	中世以降	（楕円形）	（長軸2.8、短軸1.7、深0.1）		別3
SK181	8	SK711	中世以降	長方形	長軸1.3、短軸0.65、深0.2	東西方向	別3
SK182	8	SK712	室町	（不整形）	（長軸1.75、短軸1.0、深0.1）		別3
SK183	8	SK713	鎌倉時代後半～室町時代初頭	長方形	長軸1.3、短軸0.75、深0.55		別3
SK184	8	SK714	鎌倉時代以降	（長方形）	（長軸1.3、短軸1.0、深0.2）	SX47に切られる	別3
SK185	8	SK715	古代か	円形	直径0.75、深0.1		別3
SK186	8	SK716	平安時代	楕円形	長軸0.75、短軸0.6、深0.2		別3
SK187	8	SK717	古代か	（長方形）	（長軸0.5、短軸0.5、深0.15）	東西方向	別3
SK188	8	SK718	室町	（楕円形）	（長軸0.75、短軸0.6、深0.2）	北東方向	別3
SK189	8	SK719	古代か	（長方形）	（長軸2.6、短軸1.0、深0.1）	南北方向	別3
SK190	8	SK720	室町	（不整形）	（長軸1.6、短軸0.55、深0.25）	北東方向	別3
SK191	8	SK721	平安時代	楕円形	長軸0.8、短軸0.6、深0.4	灰釉陶器埋納遺構	別3
SK192	8	SK722	弥生	（不整形）	（長軸1.1、短軸1.0、深0.65）		別3
SK193	8	SK723	平安時代	（長方形）	（長軸1.2、短軸1.0、深0.25）	SK182に切られる	別3
SK194	8	SK724	古墳後期～平安時代	（方形）	（長軸1.9、短軸1.0、深0.35）	SX49に切られる、SZ3を切る	30
SK195	8	SK725	古墳時代後期	楕円形	長軸0.55、短軸0.7、深0.1	SB6内	別3
SK196	8	SK726	平安時代	不明	（長軸0.8、短軸0.5、深0.3）	須恵器埋納遺構、炭化物出土	別3
SK205	9	SK905	中世以降	不整長方形	長軸1.2、短軸0.5、深0.08	南北方向	別3
SK206	9	SK906	室町時代前半	隅丸長方形	長軸1.3、短軸0.4、深0.25	東西方向、SK206～208平行に並ぶ	別4
SK207	9	SK907	室町時代前半	隅丸長方形	長軸1.5、短軸0.3、深0.4	東西方向、SK206～208平行に並ぶ	別4

第45表　遺構一覧表（3）

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
SK208	9	SK908	室町時代前半か	隅丸長方形	長軸 1.5、短軸 0.3、深 0.3	東西方向、SK206 ～ 208 平行に並ぶ	別 4
SK209	9	SK909	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.6、短軸 0.6、深 0.2	東西方向	別 4
SK210	9	SK910	－	（不整形）	（長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.05）		別 4
SK211	9	SK911	－	不整形	長軸 1.05、短軸 0.4、深 0.2		別 4
SK212	9	SK912	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.2、短軸 0.6、深 0.15	東西方向	別 4
SK213	9	SK913	－	楕円形	長軸 0.9、短軸 0.4、深 0.1	北東方向	別 4
SK214	9	SK914	弥生時代中期中葉～後葉	楕円形	長軸 0.55、短軸 0.4、深 0.2		別 4
SK215	9	SK915	－	（円形）	（直径 0.4、深 0.1）		別 4
SK216	9	SK916	－	（不整形）	（長軸 0.7、短軸 0.2、深 0.08）		別 4
SK217	9	SK917	－	楕円形	長軸 0.6、短軸 0.4、深 0.05		別 4
SK218	9	SK918	－	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.3、深 0.08	東西方向	別 4
SK219	9	SK919	鎌倉時代後半	長方形	長軸 1.8、短軸 0.7、深 0.35	SX55 に切られる	別 4
SK220	9	SK920	－	（楕円形）	（長軸 1.1、短軸 0.8、深 0.15）		別 4
SK231	10	SK901	古代以前	（不整形）	（長軸 1.8、短軸 1.15、深 0.1）	住居跡の可能性も有	別 4
SK232	10	SK902	－	（不整形）	（長軸 1.0、短軸 0.5、深 0.1）		別 4
SK233	10	SK903	－	楕円形	長軸 0.6、短軸 0.35、深 0.05	北北東方向	別 4
SK234	10	SK904	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.03	南北方向	別 4
SK241	11	SK1101	室町	（不整形）	（長軸 0.8、短軸 0.5、深 0.04）		別 4
SK242	11	SK1102	－	（不整形）	（長軸 1.2、短軸 0.4、深 0.06）	南北方向	別 4
SK243	11	SK1103	－	（不整形）	（長軸 1.1、短軸 0.4、深 0.06）	東西方向	別 4
SK244	11	SK1104	－	（不整形）	（長軸 2.2、短軸 0.4 ～ 1.2、深 0.3）		別 4
SK245	11	SK1105	－	楕円形	長軸 0.6、短軸 0.3、深 0.1	東西方向	別 4
SK246	11	SK1106	室町初頭	長方形	長軸 2.4、短軸 0.75、深 0.2	南北方向、SD59・61 を切る	別 4
SK247	11	SK1107	室町初頭	（長方形）	（長軸 1.8、短軸 0.8、深 0.55）	南北方向、SD59・61 を切る、攪乱に切られる	別 4
SK248	11	SK1108	室町初頭	（長方形）	（長軸 1.3、短軸 0.75、深 0.2）	南北方向、SK251 に切られる	別 4
SK249	11	SK1109	室町初頭	（長方形）	（長軸 2.0、短軸 0.9、深 0.45）	南北方向、SK251 を切る	別 4
SK250	11	SK1110	中世以降	隅丸長方形	長軸 1.5、短軸 0.9、深 0.3	東西方向、SD60 を切る	別 4
SK251	11	SK1111	室町初頭	長方形	長軸 2.1、短軸 0.85、深 0.5	東西方向、SK248 を切る、SK249 に切られる	別 4
SK252	11	SK1112	－	不整形	長軸 0.8、短軸 0.3、深 0.05		別 4
SK253	12	SK1113	平安時代以前	（楕円形）	（長軸 2.4、短軸 2.1、深 1.5）	SD60･67 に切られる	33
SK254	12	SK1114	古代以降	不明	（幅 1.5、深 0.65）	SX72 を切る、南壁壁面のみ	別 4
SK261	13 東	SK1301	－	（不整形）	（長軸 0.7、短軸 0.3、深 0.32）		別 5
SK262	13 西	SK1302	室町時代前半	円形	直径 1.25、深 0.35	SD75 を切る	別 5
SK263	13 西	SK1303	鎌倉時代後半～室町時代初頭か	（隅丸長方形）	（長軸 1.15、短軸 0.8、深 0.25）	南北方向	別 5
SK264	13 西	SK1304	鎌倉時代後半～室町時代初頭	隅丸長方形	長軸 0.9、短軸 0.6、深 0.2	南北方向	別 5
SK265	13 西	SK1305	鎌倉時代後半～室町時代初頭	隅丸長方形	長軸 1.35、短軸 0.6、深 0.4	南北方向	別 5
SK266	13 西	SK1306	－	（不整形）	（長軸 0.7、短軸 0.4、深 0.08）	SD76 を切る	別 5
SK267	13 西	SK1307	－	隅丸長方形	長軸 1.0、短軸 0.7、深 0.15		別 5
SK268	13 西	SK1308	－	不整楕円形	長軸 1.0、短軸 0.5、深 0.12	SX100・SK267 に切られる	別 5
SK280	14	SK1405	平安時代	（不整円形）	（長軸 1.25、短軸 0.75、深 0.3）		別 5
SK281	14	SK1406	中世以降	（楕円形）	（長軸 0.6、短軸 0.45、深 0.2）		別 5
SK282	14	SK1407	－	不明	（長軸 0.8、短軸 0.5、深 0.3）		20
SK283	14	SK1408	－	楕円形	長軸 0.6、短軸 0.4、深 0.1		別 5
SK284	14	SK1409	－	楕円形	長軸 0.65、短軸 0.4、深 0.14		別 5
SK291	15	SK1401	室町時代前半	不整形	長軸 1.2、短軸 0.9、深 0.2	SD101 を切る	別 5
SK292	15	SK1402	平安時代	（楕円形）	（長軸 1.0、短軸 0.5、深 0.5）	SK291 に切られる	別 5
SK293	15	SK1403	平安時代	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.1	灰釉陶器埋納遺構	11
SK294	15	SK1404	－	不明	（長軸 0.9、短軸 0.3、深 0.16）	SK291 に切られる	別 5

ＳＸ　　土器集中・不明遺構その他

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
SX1	1	SX101	－	不明	（長軸 3.2、短軸 2.5、深 0.05）	北側低地	別 1
SX2	1	SX102	－	（不整形）	（長軸 2.15、短軸 1.6、深 0.4）		別 1
SX3	1	SX103	古代以前	（不整形）	（長軸 2.1、短軸 2.0、深 0.7）	風倒木痕	別 1
SX4	1	SX104	－	不明	（長軸 1.9、短軸 0.9、深 0.1）	南側低地	別 1
SX5	2	土器集中	弥生時代中期後葉	－	－	弥生土器甕・高杯一括出土	5
SX6	2		－	不明	（長軸 1.1、短軸 0.6、深 0.15）	落ち込み	別 1
SX7	2	畝溝 1	近現代	－	－	耕作痕	－
SX8	2	畝溝 1	近現代	－	－	耕作痕	－
SX9	2	畝溝 1	近現代	－	－	耕作痕	－
SX10	3	SX302	－	（不整形）	（長軸 1.85、短軸 1.2、深 0.05）	落ち込み	別 1
SX11	3	畝溝 1	近現代	－	－	耕作痕	－
SX12	3	畝溝 2	近現代	－	－	耕作痕	－
SX13	3	畝溝 3	近現代	－	－	耕作痕	－
SX16	4･5	SX401	弥生時代中期中葉～後葉	（不整形）	（長軸 1.25、短軸 0.65、深 0.05）	SB3 に伴う焼土範囲　炉跡？	7
SX18	4･5	SX403	古代以前	（不整形）	（長軸 2.4、短軸 2.25、深 0.3）	P206・207 に切られる	別 1
SX19	4･5	SX404	－	（不整形）	（長軸 0.45、短軸 0.45、深 0.2）	風倒木痕か	別 1
SX20	4･5	SX405	弥生時代中期中葉	不明	（長軸 5.0、短軸 1.5、深 0.03）		7
SX24	4･5	畝溝	近世	－	（幅 0.4 ～ 0.4、深 0.3）	耕作痕	別 1
SX26	6	SX601	近世以降	（不整形）	（長軸 3.0、短軸 1.1、深 0.3）		別 2
SX27	6	SX602	近世以降	不整形	長軸 3.6、短軸 1.2、深 0.1	東西方向耕作痕か、SD21 ～ 24 を切る	別 2
SX28	6	SX603	中世以降	不整形	長軸 1.0、短軸 0.2、深 0.06	北東方向溝状、耕作痕か	別 2
SX29	6	SX604	中世以降	不整形	長軸 1.2、短軸 0.3、深 0.05	東西方向溝状、耕作痕か	別 2
SX30	6	SX605	中世以降	不整形	長軸 0.9、短軸 0.3、深 0.12	東西方向溝状、耕作痕か	別 2
SX31	6	SX606	室町時代前半以降	不整形	長 4.35、幅 0.4、深 0.2	東西方向溝状、耕作痕か	別 2
SX32	6	SX607	中世以降	不整形	長軸 3.0、短軸 0.4、深 0.15	東西方向溝状、耕作痕か	別 2
SX33	6	SX608	中世以降	（不整形）	（長軸 0.3、短軸 0.2、深 0.1）	SX32 に切られる、南北方向	別 2
SX34	6	SX609	平安時代	不整形	長軸 3.6、短軸 0.7 ～ 1.4、深 0.4	灰釉一括出土	別 2
SX35	6	SX610	古代以前	（不整形）	（長 11.5、幅 5.0、深 0.6）	溝状、古墳周溝か	別 2
SX36	6	SX611	古代	－	（長 2.6、幅 1.0 ～ 1.5、深 0.05）	南北溝状	別 2
SX37	6	SX612	古代	－	（長 11.5、幅 0.6 ～ 1.2）	東西方向硬化面	別 2
SX38	6	SX613	古代	－	（長 6.02、幅 0.4 ～ 1.2）	東西方向硬化面	別 2
SX42	7	SX707	－	不整形	長軸 1.35、短軸 0.25、深 0.05	北東方向溝状	別 3
SX43	7	SX708	－	不明	（長軸 1.0、短軸 0.3、深 0.25）	風倒木痕か	別 3
SX44	7		中世以降	不明	（長軸 5.0、短軸 2.4、深 0.25）	SZ5 東側周溝上の掘り込み	別 3

第 46 表　遺構一覧表（4）

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
SX46	8	SX701	室町	（不整形）	（長軸 3.0、短軸 0.7、深 0.15）		別 3
SX47	8	SX702	古代か	（不整形）	（長軸 1.2、短軸 0.6、深 0.18）	南北方向	別 3
SX49	8	SX704	平安時代	長方形一部不整形	長軸 3.0、短軸 1.65、深 0.4	SB8・9、SK194、SZ3 を切る	30
SX50	8	SX705	－	（不整形）	（長軸 0.35、短軸 0.25、深 0.2）		別 3
SX51	8	SX706	弥生時代後期以前	不整形	長軸 2.8、短軸 0.7、深 0.4	SZ701（SD703）に切られる	別 3
SX52	8	SX709	近世	－	－	北東耕作痕	－
SX53	8	SX710	近世	－	－	北中央耕作痕	－
SX54	8	SX711	近世	－	－	北西耕作痕	－
SX55	9	SX905	－	長方形一部不整形	長軸 1.5、短軸 0.5、深 0.05	東西方向	別 4
SX56	9	SX906	近世以降	不明	－	東側耕作痕	－
SX57	9	SX907	近世以降	不明	－	中央耕作痕	－
SX61	10	SX901	－	不整形	長軸 1.5、短軸 0.3、深 0.05		別 4
SX62	10	SX902	－	不整形	長軸 1.1、短軸 0.4、深 0.05		別 4
SX63	10	SX903	－	不整形	長軸 0.9、短軸 .、深 0.05		別 4
SX64	10	SX904	－	（不整形）	（長軸 1.0、短軸 0.5、深 0.1）		別 4
SX66	11	SX1111	－	－	－	東側耕作痕	－
SX67	11・12	SX1112	室町時代前半～中頃	－	（長 9.0、幅 0.4 ～ 0.75）	南北方向高まり、SD56・57 間	別 4
SX68	11・12	SX1113	中世以降	－	（長 12.0、幅 0.8 ～ 1.2）	東西方向高まり	別 4
SX71	12	SX1101	平安時代	不整形	長軸 1.3、短軸 1.0、深 0.1	灰釉陶器埋納遺構	33
SX72	12	SX1102	平安時代以前	（不整形）	（長軸 5.1、短軸 2.9、深 0.4）	不明落ち込み	34
SX73	12	SX1103	弥生時代中期	（不整形）	（長軸 1.5、短軸 0.4 ～ 0.9、深 0.15）	焼土遺構、炉跡か	10
SX74	12	SX1104	古墳時代後期	－	－	SX80 内土器集中	別 4
SX75	12	SX1105	中世以降	－	（長 5.6、幅 0.4 ～ 0.75）	北東方向高まり	別 4
SX76	12	SX1106	近世か	－	（長 5.5、幅 1.0 ～ 1.5）	SD62 東高まり	別 4
SX77	12	SX1107	平安時代～中世	－	（長 6.5、幅 1.0 ～ 1.2）	東西方向高まり	別 4
SX78	12	SX1108	平安時代	－	（長 3.5、幅 1.0 ～ 1.2）	南北方向高まり	別 4
SX79	12	SX1109	古代以降		（長 1.5、幅 1.3）	中央北高まり	別 4
SX80	12	SX1110	古墳時代後期	－	（長 5.0、幅 4.2、深 0.45）	溝状落ち込み、古墳周溝か	別 4
SX91	13 東	SX1301	室町時代前半	不明	（長 2.1、幅 0.75、深 0.15）	溝状落ち込み	別 5
SX92	13 東	SX1302	－	（不整形）	（長軸 1.0、短軸 0.3、深 0.1）		別 5
SX93	13 西	SX1303	近世以降	（不整形）	（長軸 1.1、短軸 0.5、深 0.05）	SX94 に切られる	別 5
SX94	13 西	SX1304	近世以降	不整形	長軸 2.5、短軸 1.4、深 0.2	SX93・Pit406 を切る	別 5
SX98	13 西	SX1308	中世以降	方形	一辺 0.6、深 0.05	SD75 を切る	別 5
SX99	13 西	SX1309	中世以降	円形	直径 0.4、深 0.05	SD75 を切る	別 5
SX100	13 西	SX1310	鎌倉時代～室町時代前半	（隅丸方形状突出部有り）	（長軸 4.2、短軸 2.3、深 0.6）		別 5
SX101	13 西	SX1311	古代以前	不明	（長軸 1.2、短軸 0.9、深 0.2）	南壁壁面、SK263・SD75 に切られる	別 5
SX111	14	SX1401	弥生時代	不整形	長軸 2.4、短軸 2.3、深 0.45	SZ5 に切られる、風倒木痕か	別 5

Ｐｉｔ　　柱穴など

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
P1	1	P101	中世以降	円形	直径 0.4、深 0.1		別 1
P2	1	P102	－	（楕円形）	（長軸 0.3、短軸 0.25、深 0.1）		別 1
P3	1	P103	－	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.35、深 0.12		別 1
P4	1	P104	－	円形	直径 0.3、深 0.1		別 1
P5	1	P105	－	楕円形	長軸 0.6、短軸 0.35、深 0.25		別 1
P6	1	P106	－	（楕円形）	（長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.08）		別 1
P7	1	P107	－	円形	直径 0.3、深 0.05		別 1
P8	1	P108	－	（円形）	（直径 0.5、深 0.05）		別 1
P9	1	P109	－	円形	直径 0.25、深 0.1		別 1
P10	1	P110	－	円形	直径 0.35、深 0.1		別 1
P11	1	P111	－	楕円形	長軸 0.75、短軸 0.5、深 0.1		別 1
P12	1	P112	－	円形	直径 0.65、深 0.2		別 1
P13	1	P113	－	楕円形	直径 0.35、短軸 0.25、深 0.12		別 1
P14	1	P114	－	円形	直径 0.35、深 0.1		別 1
P15	1	P115	－	円形	直径 0.25、深 0.05		別 1
P16	1	P116	－	円形	直径 0.25、深 0.05		別 1
P17	1	P117	－	楕円形	直軸 0.5、短軸 0.3、深 0.08		別 1
P18	1	P118	－	円形	直径 0.4、深 0.08		別 1
P19	1	P119	－	楕円形	長軸 0.38、短軸 0.25、深 0.08		別 1
P20	1	P120	－	円形	直径 0.35、深 0.1		別 1
P21	1	P121	－	方形	一辺 0.5、深 0.1		別 1
P22	1	P122	中世以前	（円形）	（長軸 0.6、短軸 0.4、深 0.12）	SD2 に切られる	別 1
P23	1	P123	－	不明	（長軸 0.38、短軸 0.1、深 0.1）		別 1
P24	1	P124	－	円形	直径 0.35、深 0.35		別 1
P25	1	P125	－	楕円形	直軸 0.35、短軸 0.35、深 0.15		別 1
P26	1	P126	－	楕円形	長軸 0.45、短軸 0.35、深 0.1		別 1
P27	1	P127	－	楕円形	長軸 0.6、短軸 0.45、深 0.1		別 1
P28	1	P128	－	（楕円形）	（長軸 0.7、短軸 0.55、深 0.15）		別 1
P39	2	P359	－	楕円形	長軸 0.35、短軸 0.2、深 0.08		別 1
P40	2	P360	－	円形	直径 0.25、深 0.07		別 1
P41	2	P361	－	円形	直径 0.3、深 0.06		別 1
P42	2	P362	－	楕円形	長軸 0.38、短軸 0.3、深 0.1		別 1
P43	2	P363	－	円形	直径 0.3、深 0.1		別 1
P44	2	P364	－	円形	直径 0.38、深 0.1		別 1
P45	2	P365	－	円形	直径 0.25、深 0.1		別 1
P46	2	P366	－	方形	一辺 0.25、深 0.5		別 1
P47	2	P367	弥生中期中葉	円形	直径 0.35、深 0.6	弥生土器壺埋納、実測遺物 No.6	5
P48	2	P368	古代以前	不整形	長軸 0.4、短軸 0.37、深 0.4		別 1
P51	3	P301	中世以降	楕円形	長軸 0.25、短軸 0.13、深 0.45		別 1
P52	3	P302	中世以降	不整円形	直径 0.25、深 0.8		別 1
P53	3	P303	中世以降	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.38、深 0.8		別 1
P54	3	P304	中世以降	円形	直径 0.25、深 0.3		別 1
P55	3	P305	中世以降	円形	直径 0.25、深 0.2		別 1
P56	3	P306	中世以降	楕円形	長軸 0.25、短軸 0.2、深 0.1		別 1
P57	3	P307	中世以降	円形	直径 0.25、深 0.15		別 1
P58	3	P308	中世以降	不明	（長軸 0.25、短軸 0.1、深 0.1）		別 1

第 47 表　遺構一覧表（5）

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
P59	3	P309	中世以降	楕円形	長軸 0.37、短軸 0.25、深 0.15		別 1
P60	3	P310	中世以降	円形	直径 0.25、深 0.2		別 1
P61	3	P311	中世以降	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.35、深 0.25		別 1
P62	3	P312	中世以降	（楕円形）	（長軸 0.37、短軸 0.25、深 0.45）	Pit61 に切られる	別 1
P63	3	P313	中世以降	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.37、深 0.3		別 1
P64	3	P314	中世以降	円形	直径 0.3、深 0.3		別 1
P65	3	P315	弥生中期中葉	円形	直径 0.25、深 0.1	SB2 内	6
P66	3	P316	弥生中期中葉	円形	直径 0.25、深 0.7	SB2 内	6
P67	3	P317	弥生中期中葉	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.37、深 0.1	SB2 内	6
P68	3	P318	弥生中期中葉	（楕円形）	（長軸 0.5、短軸 0.38、深 0.7）	SB2 内	6
P69	3	P319	弥生中期中葉	不明	（長軸 0.37、短軸 0.25、深 0.05）	SB2 内	6
P70	3	P320	弥生中期中葉	不整楕円形	長軸 0.38、短軸 0.25、深 0.1	SB2 内	6
P71	3	P321	－	楕円形	長軸 0.35、短軸 0.25、深 0.08		別 1
P72	3	P322	－	不整楕円形	長軸 0.48、短軸 0.35、深 0.25		別 1
P73	3	P323	－	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.35、深 0.12		別 1
P74	3	P324	－	円形	直径 0.22、深 0.5		別 1
P75	3	P325	中世以降	不明	（一辺 1.0、深 0.38）	西壁のみ	別 1
P76	3	P326	－	楕円形	長軸 0.25、短軸 0.2、深 0.15		別 1
P77	3	P327	－	隅丸方形	一辺 0.22、深 0.18		別 1
P78	3	P328	－	不整形	長軸 0.45、短軸 0.35、深 0.15		別 1
P79	3	P329	－	円形	直径 0.25、深 0.2		別 1
P80	3	P330	－	円形	直径 0.35、深 0.12		別 1
P81	3	P331	－	－	－	遺物のみ	－
P82	3	P332	－	－	－	遺物のみ	－
P83	3	P333	古代以前	不整形	長軸 0.4、短軸 0.34、深 0.05		別 1
P84	3	P334	古代以前	円形	直径 0.2、深 0.1		別 1
P85	3	P335	古代以前	楕円形	長軸 0.45、短軸 0.35、深 0.1		別 1
P86	3	P336	古代以前	楕円形	長軸 0.45、短軸 0.35、深 0.08		別 1
P87	3	P337	古代以前	円形	直径 0.24、深 0.18		別 1
P88	3	P338	古代以前	円形	直径 0.15、深 0.2		別 1
P89	3	P339	古代以前	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.25、深 0.2		別 1
P90	3	P340	古代以前	不整楕円形	長軸 0.4、短軸 0.35、深 0.25		別 1
P91	3	P341	古代以前	円形	直径 0.3、深 0.18		別 1
P92	3	P342	古代以前	不整楕円形	長軸 0.38、短軸 0.3、深 0.12		別 1
P93	3	P343	古代以前	不整形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.12		別 1
P94	3	P344	古代以前	円形	直径 0.3、深 0.3		別 1
P95	3	P345	古代以前	円形	直径 0.25、深 0.32		別 1
P96	3	P346	古代以前	不整形	長軸 0.5、短軸 0.35、深 0.2		別 1
P97	3	P347	古代以前	（楕円形）	（長軸 0.25、短軸 0.15、深 0.15）		別 1
P98	3	P348	古代以前	（楕円形）	（長軸 0.4、短軸 0.25、深 0.1）		別 1
P99	3	P349	古代以前	不整楕円形	長軸 0.35、短軸 0.3、深 0.08		別 1
P100	3	P350	古代以前	（円形）	（直径 0.3、深 0.07）		6
P101	3	P351	古代以前	楕円形	長軸 0.32、短軸 0.28、深 0.18		別 1
P102	3	P352	古代以前	円形	直径 0.15、深 0.24		6
P103	3	P353	弥生時代後期か	不整形	長軸 0.35、短軸 0.35、深 0.4	SB1 内	12
P104	3	P354	弥生時代後期か	（円形）	（直径 0.35、深 0.38）	SB1 内、SK65 に切られる	12
P105	3	P355	弥生時代後期か	不整形	長軸 0.35、短軸 0.32、深 0.55	SB1 内	12
P106	3	P356	弥生時代後期か	（楕円形）	（長軸 0.3、短軸 0.24、深 0.6）	SB1 内、Pit64 に切られる	12
P107	3	P357	弥生時代後期か	（楕円形）	（長軸 0.35、短軸 0.25、深 0.3）	SB1 内、SK72 に切られる	12
P108	3	P358	古代以前	円形	直径 0.2、深 0.1		12
P111	4･5	P401	－	円形	直径 0.2、深 0.1	Pit112 を切る	別 1
P112	4･5	P402	－	円形	直径 0.25、深 0.15	Pit111 に切られる	別 1
P113	4･5	P403	－	円形	直径 0.25、深 0.35	Pit157 を切る	別 1
P114	4･5	P404	－	円形	直径 0.2、深 0.3		別 1
P115	4･5	P405	－	楕円形	長軸 0.25、短軸 0.22、深 0.1		別 1
P116	4･5	P406	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.35、深 0.15		別 1
P117	4･5	P407	－	円形	直径 0.35、深 0.1		別 1
P118	4･5	P408	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.35、深 0.08		別 1
P119	4･5	P409	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.25		別 1
P120	4･5	P410	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.2、深 0.2		別 1
P121	4･5	P411	－	楕円形	長軸 0.25、短軸 0.2、深 0.15		別 1
P122	4･5	P412	－	楕円形	長軸 0.35、短軸 0.25、深 0.08		別 1
P123	4･5	P413	－	円形	直径 0.25、深 0.2		別 1
P124	4･5	P414	－	円形	直径 0.26、深 0.15		別 1
P125	4･5	P415	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.06		別 1
P126	4･5	P416	－	楕円形	長軸 0.38、短軸 0.2、深 0.14		別 1
P127	4･5	P417	－	（楕円形）	（長軸 0.4、短軸 0.38、深 0.4）	SD14 に切られる	別 1
P128	4･5	P418	－	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.07		別 1
P129	4･5	P419	－	（楕円形）	（長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.1）	Pit131 に切られる	別 1
P130	4･5	P420	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.25、深 0.2		別 1
P131	4･5	P421	－	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.35、深 0.2	Pit129・132 を切る	別 1
P132	4･5	P422	－	（円形）	（直径 0.25、深 0.24）	Pit131 に切られる	別 1
P133	4･5	P423	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.2、深 0.15		別 1
P134	4･5	P424	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.2	SK82 を切る	別 1
P135	4･5	P425	－	（楕円形）	（長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.11）	SD15 に切られる	別 1
P136	4･5	P426	－	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.35、深 0.05		別 1
P137	4･5	P427	－	楕円形	長軸 0.25、短軸 0.2、深 0.14		別 1
P138	4･5	P428	－	楕円形	長軸 0.25、短軸 0.22、深 0.1		別 1
P139	4･5	P429	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.22、深 0.16		別 1
P140	4･5	P430	－	円形	直径 0.3、深 0.2		別 1
P141	4･5	P431	－	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.2		別 1
P142	4･5	P432	－	円形	直径 0.24、深 0.14		別 1
P143	4･5	P433	－	円形	直径 0.4、深 0.03		別 1
P144	4･5	P434	－	円形	直径 0.2、深 0.1		別 1
P145	4･5	P435	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.24、深 0.26		別 1
P146	4･5	P436	－	円形	直径 0.22、深 0.07		別 1
P147	4･5	P437	－	楕円形	長軸 0.33、短軸 0.2、深 0.13		別 1
P148	4･5	P438	－	円形	直径 0.5、深 0.14		別 1
P149	4･5	P439	－	円形	直径 0.25、深 0.2		別 1
P150	4･5	P440	－	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.32、深 0.4		別 1
P151	4･5	P441	－	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.3、深 0.25		別 1
P152	4･5	P442	－	楕円形	長軸 0.25、短軸 0.2、深 0.18		別 1
P153	4･5	P443	－	不整楕円形	長軸 0.4、短軸 0.24、深 0.07	Pit154 を切る	別 1

第 48 表　遺構一覧表（6）

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
P154	4･5	P444	－	（不整楕円形）	（長軸 0.4、短軸 0.35、深 0.08）	Pit153 に切られる	別 1
P155	4･5	P445	－	円形	直径 0.3、深 0.02		別 1
P156	4･5	P446	－	楕円形	長軸 0.38、短軸 0.3、深 0.26	SK92 を切る	別 1
P157	4･5	P447	－	（不整楕円形）	（長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.24）	Pit113 に切られる	別 1
P158	4･5	P448	－	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.25		別 1
P159	4･5	P449	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.38、深 0.5	SK91 内	別 1
P160	4･5	P450	－	不整楕円形	長軸 0.4、短軸 0.35、深 0.2	SD16 を切る	別 1
P161	4･5	P451	－	不整楕円形	長軸 0.4、短軸 0.25、深 0.1		別 1
P162	4･5	P452	古代か	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.2	SD14 内	別 1
P163	4･5	P453	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.25、深 0.12		別 1
P164	4･5	P454	－	円形	直径 0.22、深 0.2		別 1
P165	4･5	P455	－	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.25、深 0.25		別 1
P166	4･5	P456	－	（不整形）	（直径 0.2、深 0.2）	Pit165 に切られる	別 1
P167	4･5	P457	－	円形	長軸 0.35、短軸 0.3、深 0.3		別 1
P168	4･5	P458	－	不明	一辺 0.24、深 0.08	SD11 内	別 1
P169	4･5	P459	－	不整楕円形	長軸 0.6、短軸 0.5、深 0.4		別 1
P170	4･5	P460	－	不整形	一辺 0.4、深 0.2	北壁	別 1
P171	4･5	P461	－	不整楕円形	長軸 0.4、短軸 0.38、深 0.16		別 1
P172	4･5	P462	－	不整楕円形	長軸 0.5、短軸 0.38、深 0.5	SK96 を切る	別 1
P173	4･5	P463	－	不整楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.23		別 1
P174	4･5	P464	－	円形	直径 0.2、深 0.23		別 1
P175	4･5	P465	－	（円形）	（直径 0.3、深 0.45）	Pit176 に切られる	別 1
P176	4･5	P466	－	円形	直径 0.3、深 0.1	Pit175 を切る	別 1
P177	4･5	P467	弥生時代中期か	円形	直径 0.3、深 0.1		7
P178	4･5	P468	－	円形	直径 0.2、深 0.26		別 1
P179	4･5	P469	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.25、深 0.24		別 1
P180	4･5	P470	－	円形	直径 0.3、深 0.3		別 1
P181	4･5	P471	－	不整形	長軸 0.35、短軸 0.3、深 0.45		別 1
P182	4･5	P472	－	不整楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.08	Pit183・184 を切る	別 1
P183	4･5	P473	－	（不整形）	（長軸 0.38、短軸 0.3、深 0.06）	Pit182 に切られる	別 1
P184	4･5	P474	－	（不整円形）	（長軸 0.38、短軸 0.3、深 0.1）	Pit182 に切られる	別 1
P185	4･5	P475	－	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.3、深 0.1	SK80 内	別 1
P186	4･5	P476	－	（不整楕円形）	（長軸 0.5、短軸 0.4、深 .45）	Pit194 に切られる	別 1
P187	4･5	P477	－	不明	（長軸 0.2、短軸 0.15、深 0.12）		別 1
P188	4･5	P478	弥生時代中期か	楕円形	長軸 0.38、短軸 0.25、深 0.05		別 1
P189	4･5	P479	弥生時代中期か	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.15		別 1
P190	4･5	P480	－	楕円形	長軸 0.6、短軸 0.5、深 0.7		別 1
P191	4･5	P481	－	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.25、深 0.04		別 1
P192	4･5	P482	－	不整形	長軸 0.2、短軸 0.13、深 0.4		別 1
P193	4･5	P483	－	不整形	長軸 0.2、短軸 0.13、深 0.45		別 1
P194	4･5	P484	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.15	Pit186 を切る	別 1
P195	4･5	P485	－	円形	直径 0.25、深 0.3		別 1
P196	4･5	P486	－	楕円形	長軸 0.35、短軸 03.、深 0.25		別 1
P197	4･5	P487	－	円形	直径 0.3、深 0.38		別 1
P198	4･5	P488	－	円形	直径 0.35、深 0.3	SK105 内	別 1
P199	4･5	P489	－	（楕円形）	（長軸 0.5、短軸 0.25、深 0.3）	SD16 を切る	別 1
P200	4･5	P490	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.27	SX18 を切る	別 1
P201	4･5	P491	－	不明	（一辺 0.3、深 0.4）	北壁	別 1
P202	4･5	P492	弥生時代中期か	（不整円形）	（直径 0.3、深 0.55）		別 1
P203	4･5	P493	－	（不整円形）	（直径 0.2、深 0.02）		別 1
P204	4･5	P494	－	（不整円形）	（直径 0.25、深 0.35）		別 1
P205	4･5	P495	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.2、深 0.1		別 1
P206	4･5	P496	－	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.25、深 0.2	SX18 内	別 1
P207	4･5	P497	－	楕円形	長軸 0.25、短軸 0.2、深 0.08	SX18 内	別 1
P208	4･5	P498	－	不明	（直径 0.25、深 0.1）		別 1
P209	4･5	P499	弥生時代中期か	（不整円形）	（直径 0.25、深 0.4）	SD11 に切られる	7
P210	4･5	P500	弥生時代中期か	（不整形）	（長軸 0.45、短軸 0.25、深 0.12）		7
P211	4･5	P501	－	円形	直径 0.1、深 0.2		7
P212	4･5	P502	弥生時代中期か	円形	直径 0.1、深 0.3		7
P221	6	P601	近世以降	不整形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.1	SD21 を切る	別 2
P222	6	P602	－	円形	直径 0.3、深 0.1	SD21 内	別 2
P223	6	P603	－	円形	直径 0.3、深 0.05		別 2
P224	6	P604	－	不整楕円形	長軸 0.3、短軸 0.25、深 0.08		別 2
P225	6	P605	－	円形	直径 0.2、深 0.06		別 2
P226	6	P606	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.1		別 2
P227	6	P607	古墳時代後期か	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.3、深 0.3	SB4 内	別 2
P228	6	P608	－	不明	（一辺 0.6、深 0.3）	SD28 に切られる	別 2
P229	6	P609	－	円形	直径 0.35、深 0.4		別 2
P230	6	P610	－	円形	直径 0.24、深 0.1		別 2
P231	6	P611	－	楕円形	長軸 0.6、短軸 0.4、深 0.1		別 2
P232	6	P612	－	（楕円形）	（長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.27）	SD28 に切られる	別 2
P233	6	P613	－	楕円形	長軸 0.38、短軸 0.35、深 0.26		別 2
P234	6	P614	－	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.3、深 0.23		別 2
P235	6	P615	－	円形	直径 0.2、深 0.1		別 2
P236	6	P616	－	不整楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.2		別 2
P237	6	P617	－	円形	直径 0.3、深 0.1		別 2
P238	6	P618	－	円形	直径 0.27、深 0.1		別 2
P239	6	P619	－	円形	直径 0.3、深 0.12		別 2
P240	6	P620	－	不整楕円形	長軸 0.5、短軸 0.2、深 0.04		別 2
P241	6	P621	－	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.44、深 0.12	SD31 内	別 2
P242	6	P622	－	（楕円形）	（長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.45）	SD29 に切られる	別 2
P243	6	P623	－	（楕円形）	（長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.38）	Pit244 を切る	別 2
P244	6	P624	平安時代	（楕円形）	（長軸 0.3、短軸 0.25、深 0.35）	Pit243 に切られ、Pit245 を切る	別 2
P245	6	P625	－	（円形）	（直径 0.3、深 0.1）	Pit244 と切合い	別 2
P246	6	P626	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.35、深 0.08		別 2
P247	6	P627	－	円形	直径 0.26、深 0.15	Pit248 を切る	別 2
P248	6	P628	－	（不整形）	（長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.2）	Pit247・266 に切られる	別 2
P249	6	P629	－	円形	直径 0.22、深 0.3		別 2
P250	6	P630	－	楕円形	長軸 0.55、短軸 0.4、深 0.33		別 2
P251	6	P631	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.1		別 2
P252	6	P632	－	円形	直径 0.2、深 0.14		別 2
P253	6	P633	－	円形	直径 0.2、深 0.2		別 2
P254	6	P634	－	（不整円形）	（直径 0.25、深 0.65）		別 2

第 49 表　遺構一覧表（7）

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
P255	6	P635	－	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.2、深 0.4		別 2
P256	6	P636	平安時代	円形	直径 0.2、深 0.2		別 2
P257	6	P637	－	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.2、深 0.08		別 2
P258	6	P638	－	円形	直径 0.4、深 0.1		別 2
P259	6	P639	－	不整形	長軸 0.35、短軸 0.3、深 0.4		別 2
P260	6	P640	－	円形	直径 0.3、深 0.3		別 2
P261	6	P641	－	円形	直径 0.24、深 0.1		別 2
P262	6	P642	－	円形	直径 0.3、深 0.4		別 2
P263	6	P643	中世以降	（円形）	（直径 0.3、深 0.15）	P264 と直交する位置	別 2
P264	6	P644	鎌倉時代後半～室町時代初頭	楕円形	長軸 0.25、短軸 0.2、深 0.15		別 2
P265	6	P645	中世以降	不整楕円形	長軸 0.65、短軸 0.5、深 0.5	P264 と直交する位置	別 2
P266	6	P646	－	円形	直径 0.2、深 0.1	Pit248 を切る	別 2
P267	6	P647	－	（円形）	（直径 0.26、深 0.36）	SD28 に切られる	別 2
P268	6	P648	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.35		別 2
P269	6	P649	－	円形	直径 0.23、深 0.26		別 2
P270	6	P650	－	円形	直径 0.25、深 0.26		13
P271	6	P651	－	（円形）	（直径 0.3、深 0.3）	SD28 に切られる	13
P272	6	P652	－	不整楕円形	長軸 0.5、短軸 0.3、深 0.1	SB5 を切る	13
P273	6	P653	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.18		13
P274	6	P654	－	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.2、深 0.15		13
P275	6	P655	弥生時代後期か	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.23、深 0.2	SB5 内	13
P276	6	P656	弥生時代後期か	円形	直径 0.2、深 0.5	SB5 内	13
P277	6	P657	平安時代	円形	直径 0.3、深 0.4	SB5 内	13
P278	6	P658	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.45		別 2
P279	6	P659	－	不整形	長軸 0.6、短軸 0.4、深 0.5	Pit253 を切る	別 2
P280	6	P660	－	円形	直径 0.24、深 0.14		別 2
P281	6	P661	－	不整楕円形	長軸 0.3、短軸 0.2、深 0.4		別 2
P282	6	P662	－	円形	直径 0.26、深 0.28		13
P283	6	P663	－	不整形	長軸 0.3、短軸 0.22、深 0.2		別 2
P284	6	P664	－	不整形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.18		別 2
P285	6	P665	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.4		別 2
P286	6	P666	－	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.24、深 0.27		別 2
P287	6	P667	－	（不整楕円形）	（長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.18）		別 2
P288	6	P668	－	不整形	長軸 0.6、短軸 0.4、深 0.5		別 2
P289	6	P669	－	不整形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.34		別 2
P290	6	P670	－	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.2、深 0.1		別 2
P291	6	P671	－	不整形	長軸 0.2、短軸 0.1、深 0.33		別 2
P292	6	P672	弥生時代後期か	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.2、深 0.7	SB5 内	13
P293	6	P673	－	不整形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.2		別 2
P294	6	P674	－	円形	直径 0.26、深 0.1		別 2
P295	6	P675	弥生時代後期か	不整形	長軸 0.4、短軸 0.34、深 0.8	SB5 内	13
P296	6	P676	弥生時代後期か	不整形	長軸 0.35、短軸 0.26、深 0.18	SB5 内	13
P297	6	P677	－	不整形	長軸 0.6、短軸 0.5、深 0.7		別 2
P298	6	P678	弥生時代後期か	円形	直径 0.22、深 0.84	SB5 内	13
P299	6	P679	弥生時代後期か	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.2	SB5 内	13
P300	6	P680	古墳時代後期か	不整形	長軸 0.45、短軸 0.4、深 0.3	SB4 内	別 2
P301	6	P681	古墳時代後期か	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.84	SB4 内	別 2
P302	6	P682	古墳時代後期か	円形	直径 0.34、深 0.4	SB4 内	別 2
P303	6	P683	古墳時代後期か	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.3、深 0.4	SB4 内	別 2
P304	6	P684	弥生時代後期か	円形	直径 0.22、深 0.2	SB5 内	13
P306	6		－	不明	（一辺 0.2、深 0.3）	北壁壁面	別 6
P307	6		－	不明	（一辺 0.3、深 0.65）	北壁壁面	別 6
P308	6		－	不明	（一辺 0.2、深 0.4）	北壁壁面	別 6
P309	6		－	不明	（一辺 0.2、深 0.3）	北壁壁面	別 6
P310	7	P715	－	隅丸長方形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.15		別 3
P311	7	P716	－	円形	直径 0.4、深 0.2		別 3
P312	7	P717	－	（不整形）	（長軸 0.3、短軸 0.2、深 0.1）		別 3
P313	7	P718	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.15		別 3
P314	7	P719	－	楕円形	長軸 0.45、短軸 0.4、深 0.05		別 3
P315	7	P720	－	円形	直径 0.4、深 0.15		別 3
P316	7	P721	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.35、深 0.15		別 3
P317	7	P722	－	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.3、深 0.1		別 3
P318	7	P723	－	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.45、深 0.15		別 3
P327	8	P702	－	不整形	長軸 0.8、短軸 0.55、深 0.1		別 3
P328	8	P703	－	楕円形	長軸 0.42、短軸 0.38、深 0.04	SK171 内	別 3
P329	8	P704	鎌倉時代後半～室町時代初頭	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.45、深 0.15	山茶碗埋納遺構	別 3
P330	8	P705	－	円形	直径 0.3、深 0.2		別 3
P331	8	P706	弥生時代	円形	直径 0.3、深 0.2		別 3
P332	8	P707	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.15		別 3
P333	8	P708	－	楕円形	長軸 0.2、短軸 0.15、深 0.15		別 3
P334	8	P709	－	不整形	長軸 0.28、短軸 0.2、深 0.2		別 3
P335	8	P710	－	不整形	長軸 0.35、短軸 0.32、深 0.12		別 3
P336	8	P711	平安時代	円形	直径 0.35、深 0.25	灰釉陶器埋納遺構	別 3
P337	8	P712	－	楕円形	長軸 0.45、短軸 0.3、深 0.1		別 3
P338	8	P713	－	円形	直径 0.4、深 0.2		別 3
P339	8	P714	－	円形	直径 0.3、深 0.24		別 3
P340	8	P715	平安時代	不明	不明	試掘トレンチ内灰釉陶器埋納遺構	別 3
P344	9	P914	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.2、深 0.06		別 4
P345	9	P915	－	円形	直径 0.2、深 0.22		別 4
P346	9	P916	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.55		別 4
P347	9	P917	－	楕円形	長軸 0.55、短軸 0.45、深 0.15		別 4
P348	9	P918	－	円形	直径 0.35、深 0.1		別 4
P349	9	P919	－	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.2、深 0.1		別 4
P350	9	P920	－	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.2、深 0.07		別 4
P351	9	P921	－	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.2		別 4
P352	9	P922	－	不整楕円形	長軸 0.3、短軸 0.2、深 0.1		別 4
P356	10	P901	中世以降	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.25	拳大川原石埋納	別 4
P357	10	P902	－	円形	直径 0.4、深 0.1		別 4
P358	10	P903	－	（円形）	（直径 0.4、深 0.3）	SD51 を切る	別 4
P359	10	P904	－	不整円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.05		別 4
P360	10	P905	－	楕円形	長軸 0.35、短軸 0.3、深 0.05		別 4

第 50 表　遺構一覧表（8）

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
P361	10	P906	−	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.04		別 4
P362	10	P907	弥生時代中期	円形	直径 0.25、深 0.1		別 4
P363	10	P908	−	楕円形	長軸 0.35、短軸 0.3、深 0.4		別 4
P364	10	P909	−	円形	直径 0.2、深 0.25		別 4
P365	10	P910	−	不明	（幅 0.35、深 0.15）	南壁壁面	別 4
P366	10	P911	−	円形	直径 0.2、深 0.28	SD51 を切る	別 4
P367	10	P912	−	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.25、深 0.3		別 4
P371	11	P1101	−	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.5		別 4
P372	11	P1102	−	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.5		9
P373	11	P1103	−	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.35		別 4
P374	11	P1104	平安時代	楕円形	長軸 0.35、短軸 0.25、深 0.1		別 4
P375	11	P1105	−	円形	直径 0.4、深 0.3		別 4
P376	11	P1106	−	不整形	長軸 0.6、短軸 0.4、深 0.15		別 4
P377	11	P1107	−	楕円形	長軸 0.7、短軸 0.5、深 0.06		9
P378	11	P1108	−	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.12		9
P379	11	P1109	−	（円形）	（直径 0.4、深 0.35）		9
P380	12	P1110	−	不整楕円形	長軸 0.4、短軸 0.2、深 0.4		別 4
P381	12	P1111	−	円形	直径 0.2、深 0.4		別 4
P382	12	P1112	−	（不整形）	（長軸 0.3、短軸 0.2、深 0.1）		別 4
P383	12	P1113	中世以降	不整形	長軸 0.6、短軸 0.5、深 0.3	SD66 を切る	別 4
P391	13 東	P1301	−	円形	直径 0.3、深 0.15		別 5
P392	13 東	P1302	−	円形	直径 0.2、深 0.06		別 5
P393	13 東	P1303	−	（不整形）	（長軸 0.3、短軸 0.2、深 0.08）		別 5
P394	13 東	P1304	−	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.06		別 5
P395	13 東	P1305	−	不整形	長軸 0.4、短軸 0.4、深 0.18	SK261 を切る	別 5
P396	13 東	P1306	−	円形	直径 0.2、深 0.08		別 5
P397	13 西	P1307	中世以降	円形	直径 0.4、深 0.26	SD75 を切る	別 5
P398	13 西	P1308	−	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.35、深 0.28		別 5
P399	13 西	P1309	古代以前	（楕円形）	（長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.1）	SD76 に切られる	別 5
P400	13 西	P1310	−	円形	直径 0.4、深 0.08		別 5
P401	13 西	P1311	−	（楕円形）	（長軸 0.5、短軸 0.3、深 0.7）		別 5
P402	13 西	P1312	−	円形	直径 0.4、深 0.15	SD75 を切る	別 5
P403	13 西	P1313	−	（楕円形）	（長軸 0.4、短軸 0.2、深 0.45）		別 5
P404	13 西	P1314	−	（円形）	（直径 0.3、深 0.38）		別 5
P405	13 西	P1315	−	円形	直径 0.2、深 0.16		別 5
P406	13 西	P1316	室町時代以降	（円形）	（直径 0.3、深 0.5）	羽釜埋納遺構、SX94 に切られる	別 5
P407	13 西	P1317	古代以前	不整形	長軸 0.4、短軸 0.3、深 0.08	SD76 に切られる	別 5
P422	14	P1402	−	円形	直径 0.4、深 0.12	SZ5 より上層より掘り込まれる	20
P423	14	P1403	−	不整形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.2		別 5
P424	14	P1404	−	円形	直径 0.4、深 0.8		別 5
P425	14	P1405	−	楕円形	長軸 0.6、短軸 0.4、深 0.1		別 5
P426	14	P1406	−	円形	直径 0.5、深 0.22		別 5
P427	14	P1407	−	（不整形）	（長軸 0.5 　、短軸 0.4、深 0.45）		別 5
P428	14	P1408	−	不明	（長軸 0.8、短軸 0.5、深 1.0）		別 5
P441	15	P1401	−	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.25、深 0.2		別 5

岩田西遺跡

田

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
田 1	16	ST1601	戦国時代～近世初頭	−	（長軸 10.5、短軸 7.2 ～ 8.6）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 2	16	ST1602	戦国時代～近世初頭	−	（長軸 10.5、短軸 7.8）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 3	16	ST1603	戦国時代	−	（長軸 7.5、短軸 2.8）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 4	16	ST1604	戦国時代以降	−	（長軸 1.0、短軸 0.8）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 5	17	ST1705	戦国時代以降	−	（長軸 14.8、短軸 7.2）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 6	17	ST1702	戦国時代	−	（長軸 6.2、短軸 5.6）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 7	17	ST1703	戦国時代～近世初頭	−	（長軸 17.4、短軸 10.8）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 8	17･19	ST1704･ST1902	戦国時代	−	（長軸 17.4、短軸 7.5）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 9	19	ST1903	戦国時代	−	（長軸 12.4、短軸 5.5）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 10	19	ST1904	戦国時代以降	−	（長軸 5.5、短軸 1.25）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 11	19	ST1905	戦国時代	−	（長軸 9.8、短軸 3.7）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 12	18・26	北水田	戦国時代以降	−	（長軸 12.0、短軸 9.5）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 13	18	中央水田	戦国時代以降	−	（長軸 25.0、短軸 12.5）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 14	17･18･20	ST1701・18 区南水田・20 区中央水田	戦国時代	−	（長軸 24.8、短軸 15.0）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 15	19･20	ST1901･20 区南水田	戦国時代～近世初頭	−	（長軸 24.8、短軸 11.6）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 16	21・22	北東水田	戦国時代～近世初頭	−	（長軸 15.6、短軸 12.0）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 17	21	西水田	戦国時代以降	−	（長軸 1.5、短軸 1.25）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 18	22･30	22 区東水田・30 区西水田	戦国時代～近世初頭	−	（長軸 19.2、短軸 16.4）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 19	22	22 区西水田	戦国時代	−	（長軸 26.0、短軸 6.4）	Ⅲ a 層検出	別 8
田 20	26	東水田	室町時代～戦国時代	−	（長軸 9.5、短軸 2.7）	Ⅲ a 層検出	別 10
田 21	25・26	北東水田・ST2501	室町時代～戦国時代	−	（長軸 15.5、短軸 6.9）	Ⅲ a 層検出	別 10
田 22	25・26	北西水田・ST2502	戦国時代以降	−	（長軸 14.2、短軸 13.0）	Ⅲ a 層検出	別 10
田 23	23 ～ 25	ST2501・ST2301	戦国時代以降	−	（長軸 19.2、短軸 15.0）	Ⅲ a 層検出	別 10
田 24	25	ST2503	戦国時代	−	（長軸 8.2、短軸 4.4）	Ⅲ a 層検出	別 10
田 25	28 ～ 30	ST2802・東水田	室町時代～戦国時代	−	（長軸 17.4、短軸 13.8）	Ⅲ a 層検出	別 10
田 26	29・30	中央水田	室町時代～戦国時代	−	（長軸 22.6、短軸 8.8）	Ⅲ a 層検出	別 10
田 27	23・24	ST2303	戦国時代	−	（長軸 7.2、短軸 5.0）	Ⅲ a 層検出	別 10
田 28	23・24	ST2304	戦国時代	−	（長軸 6.6、短軸 2.0）	Ⅲ a 層検出	別 10
田 29	23・24	ST2302	戦国時代以降	−	（長軸 2.75、短軸 1.0）	Ⅲ a 層検出	別 10
田 30	27	ST2701	戦国時代以降	−	（長軸 11.3、短軸 3.0）	Ⅲ a 層検出	別 10

第 51 表　遺構一覧表（9）

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
田 31	27	ST2702	戦国時代以降	−	（長軸 7.8、短軸 1.5）	Ⅲ a 層検出	別 10
田 32	27・28	ST2801・ST2703	戦国時代	−	（長軸 21.0、短軸 13.6）	Ⅲ a 層検出	別 10
田 62	26		鎌倉時代前半～室町時代前半	−	（長軸 12.0、短軸 9.5）	Ⅲ b 層　田 12 の下層水田	別 10
田 68	22		鎌倉時代前半～室町時代前半	−	（長軸 13.5、短軸 10.0）	Ⅲ b 層　田 18 の下層水田	別 9・11
田 71	25・26	北東水田・ST2505	鎌倉時代前半～室町時代前半	−	（長軸 16.3、短軸 4.5）	Ⅲ b 層　田 21 の下層水田	別 10
田 72	25・26	北西水田・ST2506	鎌倉時代前半～室町時代前半	−	（長軸 12.5、短軸 10.8）	Ⅲ b 層　田 22 の下層水田	別 10
田 73	23 ～ 25	ST2505・ST2305	鎌倉時代前半～室町時代前半	−	（長軸 19.2、短軸 15.0）	Ⅲ b 層　田 23 の下層水田	別 10
田 74	25	ST2507	鎌倉時代前半～室町時代前半	−	（長軸 8.2、短軸 4.4）	Ⅲ b 層　田 24 の下層水田	別 10
田 75	28 ～ 30	ST2804・東水田	鎌倉時代前半～室町時代前半	−	（長軸 17.0、短軸 13.8）	Ⅲ b 層　田 25 の下層水田	別 10・12
田 76	29・30	中央水田	鎌倉時代前半～室町時代前半	−	（長軸 22.6、短軸 8.8）	Ⅲ b 層　田 26 の下層水田	別 10・12
田 82	27・28	ST2803・ST2703	鎌倉時代前半～室町時代前半	−	（長軸 21.0、短軸 13.6）	Ⅲ b 層　田 32 の下層水田	別 10

畦

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
畦 1	16	南北ｱｾﾞ南	戦国時代	−	（長 10.5、下端幅 1.0 ～ 1.2、上端幅 0.8 ～ 1.0、高 0.05）	北北東方向、断面薄い台形状	別 8
畦 2	16	東西ｱｾﾞ西	戦国時代	−	（長 7.2、下端幅 1.2 ～ 1.5、上端幅 0.8 ～ 1.1、高 0.15）	東西方向、断面薄い台形状	別 8
畦 3	16	ｱｾﾞ	戦国時代以降	−	（長 2.5、下端幅 1.5、上端幅 1.0、高 0.25）		別 8
畦 4	16	東西ｱｾﾞ東	戦国時代以降	−	（長 6.3、下端幅 1.5、上端幅 1.0、高 0.2）		別 8
畦 5	16	西端高まり	戦国時代以降	−	（長 3.0、下端幅 1.2、上端幅 1.0、高 0.1）		別 8
畦 6	17	SM1701	戦国時代以降	−	（長 7.5、下端幅 1.0、上端幅 0.9、高 0.3）		別 8
畦 7	17	SM1702	戦国時代以降	−	（長 6.0、下端幅 0.8、上端幅 0.5、高 0.2）		別 8
畦 8	17	SM1703	戦国時代以降	−	（長 10.0、下端幅 0.85、上端幅 0.8、高 0.1）		別 8
畦 9	17	SM1704 北	戦国時代以降	−	（長 3.8、下端幅 0.85、上端幅 0.8、高 0.1）		別 8
畦 10	17	SM1704 南	戦国時代以降	−	（長 6.8、下端幅 0.85、上端幅 0.8、高 0.08）		別 8
畦 11	17・18	SM1803 西	戦国時代以降	−	（長 2.0、下端幅 1.0、上端幅 0.8、高 0.35）		別 8
畦 12	18	SM1803 東	戦国時代以降	−	（長 3.0、下端幅 0.7、上端幅 0.5、高 0.3）		別 8
畦 13	18	SM1802	戦国時代以降	−	（長 12.0、下端幅 0.5 ～ 0.8、上端幅 0.2 ～ 0.4、高 0.25）		別 8
畦 14	18	SM1801	戦国時代以降	−	（長 10.0、下端幅 0.5 ～ 0.8、上端幅 0.4、高 0.3）		別 8
畦 15・16	19	SM1901 南・北	戦国時代	−	（長 19.0、下端幅 1.2 ～ 1.6、上端幅 1.1 ～ 1.3、高 0.2）	南北方向、断面台形状	別 8
畦 17	19	SM1905	戦国時代以降	−	（長 0.8、下端幅 0.8、上端幅 0.7、高 0.3）		別 8
畦 18	19	SM1904	戦国時代	−	（長 3.0、下端幅 0.6、上端幅 0.45 ～ 0.5、高 0.1）	北東方向、断面薄い台形状	別 8
畦 19	19	SM1902	戦国時代	−	（長 4.8、下端幅 0.7 ～ 0.9、上端幅 0.6 ～ 0.8、高 0.1）	東西方向、断面薄い台形状	別 8
畦 20	19	SM1902 東	戦国時代以降	−	（長 1.25、下端幅 0.8、上端幅 0.5、高 0.1）		別 8
畦 21	19	SM1903	戦国時代	−	（長 2.2、下端幅 0.45 ～ 0.55、上端幅 0.3 ～ 0.35、高 0.15）	南北方向、断面薄い台形状	別 8
畦 22	20		戦国時代～近世初頭	−	（長 17.8、下端幅 0.9 ～ 1.0、上端幅 0.75 ～ 0.8、高 0.15）	南北方向、断面薄い台形状	別 8
畦 23	21		戦国時代以降	−	（長 10.8、下端幅 0.8、上端幅 0.5、高 0.25）		別 8
畦 24	21		戦国時代以降	−	（長 2.0、下端幅 0.5、上端幅 0.4、高 0.2）		別 8
畦 25	21		戦国時代以降	−	（長 1.75、下端幅 0.8、上端幅 0.5、高 0.2）		別 8
畦 26	21・22		戦国時代以降	−	（長 8.5、下端幅 0.5、上端幅 0.4、高 0.15）		別 9
畦 27	22		戦国時代以降	−	（長 6.0、下端幅 1.0、上端幅 0.8、高 0.18）	Ⅲ a 層	別 9
畦 28	22		室町時代	−	（長 5.0、下端幅 −、上端幅 −、高 0.1）	Ⅲ b 層アゼ	別 9
畦 29	22		室町時代	−	（長 6.0、下端幅 0.8 ～ 1.25、上端幅 0.5 ～ 0.8、高 0.1）	Ⅲ b 層アゼ	別 9
畦 30	26		室町時代～戦国時代	−	（長 3.2、下端幅 0.4 ～ 0.45、上端幅 0.3 ～ 0.35、高 0.1）	東西方向、断面薄い台形状	別 10
畦 31	26		戦国時代	−	（長 13.0、下端幅 0.4 ～ 0.45、上端幅 0.3、高 0.1）	東西方向、断面薄い台形状	別 10
畦 32	26	南北アゼ	戦国時代	−	（長 25.0、下端幅 0.7 ～ 1.0、上端幅 0.5 ～ 0.75、高 0.15）	南北方向、断面薄い台形状	別 10
畦 33	25	SM2502・2505	室町時代～戦国時代	−	（長 3.9、下端幅 0.55 ～ 0.65、上端幅 0.45 ～ 0.5、高 0.1）	東西方向、断面薄い台形状	別 10
畦 34	25	SM2503	戦国時代以降	−	（長 7.5、下端幅 0.8、上端幅 0.5、高 ）		別 10
畦 35	25	SM2501・2504	室町時代～戦国時代	−	（長 6.4、下端幅 0.7 ～ 0.9、上端幅 0.7 ～ 0.8、高 0.1）	南北方向、断面薄い台形状	別 10
畦 36	23・24	SM2301	戦国時代	−	（長 3.1、下端幅 0.65 ～ 0.7、上端幅 0.45、高 0.15）	北東方向、断面薄い台形状	別 10
畦 37	23・24	SM2302	戦国時代以降	−	（長 6.4、下端幅 0.6 ～ 0.7、上端幅 0.35 ～ 0.45、高 0.1 ～ 0.15）	北西方向、断面薄い台形状、SD23 に伴う畦	別 10
畦 38	23・24	SM2303	戦国時代以降	−	（長 5.0、下端幅 1.0 ～ 1.2、上端幅 0.7 ～ 0.85、高 0.1 ～ 0.15）	北西方向、断面薄い台形状、SD23 に伴う畦	別 10
畦 39	27	SM2701	戦国時代以降	−	（長 8.0、下端幅 0.9、上端幅 0.8、高 0.1）		別 10
畦 40	27	SM2702	戦国時代以降	−	（長 2.25、下端幅 0.6、上端幅 0.5、高 0.05）		別 10
畦 41	27	SM2703	戦国時代以降	−	（長 2.25、下端幅 0.5、上端幅 0.3、高 0.08）		別 10
畦 42	27	SM2705	戦国時代以降	−	（長 4.2、下端幅 0.6 ～ 1.3、上端幅 0.5 ～ 1.2、高 0.1 ～ 0.15）	東北東方向、断面薄い台形状、SD26・27 に切られる	別 10
畦 43	27	SM2704	近世以降	−	（長 12.0、下端幅 0.8 ～ 1.2、上端幅 0.2 ～ 0.5、高 0.08）	SD27 に伴う畦か	別 10
畦 44	28	SM2801	戦国時代以降	−	（長 11.2、下端幅 0.5、上端幅 0.3、高 0.08 ～ 0.2）		別 10
畦 45	29・30		戦国時代以降	−	（長 15.5、下端幅 0.75 ～ 1.0、上端幅 0.6 ～ 0.75、高 0.1 ～ 0.15）	南北方向、断面薄い台形状	別 10
畦 46	29・30		戦国時代以降	−	（長 5.0、下端幅 0.8 ～ 1.25、上端幅 0.5 ～ 1.1、高 0.2）		別 10
畦 51	16		室町時代以降	−	（長 10.5、下端幅 0.8 ～ 1.0、上端 0.35 ～ 0.45、高 0.1）	Ⅲ b 層アゼ、北北東方向、断面薄い台形状	別 9・11

ＳＤ　　溝

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
SD1	17	SD1701	奈良時代～平安時代	−	（長 10.2、幅 0.7、深 0.25）	北北西方向、断面皿状、Ⅳ層上面検出	38
SD2	19	SD1901	室町時代前半	−	（長 4.3、幅 1.1、深 0.05）	Ⅲ c 層上面検出	別 9
SD3	19	SD1902	中世以降	−	（長 2.5、幅 0.5 ～ 1.0、深 0.05）	Ⅲ c 層上面検出	別 9
SD4	19	SD1903	中世以降	−	（長 1.5、幅 0.5、深 0.05）	Ⅲ c 層上面検出	別 9
SD5	19	SD1904	中世以降	−	（長 1.8、幅 0.5 ～ 1.0、深 0.1）	Ⅲ c 層上面検出	別 9
SD6	19	SD1905	中世以降	−	（長 2.8、幅 0.5、深 0.05）	Ⅲ c 層上面検出	別 9
SD7	19	SD1906	中世以降	−	（長 1.8、幅 0.5 ～ 1.0、深 0.1）	Ⅲ c 層上面検出	別 9
SD11	22	SD2101	中世以降	−	（長 5.5、幅 1.2 ～ 2.5、深 0.2）	畦を伴う溝	別 9
SD12	22	SD2102	近世	−	（長 5.0、幅 1.7、深 0.7）	東福棟方向、断面Ｕ字形、杭列有	別 8
SD13	22	SD2103	鎌倉時代～戦国時代後半	−	（長 5.0、幅 1.3、深 0.2）	東北東方向、断面皿状、SX8 を切る	別 9
SD14	20	SD2104	近世	−	長 4.6、幅 0.5、深 0.1	耕作痕	別 8

第 52 表　遺構一覧表（10）

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
SD21	25	SD2501	奈良時代～平安時代	－	（長 7.7、幅 1.1、深 0.1）	南北方向、断面浅い皿状、Ⅳ層上面検出	39・40
SD22	25	SD2502	奈良時代～平安時代	－	（長 7.7、幅 0.7、深 0.05）	南北方向、断面浅い皿状、Ⅳ層上面検出	39・40
SD25	23･24･28	SX2805	奈良時代～平安時代	－	（長 32.0、幅 3.0 ～ 5.1、深 0.4 ～ 0.55）	東西方向、SD29 ～ 31 に切られる、刻印須恵器出土、遺物多数	42
SD26	23･24･27･28	SD2301・SD2701・SD2801	近現代	－	（長 34.0、幅 1.8 ～ 2.0、深 0.6）	北西～西北西蛇行する溝、SD27･29 を切る	別 10
SD27	23･24･27･28	SD2302・2704	近世後半	－	（長 34.0、幅 2.5、深 0.35）	北西～西北西蛇行する溝、断面皿状、SD26 に切られる	別 10
SD28	23･24	SD2303	中世以降	－	（長 5.5、幅 1.0 ～ 1.5、深）	畦を伴う溝	別 10
SD29	23･24	SD2304・SD2705	室町前半～戦国	－	（長 34.0、幅 1.2、深 0.15）	SD26･27 に切られる	別 10
SD30	23･24･27	SD2305・SD2705	鎌倉時代前半～室町時代初頭	－	（長 34.0、幅 1.0、深 0.1）	SD26･27 に切られる	別 10･12
SD31	23･24･27	SD2306	鎌倉時代前半	－	（長 34.0、幅 0.7、深 0.1）	SD30 に切られる	別 10･12
SD32	28	SD2802	弥生時代中期後葉以降	－	（長 11.2、幅 0.45 ～ 0.6、深 0.2）	東西方向、断面皿状、Ⅴ層上面検出	38
SD36	27	SD2701	近世	－	（長 2.5、幅 0.4、深）	Ⅱ層上面	別 10･12
SD37	27	SD2702	近世	－	（長 2.0、幅 0.3 ～ 0.8、深）	Ⅱ層上面、畦を伴う	別 10･12
SD38	27	SD2703	近世	－	（長 2.0、幅 0.3 ～ 0.5、深）	Ⅱ層上面	別 10･12
SD39	27	SD2704	戦国時代～近世初頭	－	（長 9.8、幅 0.5、深 0.3）	Ⅲ a 層上面検出、SD26･27 に切られ、SD30 を切る	別 10･12

ＳＫ　　土坑

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
SK1	25	SK2501	古代	楕円形	長軸 0.6、短軸 0.5、深 0.08	Ⅳ層上面検出	39
SK2	27	SK2701	近世か	楕円形	長軸 0.5、短軸 0.4、深 0.1	Ⅲ a 層上面検出	別 10
SK3	27	SK2702	近世か	楕円形	長軸 0.35、短軸 0.3、深 0.07	Ⅲ a 層上面検出	別 10

ＳＸ　　不明遺構・その他

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
SX1	16	東高まり SX1601	鎌倉時代前半	－	（長 12.0、幅 1.0 ～ 3.5、高 0.3）	Ⅲ c 層検出、段丘崖崩落土ベース	別 8･9･11
SX6	19	SX1901	鎌倉時代以降	（不整形）	（長軸 3.9、短軸 1.2 ～ 1.6、深 0.1）	Ⅲ c 層上面検出	別 9
SX7	19	SX1902	室町時代以降	（不整形）	（長軸 1.6、短軸 1.2 ～ 1.5、深 0.1）	Ⅲ c 層上面検出	別 9
SX8	22	SX2201	奈良時代～平安時代	－	（長 3.4、幅 1.9、深 0.5 ～ 0.6）	断面皿状、SD13 に切られる、時期は SD25 に似る	別 9
SX9	23･24	SX2301	近現代	－	－	耕作痕	－
SX11	25	SX2501	奈良時代～平安時代	不明	（長軸 11.5、短軸 6.0、深 0.5）	低地　刻印須恵器・灰釉出土	39・40
SX16	27	SX2701	近世	－	－	耕作痕	－
SX17	27	SX2702	近世	－	－	耕作痕	－
SX18	27	SX2703	近世	－	－	耕作痕	－
SX21	27･28	SX2801	近世	－	－	耕作痕	－
SX22	27･28	SX2802	近世	－	－	耕作痕	－
SX23	27･28	SX2803	近世	－	－	耕作痕	－
SX24	27･28	SX2804	近世	－	－	耕作痕	－
SX26	28	SX2806	古代	不整形	長軸 2.1、短軸 1.6、深 0.3	SD25 にとりつく低地	39
SX27	28	SX2807	古代	不整形	長軸 2.6、短軸 1.5、深 0.38	SD25 にとりつく低地	39
SX28	28	SX2808	古代	不整形	長軸 1.2、短軸 0.8、深 0.4	SD25 にとりつく低地	39
SX29	28	SX2809	古代	不整形	長軸 1.5、短軸 1.2、深 0.34	SD25 にとりつく低地	39
SX30	28	SX2810	古代	不明	（長軸 8.5、短軸 7.0、深 0.2）	南側低地	39
SX31	23	SX2811	古代	不明	長軸 1.1、短軸 1.3、深 0.06	SD25 にとりつく低地	39
SX32	23	SX2812	古代	不明	長軸 1.0、短軸 0.8、深 0.1	SD25 にとりつく低地	39
SX33	23	SX2813	古代	不明	長軸 0.8、短軸 0.5、深 0.2	SD25 にとりつく低地	39
SX36	29･30	SX2901	近世	－	－	耕作痕	－

杭列

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
杭列 1	16	杭列	平安時代	－	（杭列長 9.5）	Ⅲ c ～Ⅳ層検出	別 9
杭列 2	19	杭列	鎌倉時代以降	－	（杭列長 4.5）	Ⅲ c 層上面検出	別 9
杭列 3	22	SD2202 杭列	近現代	－	（杭列長 4.3）	重機掘削時に確認	－
杭列 4	23･24･27	SD2301 杭列北	近現代	－	（杭列長 31.3）		別 9
杭列 5	23･24･27･28	SD2301 杭列南	近現代	－	（杭列長 32.5）		別 9
杭列 6	23・24	SD2305 杭列	中世以降	－	（杭列長 9.0）	23・24 区のみ確認、SD30 に伴う杭列	別 9
杭列 7	25・26	杭列	近現代	－	（杭列長 33.3）	重機掘削時に確認	－

Ｐｉｔ　　柱穴など

遺構名	調査区	調査時遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
P1	18	P1701	中世以降	（楕円形）	（長軸 0.4、短軸 0.24、深 0.03）	畦畔付近、窪みか	別 8
P11	25	P2501	古代	（円形）	（直径 0.5、深 0.1）	Ⅴ層上面検出、浅い	39
P12	25	P2502	古代	楕円形	長軸 0.3、短軸 0.25、深 0.05	Ⅴ層上面検出、浅い	39
P13	25	P2503	古代	円形	直径 0.3、深 0.08	Ⅴ層上面検出、浅い	39
P14	25	P2504	古代	円形	直径 0.3、深 0.05	Ⅴ層上面検出、浅い	39
P15	25	P2505	古代	楕円形	長軸 0.35、短軸 0.3、深 0.08	Ⅴ層上面検出、浅い	39
P16	25	P2506	古代	円形	直径 0.35、深 0.05	Ⅴ層上面検出、浅い	39
P17	25	P2507	古代	円形	直径 0.25、深 0.05	Ⅴ層上面検出、浅い	39
P18	25	P2508	古代	楕円形	長軸 0.4、短軸 0.35、深 0.04	Ⅴ層上面検出、浅い	39
P19	25	P2509	古代	円形	直径 0.3、深 0.08	Ⅴ層上面検出、浅い	39
P20	25	P2510	古代	円形	直径 0.3、深 0.15	Ⅴ層上面検出、浅い	39

第 53 表　遺構一覧表（11）

遺構名	調査区	調査時 遺構名	時期	形状	規模（m）	備考	図番号
P21	27	P2701	近世	円形	直径 0.35、深 0.2	Ⅲ a 層上面検出	別 10
P22	27	P2702	近世	円形	直径 0.45、深 0.15	Ⅲ a 層上面検出	別 10

第 54 表　遺構一覧表（12）

第6章　自然科学分析

第1節　土坑内埋土のリン・カルシウム分析

竹原弘展（パレオ・ラボ）

＜平成20年度＞

1．はじめに

岩田東Ａ遺跡で検出された土坑および土器内の埋土について蛍光X線分析によるリン・カルシウム分析を行い、人骨が存在した可能性を検討した。

2．試料と方法（第55表）

試料は、8区SZ1内で出土した土器棺の可能性のある土器の埋土（分析№1）と、土坑墓の可能性のある6土坑（9区SK219、11区SK250、11区SK251、13区SK263、13区SK264、13区SK265）の埋土（分析№2～№7）の計7点である（第55表）。いずれも埋土の最下層より採取して分析試料とした。遺構の時期は、分析№1が弥生時代後期後半、分析№2～№7が中世である。

分析№	調査区	遺構名等	備考
1	8区	SZ1内土器	土器棺か、土サンプル下層
2	9区	SK219	土坑墓か、最下層
3	11区	SK250	土坑墓か、最下層
4	11区	SK251	土坑墓か、最下層
5	13西区	SK263	土坑墓か、最下層
6	13西区	SK264	土坑墓か、最下層
7	13西区	SK265	土坑墓か、最下層

第55表　分析試料（1）

分析は藤根ら（2008）の方法に従って行った。測定試料は、乾燥後、粉砕をせずに塩化ビニル製リングに充填して、油圧プレス機で20t・1分間プレスしたものを作成、使用した。

分析装置はエネルギー分散型蛍光X線分析装置である（株）堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000TypeⅡを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1.00mAのロジウム（Rh）ターゲット、X線ビーム径が100μmまたは10μm、検出器は高純度Si検出器（Xerophy）で、検出可能元素はナトリウム（Na）～ウラン（U）である。また、試料ステージを走査させながら測定することにより元素の二次元的な分布画像を得る、元素マッピング分析も可能である。

本分析では、まず元素マッピング分析を行い元素の分布図を得て、その結果を基にリン（P）のマッピング図の輝度の高い箇所を選び、ポイント分析を行った。また、ポイントを選ぶ際には、ジルコニウム（Zr）のLα線がリンのKα線のピークに近いため、ジルコニウム（元素マッピングはKα線で測定）の輝度の高い箇所は避けるよう留意した。測定条件は、元素マッピング分析では50kV、1.00mA、ビーム径100μm、測定時間2000sを5回走査、パルス処理時間P3に、ポイント分析では50kV、0.10～0.30mA（自動設定）、ビーム径100μm、測定時間500s、パルス処理時間P4に設定して行った。定量計算は、装置付属ソフトによる標準試料を用いないファンダメンタル・パラメーター法で行っており、半定量値である。

3．結果（第56表・図版75～81）

各試料の元素マッピング図およびマッピング図に示した5箇所のポイント分析のスペクトルを図版75～81に、酸化物の形で表した半定量値を第56表に示す。測定の結果、P_2O_5が0.36～12.02%、

分析ポイント		Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	MnO_2	Fe_2O_3	Rb_2O	SrO	Y_2O_3	ZrO_2
No.1	1	19.56	61.10	**2.73**	0.34	1.63	**2.11**	1.18	0.32	10.90	0.03	—	0.02	0.06
	2	23.44	57.33	**0.79**	0.41	1.88	**0.36**	1.56	0.49	13.58	0.05	—	0.02	0.09
	3	24.55	57.13	**0.70**	0.42	1.77	**0.55**	1.29	0.33	12.99	0.04	0.02	0.02	0.19
	4	27.37	45.96	**1.55**	0.63	2.17	**0.93**	2.46	0.39	18.29	0.06	0.02	0.03	0.12
	5	22.55	57.44	**1.13**	0.45	1.78	**0.46**	1.30	0.43	14.30	0.05	—	0.02	0.09
No.2	1	15.06	50.38	**12.02**	0.31	1.64	**11.19**	1.05	0.30	7.92	0.03	0.03	—	0.06
	2	19.86	61.23	**0.74**	0.56	1.75	**0.41**	1.15	0.39	13.80	0.03	—	—	0.08
	3	17.88	71.47	**0.36**	0.52	1.37	**0.17**	0.69	0.29	7.17	0.03	—	—	0.05
	4	17.35	66.65	**0.45**	0.55	1.71	**0.28**	0.89	0.28	11.73	0.02	—	—	0.09
	5	21.04	59.04	**0.79**	0.79	1.79	**0.38**	1.34	0.32	14.40	0.04	—	—	0.08
No.3	1	20.75	60.74	**0.60**	0.47	3.01	**0.37**	1.10	0.34	12.52	0.04	—	—	0.07
	2	21.68	58.90	**0.44**	0.36	2.04	**0.23**	2.52	0.28	13.42	0.05	—	—	0.09
	3	18.09	65.20	**0.48**	0.38	2.53	**0.85**	1.10	0.44	10.66	0.04	0.02	—	0.20
	4	22.55	61.07	**0.78**	0.43	2.23	**0.29**	1.08	0.26	11.21	0.04	—	—	0.07
	5	24.68	54.95	**0.55**	0.40	2.16	**0.22**	1.21	0.22	15.47	0.04	—	—	0.09
No.4	1	21.59	57.78	**0.49**	0.41	2.28	**0.63**	1.60	0.41	14.69	0.04	—	—	0.07
	2	19.30	63.19	**0.52**	0.38	1.64	**0.35**	1.01	0.34	13.14	0.04	—	—	0.08
	3	19.28	64.02	**0.55**	0.40	1.85	**0.49**	1.14	0.42	11.72	0.04	—	—	0.08
	4	22.06	57.46	**0.62**	0.43	1.91	**0.37**	1.36	0.44	15.23	0.04	—	—	0.08
	5	22.58	56.51	**0.65**	0.44	2.28	**0.50**	1.35	0.38	15.10	0.05	0.02	0.02	0.09
No.5	1	21.96	57.57	**0.90**	0.38	1.98	**0.54**	1.29	0.40	14.87	0.05	—	—	0.07
	2	22.59	54.18	**0.76**	0.47	2.24	**0.37**	1.29	0.31	17.69	0.04	—	—	0.07
	3	21.34	64.80	**0.59**	0.41	2.51	**0.45**	1.21	0.17	8.45	—	—	—	0.07
	4	21.49	59.98	**0.41**	0.39	1.93	**0.34**	1.24	0.39	13.70	0.04	—	—	0.09
	5	22.32	57.38	**0.73**	0.43	2.05	**0.51**	1.60	0.38	14.47	0.05	0.02	—	0.07
No.6	1	17.02	43.94	**11.70**	0.30	1.56	**15.37**	0.82	0.25	8.88	0.04	0.03	0.02	0.09
	2	20.96	61.86	**0.83**	0.33	4.04	**0.38**	1.05	0.35	10.09	0.04	—	—	0.06
	3	21.19	59.38	**0.51**	0.38	2.34	**0.54**	1.26	0.33	13.86	0.05	0.02	0.02	0.12
	4	21.13	60.83	**0.97**	0.31	2.07	**0.47**	1.34	0.71	12.07	0.05	—	—	0.07
	5	21.11	62.05	**0.64**	0.29	2.26	**0.47**	1.09	0.36	11.60	0.04	0.03	—	0.06
No.7	1	16.95	66.61	**0.48**	0.31	2.69	**0.49**	0.86	0.33	11.21	0.03	—	—	0.05
	2	19.93	62.51	**0.66**	0.36	2.29	**0.44**	1.13	0.36	12.05	0.04	—	—	0.23
	3	20.63	60.99	**0.63**	0.39	2.12	**0.53**	1.27	0.43	12.88	0.04	—	—	0.08
	4	19.43	57.71	**0.71**	0.33	1.73	**0.45**	1.19	0.42	17.86	0.04	0.02	0.02	0.07
	5	19.13	62.25	**0.78**	0.31	1.93	**0.55**	1.22	0.39	13.30	0.05	0.03	—	0.07

第 56 表　半定量分析結果（1）

CaO が 0.17 ～ 15.37% であった。

４．考察

ヒトを含む動物の骨や歯は、ハイドロキシアパタイト $Ca5(PO_4)3OH$ が主成分であり、すなわち蛍光 X 線分析ではリン（P）とカルシウム（Ca）が高く検出されることになる。ただし、鉱物由来の可能性も考慮する必要があり、特にカルシウムは一般的にもともと土砂中に多く含まれている元素であり、カルシウムのみの検出では骨由来であるか判断し難く、分析ではリンを中心に検討した。また、元は骨が存在していたが分解・拡散が進行し、現状ではほとんどリンが検出されないという可能性も十分にあり、検出されないからといって即座に骨が存在しなかったことを示すとは限らないと考えられる。

今回の測定では、分析№.2 と№.6 でリンをかなり多く含む箇所が存在し、その箇所はカルシウムも同様に多かった事から、骨・歯に由来する成分である可能性が高いと考えられる。また、分析№.1 もリンとカルシウムが共に比較的多い箇所があり、これについても骨・歯に由来する可能性がある。その他の試料はいずれもリンが 1% 未満であり、リン・カルシウム共に明らかに多く含む箇所は見出せなかった。

５．おわりに

土坑内埋土について蛍光X線分析した結果、9区SK219（分析№2）と13区西SK264（分析№6）の試料より、リン・カルシウムの含有量の多い箇所が検出された。また、8区SZ1内土器内埋土（分析№1）からも、リン・カルシウムの含有量が比較的多い箇所が検出された。以上より、自然科学的見地から、一部遺構について骨・歯などが存在していた可能性を指摘できた。人骨の埋葬された土坑墓または土器棺であったか否かについては、出土状況など考古学的所見と総合して判断することが望まれる。

<引用文献>

藤根久・佐々木由香・中村賢太郎（2008）蛍光X線装置を用いた元素マッピングによるリン・カルシウム分析．日本文化財科学会第25回大会研究発表要旨集，108-109.

<平成22年度>

1. はじめに

岩田東Ａ遺跡の遺構より採取した土壌について、蛍光X線分析によるリン･カルシウム分析を行い、骨の痕跡が残っていないか調査した。

2. 試料と方法

試料は、第57表に示す遺構内土壌の計6点である。

試料	調査区	遺構	層位
№1	1区	SK2	
№2	3区	SK55	2層
№3	3区	SK56	2層
№4	4区	SK83	3層
№5	5区	SK84	3層
№6	6区	SK125	2層

第57表　分析試料（2）

分析は、藤根ほか（2008）の方法に従って行った。この方法は、元素マッピング分析によりリン、カルシウムを多く含む箇所を直接的に検出できるという利点がある。測定試料は、乾燥後、極軽く粉砕して塩化ビニル製リングに充填し、油圧プレス機で20t・1分以上プレスしたものを作製、使用した。

分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置である（株）堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000TypeⅡを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1.00mAのロジウム(Rh)ターゲット、X線ビーム径が100μmまたは10μm、検出器は高純度Si検出器(Xerophy)で、検出可能元素はナトリウム(Na)～ウラン(U)である。また、試料ステージを走査させながら測定することにより元素の二次元的な分布画像を得る、元素マッピング分析も可能である。

本分析では、まず元素マッピング分析を行い、元素の分布図を得て、その結果を基にリン(P)のマッピング図において輝度の高い箇所を選び、ポイント分析を行った。測定条件は、元素マッピング分析では50kV、1.00mA、ビーム径100μm、測定時間2000sを4回走査、パルス処理時間P3に、ポイント分析では50kV、0.10～0.26mA（自動設定）、ビーム径100μm、測定時間500s、パルス処理時間P4に設定して行った。定量計算は、装置付属ソフトによる標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法で行っており、半定量値である。

試料	ポイント	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	MnO_2	Fe_2O_3	Rb_2O	SrO	Y_2O_3	ZrO_2
No.1	a	0.09	21.08	66.99	**0.71**	0.52	1.72	**0.50**	0.94	0.20	7.21	0.00	0.01	0.01	0.02
	b	0.56	21.92	64.40	**0.59**	0.35	1.64	**0.39**	0.84	0.28	8.99	0.01	0.00	0.01	0.03
	c	0.15	22.24	63.64	**0.54**	0.44	1.80	**0.46**	0.94	0.31	9.42	0.01	0.01	0.01	0.03
	d	0.15	21.63	64.00	**0.82**	0.46	1.49	**0.45**	0.97	0.22	9.76	0.01	0.00	0.01	0.03
	e	0.02	20.21	67.21	**0.52**	0.39	1.67	**0.46**	0.86	0.18	8.42	0.01	0.01	0.01	0.03
No.2	a	0.14	21.49	65.97	**0.75**	0.55	1.61	**0.40**	0.85	0.23	7.96	0.01	0.00	0.01	0.03
	b	0.00	23.54	60.41	**1.34**	0.53	1.64	**0.37**	1.07	0.32	10.67	0.01	0.01	0.00	0.09
	c	0.01	23.59	62.27	**1.02**	0.57	1.61	**0.41**	1.15	0.23	9.07	0.01	0.01	0.01	0.03
	d	0.33	22.34	63.51	**0.91**	0.42	1.61	**0.32**	0.99	0.34	9.18	0.01	0.01	0.01	0.03
	e	0.58	21.75	63.68	**0.84**	0.46	1.54	**0.35**	1.00	0.27	9.48	0.01	0.01	0.01	0.03
No.3	a	0.73	21.96	65.56	**0.93**	0.36	1.61	**0.29**	0.95	0.26	7.29	0.01	0.00	0.00	0.02
	b	0.01	24.48	61.00	**0.95**	0.48	1.43	**0.41**	1.21	0.32	9.65	0.01	0.01	0.01	0.03
	c	0.73	21.99	64.36	**0.88**	0.45	1.54	**0.33**	0.97	0.22	8.47	0.01	0.01	0.01	0.03
	d	0.02	25.40	59.44	**0.73**	0.57	1.52	**0.70**	1.31	0.29	9.95	0.02	0.01	0.01	0.04
	e	0.09	22.07	64.87	**0.93**	0.30	1.80	**0.86**	0.96	0.25	7.81	0.01	0.01	0.01	0.02
No.4	a	0.00	16.79	70.92	**0.70**	0.28	1.24	**0.37**	1.69	0.14	7.84	0.01	0.01	0.00	0.03
	b	0.86	14.96	71.25	**0.50**	0.20	1.40	**0.92**	0.70	0.29	8.74	0.01	0.02	0.01	0.16
	c	0.79	19.63	69.36	**0.79**	0.29	2.67	**0.23**	0.66	0.15	5.39	0.01	0.01	0.00	0.02
	d	0.00	17.26	72.78	**0.78**	0.31	1.23	**0.29**	0.90	0.19	6.21	0.01	0.01	0.01	0.03
	e	0.04	16.46	66.81	**3.57**	0.32	1.41	**2.10**	1.09	0.14	8.03	0.01	0.01	0.01	0.03
No.5	a	0.78	20.71	66.46	**0.87**	0.39	1.72	**0.29**	0.86	0.23	7.66	0.01	0.00	0.01	0.02
	b	0.00	19.45	67.90	**0.53**	0.36	1.88	**0.69**	0.87	0.20	8.07	0.01	0.00	0.01	0.03
	c	0.00	24.42	59.95	**0.99**	0.41	2.17	**0.37**	1.16	0.24	10.23	0.01	0.00	0.01	0.03
	d	0.00	6.09	89.89	**0.15**	0.11	0.36	**0.05**	0.31	0.07	2.92	0.01	0.01	0.01	0.03
	e	0.19	20.48	66.04	**0.63**	0.38	2.55	**0.18**	1.57	0.09	7.86	0.01	0.00	0.01	0.02
No.6	a	0.57	20.08	57.35	**8.47**	0.49	1.65	**4.42**	0.72	0.23	5.95	0.01	0.01	0.01	0.03
	b	0.73	22.24	63.75	**0.71**	0.56	1.86	**0.17**	0.97	0.23	8.70	0.01	0.02	0.01	0.03
	c	0.56	24.71	51.35	**5.04**	1.86	1.65	**0.31**	1.01	2.68	10.76	0.02	0.01	0.01	0.03
	d	0.66	25.37	59.39	**0.68**	0.73	1.95	**0.36**	0.93	0.25	9.60	0.02	0.00	0.01	0.04
	e	0.43	22.76	62.25	**0.77**	0.58	1.87	**0.24**	1.01	0.23	9.80	0.01	0.00	0.01	0.03

(mass%)

第58表　半定量分析結果（2）

3. 結果（表58・図版82・83）

各試料の元素マッピング図およびポイント分析の箇所5点を図版82・83に、ポイント分析結果より酸化物の形で表した半定量値を第58表に示す。分析の結果、リン（P2O5）が0.15～8.47%、カルシウム（CaO）が0.05～4.42%の値を示した。

4. 考察

ヒトを含む動物の骨や歯は、ハイドロキシアパタイト$Ca5(PO_4)3OH$が主成分であり、すなわち蛍光X線分析ではリン（P）とカルシウム（Ca）が共に高く検出される。一例として、現生標本および遺跡出土骨・歯の同装置での半定量値を第59表に示す。ただし、リンとカルシウムは鉱物由来の可能性も考慮する必要があり、特にカルシウムは一般的にもともと土砂中に多く含まれている元素である点に注意を要する。また、貝殻はもちろん、木材なども蛍光X線分析では高いカルシウム含有量を示す。したがって、カルシウムのみの検出では骨由来であるか判断し難いため、分析ではリンを中心に検討した。しかし、本来は骨が存在していたが、堆積・埋没過程で分解拡散が進行し、現状ではほとんどリンが検出されない可能性や、骨からビビアナイト$Fe3(PO_4)2\cdot8H2O$が析出しているケースのように骨由来のリンが多く検出される箇所でもカルシウムが少ないという可能性もある。第59表に示され

試料	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	MnO_2	Fe_2O_3	Rb_2O	SrO	Y_2O_3	ZrO_2
例1	1.53	1.12	3.44	**30.41**	0.81	0.04	**57.88**	0.18	0.60	3.87	0.00	0.11	0.01	0.01
例2	0.66	0.85	3.95	**19.02**	0.72	0.11	**1.66**	0.09	0.44	72.07	0.01	0.38	0.01	0.02
例3	1.60	5.10	11.03	**25.49**	0.29	0.24	**49.57**	0.28	0.52	5.62	0.00	0.21	0.04	0.02
例4	0.35	0.04	0.29	**36.17**	0.10	0.00	**62.83**	0.01	0.01	0.05	0.00	0.13	0.01	0.01
例5	0.97	1.16	5.44	**26.83**	0.47	0.13	**1.36**	0.00	0.83	62.73	0.02	0.06	0.00	0.01
例6	0.56	2.23	6.42	**35.40**	0.62	0.09	**54.31**	0.09	0.00	0.23	0.00	0.03	0.00	0.01
例7	0.32	3.18	2.94	**26.69**	0.48	0.08	**35.60**	0.52	2.38	27.50	0.00	0.24	0.06	0.01
例8	2.82	0.00	0.42	**34.75**	0.21	0.00	**57.29**	0.37	0.62	3.35	0.00	0.14	0.03	0.01
例9	0.93	2.79	6.32	**31.12**	0.19	0.07	**57.71**	0.07	0.03	0.69	0.00	0.07	0.01	0.01

(mass%)

例1:現生タヌキ肋骨，例2:出土ウマ顎骨，例3:出土ウマ臼歯，例4:出土哺乳類四肢骨(焼)，例5:出土ウマorウシ顎骨，
例6:出土ヒト四肢骨，例7:出土シカ下顎骨，例8:出土シカ臼歯，例9:出土哺乳類骨(焼)

第59表　現生標本および遺跡出土骨・歯の蛍光X線分析例

るように、遺跡出土の骨に含まれるカルシウムの量は、リンの約2倍含まれる例から、リンと比較して極めて少ない例まで存在する。

分析の結果、試料№.4（リン最大3.57%）と№.6（同8.47%）から、リンが明らかに多い箇所が検出された。これら試料は､カルシウムも同時に多く含まれる箇所があり､骨･歯に由来する可能性が高い。

また、他の遺構の試料もリンが1%前後含まれている箇所が検出された。これらは、土壌に含まれるリン含有量としては、一般的にはやや多いと考えられ、骨・歯に由来する可能性がある。

5. おわりに

遺構より採取した土壌について蛍光X線分析を行った結果、試料№.4、№.6からはリン、カルシウムともに明らかに多く含まれる箇所が検出された。また、その他の試料もリンをやや多く含む箇所が検出された。以上、自然科学的見地から、これらの遺構においてヒトを含む動物の骨・歯などの存在を示唆する結果を得た。遺構の性格については、出土状況や類例など考古学的所見と総合して判断することが望まれる。

＜引用文献＞

藤根久・佐々木由香・中村賢太郎（2008）蛍光X線装置を用いた元素マッピングによるリン・カルシウム分析．日本文化財科学会第25回大会研究発表要旨集，108-109.

第2節　岩田東A遺跡および岩田西遺跡のプラント・オパール

鈴木　茂（パレオ・ラボ）

＜平成20年度＞

1. はじめに

段丘上に立地している岩田東A遺跡において行われた発掘調査で、方形周溝墓（弥生時代後期）や住居址（古墳時代後期）、集落址（弥生時代中期、古墳時代末～奈良時代、中世）などが検出されている。この発掘調査に際し調査区壁面より土壌試料が採取された。以下にこの土壌試料について行ったプラント・オパール分析の結果を示し、岩田東A遺跡におけるイネやイネ科植生について検討した。

2. 試料と分析方法

分析用試料は11調査区の壁面より採取された6試料である。各試料について、試料1（Ⅰa層:表土）は黒褐色の土壌、試料2（Ⅰb層：畑土）は上位よりしまった黒褐色土壌、試料3（Ⅱa層：畑土？）は黒褐色の砂質粘土、試料4（Ⅱb層）は黒色土壌、試料5（Ⅲ層）は黒褐色のローム質土が混じる黒色シルト質粘土（土壌的）、試料6（Ⅳ層）は黒褐色のシルト質粘土（土壌的）である。時期について、Ⅰa層（試料1）が現代、Ⅱb層（試料2）が近代～現代、Ⅱa層（試料3），Ⅱb層（試料4）が中世～近世、Ⅲ層（試料5）が弥生時代～中世、Ⅳ層（試料6）が弥生時代以前と考えられている。プラント・オパール分析はこれら6試料について以下のような手順にしたがって行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約Ⅰg（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02 gのガラスビーズ（直径約0.04㎜）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20 ～ 30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01㎜以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数はガラスビーズが300個に達するまで行った。

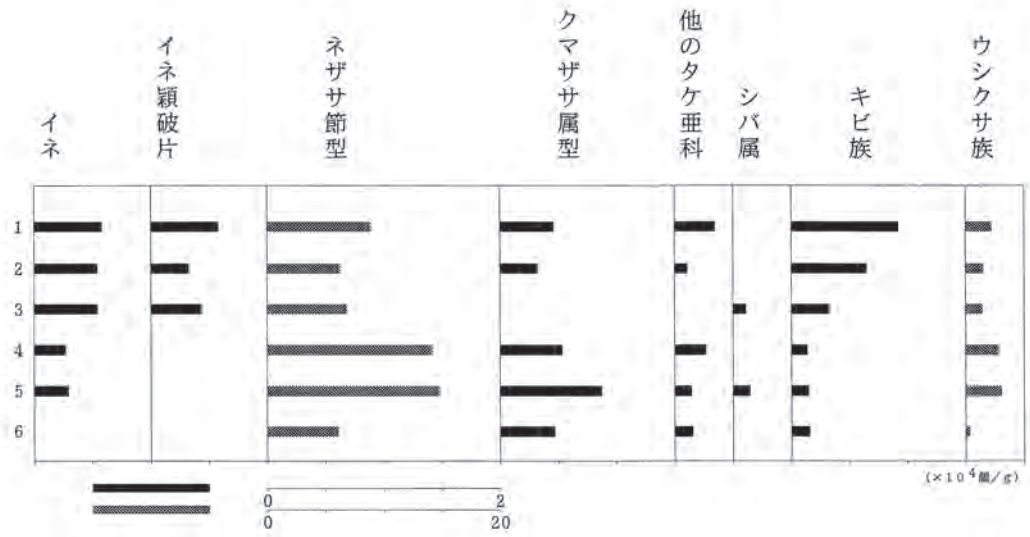
3. 分析結果（図版62）

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め（第60表）、それらの分布を第100図に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は試料1g当りの検出個数である。

検鏡の結果、最下部の試料6を除く上位5試料からイネのプラント・オパールが検出された。個数的には上位3試料で5,000個以上を示しており、下部の2試料は3,000個弱であった。またイネの穎

調査区	試料番号	層位名	イネ（個/g）	イネ穎破片（個/g）	ネザサ節型（個/g）	クマザサ属型（個/g）	他のタケ亜科（個/g）	シバ属（個/g）	キビ族（個/g）	ウシクサ族（個/g）	不明（個/g）
11区	1	Ⅰa層	5,800	5,800	89,000	4,600	3,500	0	9,200	22,000	15,000
	2	Ⅰb層	5,400	3,200	62,500	3,200	1,100	0	6,500	15,100	15,100
	3	Ⅱa層	5,400	4,300	67,500	0	0	1,100	3,200	13,900	9,600
	4	Ⅱb層	2,700	0	141,700	5,300	2,700	0	1,300	28,100	17,400
	5	Ⅲ層	2,900	0	147,900	8,700	1,400	1,400	1,400	30,400	27,500
	6	Ⅳ層	0	0	60,800	4,700	1,600	0	1,600	3,100	17,100

第60表　試料1 gあたりのプラント・オパール個数（1）



第 100 図　岩田東Ａ遺跡 11 区のプラント・オパール分布図

(籾殻部分) に形成される珪酸体の破片が上位 3 試料から得られている。最も多く検出されたのはネザサ節型で 60,000 個以上を示しており、試料 4,5 では 140,000 個を越えている。次いでウシクサ族が多く、ネザサ節型同様に試料 4,5 において他試料よりやや高い検出個数（30,000 個前後）を示している。キビ族は上部 3 試料で急増しており､最上部試料 1 では 10,000 個近くに達している。その他、クマザサ属型やシバ属などが観察されている。

4. イネについて

上記したように、最下部の試料 6 を除く上位 5 試料よりイネのプラント・オパールが検出された。ここで検出個数の目安を示すと、イネのプラント・オパールが試料 1g 当り 5,000 個以上検出された地点から推定された水田址の分布範囲と、実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている（藤原，1984)。こうしたことから、稲作の検証としてこの 5,000 個を目安に、プラント・オパールの産出状態や遺構の状況をふまえて判断されている。先にも記したが岩田東Ａ遺跡においては上位 3 試料において 5,000 個を越える個数のイネのプラント・オパールが得られており、検出個数のみからは中世～近世以降において稲作が行われていた可能性は高いと判断される。試料 2,3 は畑土あるいは畑土ではないかと考えられていることから稲作が行われていたとすると陸稲栽培であった可能性が推察される。また一方で、畑の肥料等に稲藁や籾殻あるいはそれらの灰が用いられることによってイネやイネ穎部のプラント・オパールがもたらされたことも考えられる。このように検出個数のみからは稲作が行われていた可能性が推察されるものの、この稲作についてはさらに検討が必要と思われる。

試料 4（中世～近世），試料 5（弥生時代～中世）においては 5,000 個に達していないことから稲作が行われていた可能性は低いと判断され、何らかの要因で周辺部よりイネのプラント・オパールがもたらされたものと推測されよう。

5. 遺跡周辺のイネ科植物

ネザサ節型が最も多く検出されており、遺跡周辺に成立していた森林の林縁部や空き地などの日の当たる開けたところにケネザサ､ゴキダケといったネザサ節型のササ類が生育していたと推測される。ウシクサ族（ススキ，チガヤなど）も同じような所に分布していたと推測され、ネザサ節型のササ類とともにススキーケネザサ群集といった草地を形成していたとみられる。またシバ属も遺跡周辺の空き地などに生育していたと推測される。一方、クマザサ属型のササ類（スズタケ，ミヤコザサなど）については森林の下草的存在で生育していたと推測される。

キビ族についてはその形態からアワ，ヒエ，キビといった栽培種によるものか、エノコログサ，スズメノヒエ，イヌビエなどの雑草類によるものかについて現時点においては分類が難しく不明であるが、ここでは稲作にともなう雑草類（イヌビエ、タイヌビエなど）ではないかと思われる。

＜引用文献＞

藤原宏志（1984）プラント・オパール分析法とその応用－先史時代の水田址探査－．考古学ジャーナル，227，2-7.

＜平成 22 年度＞

1. はじめに

長良川左岸の河岸段丘上に立地している岩田東Ａ遺跡および同低地に立地している岩田西遺跡において行われた発掘調査で、計 6 調査区より土壌試料が採取された。以下にこの土壌試料について行ったプラント・オパール分析の結果を示し、稲作地の有無について検討した。

2. 試料

分析用試料は、岩田東Ａ遺跡の 6 調査区より採取された 6 試料、および岩田西遺跡の 16,18,21,25,27 調査区より採取された 32 試料の総計 38 試料である。以下に各試料について簡単に記す。

岩田東Ａ遺跡 6 区：試料 No.1a（Ⅰａ層：現代）および試料 No.1b（Ⅰｂ層：近代～現代）は黒褐色のシルト質細粒砂、試料 No.2a（Ⅱａ層:中世～近世）は暗褐色のシルト質細粒砂、試料 No.2b（Ⅱｂ層：中世～近世）は黒～黒褐色のシルト質細粒砂、試料 3（Ⅲ層：弥生時代～中世）は黒色土壌、試料 4（Ⅳ層：弥生時代以前）は黒～黒褐色の土壌で、さらに下位は褐色のローム質土（Ⅴ層：地山）である。

岩田西遺跡 16 区：試料 No.1（Ⅱａ層：近世）は暗褐色の有機質シルト、試料 No.2（Ⅲａ層：16 世紀前後）は褐色の砂質シルト、試料 No.3（Ⅲｂ層:中世）は褐色のシルト、試料 No.4（Ⅲｃ層上層:古代から中世）は灰褐色のシルト、試料 No.5（Ⅲｃ層下層：古代）は灰褐色の粘土質シルト、試料 No.6（Ⅳ層:古代）は暗褐色の有機質の粘土質シルト、試料 No.7（Ⅴａ層:地山、古代以前）はオリーブ灰色の粘土である。

岩田西遺跡 18 区:試料 No.1(Ⅱa 層:近世)は暗褐色の砂質シルト、試料 No.2(Ⅲa 層:16 世紀前後)は灰黄褐色の砂質シルト、試料 No.3(Ⅲb 層:中世)は灰黄褐色の粘土質シルトである。試料 No.6(Ⅲc 層上層:古代から中世)は黄褐色のシルト、試料 No.7 ～ 9 は灰黄色シルト(Ⅲc 層下層・Ⅳ層・Ⅴa 層:古代もしくは古代以前)、試料 No.10(Ⅴb 層:地山、古代以前)は黄褐色のシルトである。

岩田西遺跡 21 区(深堀③):試料 No.2 上(Ⅲc 層上層:古代から中世)は黒褐色の粘土質シルト、試料 No.2 下(Ⅲc 層下層:古代)は黒褐色のシルト、試料 No.3(Ⅳ層:古代)は黒褐色のシルト質粘土、試料 No.4(Ⅴa 層:地山、古代以前)はオリーブ褐色のシルト質粘土、試料 No.5(Ⅴb 層:地山、古代以前)は暗オリーブ褐色のシルト質粘土である。

岩田西遺跡 25 区:試料 No.1(Ⅱa 層:近世)は黒褐色のシルト混じりの細砂、試料 No.2(Ⅲa 層:中世)が褐灰色の細砂混じりシルト、試料 No.3(Ⅲb 層:中世)が灰色の細砂混じりシルト、試料 No.4(Ⅲc 層上部:古代～中世?)が褐灰色の極細砂混じりシルト、試料 No.5(Ⅲc 層中部:古代以前)が暗灰色シルト、試料 No.6(Ⅲc 層下部:古代以前)が灰色の粘土質シルト、試料 No.7(Ⅳ層:古代)が暗灰色の粘土質シルト、試料 No.8(Ⅴa 層:地山)が褐色の粘土である。

岩田西遺跡 27 区:試料 No. Ⅲc(Ⅲc 層:古代～中世)は褐灰色のシルト質粘土、試料 No. Ⅳ(Ⅳ層:古代)は暗褐色の粘土、試料 No.SD25 は黒褐色粘土、試料 No. Ⅴ(Ⅴa 層:地山、古代以前)も黒褐色の粘土である。

3. 分析方法

上記した 38 試料について以下のような手順にしたがってプラント・オパール分析を行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約 1g(秤量)をトールビーカーにとり、約 0.02g のガラスビーズ(直径約 0.04㎜)を加える。これに 30% の過酸化水素水を約 20 ～ 30cc 加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により 0.01㎜以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数はガラスビーズが 300 個に達するまで行った。

4. 分析結果(図版 63)

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料 1g 当りの各プラント・オパール個数を求め(第 61 表:岩田東Ａ遺跡、第 62 表:岩田西遺跡)、それらの分布を第 101 図(岩田東Ａ遺跡)、第 102 図(岩田西遺跡 16 区)、第 103 図(同 18 区)、第 104 図(同 21 区)、第 105 図(同 25 区)、第 106 図(同 27 区)に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は試料 1g 当りの検出個数である。

岩田東Ａ遺跡 6 区(第 101 図):検鏡の結果、上位 4 試料でイネのプラント・オパールが検出された。個数的には上位 3 試料で 5,000 個以上を示しており、試料 No.2b では 2,500 個であった。また、イネ

調査区	試料番号	層位名	イネ (個/g)	イネ穎破片 (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	クマザサ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
6区	6-1a	Ⅰa層	8,000	3,400	78,600	15,900	3,400	0	5,700	27,300	18,200
	6-1b	Ⅰb層	5,100	3,100	94,400	9,200	4,100	1,000	7,200	25,700	17,500
	6-2a	Ⅱa層	9,200	1,100	155,200	18,400	5,700	2,300	11,500	55,200	31,000
	6-2b	Ⅱb層	2,500	5,000	146,700	10,000	1,300	1,300	3,800	61,400	31,400
	6-3	Ⅲ層	0	0	167,100	17,000	1,400	0	1,400	75,100	38,200
	6-4	Ⅳ層	0	0	139,900	39,500	3,000	0	4,600	77,500	44,100

第61表　試料1ｇあたりのプラント・オパール個数（2）

の穎（籾殻部分）に形成される珪酸体の破片も上位4試料から得られている。最も多く検出されたのはネザサ節型で、下位4試料は150,000個前後と多く、上部2試料では減少する傾向が認められる。次いでウシクサ族が多く、上部に向かい減少する傾向が認められ、上部2試料では大きく出現個数を下げている。クマザサ属型は最下部層でやや多く検出されているが、上位4試料では約10,000個～約18,000個に減少している。その他､キビ族は試料No.2aで約12,000個とやや多く検出されており、シバ属は試料No.1b,2a,2bの3試料で少ないながら連続して観察されている。

岩田西遺跡16区（第102図）：全試料でイネのプラント・オパールが検出された。個数的には全て10,000個以上を示しており、最上部および最下部試料では20,000個を超えている。また、イネの穎破片が試料No.1,3,4の3試料でわずかながら観察されている。最も多く検出されたのはやはりネザサ節型で、多くが20,000個前後であるが、最上部の試料No.1では約66,000個とやや突出した個数を示している。次いでウシクサ族が多く、多くの試料が10,000個前後を示し、試料No.4では20,000個を超えている。クマザサ属型は下部よりも上部試料で多く検出される傾向がみられ、キビ族は10,000個前後産出しており、緩やかな増加・減少が認められる。その他、シバ属が上部2試料より検出されており、ヨシ属も2層準で観察されている。

岩田西遺跡18区（第103図）：やはり全試料からイネのプラント・オパールが検出された。個数的には最下部の試料No.10を除く9試料で6,000個以上を示しており、多くは10,000個を超えて検出されている。また、イネの穎破片が上位3試料で観察されている。最も多く検出されたのはネザサ節型で、上部に向かい漸増する傾向が認められ、上部2試料では55,000個前後を示している。次いで多く観察されているウシクサ族も上部に向かい増加する傾向がみられるが、最上部ではやや検出個数を下げている。クマザサ属型は最下部試料と上部試料で10,000個を超えて得られており、キビ族は上部3試料で10,000個前後に増加している。その他、シバ属が上部2試料より検出されており、ヨシ属も2層準で観察されている。

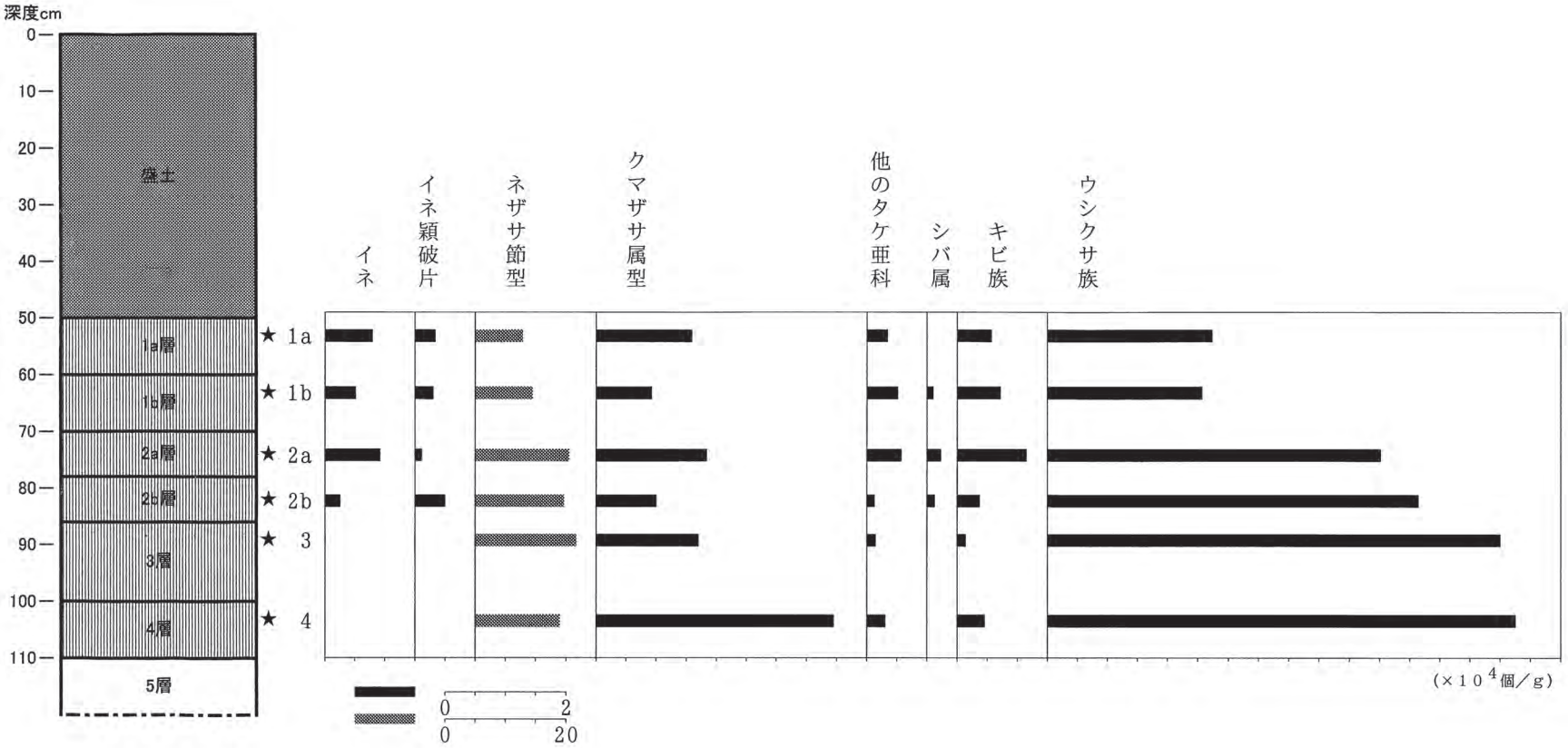
岩田西遺跡21区(第104図):全試料よりイネのプラント･オパールが6,000個以上検出されており、最上部試料では20,000個を超えている。最も多く検出されたのはネザサ節型で、最下部試料を除く上位4試料では10,000個以上を示しており、試料No.3,4では40,000個前後が得られている。次いでクマザサ属型が多く、ピークを作るように上部に向かい増加・減少している。次いでウシクサ族が多く、おおむね上部に向かい増加する傾向が認められる。キビ族は試料No.4を除く4試料で観察さ

調査区	試料番号	層位名	イネ (個/g)	イネ穎破片 (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	クマザサ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
16区	16-1	Ⅱa層	27,900	2,200	65,900	11,200	6,700	0	2,200	11,200	13,400	7,800
	16-2	Ⅲa層	12,700	0	23,100	8,100	4,600	0	1,200	6,900	10,400	4,600
	16-3	Ⅲb層	16,000	1,100	18,300	13,700	0	0	0	8,000	8,000	5,700
	16-4	Ⅲc層上層	14,400	1,200	39,600	13,200	0	1,200	0	9,600	22,800	4,800
	16-5	Ⅲc層下層	14,100	0	13,000	3,500	3,500	0	0	14,100	13,000	7,100
	16-6	Ⅳ層	12,800	0	17,400	2,300	1,200	3,500	0	11,600	3,500	5,800
	16-7	Va層	20,200	0	15,700	6,700	0	0	0	9,000	9,000	33,700
18区	18-1	Ⅱa層	13,900	3,500	54,600	16,300	4,600	0	2,300	8,100	19,700	4,600
	18-2	Ⅲa層	28,600	5,700	57,200	8,000	3,400	0	1,100	11,400	28,600	16,000
	18-3	Ⅲb層	18,600	1,100	34,000	11,000	2,200	1,100	0	9,900	19,700	5,500
	18-6	Ⅲc層上層	14,200	0	10,900	5,500	1,100	0	0	3,300	13,100	4,400
	18-7	Ⅲc層下層	15,100	0	11,100	4,000	1,000	0	0	4,000	11,100	13,100
	18-8	Ⅳ層	6,300	0	6,300	4,200	0	2,100	0	3,100	4,200	3,100
	18-9	Va層	17,300	0	10,600	2,900	1,000	0	0	4,800	7,700	2,900
	18-10	Vb層	2,100	0	5,200	10,400	0	0	0	0	1,000	4,200
21区	21-2上	Ⅲc層上層	20,300	0	25,300	8,900	5,100	0	0	10,100	13,900	6,300
	21-2下	Ⅲc層下層	9,000	0	12,900	11,600	0	0	0	2,600	10,300	2,600
	21-3	Ⅳ層	5,300	0	44,000	18,700	4,000	0	0	5,300	13,300	14,700
	21-4	Va層	9,300	0	39,700	18,700	3,500	0	0	0	9,300	5,800
	21-5	Vb層	6,400	0	6,400	11,600	0	0	0	2,600	5,200	7,700
25区	25-Ⅱ	Ⅱa層	17,400	1,200	62,000	7,400	5,000	1,200	0	6,200	28,500	13,600
	25-Ⅲa	Ⅲa層	18,400	1,200	56,300	9,800	1,200	0	3,700	7,300	19,600	11,000
	25-Ⅲb	Ⅲb層	25,500	1,300	44,300	10,700	2,700	0	1,300	8,000	14,800	16,100
	25-Ⅲc上部	Ⅲc層上層	7,400	0	14,900	8,500	0	0	0	4,300	11,700	11,700
	25-Ⅲc中部	Ⅲc層中層	22,600	0	35,700	13,100	0	0	0	8,300	17,800	14,300
	25-Ⅲc下部	Ⅲc層下層	7,600	0	16,300	3,300	2,200	0	0	2,200	14,100	10,900
	25-Ⅳ	Ⅳ層	1,200	0	12,900	4,700	1,200	1,200	0	1,200	14,100	4,700
	25-Ⅴ	Va層	0	0	4,000	4,000	1,300	0	0	0	4,000	2,700
27区	27-Ⅲc	Ⅲc層	5,700	1,100	21,500	6,800	2,300	0	0	2,300	18,100	11,300
	27-Ⅳ	Ⅳ層	6,200	0	24,800	8,700	0	0	0	1,200	22,300	16,100
	SD25	SD25	2,500	0	19,800	7,400	1,200	0	0	2,500	13,600	11,100
	27-Ⅴ	Va層	0	0	9,100	10,400	1,300	0	0	0	9,100	10,400

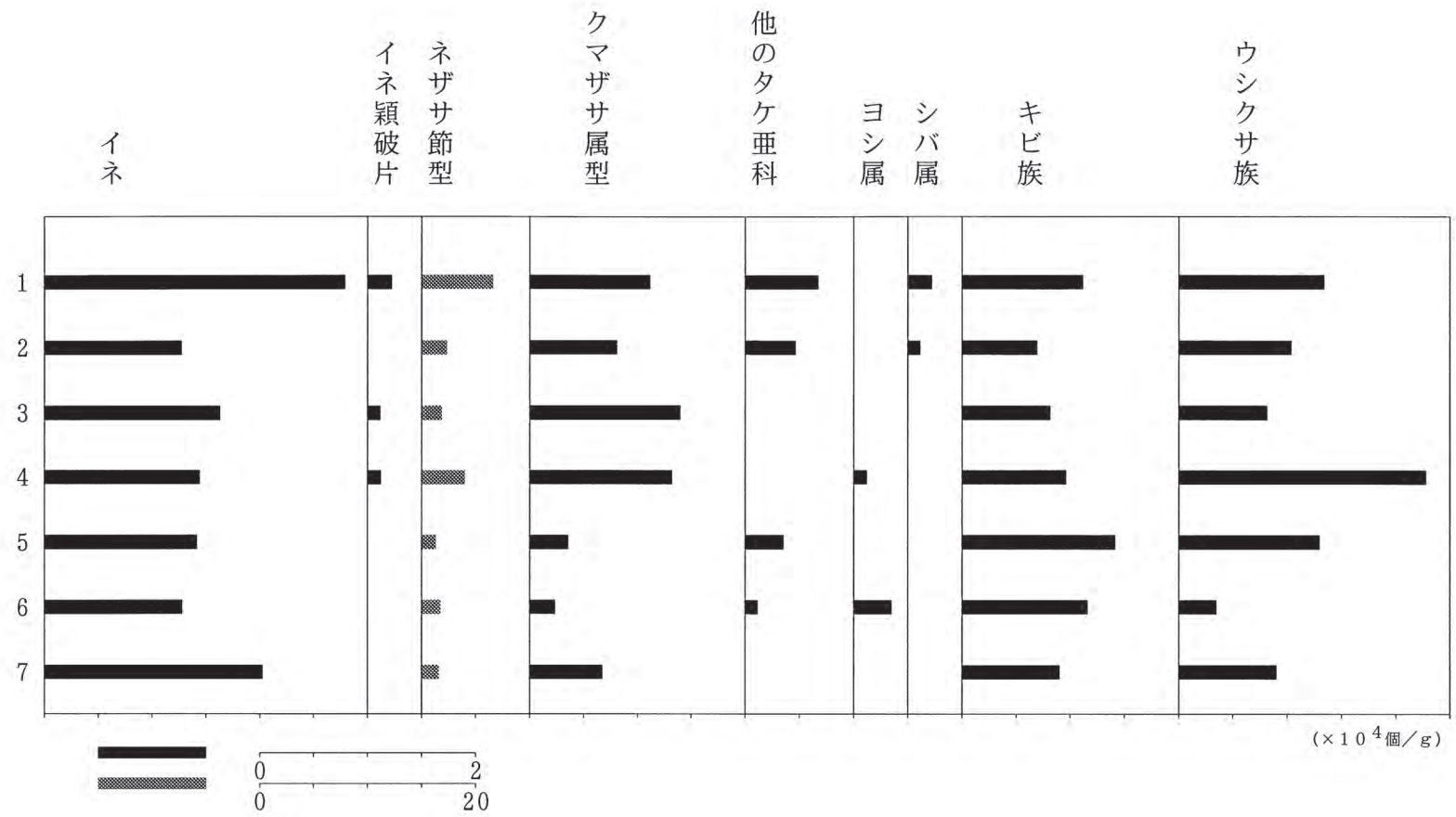
第62表　試料1ｇあたりのプラント・オパール個数（3）

れており、最上部試料では10,000個を超えて得られている。

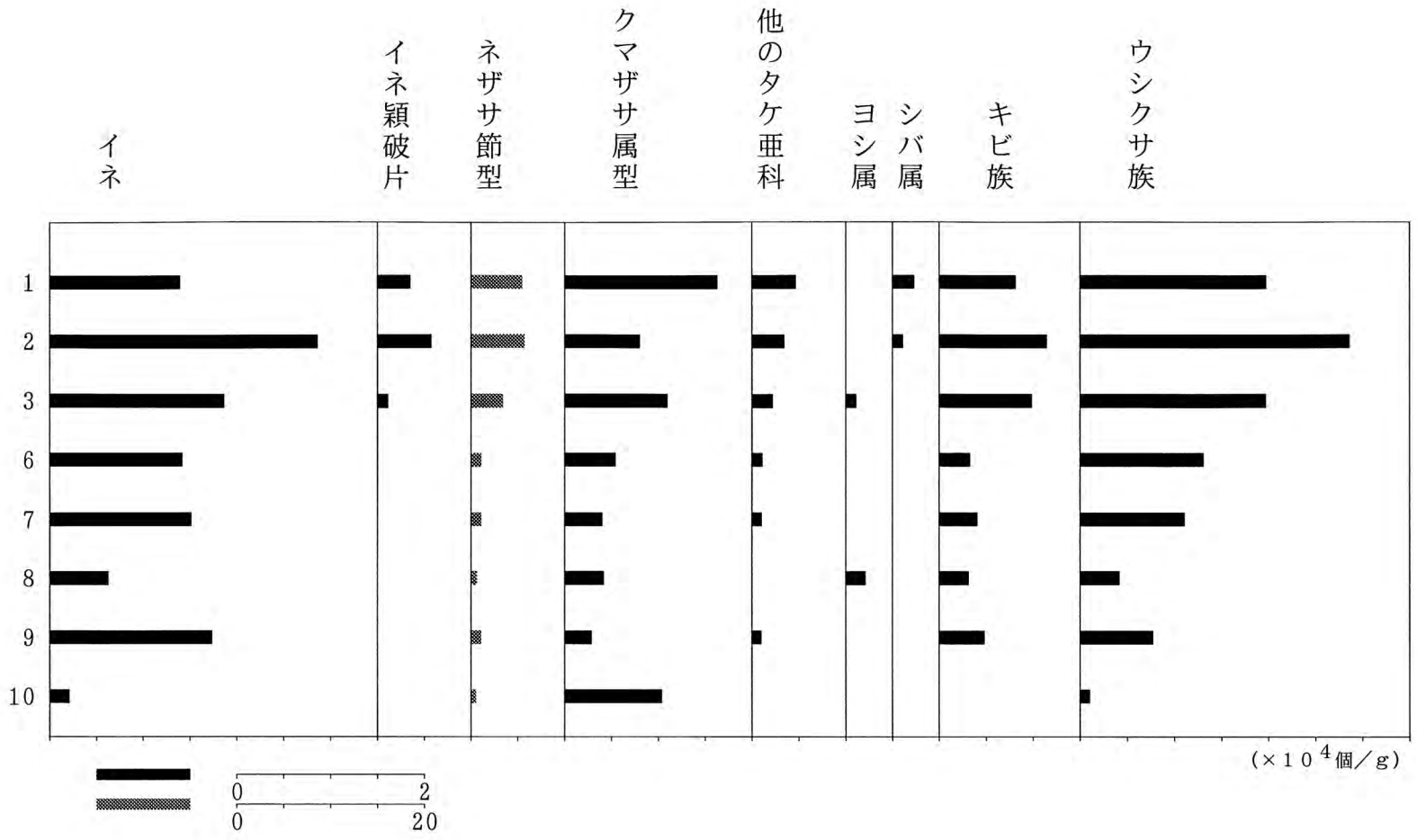
岩田西遺跡25区（第105図）：最下部を除く上位7試料からイネのプラント・オパールが検出された。そのうち下部の試料No.Ⅳでは1,200個と少ないが、他の6試料では7,000個以上を示しており、多くは20,000個前後が得られている。また、イネの穎破片が上位3試料で観察されている。最も多く検出されたのはやはりネザサ節型で、上部に向かい増加・減少・増加を示しており、最上部では60,000個を超えている。次いでウシクサ族が多く、産出傾向は上部に向かい増加し、試料No.Ⅲc上部で減少するが、その上位では再び急増している。クマザサ属型は下部3試料では4,000個前後であるが、上部5試料では9,000個前後に増加している。同様の傾向がキビ族にも認められ、上部5試料では7,000個前後に増加している。その他、シバ属が上部2試料で観察されており、ヨシ属も2層準で検出されている。



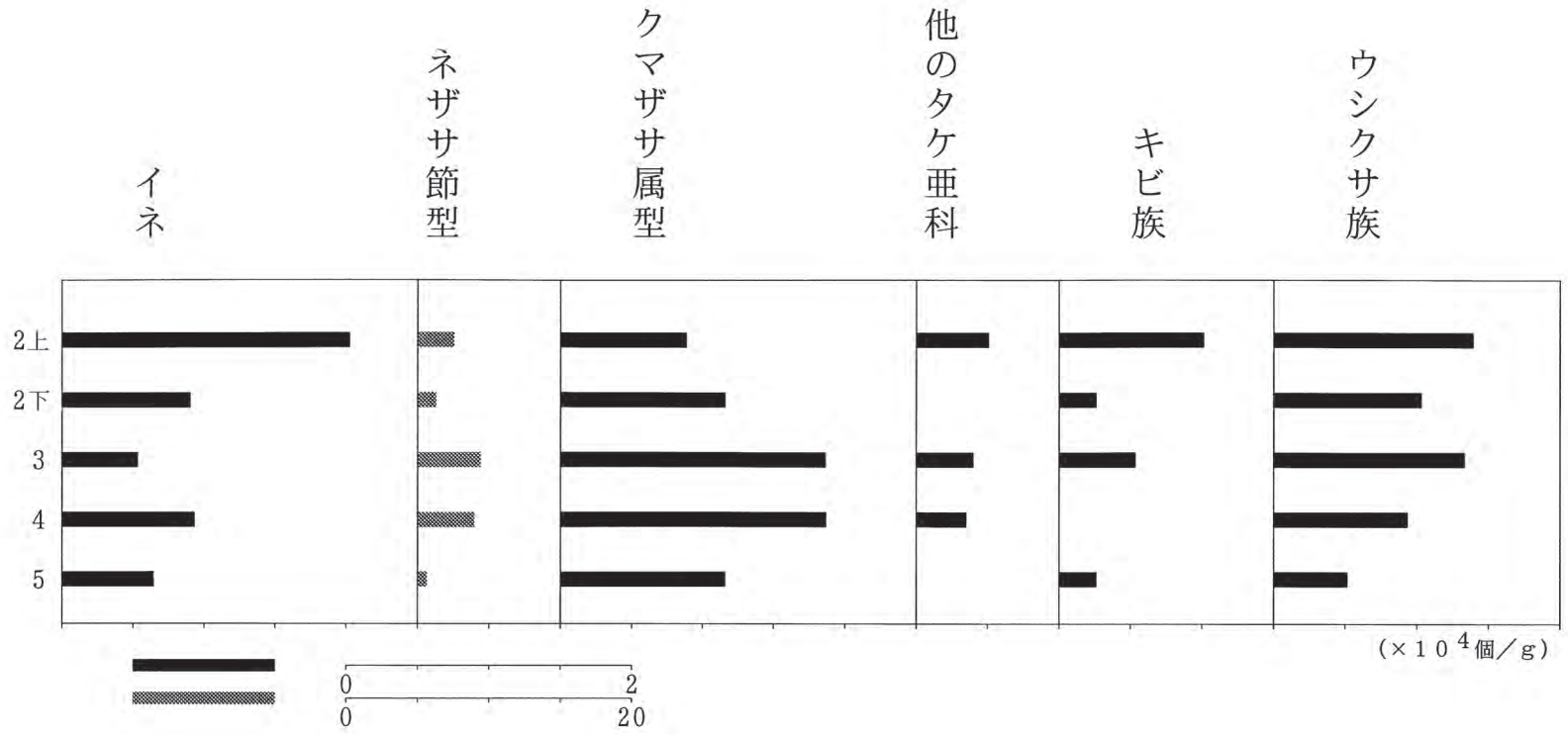
第101図　岩田東A遺跡6区のプラント・オパール分布図



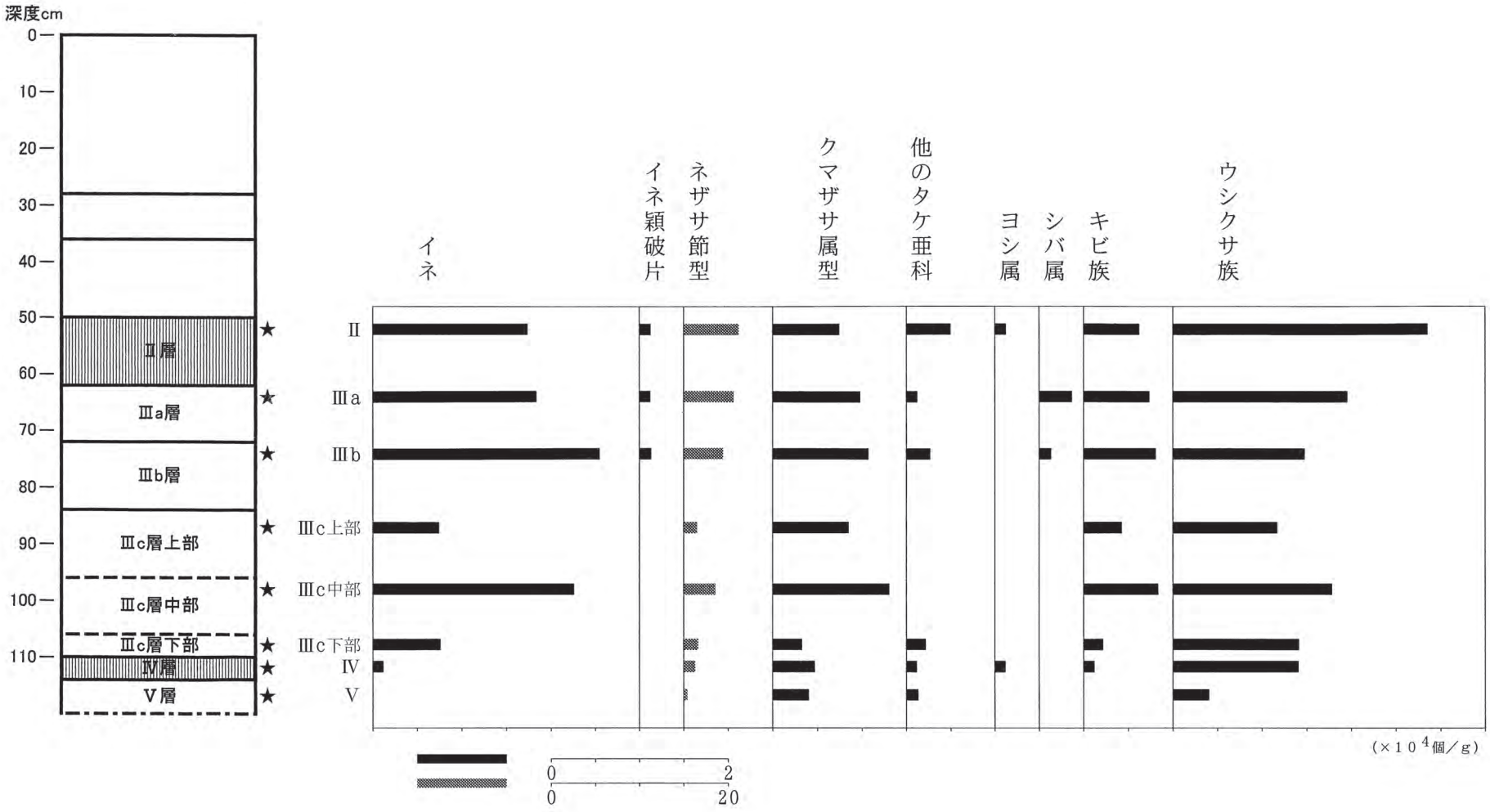
第102図　岩田西遺跡16区のプラント・オパール分布図



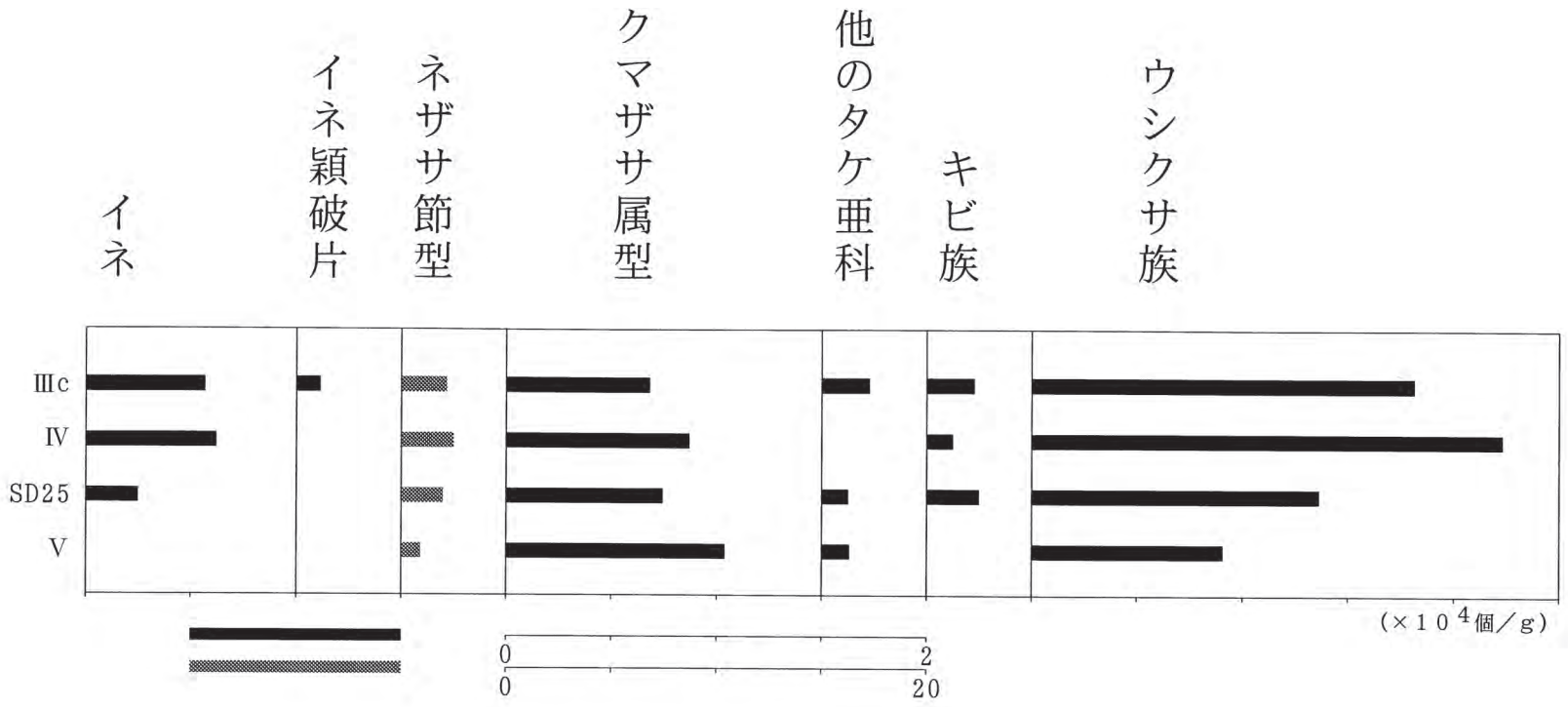
第103図　岩田西遺跡18区のプラント・オパール分布図



第104図　岩田西遺跡21区のプラント・オパール分布図



第105図　岩田西遺跡25区のプラント・オパール分布図



第106図　岩田西遺跡27区のプラント・オパール分布図

岩田西遺跡27区(第106図):イネのプラント・オパールは試料No. Ⅴを除く3試料で検出されており、上部2試料では6,000個前後の個数を示している。また、イネの穎破片が試料No. Ⅲcでわずかながら観察されている。最も多く検出されたのはネザサ節型で、上部に向かい漸増するが、最上部ではやや減少している。同様の傾向がウシクサ族にも認められ、上部2試料では20,000個前後を示している。反対にクマザサ属型は上部に向かい減少する傾向が認められる。その他では、キビ族がイネと同様の3試料で観察されている。

5. 稲作について

上記したように、多くの試料よりイネのプラント・オパールが検出された。ここで検出個数の目安を示すと、イネのプラント・オパールが試料1g当り5,000個以上検出された地点から推定された水田址の分布範囲と、実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている（藤原, 1984)。こうしたことから、稲作の検証としてこの5,000個を目安に、プラント・オパールの産出状態や遺構の状況をふまえて判断されている。

岩田東Ａ遺跡6区：試料No.1a,1b,2aの上位3試料において5,000個を超えるイネのプラント・オパールが得られており、検出個数からはこれらの層準において稲作が行われていた可能性は高いと判断される。時期は中世～近世（試料No.2a）以降と考えられる。また、試料No.2bにおいてはイネ穎破片も検出されているものの、イネのプラント・オパールは2,500個と5,000個に達していないことから稲作が行われていた可能性は低いと判断され、かく乱等による上位層からの落ち込みが推察される。このように、プラント・オパール分析からは上位3層準において稲作が行われていた可能性が推察されるが、本地点は畑作地と推測されていることから、稲作が行われていたとすると陸稲栽培が考えられる。一方で､他作物の肥料として稲藁や籾殻が使われたことによってそれらのプラント･オパールが供給された可能性も推察される。このように、岩田東Ａ遺跡における稲作については遺構の状況や出土遺物等、総合的にみて判断されることが望まれる。

岩田西遺跡16区:全試料において10,000個を超えるイネのプラント・オパールが検出されており、全層準において稲作が行われていた可能性は高いと判断される。そのうち最下部の試料（試料No.7）からもイネのプラント・オパールが多く検出されている。ここで先に行った花粉分析結果をみると、この試料No.7のイネ科花粉の出現率はそれほど高くはないが、水田雑草を含む分類群であるオモダカ属が観察されている。なお、試料No.6の時期は古代、試料No.7の時期は古墳時代後期以前と考えられている。

岩田西遺跡18区：全試料よりイネのプラント・オパールが検出されており、そのうち最下部試料を除く上位7試料において6,000個を超えている。こうしたことから、この7試料の層準においては稲作が行われていた可能性は高いとプラント・オパール分析からは判断される。一方、最下部の試料No.10では2,100個と5,000個には達していないことから稲作の可能性は低いと判断される。

岩田西遺跡21区：全試料より5,000個を超えるイネのプラント・オパールが検出されており、分

析を行った全層準において稲作が行われていた可能性は高いと検出個数からは判断される。

岩田西遺跡 25 区：最下部試料を除く 7 試料よりイネのプラント・オパールが検出され、そのうち上位 6 試料で 7,000 個を超えて得られている。こうしたことから、試料 No. Ⅲ c 下部より上位の層準において稲作が行われていた可能性は高いと判断される。一方、下部の試料 No. Ⅳにおいてイネのプラント・オパールは 1,200 個と 5,000 個に達しておらず、最下部の試料 No. Ⅴではまったく検出されていないことから、これらの層準における稲作の可能性は低いと判断される。

岩田西遺跡 27 区：上部の試料 No. Ⅲ c および試料 No. Ⅳでは 5,000 個を超えるイネのプラント・オパールが検出されていることから、これらの層準において稲作が行われていた可能性は高いとプラント・オパール分析からは判断される。一方、最下部の試料 No. Ⅴにおいてイネのプラント・オパールは検出されておらず、稲作が行われていた可能性は低いと判断される。

＜引用文献＞

藤原宏志（1984）プラント・オパール分析法とその応用－先史時代の水田址探査－．考古学ジャーナル，227，2-7.

第3節　岩田西遺跡の花粉化石

鈴木　茂（パレオ・ラボ）

1. はじめに

低地部に立地している岩田西遺跡において行われた発掘調査で古墳時代後期の住居址や鎌倉・室町期の水田址などが検出されている。この発掘調査に際し検出土層より土壌試料が採取された。以下にこの土壌試料を用いて行った花粉分析の結果を示し、岩田西遺跡周辺の古植生について検討した。

2. 試料と分析方法

試料は16調査区において検出された土層より採取された7試料である。各試料について、試料1（Ⅱ層），試料2（Ⅲａ層）は黒褐色シルト、試料3（Ⅲｂ層）は黒灰色のシルト、試料4（Ⅲｃ層上層）は黒灰色のシルト質粘土、試料5（Ⅲｃ層下層）は黒灰色のシルト、試料6（Ⅳ層）は灰オリーブ色のシルト、試料7（Ⅴａ層）は灰オリーブ色の粘土である。時期について、試料1（Ⅱ層）が近世、試料2,3（Ⅲａ層，Ⅲｂ層）が中世、試料4（Ⅲｃ層上層）が古代～中世？、試料5～7（Ⅲｃ層下層～Ⅴａ層）が古代以前と考えられている。花粉分析はこれら7試料について以下のような手順にしたがって行った。

試料（湿重約5g）を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後0.5㎜目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂などを除去する。次に46%フッ化水素酸溶液を加え30分間放置する。水洗後、重液分離（臭化亜鉛溶液:比重2.1を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。次に、酢酸処理、続けてアセトリシス処理（無水酢酸9：1濃硫酸の混酸を加え3分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作製して行い、その際サフラニンにて染色を施した。

3. 分析結果（図版64）

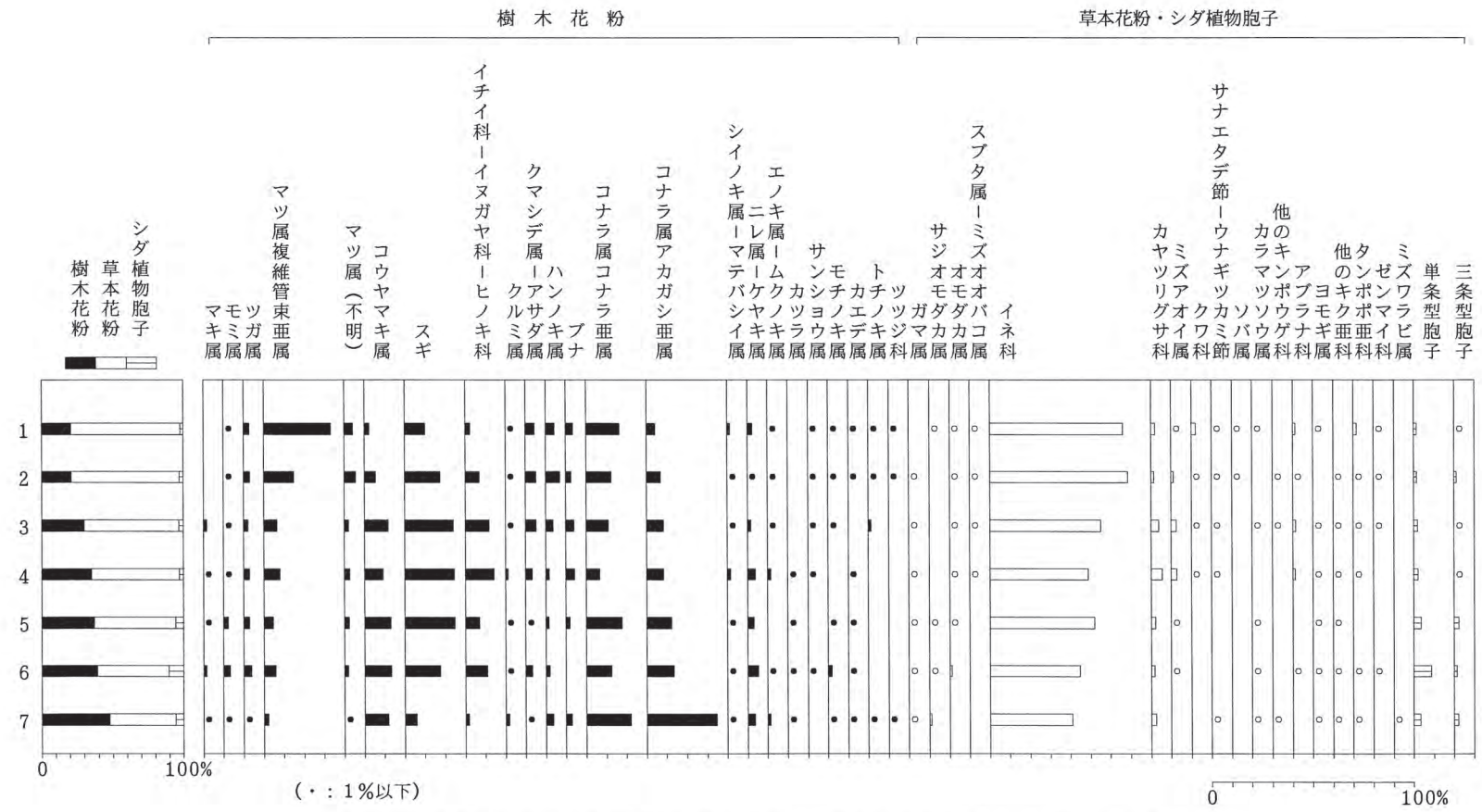
検出された花粉・胞子の分類群数は樹木花粉39、草本花粉28、形態分類を含むシダ植物胞子5の計72である。これら花粉・胞子の一覧を第63表に、それらの分布を第107表に示した。なお、分布図の樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・シダ植物は全花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また図および表においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示し、クワ科の花粉には樹木起源と草本起源のものとがあるが、各々に分けることが困難なため便宜的に草本花粉に一括していれてある。

検鏡の結果、最下部試料7において樹木花粉のコナラ属アカガシ亜属が出現率約35%を示して最優占しているが、試料6で激減し、さらに上部に向かい漸減している。コナラ属コナラ亜属も下部試料においてやや高い出現率を示しているが、中央部の試料4で最も出現率を下げ、その後上部に向かい漸増している。スギはピークを作るように上部に向かい増加・減少しており、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科（以後ヒノキ類と略す）も同様の産出傾向を示している。コウヤマキ属も下部試料では10%を越える出現率を示しているが、上部試料では減少し、最上部試料1では約2%に出現率を下げている。反対にマツ属複維管束亜属（アカマツやクロマツなどのいわゆるニヨウマツ類）は上部に向かい漸増しており、最上部の試料1では約33%に急増し、最優占している。草本類ではイネ科の多

和名	学名	1	2	3	4	5	6	7
樹木								
マキ属	*Podocarpus*	–	–	4	1	2	3	2
モミ属	*Abies*	1	1	1	2	5	7	1
ツガ属	*Tsuga*	6	7	5	7	6	8	1
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	68	34	15	19	10	12	5
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	9	13	5	6	5	4	1
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	5	13	27	22	28	28	27
スギ	*Cryptomeria japonica* D. Don	21	40	54	58	53	37	13
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.- C.	5	16	27	34	15	23	4
ヤナギ属	*Salix*	–	–	–	–	1	–	–
ヤマモモ属	*Myrica*	–	–	–	–	–	–	1
クルミ属	*Juglans*	1	1	1	3	1	1	4
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus - Ostrya*	9	12	12	8	2	7	2
カバノキ属	*Betula*	1	5	–	–	–	–	1
ハンノキ属	*Alnus*	9	16	8	4	3	4	8
ブナ	*Fagus crenata* Blume	7	6	9	10	4	–	6
イヌブナ	*Fagus japonica* Maxim.	1	1	–	3	–	–	–
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	34	28	25	16	38	26	50
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	9	16	19	20	26	28	78
シイノキ属－マテバシイ属	*Castanopsis - Pasania*	3	1	1	4	2	2	1
ニレ属－ケヤキ属	*Ulmus - Zelkova*	5	2	4	9	7	11	8
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis-Aphananthe*	2	2	2	4	–	1	3
カツラ属	*Cercidiphyllum*	–	–	–	1	1	1	1
シキミ属	*Illicium*	–	–	–	–	1	–	–
イスノキ属	*Distylium*	–	–	–	–	–	–	1
サンショウ属	*Zanthoxylum*	1	1	1	1	–	1	–
ウルシ属	*Rhus*	–	1	–	–	–	–	–
モチノキ属	*Ilex*	2	2	2	–	1	4	1
ニシキギ科	Celastraceae	–	–	–	–	–	–	1
カエデ属	*Acer*	1	1	–	2	1	1	1
トチノキ属	*Aesculus*	1	1	3	–	–	–	2
ツバキ属	*Camellia*	1	–	–	–	–	–	–
ウコギ科	Araliaceae	1	–	–	1	–	–	–
アオキ属	*Aucuba*	–	–	–	–	–	–	1
ツツジ科	Ericaceae	1	2	–	–	–	–	1
エゴノキ属	*Styrax*	–	–	–	1	–	–	–
トネリコ属	*Fraxinus*	–	3	–	–	–	–	–
クサギ属	*Clerodendron*	–	–	–	–	1	–	–
ガマズミ属	*Viburnum*	1	–	–	–	–	–	–
スイカズラ属	*Lonicera*	–	1	–	–	–	–	–
草本								
ガマ属	*Typha*	–	1	1	2	1	2	1
ヒルムシロ属	*Potamogeton*	–	–	–	1	–	–	–
サジオモダカ属	*Alisma*	1	–	–	–	2	1	5
オモダカ属	*Sagittaria*	2	10	6	5	4	6	–
スブタ属－ミズオオバコ属	*Blyxa - Ottelia*	1	2	2	1	–	–	–
イネ科	Gramineae	654	746	415	329	299	240	194
カヤツリグサ科	Cyperaceae	20	16	30	38	13	10	12
ホシクサ属	*Eriocaulon*	–	–	–	1	1	–	–
イボクサ属	*Aneilema*	–	–	1	1	–	–	–
ミズアオイ属	*Monochoria*	2	12	19	20	3	5	–
クワ科	Moraceae	23	8	3	1	–	–	–
サナエタデ節－ウナギツカミ節	*Polygonum* sect. Persicaria-Echinocaulon	1	2	3	2	–	–	2
ソバ属	*Fagopyrum*	9	6	–	–	–	–	–
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	1	–	–	–	–	–	–
ナデシコ科	Caryophyllaceae	–	–	–	1	–	–	1
カラマツソウ属	*Thalictrum*	1	–	1	–	1	1	1
他のキンポウゲ科	other Ranunculaceae	–	2	1	–	–	–	1
アブラナ科	Cruciferae	12	9	12	8	–	1	–
ツリフネソウ属	*Impatiens*	–	–	1	–	–	–	–
キカシグサ属	*Rotala*	1	–	–	–	–	–	–
ミズユキノシタ属	*Ludwigia*	–	1	–	–	–	–	–
アリノトウグサ属	*Haloragis*	9	2	–	–	–	–	–
オオバコ属	*Plantago*	1	–	–	–	–	–	–
オミナエシ属	*Patrinia*	–	1	–	–	–	–	–
ツリガネニンジン属－ホタルブクロ属	*Adenophora - Campanula*	1	–	–	–	–	–	–
ヨモギ属	*Artemisia*	7	–	3	4	4	2	1
他のキク亜科	other Tubuliflorae	–	7	1	2	1	2	1
タンポポ亜科	Liguliflorae	16	8	4	4	–	1	2
シダ植物								
ヒカゲノカズラ属	*Lycopodium*	3	2	2	–	–	–	–
ゼンマイ科	Osmundaceae	1	1	1	–	–	2	–
ミズワラビ属	*Ceratopteris*	–	–	–	–	–	–	1
単条型胞子	Monolete spore	14	16	15	15	20	46	16
三条型胞子	Trilete spore	5	11	6	3	13	7	10
樹木花粉	Arboreal pollen	205	226	225	236	213	209	225
草本花粉	Nonarboreal pollen	762	833	503	420	329	271	221
シダ植物胞子	Spores	23	30	24	18	33	55	27
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	990	1089	752	674	575	535	473
不明花粉	Unknown pollen	28	36	19	16	23	19	31

T．－C．はTaxaceae-Cephalotaxaceae-Cupresaceaeを示す

第 63 表　産出花粉化石一覧表



（樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した）

第107図　岩田西遺跡の主要花粉化石分布図

産が特徴的であり、最も出現率が低い最下部の試料 7 でも 40% を越えており、試料 2 では 70% 弱に達している。その他の分類群はいずれも低率であるが、そのなかカヤツリグサ科が全試料 1% 以上を示している。また、ソバ属が上部 2 試料で観察されている。水生植物のオモダカ属とミズアオイ属（いずれも抽水植物）が最下部試料を除き連続して観察されており、同じ抽水植物のガマ属は最上部試料を除き得られている。さらに抽水植物のサジオモダカ属は最下部試料において 1% 以上を示しており、同試料においては水生シダ植物のミズワラビ属も観察されている。

4. 岩田西遺跡周辺の植生変遷

最下部試料 7（10 層：古代以前）においてアカガシ亜属が最優占しており、この時期アカガシ亜属を中心にシイノキ属ーマテバシイ属、モチノキ属などを交えた常緑広葉樹林が遺跡周辺の段丘上や微高地上に広く成立していたとみられる。さらにコナラ亜属やニレ属ーケヤキ属などの落葉広葉樹類や針葉樹のコウヤマキ属なども遺跡周辺に分布していたと推測される。この時期の低地部ではイネ科花粉の多産等から水田稲作が行われていたと推測され、この水田内にはサジオモダカ属（サジオモダカ）やミズワラビ属（ミズワラビ）などが生育していたとみられる。

その後、9 層堆積期（試料 6:古代以前）になるとアカガシ亜属は急速にその分布域を狭め、代わってスギやヒノキ類が生育地を広げたとみられる。このアカガシ亜属の減少について、上記したようにこの時期低地部では水田稲作が行われていたと推測され、堅い材質のアカガシ亜属は農耕具に用いられ、こうした人間の木材利用により急激に減少したと推測される。

8 層～ 6 層堆積期（試料 5 ～ 3:古代以前～中世）でスギやヒノキ類はピークを向かえ、中世以降（試料 3）はコウヤマキ属を含め急速に生育地を狭めたとみられる。これについては先のアカガシ亜属と同様に、建築材などに用いられることによってこれら針葉樹類は急速に減少したと推測される。その跡地にニヨウマツ類やコナラ亜属などが侵入し、それらの二次林が形成されたとみられる。特にアカマツなどのニヨウマツ類の二次林は近世以降（試料 1）大きくその分布域を広げたと推測される。

この時期の低地部では集約的に水田稲作が行われていたと推測され、一部ではソバの栽培も行われるようになったとみられる。この水田内にはサジオモダカ属、オモダカ属（オモダカ）、スブタ属（スブタ）ーミズオオバコ属（ミズオオバコ）、ミズアオイ属（コナギ）などの水田雑草類が生育していたと推測される。

第4節　岩田西遺跡堆積物中の珪藻化石群集

藤根　久（パレオ・ラボ）

〈平成21年度〉

1. はじめに

珪藻は、10～500 μmほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている（小杉，1988；安藤，1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においてもわずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などで生育する珪藻種（陸生珪藻）も知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

岩田西遺跡は、岐阜市岩田西地内の長良川左岸の低地遺跡である。調査では、木材や須恵器あるいは土錘などの人為的と考えられる集積遺構が検出された。ここでは、この遺構形成期前後の堆積環境を推定するために珪藻化石群集を調べた。

2. 試料と処理方法

分析した試料は、集積遺構25区SX11前後堆積物4試料である（図1）。堆積物は、Ⅲc層中部が古代以前と考えられる暗灰色シルト層、Ⅲc層下部が古代以前と考えられる灰色粘土質シルト層、Ⅳ層が遺物の集積遺構25区SX11が検出された暗灰色の有機質の粘土質シルト層である。

各試料は、以下に示す処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

(1) 湿潤重量約1g程度取り出し、秤量した後ビーカーに移し30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2) 反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。(3) 残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作製した。

作製したプレパラートは顕微鏡下600～1200倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。珪藻殻は、完形と非完形（半分以上残っている殻）に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。また、試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から堆積物1g中の殻数を計算し、分布図に示した。

3. 珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に安藤（1990）が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種として扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明として扱った。

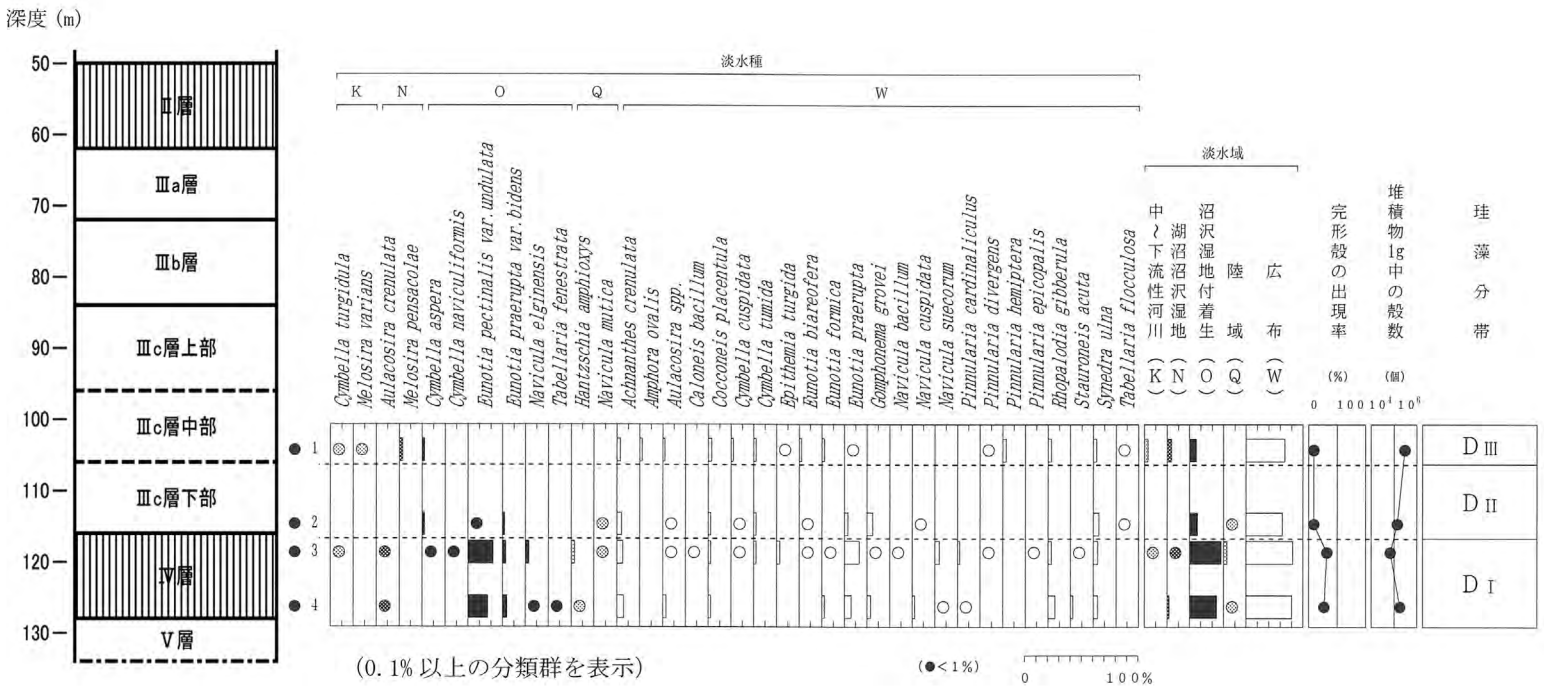
以下に、安藤（1990）が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

[上流性河川指標種群（J)]：上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは、殻面全体で

分類群	種群	1	2	3	4
		III層 中部	III層 下部	IV層 上部	IV層 下部
Achnanthes crenulata	W	7	9	10	12
A. spp.	?	1	-	-	-
Amphora ovalis	W	5	1	-	-
Aulacosira ambigua	N	-	-	-	1
A. *crenulata*	N	1	-	2	3
A. spp.	W	5	2	1	6
Caloneis bacillum	W	-	-	1	1
C. *silicula*	W	1	1	-	-
Cocconeis placentula	W	6	5	3	4
Cyclotella spp.	?	-	-	-	1
Cymbella aspera	O	5	4	1	-
C. *cuspidata*	W	4	3	1	-
C. *naviculiformis*	O	1	-	1	-
C. *tumida*	W	4	4	3	1
C. *turgidula*	K	3	1	1	-
C. spp.	?	3	5	2	-
Diploneis elliptica	W	-	1	-	-
D. spp.	?	-	-	-	3
Epithemia adnata	W	-	1	-	-
E. *turgida*	W	2	1	6	1
Eunotia biareofera	W	5	3	1	-
E. *flexuosa*	O	1	-	-	-
E. *formica*	W	4	-	1	4
E. *pectinalis var.undulata*	O	1	2	43	36
E. *praerupta*	W	2	7	25	12
E. *praerupta var.bidens*	O	1	5	5	8
E. spp.	?	2	9	10	15
Frustulia spp.	?	1	1	-	-
Gomphonema acuminatum	O	-	1	-	-
G. *gracile*	O	1	-	-	-
G. *grovei*	W	1	11	1	7
G. spp.	?	-	2	2	2
Hantzschia amphioxys	Q	1	-	5	2
Melosira pensacolae	N	7	-	-	-
M. *roeseana*	Q	-	-	-	1
M. *varians*	K	2	-	-	-
Navicula bacillum	W	-	-	1	-
N. *cuspidata*	W	-	2	-	4
N. *elginensis*	O	-	1	5	3
N. *mutica*	Q	-	3	1	-
N. *suecorum*	W	-	1	7	2
N. spp.	?	-	-	1	-
Neidium spp.	?	7	7	1	12
Pinnularia cardinaliculus	W	1	1	4	2
P. *divergens*	W	2	-	1	1
P. *hemiptera*	W	7	-	-	-
P. *epicopalis*	W	-	-	2	1
P. *viridis*	O	-	-	-	1
P. spp.	?	73	74	37	34
Rhoicosphenia curvata	K	1	-	-	-
Rhopalodia gibberula	W	6	1	6	13
Stauroneis acuta	W	-	-	1	5
S. *phoenicenteron*	O	1	1	-	-
S. spp.	?	16	17	1	1
Stephanodiscus spp.	?	-	3	-	2
Surirella spp.	?	4	2	-	1
Synedra inaequalis	K	1	-	-	-
S. *ulna*	W	7	11	8	8
Tabellaria fenestrata	O	1	1	-	2
T. *flocculosa*	W	2	2	-	-
Unknown	?	-	1	-	-
中～下流性河川 (K)		7	1	1	-
湖沼沼沢湿地 (N)		8	-	2	4
沼沢湿地付着生 (O)		12	15	55	50
陸域 (Q)		1	3	6	3
広布 (W)		71	67	82	84
淡水不定・不明種 (?)		107	121	54	71
珪藻殻数		206	207	200	212

(種群は、安藤 (1990) に従う)

第 64 表　堆積物中の珪藻化石産出表（1）



第108図　堆積物中の珪藻化石分布図

岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。
[中～下流性河川指標種群 (K)]:中～下流部、すなわち河川沿いに河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種は、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

[最下流性河川指標種群 (L)]:最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種は、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになる。

[湖沼浮遊生指標種群 (M)]:水深が約 1.5m 以上で、水生植物は岸では見られるが、水底には生育していない湖沼に出現する種群である。

[湖沼沼沢湿地指標種群 (N)]:湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい。

[沼沢湿地付着生指標種群 (O)]:水深 1m 内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地で、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。

[高層湿原指標種群 (P)]:尾瀬ケ原湿原や霧ケ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

[陸域指標種群 (Q)]:上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻と呼ばれている)。

4. 珪藻化石の特徴と堆積環境（図版 65)

全試料から検出された珪藻化石は、淡水種が 60 分類群 24 属 44 種 2 変種であった。これらの珪藻化石は、淡水種が 4 環境指標種群に分類された（第 64 表)。珪藻分帯は、ＤⅠ～ＤⅢ帯に設定された(第 108 図)。以下に、環境指標種群の特徴などに基づいて、珪藻化石群集の特徴とその堆積環境について述べる。

ＤⅠ帯（試料№3･4;Ⅳ層)

これらの試料中には、沼沢湿地付着生指標種群の Eunotia pectinalis var.undulata などが特徴的に出現した。なお、中～下流性河川指標種群や湖沼沼沢湿地指標種群あるいは陸域指標種群が随伴した。

以上のことから、主にやや水深のある場所を伴う沼沢湿地環境が推定される。

ＤⅡ帯（試料№2;Ⅲｃ層下部)

この試料中の珪藻化石は保存状態が悪い。指標種群では、沼沢湿地付着生指標種群の Cymbella aspera や陸域指標種群が出現した。

以上のことから、概ね沼沢湿地環境が推定される。

D Ⅲ帯（試料№1；Ⅲc層中部）

この試料中の珪藻化石は保存状態が悪い。指標種群では、中～下流性河川指標種群の Cymbella turgidula など、湖沼沼沢湿地指標種群 Melosira pensacolae などが出現した。

以上のことから、河川の流れ込みを伴う沼沢地環境が推定される。

5. おわりに

遺物の集積遺構 25 区 SX11 のⅣ層は、やや水深のある場所を伴う沼沢湿地であり、水域環境であったことが推定された。また、上位層のⅢc層では、珪藻化石の保存状態が悪いものの、沼沢湿地から河川の流れ込みを伴う沼沢地環境へと変化したことが推定された。

＜引用文献＞

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，73-88.

＜平成 22 年度＞

1. はじめに

珪藻は、10～500 μm ほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている（小杉，1988；安藤，1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においても、わずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などで生育する珪藻種（陸生珪藻）が知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

岩田西遺跡は、岐阜市岩田西 3 丁目所在に所在する長良川左岸の低地部分に位置する遺跡である。ここでは、古代の溝および不明遺構堆積物について堆積環境を検討するために珪藻化石群集を調べた。

試料No.	調査区	遺構	時期	No.	堆積物の特徴	その他
1	28区	SD25	古代	1	暗灰黄色（2.5Y4/2）炭混じり粘土質シルト	
2				2	黄灰色（2.5Y4/1）炭混じり粘土質シルト	
3				3	灰色（5Y4/1）植物遺体・礫混じり粘土質シルト	
4				4	灰オリーブ色（5Y4/2）植物遺体混じり粘土質シルト	
5				5	灰色（5Y4/1）植物遺体混じりシルト質粘土	褐鉄鉱多い
6				6	灰色（5Y4/1）植物遺体混じりシルト質粘土	褐鉄鉱多い
7		SX27	古代	1	灰オリーブ色（5Y5/2）粘土質シルト	空隙多い
8				2	灰色（5Y5/1）粘土質シルト	根状褐鉄鉱多い
9				3	灰オリーブ色（5Y5/2）炭・植物遺体粘土質シルト	空隙多い
10				4	暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土質シルト	根状褐鉄鉱・空隙多い
11				5	暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土質シルト（軟質）	根状褐鉄鉱・空隙多い

第 65 表　珪藻化石分析試料一覧表

2. 試料と方法

試料は､28 区 SD25 および 28 区 SX27 のシルト質シルトや粘土質シルトなど堆積物 11 試料である(第 65 表)。各試料については、以下の処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

(1) 湿潤重量約 1g 程度を取り出し、秤量した後ビーカーに移して 30% 過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2) 反応終了後、水を加え 1 時間程してから上澄み液を除去し､細粒のコロイドを捨てる。この作業を 7 回ほど繰り返した。(3) 残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作製した。

各プレパラートは、顕微鏡下 600 ～ 1000 倍で観察して、珪藻種を同定・計数した。なお、珪藻殻の数が少ない試料はプレパラート全面について観察した。珪藻殻は、完形と非完形（半分以上残っている殻）に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。また、試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から堆積物 1g 当たりの殻数を計算した。

3. 珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に安藤（1990）が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種として扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明として扱った。以下に、安藤（1990）が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

[上流性河川指標種群（J)]：上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

[中～下流性河川指標種群（K)]:中～下流部、すなわち河川沿いに河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種は、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

[最下流性河川指標種群（L)]：最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種は、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになる。

[湖沼浮遊生指標種群（M)]：水深が約 1.5m 以上で、水生植物は岸では見られるが、水底には生育していない湖沼に出現する種群である。

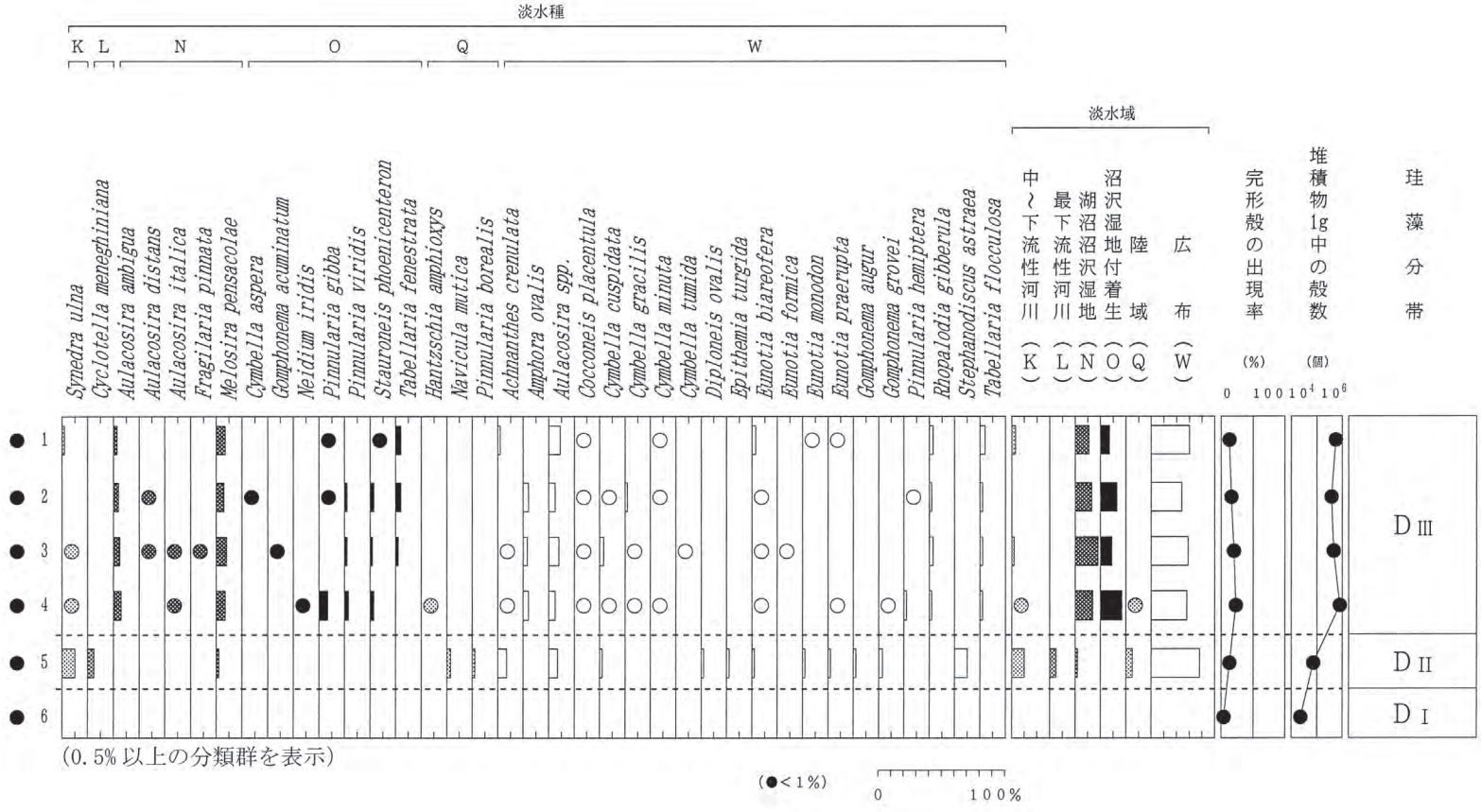
[湖沼沼沢湿地指標種群（N)]：湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい。

[沼沢湿地付着生指標種群（O)]：水深 1m 内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地で、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。

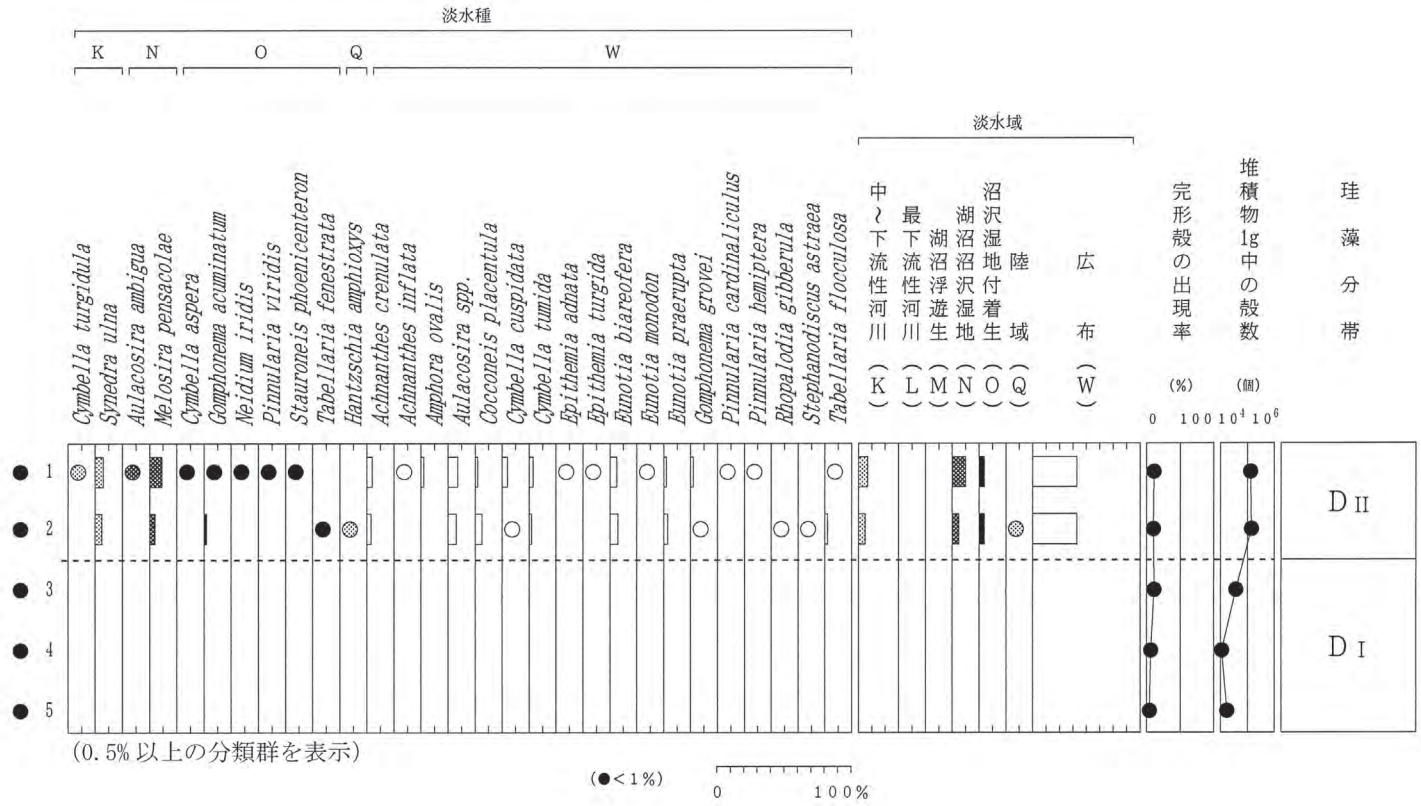
分類群	種群	SD25 (SX2805)						SX27 (SX2807)				
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
Achnanthes crenulata	W	4	–	2	2	4	5	8	6	3	5	5
A. inflata	W	–	1	1	–	–	–	1	–	–	–	–
Amphora ovalis	W	1	8	7	8	–	–	3	1	–	–	–
Aulacosira ambigua	N	7	9	11	12	–	–	2	1	1	–	–
A. distans	N	–	2	3	–	–	–	–	–	–	–	–
A. italica	N	–	–	2	2	–	–	–	–	–	–	–
A. spp.	W	19	10	16	10	4	–	13	12	1	1	3
Caloneis bacillum	W	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–
Cocconeis placentula	W	3	2	2	3	–	–	4	10	–	1	1
Cyclotella meneghiniana	L	–	–	–	–	3	1	–	1	1	–	1
C. stelligera	M	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Cymbella aspera	O	–	2	–	1	–	–	2	1	–	–	–
C. cuspidata	W	1	3	7	3	1	–	7	3	2	–	–
C. gracilis	W	1	5	2	2	–	–	–	–	–	–	–
C. minuta	W	2	2	–	2	–	–	–	–	–	–	–
C. sinuata	K	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–
C. tumida	W	1	–	2	–	–	–	5	4	–	1	–
C. turgidula	K	1	–	1	–	–	–	1	–	–	–	–
C. spp.	?	–	1	1	2	–	1	6	2	–	–	–
Diploneis ovalis	W	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–
D. spp.	?	–	–	–	–	1	–	–	–	1	–	–
Epithemia adnata	W	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–
E. turgida	W	–	–	–	–	1	–	2	1	1	1	–
E. spp.	?	–	1	–	–	–	1	4	2	–	–	–
Eunotia biareofera	W	7	2	3	3	1	3	9	12	–	–	2
E. formica	W	–	–	2	1	–	–	–	1	–	–	–
E. monodon	W	2	–	–	1	1	–	1	1	–	–	–
E. pectinalis var. undulata	O	–	1	1	1	–	–	–	–	–	–	–
E. praerupta	W	3	1	–	3	1	–	4	7	–	–	2
E. spp.	?	2	6	5	4	6	2	10	5	3	–	1
Fragilaria brevistriata	N	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
F. construens	N	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–
F. pinnata	N	–	–	2	–	–	–	–	1	–	–	–
Frustulia spp.	?	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–
Gomphonema acuminatum	O	–	–	3	1	–	–	1	5	–	–	–
G. augur	W	–	–	1	–	1	–	–	–	–	–	–
G. grovei	W	1	1	1	2	2	–	4	2	–	–	–
G. parvulum	W	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–
G. spp.	?	3	1	2	3	1	–	2	2	–	–	–
Hantzschia amphioxys	Q	1	–	1	2	–	1	–	2	–	–	–
Melosira pensacolae	N	15	13	17	14	1	–	17	9	–	–	–
Navicula goeppertiana	W	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
N. mutica	Q	–	–	–	1	2	–	–	–	1	–	–
N. tokyoensis	W	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–
Neidium iridis	O	–	1	1	3	–	–	2	–	–	–	–
N. spp.	?	7	5	4	2	–	–	8	7	1	–	–
Nitzschia spp.	?	–	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–
Pinnularia borealis	Q	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–
P. cardinaliculus	W	1	–	–	–	–	–	1	1	–	–	–
P. divergens	W	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–
P. gibba	O	3	3	1	15	–	–	–	–	–	–	–
P. hemiptera	W	–	3	–	4	–	–	1	–	–	–	–
P. microstauron	W	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
P. nobilis	W	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
P. viridis	O	1	4	4	6	–	–	1	–	–	–	–
P. spp.	?	68	64	56	52	10	3	56	72	9	1	2
Rhopalodia gibberula	W	7	5	6	4	–	–	–	2	–	–	–
Stauroneis phoenicenteron	O	2	6	4	6	–	–	1	–	–	–	–
S. spp.	?	18	22	14	11	2	1	7	13	1	–	–
Stephanodiscus astraea	W	–	–	1	1	6	3	–	2	4	2	5
Surirella spp.	?	–	1	–	2	1	–	1	–	–	–	–
Synedra ulna	K	5	1	3	2	6	5	12	10	4	5	1
Tabellaria fenestrata	O	9	9	4	1	–	–	–	3	1	–	–
T. flocculosa	W	8	5	5	5	–	–	1	4	1	–	–
Unknown	?	1	1	2	–	3	1	2	2	–	1	2
中～下流性河川 (K)		6	1	4	3	6	5	13	10	4	5	1
最下流性河川 (L)		–	–	–	–	3	1	–	1	1	–	1
湖沼浮遊生 (M)		–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
湖沼沼沢湿地 (N)		22	26	36	28	1	–	19	11	1	–	–
沼沢湿地付着生 (O)		15	26	18	34	–	–	7	9	1	–	–
陸域 (Q)		1	–	1	3	3	1	–	2	1	–	–
広布 (W)		61	50	59	57	23	11	65	69	13	11	18
淡水不定・不明種 (?)		99	103	86	77	24	9	96	105	15	2	5
珪藻殻数		204	206	204	202	60	27	200	207	37	19	25

(種群は安藤 (1990) による)

第 66 表　堆積物中の珪藻化石産出表 (2)



第109図　SD25堆積物中の珪藻化石分布図



第110図　SX27堆積物中の珪藻化石分布図

[高層湿原指標種群（P)]：尾瀬ケ原湿原や霧ケ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

[陸域指標種群（Q)]：上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻と呼ばれている)。

4. 珪藻化石の特徴と堆積環境およびその変遷（図版 66)

全試料から検出された珪藻化石は､淡水種64分類群25属50種1変種であった｡これらの珪藻化石は、6環境指標種群に分類された（第 66 表)。これら環境指標種群の特徴から、28 区 SD25 堆積物が大きく 3 珪藻帯、28 区 SX27 堆積物が 2 珪藻帯に分帯された（第 109・110 図)。以下に、各遺構について珪藻分帯における珪藻化石群集の特徴とその堆積環境について述べる。

[SD25]

大きく 3 珪藻帯に分帯される。

Ⅰ帯（試料 No.6)

この試料中には、珪藻化石が少ない。検出された珪藻化石は、中～下流性河川指標種群などであった。珪藻化石が少ない原因としては、珪藻化石が本来少なかったことのほか、堆積後に珪藻殻が消失したことも考えられる（Murakami,1996)。

Ⅱ帯（試料 No.5)

この試料中には、下位試料 No.6 よりもやや多くの珪藻化石が検出された。検出された珪藻化石は、試料 No.6 とほぼ同様であった。

Ⅲ帯（試料 No.1 ～ 4)

これらの試料中には、湖沼沼沢湿地指標種群の Aulacosira ambigua や Melosira pensacolae など、沼沢湿地付着生の Stauroneis phoenicenteron などが特徴的に出現した。また、試料 No.2 以外では、中～下流性河川指標種群も検出された。

以上の特徴から、やや河川の影響を受ける水深のある沼沢湿地環境が推定される。

[SX27]

大きく 2 珪藻帯に分帯された。

Ⅰ帯（試料 No.3 ～ 5)

これらの試料中には、珪藻化石が少ない。検出された珪藻化石は、中～下流性河川指標種群などであった。珪藻化石が少ない原因は、SD25 のⅠ帯と同様と考えられる。

Ⅱ帯（試料 No.1･2)

これらの試料中には、湖沼沼沢湿地指標種群の Aulacosira ambigua や Melosira pensacolae など、沼沢湿地付着生の Stauroneis phoenicenteron など､中～下流性河川指標種群が特徴的に検出された。

以上の特徴から、やや河川の影響を受ける水深のある沼沢湿地環境が推定される。

5. おわりに

古代の遺構であるSD25およびSX27のシルト質シルトや粘土質シルトなど堆積物について、堆積環境を推定するために珪藻化石を調べた。

その結果、いずれの遺構も、堆積初期においては少ないものの中～下流性河川指標種群の珪藻化石が検出され、その後はやや河川の影響を受ける水深のある沼沢湿地環境が推定された。

＜引用文献＞

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，73-88.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用．第四紀研究，27，1-20.

Murakami T.(1996)Silicious Remains Dissolution at Sphagnum-bog of Naganoyama Wetland in Aichi Prefecture,Central Japan.第四紀研究，35，17-23.

第5節　樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

〈平成21年度〉

1. はじめに

岩田西遺跡は岐阜市岩田西に所在し、長良川左岸の低地にある遺跡である。Ⅵ層上部の25区SX11は須恵器や土錘などの遺物とともに自然木が集中して出土しており、時期は古代以前である。ここから出土した自然木の5点の樹種同定を行った。

2. 方法

試料は下層確認状況から2点（No.2、No.4）、25区SX11下層確認から3点（No.20、21、23）の計5点である。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行った。

剃刀を用いて試料の3断面（横断面・接線断面・放射断面）から切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを顕微鏡で観察・同定し、写真撮影を行った。

3. 結果

樹種同定の結果、マツ科のツガ属、ヒノキ科のヒノキ、ブナ科のブナ属の計3分類群が同定された。ツガ属とブナ属が各1点ずつ、ヒノキが3点産出した。木取りはツガ属が丸木、ブナ属が割材、ヒノキ属が3点とも割材であった。結果の一覧は第67表に示す。

以下に同定根拠となった分類群の木材組織の特徴を記載し、顕微鏡写真は図版に示す（図版67）。

(1) ツガ属　Tsuga　マツ科　図版67　1a-1c(No.4)

仮道管、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。放射組織の上下に放射仮道管があり、有縁壁孔対によって確認することができる。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で1分野に2～4個存在し、放射組織の末端壁は、数珠状に肥厚する。

ツガ属は暖帯から福島県以南の温帯～暖帯に生育する常緑高木で、ツガとコメツガがある。材は比較的重硬で耐朽・保存性は中庸、割裂・乾燥は容易である。建築・土木・器具などに用いられる。

(2) ヒノキ　Chamaecyparis obtusa (Siebold et Zucc.) Endl.　ヒノキ科　図版67　2a-2c(No.21)

仮道管、放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で1分野に2個存在する。

ヒノキは温帯から暖帯に分布する。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性、耐湿性は著しく高く狂いが少ない。建築・器具・漆器・土木・彫刻・経木などに利用される。

(3) ブナ属　Fagus　ブナ科　図版67　3a-3c(No.2)

単独ないし2～3個複合した道管が密に散在する散孔材だが、晩材部の道管は大きさを減ずる。道管の穿

通No.	遺物No.	出土位置	樹種	木取り
2	2	下層確認出土状況	ブナ属	割材
4	4	下層確認出土状況	ツガ属	芯持丸木
20	木④	SX11下層確認	ヒノキ	割材
21	木⑤	SX11下層確認	ヒノキ	割材
23	木⑦	SX11下層確認	ヒノキ	割材

第67表　分析結果一覧表（1）

孔は単一のものと階段状の2種類があるが、単一のみ確認できた。放射組織はほぼ同性で、単列のもの、2～数列のもの、広放射組織の3種類がある。

ブナ属は温帯に分布する落葉高木で、ブナとイヌブナがある。材は堅硬・緻密・靭性があるが保存性は低く狂いが出やすい。器具・家具・ろくろ細工などに用いられる。

4. まとめ

下層確認状況からはツガ属とブナ属、25区SX11下層確認の3点はいずれもヒノキであった。遺構別による樹種選択も考えられるが、ヒノキの木取りは割材であることから、原材を分割して利用した可能性もある。

当遺跡周辺は夏緑広葉樹林帯と常緑広葉樹林帯との境界領域であり、ツガ属、ヒノキ、ブナ属はいずれもこの分布域に属するものである。特にツガ属のツガはモミとともにこの境界領域では落葉広葉樹にしばしば混生する（宮脇1977）。ツガ属はツガとコメツガの2種があるがコメツガは亜高山帯に分布するため、遺跡周辺の植生で考えると同定されたツガ属はツガの可能性が高い。ツガは一般に比較的土壌の浅い尾根筋または急斜面など乾燥する場所によく生育する。

<参考・引用文献>

平井信二（1996）木の大百科．394p，朝倉書店．
宮脇昭（1977）日本の植生．535p．学研．

<平成22年度>

1. はじめに

岩田西遺跡は岐阜市岩田西に所在する、古代から近世の複合遺跡である。ここでは古代、室町時代、中世～近世の溝から検出された火付け木や杭材、自然木と思われる木材など50点の樹種同定を行なった。

2. 試料と方法

試料は、調査区16区から出土した室町時代の杭材14点（No.1～14）、23区の古代の杭材3点（No.15～17）、19区の室町時代の杭材2点（No.18･19）、28区の古代の用途不明品1点（No.20）、18区･23区･25区・26区・30区の古代から室町時代の火付け木もしくは火付け木？10点（No.21～30）、27区の室町時代の杭材5点（No.31～35）、22区の戦国～近世の杭材3点（No.36～38）、23・24区・28区の古代から鎌倉時代の自然木？13点（No.39～50）の合計50点である。なお、No.46は同一試料内に複数の分類群が検出されたため、試料番号の後ろに補助番号を設けた。

剃刀を用いて試料の3断面（横断面・接線断面・放射断面）から切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察・同定し、写真撮影を行った。

	器種	火付け木					火付け木？	杭					自然木？			用途不明品	
	時代	鎌倉	室町				古代	古代	室町			戦国～近世	古代		鎌倉	古代	
樹種	調査区	23	18	25	26	30	23	23	16	19	27	22	28	23,24	23,24	28	合計
モミ属											1						1
マツ属複維管束亜属			1	2	2	2	1	3		2	2	2	1				18
スギ											2			1			3
ヒノキ		1					1					1			1	1	5
カヤ													1	1			2
クリ															1		1
コナラ属アカガシ亜属									4				2				6
カツラ属														1			1
ツバキ属									4								4
サカキ									1								1
ヒサカキ									2								2
モモ													1				1
サクラ属									1				1	1			3
タニウツギ属									2								2
環孔材													1				1
計		1	1	2	2	2	2	3	14	2	5	3	7	4	2	1	51

第 68 表　分析結果一覧表 (2)

3. 結果

同定の結果、針葉樹ではモミ属、マツ属複維管束亜属、スギ、ヒノキ、カヤの 5 分類群、広葉樹ではクリ、コナラ属アカガシ亜属（以下アカガシ亜属と呼ぶ)、カツラ、ツバキ属、サカキ、ヒサカキ、モモ、サクラ属、タニウツギ属、分類群不明環孔材の 10 分類群、合計 15 分類群が確認された。

器種別では、火付け木および火付け木？はマツ属複維管束亜属とヒノキの 2 分類群が産出し、木取りはすべて割材であった。杭材はモミ属、マツ属複維管束亜属、スギ、ヒノキ、アカガシ亜属、ツバキ属、サカキ、ヒサカキ、サクラ属、タニウツギ属の 10 分類群が産出し、木取りは芯持丸木・半割・不明であった。自然木？はマツ属複維管束亜属、スギ、ヒノキ、カヤ、クリ、アカガシ亜属、カツラ、モモ、サクラ属、分類群不明の環孔材の 9 分類群が産出し、木取りは芯持丸木・割材・不明があった。用途不明品の樹種ヒノキで、木取りは芯無削出であった。

遺構および器種別に樹種をまとめたものを第 68 表、木取りをまとめたものを第 69 表、結果の一覧を第 70 表に示す。

以下に同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版 68 ～ 70 に示す。

(1) モミ属　Abies　マツ科　図版 68　1a-1c(No.34)

仮道管および放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。放射組織でじゅず状末端壁がみられる。分野壁孔は小型のスギ型で、1 分野に 1 ～ 4 個存在する。

モミ属は暖帯から温帯の山地に生育する常緑高木でウラジロモミ・シラベ・トドマツなど約 5 種ある。材は柔軟で加工容易であるが、割れやすく狂いが出て保存性が低い。

(2) マツ属複維管束亜属 Pinus subgen. Diploxylon　マツ科　図版 68　2a-2c(No.16)、3a-3c(No.36)

仮道管、垂直・水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急か緩やかで、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁

孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側へ向かって鋸歯状の突起がみられる。

マツ属複維管束亜属は暖帯から温帯下部に分布する常緑高木で、アカマツとクロマツがある。材は油気が多く、靭性は大である。

木取り	火付け木	火付け木？	杭	自然木？	用途不明品	計
芯持丸木			20	2		22
芯持丸木？			1			1
半割			2			2
芯無削出					1	1
割材	8	2		5		15
不明			4	6		10
計	8	2	27	13	1	51

第69表　分析試料木取り一覧表

(3) スギ　Cryptomeria japonica (L.f.) D.Don　スギ科　図版68　4a-4c(No.31)

仮道管、放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は穏やかで、晩材部の幅は広い。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で、1分野に通常2個並ぶ。

スギは暖帯・温帯下部に生育する。材は比較的軽軟で切削加工は容易、割裂性は大きい。

(4) ヒノキ　Chamaecyparis obtusa (Siebold et Zucc.) Endl.　ヒノキ科　図版68　5a-5c(No.47)

仮道管、放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に接線状に配列もしくは散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で1分野に2個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性・耐湿性は著しく高く狂いが少ない。

(5) カヤ　Torreya nucifera Sieb. et Zucc.　イチイ科　図版68・69　6a-6c(No.49)

仮道管と放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。仮道管壁に2本対になったらせん肥厚がある。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に4個程度存在する。

カヤは宮城県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は緻密かつ硬堅であり、弾性・耐久力が強く水湿にも強い。

(6) クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　ブナ科　図版69　7a-7c(No.48)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。道管放射組織間壁孔は柵状となる。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木で、材は耐朽性・耐湿性に優れ、保存性が高い。

(7) コナラ属アカガシ亜属　Quercus subgen. Cyclobalanopsis　ブナ科　図版69　8a-8c(No.11)、9a(No.43)

円形でやや大型の道管が、単独で放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔細胞はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で単列ものと広放射組織がある。

試料No.	実測番号	遺物番号	調査区名	遺構層位名	時期	器種	樹種	木取り
1	—	—	16	杭列1　杭1	古代	杭	サクラ属	芯持丸木
2	—	—	16	杭列1　杭2	古代	杭	コナラ属アカガシ亜属	不明
3	—	—	16	杭列1　杭3	古代	杭	ツバキ属	不明
4	—	—	16	杭列1　杭4	古代	杭	コナラ属アカガシ亜属	不明
5	563	935	16	杭列1　杭5	古代	杭	ツバキ属	芯持丸木
6	—	—	16	杭列1　杭6	古代	杭	タニウツギ属	芯持丸木
7	564	936	16	杭列1　杭7	古代	杭	ツバキ属	芯持丸木
8	—	—	16	杭列1　杭8	古代	杭	タニウツギ属	芯持丸木
9	—	—	16	杭列1　杭9	古代	杭	コナラ属アカガシ亜属	不明
10	—	—	16	杭列1　杭10	古代	杭	ツバキ属	芯持丸木
11	565	937	16	杭列1　杭11	古代	杭	コナラ属アカガシ亜属	芯持丸木
12	—	—	16	杭列1　杭12	古代	杭	サカキ	芯持丸木
13	—	—	16	杭列1　杭13	古代	杭	ヒサカキ	半割
14	566	938	16	杭列1　杭14	古代	杭	ヒサカキ	芯持丸木
15	567	762	23	SD25　No.162	古代	杭	マツ属複維管束亜属	芯持丸木
16	568	763	23	SD25　No.176	古代	杭	マツ属複維管束亜属	芯持丸木
17	569	764	23	SD25　No.187	古代	杭	マツ属複維管束亜属	芯持丸木
18	570	1033	19	杭列2　No.85杭	室町	杭	マツ属複維管束亜属	芯持丸木
19	571	1034	19	杭列2　No.86杭	室町	杭	マツ属複維管束亜属	芯持丸木？
20	572	905	28	SD25　No.455	古代	用途不明品	ヒノキ	芯無削出
21	573	1445	18	ｱｾﾞ検出１面目南	室町	火付け木	マツ属複維管束亜属	割材
22	574	959	23	SD30　ｾｸｼｮﾝ1東2層	鎌倉	火付け木	ヒノキ	割材
23	575	1364	25	田23	室町	火付け木	マツ属複維管束亜属	割材
24	576	1476	26	南1面検出中	室町	火付け木	マツ属複維管束亜属	割材
25	577	1475	26	耕土中	室町	火付け木	マツ属複維管束亜属	割材
26	578	1199	30	南北方向ｱｾﾞ断割内	室町	火付け木	マツ属複維管束亜属	割材
27	579	1517	30	1面耕土中	室町	火付け木	マツ属複維管束亜属	割材
28	580	765	23	SD25　No.184	古代	火付け木？	ヒノキ	割材
29	581	766	23	SD25　No.305	古代	火付け木？	マツ属複維管束亜属	割材
30	582	1365	25	田23	室町	火付け木	マツ属複維管束亜属	割材
31	—	—	27	杭61	戦国～近世	杭	スギ	芯持丸木
32	—	—	27	杭71	戦国～近世	杭	スギ	芯持丸木
33	—	—	27	杭73	戦国～近世	杭	マツ属複維管束亜属	芯持丸木
34	—	—	27	杭78	戦国～近世	杭	モミ属	半割
35	—	—	27	杭83	戦国～近世	杭	マツ属複維管束亜属	芯持丸木
36	—	—	22	SD27,29　杭1	戦国～近世	杭	マツ属複維管束亜属	芯持丸木
37	—	—	22	SD27,29　杭10	戦国～近世	杭	ヒノキ	芯持丸木
38	—	—	22	SD27,29　杭18	戦国～近世	杭	マツ属複維管束亜属	芯持丸木
39	—	—	23,24	SD25　No.153	古代	自然木？	サクラ属	芯持丸木
40	—	—	23,24	SD25　No.158	古代	自然木？	スギ	割材
41	—	—	23,24	SD25　No.170	古代	自然木？	カヤ	割材
42	—	—	23,24	SD25　No.189	古代	自然木？	カツラ属	割材
43	—	—	28	SD25　No.195	古代	自然木？	コナラ属アカガシ亜属	不明
44	—	—	28	SD25　No.198	古代	自然木？	コナラ属アカガシ亜属	芯持丸木
45	—	—	28	SD25　No.199	古代	自然木？	マツ属複維管束亜属	割材
46-1	—	—	28	SD25　No.201	古代	自然木？	サクラ属	不明
46-2	—	—	28	SD25　No.201	古代	自然木？	環孔材	不明
47	—	—	23,24	No.63	鎌倉	自然木？	ヒノキ	不明
48	—	—	23,24	No.77	鎌倉	自然木？	クリ	不明
49	—	—	28	SD25　No.137	古代	自然木？	カヤ	割材
50	—	—	28	SD25　No.138	古代	自然木？	モモ	不明

第70表　分析結果一覧表（3）

アカガシ亜属は主に暖帯に分布する常緑高木で、アカガシ、ハナカガシ、ツクバネガシ、アラカシなど8種がある。イチイガシ以外は木材組織からは識別困難なため、イチイガシを除いたアカガシ亜属とする。材はきわめて堅硬、弾性強く強靭で、水湿に強い。

(8) カツラ属　Cercidiphyllum　カツラ科　図版69　10a・10c(No.42)

角張った道管が、年輪内で密に散在する散孔材で、晩材部ではやや径を減ずる。道管の穿孔は30段程度の階段状で、道管の尾部にらせん肥厚がみられる。放射組織は平伏細胞と方形細胞からなる異性で、道管放射組織間壁孔は水平となる。接線断面の観察が行えなかったが、横断面から放射組織の幅は1～3列程度と推測される。以上から、カツラと判断した。

カツラ属は温帯から暖帯に分布する落葉高木で、カツラとヒロハカツラがある。材は軽軟で靭性があり、加工は容易である。

(9) ツバキ属　Camellia　ツバキ科　図版69　11a-11c(No.5)

小径でほぼ単独の道管が、晩材に向けてやや径を減じながら散在する散孔材である。道管の穿孔は10段程度の階段状である。放射組織は方形もしくは直立細胞が上下に2～4細胞連なる異性で1～3列幅、多列部と単列部の太さはほぼ同じである。

ツバキ属は温帯から暖帯に生育する常緑高木もしくは低木である。ヤブツバキ、サザンカ、チャノキなどがある。材は切削加工および割裂は困難であるが、強靭で耐朽性は大きく、重硬・緻密な有用材である。

(10) サカキ　Cleyera japonica Thunb.　ツバキ科　図版69・70　12a-12c(No.12)

小径の薄壁で角張った道管が、ほぼ単独でやや密に分布する散孔材である。道管の穿孔は30段程度の階段状となる。放射組織は直立細胞が2～4個連なる異性でほぼ1列である。

サカキは暖帯から亜熱帯に分布する常緑の小高木である。材は硬く強靭、割裂は困難で、建築・器具材、薪炭に利用される。

(11) ヒサカキ　Eurya japonica Thunb.　ツバキ科　図版70　13a-13c(No.14)

小径の薄壁で角張った道管が、ほぼ単独でやや密に分布する散孔材である。道管の穿孔は40段以上の階段状である。放射組織は1～4列幅で、多いものでは上下に直立細胞が4個以上連なる異性となる。

ヒサカキは暖帯～亜熱帯に生育する常緑低木または小高木である。材の強さは中庸、割裂は困難である。

(12) モモ　Prunus persica Betshi　バラ科　図版70　14a-14c(No.50)

年輪のはじめにやや大きな道管が1～3列程度並び、晩材部では道管が単独で散在する、半環孔状の散孔材である。道管に着色物質を含むものがあり、穿孔は単一である。放射組織は1～10列幅で、直立、平伏、方形細胞を有する異性である。

モモは温帯に分布する落葉高木である。材は重く、やや強度もある。

(13) サクラ属（広義） Prunus s.l.　バラ科　図版 70　15a-15c(No.39)

やや小型の道管が、単独あるいは放射方向・斜線方向に複合する散孔材である。道管に着色物質を含むこともある。穿孔は単一で、道管内壁にはらせん肥厚を有する。放射組織は１～７列幅の異性である。

サクラ属は温帯に生育する落葉または常緑の高木または低木である。サクラ属はさらにサクラ亜属、スモモ亜属、モモ亜属、ウワズミザクラ亜属などに分類され、25 種がある。木材組織からはモモとバクチノキ以外は識別困難なため、この 2 種を除いたサクラ属とする。

(14) タニウツギ属　Weigela　スイカズラ科　図版 70　16a-16c(No.6)

小型の道管がほぼ単独で散在する散孔材である。道管の穿孔は 40 段以上の階段状となる。放射組織は 1 ～ 3 列幅、上下に方形もしくは直立細胞が 5 つ以上連なる異性で、単列部と多列部はほぼ同じ太さとなる。

タニウツギ属は主に温帯に生育する落葉低木である。タニウツギ属にはヤブウツギ、タニウツギ、ニシキウツギなど 8 種があり、主に山地に分布している。

(15) 環孔材　Ring-porous wood　図版 70　17a-17c(No.46-2)

環孔材と思われるが、試料の状態が悪く横断面における道管の配列が不明瞭だったため、これ以上の同定は困難であった。道管の穿孔は単一で、放射組織は単列同性となる。

4. まとめ

火付け木および火付け木相当のものはマツ属複維管束亜属の割材が多く用いられていた。マツ属複維管束亜属は樹脂を豊富に含んでおり燃焼しやすいためであると考えられる。数点利用されていたヒノキも材によっては樹脂が多いものもある。

杭材は、調査区 23・19・17 ではマツ属複維管束亜属を中心とする針葉樹が用いられていたが、調査区 16 では広葉樹のみで構成されていた。広葉樹にはコナラ属アカガシ亜属やツバキ属、サクラ属など小高木～高木の他に、ヒサカキやタニウツギ属などの低木も利用されていた。樹種構成の違いは時代によるものではないことから、遺構の種類や用途によって使用する樹種を変えていた可能性がある。しかし、杭材は基本的に身近な樹木を利用する傾向があるため（伊東・島地, 1988)、いずれも遺跡周辺に生育していた樹木であると思われる。

自然木と考えられる木材は、古代ではマツ属複維管束亜属、スギ、カヤ、アカガシ亜属、カツラ、モモ、サクラ属、環孔材の 8 分類群、鎌倉時代ではヒノキとクリの 2 分類群であった。このうち、マツ属複維管束亜属、スギ、ヒノキ、アカガシ亜属、サクラ属は杭材でも検出されている。遺跡周辺では、古代から中世にかけて針葉樹と落葉・常緑広葉樹が混生していたと思われる。

＜引用文献＞

島地謙、伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧. 259p, 雄山閣出版.

〈平成 23 年度〉

1. はじめに

岩田東Ａ遺跡は岐阜市岩田東に所在する遺跡である。ここから出土した炭化材 25 点の樹種同定結果を報告する。なお、同じ試料の一部を用いて AMS 法による年代測定も行われており、弥生時代中期の年代が得られている（放射性炭素年代測定の報告参照)。

2. 試料と方法

試料は 4 区から出土した炭化材で、SB3 住居跡から 14 点、SX16 炉跡から 1 点、SX20 炭集中から 10 点、合計 25 点である。同一試料内に異なる樹種が入っていた場合は試料番号の後に補助番号を設けた。

最初に、肉眼もしくは実体顕微鏡で観察し、木取りの確認および径、年輪数の計測を行うとともに大まかな分類群に分けた。その後、手あるいはカッターナイフを用いて 3 断面（横断面・接線断面・放射断面)を割り出し、試料を作製した。直径 1cm の真鍮製試料台に試料を両面テープで固定し、銀ペーストを塗布して乾燥させた後、金蒸着して走査型電子顕微鏡（日本電子㈱製　JSM-5900LV 型）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

樹種	SB3	SX16	SX20	合計
マツ属複維管束亜属	1			1
コウヤマキ	1			1
オニグルミ			1	1
クリ	11	1	7	19
イチイガシ	1			1
コナラ属クヌギ節	1			1
ムクノキ	1			1
ケヤキ			1	1
カエデ属			1	1
合計	16	1	10	27

第 71 表　分析試料一覧表 (4)

3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹はマツ属複維管束亜属、コウヤマキの 2 分類群、広葉樹はオニグルミ、クリ、イチイガシ、コナラ属クヌギ節、ムクノキ、ケヤキ、カエデ属の 7 分類群、合計 9 分類群が確認された。試料はすべて 1cm 以下の破片となっており、木取りは不明である。遺構別の樹種構成を第 71 表に、結果の一覧を第 72 表に示す。

以下に、同定された分類群の木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版 71･72 に示す。

(1) マツ属複維管束亜属　Pinus subgen. Diploxylon　マツ科　図版 71　1a-1c(No.8)

仮道管、垂直・水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側向きに鋸歯状に肥厚する。

マツ属複維管束亜属は暖帯から温帯下部に分布する常緑高木で、アカマツとクロマツがある。材は油気が多く、靭性は大である。

(2) コウヤマキ　Sciadopitys verticillata (Thunb.) Siebold et Zucc.　コウヤマキ科　図版 71　2a-2c(No.3-1)

No.	遺構名	旧遺構名	樹種	木取り	年輪数	年代測定番号
1	SB3	SX406住居	クリ	破片	1	―
3-1	SB3	SX406住居	コウヤマキ	破片	2	―
3-2			クリ	破片	1	―
4-1	SB3	SX406住居	クリ	破片	1	PLD-19558
4-2			イチイガシ	破片	<1	―
5	SB3	SX406住居	クリ	破片	1	―
6	SB3	SX406住居	クリ	破片	1	―
7	SB3	SX406住居	クリ	破片	1	―
8	SB3	SX406住居	マツ属複維管束亜属	破片	6	PLD-19559
10	SB3	SX406住居	クリ	破片	2	―
12	SB3	SX406住居	クリ	破片	1	―
13	SB3	SX406住居	クリ	破片	1	―
15	SX16	SX401炉跡	クリ	破片	3	―
17	SB3	SX406住居	コナラ属クヌギ節	破片	1	―
19	SB3	SX406住居	クリ	破片	1	―
20	SB3	SX406住居	クリ	破片	4	―
21	SB3	SX406住居	ムクノキ	破片	3	―
23	SX20	SX405炭集中	クリ	破片	8	―
25	SX20	SX405炭集中	カエデ属	破片	2	―
26	SX20	SX405炭集中	ケヤキ	破片	3	―
27	SX20	SX405炭集中	クリ	破片	3	―
28	SX20	SX405炭集中	クリ	破片	1	―
29	SX20	SX405炭集中	クリ	破片	<1	―
32	SX20	SX405炭集中	クリ	破片	1	―
33	SX20	SX405炭集中	クリ	破片	2	―
34	SX20	SX405炭集中	クリ	破片	1	―
35	SX20	SX405炭集中	オニグルミ	破片	<1	―

第72表　分析結果一覧表（4）

仮道管と放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅がきわめて狭い。分野壁孔は窓状である。

コウヤマキは福島県以南の温帯から暖帯上部に生育する常緑針葉高木である。材は耐朽性・耐湿性が強く、強靭で微香がある。

(3) オニグルミ　Juglans mandshurica Maxim. var. sieboldiana (Maxim.) Makino　クルミ科　図版71　3a-3c(No.35)

大型の道管が単独もしくは放射方向に数個複合して散在する散孔材である。軸方向柔組織は線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性で1～4列幅である。

オニグルミは温帯～暖帯に分布する落葉高木で、川沿いなど湿気の多いところに生育する。材は重さ・硬さは中庸で保存性はあまりないが、粘りがあり、狂いが少なく加工容易である。

(4) クリ　Castanea crenata Siebold et Zucc.　ブナ科　図版71・72　4a-4c(No.10)、5a-5c(No.20)、6a(No.23)、7a(No.27)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。材は耐朽性・耐湿性に優れ、保存性が高い。

(5) イチイガシ　Quercus gilva Blume　ブナ科　図版 72　8a-8c(No.4-2)

円形で大型の道管が単独で散在し、やや放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。穿孔は単一である。放射組織は単列同性だが、広放射組織は試料が小片のため確認できなかった。

イチイガシは関東地方以西の太平洋側に分布する常緑高木である。材はきわめて堅硬、弾性強く強靭で、水湿に強い。

(6) コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Aegilops　ブナ科　図版 72　9a-9c(No.17)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は単列同性のものと広放射組織とが存在する。

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアベマキがある。材はいずれも重硬で加工困難である。

(7) ムクノキ　Aphananthe aspera (Thunb.) Planch.　ニレ科　図版 72　10a-10c(No.21)

中型で厚壁の道管が単独ないし 2 ～ 3 個複合し、年輪を通じて均等に分布する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状～帯状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は 1 ～ 6 列幅で、方形細胞もしくは直立細胞が上下端に 2 細胞程度連なる異性である。

ムクノキは関東以西の暖帯、亜熱帯に生育する落葉高木である。材は堅く密で強靭である。

(8) ケヤキ　Zelkova serrata (Thunb.) Makino　ニレ科　図版 72　11a-11c(No.26)

大型の道管が年輪のはじめに 1 列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は 3 ～ 5 列幅程度の異性で、上下端の細胞に大きな結晶をもつ。

ケヤキは暖帯下部に分布する落葉高木で、肥沃地や渓畔によく生育する。材は重硬で狂いがない。

(9) カエデ属　Acer　カエデ科　図版 72　12a-12c(No.25)

中型の道管が単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。横断面において木部繊維の壁厚の違いによる雲紋状の模様がみられる。道管の穿孔は単一で、道管壁にはらせん肥厚が密にある。放射組織は同性で 1 ～ 10 列幅である。

カエデ属は主に温帯に分布する落葉高木で、オオモミジ、ハウチワカエデ、イタヤカエデなど 26 種ある。材は緻密で靭性がある。

4. 考察

SB3 住居跡では、マツ属複維管束亜属、コウヤマキ、クリ、イチイガシ、コナラ属クヌギ節、ムクノキの 6 分類群がみられた。試料 No.3 と No.4 は試料内に複数樹種が確認された。16 点中クリが 11 点と最も多く、その他はすべて 1 点ずつであった。すべて破片となっているため用途は不明であるが、住居跡から出土していることから、用途は建築材、燃料材、器具材などが考えられる。材質は針葉樹のマツ属複維管束亜属およびコウヤマキは強靭で耐朽性があり、広葉樹はいずれも重硬および強靭であることから、薪炭材から建築材、器具材まで多用途に用いることができる。

SX16 炉跡の炭化材はクリであった。破片で元の形状を留めていないが、炉跡から出土していることから、燃料材の可能性が高い。クリは大径木となり、材質も重硬で耐朽性も大きいため多用途に用いられる優良材であるが、薪炭材としても優れている。

SX20 炭集中では、オニグルミ、クリ、ケヤキ、カエデ属の 4 分類群がみられた。10 点中 7 点がクリで、SB3 最も多く、他のオニグルミ、ケヤキ、カエデ属は 1 点ずつであった。いずれも高木に成長する落葉広葉樹である。材はオニグルミが硬さ中庸で加工容易であるが、クリ、ケヤキ、カエデ属は重硬で加工困難である。

産出した分類群はいずれも温帯から暖帯の常緑樹林帯に生育する樹木であり、本遺跡周辺を分布域にもつ。同じく岐阜市内の城之内遺跡で行われた花粉分析では、縄文時代晩期～弥生時代頃はコナラ属コナラ亜属を中心とする落葉広葉樹林が形成されており、針葉樹のコウヤマキやスギ、落葉樹のカエデ属なども生育していた。弥生時代頃～古墳時代頃もコナラ属コナラ亜属が卓越する森林が形成されており、照葉樹のアカガシ亜属やシイノキ属もみられる（新山, 1996）。今回の樹種同定結果は、上記の花粉分析の結果とも整合的であることから、木材は遺跡周辺に生育していた樹木を伐採したものと思われる。

＜引用文献＞

新山雅広（1996）花粉化石群集. 高木洋・恩田裕之他編「堀田・城之内」:270-281, 岐阜市遺跡調査会.
島地謙、伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧. 259p, 雄山閣出版.

第6節　土器内の内容物分析

藤根　久・バンダリ スダルシャン・佐々木由香（パレオ・ラボ）

1. はじめに

岩田東Ａ遺跡は、岐阜市岩田西一丁目地内に所在し、段丘上に立地する弥生時代～中世の遺構からなる遺跡である。調査では、須恵器および灰釉陶器が出土した。ここでは、須恵器および灰釉陶器内の土壌を対象として、内容物について検討した。なお、炭化種実の同定はバンダリが担当した。

2. 試料と方法

試料は、8区から出土した須恵器と12区から出土した灰釉陶器の内部に堆積していた土壌2試料である（第73表）。

試料№.	遺跡名	調査区	試料	層位	土壌の特徴	備考
1	岩田東A遺跡	8区	SK196須恵器内土	下層	黒褐色（10YR 2/2），粘土質シルト	炭化種実含む
2		12区	SX71灰釉陶器内土	-	黒褐色（10YR 2/2），粘土質シルト	

第73表　土器内内容物分析試料一覧表

試料は、約20g程度採取して乾燥させた後、礫を取り除いた後セラミック乳鉢で軽く粉砕した。粉砕した試料は、塩化ビニール製リングに充填した後、油圧プレス機を用いて20tプレスをして測定用ブリケットを作成した。

リン・カルシウム分析は、元素マッピング分析を行った後、リン（P）マッピング画像およびカルシウム（Ca）マッピング画像の濃度の高い位置を5ヵ所ずつ選定して点分析を行った。

点分析の測定は、Ｘ線分析顕微鏡（㈱堀場製作所製XGT-5000Type Ⅱ）を用いた。元素マッピングの測定条件は、Ｘ線導管径100 μ m、電圧50KV、電流自動設定、測定時間10,000secである。点分析の測定条件は、Ｘ線導管径100 μ m、電圧50KV、電流自動設定、測定時間500secである。定量計算は、標準試料を用いないFP（ファンダメンタルパラメータ）法で半定量分析を行った。

細粒部（約150 μ m以下）の特徴を調べるために、典型的な粘土部分を1g程度採取し、珪藻分析と同様の処理（過酸化水素水による有機物の分散、コロイド分の除去）を行って珪藻分析用プレパラートを作製した。珪藻分析用プレパラートは光学顕微鏡を用いて観察した。

なお、試料№.2は、土壌310gについて0.5mm篩を用いて水洗選別し、肉眼または実体顕微鏡下で炭化種実の抽出、同定を行った。

分析をおこなった試料は、岐阜市教育振興事業団に保管されている。

3. 結果

以下に、各試料の肉眼的特徴と、含まれていた炭化種実、細粒部の顕微鏡による観察結果、蛍光Ｘ線分析による元素マッピング結果について述べる。

［試料№.1］

試料は、黒褐色（10YR 2/2）の粘土質シルトからなり、土師器片およびシイ属炭化子葉1点を含んでいた。細粒部分の顕微鏡観察では、石英や雲母類あるいは火山ガラスなどの鉱物のほか、炭片や植物珪酸体化石が多く、胞子化石などが含まれていた（図版73）。

試料No.	点No.	対象元素	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	MnO_2	Fe_2O_3	CuO	ZnO	BrO	SrO	Y_2O_3	ZrO_2	PbO	Total
1	1	P	0.83	13.42	64.33	0.99	0.44	2.17	0.37	1.27	0.47	15.34	0.03	0.03	0.05	0.05	0.02	0.14	0.04	99.99
	2		1.04	13.07	61.99	1.29	0.47	2.05	0.48	1.39	1.44	16.39	0.07	0.04	0.06	0.05	0.02	0.12	0.04	100.01
	3	Mn	1.72	15.67	42.24	1.11	0.32	1.34	0.35	1.00	22.35	13.22	0.03	0.04	0.03	0.04	0.02	0.09	0.43	100.00
	4	Cu	0.48	17.83	63.99	0.93	0.46	3.35	0.52	0.92	0.34	10.90	0.06	0.03	0.04	0.04	0.02	0.08	0.03	100.02
	5	その他	0.58	14.37	75.55	0.85	0.68	1.86	0.34	0.81	0.15	24.61	0.04	0.00	0.03	0.03	0.01	0.07	0.02	120.00
	6		0.00	6.24	85.86	0.57	0.62	1.14	0.14	0.38	0.14	4.75	0.01	0.00	0.03	0.04	0.01	0.06	0.03	100.02
	7		0.66	16.51	69.67	1.01	0.64	2.52	0.56	1.07	0.22	6.95	0.00	0.04	0.04	0.03	0.03	0.04	0.01	100.00
最小値			0.00	6.24	42.24	0.57	0.32	1.14	0.14	0.38	0.14	4.75	0.00	0.00	0.03	0.03	0.01	0.04	0.01	
最大値			1.72	17.83	85.86	1.29	0.68	3.35	0.56	1.39	22.35	24.61	0.07	0.04	0.06	0.05	0.03	0.14	0.43	
2	1	P	1.75	15.22	62.62	0.46	0.76	2.21	0.30	1.51	0.24	14.55	0.03	0.05	0.07	0.04	0.01	0.12	0.06	100.00
	2		1.34	19.06	59.25	0.35	0.70	2.64	0.38	1.36	0.35	14.27	0.05	0.03	0.07	0.05	0.00	0.08	0.03	100.01
	3	Mn	0.78	14.83	52.76	0.50	0.89	1.71	0.53	0.94	15.85	10.76	0.06	0.08	0.04	0.08	0.01	0.11	0.08	100.01
	4	Cu	2.01	7.91	75.43	0.28	0.76	2.22	0.22	0.90	0.22	9.67	0.14	0.03	0.04	0.04	0.01	0.07	0.04	99.99
	5	その他	0.99	14.44	74.97	0.45	0.63	1.84	0.20	0.83	0.14	5.39	0.03	0.01	0.01	0.02	0.01	0.03	0.01	100.00
	6		0.23	3.52	93.56	0.21	0.35	0.49	0.03	0.17	0.10	1.19	0.00	0.01	0.02	0.02	0.00	0.03	0.07	100.00
最小値			0.23	3.52	52.76	0.21	0.35	0.49	0.03	0.17	0.10	1.19	0.00	0.01	0.01	0.02	0.00	0.03	0.01	
最大値			2.01	19.06	93.56	0.50	0.89	2.64	0.53	1.51	15.85	14.55	0.14	0.08	0.07	0.08	0.01	0.12	0.08	

（単位:%）

第 74 表　土器内内容物半定量分析結果一覧表

元素マッピングを行った後の元素分析では、全体的にリン(P205)の含有量が 0.57 ～ 1.29% と高かった。また、鉛（PbO）の含有量も最大 0.43% であった（第 74 表)。

[試料No.2]

試料は、黒褐色（10YR 2/2）の粘土質シルトからなり、土器片および炭化種実 1 点を含んでいた。細粒部分の顕微鏡観察では、雲母や長石あるいは石英などの鉱物のほか、炭片や植物珪酸体化石が多く、火山ガラス、胞子化石などが含まれていた。また、淡水種珪藻化石 Eunotia 属、骨針化石も含まれていた（図版 73)。なお、藤根・服部（2000）が示した藻塩法を示す製塩に関わる藻場指標種群珪藻化石は含まれていなかった。

土壌を水洗選別した結果、炭化したイネ種子と苞頴、ササゲ属およびダイズ属炭化種子、オオムギ炭化種子、コムギ炭化種子、マメ科炭化種子、アワ炭化種子、シソ属炭化種子など、食用可能な種実の食べ物種子が特徴的に含まれていた（図版 74)。また、チャートなどの礫が含まれていた。

元素マッピングを行った後の元素分析では、全体的にリン（P_2O_5）の含有量が 0.45 ～ 0.50% と若干高かった（第 74 表)。

以下に、主な炭化種実の形態的特徴を記載する（第 75 表)。

(1) シイ属近似種　cf.Castanopsis　炭化子葉　ブナ科

いびつな長楕円形で、先端が尖る。半分に割れており、長さ 7.0㎜、幅 5.0㎜。

(2) クワ属　Morus sp.　炭化核　クワ科

広卵形ないし三角状広卵形で、嘴状の着点がある。長 1.5㎜、幅 1.2㎜。

(3) ダイズ属　Glycine sp.　炭化種子　マメ科

楕円形で扁平？。へそは発泡により欠損している。長さ 5.9㎜、幅 4.9㎜、厚さ 5.0㎜。

(4) ササゲ属アズキ亜属アズキ型　Vigna angularis var. angularis type　炭化種子　マメ科

側面観は角がある楕円形。へそは中央かやや下部に位置し、へその上にスポンジ状の厚膜(epihilum)が認められた。へその形態は長楕円形であり、一方にやや片寄って位置する。また、へその下に突出

した種瘤（Lens）が認められる。このような形態的特徴はマメ科のうち、ササゲ属アズキ亜属のヤブツルアズキやアズキに認められる。長さ4.5㎜、幅3.0㎜、厚さ3.0㎜。

(5) ササゲ属　Vigna sp.　炭化種子　マメ科

角がある楕円形で、へそは発泡により欠損している。長さ4.6㎜､幅3.3㎜、厚さ3.0㎜。なお、形状からダイズ属かササゲ属かの判断がつかないものをダイズ属－ササゲ属とした。

(6) マメ科　Leguminosae sp.　炭化種子

分類群	部位	No.1	No.2
シイ属近似種	炭化子葉	1	
クワ属	炭化核		1
タデ属	炭化果実		1
ダイズ属	炭化種子		1
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子		1
ササゲ属	炭化種子		(1)
ダイズ属－ササゲ属	炭化種子		1
マメ科	炭化種子		7
シソ属	炭化果実		1
オオムギ	炭化種子		1
コムギ	炭化種子		1
オオムギ－コムギ	炭化種子		1
イネ	炭化果実		32
	炭化種子		1
アワ	炭化果実		1
	炭化種子		53
イネ科	炭化果実		4
不明	炭化種実		1

（括弧は破片を示す）

第75表　土器内内容物炭化種子・果実個数一覧表

長楕円形で、やや扁平。へそは全長の2/3以上。ササゲ属とダイズ属以外と思われる。長さ2.6㎜、幅1.5㎜、厚さ1.5㎜。

(7) シソ属　Perilla sp.　炭化果実　シソ科

楕円形で、表面には網目模様がある。大きな円形の着点がある。長さ1.7㎜、幅1.4㎜。

(8) オオムギ　Hordeum vulgare Linn.　炭化種子　イネ科

側面観は紡錘形、断面は楕円形である。腹面中央部には、上下に走る1本の溝がある。背面の下端中央部には、類三角形の胚がある。長さ4.1㎜、幅1.7㎜。

(9) コムギ　Triticum aestivum Linn.　炭化種子　イネ科

側面観・上面観共に楕円形である。腹面中央部には、上下に走る1本の溝が確認できる。小型でやや厚みがあり、側面の輪郭の曲率が小さい。背面の下端中央部には、円形の胚がある。長さ3.3㎜、幅2.9㎜。なお、状態が悪くオオムギかコムギかの区別がつかなったものをオオムギ－コムギとした。

(10) イネ　Oryza sativa Linn.　炭化果実・炭化種子　イネ科

果実は、小穂の基部にある鱗片状の苞頴が多い。種子は1点検出され、側面観・上面観共に楕円形である。両面の表面には、縦方向の2本の筋が入り3等分される。この中央はやや隆起し、両端は一段下がる。長さ4.2㎜、幅2.5㎜。

(11) アワ　Setaria italica Beauv.　炭化種子　イネ科

種子は円形で、腹面下端中央の窪んだ位置に細長い楕円形の小さなへそがあり、長さ1.1㎜、幅1.0㎜。

4. 考察（第76表）

いずれの試料の土壌も、黒褐色の粘土質シルトであった。試料№2の水洗選別では、炭化したオオムギ炭化種子、コムギ炭化種子、イネ炭化種子、ササゲ属アズキ近似種の炭化種子、その他食物に由来すると考えられる炭化種実が他種類検出された。ただし、イネ果実やアワ果実など、食用できない

試料№	調査区	試料	内容物	細粒物の特徴	元素分析結果
1	8区	SK196須恵器内土	土器片,シイ属近似種炭化子葉	炭片多い	リン含有量高い,鉛含有量やや高い
2	12区	SX71灰釉陶器内土	炭化種実（アワ，イネ，マメ科他）	炭片多い,珪藻化石,骨針化石	リン含有量やや高い

第76表　土器内内容物分析結果一覧表

部位が含まれていたことから、食用後の残渣とは考えにくい。

顕微鏡観察では、いずれの試料も50 μ mの炭片（炭化した破片）が特徴的に多く含んでいた。なお、試料№.2において淡水種珪藻化石が1個体検出されたが、いずれの試料も藻塩法による製塩に関わる藻場指標種群珪藻化石は含まれていなかったことから、塩が含まれていた可能性は低いと考えられる。

元素マッピング分析では、試料№.1においてリン含有量の高い部分が複数箇所検出され、試料№.2においても若干高い部分が検出された。なお、カルシウム（CaO）は高くはなかった。人間を含め動物の骨や歯を構成する主要な無機成分は、水酸燐灰石（ハイドロキシアパタイト：$Ca_5(OH)(PO_4)_3$）からなり、リン（P）とカルシウム（Ca）がほぼ等量含まれている。土壌中の分析値から、骨成分が残存しているかどうかの判定は、リンおよびカルシウムの両元素がほぼ等量で高い値であることが必要である。なお、貝類の殻は、炭酸カルシウム（$CaCO_3$）から構成されていることから、貝殻片が残留していればカルシウムが高く検出される。ただし、カルシウムは、長石類や輝石類（例えば斜長石の端成分である灰長石 Anorthite($CaAl_2Si_2O_8$)、普通輝石 Augite($(Ca,Na)(Mg,Fe,Al)(Si,Al)_2O_6$) に含まれる（黒田・諏訪,1989）として普通に含まれる元素である。

試料№.1では、カルシウム含有量は高くないものの、リン含有量が高い部分が検出されたことから、骨片（動物骨や魚骨など）のが含まれていた可能性がある。

試料№.2は、土坑内に埋納された平安時代の灰釉陶器椀であるが、焼けた痕跡はなく、また周囲には住居などの生活遺構は確認されていない。灰釉陶器椀は煮炊きに使用することがなく、また周囲にも焼かれた遺構はないことから、含まれていた炭化物は廃棄された後に混入した炭化物と考えられるが、食用に関わる炭化種実が他種類含まれていた理由は不明である。なお、試料№.1の須江器内から検出されたシイ属近似種の炭化子葉についても、同様に含まれている理由は分からないが、1個体と少ないことから偶然性が高い。

＜引用文献＞

藤根　久・服部哲也（2000）密閉して出土した須恵器蓋杯内の内容物－塩利用の証拠－．日本文化財科学会第17回大会研究発表要旨集，116-117.

黒田吉益・諏訪兼位（1989）偏光顕微鏡と岩石鉱物［第2版］．共立出版，343p.

第7節　出土土器付着赤色顔料の蛍光X線分析

竹原弘展（パレオ・ラボ）

1. はじめに

岩田東A遺跡、岩田西遺跡より出土した土器に付着する赤色顔料について蛍光X線分析を行い、顔料の種類を検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、岩田東A遺跡より出土した弥生土器7点および岩田西遺跡より出土した灰釉陶器1点に付着する赤色顔料である（第77表）。セロハンテープに赤色部分を極少量採取して分析試料とした。

分析装置はエネルギー分散型蛍光X線分析装置である（株）堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type Ⅱを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV･1mAのロジウムターゲット、X線ビーム径が100 μ mまたは10 μ m、検出器は高純度Si検出器（Xerophy）である。検出可能元素はナトリウム～ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪いため、試料中に少量含む程度ではピークを検出し難く、検出できてもその定量値はかなり誤差が大きい。

本分析での測定条件は、50kV、0.50～1.00mA（自動設定による）、ビーム径100 μ m、測定時間500sに設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法（FP法）による半定量分析を装置付属ソフトで行った。定量値の誤差は大きい。

また、蛍光X線分析で作製した試料を観察試料として、生物顕微鏡で赤色顔料の粒子形状を確認した。

分析No.	報告No.	実測番号	遺跡名	調査区名	遺構層位名（No.等）	種類	器種	顔料付着部位
1	42	145	岩田東A	6	SB5　No.67･68	弥生土器	高杯	口縁端部
2	43	146	岩田東A	6	SB5　No.71	弥生土器	高杯	外面
3	655	253	岩田東A	6	表採	弥生土器	壺	口縁内面・端部
4	656	254	岩田東A	6	表採	弥生土器	壺	外面
5	109	294	岩田東A	7	SZ5　南西	弥生土器	壺	口縁外面・端部
6	349	311	岩田東A	8	SK176・7断割	弥生土器	脚部	外面
7	642	522	岩田東A	13東	サブトレンチ	弥生土器	高杯or器台	脚部外面・端部
8	936	950	岩田西	22	No.9　西北	灰釉陶器	椀	底部内面

第77表　赤色顔料分析試料一覧表

3. 結果

分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析結果を図版84に示す。

いずれも鉄（Fe）、ケイ素（Si）、アルミニウム（Al）が主に検出された。

また、生物顕微鏡観察により得られた画像を図版85に示す。No.1、No.5、No.6、No.7では、赤色パイプ状の粒子が観察された。

4. 考察

代表的な赤色顔料の種類としては、朱（水銀朱）とベンガラが挙げられる。水銀朱は硫化水銀（HgS）で、鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄(Fe203、鉱物名は赤鉄鉱）を指すが、広義には鉄（Ⅲ）の発色に伴う赤色顔料全般を指し（成瀬，2004)、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約1μmのパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告されている。このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリアを起源とすることが判明しており(岡田，1997)、含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す（成瀬，1998)。

いずれもケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかった。鉄が高く検出されていることから、赤い発色は鉄によるものであると推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたる。さらに、№1、№5、№6、№7についてはパイプ状の粒子が検出されたことから、鉄バクテリアを起源とする、いわゆるパイプ状ベンガラであったといえる。

5. おわりに

弥生土器7点および灰釉陶器1点に付着する赤色顔料について分析した結果、いずれも鉄が多く検出され、鉄（Ⅲ）による発色と推定された。顔料としてはベンガラにあたる。これらのうち、弥生土器4点はパイプ状の粒子が確認されており、いわゆるパイプ状ベンガラであると考えられる。

＜引用文献＞

成瀬正和（1998）縄文時代の赤色顔料Ⅰ―赤彩土器―．考古学ジャーナル，438，10-14，ニューサイエンス社.

成瀬正和（2004）正倉院宝物に用いられた無機顔料．正倉院紀要，26，13-61，宮内庁正倉院事務所.

岡田文男（1997）パイプ状ベンガラ粒子の復元．日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集，38-39.

第8節　放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤茂・安昭炫・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎

1. はじめに

岐阜県岐阜市に位置する岩田東 A 遺跡、岩田西遺跡より出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第 78 表のとおりである。

岩田東Ａ遺跡では、住居 SB3 から出土した炭化材 2 点（炭 No.4：PLD-19558、炭 No.8：PLD-19559）を試料とした。

岩田西遺跡では、16 区から出土した杭 5（PLD-19560）と杭 7（PLD-19561）を試料とした。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-19558	遺跡名：岩田東A遺跡 調査区：4区 遺構：住居SB3(旧名称SX401) 遺物番号：炭No.4	試料の種類：炭化材(クリ) 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-19559	遺跡名：岩田東A遺跡 調査区：4区 遺構：住居SB3(旧名称SX401) 遺物番号：炭No.8	試料の種類：炭化材(マツ属複維管束亜属) 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-19560	遺跡名：岩田西遺跡 調査区：16区 遺構：杭列1 遺物番号：杭5	試料の種類：生試材 試料の性状：最終形成年輪(5年輪) 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-19561	遺跡名：岩田西遺跡 調査区：16区 遺構：杭列1 遺物番号：杭7	試料の種類：生材 試料の性状：最終形成年輪(5年輪) 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)

第 78 表　年代測定試料一覧表

3. 結果

第 79 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta\ ^{13}C$）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、第 111 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

14C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、14C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した 14C 年代誤差（±１σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された 14C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、および半減期の違い（14C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

14C 年代の暦年較正には OxCal4.1（較正曲線データ：IntCal09）を使用した。なお、1 σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は 14C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

測定番号 （遺構・遺物番号）	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-19558 （4区SB3炭No.4）	-23.99±0.13	2192±20	2190±20	354BC(48.2%)291BC 231BC(20.0%)202BC	361BC(60.2%)271BC 264BC(35.2%)194BC
PLD-19559 （4区SB3炭No.8）	-23.25±0.18	2229±20	2230±20	369BC(11.4%)353BC 295BC(50.9%)229BC 220BC(5.9%)211BC	384BC(20.4%)347BC 321BC(75.0%)206BC
PLD-19560 （16区杭列1杭5）	-23.80±0.19	1136±19	1135±20	888AD(13.7%)899AD 918AD(54.5%)963AD	830AD(0.7%)837AD 868AD(94.7%)980AD
PLD-19561 （16区杭列1杭7）	-24.81±0.15	1161±19	1160±20	783AD(2.6%)787AD 820AD(14.8%)842AD 861AD(37.3%)897AD 923AD(13.5%)940AD	779AD(6.2%)793AD 802AD(67.7%)900AD 917AD(21.4%)962AD

第 79 表　暦年較正結果一覧表

4. 考察

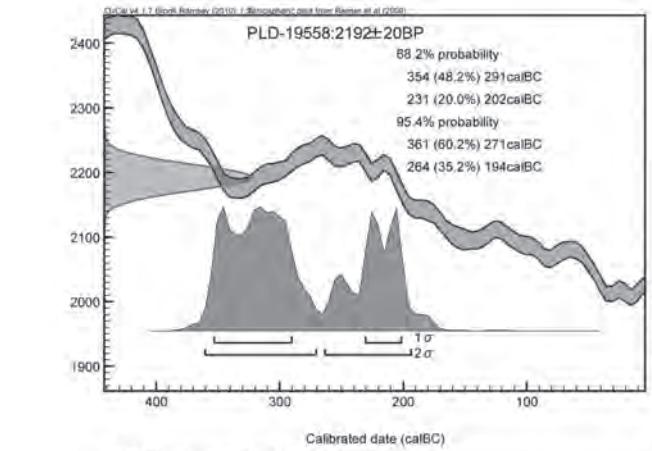
以下、2 σ暦年代範囲（確率 95.4%）に着目し、遺跡ごとに結果を整理する。

岩田東Ａ遺跡の住居 SB3 から出土した炭化材 2 点は、炭 No.4(PLD-19558)が 361-271 cal BC (60.2%) および 264-194 cal BC (35.2%) で紀元前 4 世紀前半～前 2 世紀初頭、炭 No.8 (PLD-19559) が 384-347 cal BC (20.4%) および 321-206 cal BC (75.0%) で紀元前 4 世紀前半～前 3 世紀末の範囲を示した。SB3 から出土した炭化材の暦年代は、愛知県朝日遺跡における年代論（赤塚,2009）を参照すると、弥生時代中期の朝日式～貝田町式期に相当する。

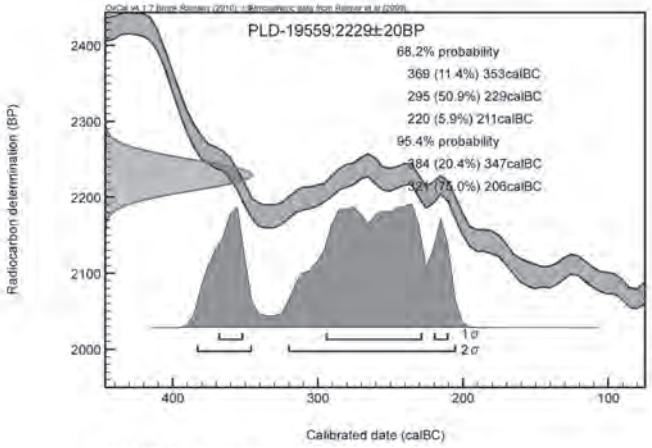
岩田西遺跡の 16 区から出土した杭は、杭 5 (PLD-19560) が 830-837 cal AD (0.7%) および 868-980 cal AD (94.7%) で 9 世紀前半～ 10 世紀後半、杭 7 (PLD-19561) が 779-793 cal AD (6.2%)、802-900 cal AD (67.7%)、917-962 cal AD (21.4%) で 8 世紀後半～ 10 世紀後半の範囲を示した。16 区の杭の暦年代はおおむね平安時代に相当する。

＜参考文献＞

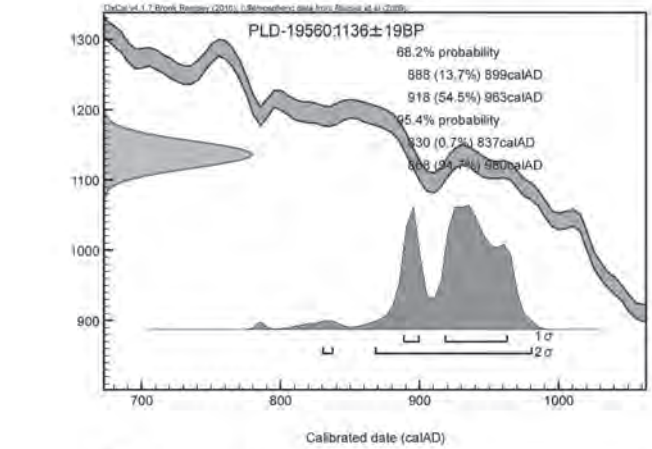
赤塚次郎 (2009) 朝日遺跡標準層序の暦年代. 愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター編「朝日遺跡Ⅷ総集編」: 134-137, 愛知県埋蔵文化財センター.



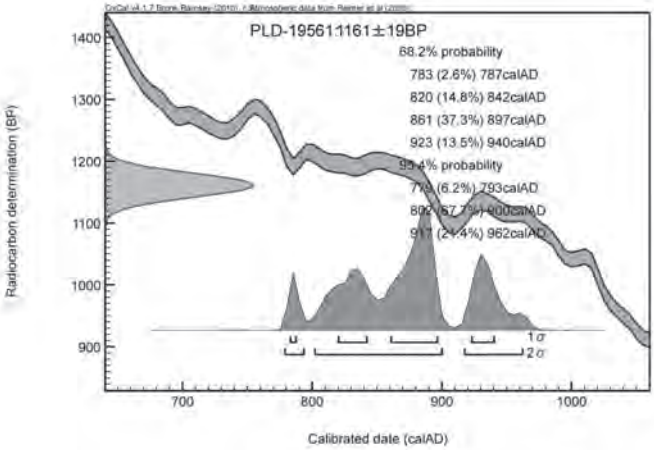
4区
SB3
炭No. 4



4区
SB3
炭No. 8



16区
杭列1
杭5



16区
杭列7
杭5

第 111 図　暦年較正曲線

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.

第9節　出土動物遺体の同定

中村賢太郎（パレオ・ラボ）

1. はじめに

岩田西遺跡は岐阜市岩田西3丁目に所在し、長良川左岸の低地部分に立地する。同遺跡の発掘調査では古代の溝が検出され、溝内から動物遺体が出土した。ここでは溝から出土した動物遺体の同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料は発掘調査現場で採集された動物遺体2点である。動物遺体が採集された遺構は、28区で検出された古代の溝SD25である。種や部位の同定は、肉眼で現生標本と比較して行った。また、歯冠高の計測は松井（2008）に従って行った。

3. 結果

1点はウマ（Equus caballus）、もう1点は種不明の哺乳類（Class Mammalia）であった。

ウマについては臼歯およびその破片が見られた。ウマの臼歯と同定した根拠は、咬合面に複雑に入り組んだエナメル質が見られることと、臼歯自体の大きさである。臼歯は破損しており、上下左右や前臼歯、後臼歯の区別はできなかった。顎骨が付着していた。また、臼歯と顎骨は焼けていなかった。残存する歯冠高は31.7㎜であったが、破損しているため、元はそれよりも高かったと見られる。

哺乳類については四肢骨の骨幹破片4片が見られた。破片であり、種、部位、左右は不明である。管状で、緻密質は厚く密であり、陸生の哺乳類と見られる。いずれも白色になるまで焼けていた。収縮による亀裂が見られる破片もあった。

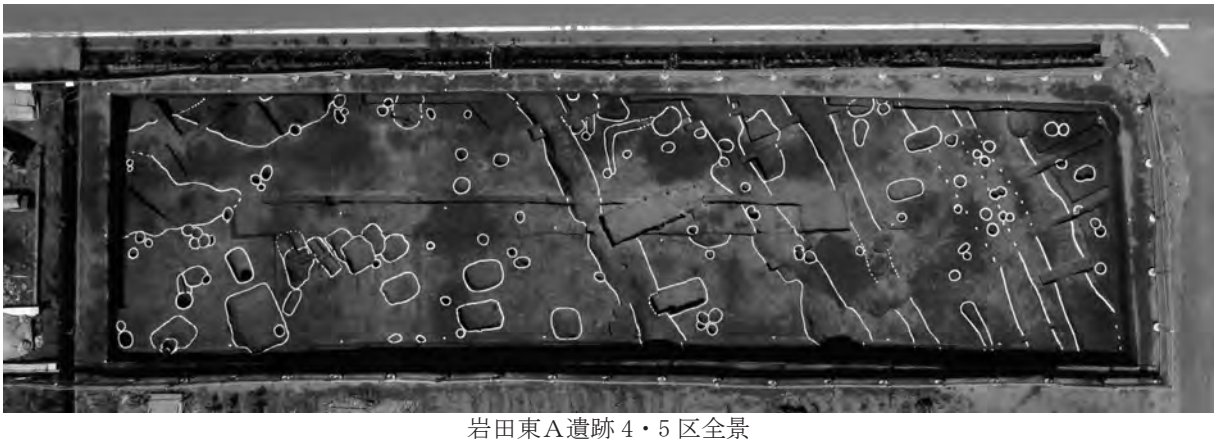
4. 考察

古代の溝28区SD25でウマの歯が確認されたことから、古代の岩田西遺跡あるいはその周辺においてウマが飼育されていた可能性が考えられる。ただし、臼歯1点のみの出土であり、どういった経緯でウマの歯が溝内に堆積したかについては不明である。

＜参考文献＞

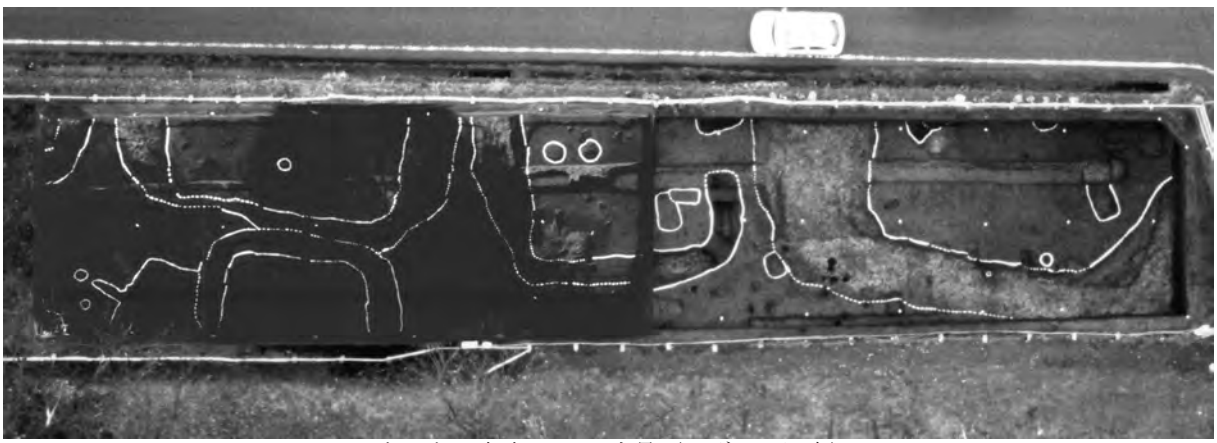
久保和士・松井　章（1999）家畜その2－ウマ・ウシ．考古学と動物学，169-208，同成社．
松井　章（2008）動物考古学．312p，京都大学学術出版会．

岩田東Ａ遺跡１～３区全景（モザイク写真）



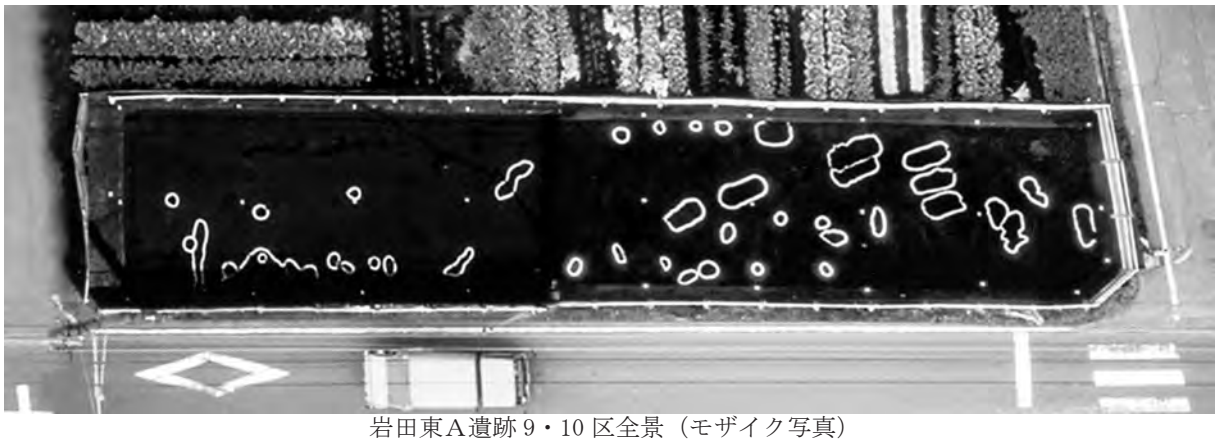
岩田東Ａ遺跡４・５区全景

岩田東Ａ遺跡６区全景



岩田東Ａ遺跡７・８区全景（モザイク写真）

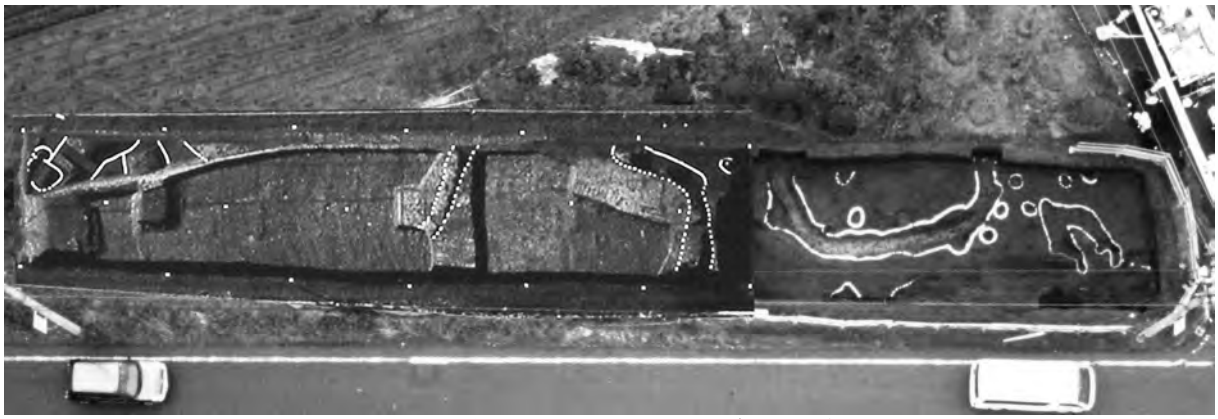
図版２（岩田東Ａ遺跡）



岩田東Ａ遺跡 9・10 区全景（モザイク写真）

岩田東Ａ遺跡 11・12 区全景（モザイク写真）

岩田東Ａ遺跡 13 東・西区全景（モザイク写真）



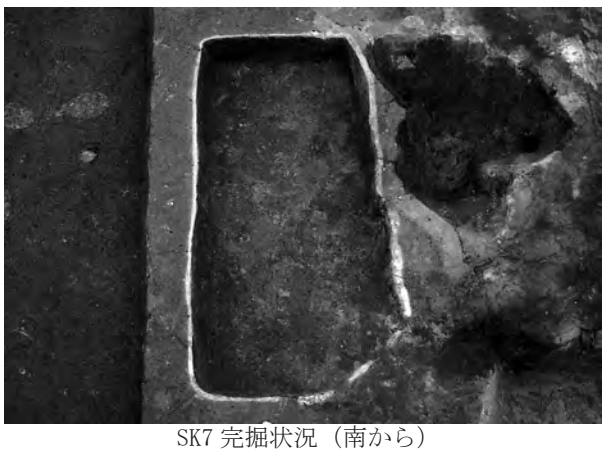
岩田東Ａ遺跡 14・15 区全景（モザイク写真）

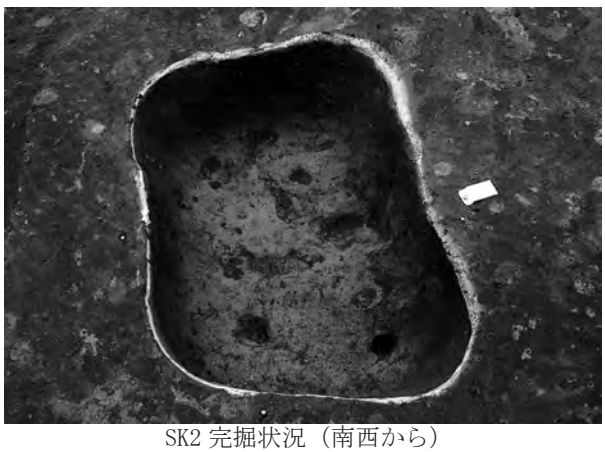
１区全景（北西から）

SD3, 4 土層状況（南から）

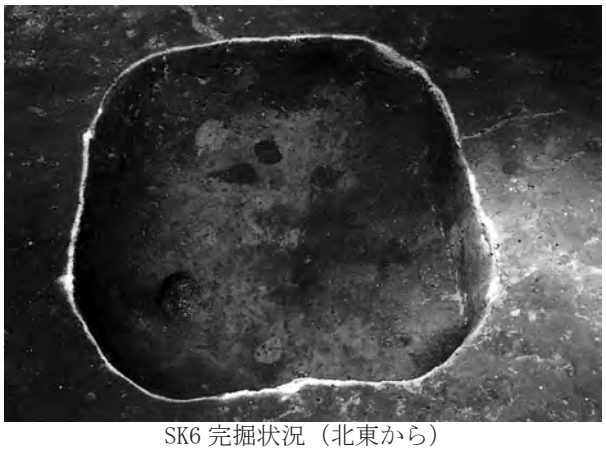
SD3, 4 完掘状況（南から）

SD2 完掘状況（南から）

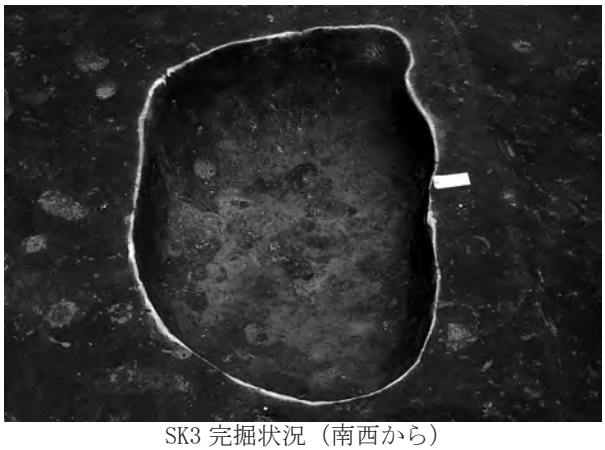

SK7 完掘状況（南から）


SK2 完掘状況（南西から）

図版４（岩田東Ａ遺跡）



SK6 完掘状況（北東から）



SK3 完掘状況（南西から）

２区全景（北西から）

Pit47 土層状況（北から）

Pit47 作業風景

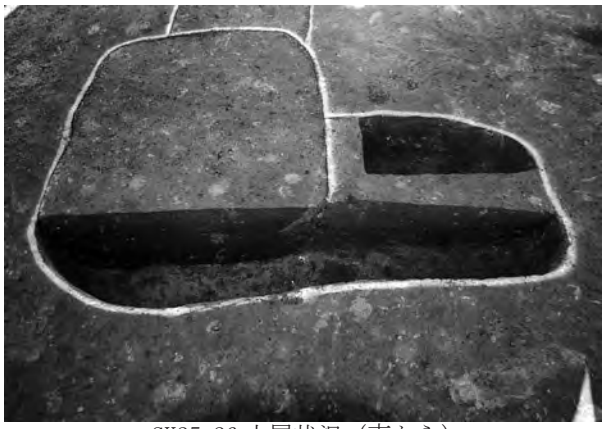
Pit47 遺物出土状況（北から）

SX5 遺物出土状況（東から）

SX5 遺物出土状況（南から）

2 区作業風景（西から）

SK24-27,31-33 完掘状況（西から）


SK25,26 土層状況（南から）

SK25,26,30 完掘状況（南から）

SK24 完掘状況（北から）

SK29 完掘状況（南から）

SK36 土層状況（東から）

SK36 完掘状況（東から）

図版６（岩田東Ａ遺跡）

３区全景（北西から）

SB1 完掘状況（南西から）

SB1 土層状況（南西から）

SB1 土層状況（北東から）

SB1 炉土層状況（西から）

SB2 完掘状況（南から）

SK53-55 完掘状況（南から）

SK54 土層状況（東から）

４区全景（南東から）

遺構検出状況（北西から）

SB3 遺物出土状況（南西から）

SB3 遺物出土状況（南から）

SX16 炉検出状況（北から）

SB3 完掘状況（南から）

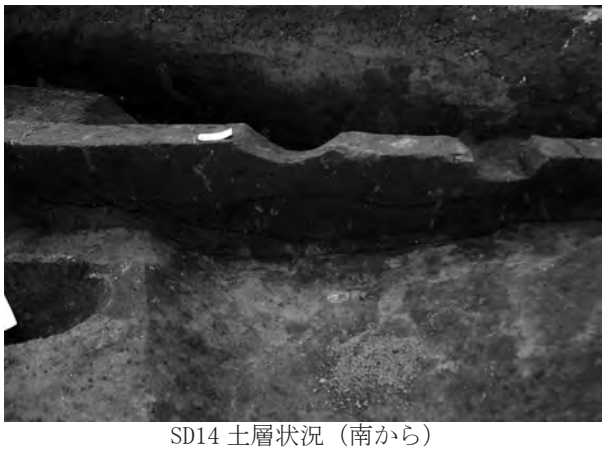
SB3 炭化物出土状況（南西から）

SX20 完掘状況（北西から）

図版８（岩田東Ａ遺跡）

SD11 土層状況（北東から）

SD13 土層状況（南から）



SD14 土層状況（南から）

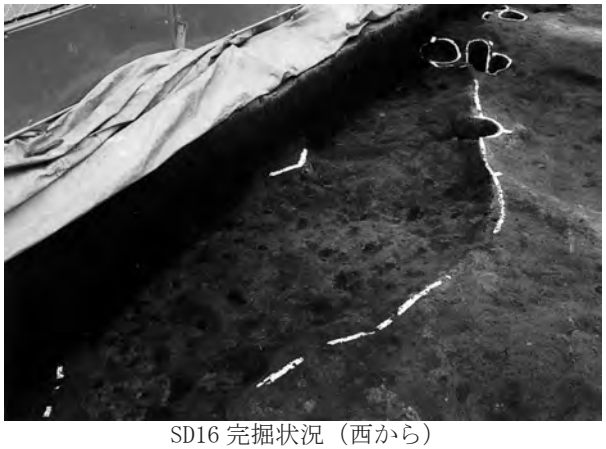
SD15 土層状況（南から）

SD12 完掘状況（南から）

SD13 完掘状況（南から）

SD14 完掘状況（南から）

SD15 完掘状況（南から）



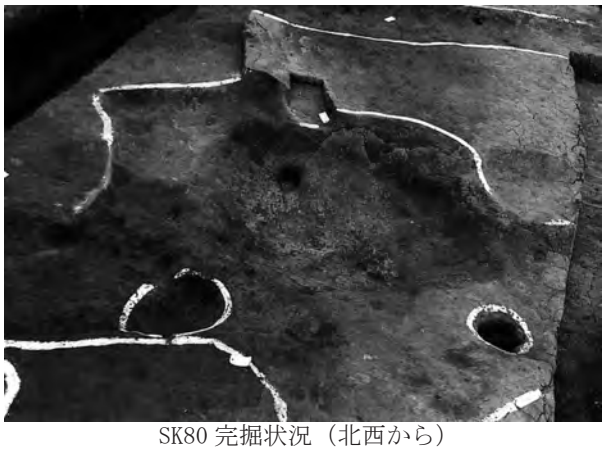
SD16 完掘状況（西から）

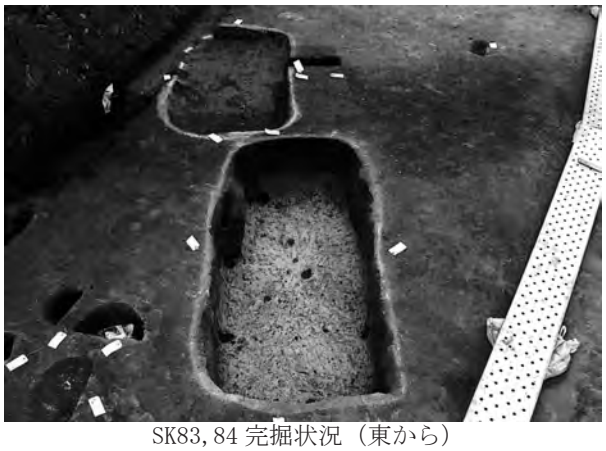
SD17 完掘状況（西から）

SD11 完掘状況（南から）

図版 10（岩田東Ａ遺跡）

SK105 完掘状況（南から）


SK80 完掘状況（北西から）


SK83, 84 完掘状況（東から）

SK84 土層状況（東から）

6 区下層全景（北西から）

SZ5 遺物出土状況（南西から）

SZ5 完掘状況（南西から）

SB4 遺物出土状況（北西から）

SB4 遺物出土状況（北から）

SB4 完掘状況（北から）

SB5 遺物出土状況（南から）

SB5 遺物出土状況（東から）

SB5 遺物出土状況（北西から）

SB5 遺物出土状況（南東から）

SB5 遺物出土状況（北西から）

SB5 土層状況（南西から）

図版 12（岩田東Ａ遺跡）

SB5 完掘状況（南から）

SX35 完掘状況（南から）

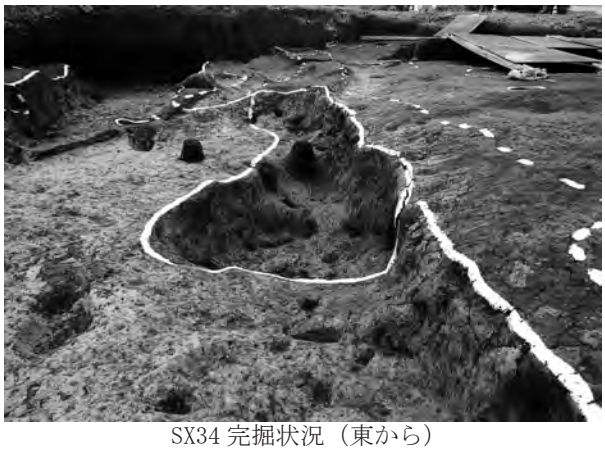
SD28 完掘状況（西から）

SD21 ～ 24, 28 土層状況（東から）

SD23 ～ 26 完掘状況（西から）

SD21, 22 完掘状況（西から）

SX34 遺物出土状況（東から）


SX34 完掘状況（東から）

SK125 土層状況（南から）

SK125 完掘状況（南から）

7 区全景（北西から）

SZ3 完掘状況（南西から）

SZ3 周溝土層状況（南西から）

SZ5 遺物出土状況（北西から）

図版 14（岩田東Ａ遺跡）

SZ5 土層状況（南から）

SZ5 土層状況（東から）

SZ5 土層状況（西から）

SZ5 完掘状況（南西から）

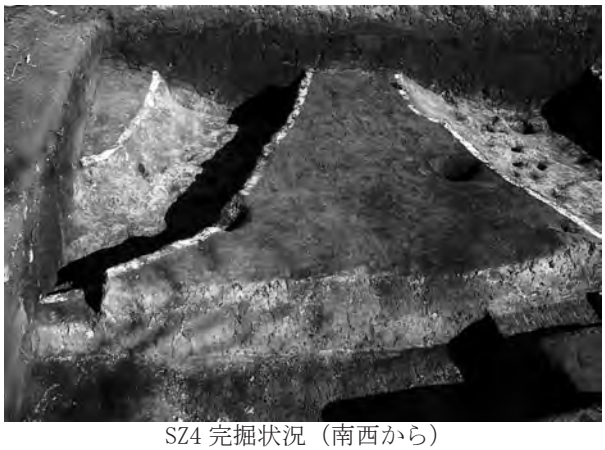
SZ5 完掘状況（北西から）

SZ5 くびれ部掘削作業風景（南から）

SZ5 くびれ部完掘状況（北西から）

SK138 完掘状況（東から）

8 区全景（南東から）


SZ4 完掘状況（南西から）

SZ1 完掘状況（北西から）

SZ1 周溝内埋葬検出状況（南から）

SZ1 周溝内埋葬土器棺出土状況（南から）

SZ1 周溝内埋葬土器棺出土状況（南西から）

SZ1 遺物出土状況（南西から）

SZ3 完掘状況（北西から）

図版 16（岩田東Ａ遺跡）

SZ3 遺物出土状況（南西から）

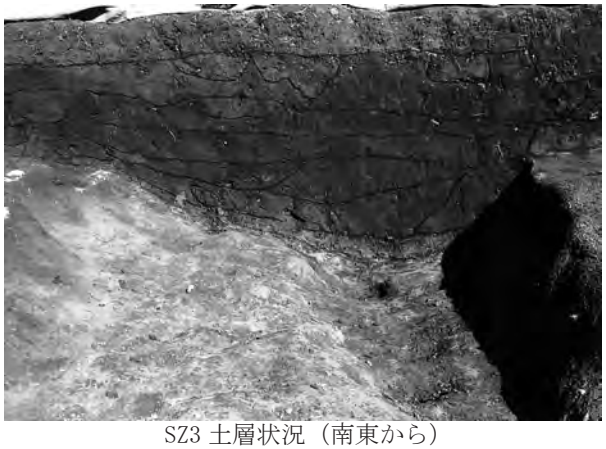
SZ3 遺物出土状況（北西から）

SZ3 遺物出土状況（西から）

SZ3 遺物出土状況（南西から）

SZ1 土層状況（北東から）

SZ2, 3 土層状況（南西から）


SZ3 土層状況（南東から）

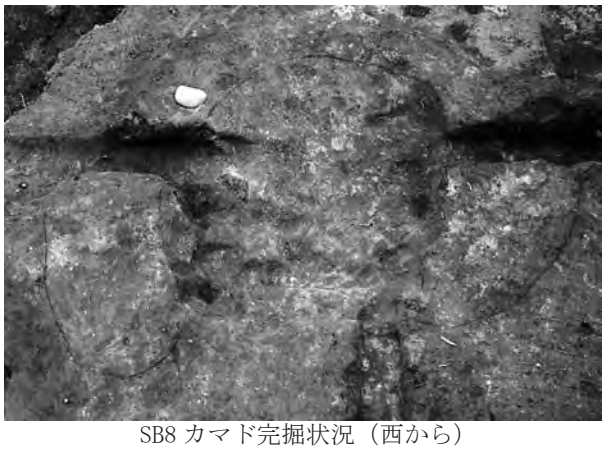
SZ4 土層状況（南東から）

SB8 カマド検出状況（北から）

SB8 カマド作業風景（北から）

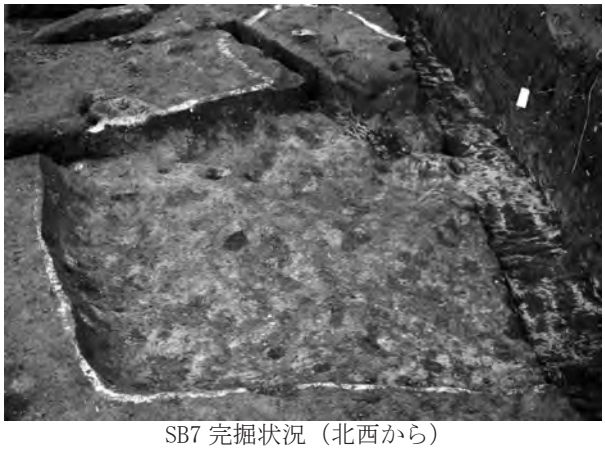
SB8 カマド残存状況（西から）

SB8 カマド土層状況（北から）

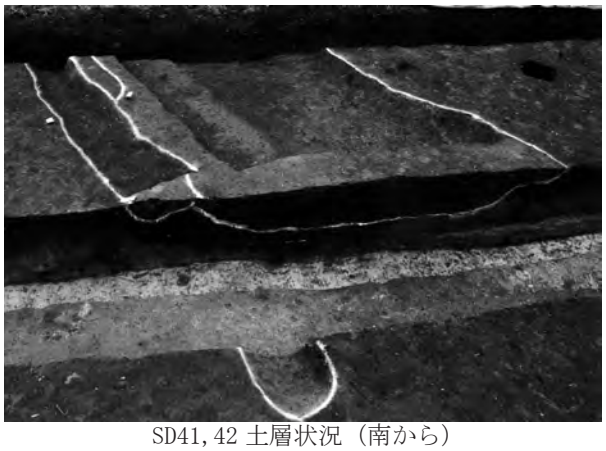

SB8 カマド完掘状況（西から）

SB6 完掘状況（南東から）

SB6 カマド完掘状況（南東から）


SB7 完掘状況（北西から）

図版 18（岩田東Ａ遺跡）

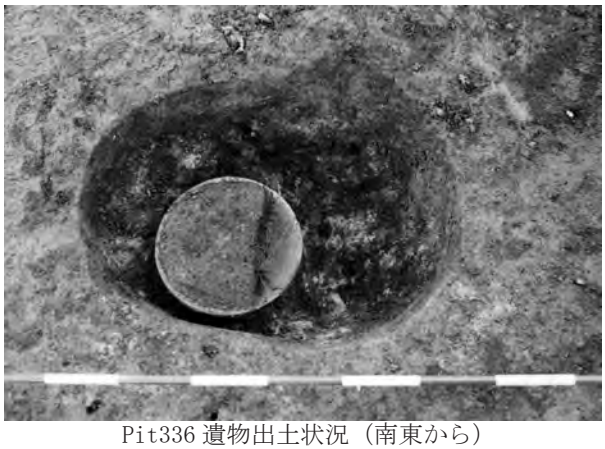

SD41,42 土層状況（南から）

SK181 完掘状況（西から）

SK194 完掘状況（北西から）

SK191 遺物出土状況（南西から）

SX49 作業風景


Pit336 遺物出土状況（南東から）

SK196 遺物出土状況（南から）

８区現地公開風景

9 区全景（北西から）

SK 群完掘状況（西から）

SK 群完掘状況（東から）

10 区全景（北西から）

Pit356 礫出土状況（南西から）

SK232 完掘状況（北東から）

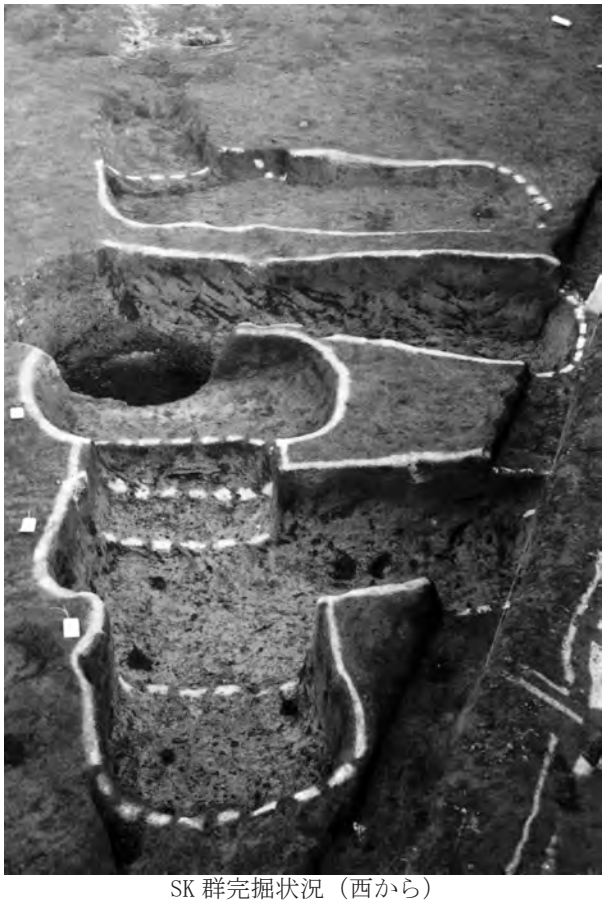
SB10 炉跡検出状況（北西から）

SB10 完掘状況（東から）

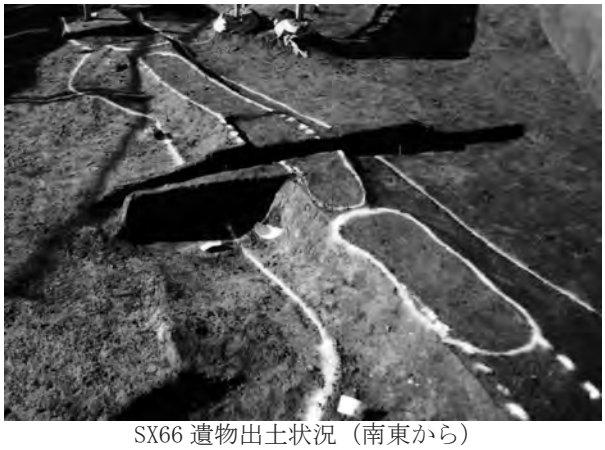
図版 20（岩田東Ａ遺跡）

SD58,59 完掘状況（西から）

SD60,61 完掘状況（西から）



SK 群完掘状況（西から）



SX66 遺物出土状況（南東から）

SX66 遺物出土状況（南から）

12 区全景（南東から）

SD67 完掘状況（南から）

SD66 完掘状況（北西から）

SX71 遺物出土状況（南西から）

SX72 完掘状況（南から）

13 区東全景（北西から）

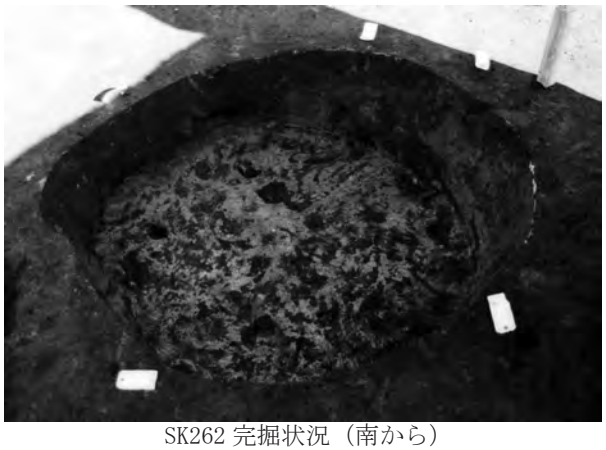
SD74 完掘状況（北から）

13 区西全景（南東から）

図版 22（岩田東Ａ遺跡）

SD76 土層状況（南西から）

SD75 遺物出土状況（南から）


SK262 完掘状況（南から）

SK264, 265 完掘状況（北から）

SX100 作業風景（南東から）

SX100 完掘状況（南から）

14 区全景（南東から）

SZ7 完掘状況（西から）

SZ7 遺物出土状況（西から）

SZ7 遺物出土状況（南から）

SZ7 遺物出土状況（東から）

SZ5 遺物出土状況（北東から）

15 区全景（南東から）

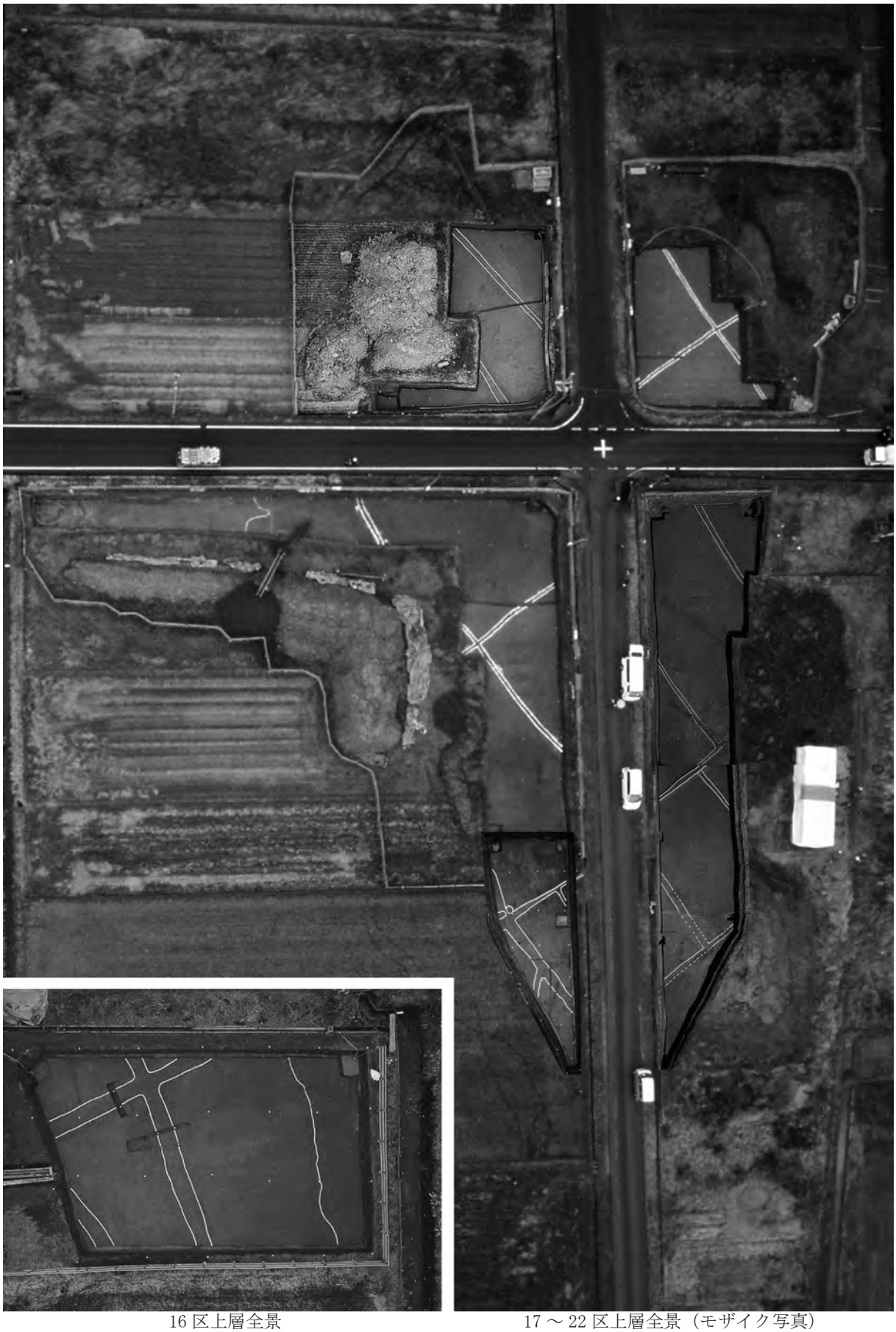
SZ6 完掘状況（南東から）

SZ6 土層状況（北西から）

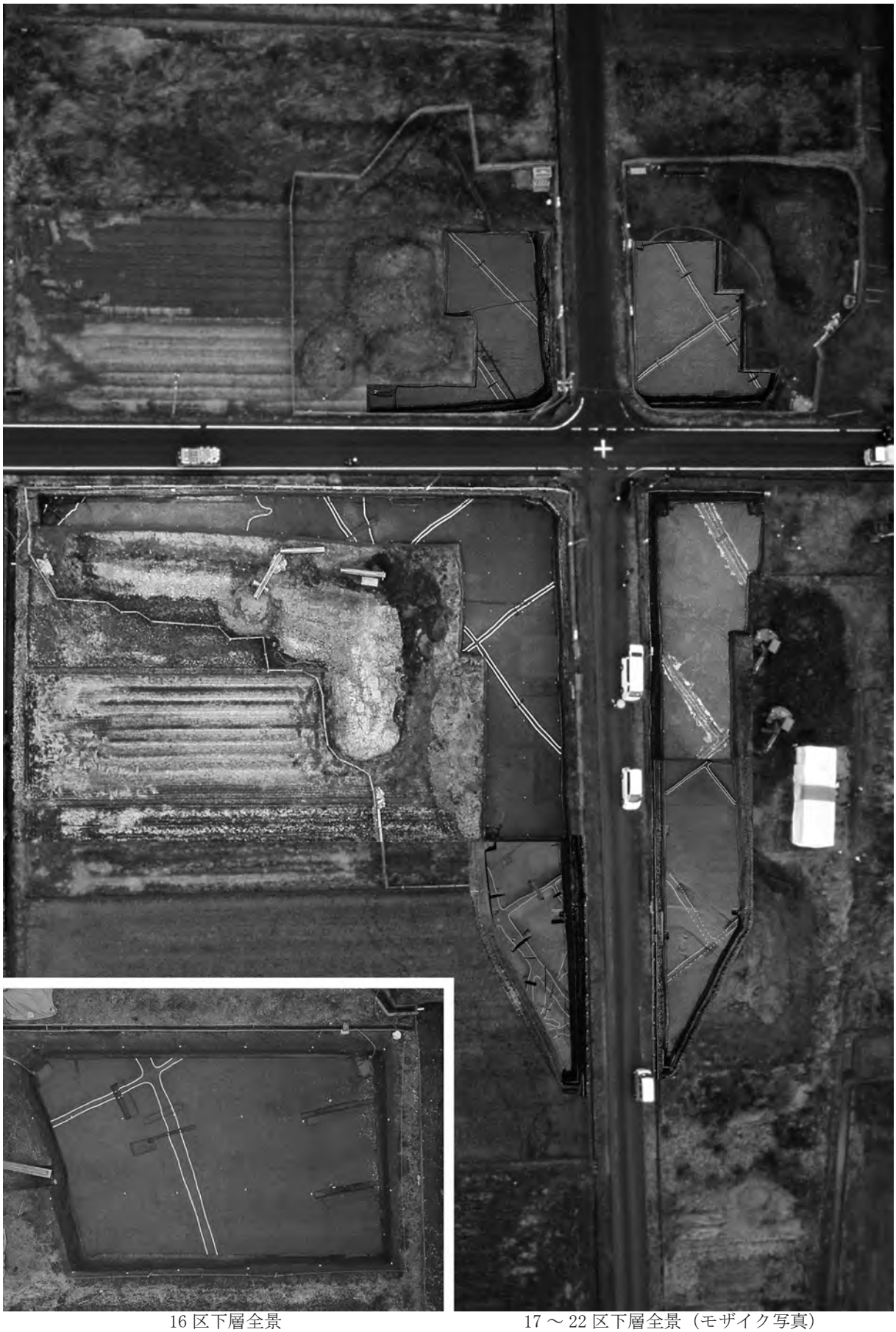
SD101, 103 完掘状況（南から）

図版 24（岩田西遺跡）

16 区上層全景



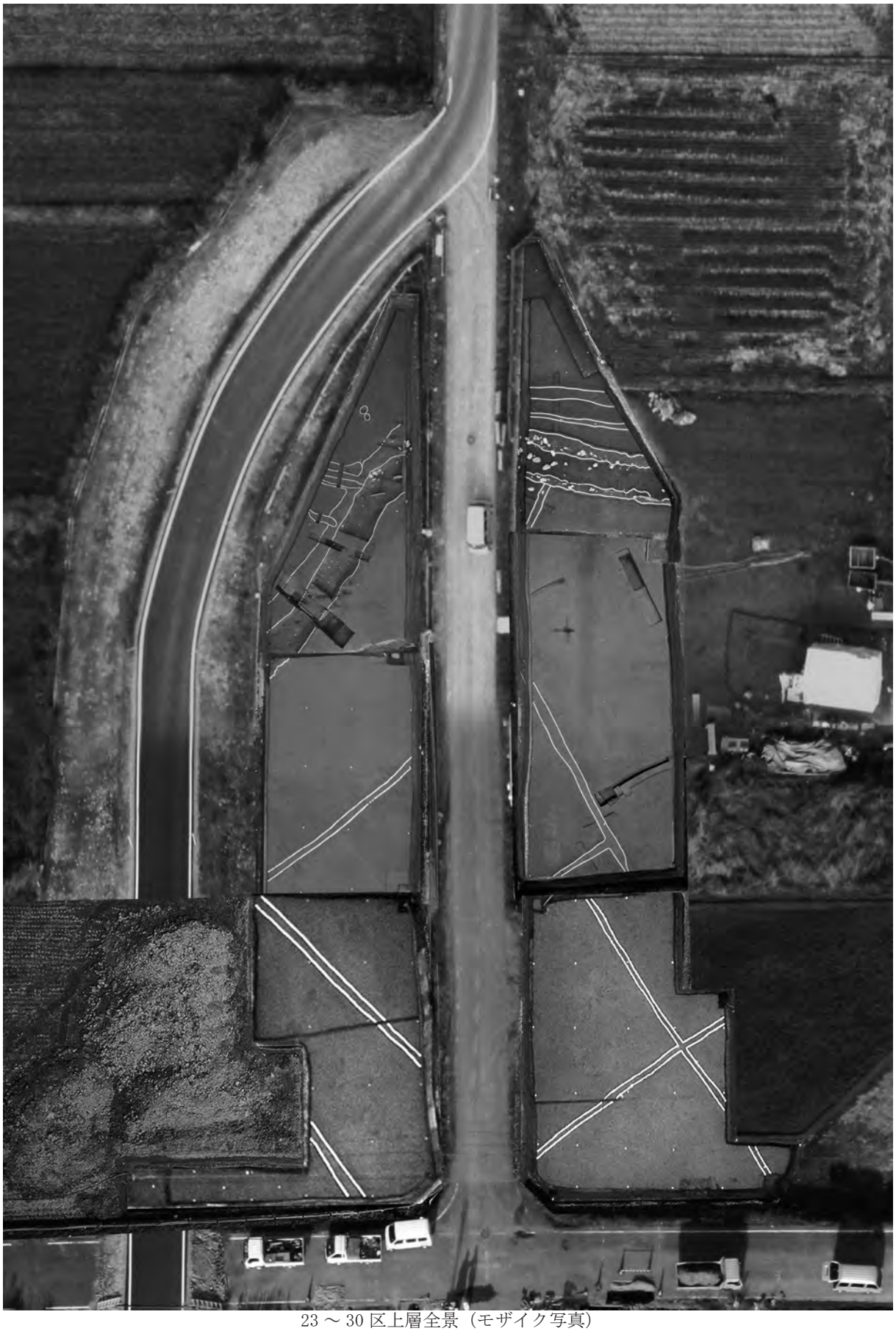
17 ～ 22 区上層全景（モザイク写真）



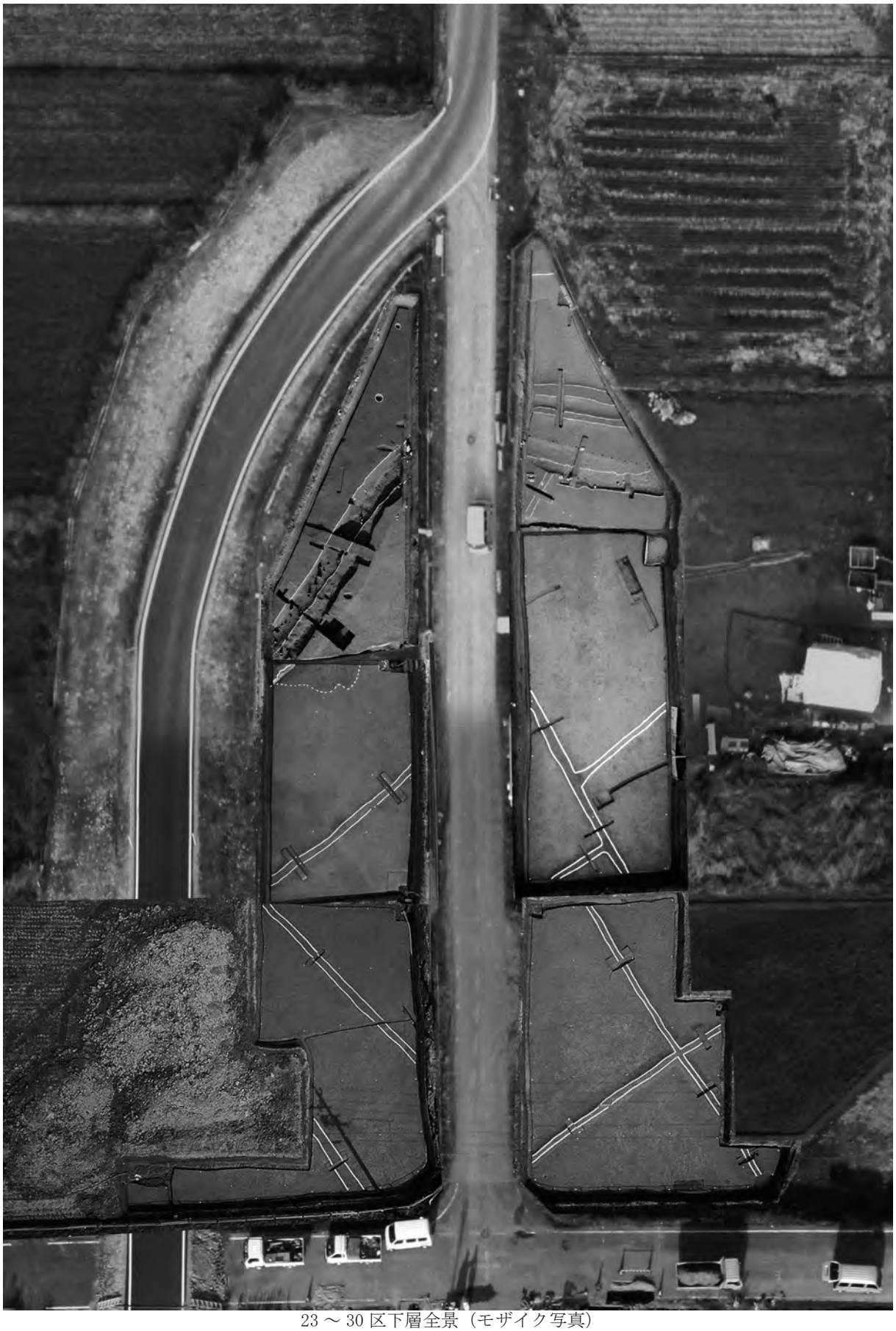
16 区下層全景

17 ～ 22 区下層全景（モザイク写真）

図版 26（岩田西遺跡）



23 ～ 30 区上層全景（モザイク写真）



23 ～ 30 区下層全景（モザイク写真）

図版 28（岩田西遺跡）

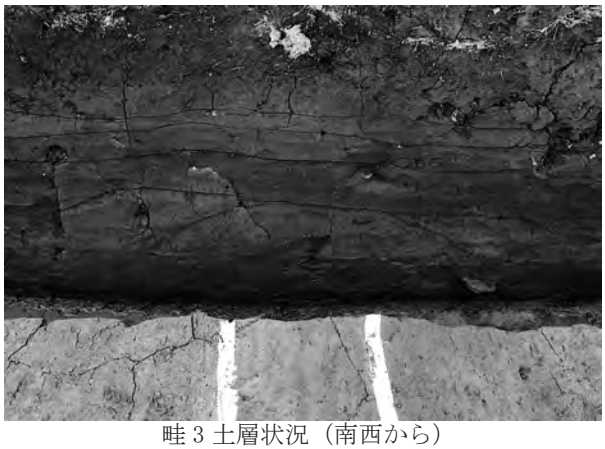
16 区全景（北西から）

16 区深掘確認土層状況（南から）

杭列 1 検出状況（南西から）

畦 1 ～ 4（西から）

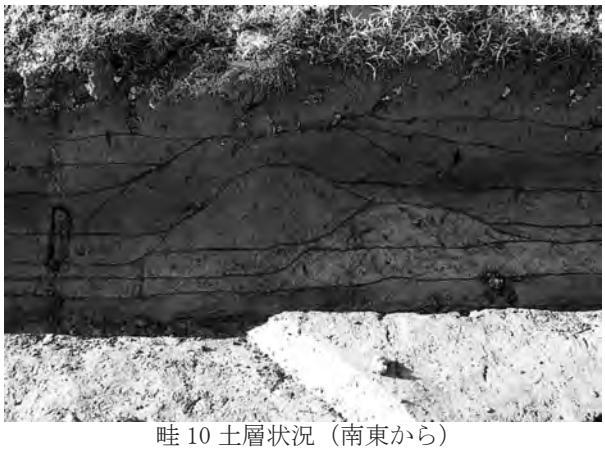
畦 2 土層状況（西から）


畦 3 土層状況（南西から）

17 区上層全景（南西から）

17 区下層全景（南西から）

畦 6 土層状況（西から）


畦 10 土層状況（南東から）

畦 6，7（南から）

畦 8 ～ 10（東から）

SD1 完掘状況（北から）

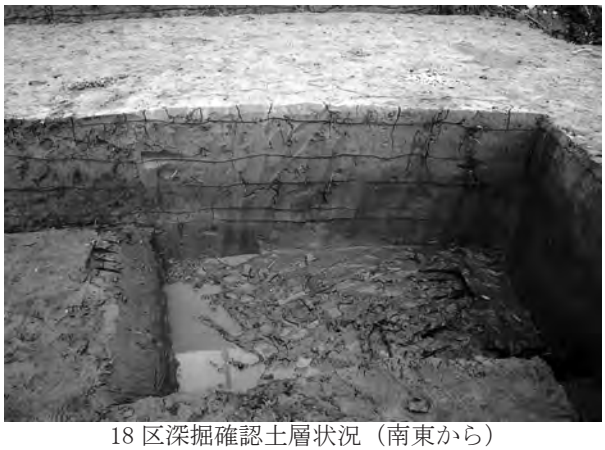
SD1 土層状況（南から）

18 区上層全景（南西から）

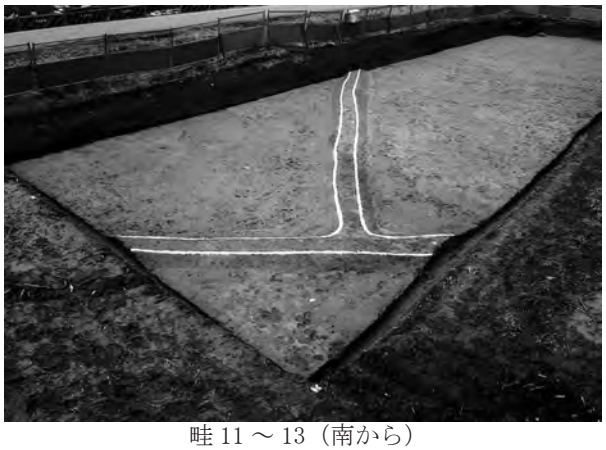
18 区下層全景（南西から）

図版 30（岩田西遺跡）

18 区土層状況（南東から）



18 区深掘確認土層状況（南東から）



畦 11 ～ 13（南から）

畦 14 土層状況（南西から）

19 区上層全景（北東から）

19 区下層全景（北東から）

畦 15 ～ 21（北から）

畦 15 土層状況（南から）

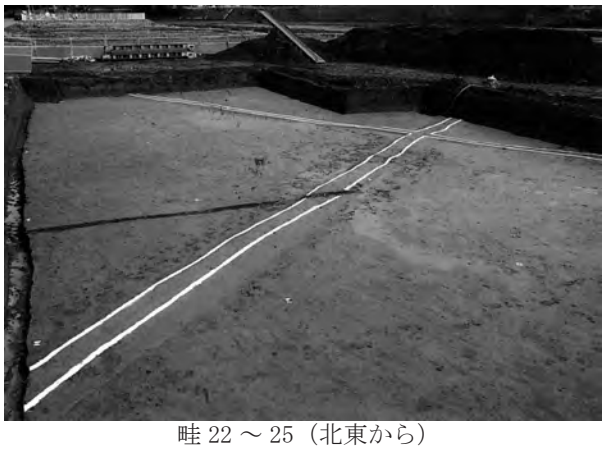
畦 15（南から）

19 区下層遺構（南から）

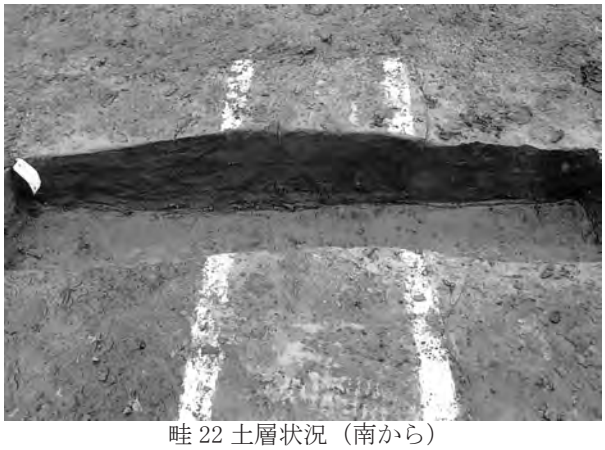
20・21 区上層全景（北から）

20・21 区下層全景（南西から）

21 区深掘確認土層状況（南西から）


畦 22 ～ 25（北東から）

畦 22 作業風景（南から）


畦 22 土層状況（南から）

図版 32（岩田西遺跡）

22 区下層全景（北西から）

22 区土層状況（南西から）

SD11（南西から）

SD13 完掘状況（南東から）

SD12,13 土層状況（西から）

SD13 土層状況（西から）

SX11 完掘状況（南西から）

23・24 区下層全景（南西から）

23・24 区土層状況（南東から）

SD25 遺物出土状況（南東から）

SD25 遺物出土状況（南東から）

SD25 完掘状況（北西から）

SD29 完掘状況（北西から）

SD25 ～ 30 土層状況（北西から）

図版 34（岩田西遺跡）

SD30 完掘状況（北西から）

SD22・29・30 土層状況（北西から）

畦 37, 38, SD28 完掘状況（北西から）

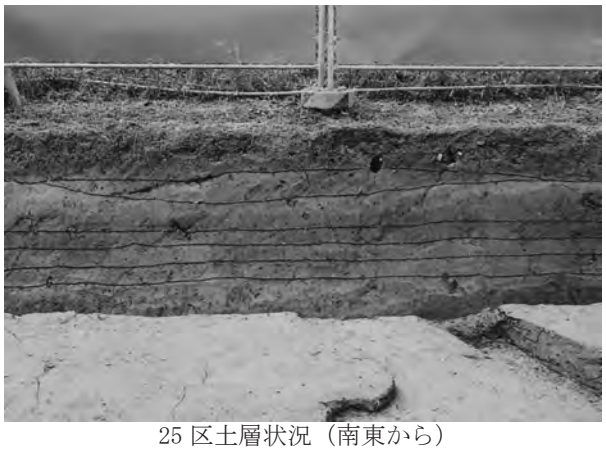
畦 36（南西から）

SD26, 27 杭検出状況（北西から）

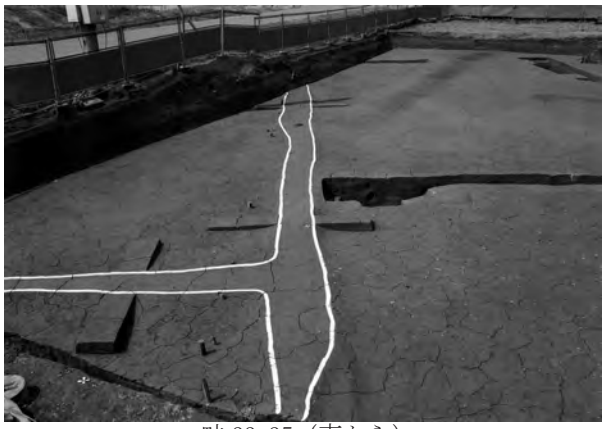
SD26, 27 完掘状況（北西から）

25 区上層全景（南西から）

25 区下層全景（南西から）


25 区土層状況（南東から）

25 区作業風景（南から）


畦 33, 35（南から）

畦 33 ～ 35（東から）

畦 33 土層状況（南から）

畦 32 土層状況（北東から）

25 区下層確認全景（南西から）

SD21 完掘状況（南から）

図版 36（岩田西遺跡）

SD21 土層状況（南から）

SD21 遺物出土状況（東から）

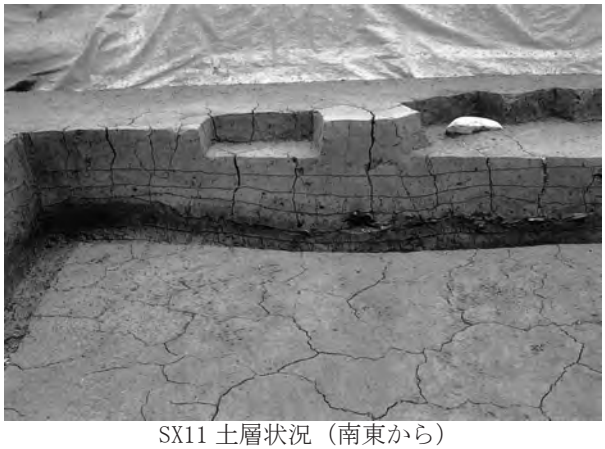
SD22 完掘状況（南から）

SD22 土層状況（南から）

SX11 完掘状況（北から）

SX11 遺物出土状況（北西から）

SX11 土層状況（南西から）


SX11 土層状況（南東から）

26 区全景（南東から）

26 区土層状況（南東から）

畦 31 土層状況（東から）

26 区深掘確認土層状況（南西から）

27 区上層全景（南西から）

27 区下層全景（南西から）

27 区土層状況（南西から）

SD29, 30 完掘状況（北東から）

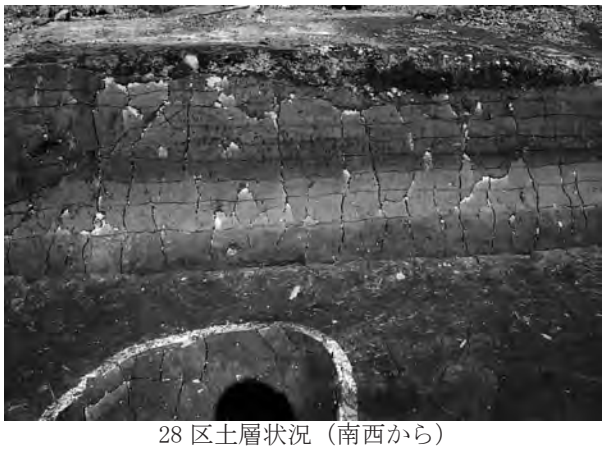
図版 38（岩田西遺跡）

SD29, 30 遺物出土状況（南西から）

SD26 ～ 30 土層状況（北から）

28 区上層全景（南西から）

28 区下層全景（南西から）



28 区土層状況（南西から）

畦 44 検出状況（西から）

畦 44（西から）

畦 44 土層状況（東から）

SD25 完掘状況（東から）

SD25 遺物出土状況（東から）

SD25 土層状況（東から）

SD25 遺物出土状況（西から）

SD25 遺物出土状況（南西から）

SD25 遺物出土状況（南から）

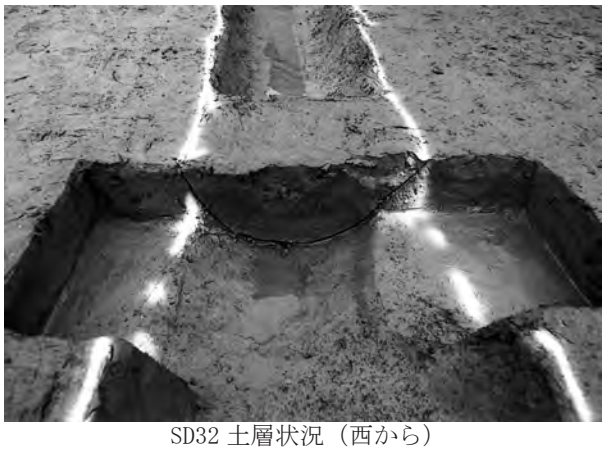
SD25 遺物出土状況（南東から）

SD25 作業風景（西から）

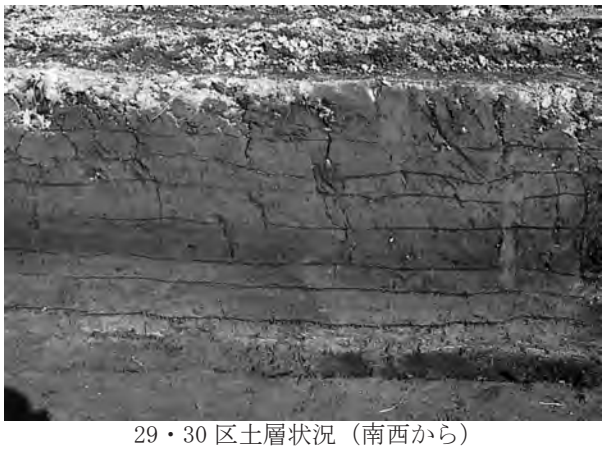
図版 40（岩田西遺跡）

SX26 ～ 28,30 完掘状況（西から）

SD32 完掘状況（西から）


SD32 土層状況（西から）

29・30 区上層全景（北東から）


29・30 区土層状況（南西から）

29・30 区下層全景（北東から）

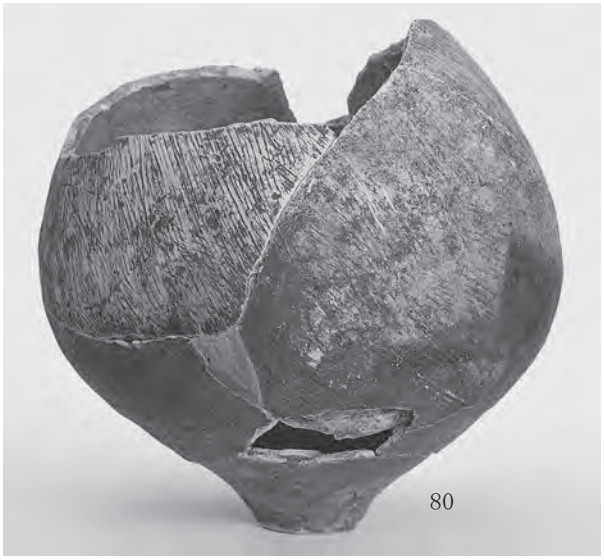
畦 46 土層状況（南東から）

畦 45 土層状況（南から）

6

2

6

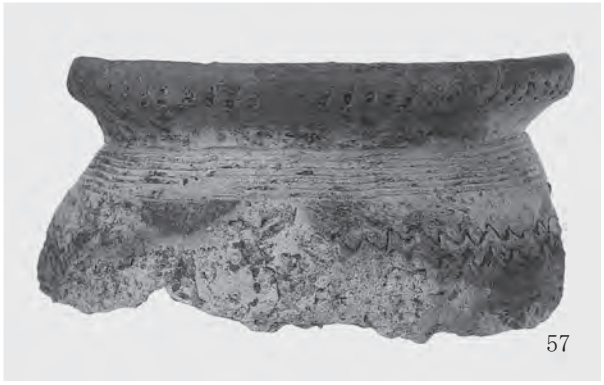

80

1

81

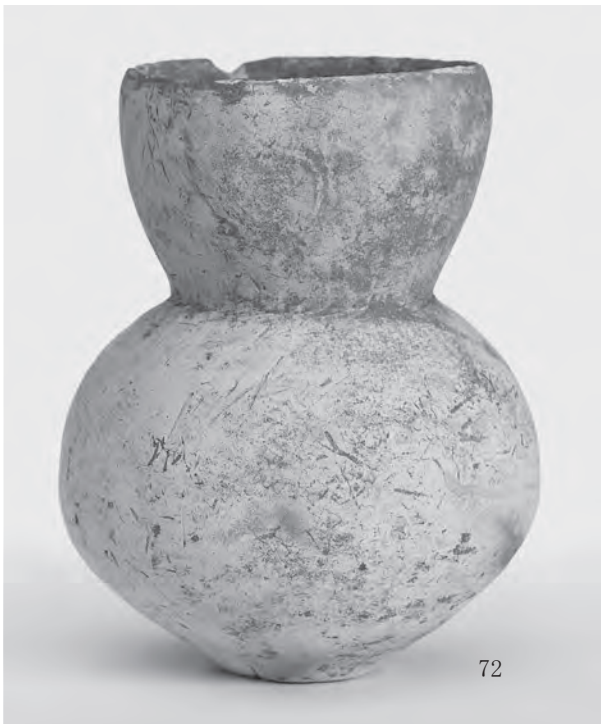
図版 42（岩田東Ａ遺跡）

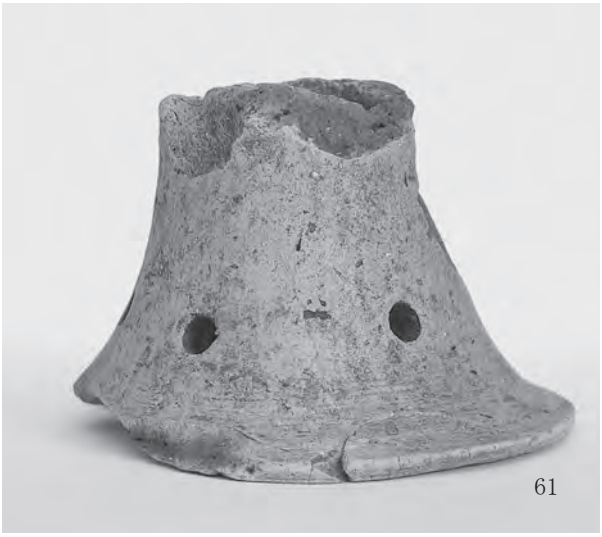
82


57

59

60


72


61

71

73

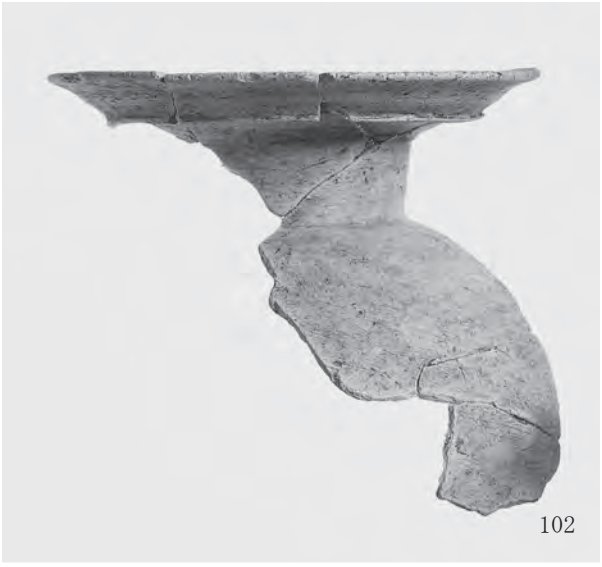
91

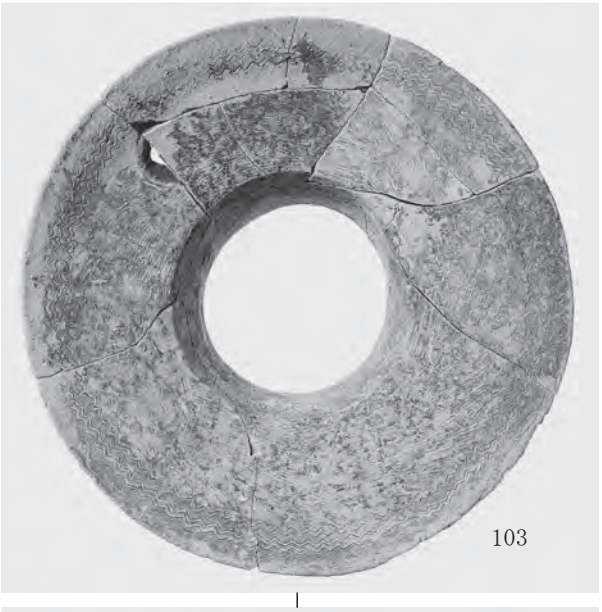
93

94

95

図版 44（岩田東Ａ遺跡）


102


103

104

103

150

141

144

145

223

247

248

249

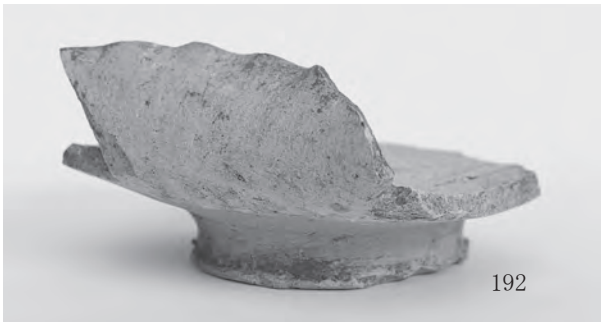
243

図版 46（岩田東Ａ遺跡）

260

156

177


192

164

261

220

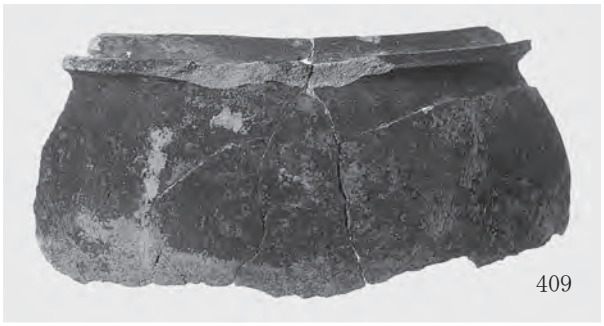
166

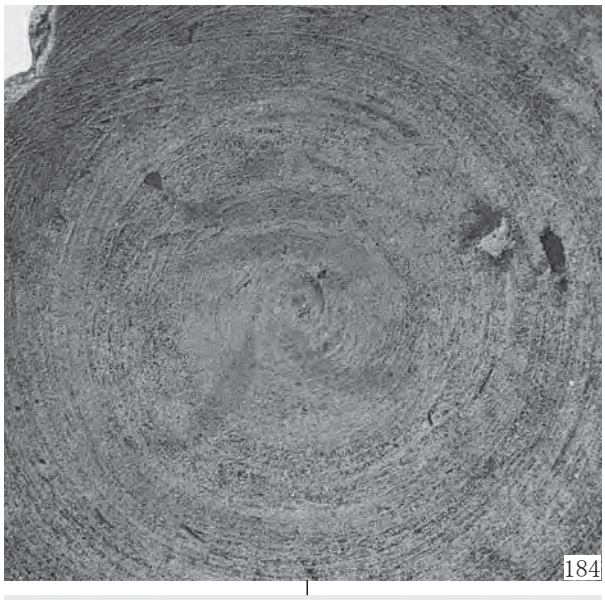
262

269

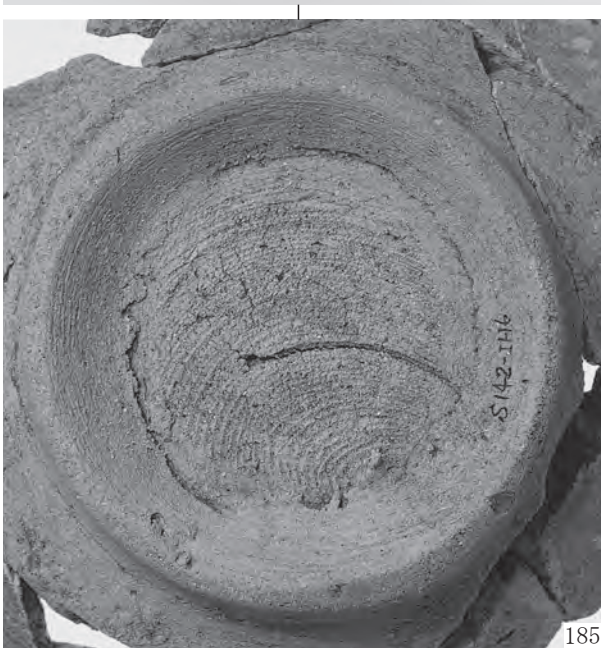
271

367


409


184

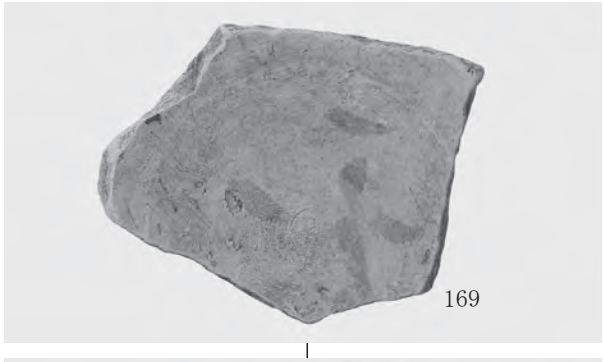
185

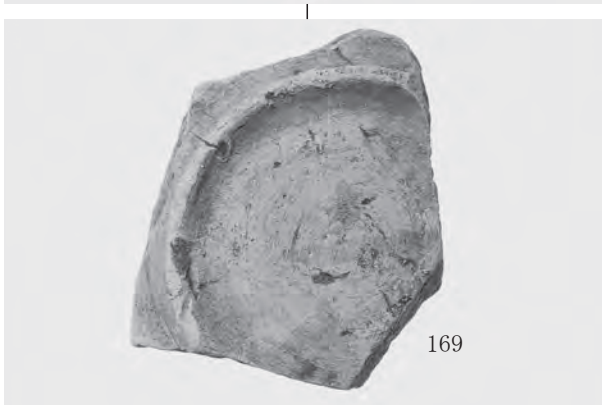

S142-1H6
185

184

S141-1H6
184

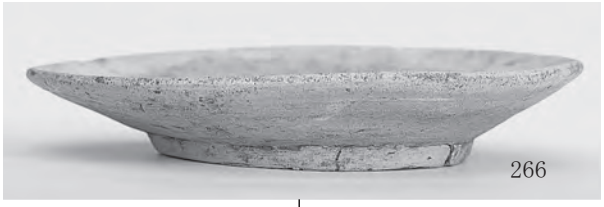
図版 48（岩田東Ａ遺跡）

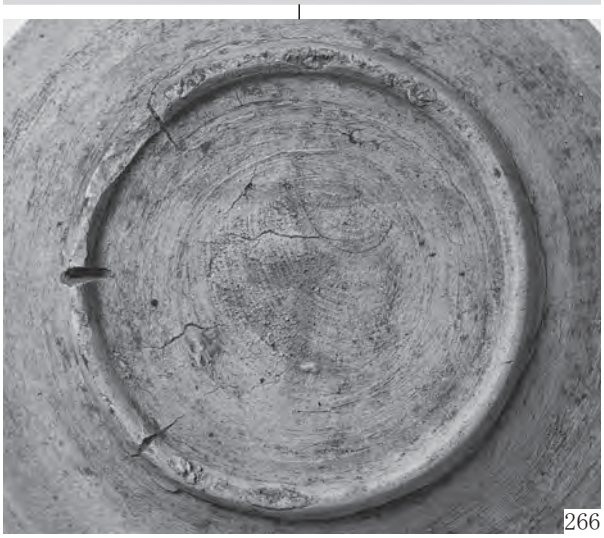

169

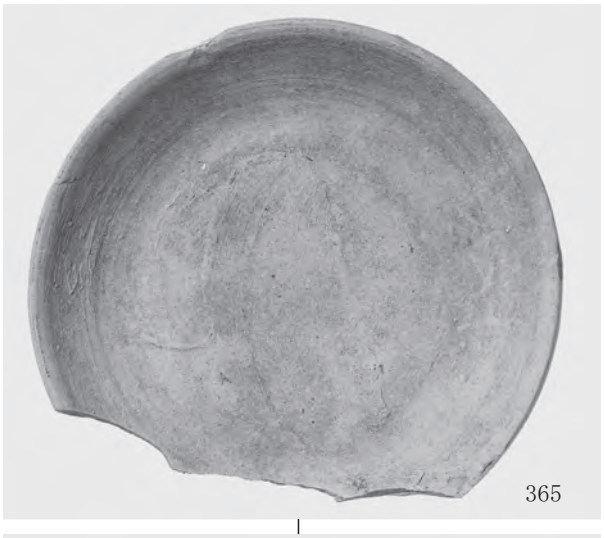

169

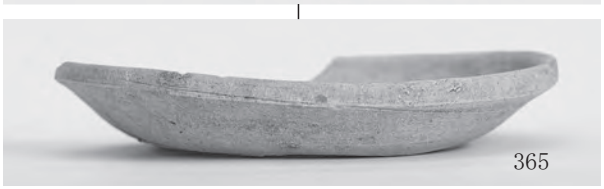
352

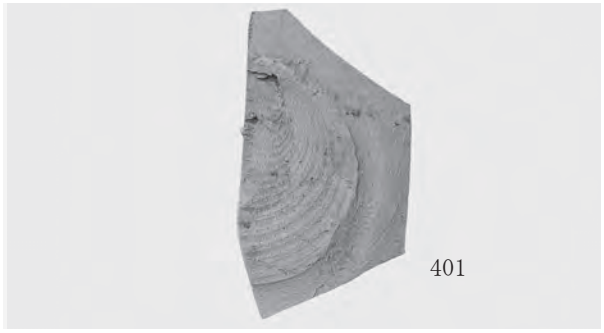
352


266


266


365


365


401

10

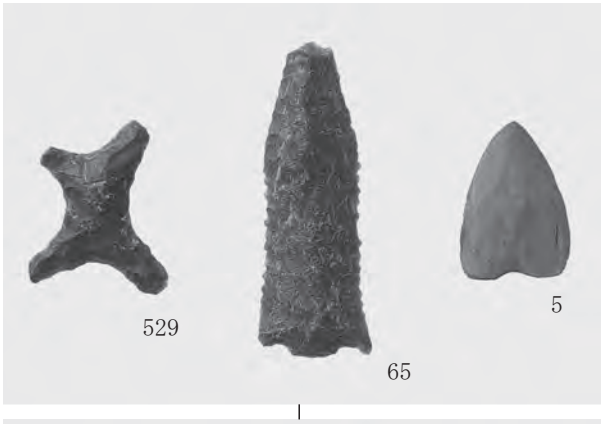
10

38
39

38
39

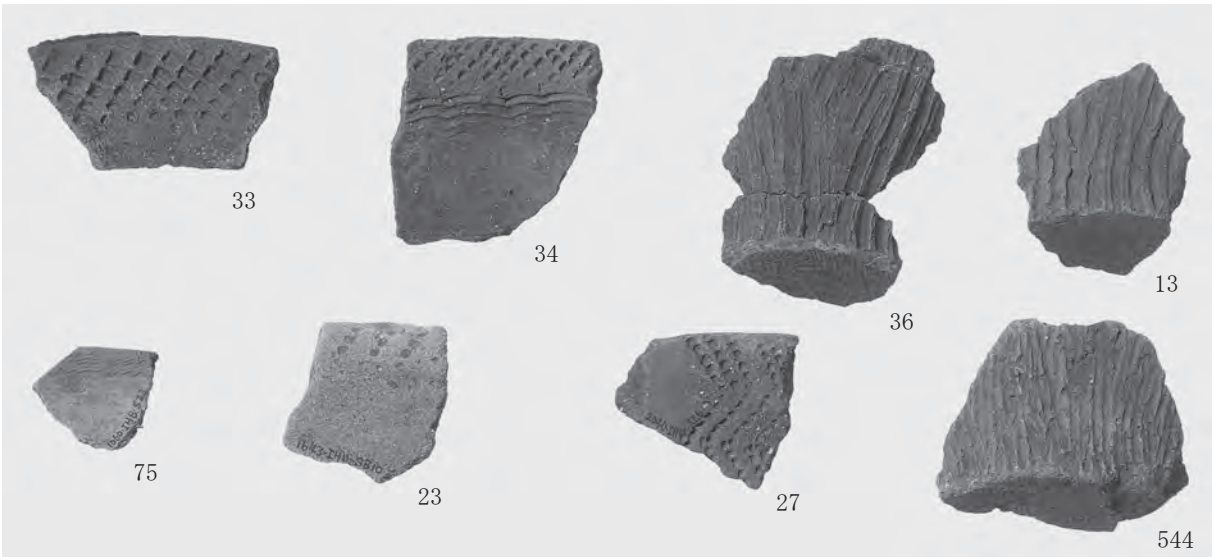
40

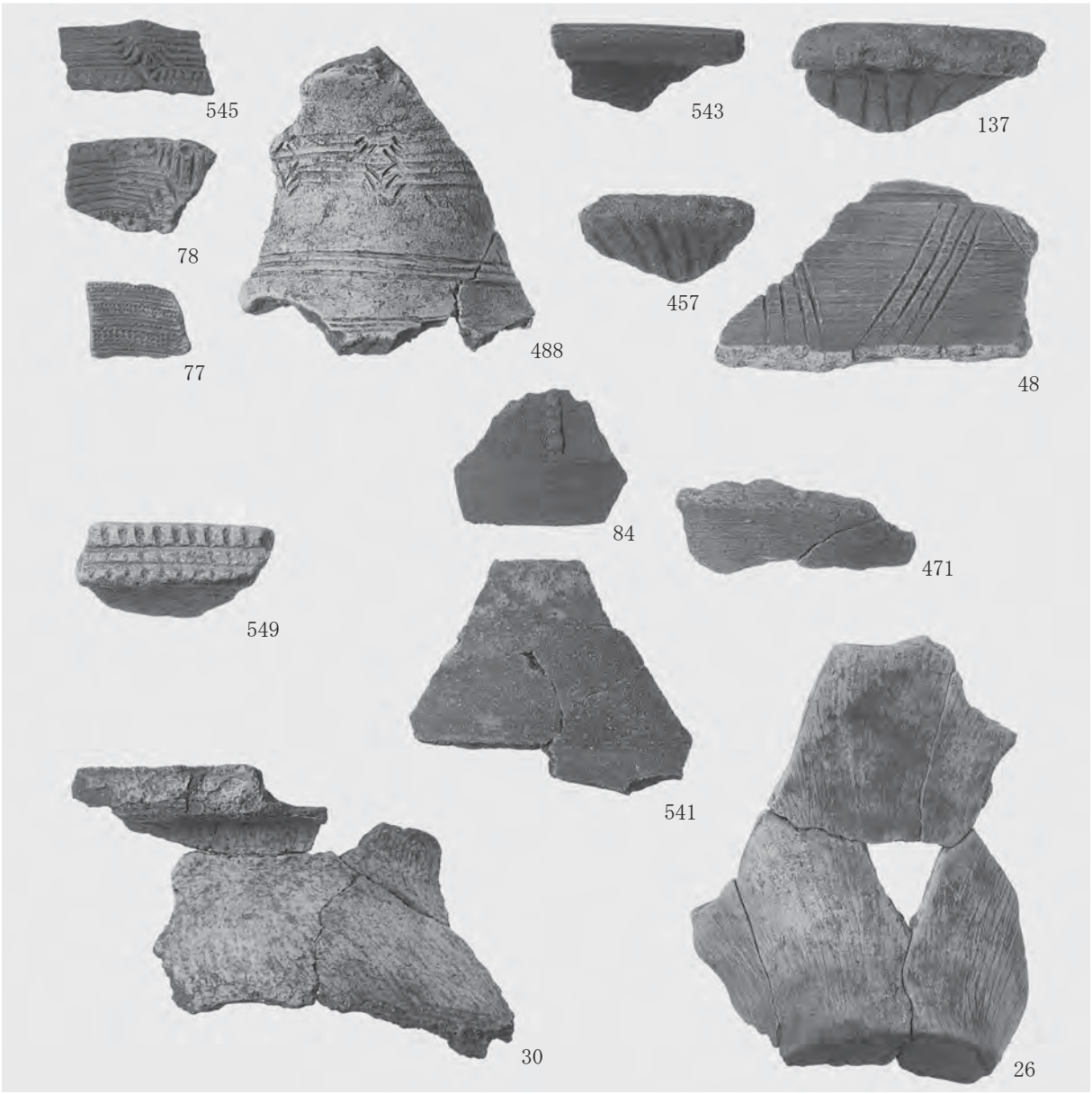
40

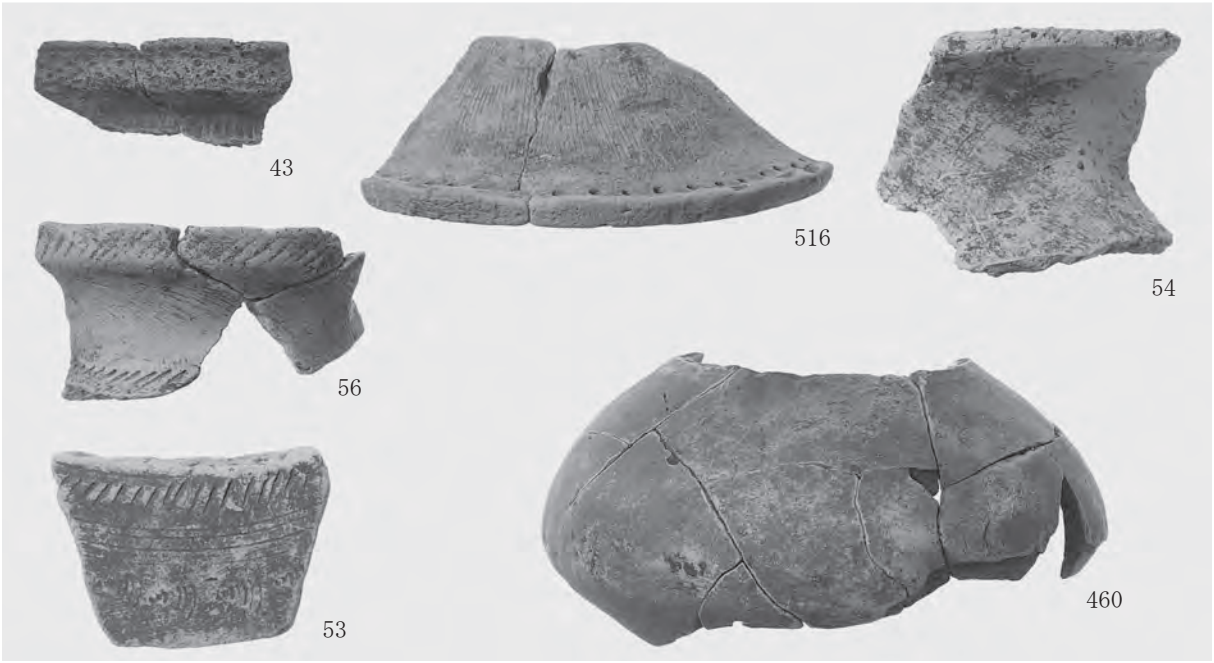

529
65
5

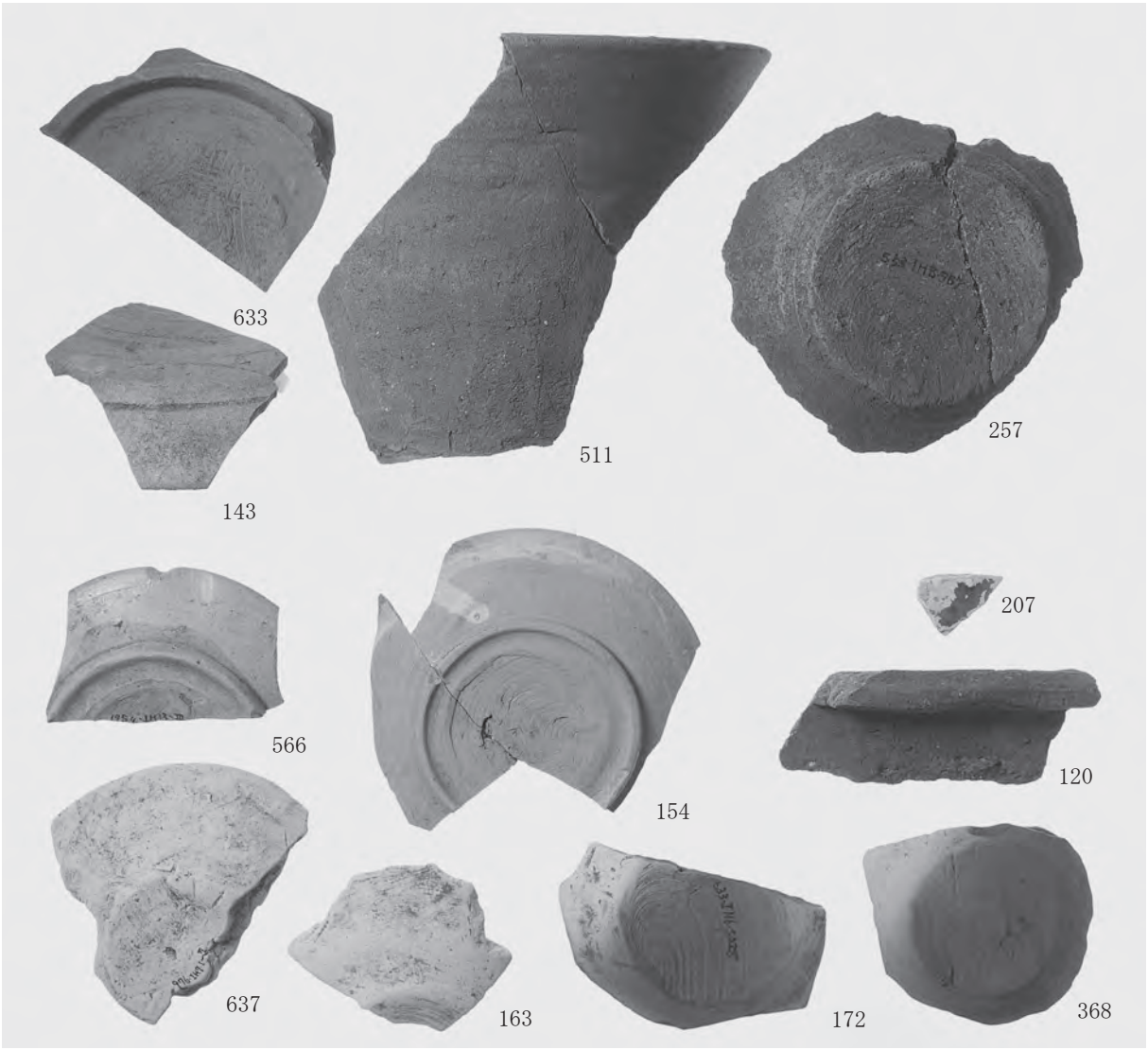
529
65
5

図版 50（岩田東Ａ遺跡）

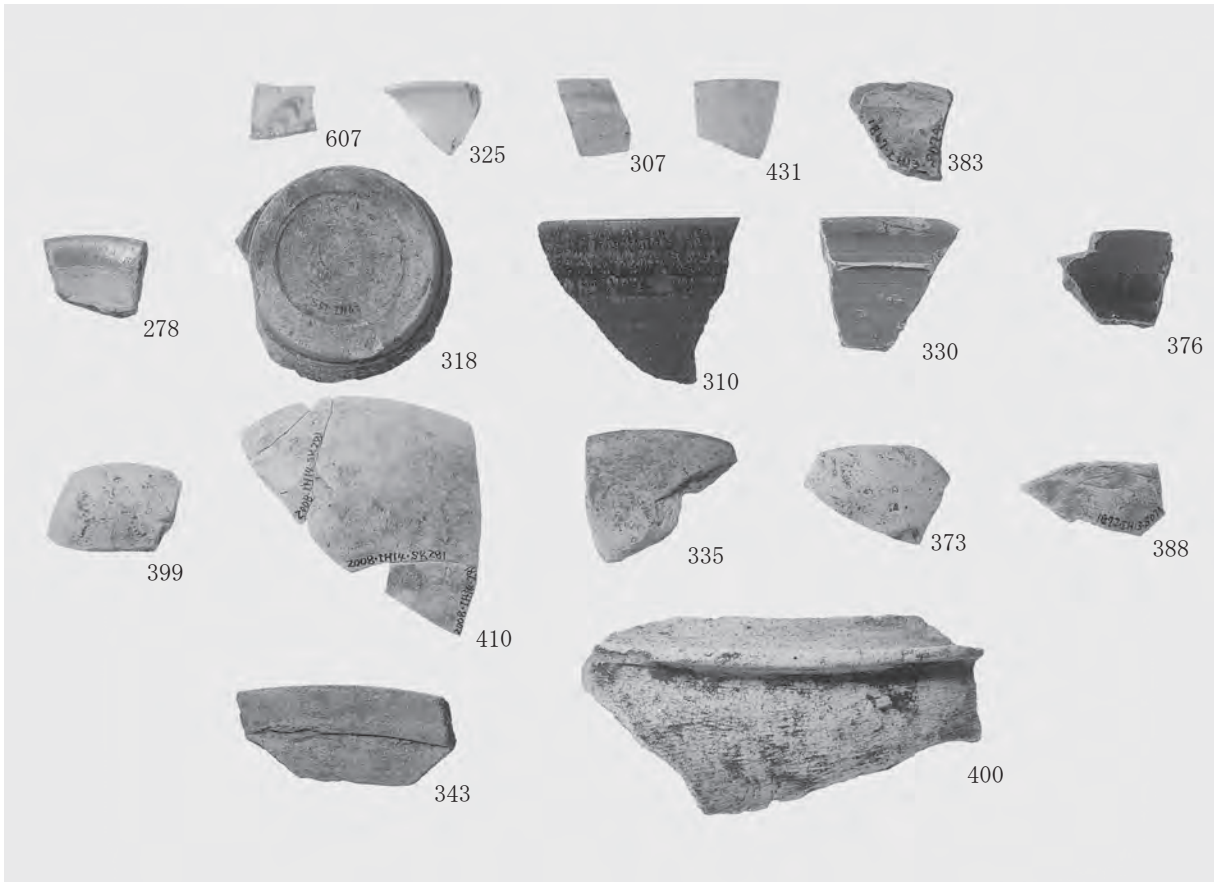

33
34
36
13
75
23
27
544

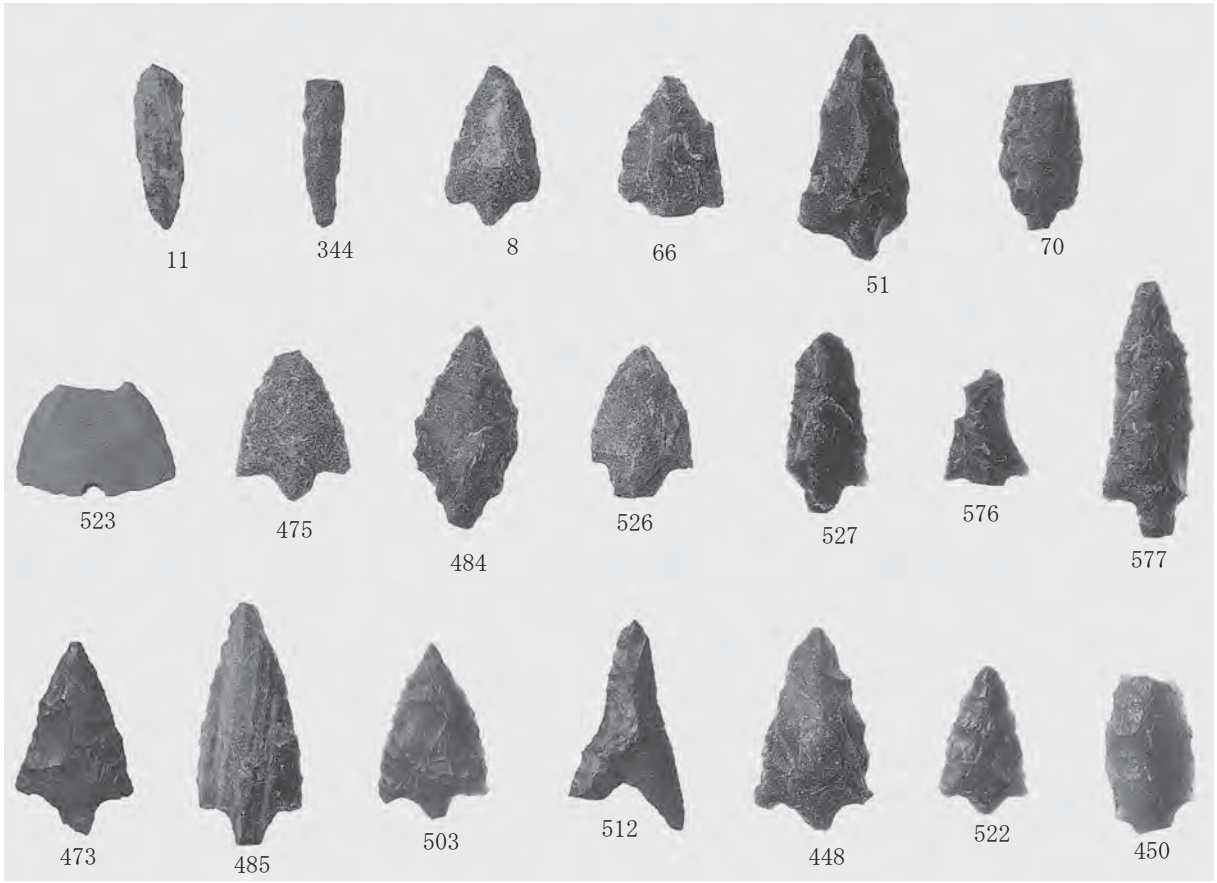

545
543
137
78
488
457
48
77
84
471
549
541
30
26


43
516
54
56
460
53


633
511
257
143
207
566
154
120
637
163
172
368

図版 52（岩田東Ａ遺跡）


607
325
307
431
383
278
318
310
330
376
399
410
335
373
388
343
400


11
344
8
66
51
70
523
475
484
526
527
576
577
473
485
503
512
448
522
450

667

670

712

710

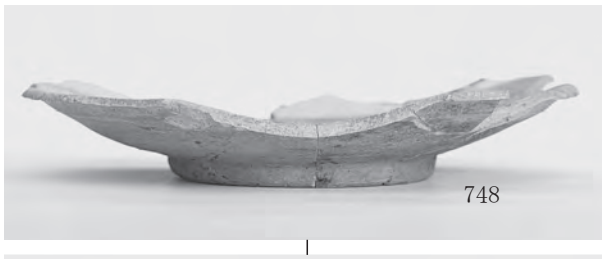
724

728

図版 54（岩田西遺跡）

815

815


748

748

790

806

951

734

786

779

783

787

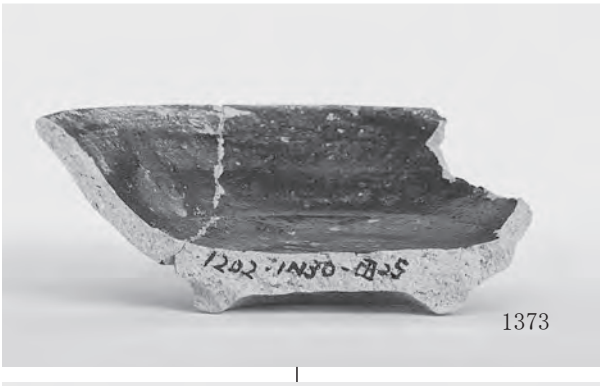
1528

956

1508

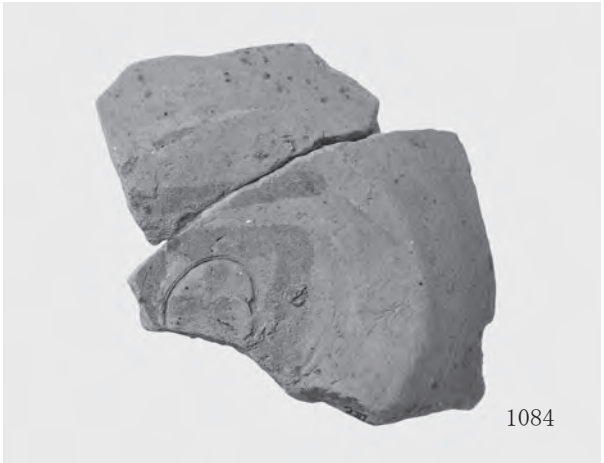
1020

1030


1373

944

1373


1084

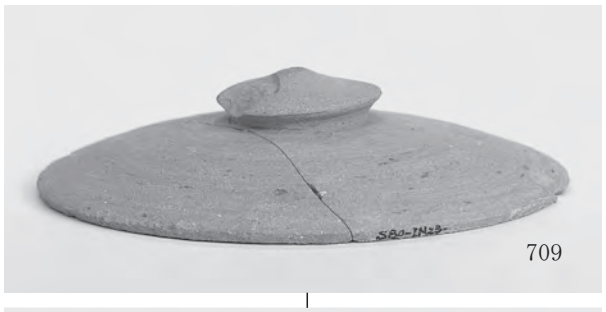
図版 56（岩田西遺跡）

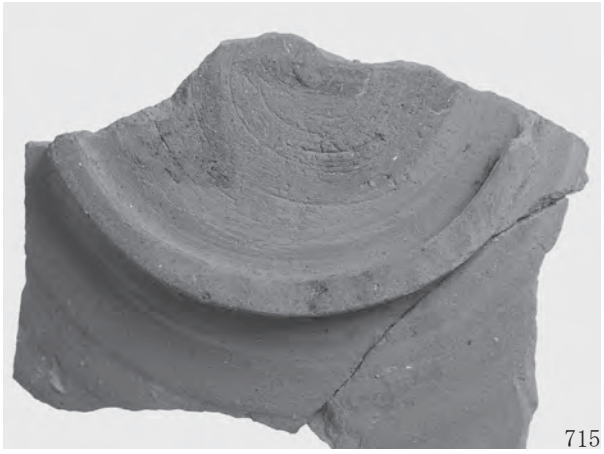
813

676

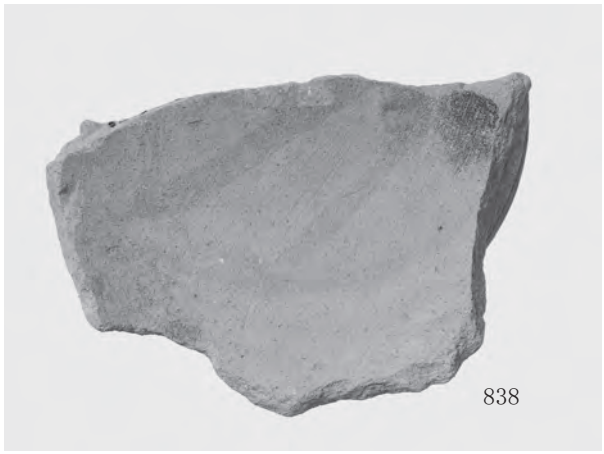
813

917

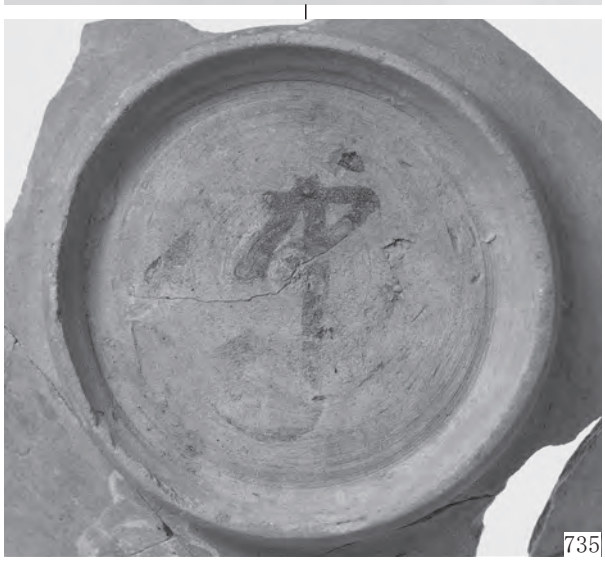

709


715

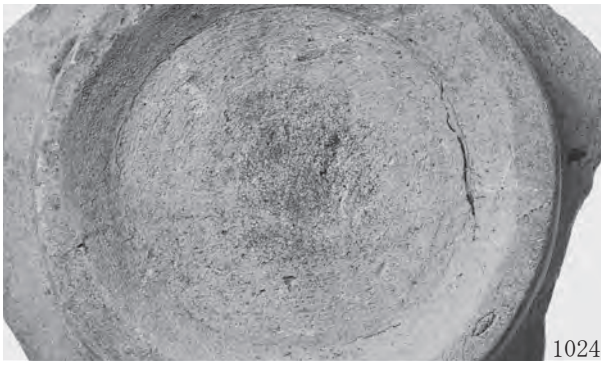
709


838

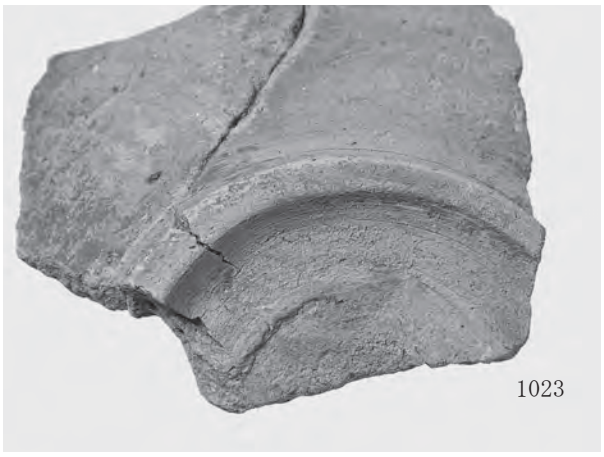
735

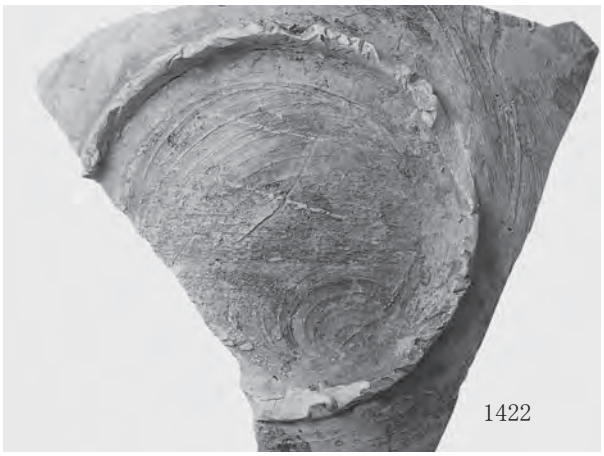

735

775

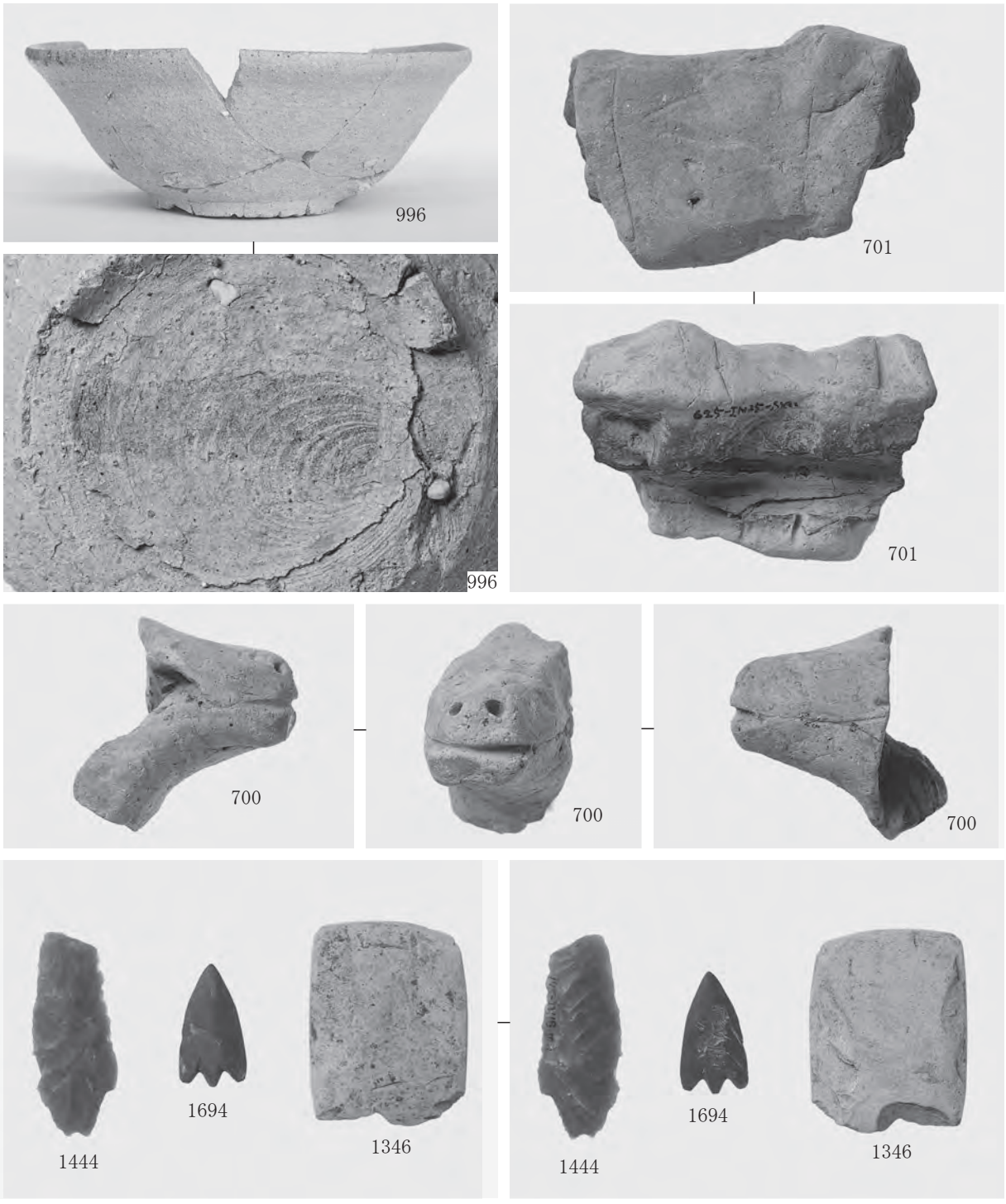

1024

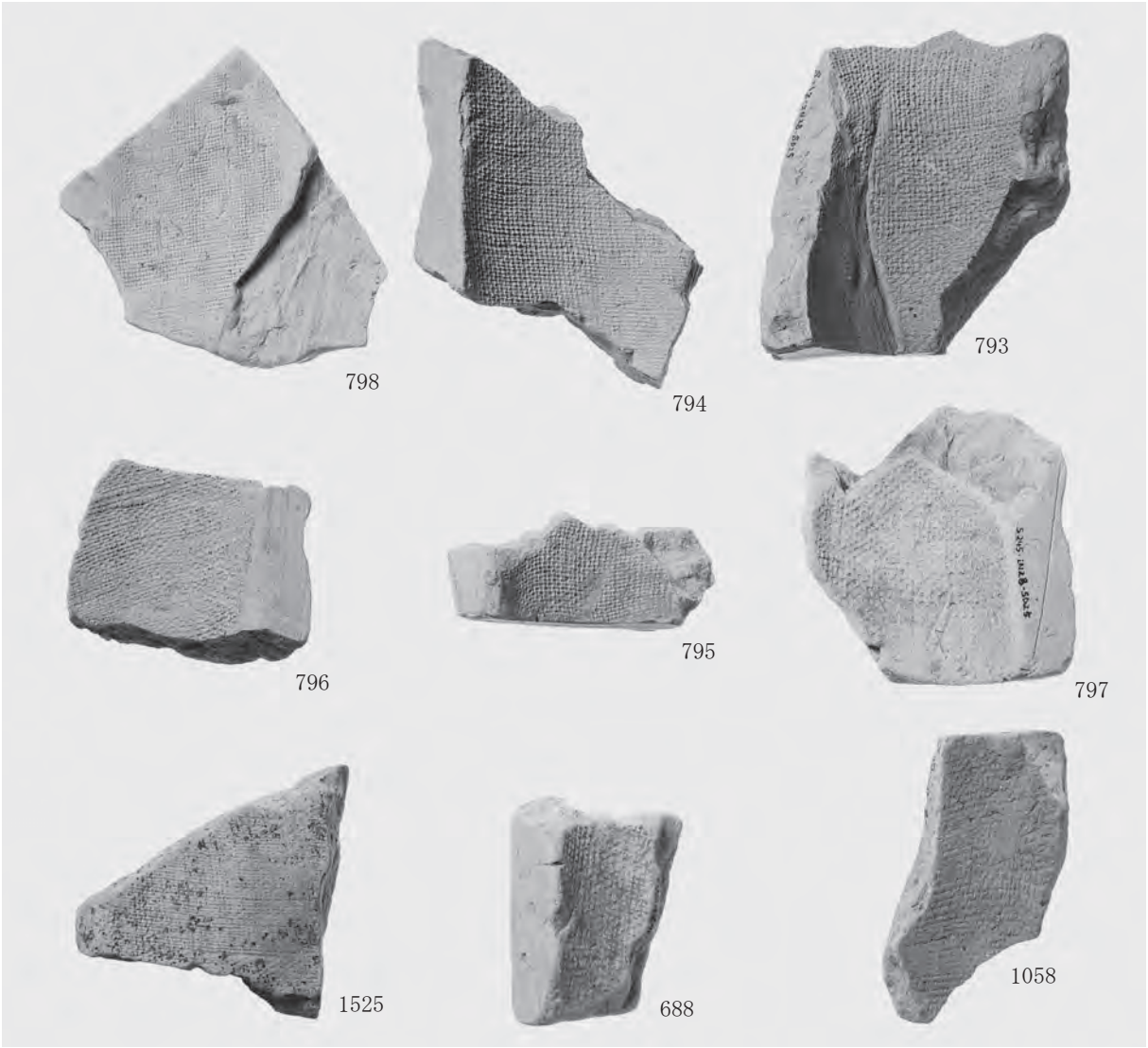
774

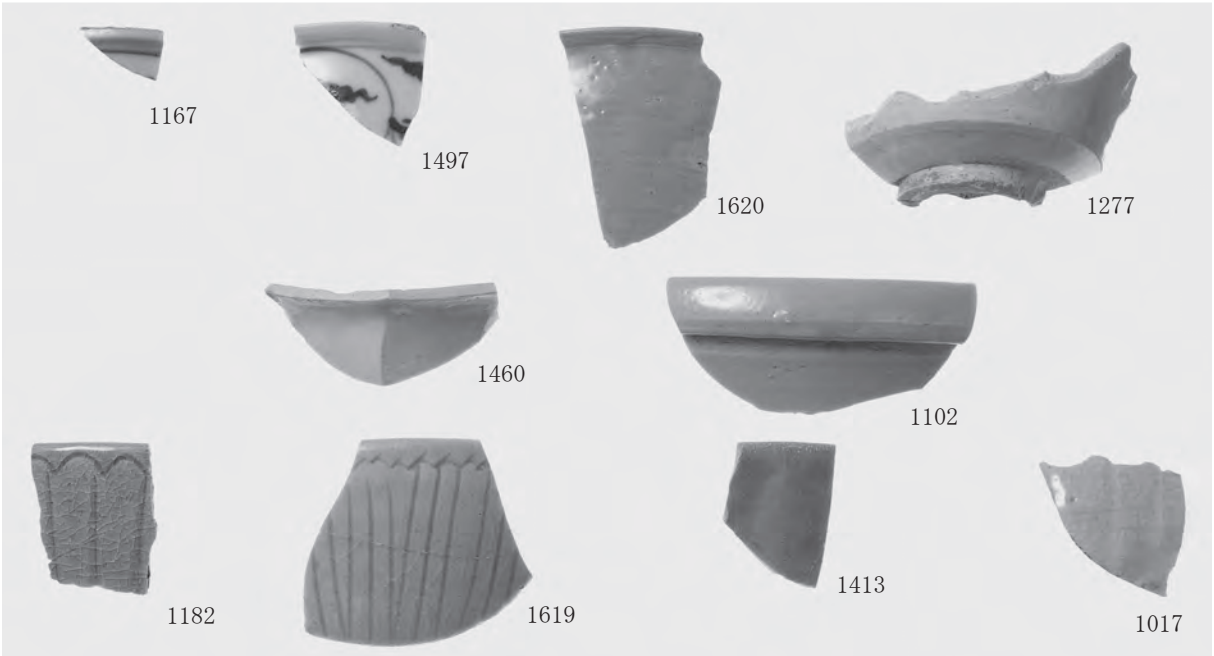

1023


1422

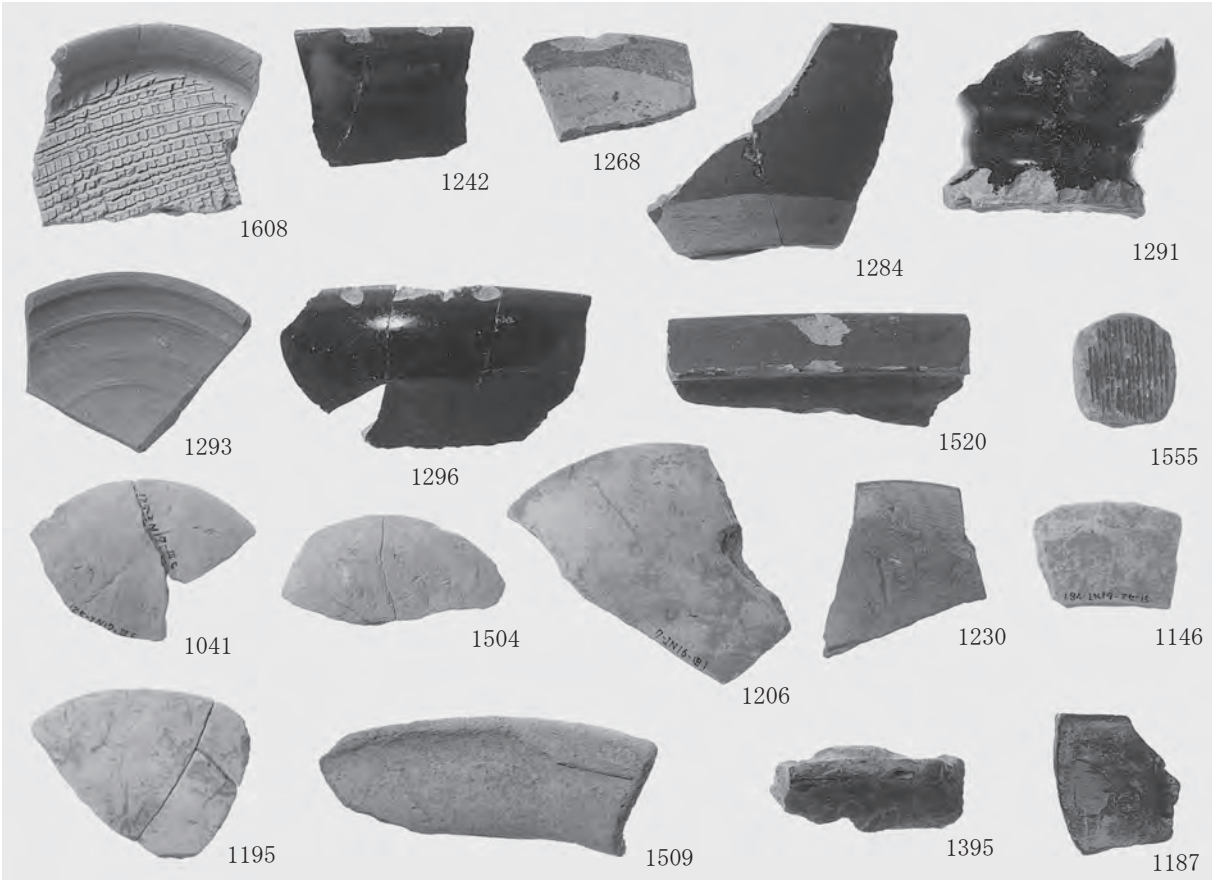
図版 58（岩田西遺跡）

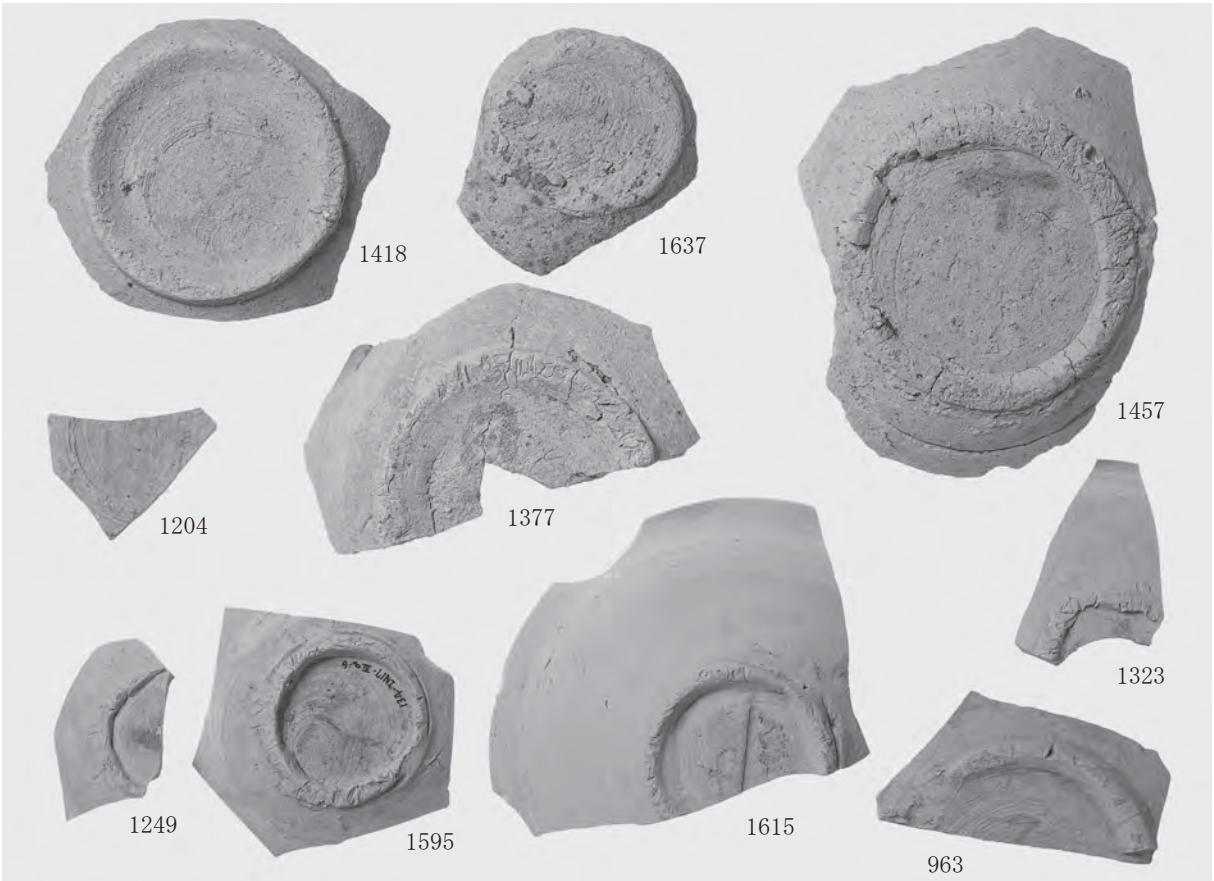


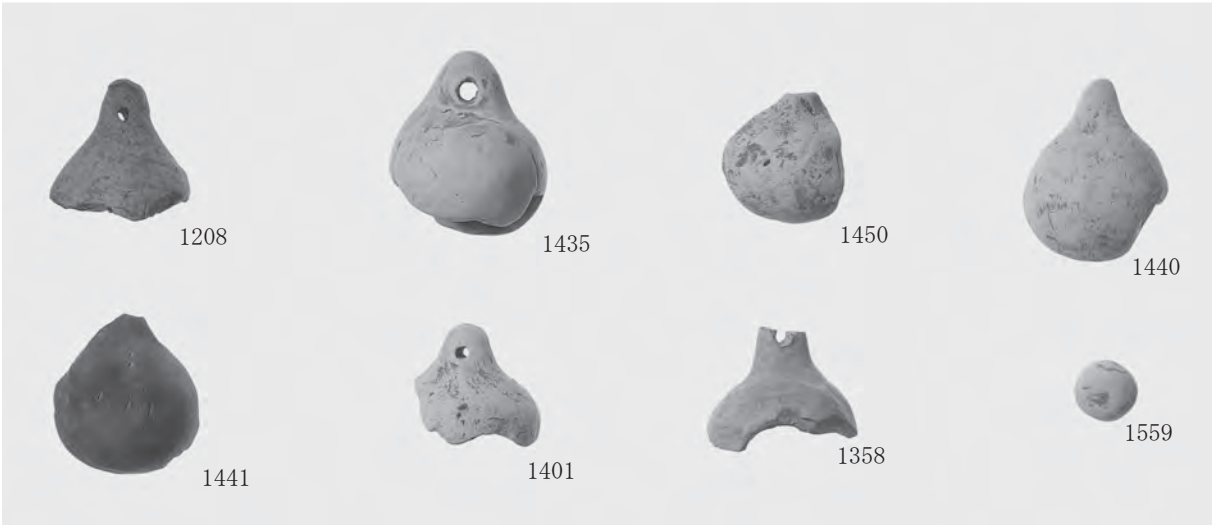

798
794
793
796
795
797
1525
688
1058

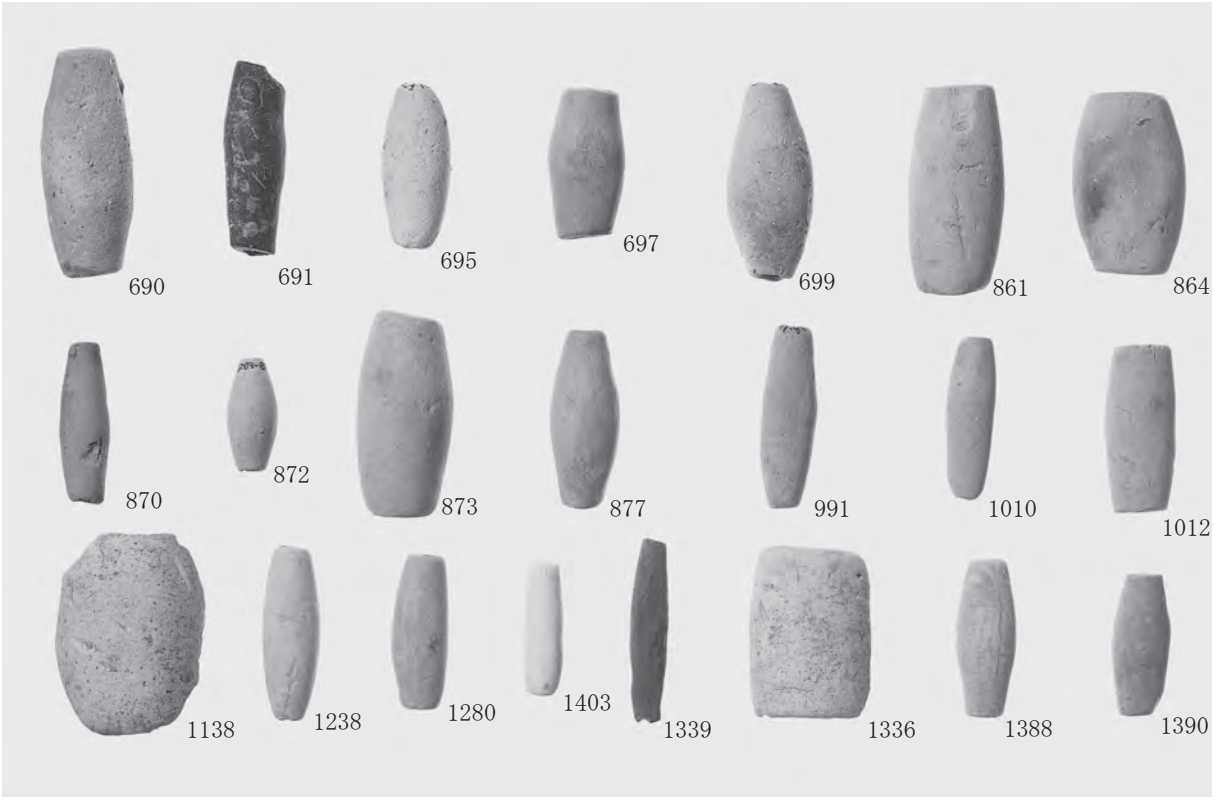

1167
1497
1620
1277
1460
1102
1182
1619
1413
1017

図版 60（岩田西遺跡）

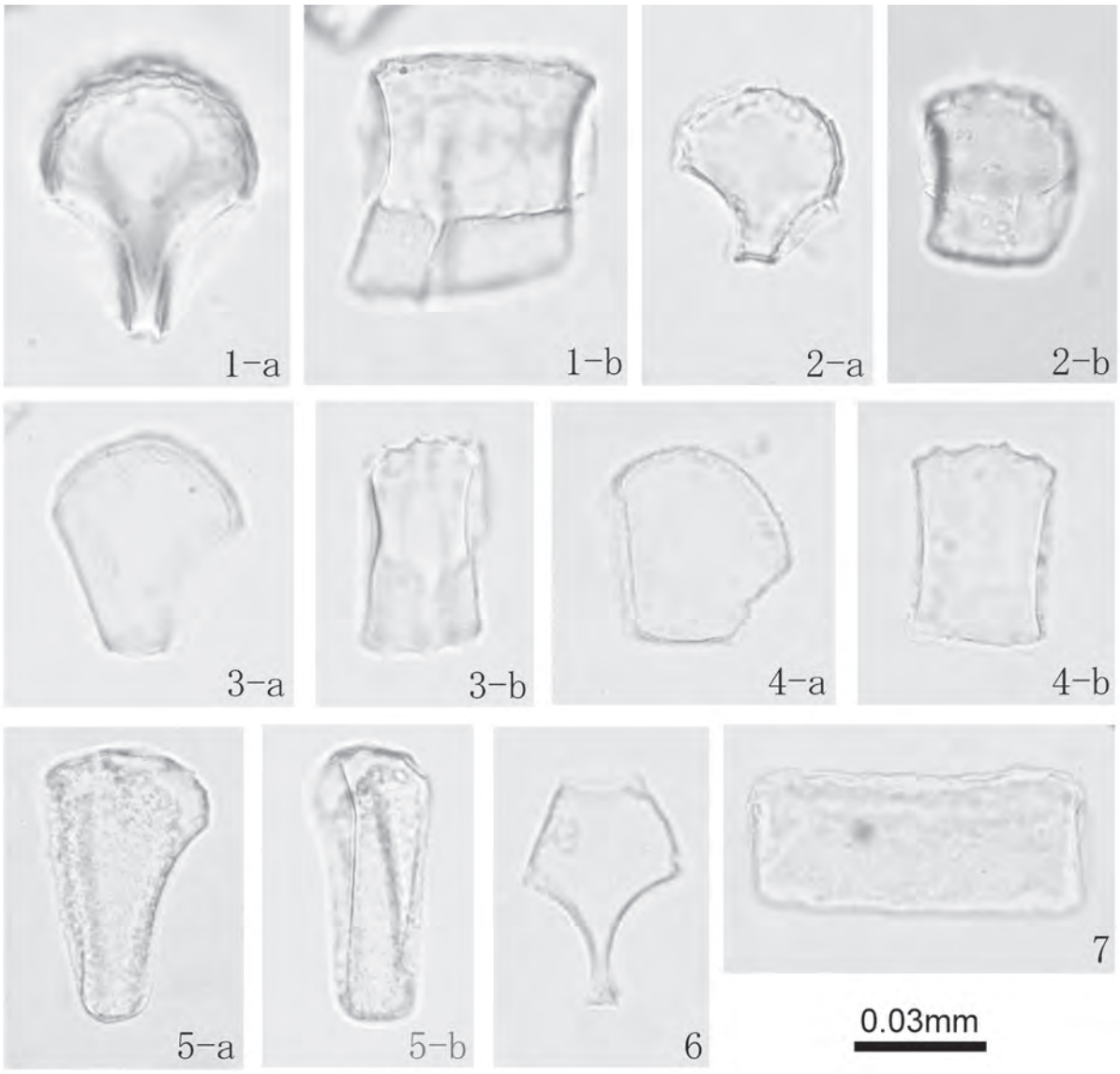

1608
1242
1268
1284
1291
1293
1296
1520
1555
1041
1504
1206
1230
1146
1195
1509
1395
1187


1418
1637
1457
1204
1377
1323
1249
1595
1615
963


1208
1435
1450
1440
1441
1401
1358
1559


690
691
695
697
699
861
864
870
872
873
877
991
1010
1012
1138
1238
1280
1403
1339
1336
1388
1390

図版 62



岩田東A遺跡のプラント・オパール

1、2：イネ（a：断面、b：側面）　1：No.1、2：No.5

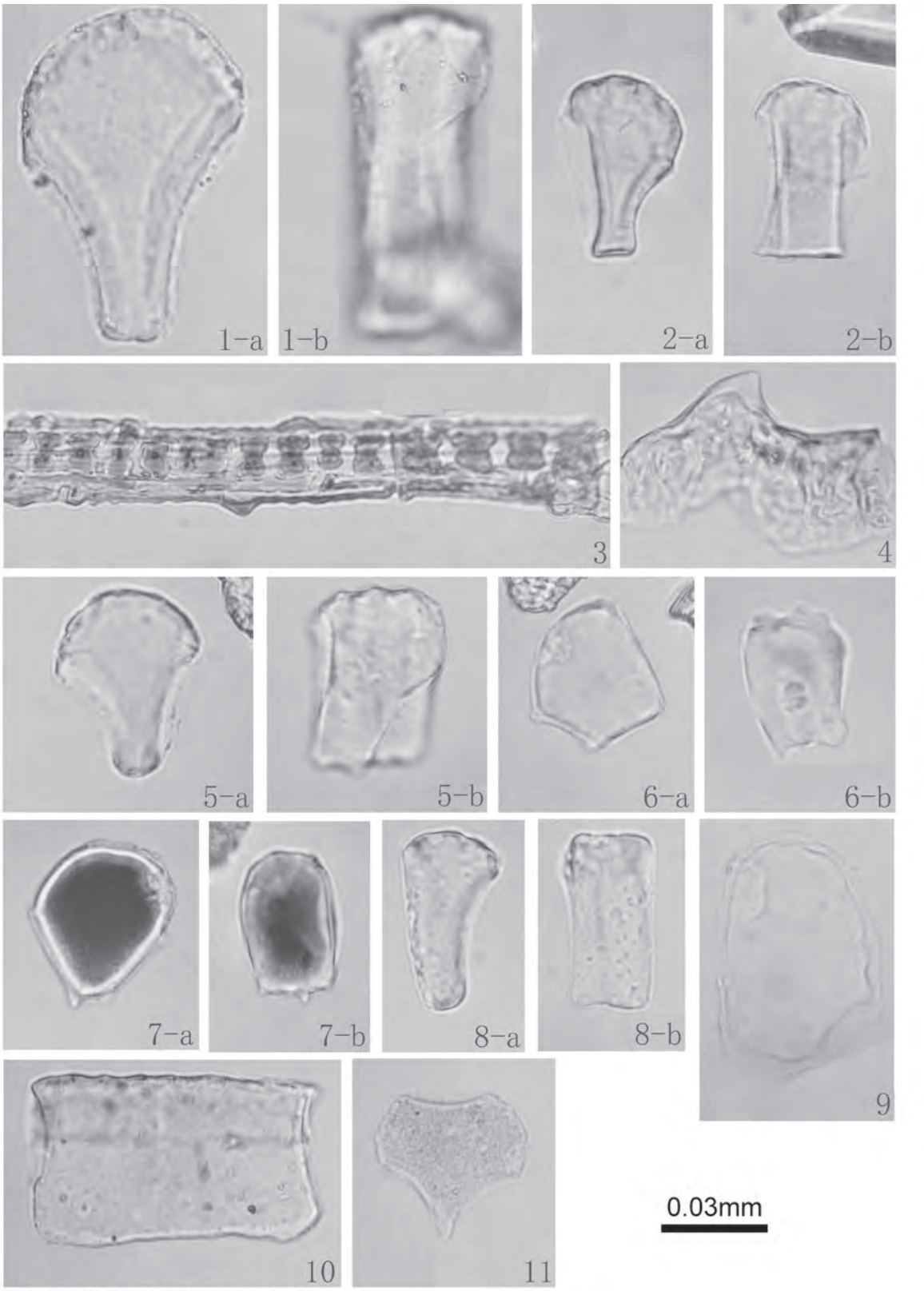
3：ネザサ節型（a：断面、b：側面）　No.1

4：クマザサ属型（a：断面、b：側面）　No.5

5：ウシクサ族（a：断面、b：側面）　No.3

6：シバ属（断面）　No.3

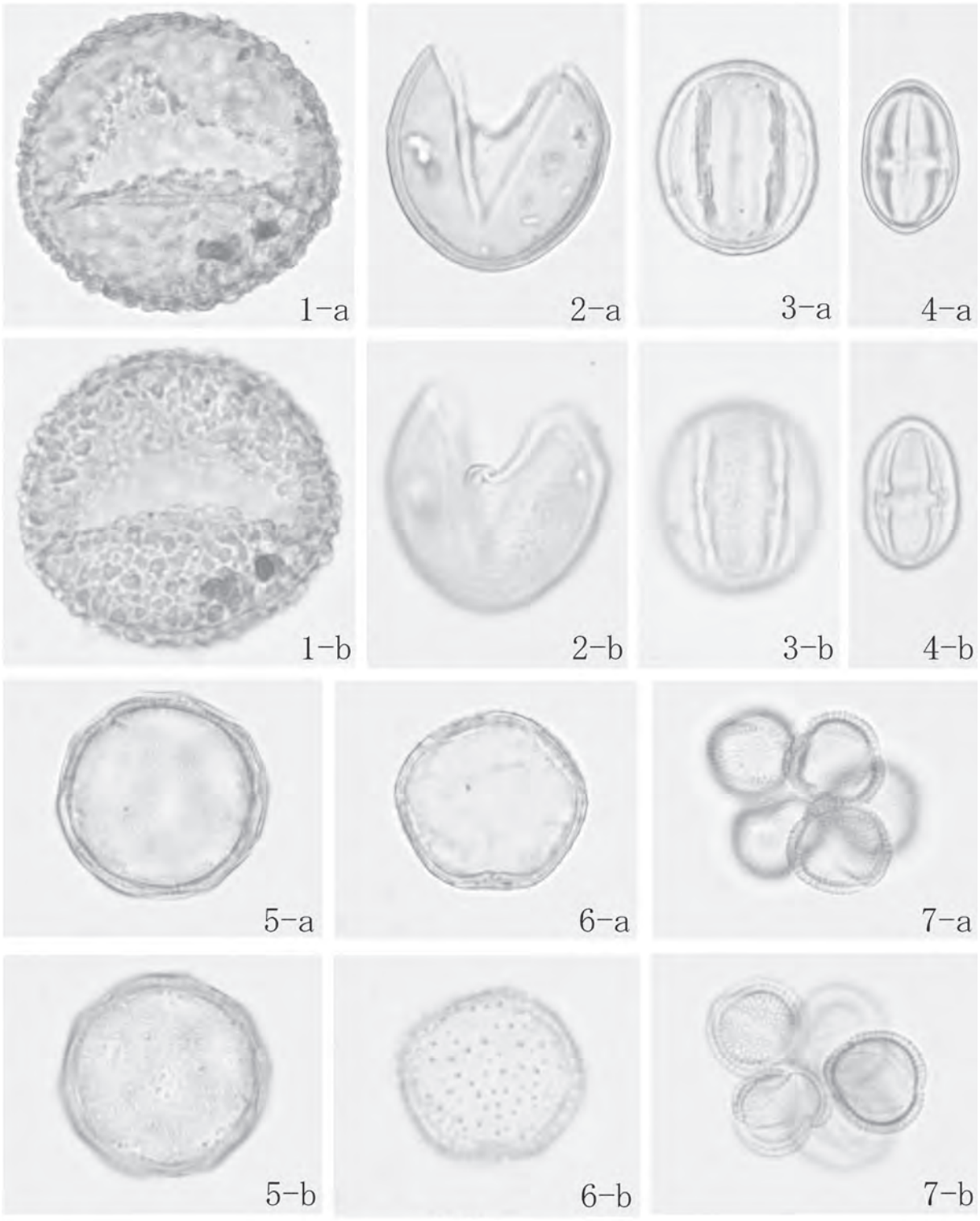
7：キビ族（側面）　No.2



岩田西遺跡のプラント・オパール

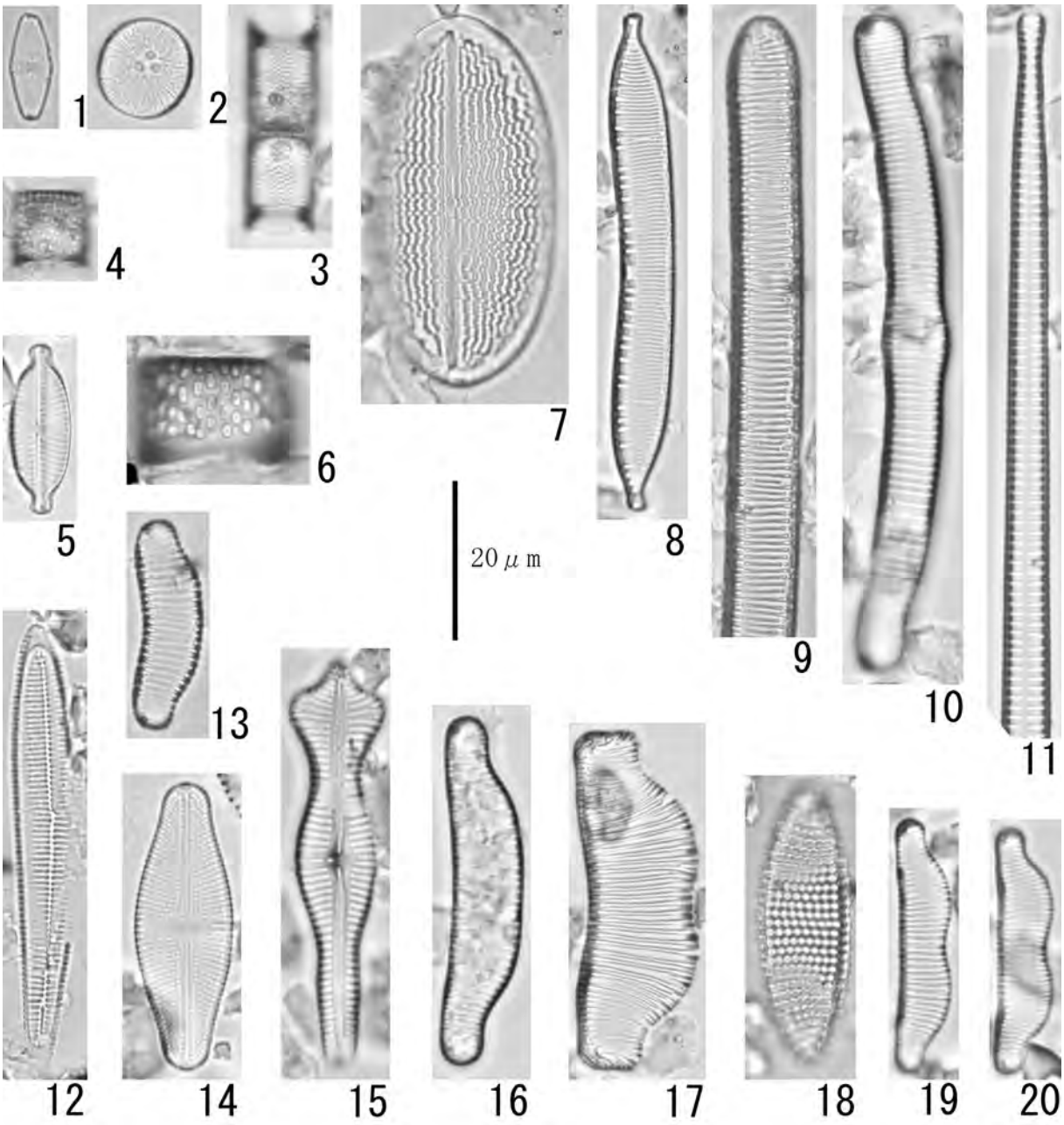
1、2：イネ（a：断面、b：側面）　1：16区試料No. 7、2：18区試料No. 9
3：連なった状態のイネ型単細胞珪酸体　16区試料No. 2
4：イネ穎破片　試料No. 11　18区試料No. 2
5：ネザサ節型（a：断面、b：側面）　16区試料No. 1
6：クマザサ属型（a:断面、b：側面）　25区試料No. Ⅲa
7：他のタケ亜科（a：断面、b：側面）　18区試料No. 2
8：ウシクサ族（a：断面、b：側面）　18区試料No. 2
9：ヨシ属（断面）　16区試料No. 4
10：キビ族（側面）　16区試料No. 6
11：シバ属（断面）　25区試料No. Ⅲa

図版 64



岩田西遺跡 No. 4 試料の花粉化石

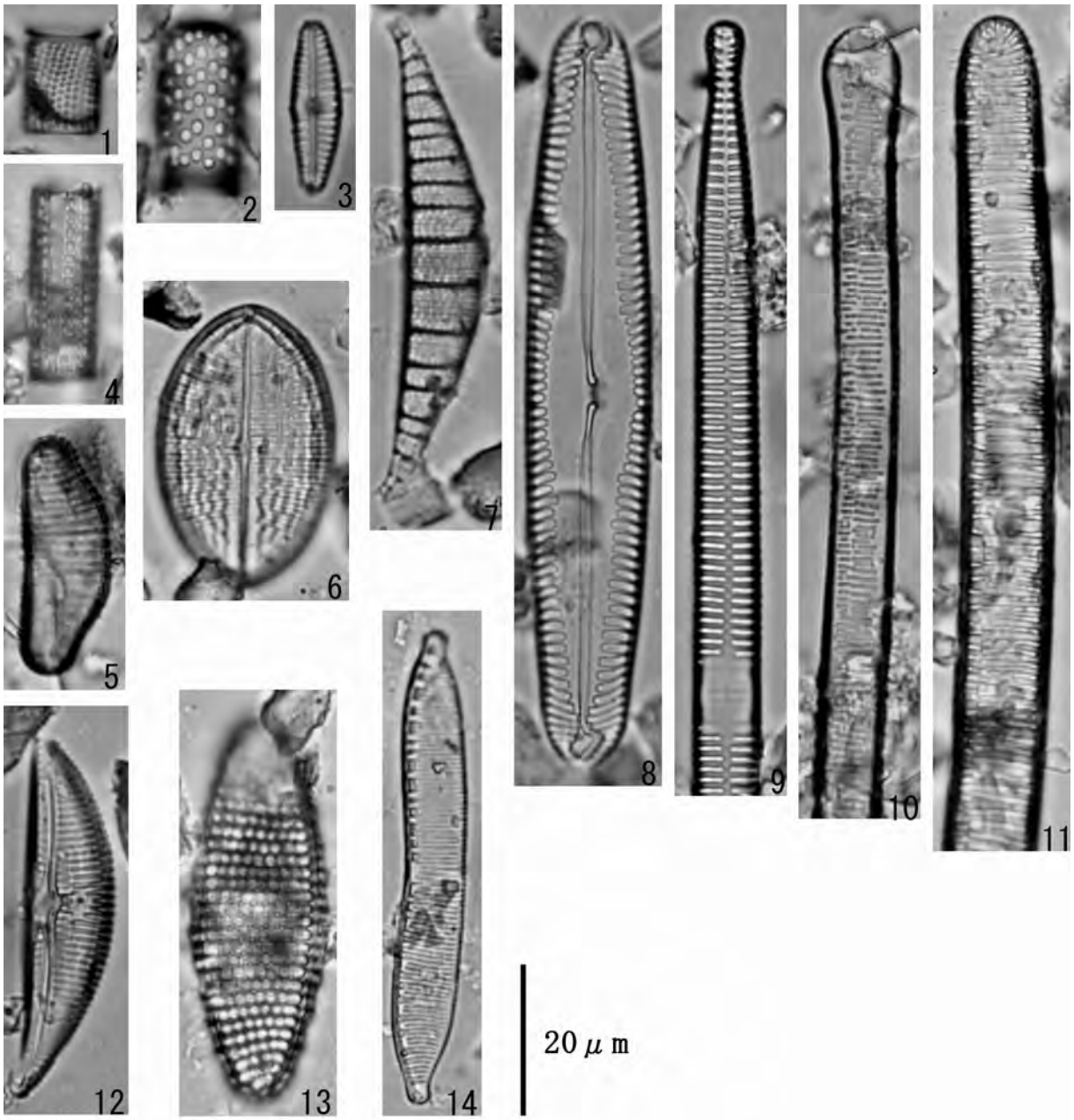
1：コウヤマキ属　PLC. SS 4878
2：スギ　PLC. SS 4875
3：コナラ属アカガシ亜属　PLC. SS 4873
4：シイノキ属－マテバシイ属　PLC. SS 4874
5：サジオモダカ属　PLC. SS 4876
6：オモダカ属　PLC. SS 4877
7：アブラナ科花粉塊　PLC. SS 4879



堆積物中の珪藻化石 (1)

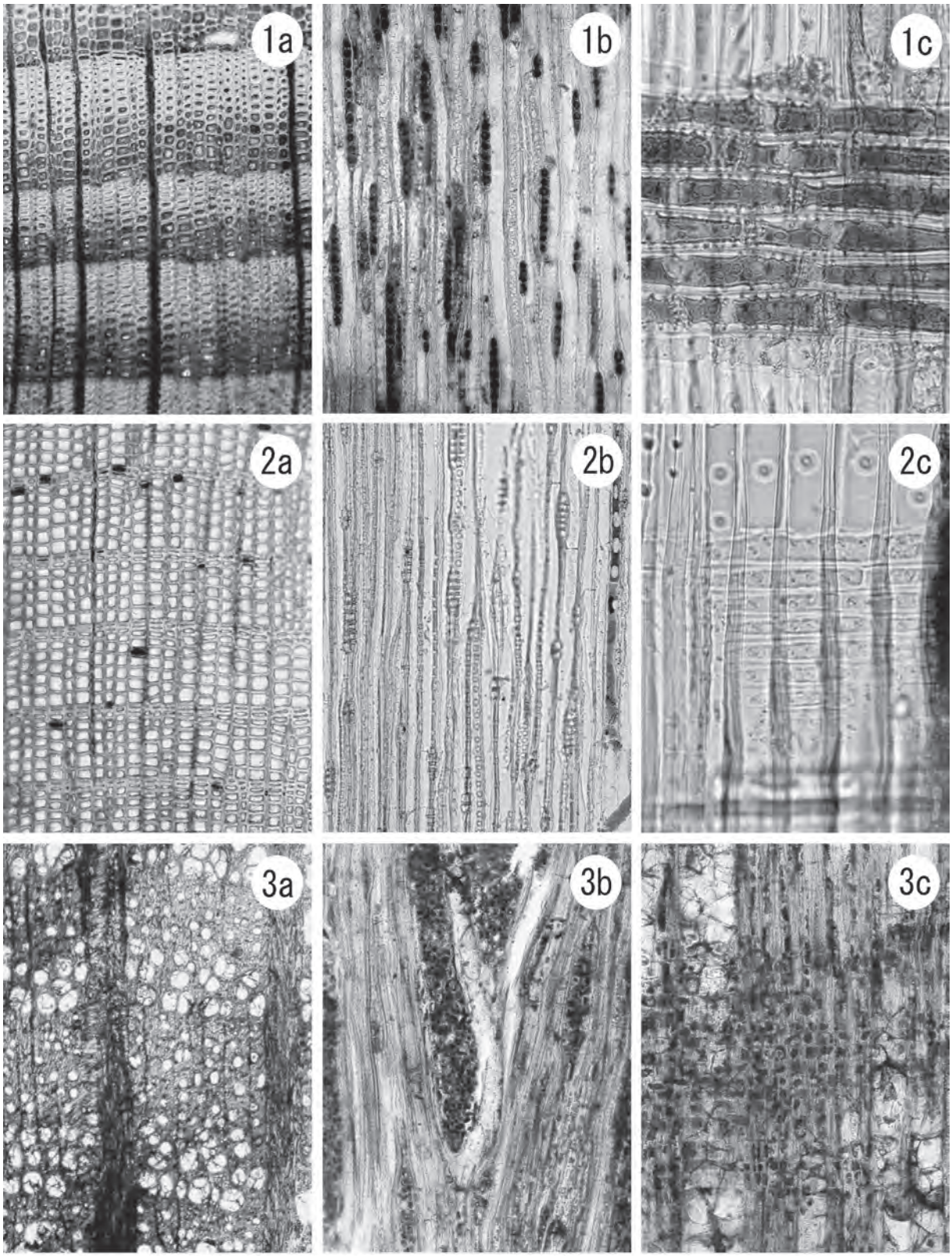
1. *Navucicula mutica*(Ⅲc 上) 2. *Melosira roeseana*(Ⅳ下) 3. *Aulacosira crenulata*(Ⅳ上)
4. *Aulacosira ambigua*(Ⅳ下) 5. *Navicula elginensis*(Ⅲc 下) 6. *Melosira pensacolae*(Ⅲc 中)
7. *Cocconeis placentula*(Ⅳ上) 8. *Hantzschia amphioxys*(Ⅳ下) 9. *Eunotia biareofera*(Ⅲc 中)
10. *Eunotia pectinalis* var. *undulata*(Ⅳ下) 11. *Synedra ulna*(Ⅳ上) 12. *Rhoicosphenis curvata*(Ⅲc 中)
13. *Eunotia praerupta*(Ⅲc 中) 14. *Navicula suecorum*(Ⅲc 下) 15. *Gomphonema acuminatum*(Ⅲc 下)
16. *Eunotia praerupta*(Ⅲc 下) 17. *Eunotia praerupta* var. *bidens*(Ⅳ上) 18. *Achnanthes crenulata*(Ⅲc 下)
19. *Eunotia praerupta* var. *bidens*(Ⅳ下) 20. *Eunotia praerupta* var. *bidens*(Ⅳ下)

図版 66



堆積物中の珪藻化石 (2)

1. *Aulacosira ambigua*(SD25-2) 2. *Melosira pensacolae*(SD25-1) 3. *Cymbella sinuata*(SD25-4)
4. *Aulacosira granulata*(SX27-5) 5. *Eunotia praerupta*(SX27-2) 6. *Cocconeis placentula*(SD25-1)
7. *Rhopalodia gibberula*(SD25-4) 8. *Pinnularia gibba*(SD25-4) 9. *Synedra ulna*(SD25-4)
10. *Eunotia biareofera*(SD25-1) 11. *Eunotia biareofera*(SX27-2) 12. *Amphora ovalis*(SD25-4)
13. *Achnanthes crenulata*(SD25-3) 14. *Hantzschia amphioxys*(SX27-2)



岩田西遺跡出土材の光学顕微鏡写真（1）

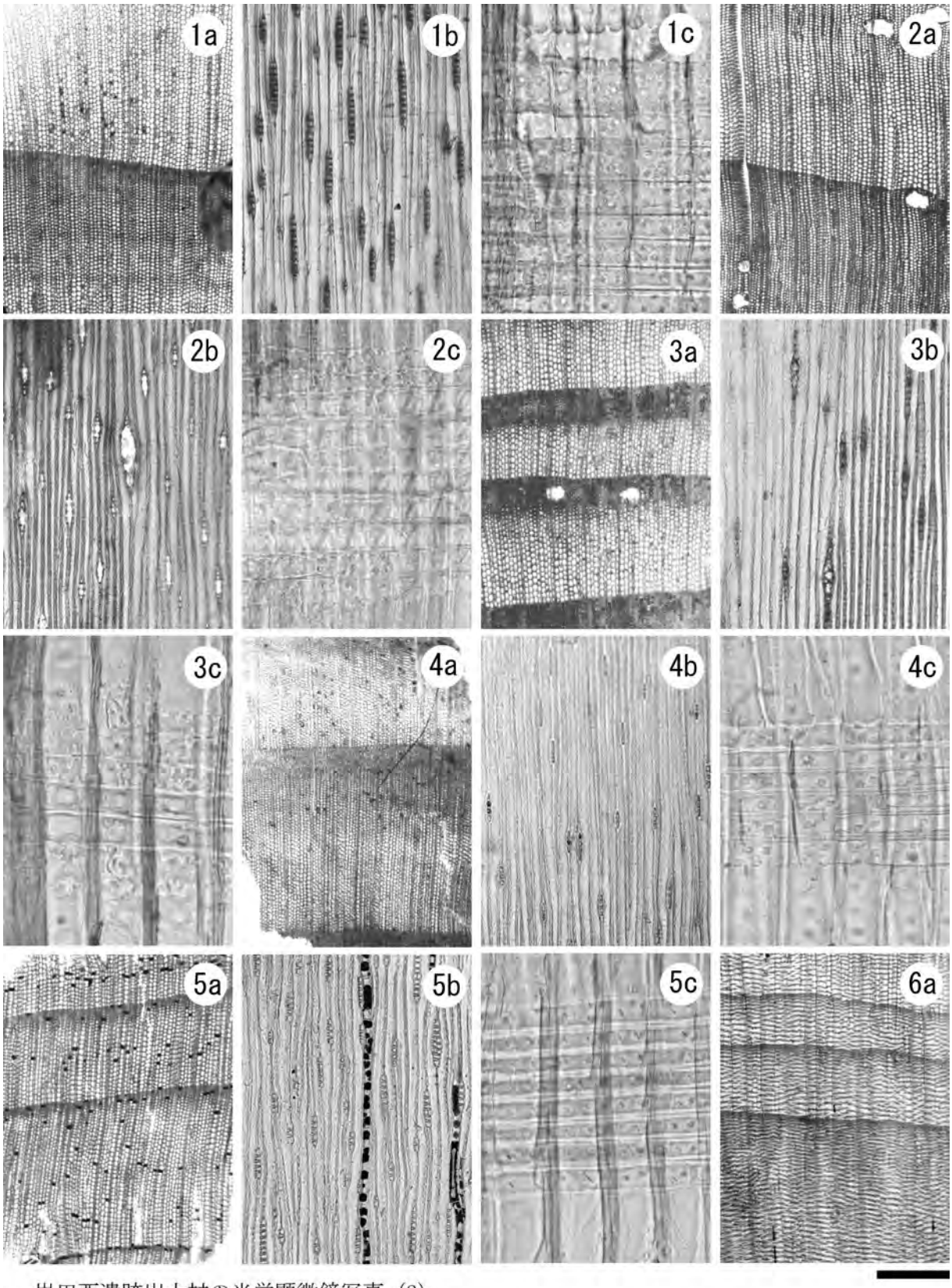
1a-1c. ツガ属（No. 4）、2a-2c. ヒノキ（No. 21）

a:横断面（スケール=200μm）、b:接線断面（スケール=200μm）、c:放射断面（スケール=50μm）

3a-3c. ブナ属（No. 2）

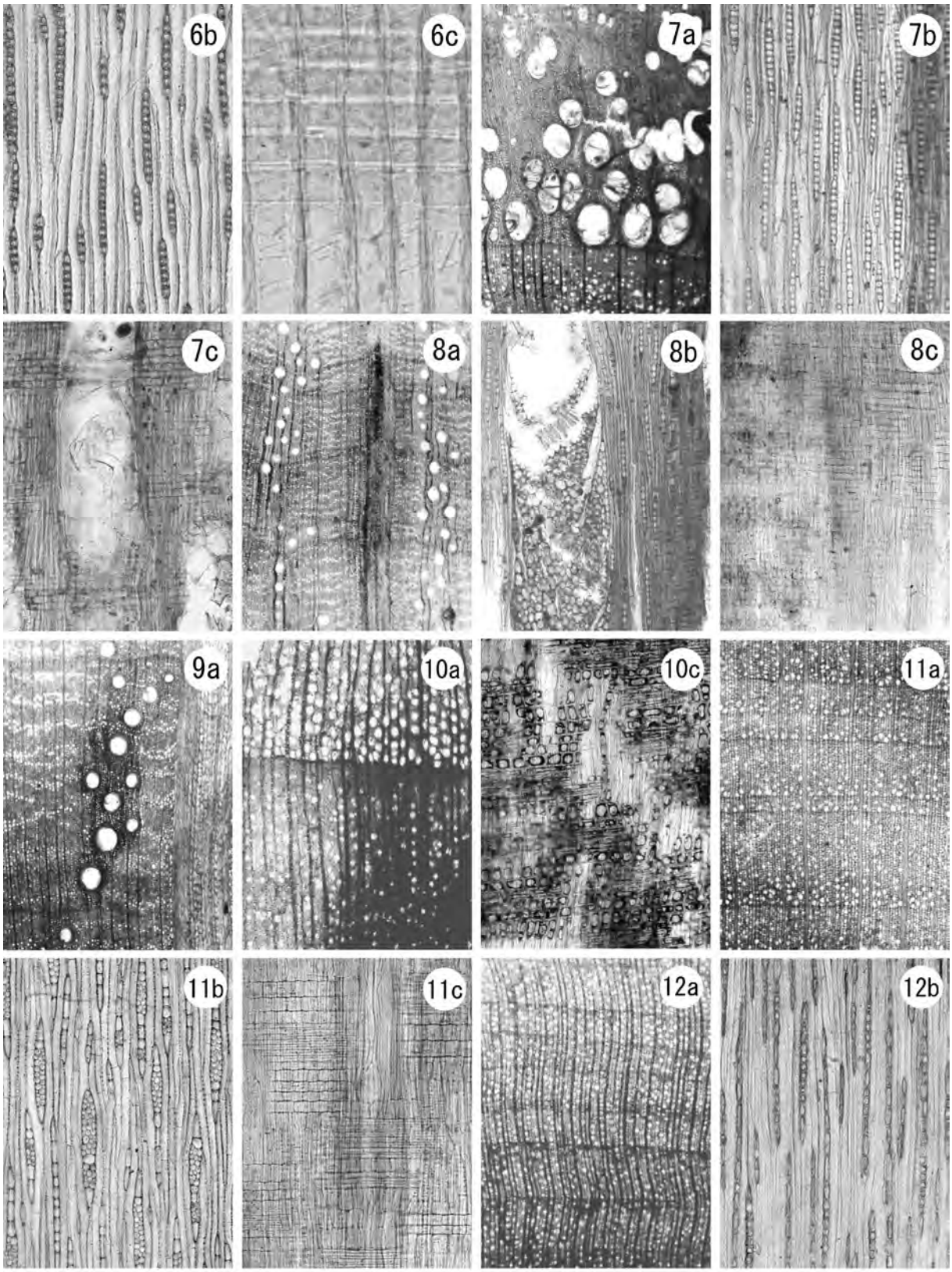
a:横断面（スケール=500μm）、b:接線断面（スケール=200μm）、c:放射断面（スケール=200μm）

図版 68



岩田西遺跡出土材の光学顕微鏡写真（2）

1a-1c．モミ属（No.34）、2a-2c．マツ属複維管束亜属（No.16）、3a-3c．マツ属複維管束亜属（No.36）
4a-4c．スギ（No.31）、5a-5c．ヒノキ（No.47）、6a．カヤ（No.49）
a:横断面（スケール=500μm）、b:接線断面（スケール=200μm）、c:放射断面（スケール=50μm）

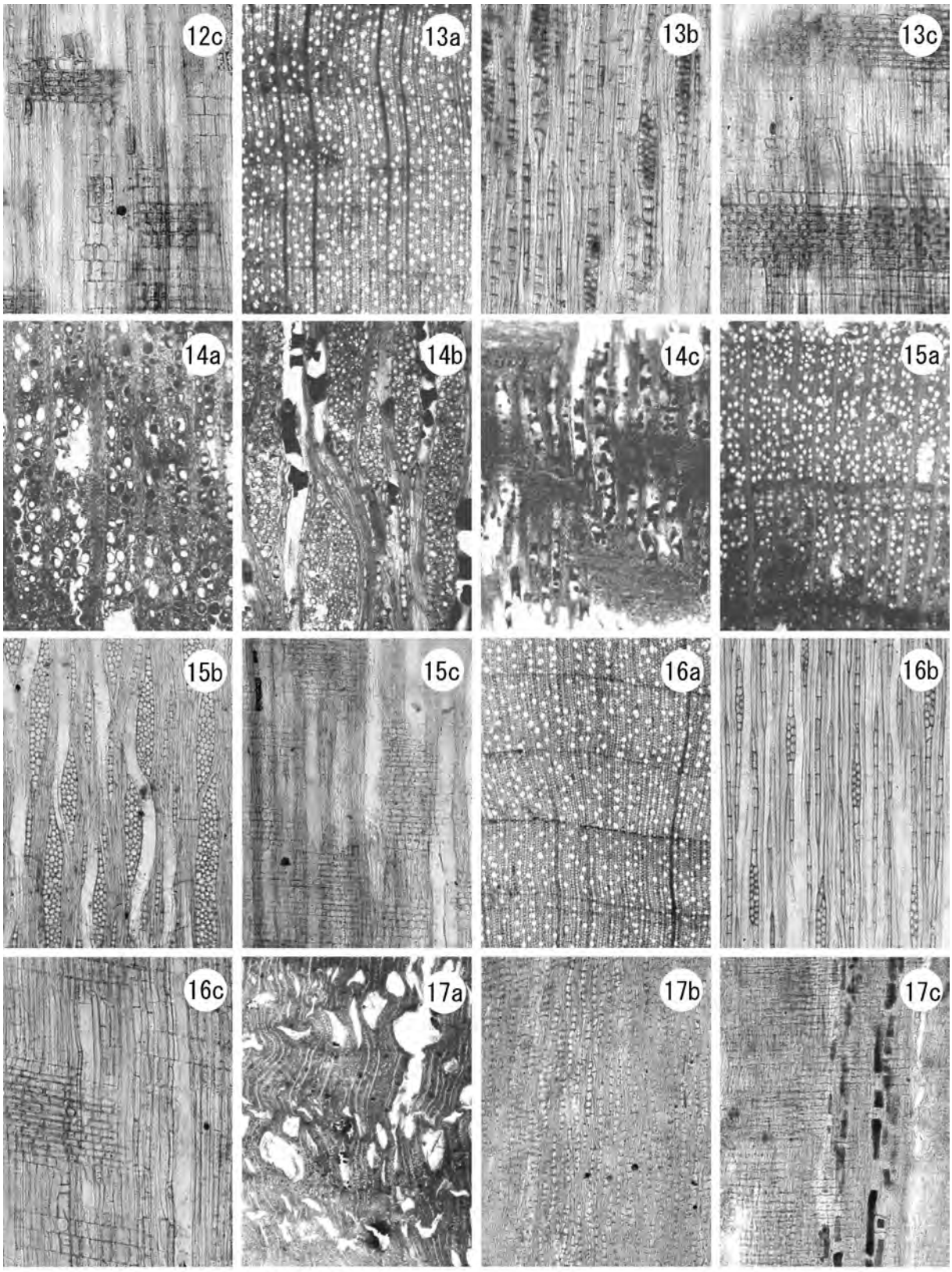


岩田西遺跡出土材の光学顕微鏡写真（3）

6b-6c．カヤ（No.49）、7a-7c．クリ（No.48）、8a-8c．コナラ属アカガシ亜属（No.11）、9a．コナラ属アカガシ亜属（No.43）、10a・10c．カツラ属（No.42）、11a-11c．ツバキ属（No.5）、12a-12b．サカキ（No.14）

a:横断面（スケール=500μm）、b:接線断面（スケール=200μm）、c:放射断面（スケール=6c：50μm、7c-12c：200μm）

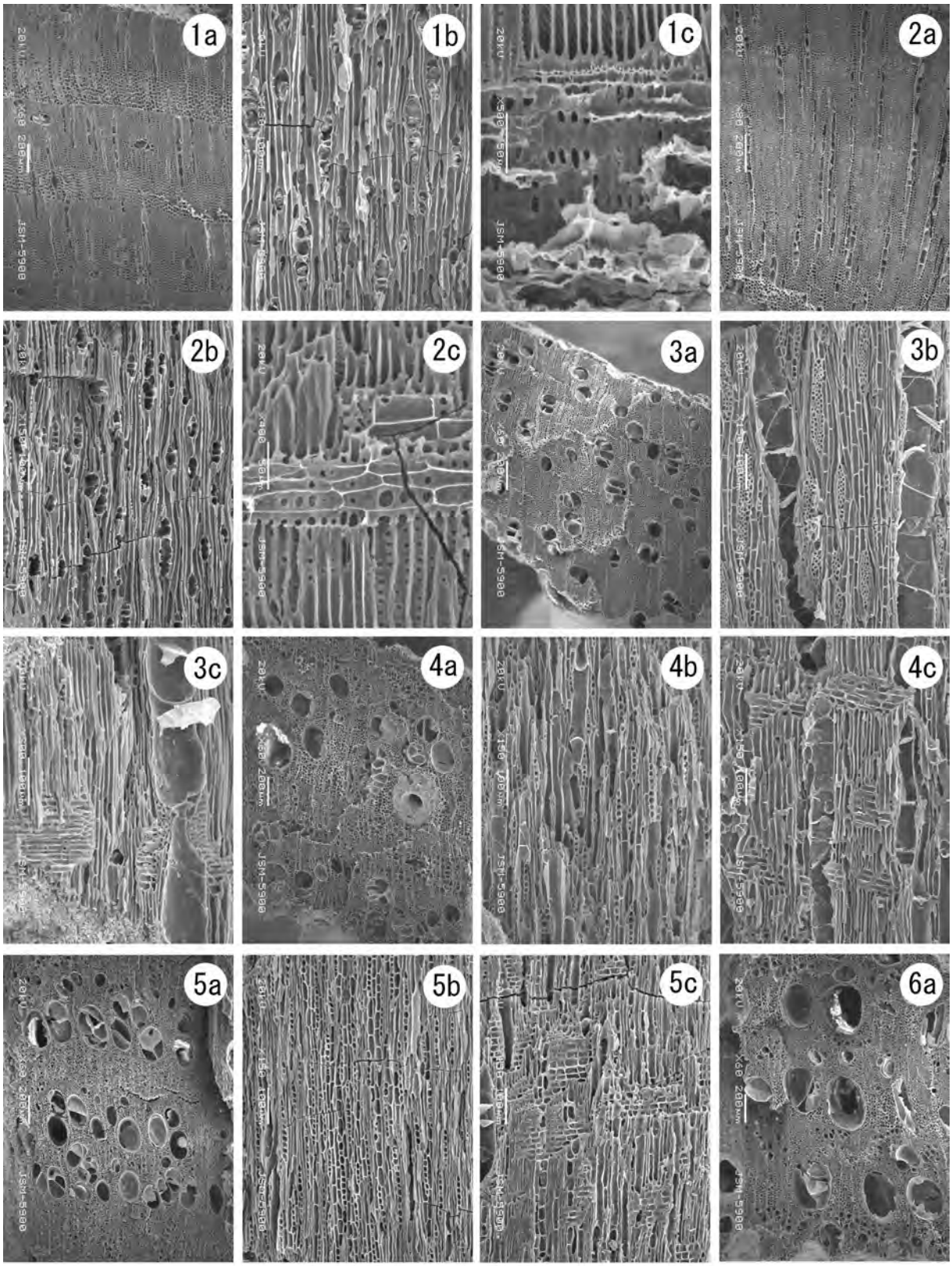
図版 70



岩田西遺跡出土材の光学顕微鏡写真（4）

12c．サカキ（No.14）、13a-13c．ヒサカキ（No.14）、14a-14c．モモ（No.50）、15a-15c．サクラ属（No.39）、16a-16c．タニウツギ属（No.6）、17a-17c．環孔材（No.46-2）

a：横断面（スケール=500μm）、b：接線断面（スケール=200μm）、c：放射断面（スケール=200μm）

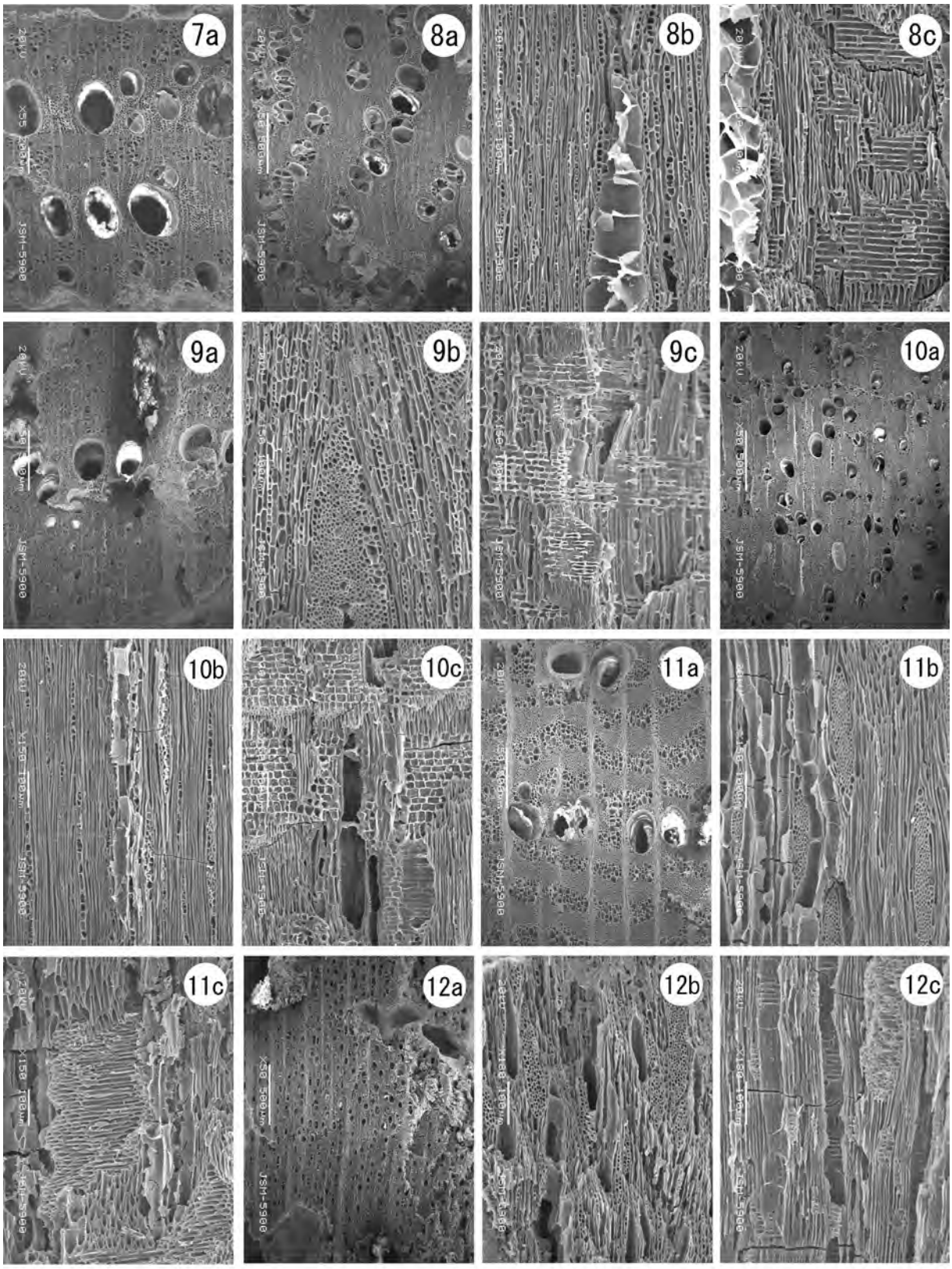


岩田東遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真（1）

1a-1c．マツ属複維管束亜属（No.8）、2a-2c．コウヤマキ（No.3-1）、3a-3c．オニグルミ（No.35）、4a-4c．クリ（No.10）、5a-5c．クリ（No.20）、6a．クリ（No.23）

a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

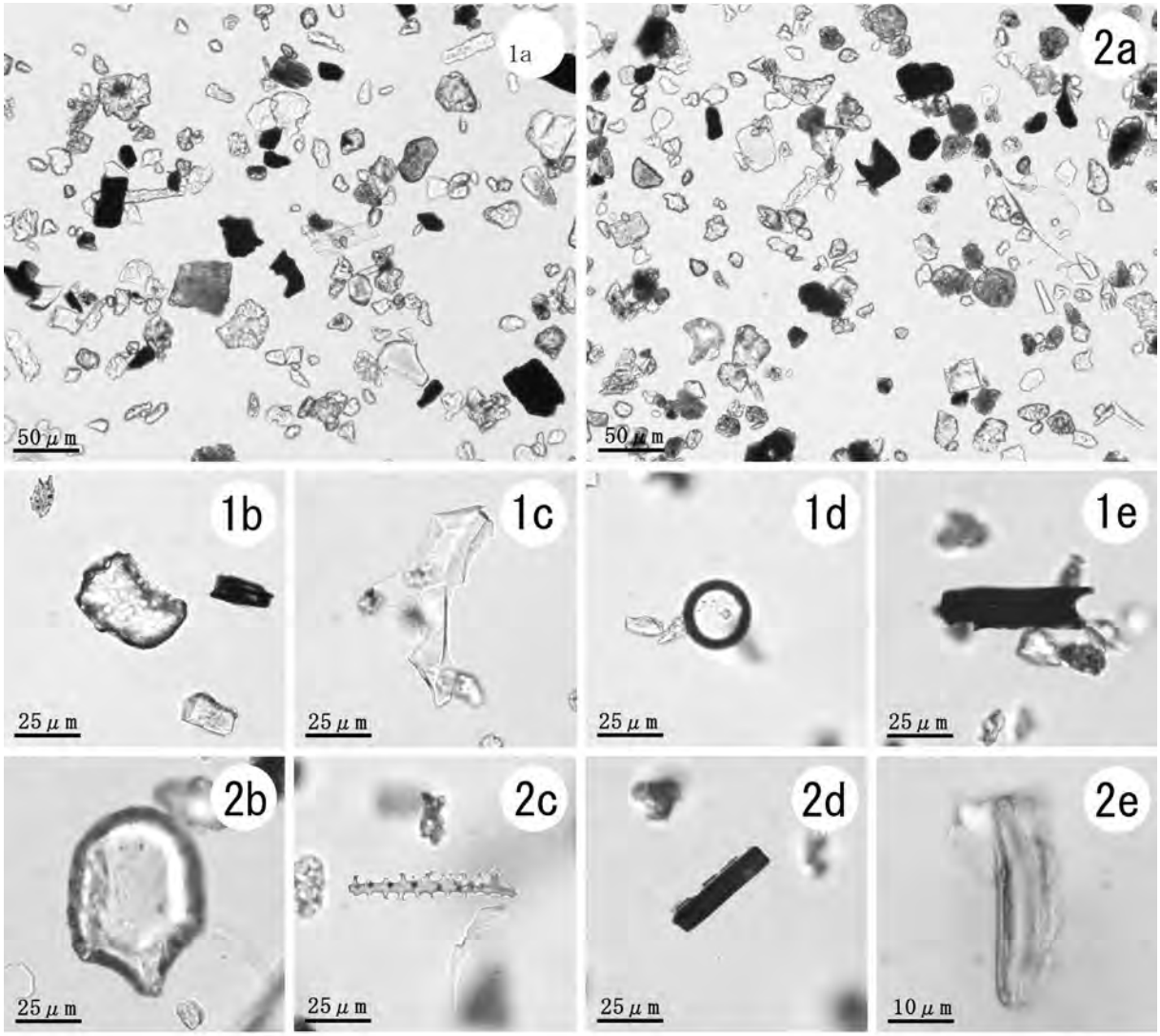
図版 72



岩田東遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真（2）

7a．クリ（№27）、8a-8c．イチイガシ（№4-2）、9a-9c．コナラ属クヌギ節（№17）、10a-10c．ムクノキ（№21）、11a-11b．ケヤキ（№26）、12a-12c．カエデ属（№25）

a：横断面、b：接線断面、c：放射断面



土器内土壌中の粒子顕微鏡写真　(No.は試料No.に対応)

1a. 土壌中の粒子状況写真　2a. 土壌中の粒子状況写真

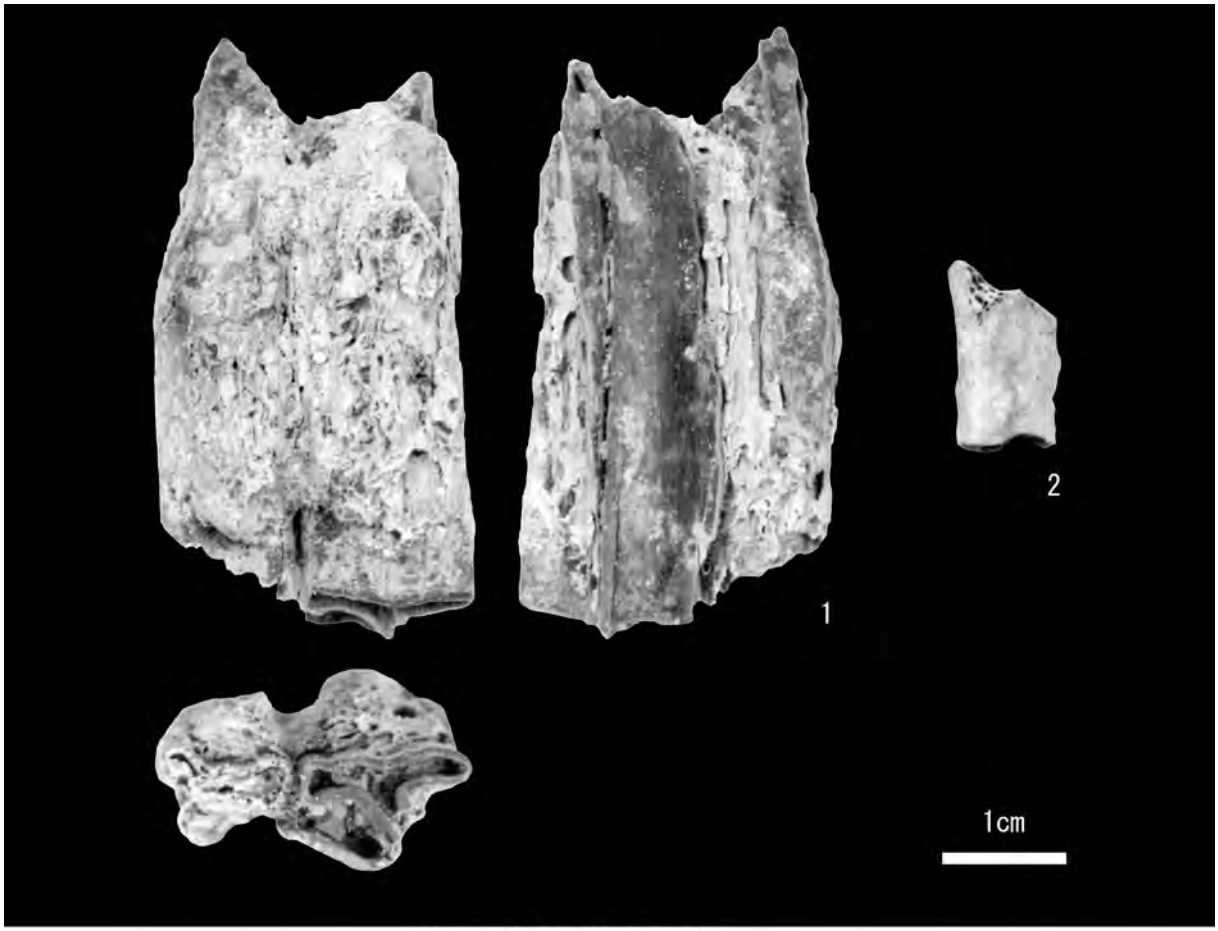
1b. 植物珪酸体化石　(ササ類)　1c. 火山ガラス　1d. 胞子化石　1e. 炭片

2b. 植物珪酸体化石　(ヨシ属)　2c. 骨針化石　2d. 炭片　2e. 淡水種珪藻化石 (*Eunotia* 属)

図版 74

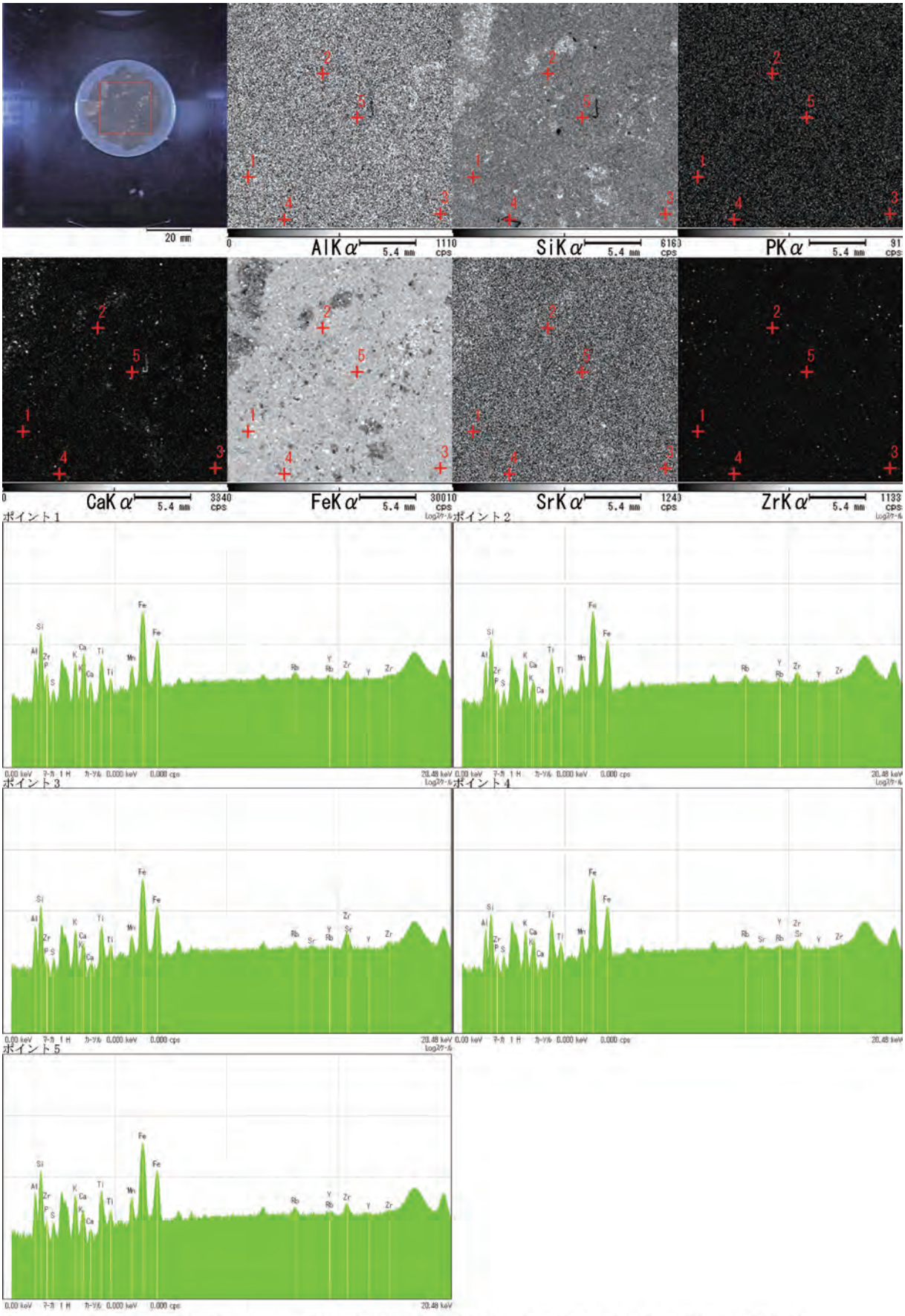
土器内土壌中の炭化種子（スケール 5:0.2mm, 9:0.5mm, その他：1mm）

1. シイ属近似種炭化子葉、2. ササゲ属アズキ亜属アズキ型炭化種子、3. マメ科炭化種子
4. マメ科炭化種子、5. イネ炭化果実、6. イネ炭化種子、7. オオムギ炭化種子
8. コムギ炭化種子、9. アワ炭化種子



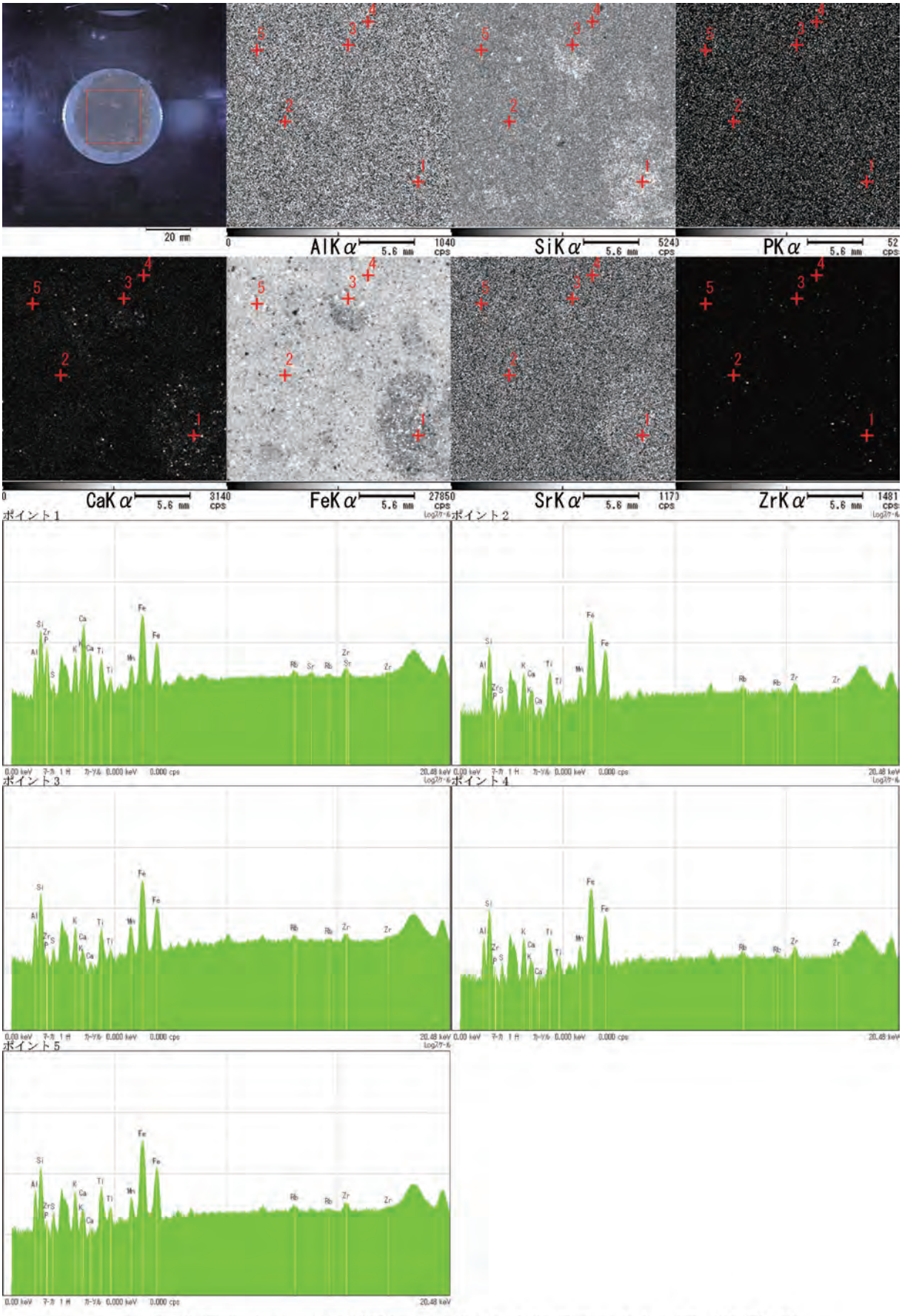
岩田西遺跡出土動物遺体

1. ウマ臼歯　　2. 哺乳類四肢骨

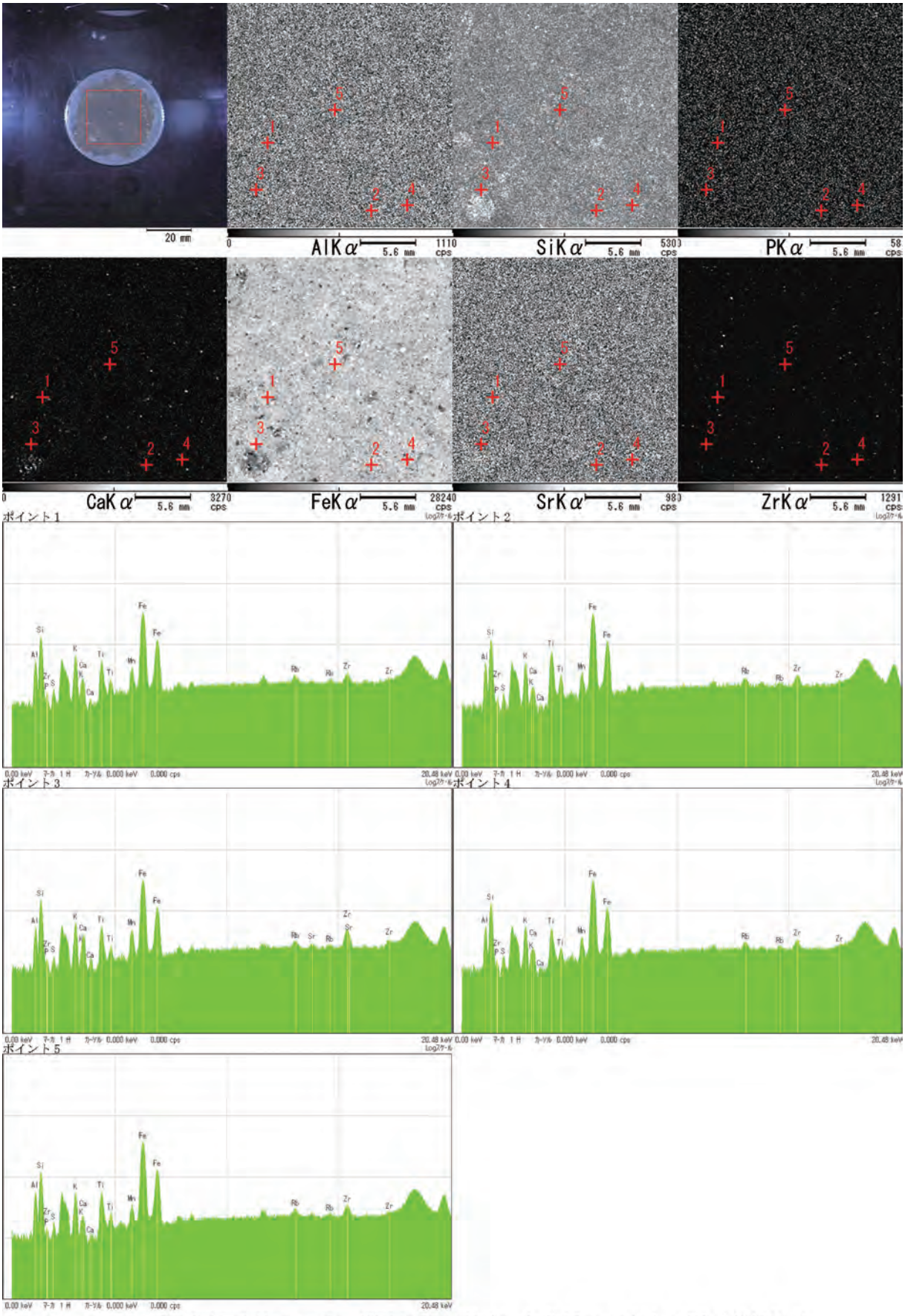


P・Ca 分析元素マッピング図およびポイント分析スペクトル図（分析No.1）

図版 76

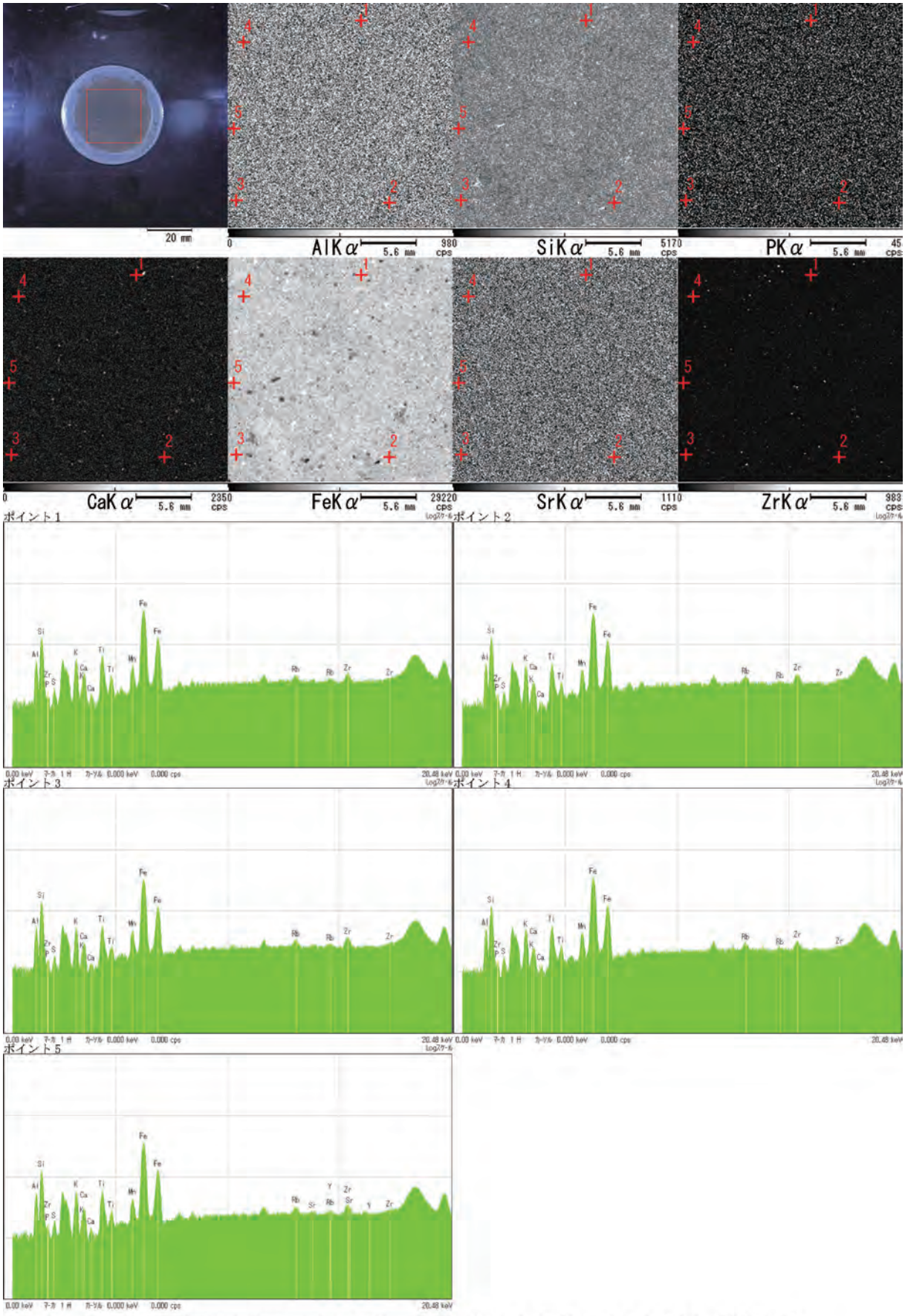


P・Ca 分析元素マッピング図およびポイント分析スペクトル図（分析No.2）

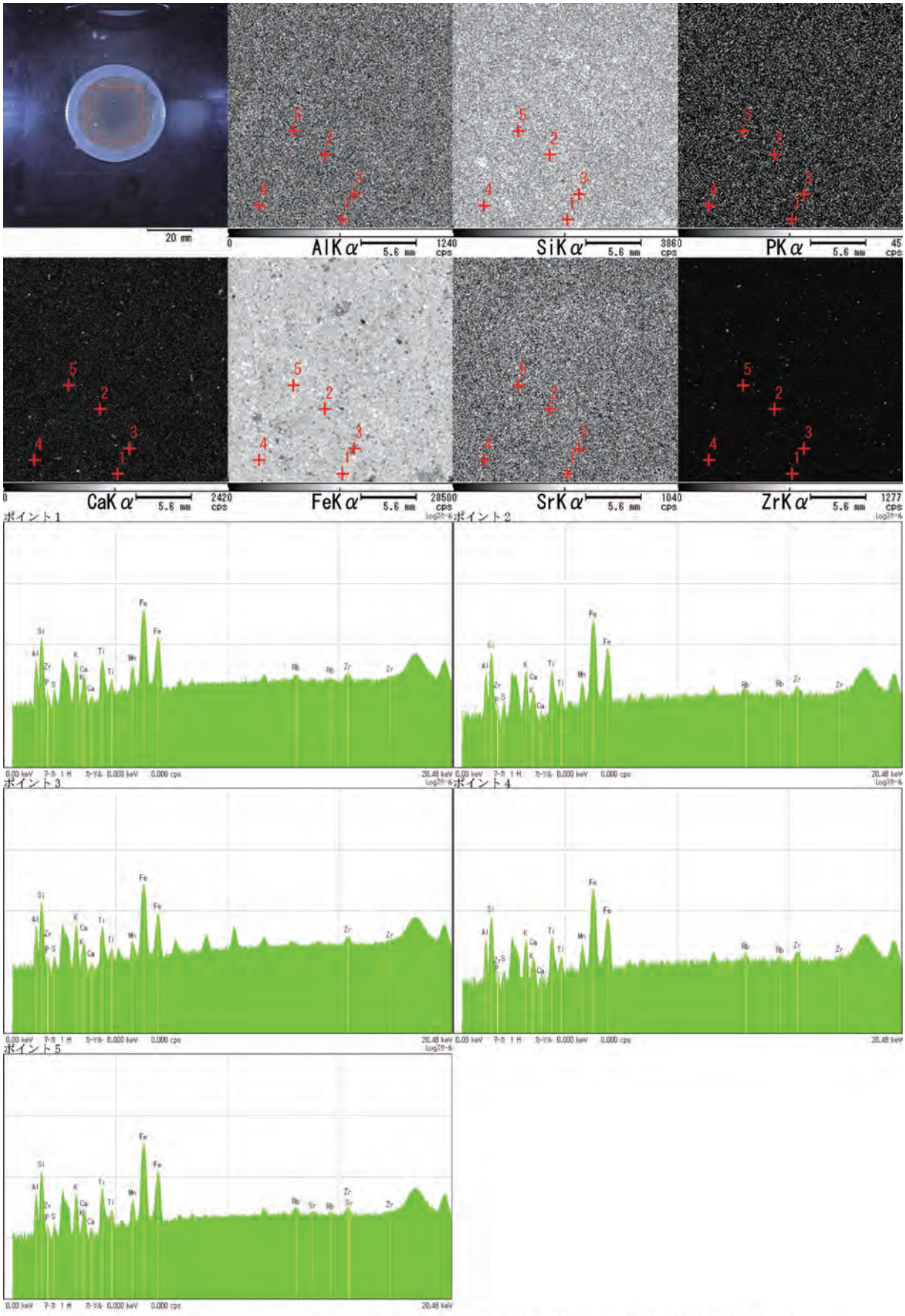


P・Ca 分析元素マッピング図およびポイント分析スペクトル図（分析No.3）

図版 78

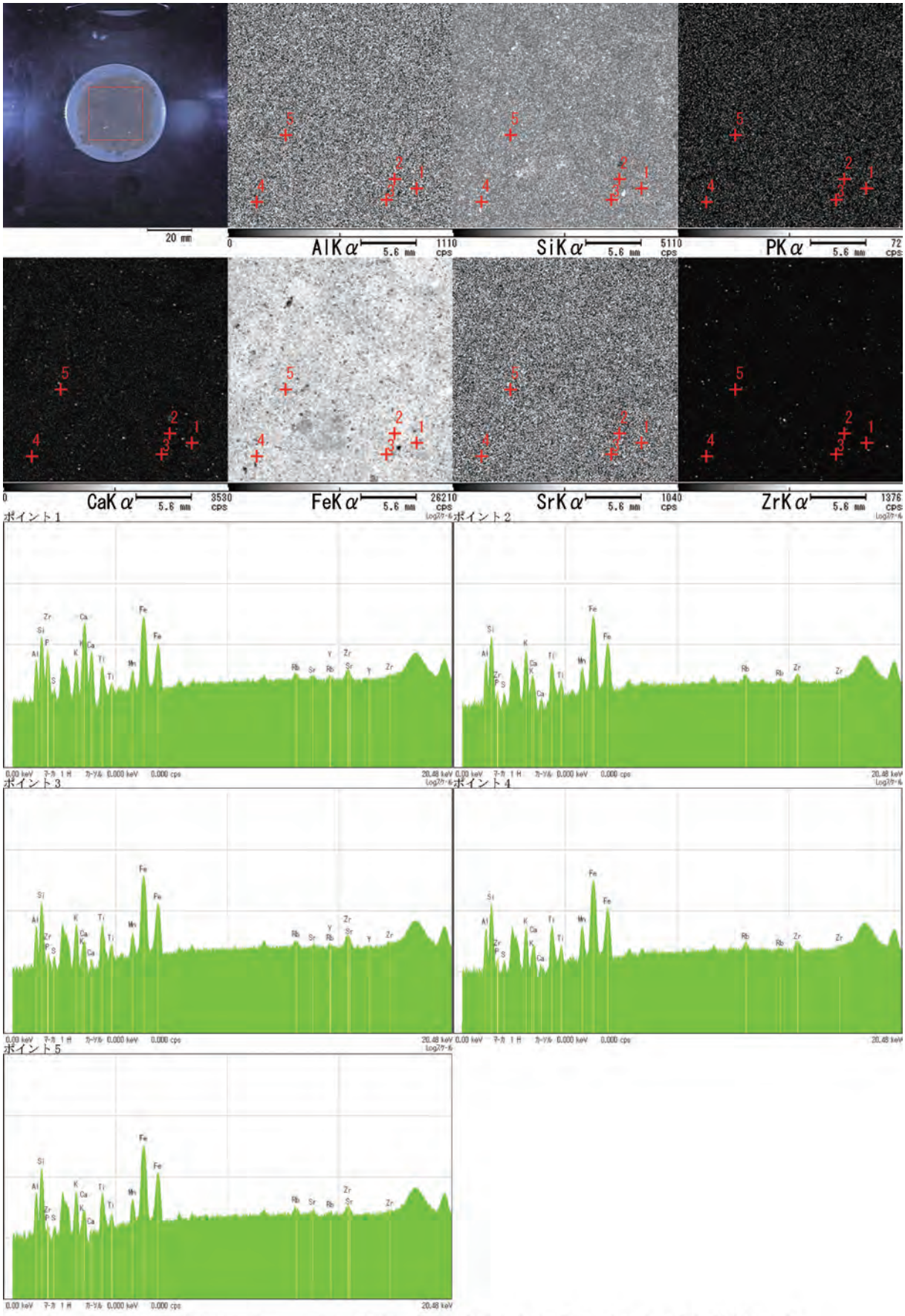


P・Ca 分析元素マッピング図およびポイント分析スペクトル図（分析No.4）

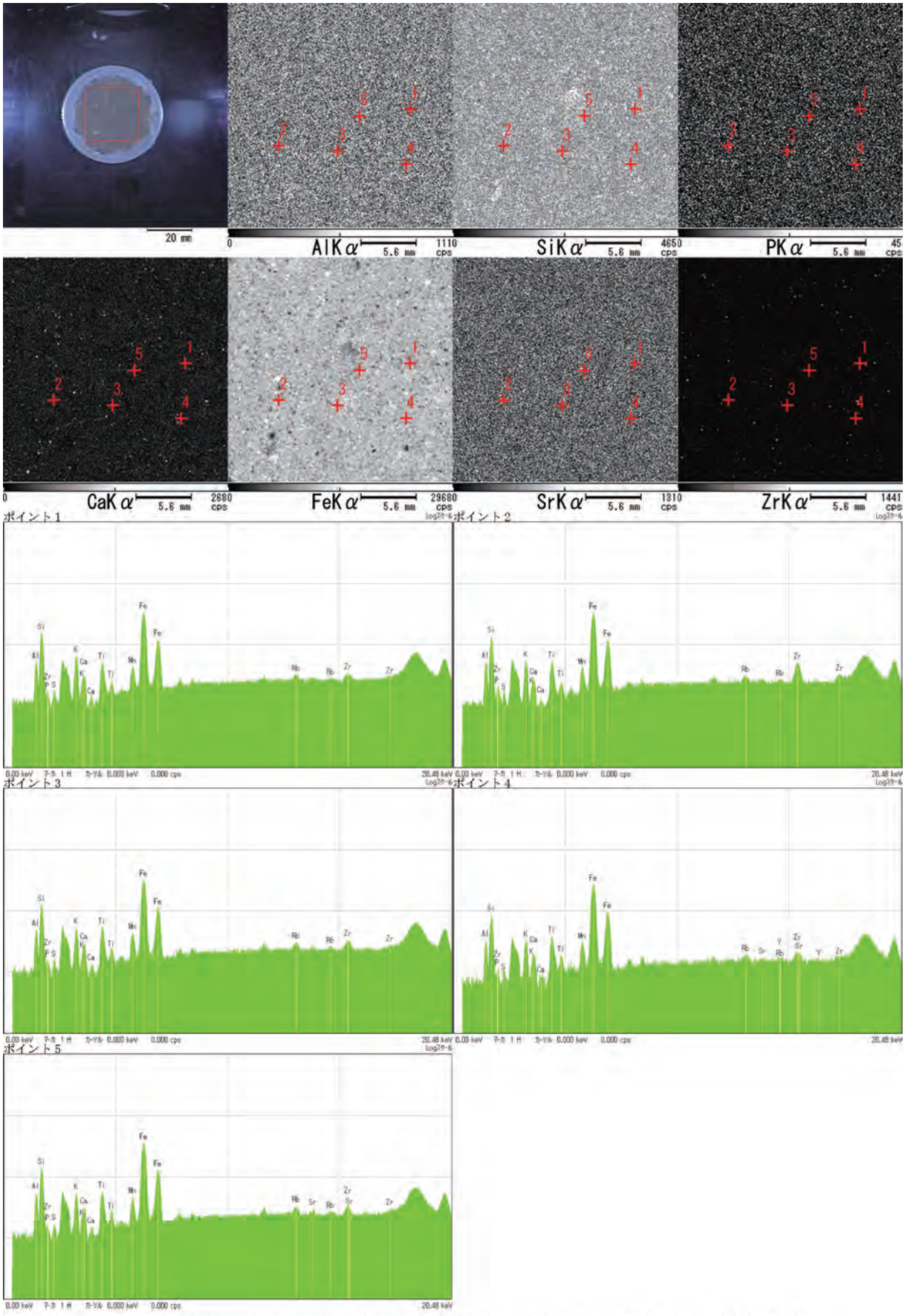


P・Ca 分析元素マッピング図およびポイント分析スペクトル図（分析No.5）

図版 80

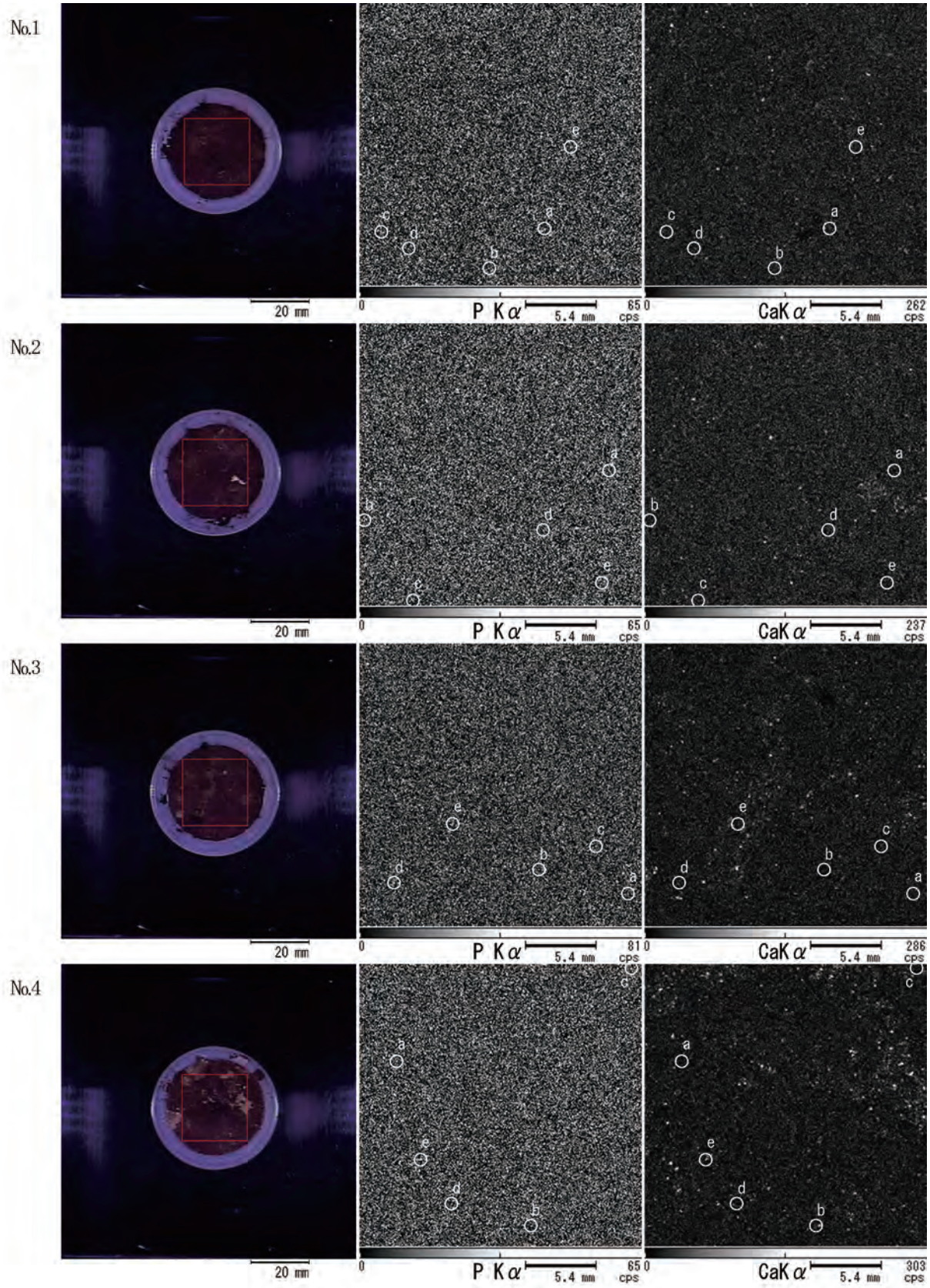


P・Ca 分析元素マッピング図およびポイント分析スペクトル図（分析No.6）

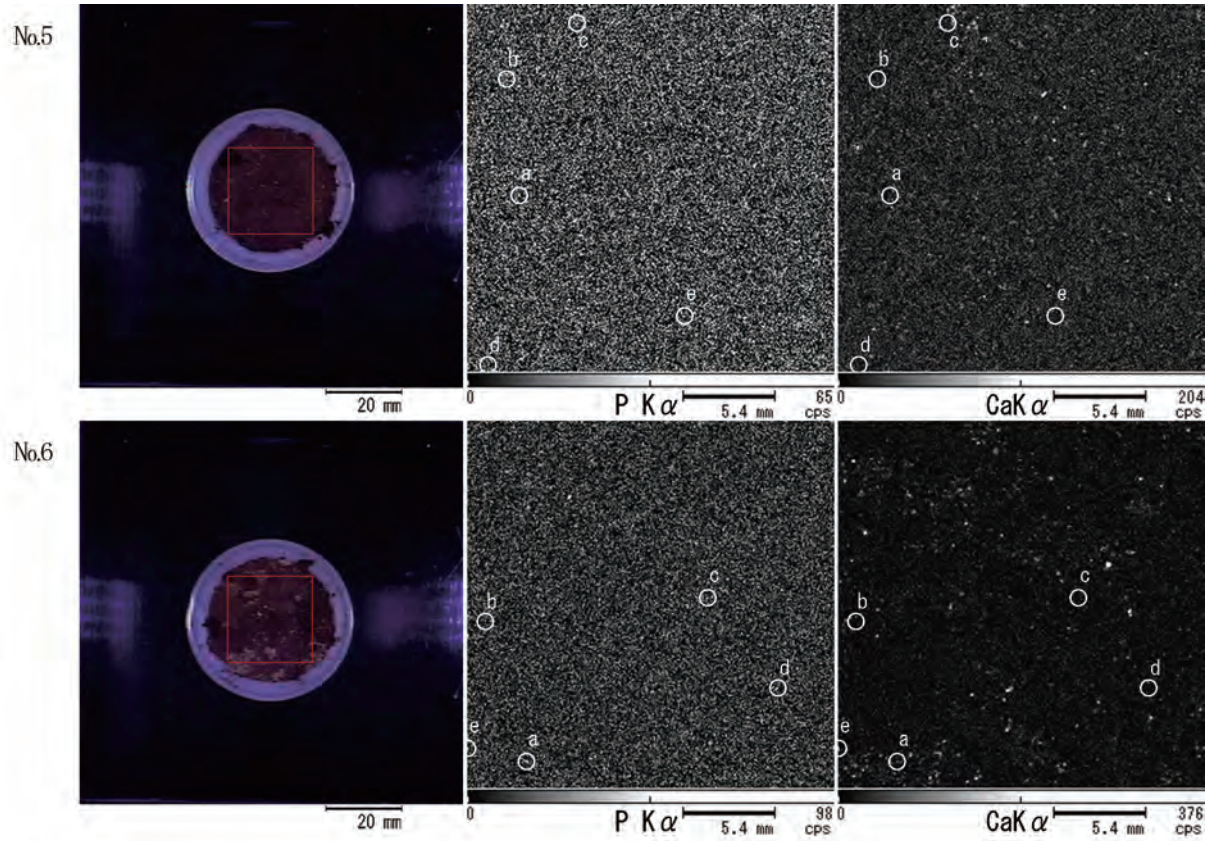


P・Ca 分析元素マッピング図およびポイント分析スペクトル図（分析No.7）

図版 82

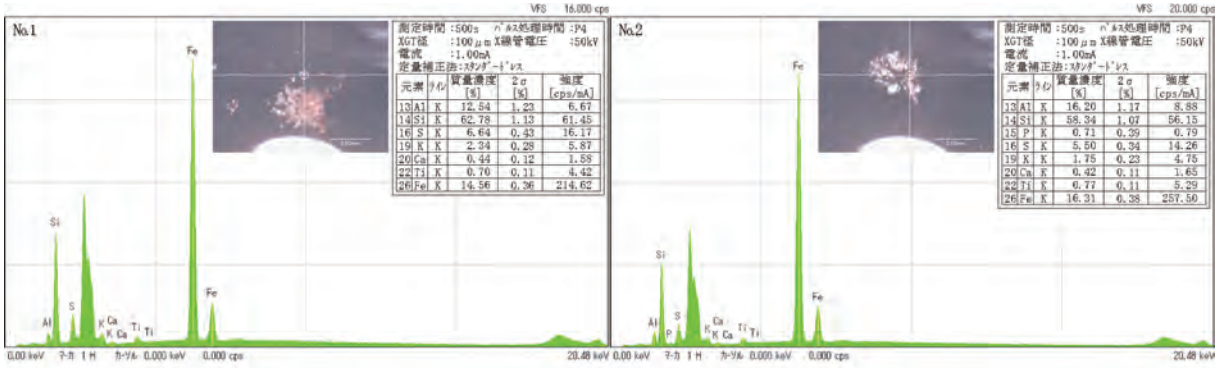


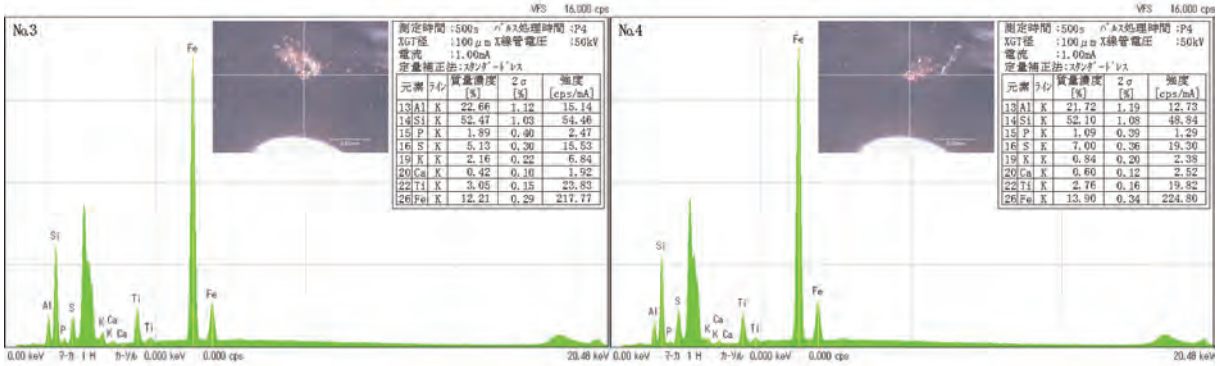
プレス試料および元素マッピング図（1）

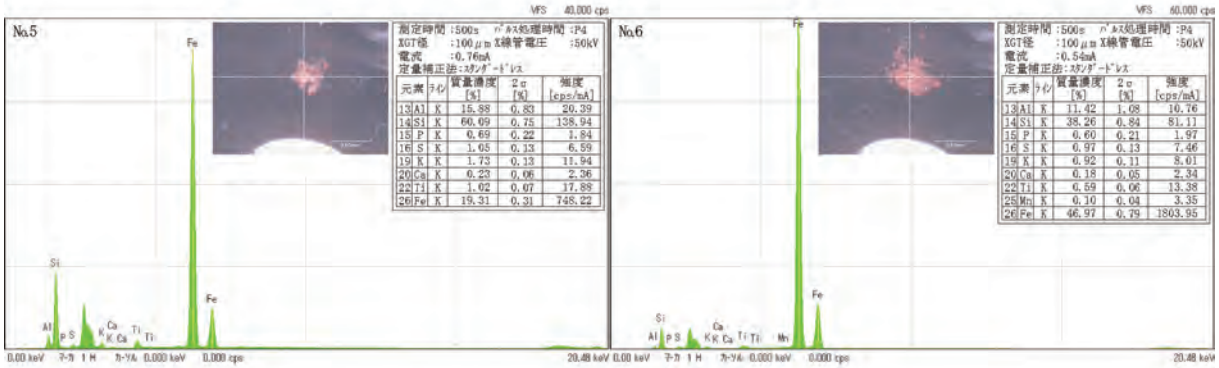


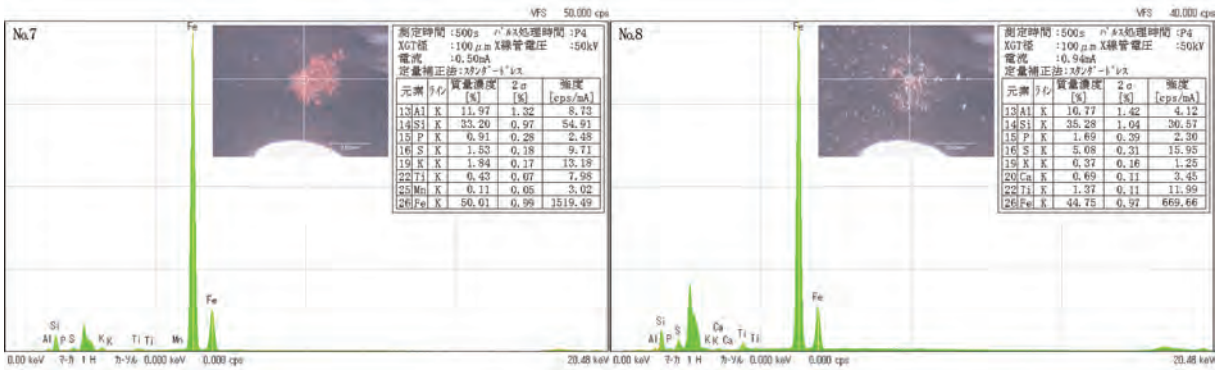
プレス試料および元素マッピング図（2）

図版 84

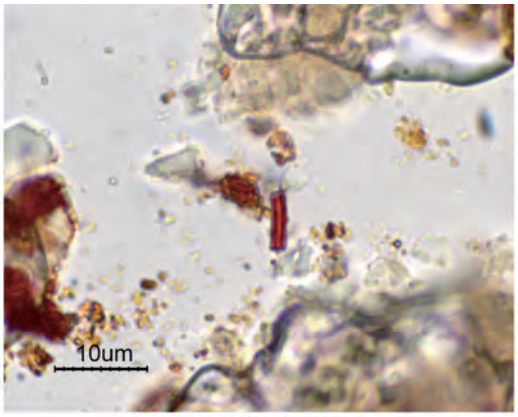




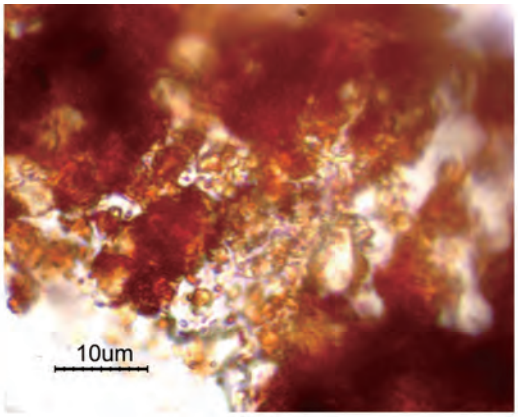




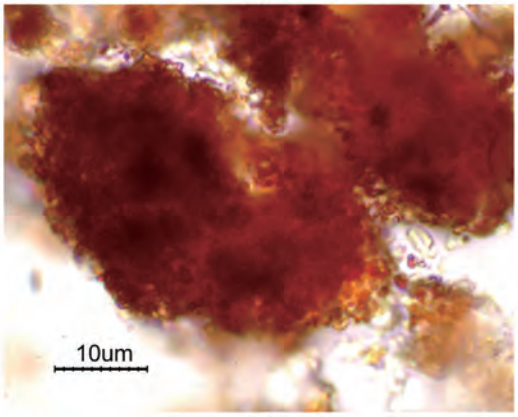
赤色顔料の蛍光 X 線分析結果



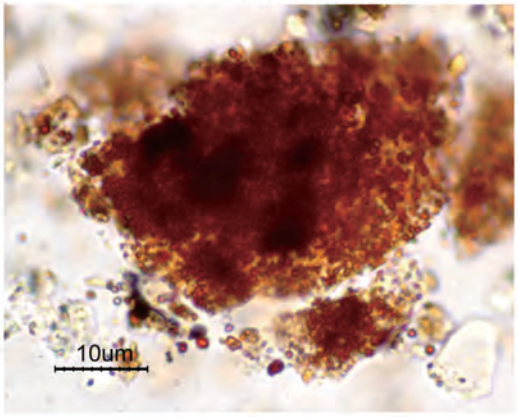
No.1



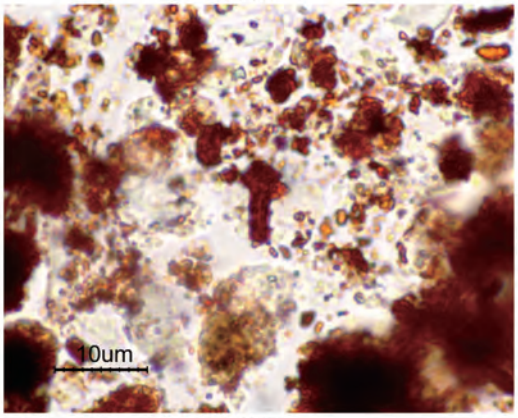
No.2



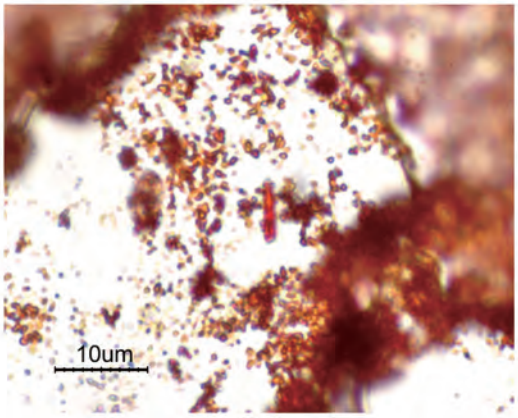
No.3



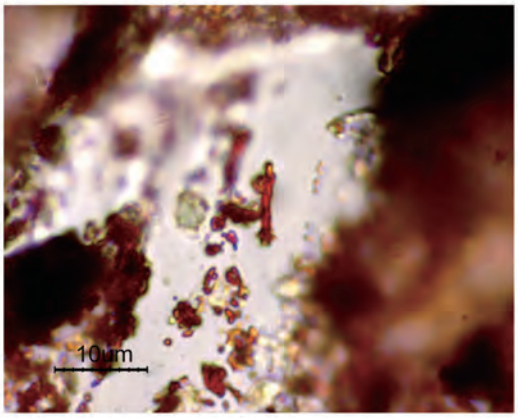
No.4



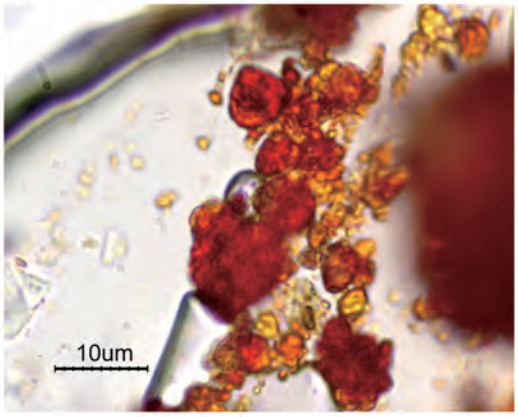
No.5



No.6



No.7



No.8

赤色顔料の生物顕微鏡写真

報告書抄録

フ リ ガ ナ	イワタヒガシエー・イワタニシイセキ
書　　名	岩田東Ａ・岩田西遺跡
副　書　名	市道ミイソ川原畑線道路改良工事に伴う緊急発掘調査
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	(公財)岐阜市教育文化振興事業団
シリーズ番号	第20集
編 著 者 名	朝田公年・梅村大輔・恩田裕之・(株)パレオ・ラボ
編 集 機 関	公益財団法人　岐阜市教育文化振興事業団
所　在　地	〒500-8245　岐阜市上川手735番地2
発 行 年 月 日	平成24年3月12日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号					
岩田東Ａ遺跡	岐阜市 岩田西 1・3丁目地内	21201	7164	35° 44′ 33″	136° 83′ 52″	2985.9㎡	2009.9.16 ～ 2012.3.12	市道ミイソ 川原畑線改良 工事に伴う 緊急発掘調査
岩田西遺跡	岐阜市 岩田西 1・2丁目地内	21201	8610	35° 44′ 45″	136° 83′ 35″	5674.1㎡		

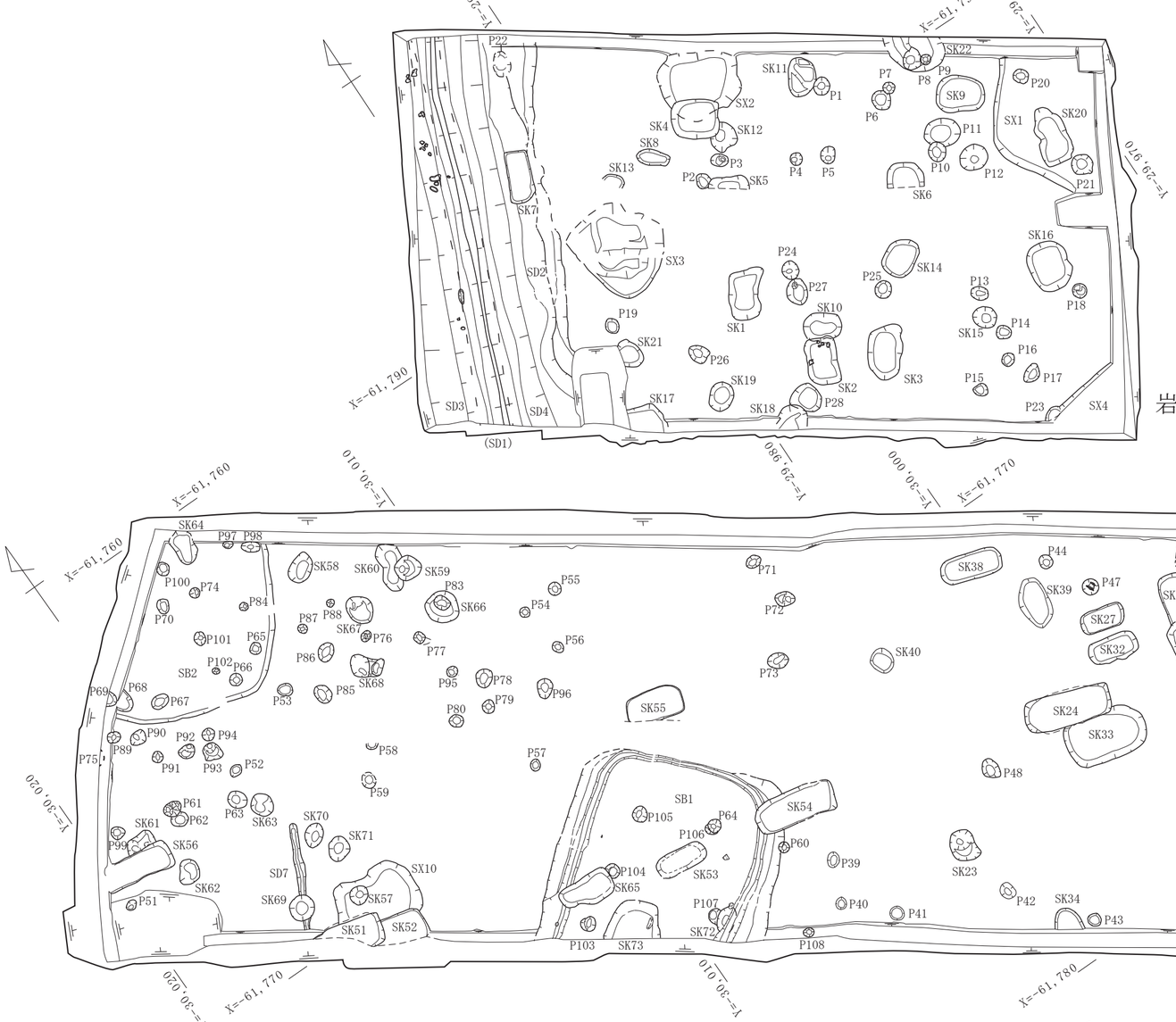
所収遺跡名	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岩田東Ａ遺跡	弥生時代	方形周溝墓 竪穴住居跡 土器埋納遺構 土器集積	弥生土器(朝日式・貝田町式・高蔵式・山中式・欠山式・元屋敷式・条痕文系土器・沈線文系土器・瓜郷式) 石庖丁・有溝砥石・磨製石鏃・打製石鏃	弥生時代中期～後期竪穴住居跡より石庖丁出土。河岸段丘縁辺部に弥生時代中期末～古墳時代初頭の周溝墓群確認。うち一基は大型の前方後方型周溝墓。
	古墳時代	竪穴式住居 ﾋﾟｯﾄ	土師器(伊勢型甕) 須恵器(美濃須衛窯・猿投窯)	古墳時代後期の竪穴住居跡2棟確認。
	古代	竪穴式住居 溝・土坑 ﾋﾟｯﾄ 土器埋納遺構	土師器(濃尾型甕・ケズリ甕等) 須恵器(美濃須衛窯・猿投窯) 灰釉陶器(美濃窯・猿投窯)	9世紀の竪穴住居跡2棟確認。10世紀末～11世紀初めの東西溝確認。
	鎌倉～ 戦国時代	溝・土坑 ﾋﾟｯﾄ	土師器(皿・鍋・羽釜) 山茶碗・陶器(古瀬戸・大窯) 中国産磁器(青磁・白磁)	旧来の土地区画に沿った溝と土坑墓群確認。
岩田西遺跡	古代	溝・低地	須恵器(美濃須衛窯・猿投窯) 灰釉陶器(美濃窯・猿投窯) 土製品(土錘・土馬)	奈良～平安時代の溝・低地内より「美濃国」刻印須恵器・土馬出土。
	鎌倉～ 戦国時代	水田・溝	土師器(皿・鍋・羽釜) 山茶碗・陶器(古瀬戸・大窯) 中国産磁器(青磁・白磁) 土製品(土錘・土鈴) 銅銭(渡来銭)	旧来の土地区画に沿った水田跡と溝を確認。

岩田東Ａ・岩田西遺跡

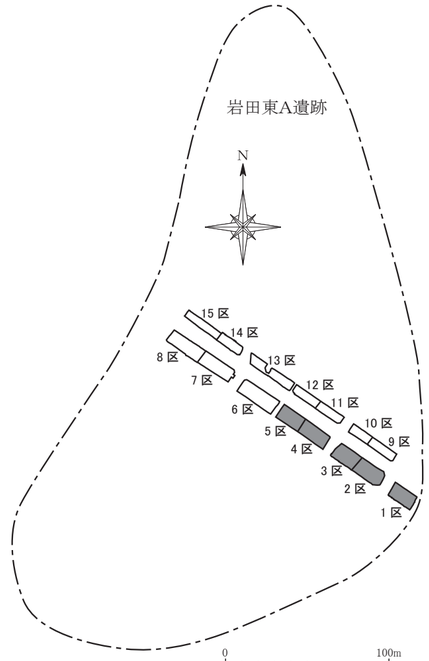
－市道ミイソ川原畑線道路改良工事に伴う緊急発掘調査－

平成 24 年 3 月

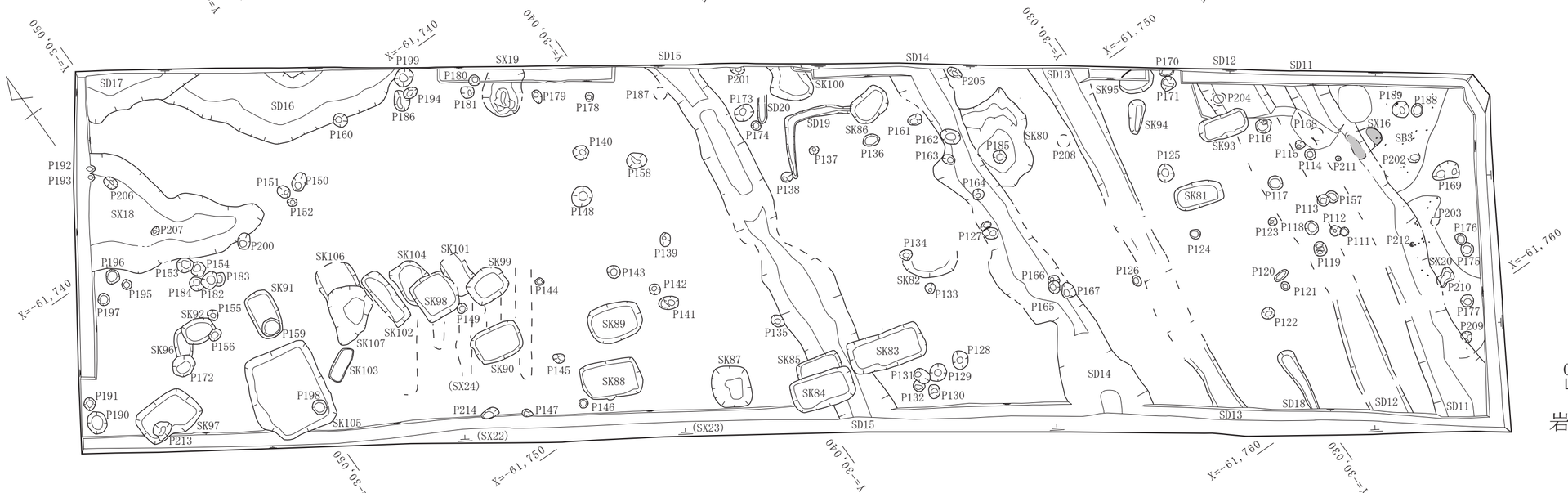
発行　公益財団法人　岐阜市教育文化振興事業団
岐阜市上川手 735 番地 2



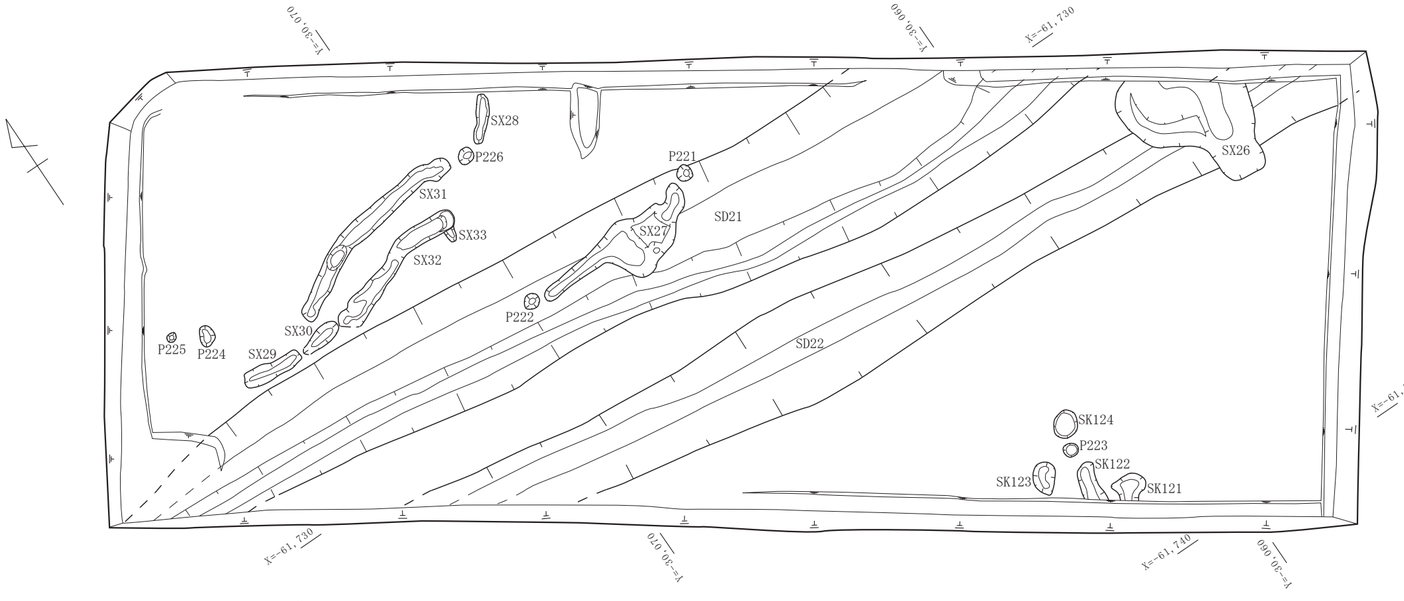
岩田東Ａ遺跡1区　遺構図



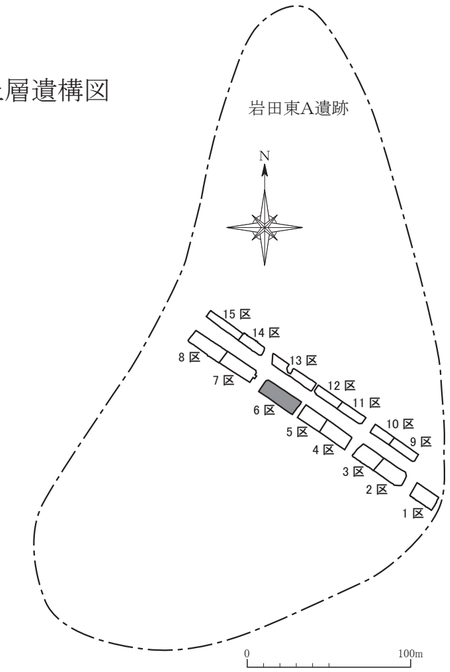
岩田東Ａ遺跡2・3区　遺構図

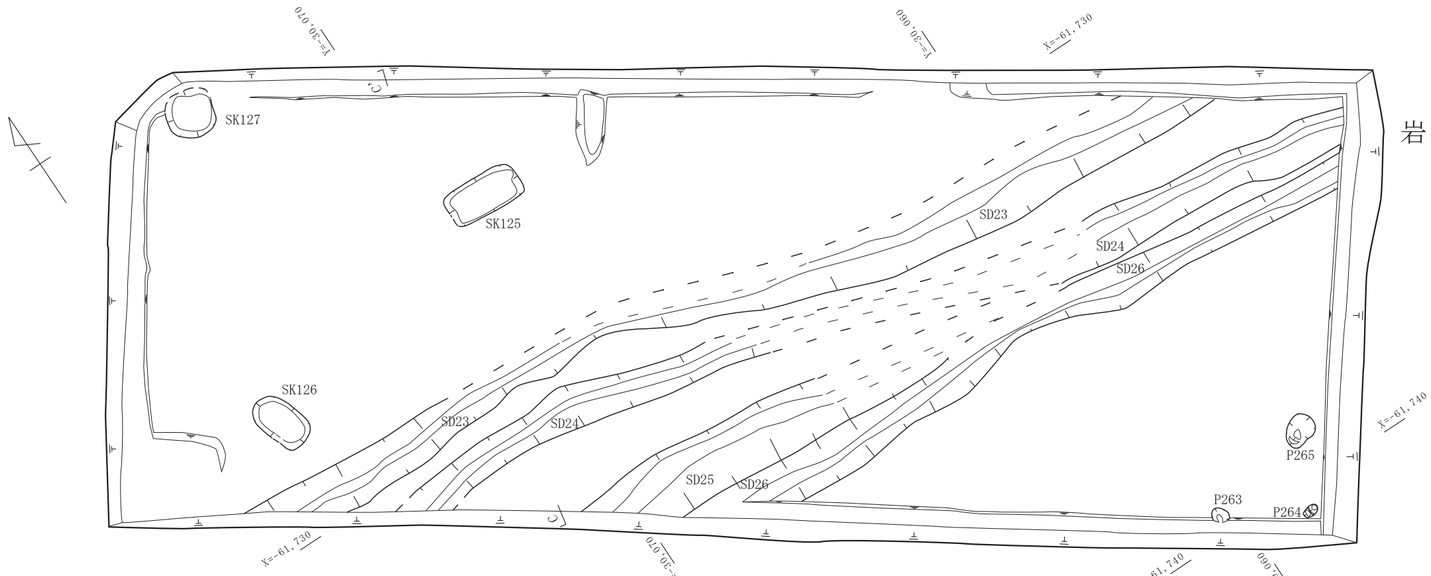


岩田東Ａ遺跡4・5区　遺構図

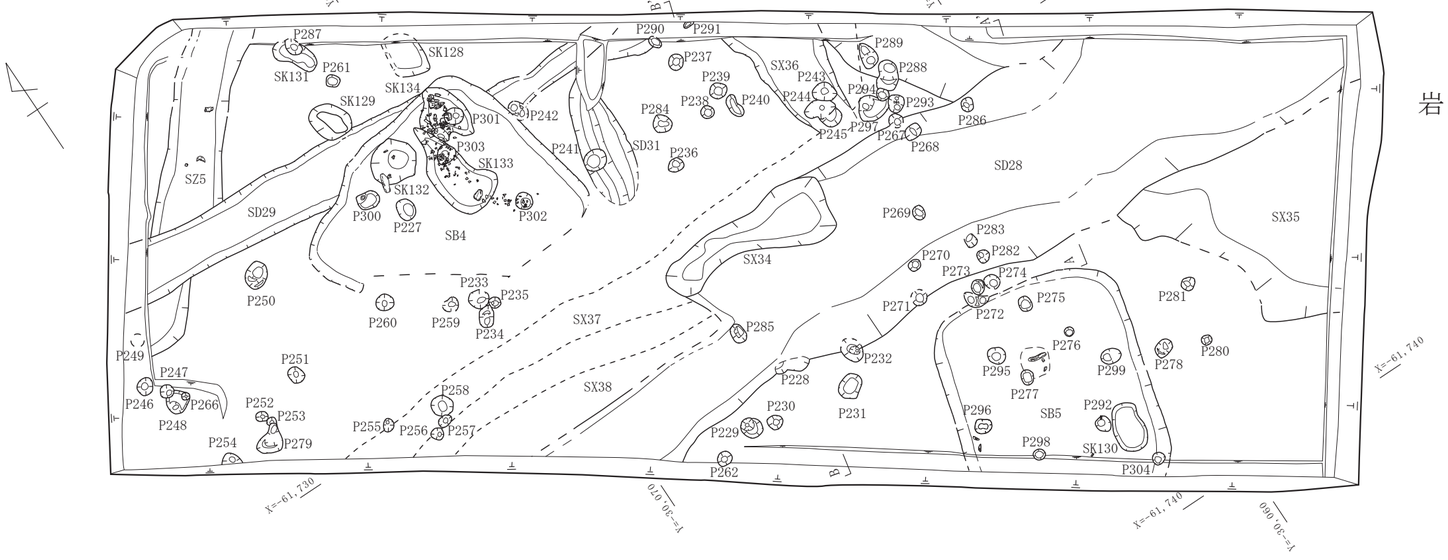


岩田東Ａ遺跡6区　上層遺構図



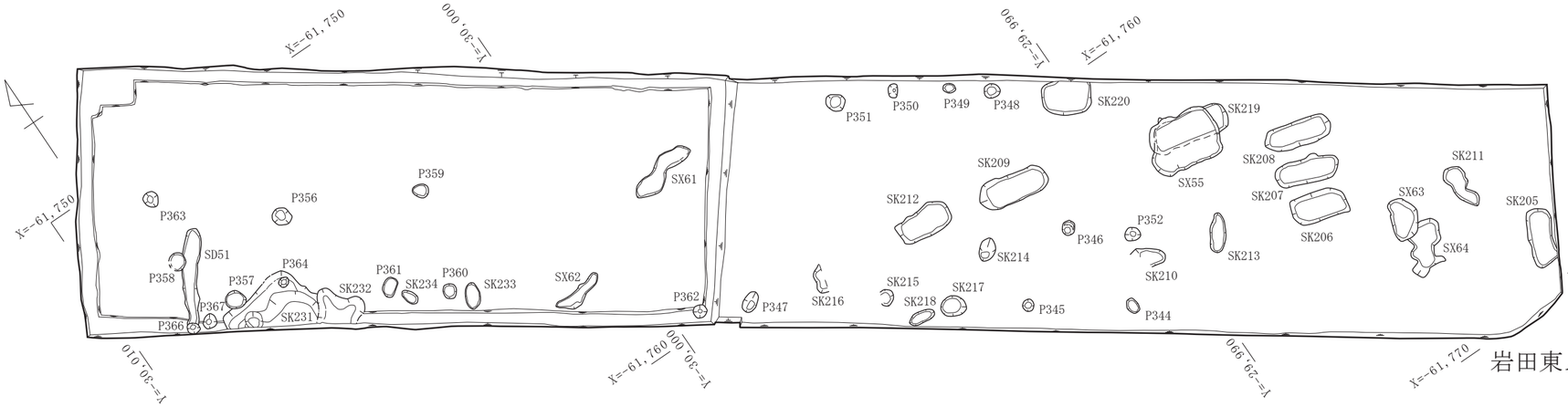


岩田東Ａ遺跡6区　中層遺構図

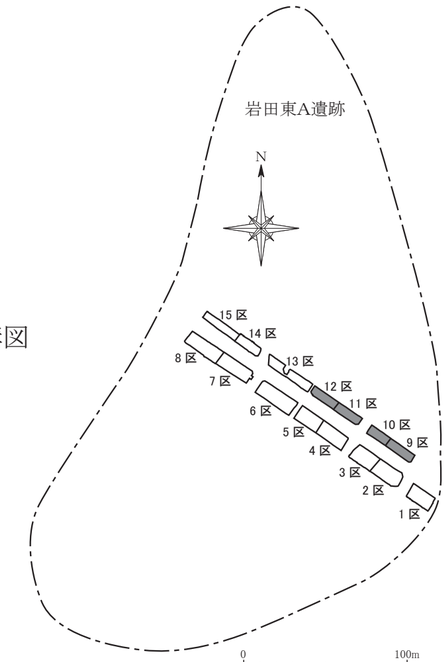


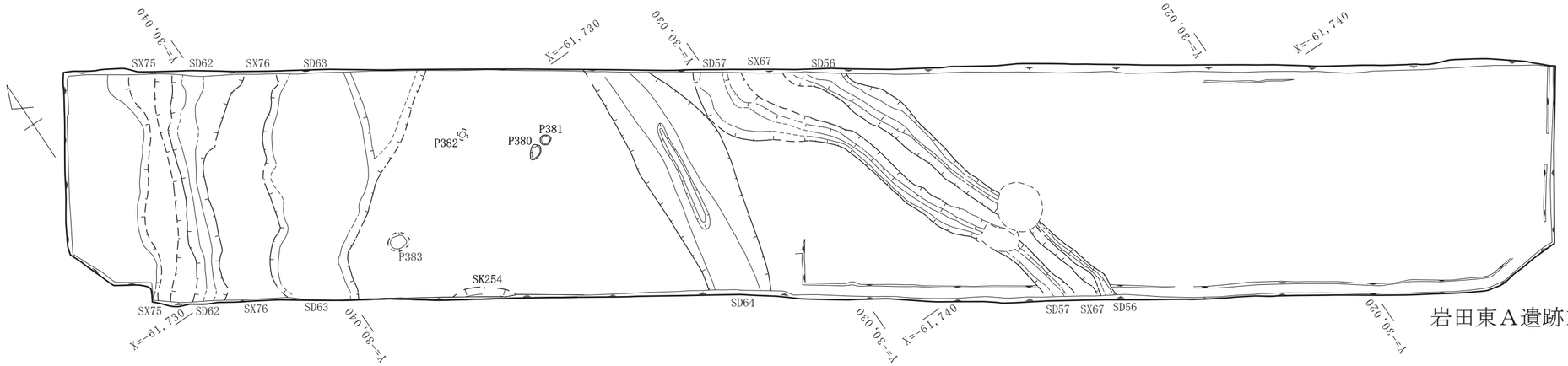
岩田東Ａ遺跡6区　下層遺構図

SD44
SD41
SD42
SK171
P328
SK172
SK193
SK182
SK174
SK184
SX47
SK190
SK188
P327
SK137
SK138
SK153
SX43
SK151
SK189
SX46
SK181
SK183
SK178
SK152
SK150
SK140
SK139
SK141
SK154
SX48
SK176
SK177
SK175
SK179
P332
SX42
SK143
P331
SK187
P329
P337
SK180
SD44
SK173
P333
P338
P339
SK147
P315
P314
P316
SK142
P317
P318
P311
P310
P313
SK144
P312
SK149
SK145
SK146
SK148
X=-61,700
X=-61,710
X=-61,720
Y=-30,110
Y=-30,100
Y=-30,090
Y=-30,120
岩田東A遺跡7・8区　上層遺構図
岩田東A遺跡
N
15区
14区
13区
12区
11区
10区
9区
8区
7区
6区
5区
4区
3区
2区
1区
0
100m
SX50
SK185
SK186
P340
SK191
SX51
SB9
SK194
SX49
P336
SK195
P330
SB6
SK192
SB7
SB8
SK196
0
5m
岩田東A遺跡8区　下層遺構図（周溝墓以外）
SZ3
周溝
SZ4
SZ4
周溝
SZ2
SZ2
周溝
SZ3
SZ3
周溝
SZ5
SZ5
周溝
SZ1
SZ1
周溝
(SX44)
岩田東A遺跡7・8区　下層遺構図（周溝墓）

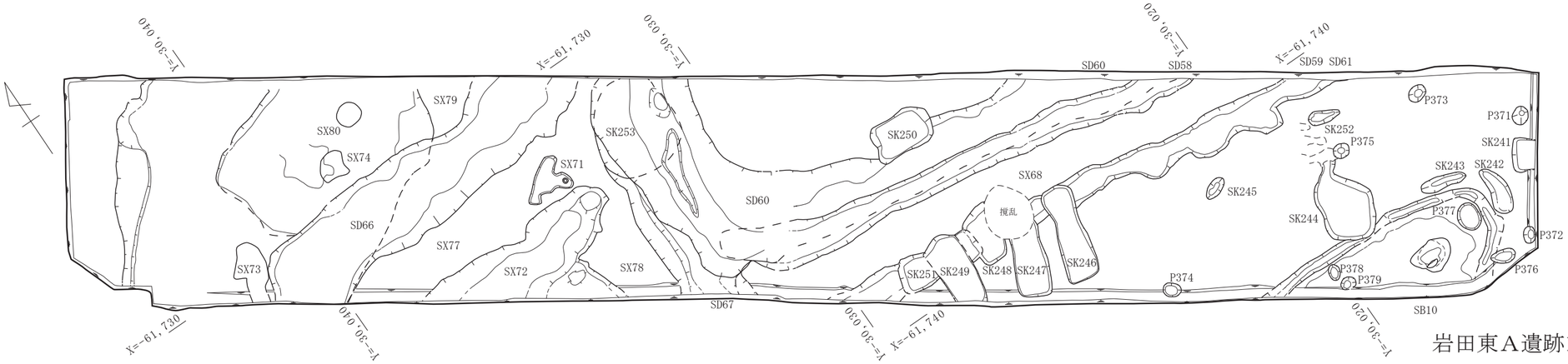


岩田東Ａ遺跡9・10区　遺構図



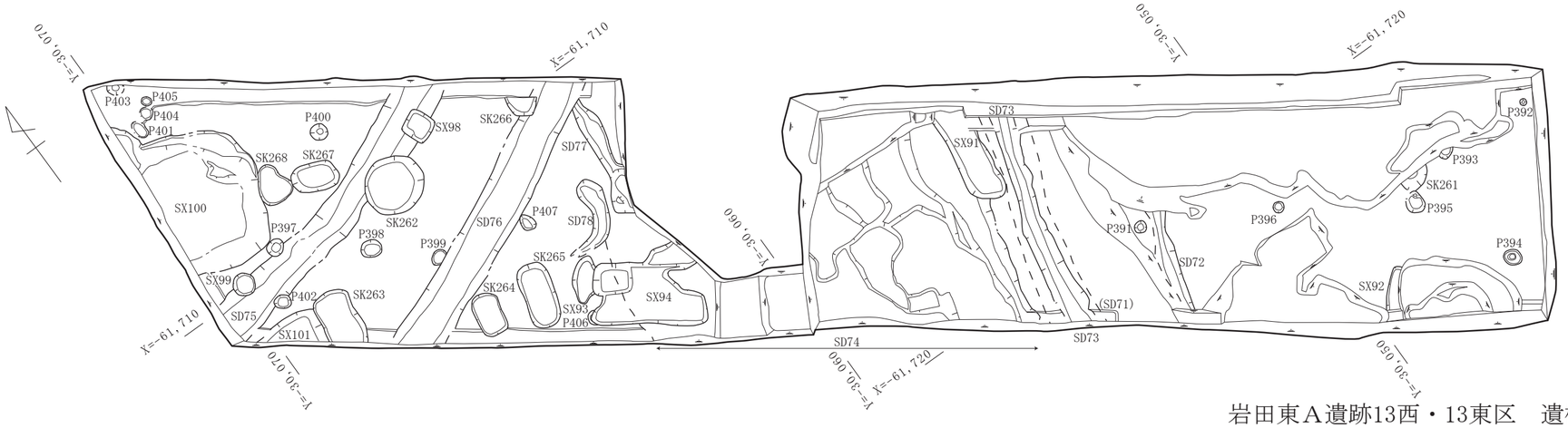


岩田東Ａ遺跡11・12区　上層遺構図

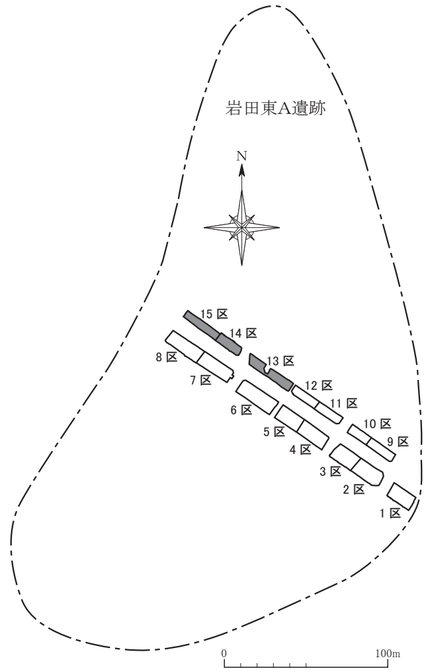


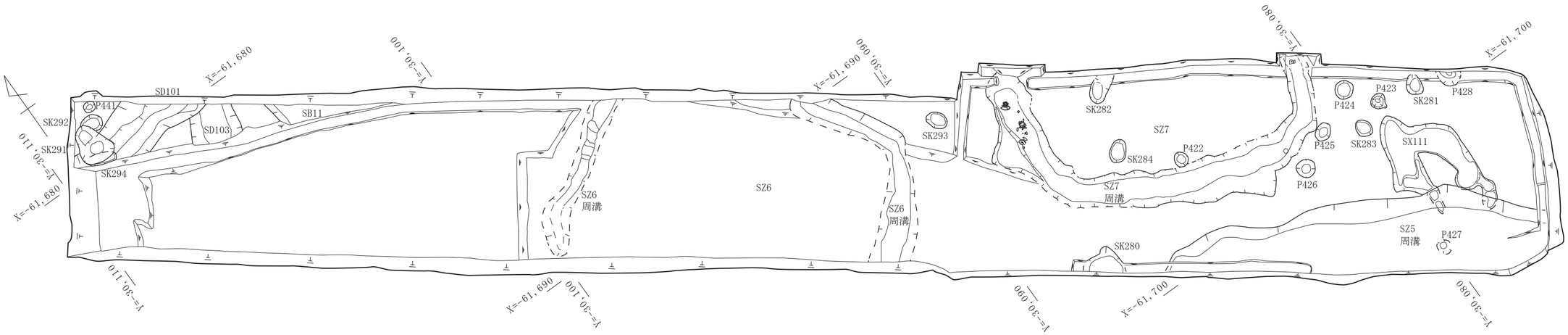
岩田東Ａ遺跡11・12区　下層遺構図

0　5m



岩田東A遺跡13西・13東区　遺構図

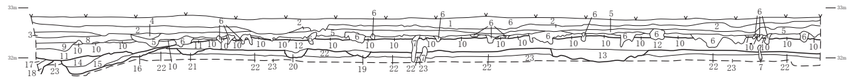




岩田東A遺跡14・15区　遺構図

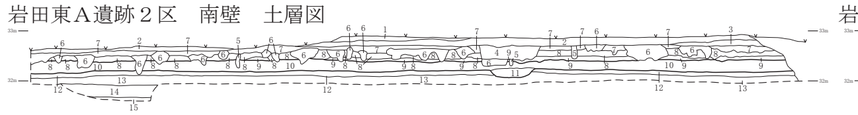
0　5m

岩田東Ａ遺跡1区　北壁　土層図



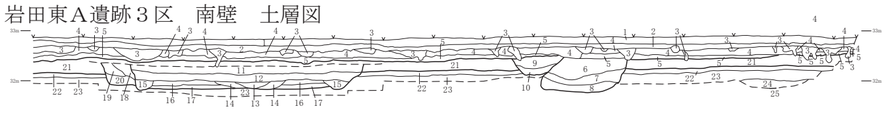
Ⅰa層　1　7.5Y7/6　橙色砂礫　しまりあり
Ⅰb層　2　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色砂質土　極めてしまる　3mm大以下の礫を多く含む
3　※土層註記無し
4　※土層註記無し
Ⅱa層　5　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色砂質土　極めてしまる　3mm大以下の礫を多く含む
生痕　6　2.5Y5/3　黄褐色砂質土　しまりあり　10mm大以下の礫を多く含む
生痕　7　2.5Y 4/4　オリーブ褐色砂質土　しまりあり　炭化物を少量含む
SD1　8　※土層註記無し
SD1　9　※土層註記無し
Ⅱb層　10　2.5Y 4/4　オリーブ褐色砂質土しまりなし　粘性なし　Ⅱa．Ⅲ層のブロックを多量に含む
SD2　11　10YR4/6　褐色シルト　しまりあり　粘性なし　細砂極少量含む
Ⅲ層　12　10YR 3/2　黒褐色シルト　しまりなし　粘性なし
SK22　13　7.5YR2/1　黒色シルト質土　しまりあり　粘性ややあり　明黄褐色粒子多量に含む
SD4　14　10YR6/3　にぶい黄褐色砂質土しまりあり　粘性なし混ざりけの多い土
SD4　15　10YR5/3　にぶい黄褐色砂質土　しまりあり　粘性なし　混ざりけの多い土
SD4　16　2.5YR3/3　暗オリーブ褐色砂質土しまりややあり　粘性なし
SD3　17　10YR2/2　黒褐色シルト　しまりややあり　粘性かすかにあり　細砂少量含む
SD3　18　10YR3/1　黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　細砂極少量含む
SX2　19　10YR2/2　黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　細砂少量含む
20　※土層註記無し
21　※土層註記無し
Ⅳ層　22　10YR4/2　灰黄褐色シルト　しまりなし　粘性なし　細砂少量含む10YR7/6明黄褐色粒子最大2mm大を少量含む
Ⅴ層　23　7.5YR3/1 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　細砂少量含む

岩田東Ａ遺跡２区　南壁　土層図



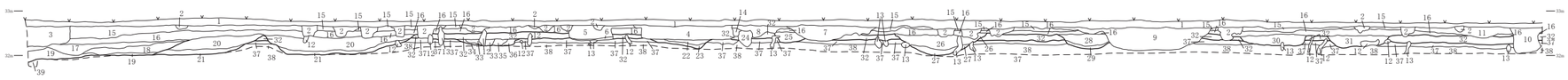
造成土　1　造成土
Ⅰa層　2　10YR5/2 灰黄褐色シルト　しまりややあり　粘性なし　細砂～5mm大の礫を多量に含む
Ⅰb層　3　10YR5/2 灰黄褐色シルト　しまりなし　粘性なし　細砂～5mm大以下の少礫多量に含む
現代の貯蔵　穴の類か？　4　10YR4/1 褐灰色シルト　しまりややあり　粘性なし　細砂～5mm以下の少礫多量に含む
生痕　5　モグラの穴or木の根跡
畝溝　6　2.5Y4/4 オリーブ褐色シルトしまりややあり　粘性かすかにあり　細砂～荒砂含む　斑状の2～5層ブロックで構成された土
畝溝（6層）の基となる土　7　10YR5/3 にぶい黄褐色シルトしまりなし　細砂～5mm大の小礫を多量に含む
Ⅱa層　8　10YR 3/2黒褐色シルト　しまりあり　粘性かすかにあり 細砂～荒砂多量に含む橙色　褐色粒子少量含む混ざりけの多い土
Ⅱb層　9　10YR3/1 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性かすかにあり 細砂～荒砂多量に含む橙色　褐色粒子少量含む混ざりけの多い土10
Ⅲ層(包含層)　10YR2/1　黒色シルト　しまりややあり　粘性かすかにあり　細砂～砂利を少量含む
SK334埋土　11　10YR2/1 黒色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　細砂～砂利を少量含む
Ⅳ層（地山）　12　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　細砂少量含む
Ⅴ層（地山）　13　10YR4/5 褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　細砂少量含む
Ⅴ層（地山）　14　10YR3/3 暗褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　細砂～5mm大の少礫多量に含む
Ⅵ層（地山）　15　10YR6/6 明黄褐色粘質土　しまりあり　粘性あり　細砂～2cm大の礫を多量含む

岩田東Ａ遺跡３区　南壁　土層図



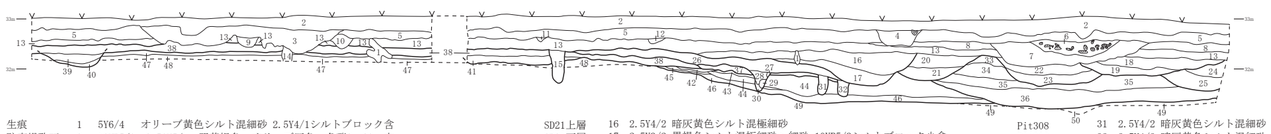
Ⅰa層　1　10YR5/2　灰黄褐色シルト
Ⅰb層　2　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト
畝溝　3　2.5Y4/4　オリーブ褐色シルト
Ⅱa層　4　10YR3/2　黒褐色シルト
Ⅱb層　5　10YR3/1　黒褐色シルト
SK51　6　7.5Y3/1　黒褐色シルト　しまりなし　粘性かすかにあり）
SK51　7　10YR2/2　黒褐色シルト　しまりややあり　粘性かすかにあり
SK51　8　10YR2/1　黒色シルト　しまりあり　粘性あり
SK52　9　10YR2/2　黒色シルト　しまりなし　粘性かすかにあり
SK52　10　10YR2/2　黒色シルト　しまりあり　粘性あり
SB2　11　10YR1.7/1黒色シルト　しまりややあり　粘性かすかにあり　細砂～5mm大の小礫少量含　炭化物　Ⅴ層粒子(10YR4/6)少量含む
SB2　12　10YR3/2　黒褐色シルト しまりなし　粘性かすかにあり　細砂～5mm大の小礫少量含む　炭化物　Ⅴ層粒子(10YR4/6)少量含む
SB2地床炉　13　10YR3/3　暗褐色シルト　しまりなし　粘性かすかに有り　細砂～荒砂少量含む　炭化物　粘土粒をやや多く含む
SB2地床炉　14　10YR3/1　黒褐色シルト　しまりなし　粘性かすかに有り　Ⅴ層粒子ブロック(10YR4/6)多量に含む　炭化物　焼土粒をやや多く含む
壁溝　15　10YR3/1　黒褐色シルト しまりなし　粘性かすかに有り　細砂少量含む　炭化物やや多く含む　10YR4/6(Ⅴ層)粒子少量含む
貼床　16　10YR3/2　黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　細砂～5mm大の小礫多量に含む　炭化物　Ⅴ層粒子(10YR4/6)含む
貼床　17　10YR5/2　灰黄褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　細砂～5mm大の小礫多量に含む　炭化物　Ⅴ層ブロック多量に含む
壁溝　18　10YR3/1　黒褐色シルト　しまりあり　粘性かすかに有り　炭化物　細砂　橙色粒子(Ⅵ層)少量含む
壁溝　19　10YR4/2　灰黄褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　細砂　炭化物　少量含む　Ⅴ層ブロック多量に含む
壁溝　20　10YR3/1　黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　細砂～5mm大の小礫少量含む　Ⅴ層上層(Ⅳ層に似る)ブロック多量に含む　混ざりけの多い土
Ⅲ層(包含層)　21　10YR2/2　黒色シルト
Ⅳ層(地山遷移層)　22　10YR2/3　黒褐色シルト
Ⅴ層(地山)　23　10YR4/6　褐色シルト
Ⅴ層(地山)　24　10YR3/3　暗褐色シルト
Ⅵ層(地山)　25　10YR6/6　明黄褐色粘質土

岩田東Ａ遺跡４・５区　北壁　土層図



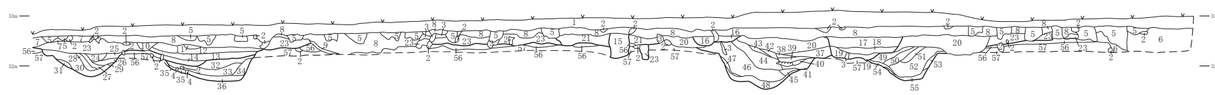
Ⅰa層　1　5Y5/3　灰オリーブ色シルト混じり細砂～粗砂
畝溝　2　7.5Y6/2 灰オリーブ色細砂　2.5Y4/2シルトブロック少含
撹乱　3　2.5Y6/4 黒褐色シルト混じり極細砂　2.5Y3/2シルトブロック多含(しまりなし)
撹乱　4　5Y6/4　オリーブ黄色細砂　2.5Y4/2シルトブロック多含
撹乱　5　5Y6/2　灰オリーブ色細砂　2.5Y3/2シルトブロック多含
撹乱　6　5Y6/2　灰オリーブ色細砂　シルト少含
撹乱　7　5Y6/3　オリーブ黄色細砂　2.5Y3/1シルト　10YR7/6シルトブロック多含　小レキ～5cm大の円レキ多含
撹乱　8　5Y6/4　オリーブ黄色細砂　2.5Y4/2シルトブロック　10YR7/6シルトブロック多含
撹乱　9　5Y6/4　オリーブ黄色細砂　2.5Y3/2シルト・2.5Y5/3シルトブロック多含
撹乱　10　5Y6/4　オリーブ黄色細砂　2.5Y3/2シルトブロック多含
撹乱　11　7.5Y4/2 灰オリーブ色シルト混じり極細砂～細砂　2.5Y3/2シルトブロック多含
生痕　12　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混じり極細砂～細砂　10YR5/3シルトブロック多含
生痕　13　2.5Y3/2 黒褐色シルト混じり極細砂 ～細砂　10YR7/6シルトブロック少含
撹乱　14　5Y6/4　オリーブ黄色細砂　2.5Y4/2シルト・10YR7/6シルトブロック多含 小レキ含
Ⅰb層　15　5Y5/4　オリーブ色シルト混じり細砂　小レキ少含
Ⅱa層　16　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混じり極細砂～細砂　小レキ含
SD16　17　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混じり極細砂～細砂
SD16　18　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混じり極細砂　10YR7/6シルトブロック少含
SD16　19　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト混じり極細砂　10YR7/6シルトブロック少含
SD17　20　2.5Y3/1 黒褐色シルト混じり極細砂～細砂
SD17　21　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混じり細砂　10YR7/6シルトブロック少含
SD15　22　2.5Y3/1 黒褐色シルト混じり極細砂～細砂
SD15　23　2.5Y3/2 黒褐色シルト混じり極細砂～細砂　10YR5/3シルトブロック少含
P201　24　2.5Y3/1 黒褐色シルト混じり極細砂
SK100　25　2.5Y3/2 黒褐色シルト混じり極細砂
SD14　26　2.5Y3/2 黒褐色シルト混じり細砂
SD14　27　5Y3/1　オリーブ黒色シルト混じり細砂　10YR5/3シルトブロック多含
SD13　28　2.5Y3/1 黒褐色シルト混じり極細砂　10YR7/6シルトブロック少含
SD13　29　2.5Y3/2 黒褐色シルト混じり極細砂　10YR7/6シルトブロック多含
SD12　30　2.5Y3/1 黒褐色シルト混じり極細砂～細砂
SD11　31　2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト混じり極細砂～細砂
Ⅲ層（包含層）　32　10YR3/1 黒褐色シルト混じり極細砂～細砂
SX19　33　2.5Y3/2 黒褐色シルト混じり極細砂～細砂　10YR5/3シルトブロック少含
SX19　34　2.5Y3/2 黒褐色シルト混じり極細砂　10YR5/3シルトブロック多含
SX19　35　10YR7/6 明黄褐色シルト混じり極細砂　2.5Y3/2シルトブロック多含
SX19　36　10YR7/6 明黄褐色シルト混じり極細砂　2.5Y3/2シルトブロック少含
Ⅳ層（地山）　37　10YR4/2 灰黄褐色シルト混じり極細砂
Ⅴ層（地山）　38　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト混じり極細砂　ややしまる
Ⅵ層（地山）　39　10YR7/6 明黄褐色極細砂混じりシルト　しまりあり

岩田東Ａ遺跡６区　北壁　土層図



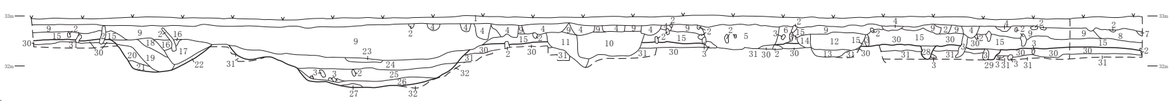
生痕　1　5Y6/4　オリーブ黄色シルト混細砂 2.5Y4/1シルトブロック含
駐車場砕石　2　10YR7/6～2.5GY5/1　明黄褐色～オリーブ灰色　角礫2～20cm大
撹乱　3　5Y6/4　オリーブ黄色シルト混細砂　小礫含
撹乱　4　5Y6/4　オリーブ黄色シルト混細砂　小礫含
Ⅰa層　5　5YR5/2　灰褐色シルト混細砂　小礫わずかに含
SX26上層　6　5Y5/3　灰オリーブ色シルト混細砂　20～30cm大の円礫多く含
SX26下層　7　5Y4/3　暗オリーブ黄褐色シルト混細砂　小礫わずかに含む
Ⅰb層　8　2.5Y4/4　オリーブ褐色シルト混極細砂　小礫わずかに含む
畝溝　9　5Y6/3　オリーブ黄色シルト混細砂 2.5Y3/1シルトブロック含
畝溝　10　5Y6/3　オリーブ黄色シルト混細砂 2.5Y3/1シルトブロック含
畝溝　11　5Y6/3　オリーブ黄色シルト混細砂 2.5Y3/1シルトブロック含
畝溝　12　5Y6/3　オリーブ黄色シルト混細砂 2.5Y3/1シルトブロック含
Ⅱa層　13　2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト混極細砂～細砂
Pit306　14　2.5Y3/1 黒褐色シルト混極細砂～細砂
Pit291　15　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混細砂　小礫含
SD21上層　16　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混極細砂
SD21下層　17　2.5Y3/2 黒褐色シルト混極細砂～細砂 10YR5/3シルトブロック少含
SD22上層　18　2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト混極細砂～細砂　小礫わずかに含む
SD22下層　19　2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト混極細砂～細砂　小礫わずかに含む
SD23上層　20　2.5Y3/2 黒褐色シルト混極細砂～細砂
SD23下層　21　2.5Y3/2 黒褐色シルト混細砂
SD24上層　22　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混極細砂　小礫わずかに含む
SD24下層　23　2.5Y4/1 黄灰色シルト混極細砂　小礫わずかに含む
SD30上層　24　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混極細砂～細砂
SD30下層　25　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混極細砂
SX36　26　5Y5/2　灰オリーブ色シルト混極細砂～細砂
Pit307　27　5Y4/2　灰オリーブ色シルト混細砂　小礫含
Pit307　28　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混極細砂～細砂
Pit307　29　2.5Y3/2 黒褐色シルト混極細砂　5Y4/2シルトブロック少含
Pit307　30　2.5Y3/2 黒褐色シルト混極細砂
Pit308　31　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混細砂 小礫少含
Pit309　32　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混細砂 小礫少含
SD28上層　33　2.5Y3/2 黒褐色シルト混極細砂　小礫含
SD28上層　34　2.5Y3/2 黒褐色シルト混極細砂　小礫少含
SD28中層　35　2.5Y3/2 黒褐色シルト混極細砂
SD28下層　36　2.5Y3/2 黒褐色シルト混極細砂 10YR7/6シルトブロック含　小礫少量含
SX37　37　2.5Y3/2 黒褐色シルト固くしまる
Ⅲ層（包含層）　38　2.5Y3/2 黒褐色シルト混極細砂～細砂
SD27上層　39　2.5Y3/1 黒褐色シルト混極細砂
SD27下層　40　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混極細砂 10YR5/3シルトブロック少含
SD29　41　2.5Y4/1 黄灰色シルト混極細砂～細砂
SX35上層　42　2.5Y3/1 黒褐色シルト混細砂
SX35上層　43　2.5Y3/1 黒褐色シルト混細砂　10YR5/3シルトブロック少含
SX35上層　44　10YR3/1 黒褐色シルト混極細砂
SX35上層　45　2.5Y3/1 黒褐色シルト混細砂　10YR5/3シルトブロック少含
SX35中層　46　10YR3/1 黒褐色シルト混極細砂　10YR7/6シルトブロック含
Ⅳ層（地山）　47　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
Ⅴ層（地山）　48　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト混極細砂
Ⅵ層（地山）　49　10YR7/6 明黄褐色シルト混極細砂
Ⅶ層（地山礫層）　50　5Y4/3　暗オリーブ色　小礫～10cm大円礫　粗砂多く含

岩田東Ａ遺跡８区　北壁　土層図



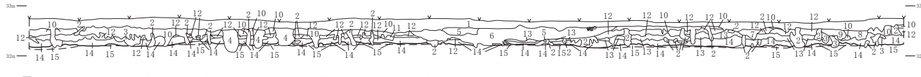
Ⅰa層　1　10YR5/2 灰黄褐色細砂　しまり非常に弱い　粘性弱い
生痕　2　10YR4/3 にぶい黄褐色細砂しまり非常に弱い　粘性非常に弱い
生痕　3　10YR3/3 暗褐色細砂　しまり非常に弱い　粘性非常に弱い
生痕　4　10YR5/8 黄褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
近・現代耕作痕　5　10YR5/3 にぶい黄褐色粗砂混 細砂しまり非常に弱い　粘性弱い
撹乱　6　10YR4/3 にぶい黄褐色シルトしまり弱い　粘性弱い
撹乱　7　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり弱い　粘性ややあり
Ⅱa層　8　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性ややあり
遺構か　9　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり弱い　粘性ややあり（硬化した土層平面では確認できず）
SD41埋土　10　注記なし
SD44埋土　11　10YR4/3 にぶい黄褐色シルトしまり強い　粘性ややあり
SD42埋土　12　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
SD42埋土　13　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い　粘性ややあり
SD42埋土　14　10YR3/1 黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
SK193埋土　15　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性ややあり
SK174埋土　16　10YR4/2 灰黄褐色細砂　しまりやや弱い　粘性やや弱い
SK190埋土　17　10YR3/1 黒褐色シルト　しまり弱い　粘性ややあり
SK190埋土　18　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり弱い　粘性ややあり
SK190埋土　19　10YR3/1 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
Ⅱb層　20　10YR3/1 黒褐色シルト　しまり弱い　粘性ややあり
SK182埋土　21　10YR3/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
P335埋土　22　10YR3/1 黒褐色シルト　しまり弱い　粘性ややあり
Ⅲ層　23　10YR2/1 黒色シルト　しまり弱い　粘性ややあり
SZ4周溝埋土　24　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性ややあり　黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ4周溝埋土　25　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり弱い　粘性ややあり
SZ4周溝埋土　26　10YR3/1 黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックをごくまれに含む
SZ4周溝埋土　27　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや強い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックをごくまれに含む
SZ4周溝埋土　28　10YR3/1 黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ4周溝埋土　29　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性強い
SZ4周溝埋土　30　10YR3/3 暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性強い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ4周溝埋土　31　10YR3/4 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや強い　φ1～3cm前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ2周溝埋土　32　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性弱い
SZ2周溝埋土　33　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い
SZ2周溝埋土　34　10YR3/3 暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1～3cm前後の黄褐色シルトブロックを多く含む
SZ2周溝埋土　35　10YR4/4 褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い
SZ2周溝埋土　36　10YR5/6 黄褐色シルト　しまり強い　粘性やや強い
SZ2周溝埋土　37　10YR3/1 黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い（SZ2・SZ3に共通する土か？周溝が共有していた可能性もあるか）
SZ2周溝埋土　38　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
SZ2周溝埋土　39　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い
SZ2周溝埋土　40　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い
SZ2周溝埋土　41　10YR3/1 黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い
SZ2周溝埋土　42　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い　φ1～3cmの黄褐色シルトブロックをごくまれに含む
SZ2周溝埋土　43　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ2周溝埋土　44　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1～3cmの黄褐色シルトブロックを多く含む
SZ2周溝埋土　45　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1～3cmの黄褐色シルトブロックをごくまれに含む
SZ2周溝埋土　46　10YR3/3 暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1～3cmの黄褐色シルトブロックを多く含む
SZ2周溝埋土　47　10YR3/4 暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1～3cmの黄褐色シルトブロックを多く含む
SZ2周溝埋土　48　10YR5/6 黄褐色シルト　しまり強い　粘性やや強い
SZ3周溝埋土　49　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い　φ1～3cmの黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ3周溝埋土　50　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い　φ1～3cmの黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ3周溝埋土　51　10YR3/3 暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ3周溝埋土　52　10YR3/3 暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1～3cmの黄褐色シルトブロックを多く含む
SZ3周溝埋土　53　10YR3/4 暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ3周溝埋土　54　10YR3/4 暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1～3cmの黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ3周溝埋土　55　10YR5/6 黄褐色シルト　しまり強い　粘性やや強い
IV層（地山）　56　10YR3/4 暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い
V層（地山）　57　10YR4/3 にぶい黄褐色粘土混じりシルト　しまりやや弱い　粘性やや強い

岩田東Ａ遺跡７区　北壁　土層図



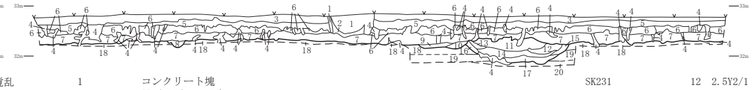
Ⅰa層　1　10YR5/2 灰黄褐色細砂　しまり非常に弱い　粘性弱い
生痕　2　10YR4/3 にぶい黄褐色細砂　しまり非常に弱い　粘性非常に弱い
生痕　3　10YR3/3 暗褐色細砂　しまり非常に弱い　粘性非常に弱い
近・現代耕作痕　4　10YR5/3 にぶい黄褐色粗砂混じり細砂　しまり非常に弱い　粘性弱い
撹乱　5　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックをごくまれに含む
撹乱　6　10YR3/4 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性弱いにぶい黄橙色シルトブロックをまれに含む
撹乱　7　10YR3/4 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い
撹乱　8　10YR4/2 灰黄褐色シルトしまりやや強い　粘性ややあり　黄褐色シルトブロックをまれに含む
Ⅱa層　9　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い
SK153埋土　10　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む
SX43埋土　11　10YR3/1 黒褐色シルト　しまりやや強い　粘性やや弱い　にぶい黄橙色シルトブロックをごくまれに含む
SK151埋土　12　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや弱い　φ1～3cm前後の黄褐色シルトブロックを多く含む
SK151埋土　13　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや強い
遺構か　14　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックをごくまれに含む（遺物等重機掘削により確認できず）
Ⅲ層（包含層）　15　10YR2/1 黒色シルト　しまり弱い　粘性ややあり
SZ3周溝埋土　16　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い
SZ3周溝埋土　17　10YR3/1 黒褐色シルト　しまり弱　粘性ややあり　にぶい黄褐色シルトブロックをごくまれに含む
SZ3周溝埋土　18　10YR3/3 暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックごくまれに含む
SZ3周溝埋土　19　10YR3/4 暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　φ1～3cm前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む
SZ3周溝埋土　20　10YR3/4 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや強い　φ1～3cm前後の黄褐色シルトブロックを多く含む
SZ3周溝埋土　21　10YR3/3 暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　φ1～5cm前後の黄褐色シルトブロックを多く含む
SZ3周溝埋土　22　10YR3/1 黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い　他色の色をほとんど含まない
SK137埋土　23　10YR3/4 暗褐色シルト　しまり弱い　粘性弱
SZ5周溝埋土　24　10YR3/1 黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　にぶい黄橙色シルトブロックをごくまれに含む
SZ5周溝埋土　25　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや強い
SZ5周溝埋土　26　10YR3/4 暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い　φ1cm前後の黄褐色シルトブロックをごくまれに含む
SZ5周溝埋土　27　10YR4/3 にぶい黄褐色粘土混じりシルト　しまりやや強い　粘性やや弱い　φ1～3cm前後の黄褐色シルトブロックをまれに含む
遺構か　28　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりやや強い　粘性やや弱い　φ3cm前後の黄褐色シルトブロックをごくまれに含む（断割によりプラン消滅）
遺構か　29　10YR3/1 黒褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや弱い（断割によりプラン消滅）
IV層（地山）　30　10YR3/4 暗褐色シルト　しまりやや弱い　粘性やや強い
V層（地山）　31　10YR4/3 にぶい黄褐色粘土混じりシルト　しまりやや弱い　粘性やや強い
VI層（地山）　32　10YR5/8 黄褐色粘土　しまり強い　粘性強い

岩田東Ａ遺跡９区　南壁　土層図



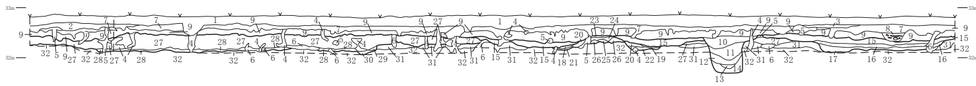
Ⅰa層	1	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混細砂　しまり弱　粘性弱　0.2～0.5mm礫　20%含　黄褐色（Ⅰb）ブロック　0.2～1cm30%含
生痕	2		Ⅰb層主体　黒ボクブロック混　モグラ
生痕	3		Ⅰb層　黒ボクブロック主体　まじり
耕作痕	4		表土下からの掘り込み　表土
撹乱	5		黒ボク主体　Ⅱ層ブロック　Ⅰ層ブロック混
撹乱	6		Ⅰ層主体　砕石2～5cm混
撹乱	7		Ⅰ層主体　砕石2～5cm混
撹乱	8		Ⅰ層主体　砕石2～5cm混
撹乱	9		黒ボク主体　Ⅱ層ブロック　Ⅰ層ブロック混
Ⅰb層	10	2.5Y5/4	黄褐色シルト混細砂　しまり弱　粘性弱　黒色（Ⅲ層）土ブロック1～3cm10%　暗灰黄色（Ⅰa層）土ブロック1～5cm20%含モグラ穴
			撹乱多　明黄褐色ブロック1～　2cm10%含
撹乱	11		黒ボク主体　Ⅱ層ブロック　Ⅰ層ブロック混
Ⅱa層	12	2.5Y3/2	黒褐色細砂混シルト　しまり弱　粘性やや弱　黄褐色（Ⅰb）ブロック　1～5cm20%含　炭化物0.2～0.5cm5%含
Ⅲ層	13	10YR2/1	黒色シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　暗褐色細砂ブロック（Ⅱ層土）1～2cm5%含　黄灰褐色細砂ブロック（Ⅰb層土）1～3cm5%含
Ⅲ層	14	10YR2/1	黒色シルト　しまり弱　粘性やや弱　黄褐色（Ⅰb）ブロック0.5～5cm30%含　黒褐色（Ⅱ層）ブロック0.5～2cm15%含
Ⅳ層(地山)	15	10YR4/1	褐灰色粘質シルト　しまりやや弱　粘性やや強　黄褐色（植物痕）ブロック0.5～3cm10%含　Ⅲ層よりやや灰白色

岩田東Ａ遺跡10区　南壁　土層図



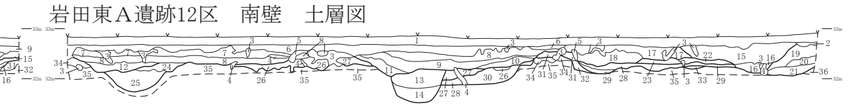
撹乱	1		コンクリート塊
撹乱	2		黒ボクブロック含
Ⅰa層	3	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混細砂　しまり弱　粘性弱　0.2～0.5mm礫　20%含　黄褐色（Ⅰb）ブロック　0.2～1cm30%含
生痕	4	2.5Y5/4	黄褐色シルト混　しまり弱　黒ボクブロック含　モグラ
Ⅰb層	5	2.5Y5/4	黄褐色シルト混細砂　しまり弱　粘性弱　黒色（Ⅵ層）土ブロック1～3cm10%　暗灰黄色（Ⅰa層）土ブロック1～5cm20%含モグラ穴　撹乱多　明黄褐色ブロック1～2cm10%含
Ⅱa層	6	2.5Y3/2	黒褐色細砂混シルト　しまり弱　粘性やや弱　黄褐色（Ⅰb）ブロック　1～5cm20%含
			0.2～0.5cm炭化物5%含
Ⅲ層	7	10YR2/1	黒色シルト　しまり弱　粘性やや弱　黄褐色（Ⅰb）ブロック0.5～5cm30%含　黒褐色（Ⅱa層）ブロック0.5～2cm15%含
P365	8	10YR2/1	黒色シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　暗褐色シルトブロック0.5～1cm5%含
SK232	9	10YR2/1	黒色シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　暗褐色シルトブロック1～3cm10%含
SK232	10	2.5Y3/3	暗オリーブ灰色シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黒色シルトブロック1～7cm20%含　黄褐色粘土ブロック0.5～1cm10%含
SK231	11	10YR3/3	暗褐色粘質シルト　しまりやや弱　粘性やや強　黄褐色粘土細砂ブロック0.5～10cm20%含　黒色シルトブロック1～10cm20%含
SK231	12	2.5Y2/1	黒色シルト　しまりやや弱　粘性やや強　黄褐色細砂ブロック0.5～1cm5%含
SK231	13		しまりやや強　黄褐色細砂ブロック5%含
SK231	14	2.5Y3/2	黒褐色粘質シルト　黄褐色粘質細砂ブロック0.5～3cm30%含　黒色シルトブロック1～5cm15%含
SK231	15	2.5Y3/2	黒褐色シルト　黒色シルトブロック1～3cm15%含　黄褐色細砂5%含
SK231	16	10YR2/1	黒色シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色細砂ブロック0.5～3cm10%含
SK231	17	10YR2/1	黒色粘質シルト　しまりやや強　粘性強　黄褐色ブロック1～5cm15%含
Ⅳ層(地山)	18	10YR4/1	褐灰色粘土質シルト　しまりやや弱　粘性やや強　黄褐色ブロック（植物痕）0.5～3cm10%含（Ⅲ層よりやや灰白色）
Ⅴ層(地山)	19	10YR4/2	灰黄褐色粘土質シルトしまりやや強　粘性強　黒褐色ブロック0.5～2cm（Ⅳ層より灰白色）
Ⅵ層(地山)	20	2.5Y5/3	黄褐色粘土質シルト　しまり強　粘性やや強　灰色粘土質シルトブロック0.5～1cm5%含 明黄灰色粘土ブロック1～3cm10%含

岩田東Ａ遺跡11区　南壁　土層図



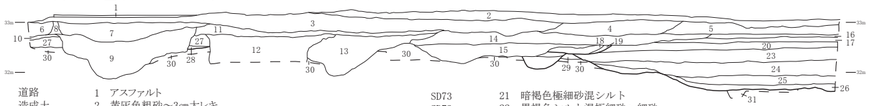
Ⅰa層	1	2.5Y4/2	暗灰黄色細砂　しまり弱　粘性弱　貝殻片　白色粗砂を20%含
撹乱	2	2.5Y4/1	黄灰色粗砂混細砂　しまり弱　粘性弱　灰色粘土質シルトブロック0.5～1cm30%　1～5cm礫10%含　ビニール　空き缶等含
生痕	3	2.5Y4/1	黄灰色シルト　しまり弱　粘性弱　黒色シルトブロック0.5～3cm10%含
生痕	4	10YR2/1	黒色シルト　しまりやや強　粘性やや強　黄灰細砂ブロック0.5～1cm30%含（Ⅰb）
生痕	5	2.5Y6/6	明黄褐色細砂　しまりやや弱　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルト0.5～1cm20%含 黒シルト0.5～1cm20%含
生痕	6	10YR6/6	明黄褐色粘質シルト　しまり弱　粘性弱　黒色シルトブロック0.5～2cm20%含（Ⅰa）0.5～3cm 黄褐色細砂ブロック20%含（Ⅰb）　1～5cm
Ⅰb層	7	2.5Y5/4	黄褐色細砂　しまりやや弱　粘性弱　黄灰細砂ブロック20%含（Ⅰa）0.5～3cm 黄褐色細砂ブロック20%含（Ⅰb）　1～5cm
SD60	8	10YR2/1	黒色シルト　しまり弱　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルト0.1～0.3cm5%含 灰褐色粘土質シルト0.5～1cm5%含
Ⅱa層	9	2.5Y5/2	暗灰黄色細砂　しまりやや弱　粘性弱　貝殻片　白色粗砂10%含
SK249	10	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～1cm30%含
SK249	11	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～1cm15%含 褐灰色シルトブロック0.2～0.5cm10%含
SK249	12	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや弱　粘性やや強　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.8cm30%含
SK249	13	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり強　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.8cm10%含
SK249	14	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～2cm30%含 褐灰色シルトブロック0.5～2cm10%含
Ⅱb層	15	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混細砂　しまりやや弱　粘性弱　明黄褐色粘土質ブロック0.2～0.5cm20%含黒色シルトブロック0.5～3cm10%含
SD59	16	10YR2/1	黒色シルト　しまり弱　粘性やや強　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～3cm30%含
SD61	17	10YR4/1	褐灰色シルト　しまり弱　粘性やや強　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～3cm30%含
SD57上	18	5Y4/1	灰色シルト混細砂　しまり弱　粘性やや強　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～3cm40%含
SD56上	19	5Y3/1	オリーブ黒色シルト混細砂　しまりやや強　粘性やや強　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.5cm5%含
SX67	20	2.5Y3/2	黒褐色シルト　しまりやや弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～0.8cm30%含黒色シルト0.5～1cm20%含
SD57下	21	2.5Y4/1	黄灰色シルト混細砂　しまりやや強　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～2cm20%含暗灰褐色シルトブロック0.5～1cm20%含
SD56下	22	5Y3/1	オリーブ黒色シルト混細砂　しまりやや強　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～2cm20%含黄灰細砂ブロック0.5～1cm20%含（Ⅰb）
SX67	23	2.5Y4/2	暗灰黄色細砂　しまり強　粘性弱　赤褐色粘質シルトブロック0.2～0.5cm 10%含　還元して青みがかったⅡbブロックを20%含→　とても堅い
SX67	24	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混細砂　しまり強　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.8cm35%含白色粒子0.1～0.3cm10%含
SX67	25	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混細砂　しまりやや強　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.5cm10%含
SX67	26	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性弱　暗灰褐色シルトブロック0.5～0.8cm20%含
遺物包含層	27	10YR2/1	黒色シルト　しまりやや弱　粘性弱　黄灰細砂ブロック1～5cm15%含
SB10貼床	28	2.5Y4/3	オリーブ褐色シルト　しまりやや強　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～1cm10%含 にぶい黄褐色シルトブロック0.2～4cm20%含炭化物0.1～0.5cmわずかに含
SB10カベ崩落	29	2.5Y3/1	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～1cm20%含
SB10周溝	30	2.5Y3/1	黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～1cm5%含
Ⅳ層(地山)	31	10YR4/1	褐灰色粘質シルト　しまりやや弱　粘性やや強　明黄褐色粘土質シルト0.5～1cm10%含
Ⅴ層(地山)	32	10YR4/2	灰黄褐色粘質シルト　しまりやや強　粘性強　黒シルト0.5～5cm10%含

岩田東Ａ遺跡12区　南壁　土層図



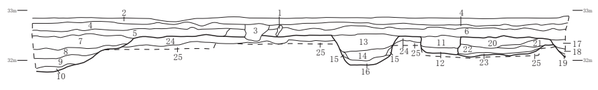
Ⅰa層	1	2.5Y4/1	黄灰色細砂　しまり弱　粘性弱　ビニール含
撹乱	2	2.5Y3/1	黒褐色シルト混細砂　しまり強　粘性弱　　明黄褐色細砂を層状に含
生痕	3	10YR3/2	黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　黄灰細砂ブロック（Ⅰb）0.5～3cm40%含
生痕	4	10YR3/2	黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山Ⅵ）0.5～3cm40%含
生痕	5	2.5Y4/1	黄灰色細砂　灰黄褐色シルトブロック0.2～0.5cm3%含
Ⅰb層	6	2.5Y6/3	にぶい黄色粗砂混細砂　しまり弱　粘性弱　黒色シルトブロック1～3cm10%含
Ⅱa層	7	2.5Y5/2	暗灰黄色細砂　しまりやや弱　粘性やや弱　黄灰細砂ブロック0.2～0.5cm10%含
Ⅱb層	8	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混細砂　しまりやや弱　粘性弱　　黒色シルトブロック0.5～1cm10%含
中央埋土	9		明黄褐色粘土質シルト　しまりやや強　粘性やや強　黒シルトブロック1～3cm30%含
中央畔崩落か埋土	10	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性やや強　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.3cm5%含
中央埋土	11	2.5Y4/2	暗灰黄色細砂混シルト　しまりやや強　粘性弱　黒シルトブロック1～2cm10%含
SD64	12	2.5Y4/2	暗灰黄色シルト混細砂　しまり弱　粘性弱　黒シルトブロック1～3cm20%含　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～1cm10%含
SK254	13	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりやや弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.5cm10%含
SK254	14	10YR3/2	黒褐色シルト　しまり弱　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.5cm30%含
SD62	15	2.5Y4/1	黄灰色細砂　しまりやや強　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山Ⅵ）0.2～0.5cm15%含 炭化物0.2～0.5cm5%含
SD62	16	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱　粘性やや強　灰黄褐色シルトブロック（地山Ⅴ）0.2～1cm30%含
SD63	17	2.5Y5/2	暗灰黄色　しまり弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山Ⅵ）0.5～3cm20%層状に含　黒色シルトブロック0.5～2cm10%含
SD63	18	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　黄灰シルトブロック（地山Ⅴ）0.5～0.8cm10%含　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山Ⅵ）0.2～0.5cm10%含～北壁25層対応
SX75	19	2.5Y3/1	黒褐色シルト混細砂　しまり強　粘性弱　黄灰細砂ブロック（Ⅰb）0.2～0.5cm20%含　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山Ⅵ）0.2～0.5cm5%含
SX75	20	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山Ⅵ）0.2～0.5cm20%含①より暗い
SX75	21	2.5Y3/2	黒褐色シルト　しまり強　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山Ⅵ）0.5～3cm30%含　硬化したブロックを上面に層状に含
SX76	22	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄灰シルトブロック（地山Ⅴ）0.2～0.5cm5%含　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山Ⅵ）0.2～0.5cm5%含
SX76	23	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　黄灰シルトブロック（地山Ⅴ）0.2～0.5cm5%含　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山Ⅵ）0.2～0.5cm10%含
SD57	24	10YR6/4	にぶい黄橙色　しまりやや強　粘性やや弱　黒色シルト粒子0.2～0.5cm20%含 灰黄褐色シルトブロック（地山Ⅴ）0.5～0.8cm20%含
SD57	25	10YR2/1	黒色シルト　しまり弱　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山Ⅵ）0.2～0.8cm30%含
SX72上層	26	2.5Y2/1	黒色シルト　しまり強　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.5cm20%含（地山Ⅵ）　黒色シルトブロック0.5～1cm5%含（地山Ⅲ）灰黄褐色シルトブロック0.5～1cm10%含（地山Ⅴ）
SX72下層	27	2.5Y2/1	黒色シルト　しまり強　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～1.5cm10%含（地山Ⅵ）　黒色シルトブロック1～2cm5%含（地山Ⅲ）灰黄褐色粘土質シルトブロック（Ⅴ層）0.5～1.5cm10%含
SD66	28	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱　粘性やや強　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山Ⅵ）0.2～1.5cm30%含
SD66	29	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり強　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山Ⅵ）0.2～3cm40%含
SD77	30	5Y3/2	オリーブ黒シルト　しまり強　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～3cm10%含　黒色シルトブロック1～4cm10%含 灰黄褐色粘土質シルトブロック0.5～3cm10%含
SD77	31	10YR3/2	黒褐色シルト　しまり強　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（地山Ⅵ）0.2～0.5cm10%含
SD77	32	10YR2/1	黒色シルト混細砂　しまり強　粘性強　黄灰シルトブロック（Ⅴ層）1～3cm20%含　明黄褐色ブロック（地山Ⅵ）0.2～3cm20%含
SX73	33	10YR4/2	灰黄褐色細砂混シルト　しまりやや弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック（Ⅵ層）0.5～3cm20%含　黒色シルトブロック（Ⅲ層）1～3cm10%含
Ⅳ層(地山)	34	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黒シルトブロック（Ⅲ層）1～3cm5%含（遷移層）
Ⅴ層(地山)	35	10YR5/2	灰黄褐色シルト　しまりやや強　粘性やや強　黒シルトブロック（Ⅲ層）1～3cm5%含
Ⅵ層(地山)	36	10YR7/6	明黄褐色粘土質シルト　しまり強　粘性強　黒シルトブロック（Ⅲ層）1～3cm5%含　1～3cm礫5%含

岩田東Ａ遺跡13区　東　南壁　土層図



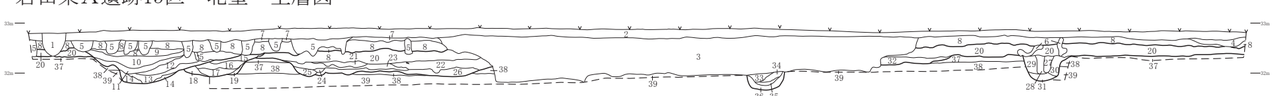
道路	1		アスファルト
造成土	2		黄灰色粗砂～3cm大レキ
道路下造成土	3		灰黄色レキ
ｶｸﾗﾝ	4		暗褐色シルト混細砂　明黄褐色レキ多含
現代整地	5		暗褐色シルト混細砂　固くしまる
撹乱	6		暗灰色シルト混粗砂～小レキ
造成土	7		明黄褐色粗砂～レキ
撹乱	8		暗灰色シルト混細砂
撹乱	9		黒色シルト混極細砂　　黄褐色シルトブロック多含
現代整地層	10		黒褐色極細砂混シルト 黄褐色シルトブロック少含
撹乱	11		黒色シルト混極細砂　　黄褐色シルトブロック少含
撹乱	12		黒褐色細砂混シルト　明黄褐色シルトブロック多含
撹乱	13		黒褐色シルト混細砂　礫含
撹乱	14		黄褐色細砂混シルト　明黄褐色シルトブロック含　固く締まる
撹乱	15		暗褐色細砂混シルト　明黄褐色シルトブロック含　固く締まる
現代整地	16		暗褐色シルト混細砂　　黄灰色シルトブロック含
Ⅰa層	17		暗灰黄色シルト混細砂
SD71	18		灰褐色シルト混細砂粗砂微量含　黒色シルト混極細砂ブロック含
SD71	19		灰褐色シルト混細砂　黒色シルトブロック微量含
Ⅱa層	20		暗茶褐色シルト混極細砂～細砂(旧耕土)
SD73	21		暗褐色極細砂混シルト
SD73	22		黒褐色シルト混極細砂～細砂
SD74	23		黒褐色シルト混極細砂～細砂
SD74	24		黒褐色シルト混極細砂
SD74	25		黒色シルト混極細砂
SD74	26		黒褐色シルト　明黄褐色シルトブロック含
Ⅲ層	27		黒色シルト混極細砂～細砂
SX92	28		黒色シルト混極細砂～細砂
Ⅳ層(地山)	29		暗褐色シルト混極細砂
Ⅴ層(地山)	30		にぶい黄褐色極細砂混シルト
Ⅵ層(地山)	31		明黄褐色シルト

岩田東Ａ遺跡13区　西　南壁　土層図



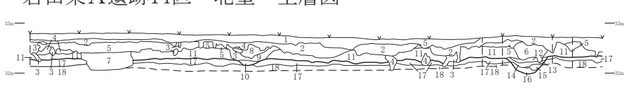
生痕	1		暗灰黄色シルト混細砂　黒褐色シルトブロック少含
Ⅰa層	2		灰黄色シルト混細砂　小礫少含
畝溝	3		灰黄色シルト混細砂　黒褐色シルトブロック含
Ⅰb層	4		暗灰黄色シルト混細砂（耕土）
Ⅱa層	5		暗灰褐色シルト混極細砂～細砂
Ⅱa層	6		暗茶褐色シルト混細砂
SD74	7		黒褐色シルト混極細砂～細砂
SD74	8		黒褐色シルト混極細砂
SD74	9		黒色シルト混細砂
SD74	10		黒褐色シルト　明黄褐色シルトブロック含
SK263上	11		暗褐色シルト混細砂　褐色シルトブロック含
SK263下	12		暗褐色細砂混シルト褐色シルトブロック少含
SD76	13		黒褐色シルト混細砂
SD76	14		黒褐色細砂混シルト
SD76	15		暗褐色細砂混シルト
SD76	16		暗褐色細砂混シルト　明黄褐色シルトブロック含
SD75	17		黒褐色細砂混シルト
SD75	18		黒褐色極細砂混シルト
SD75	19		暗褐色シルトに黒褐色シルトブロック少含
SX101	20		黒色シルト混極細砂（Ⅲ層に近い）
SX101	21		黒色シルト混細砂　黄褐色シルトブロック少含
SX101	22		黒褐色シルト混極細砂　黄褐色シルトブロック含
SX101	23		黒褐色シルト混極細砂　黄褐色シルトブロック多含
Ⅲ層	24		黒色シルト混極細砂～細砂
Ⅳ層(地山)	25		暗褐色シルト混極細砂

岩田東Ａ遺跡15区　北壁　土層図

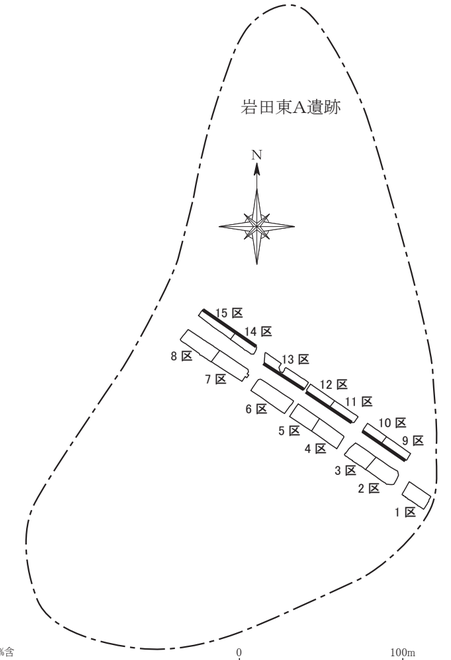


撹乱	1	10YR4/1	褐灰色シルト混細砂　しまり弱　粘性弱　黒色シルトブロック0.5～3cm20%
Ⅰa層	2	2.5Y4/2	暗灰黄色細砂　しまりやや弱　粘性弱　植物根　貝片を多く含む
撹乱	3		
撹乱	4	5Y5/2	灰オリーブ色細砂　しまりやや弱　粘性弱　黒色シルトブロック3～5cm30%
撹乱	5	5Y5/2	灰オリーブ色粗砂混細砂　しまり弱　粘性弱　黒色シルトブロック1～5cm40%　ブロック層
生痕	6	5Y5/2	灰オリーブ色細砂　しまり弱　粘性弱　黒色シルトブロック0.5～3cm20%
Ⅰb層	7	2.5Y6/4	にぶい黄色細砂　黒色シルトブロック0.5～3cm10%
Ⅱa層	8	10YR4/2	灰黄褐色シルト混細砂　しまりやや弱　粘性弱　黒色シルトブロック0.5～1cm10%
SD101	9	5Y5/1	灰色シルト混細砂　しまりやや強　粘性弱　黒色シルトブロック1～5cm10%
SD101	10	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性弱　灰オリーブ細砂ブロック1～3cm10%含　灰黄褐色シルトブロック0.2～0.5cm20%含
SD101	11	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　灰オリーブ細砂ブロック1～3cm10%含　灰黄褐色シルトブロック0.2～0.5cm20%含
SD101	12	2.5Y3/1	黒褐色シルト　しまり強　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.5cm10%含　灰黄褐色シルトブロック0.2～0.5cm20%含
SD101	13	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり強　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.5cm30%含　灰黄褐色シルトブロック0.2～0.5cm10%含
SD101	14	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.5cm10%含　灰黄褐色シルトブロック0.2～0.5cm10%含
SD103	15	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　灰黄褐色シルトブロック0.2～0.5cm10%含
SD103	16	2.5Y4/2	暗灰黄色シルトしまりやや強　粘性やや弱　黒色シルトブロック1～5cm30%
SD103	17	2.5Y4/2	暗灰黄色シルトしまりやや強　粘性やや弱　黒色シルトブロック1～5cm10%
SD103	18	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性やや強　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～3cm30%含
SD103	19	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～1cm5%含
Ⅲ層	20	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～1cm10%　灰黄褐色シルトﾌﾞﾛｯｸ0.5～0.8cm10%
SB11	21	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや弱　粘性弱　灰黄褐色シルトブロック0.2～0.5cm40%含
SB11	22	2.5Y3/2	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性弱　灰黄褐色シルトブロック0.2～0.5cm30%　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.5cm5%含 炭化物0.2～0.5cm3%含
SB11	23	2.5Y3/2	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性弱　灰黄褐色シルトブロック0.2～0.8cm30%　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～1cm10%含
SB11	24	2.5Y3/2	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性弱　灰黄褐色シルトブロック0.5～0.8cm10%含
SB11	25	10YR3/1	黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　灰黄褐色シルトブロック0.2～1cm20%　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.5cm10%含
SB11	26	10YR5/1	褐灰色シルト　しまり強　粘性弱　黒色シルトブロック（やや硬化）0.5～5cm30%　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～1cm10%含
SZ6周溝	27	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性やや強　まじりなし
SZ6周溝	28	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性弱　灰黄褐色シルトブロック0.5～1cm20%含 明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～1cm10%含
SZ6周溝	29	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性弱　灰黄褐色シルトブロック0.5～3cm30%含 明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～3cm10%含
SZ6周溝	30	10YR3/2	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性弱　灰黄褐色シルトブロック1～5cm10%含 明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～1cm10%含
SZ6周溝	31	10YR3/2	黒褐色シルト　しまり強　粘性弱　灰黄褐色シルトブロック0.5～3cm35%含 明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～3cm10%含
遺構？	32	10YR4/2	灰黄褐色シルト　しまりやや強　粘性弱　黒色シルトブロック1～5cm20%
SZ6周溝	33	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～1cm5%含　灰黄褐色シルトブロック0.5～2cm10%含
SZ6周溝	34	2.5Y3/1	黒褐色シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～0.5cm5%含
SZ6周溝	35	2.5Y3/1	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～1cm20%含　灰黄褐色シルトブロック0.2～1cm20%含
SZ6周溝	36	2.5Y3/1	黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　明黄褐色粘土質シルトブロック0.2～3cm30%含　灰黄褐色シルトブロック0.5～1cm10%含
Ⅳ層(地山)	37	10YR6/2	灰黄褐色シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　黒色シルトブロック0.5～3cm10%
Ⅴ層(地山)	38	10YR4/1	褐灰色シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黒色シルトブロック1～5cm10%
Ⅵ層(地山)	39	2.5Y6/6	明黄褐色シルト　しまり強　粘性強　黒色シルトブロック1～5cm10%　褐灰シルトブロック1～5cm5%含

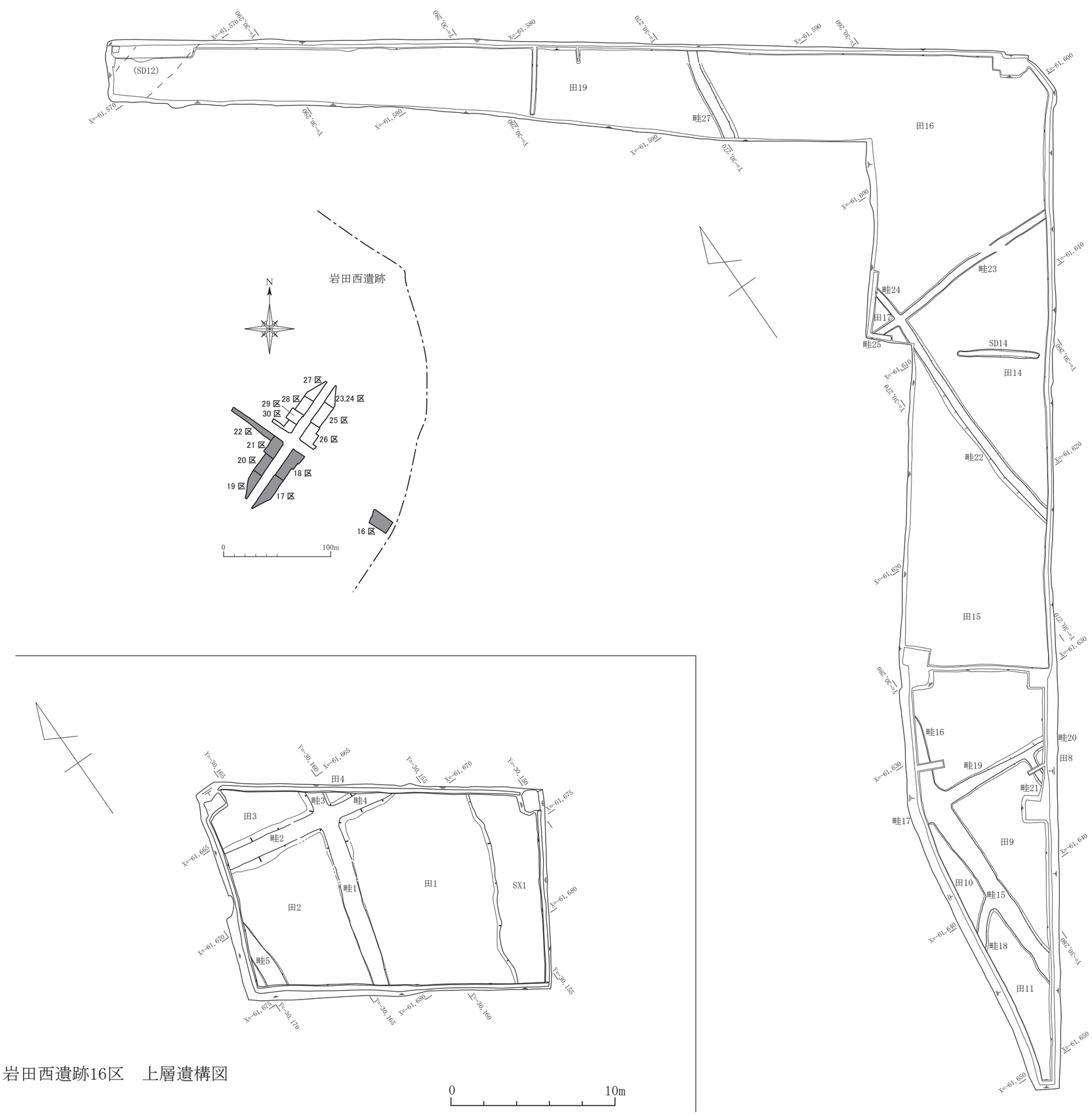
岩田東Ａ遺跡14区　北壁　土層図



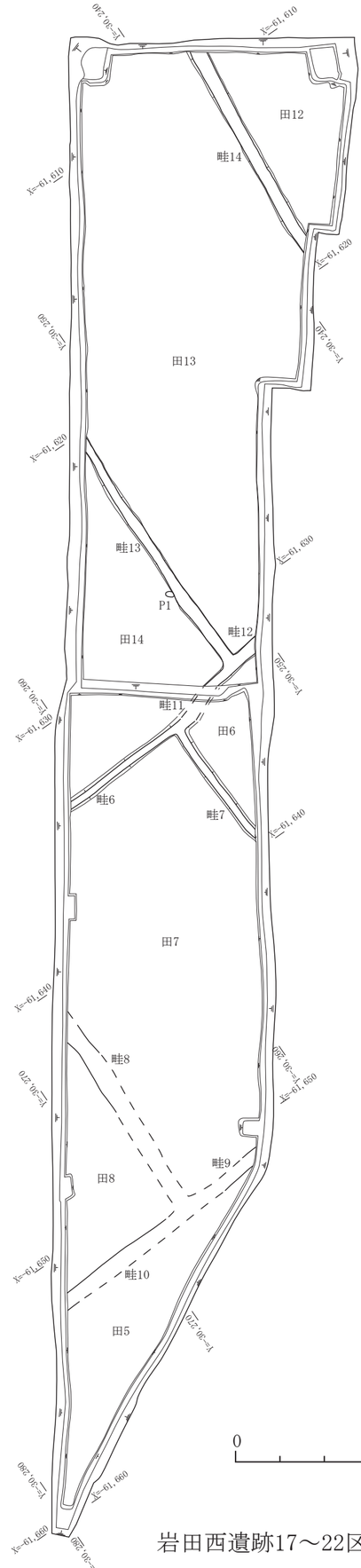
Ⅰa層	1	2.5Y4/1	黄灰色細砂　しまりやや強　粘性弱　貝殻片　炭化物を10%含
Ⅰb層	2	5Y5/2	灰オリーブ色細砂　しまり弱　粘性弱　炭化物　黄灰シルト混細砂ブロック（Ⅱa）0.5～3cm30%含
生痕	3	5Y5/2	灰オリーブ色細砂　しまり弱　粘性弱　黒褐色シルトブロック1～3cm30%含
生痕	4	2.5Y3/2	黒褐色細砂混シルト　しまり弱　粘性弱　灰オリーブ細砂ブロック1～3cm40%含
Ⅱa層	5	2.5Y4/1	黄灰色シルト混細砂　しまりやや強　粘性弱　灰オリーブ（Ⅰa）細砂ブロック1～3cm30% 含
撹乱	6	2.5Y4/1	黄灰色シルト混細砂　しまり弱　粘性弱　にぶい黄褐色シルトブロック0.5～0.8cm20%含　黄灰細砂ブロック0.5～3cm20%含
撹乱	7	2.5Y4/1	黄灰色シルト混細砂　しまり弱　粘性弱　にぶい黄褐色シルトブロック0.5～0.8cm20%含　黄灰細砂ブロック0.5～3cm20%含
SK282	8	2.5Y4/1	黄灰色シルト混細砂　しまり弱　粘性弱　黄灰細砂ブロック1～3cm20%含
SK282	9	2.5Y3/2	黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　黄灰細砂ブロック1～3cm20%含
SK282	10	2.5Y3/2	黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　黄灰細砂ブロック1～3cm40%含
Ⅲ層	11	2.5Y3/1	黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　灰オリーブ（Ⅰb）細砂ブロック1～2cm20%黒褐色シルト（Ⅳ）ブロック1～3cm5%含
SZ7周溝	12	2.5Y3/1	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性弱　暗黄灰シルトブロック0.5～0.2cm30%含　黄褐色シルトブロック0.5～2cm10%含
SZ7周溝	13		※土色注記なし
SZ7周溝	14	2.5Y3/1	黒褐色シルト　しまり強　粘性弱　暗黄灰シルトブロック0.5～3cm20%含
SZ7周溝	15	2.5Y3/1	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性やや強　暗黄灰シルトブロック0.5～1cm30%含　オリーブ褐色0.5～2cm10%含
SZ7周溝	16	2.5Y3/1	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性やや強　暗黄灰シルトブロック0.5～1cm10%含 明黄褐色粘土質シルトブロック0.5～3cm30%含
Ⅳ層(地山)	17	10YR3/1	黒褐色シルト　しまりやや強　粘性やや弱　灰オリーブ細砂（Ⅰb）3～5cm15%含　生痕
Ⅴ層(地山)	18	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黒褐色シルトブロック（Ⅳ）2～5cm20%含



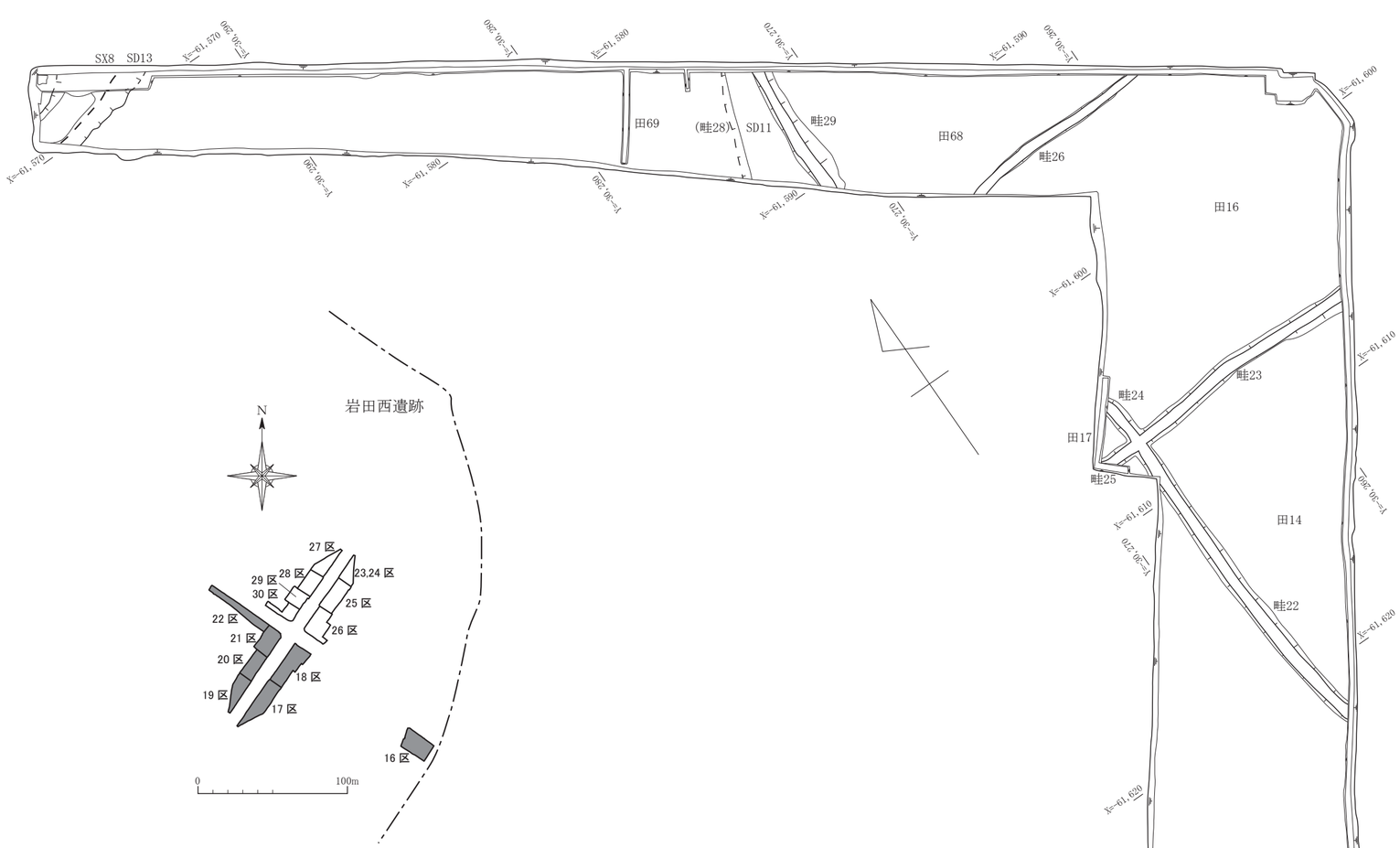
0　5m



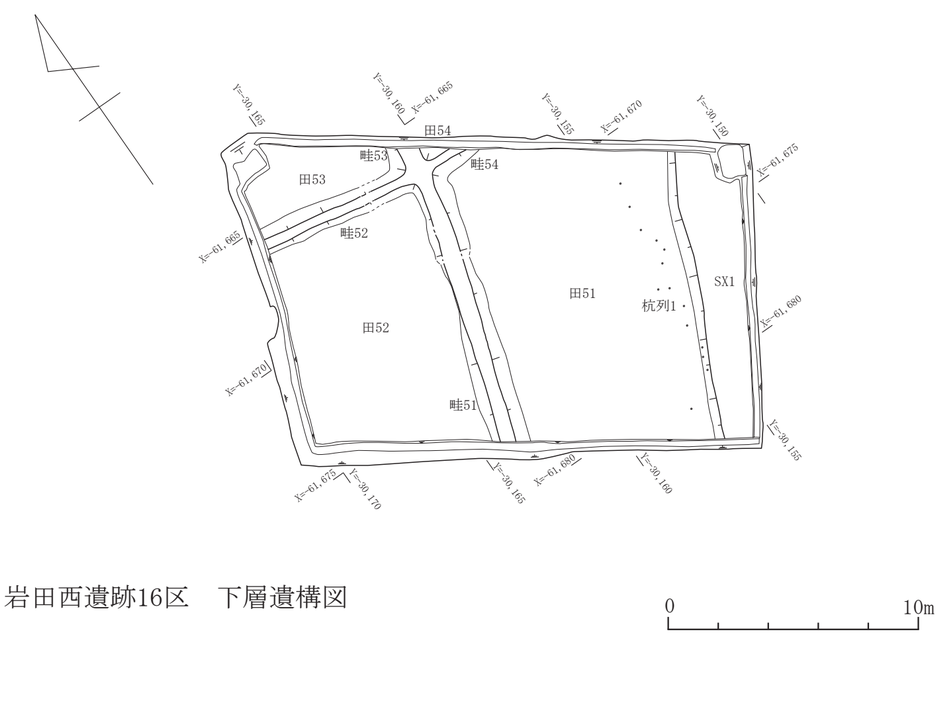
岩田西遺跡16区　上層遺構図

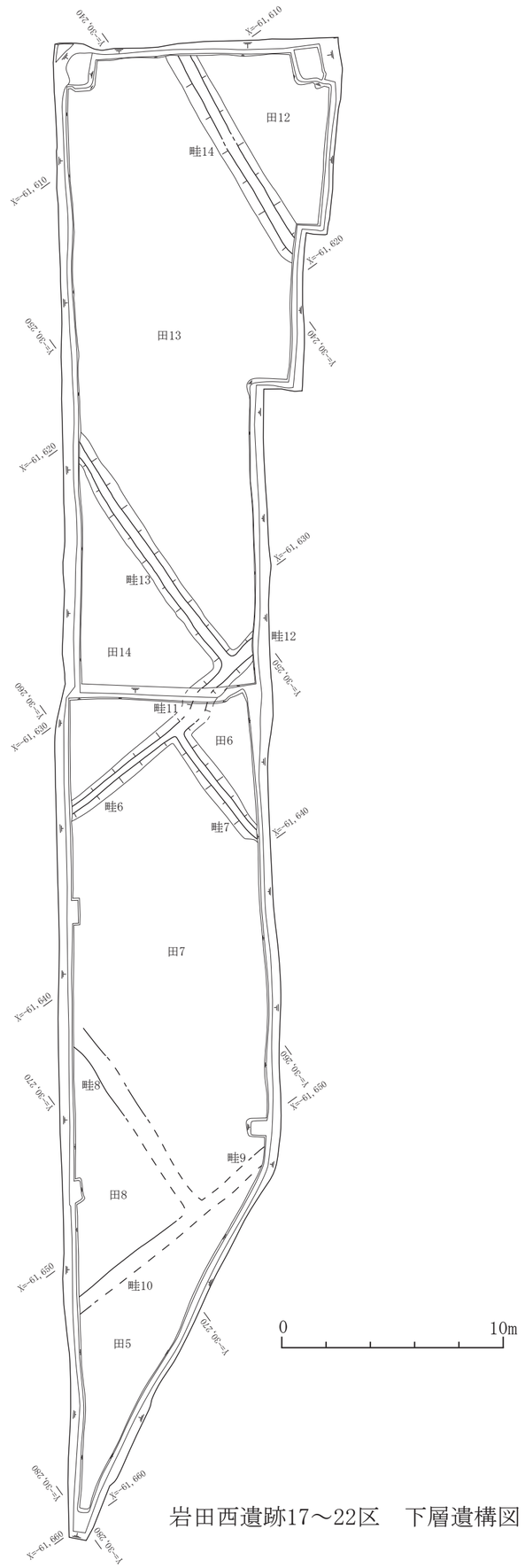


岩田西遺跡17～22区　上層遺構図



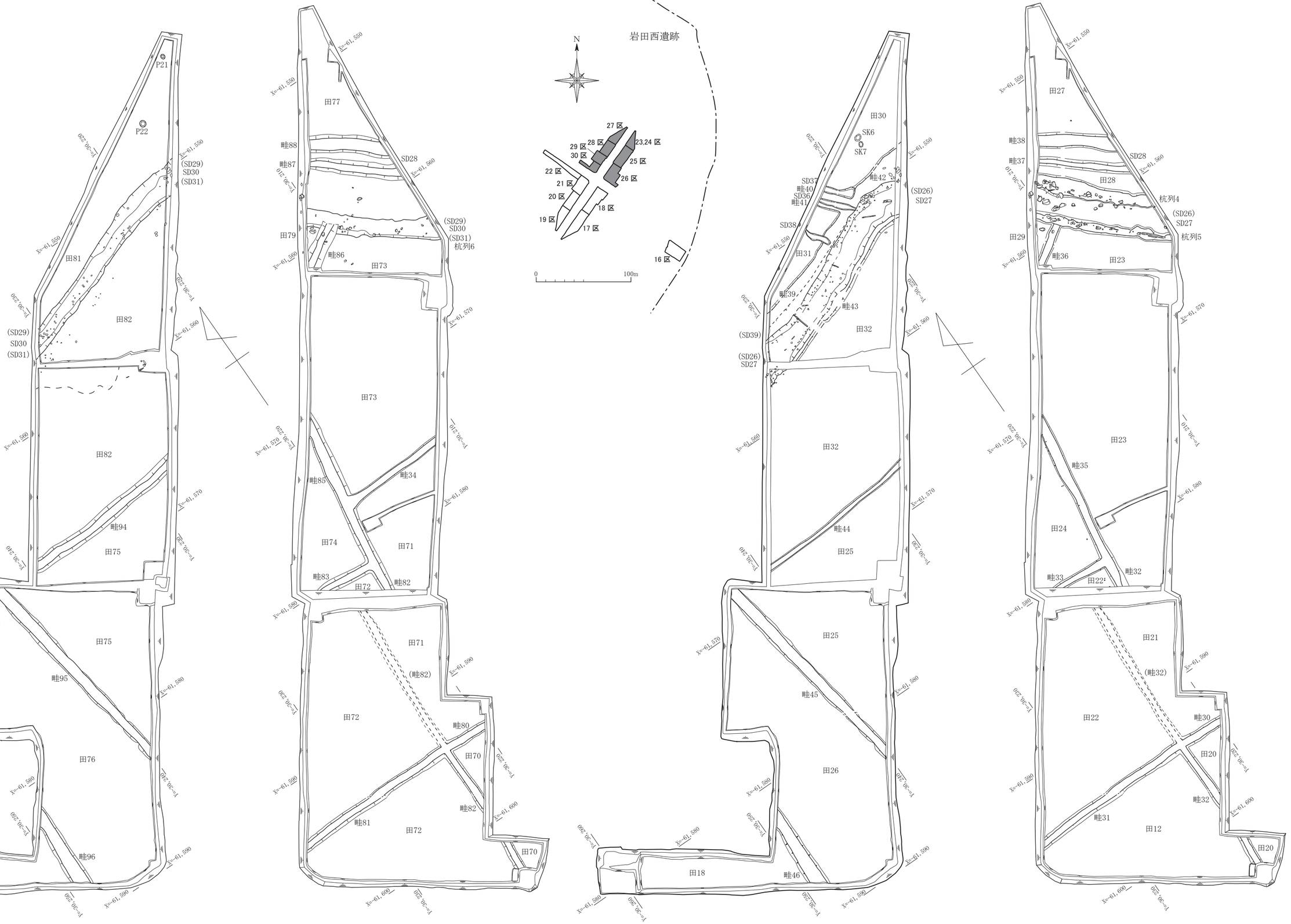
岩田西遺跡16区　下層遺構図





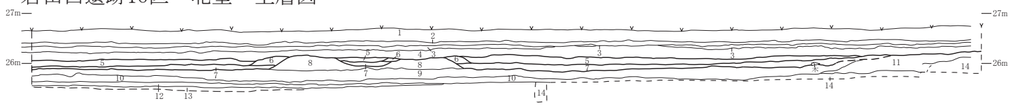
岩田西遺跡17～22区　下層遺構図

岩田西遺跡23～30区　下層遺構図



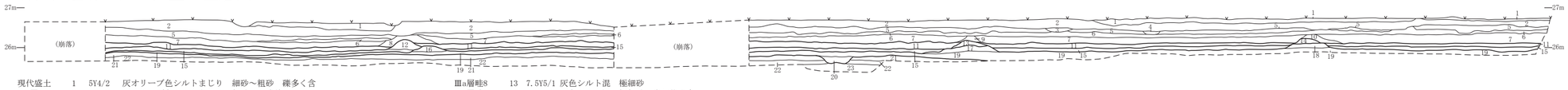
岩田西遺跡23～30区　上層遺構図

岩田西遺跡16区　北壁　土層図



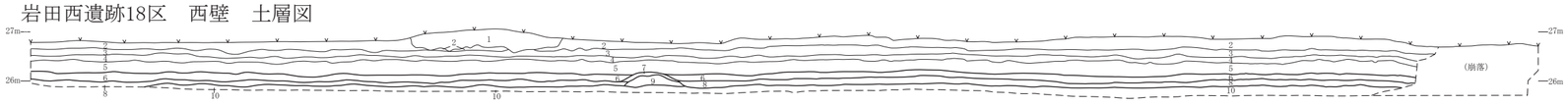
Ⅰa層　1　灰褐色シルト混細砂　しまりなし
Ⅰb層　2　褐色細砂混シルト　ややしまる
Ⅰc層　3　暗褐色細砂混シルト　灰色極細砂ブロック少量含む　ややしまる
Ⅱa層　4　暗褐色細砂混シルト　小レキ　炭微量含　ややしまる
Ⅲa層　5　灰褐色極細砂含シルト　小レキ　炭微量含　しまりあり　中世水田耕土上層
Ⅲa層畦3・4　6　灰褐色シルト混極細砂～細砂　小レキ　炭微量含　上層水田アゼ
Ⅲb層　7　灰色極細砂含シルト　炭微量含　しまりあり　中世水田耕土下層
Ⅲb層畦53・54　8　灰色シルト混極細砂～細砂　小レキ　炭微量含　下層水田アゼ
Ⅲc層上層　9　灰色極細砂含シルト　しまりあり　灰釉出土　木多く含　古代～中世の低地堆積
Ⅲc層下層　10　灰色シルト　しまりあり　粘性あり
SX1　11　灰色シルト 10～20cm大の円レキ　粗砂多含　段丘崖崩落土ベース　灰釉～山茶碗出土
Ⅳ層　12　暗灰色シルト　粘性大　古代包含層か？
Va層　13　黄灰色シルト　しまりあり　粘性あり　低地堆積か
Va層　14　緑灰色シルト　しまりあり　粘性あり　低地堆積か

岩田西遺跡17区　西壁　土層図



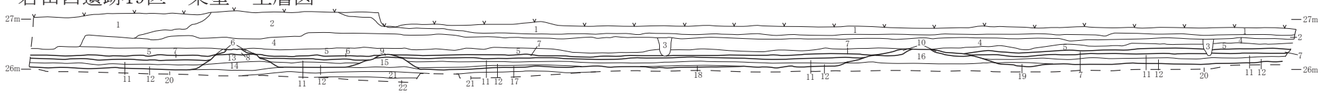
現代盛土　1　5Y4/2　灰オリーブ色シルトまじり　細砂～粗砂　礫多く含
Ⅰa層　2　5Y5/2　灰オリーブ色シルトまじり　細砂　Mn沈着
暗渠　3　5Y5/2　灰オリーブ色シルト混　極細砂～細砂
暗渠　4　5Y5/2　灰オリーブ色シルト混　極細砂～細砂
Ⅰb層　5　5Y5/1　灰色シルトまじり　極細砂～細砂　Mn沈着
Ⅰc層　6　2.5Y5/2 暗灰黄色シルトまじり　細砂　Mn沈着
Ⅱa層　7　2.5Y4/2 暗灰黄色シルトまじり　極細砂～細砂　炭化物含　Mn沈着
Ⅱa層畦　8　2.5Y4/1 黄灰色シルト混　極細砂
Ⅱa層畦　9　2.5Y4/1 黄灰色シルト混　極細砂
Ⅱa層畦　10　2.5Y4/1 黄灰色シルト混　極細砂　Mn沈着
Ⅲa層　11　5Y5/1　灰色シルトまじり　極細砂　炭化物少含　Mn沈着
Ⅲa層畦6　12　2.5Y5/1 黄灰色シルト混　極細砂
Ⅲa層畦8　13　7.5Y5/1 灰色シルト混　極細砂
Ⅲa層畦10　14　7.5Y5/1 灰色シルト混　極細砂　炭化物少含
Ⅲb層　15　7.5Y5/1 灰色シルトまじり　極細砂　炭化物少含
Ⅲb層畦6　16　10Y5/1　灰色シルト混　極細砂
Ⅲb層畦8　17　10Y5/1　灰色シルト混　極細砂
Ⅲb層畦10　18　10Y5/1　灰色シルト混　極細砂
Ⅲc層　19　10Y6/1　灰色極細砂混シルト
Ⅳ層　20　2.5Y5/3 黄褐色極細砂混シルト　10Y6/1シルトブロック含
Ⅳ層　21　2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂混シルト（古墳～古代包含層）
Va層　22　7.5Y6/1 灰色シルト
Vb層　23　7.5Y5/1 灰色粘土質シルト

岩田西遺跡18区　西壁　土層図



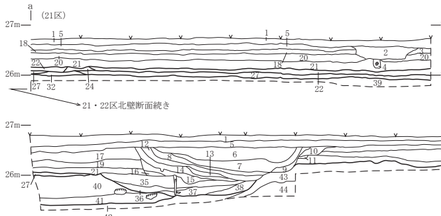
現代盛土　1　5Y4/2　灰オリーブ色シルトまじり　細砂～粗砂　礫多く含
Ⅰa層　2　5Y5/2　灰オリーブ色シルト混細砂　Mn沈着　根跡多　現代耕土
Ⅰb層　3　5Y5/1　灰色極細砂混シルト　Mn沈着　ややしまる　粘性有
Ⅰc層　4　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト混細砂　Mn沈着　水田耕土？やや砂質
Ⅱa層　5　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト混極細砂～細砂　炭化物含　Mn沈着
Ⅲa層　6　5Y5/1　灰色シルト混極細砂　炭化物少含　Mn沈着
Ⅲa層畦13　7　10Y5/1　灰色シルト　極細砂微量含　ややしまる
Ⅲb層　8　7.5Y5/1 灰色極細砂混シルト　炭微量含
Ⅲb層畦13　9　7.5Y5/1 灰色シルト混極細砂　炭化物少含
Ⅲc層　10　10Y6/1　灰色極細砂混シルト　Fe沈着

岩田西遺跡19区　東壁　土層図

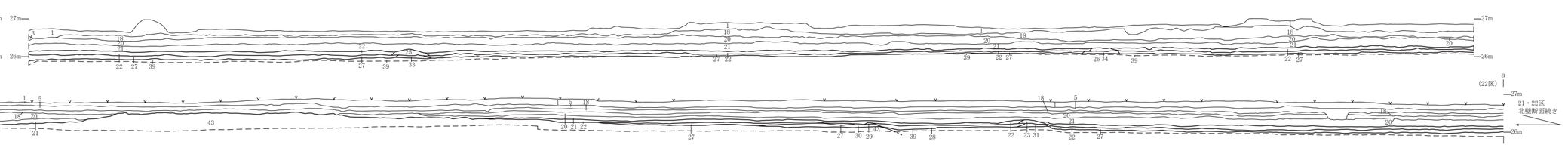


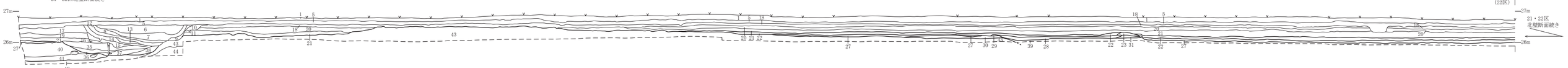
現代盛土　1　7.5Y4/1 灰色シルト混極細砂～粗砂　小レキわずかに含しまりなし
Ⅰa層　2　5Y4/1　灰色シルト極細砂～粗砂　小レキわずかに含
暗渠　3　2.5Y4/1 黄灰色シルト細砂～粗砂　5Y4/1シルトブロック少含
Ⅰb層　4　7.5Y4/1 灰色シルト混極細砂～粗砂　小レキわずかに含
Ⅱa層　5　2.5Y3/2 黒褐色シルト混細砂　小レキわずかに含
Ⅱa層畦　6　2.5Y3/2 黒褐色シルト混細砂～粗砂
Ⅲa層　7　5Y4/1　灰色シルト混細砂
Ⅲa層畦20　8　5Y4/2　灰オリーブ色シルト混極細砂～細砂
Ⅲa層畦21　9　5Y4/1　灰色シルト混細砂～粗砂
Ⅲa層畦15　10　5Y4/2　灰オリーブ色シルト混極細砂～細砂
Ⅲb層　11　5Y3/1　オリーブ黒色シルト混細砂～粗砂
Ⅲb層　12　2.5Y3/1 黒褐色細砂混シルト
Ⅲb層畦20　13　5Y4/1　灰色シルト混極細砂～細砂
Ⅲb層畦20　14　5Y4/1　灰色細砂混シルト
Ⅲb層畦21　15　5Y5/1　灰色シルト混細砂
Ⅲb層畦15　16　5Y4/1　灰色シルト混極細砂～細砂
SX6　17　2.5Y3/1 黒褐色シルト混極細砂
SD7　18　2.5Y4/1 黄灰色シルト混極細砂
SD5　19　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混極細砂
Ⅲc層　20　7.5Y6/1 灰色シルト
Ⅳ層　21　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト　南側で2.5Y5/2暗灰黄色に変わる
Va層　22　5Y5/1　灰色シルト　粘性有り

岩田西遺跡21・22区　北壁　土層図

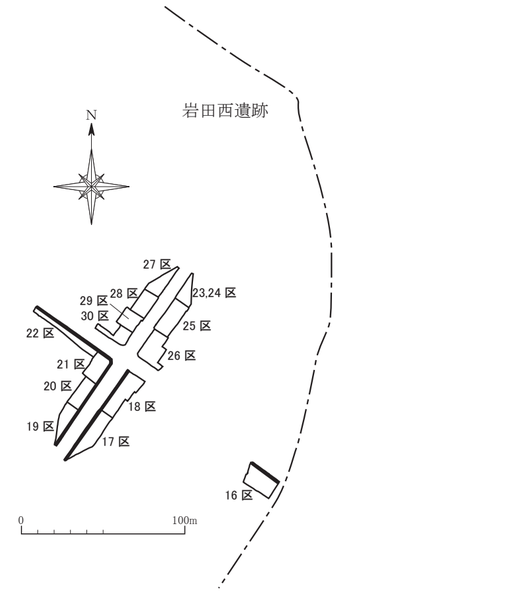


岩田西遺跡20・21区　東壁　土層図

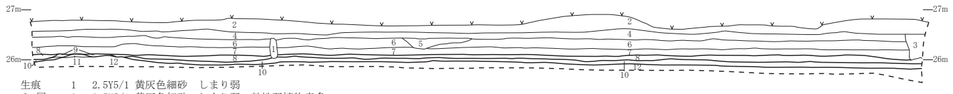




Ⅰa層　1　暗灰褐色シルト混細砂～細砂　ややしまりあり（現代水田耕土）
現代暗渠　2　黒褐色粗砂混細砂　2～10 cm程度礫多く混じる
現代暗渠　3　黒褐色粗砂混細砂　2～10 cm程度礫多く混じる
現代暗渠　4　黒褐色粗砂混細砂　2～10 cm程度礫多く混じる
Ⅰa層　5　暗灰褐色シルト混細砂に黄灰色シルトブロック50% 含（土地改良時の盛土）
SD12　6　オリーブ灰色シルト混極細砂～細砂　ややしまる
SD12　7　灰オリーブ色シルト混極細砂　ややしまる
SD12　8　暗灰色シルト混細砂　有機物多く含む
SD12　9　灰色極細砂混シルト　有機物少含
SD12　10　灰色極細砂混シルト　細砂少含
SD12　11　灰色細砂混シルト
SD12　12　灰色極細砂混シルト
SD12　13　灰黄色細砂～中粒砂　シルト微量含
SD12　14　灰色極細砂混シルト　有機物少含
SD12　15　灰色細砂混シルト　細砂斑状に含　有機物少含
SD12　16　灰色シルト混極細砂～　細砂（SD底）
Ⅰb層　17　黄灰色シルト混極細砂～　細砂 ややしまる　Fe沈着
Ⅰb層　18　灰色シルト混極細砂～細砂　Fe Mn顆著　ややしまる
Ⅰc層　19　灰黄色シルト混極細砂～　細砂　Fe沈着
Ⅰc層　20　黄灰色シルト混細砂　Fe沈着　ややしまる
Ⅱa層　21　茶褐色シルト混細砂
Ⅲa層　22　黄灰色細砂混シルト　しまりやや強　粘性弱　0.2～1cm炭化物3%含
Ⅲa層畦27　23　灰黄色細砂混シルト　しまりやや強　粘性やや強　0.2～0.5cm炭化物5%含　Feわずかに沈着
Ⅲa層畦26　24　灰黄色細砂混シルト　しまりやや強　粘性やや強　0.2～0.5cm炭化物5%含　Feわずかに沈着
Ⅲa層畦23　25　灰黄色細砂混シルト　しまりやや強　粘性やや強　0.2～0.5cm炭化物5%含　Feわずかに沈着
Ⅲa層畦22　26　灰黄色細砂混シルト　しまりやや強　粘性やや強　0.2～0.5cm炭化物5%含　Feわずかに沈着
Ⅲb層　27　灰色粘土質シルト　しまりやや弱　粘性やや強　炭化物0.5～1cm1%含　Feわずかに沈着
SD11　28　灰色粘土質シルト　しまりやや弱　粘性やや強　炭化物0.5～1cm5%含
Ⅲb層畦28　29　灰黄色細砂混シルト　しまりやや強　粘性やや強
Ⅲb層畦28　30　灰色粘土質シルト　しまり強　粘性強　炭化物0.2～0.5cm1%含
Ⅲb層畦27　31　黄灰色シルト　しまり強　粘性強　炭化物0.2～0.5cm5%含　灰色粘土ブロック0.5～1cm5%含　黄灰白色砂粒0.5～0.8cm3%含
Ⅲb層畦26　32　黄灰色シルト　しまり強　粘性強　炭化物0.2～0.5cm5%含　灰色粘土ブロック0.5～1cm5%含　黄灰白色砂粒0.5～0.8cm3%含
Ⅲb層畦23　33　黄灰色シルト　しまり強　粘性強　炭化物0.2～0.5cm5%含　灰色粘土ブロック0.5～1cm5%含　黄灰白色砂粒0.5～0.8cm3%含
Ⅲb層畦22　34　黄灰色シルト　しまり強　粘性強　炭化物0.2～0.5cm5%含　灰色粘土ブロック0.5～1cm5%含　黄灰白色砂粒0.5～0.8cm3%含
SD13　35　暗灰色シルト混極細砂しまりやや弱　粘性弱
SD13　36　灰色粘土質シルト　有機物少含
SD13　37　黄灰色粘土質シルト　しまりやや強　粘性強
SD13　38　灰色粘土質シルト
Ⅲc層　39　灰色粘土質シルト　しまり強　粘性強
SX8　40　灰褐色シルト混細砂　しまりやや弱　粘性弱い　Fe沈着やや多い
SX8　41　灰色粘土質シルト　しまりやや弱　粘性強　Fe沈着やや多い　木片　炭化物1～5cmを20%含
Ⅳ層　42　緑灰色粘土質シルト　しまりやや弱　粘性強　Fe沈着少
Va層　43　黄褐色極細砂混シルト
Va層　44　黄灰色シルト　Fe Mn顆著

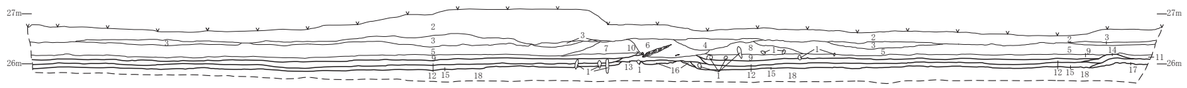


岩田西遺跡26区　西壁　土層図

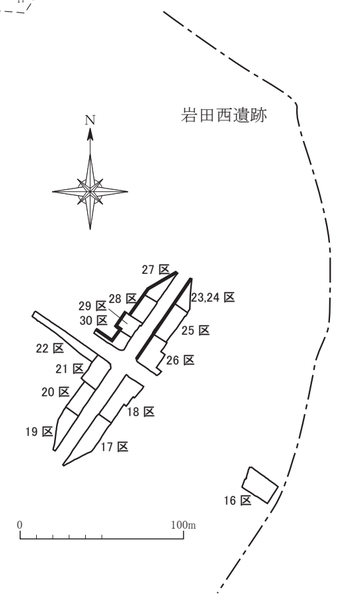


生痕	1	2.5Y5/1 黄灰色細砂　しまり弱
Ⅰa層	2	2.5Y5/1 黄灰色細砂　しまり弱　粘性弱植物痕多
撹乱	3	2.5Y5/1 黄灰色細砂　しまり弱　灰色シルトブロック1～3cm20%含
Ⅰb層	4	2.5Y5/1 黄灰色細砂　しまり弱　粘性弱炭化物0.2～0.5cm5%鉄わずかに沈着青灰色細砂ブロック1～3cm20%含
撹乱	5	2.5Y5/1 黄灰色細砂　しまり弱　青灰色シルトブロック1～3cm20%含
Ⅰc層	6	2.5Y7/4 浅黄色細砂　しまり弱　粘性弱炭化物0.2～0.5cm5%含鉄やや多く沈着
Ⅱ層	7	10YR6/2 灰黄褐色細砂混シルト　しまり　弱粘性弱炭化物0.2～0.8cm20%黄灰色細砂ブロック0.5～2cm5%含
Ⅲa層	8	10YR5/2 暗黄灰色細砂混シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物0.2～0.5cm5%含灰白粘土質シルトブロック0.5～1cm5%含
Ⅲa層畦31	9	2.5Y6/1 黄灰色シルト　しまりやや強　粘性やや弱炭化物0.2～0.5cm3%灰白粘土質シルトブロック0.5～1cm20%含
Ⅲb層	10	2.5Y6/1 黄灰色シルト　しまりやや強　粘性やや強　炭化物0.2～0.5cm3%含鉄わずかに沈着
Ⅲb層畦81	11	5Y6/1　シルト　しまりやや強　粘性強灰白粘土質シルトブロック0.5～1cm20%含鉄やや多く沈着
Ⅲc層	12	2.5Y7/1 灰白色シルト　しまりやや強　粘性やや強炭化物0.2～0.5cm5%含鉄やや多く沈着

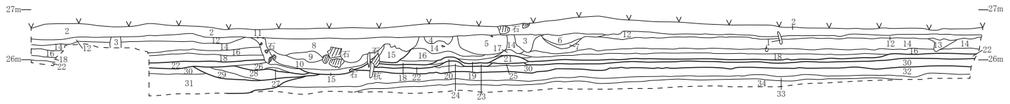
岩田西遺跡25区　西壁　土層図



生痕	1	2.5Y6/1 黄灰色粘質土　しまりなし　粘性ややあり　細砂少量含む
Ⅰa層	2	10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　しまりなし　粘性ややあり　細砂～荒砂を多量に含む　橙色粒子を多量に含む
Ⅰb層	3	10YR6/1 褐灰色シルト　しまりあり　粘性かすかにあり　細砂を多量に含む
撹乱	4	2.5Y7/1 灰白色シルト　しまりややあり　粘性かすかにあり　細砂～荒砂を多量に含む
Ⅰc層	5	10YR6/2 灰黄褐色シルト　しまりあり　細砂を多量に含む
近現代溝	6	2.5Y7/2 灰黄色砂　しまりややあり　細砂～荒砂が主
近現代畦	7	2.5Y6/1 黄灰色シルト　しまりあり　粘性かすかにあり　細砂～荒砂を多量に含む　炭化物極少量含む　Fe Mn沈着
近現代畦	8	2.5Y6/1 黄灰色シルト　しまりあり　粘性かすかにあり　細砂～荒砂を多量に含む　炭化物極少量含む　Fe Mn沈着
Ⅱa層	9	10YR5/2 灰黄褐色砂質土　しまりあり　粘性なし　荒砂を多量に含む
Ⅱa層畦	10	10YR5/2 灰黄褐色シルト　しまりややあり　粘性かすかにあり　極細砂～細砂多量に含む　炭化物極少量含む
Ⅱa層畦	11	10YR6/1 褐灰色シルト　しまりあり　粘性ややあり　上層程細砂を多く含む　炭化物極少量含む
Ⅲa層	12	2.5Y6/1 黄灰色粘質土　しまりあり　粘性あり　細砂含む
Ⅲa層畦35	13	2.5Y6/2 灰黄色粘質土　しまりあり　粘性あり　細砂含む　炭化物極少量含む
Ⅲa層畦36	14	2.5Y6/2 灰黄色粘質土　しまりあり　粘性強い　細砂少量含む　炭化物極少量含む
Ⅲb層	15	2.5Y7/1 灰白色粘質土　しまりあり　粘性強い　細砂少量含む
Ⅲb層畦85	16	2.5Y7/2 灰黄色粘質土　しまりあり　粘性あり　細砂少量含む　炭化物橙色粒子極少量含む
Ⅲb層畦86	17	2.5Y6/2 灰黄色粘土　しまりあり　粘性極めて強い　細砂極少量含む　炭化物極少量含む
Ⅲc層	18	2.5Y8/1 灰白色粘土　しまりあり　粘性極めて強い　細砂 極少量含む

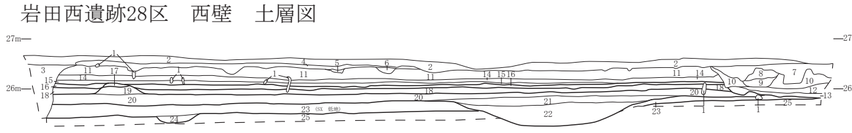


岩田西遺跡23・24区　西壁　土層図



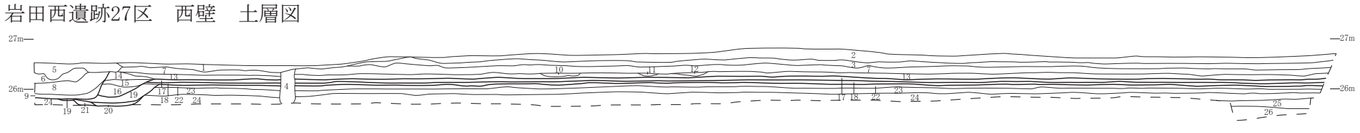
生痕	1	5Y5/1　灰色　細砂混シルト
Ⅰa層	2	5Y5/2　灰オリーブ色　シルト混極細砂～細砂　礫少含
暗渠	3	2.5Y4/2 暗黄灰色　シルト混細砂　5Y6/2シルトブロック含
撹乱	4	2.5Y5/1 黄灰色　シルト5Y6/2シルトブロック含
撹乱	5	5Y5/1　灰色　シルト混細砂5Y6/2シルトブロック含
撹乱	6	5Y5/1　灰色　シルト混細砂5Y6/2シルトブロック含
撹乱	7	5Y5/1　灰色　シルト　2.5Y5/2シルト混細砂
SD26	8	5Y6/2　灰オリーブ色　細砂混シルト5Y5/1シルトブロック少含
SD26	9	2.5Y4/2 暗灰黄色　細砂混シルト有機物（モミ・ワラ）多含
SD26	10	2.5Y4/2 暗灰黄色　細砂混シルト
SD26	11	2.5Y4/2 暗灰黄色　シルト混細砂～粗砂
Ⅰb層	12	2.5Y5/2 暗灰黄色　シルト混細砂
撹乱	13	2.5Y5/1 黄灰色　シルト混細砂　5Y6/1シルトブロック含
Ⅰc層	14	2.5Y6/3 にぶい黄色　細砂　シルト少含　Mn沈着
SD27	15	2.5Y4/2 暗灰黄色　極細砂混シルト
Ⅱa層	16	2.5Y5/2 暗灰黄色　シルト混細砂～粗砂　Mn沈着
Ⅱa層畦	17	2.5Y5/2 暗灰黄色　シルト混細砂
Ⅲa層	18	2.5Y5/1 黄灰色細砂混シルト　炭少含
SD28上層	19	5Y4/1　灰色極細砂混シルト
Ⅲa層畦37	20	2.5Y5/1 黄灰色細砂混シルト
Ⅲa層畦38	21	2.5Y5/1 黄灰色細砂混シルト
Ⅲb層	22	5Y5/1　灰色極細砂混シルト　炭少含
SD28下層	23	5Y4/1　灰色シルト
Ⅲb層畦87	24	5Y5/1　灰色極細砂混シルト
Ⅲb層畦88	25	5Y5/1　灰色極細砂混シルト
SD29	26	5Y5/2　灰オリーブ色細砂混シルト
SD29	27	5Y4/2　灰オリーブ色細砂混シルト
SD30	28	5Y4/1　灰色細砂混シルト木　炭少含
SD30	29	5Y4/1　灰色極細砂混シルト　木　炭少含
Ⅲc層	30	7.5Y6/1 灰色極細砂混シルト
SD25	31	5Y4/1　灰色シルト混極細砂～細砂　木　炭少含
Ⅳ層	32	5Y4/2　灰オリーブ色シルト
Va層	33	5Y5/1　灰色シルト
Vb層	34	5Y4/1　灰色シルト

岩田西遺跡28区　西壁　土層図



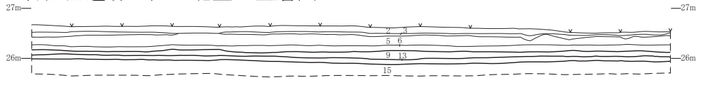
生痕	1	5Y4/1　灰色細砂混シルト
現代盛土	2	2.5Y7/4 浅黄色シルト混細砂～粗砂　礫多含
撹乱	3	2.5Y4/1 黄灰色シルト混細砂～粗砂　黄灰色シルトブロック含
Ⅰb層	4	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト混細砂
暗渠	5	5Y5/2　灰オリーブシルト混粗砂小礫少含
暗渠	6	5Y5/2　灰オリーブシルト混粗砂小礫少含
SD26	7	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト混細砂5Y6/2シルトブロック多含
SD26	8	5Y5/1　灰色シルト混細砂
SD26	9	7.5Y4/1 灰色シルト混極細砂
SD26	10	2.5Y4/2 暗灰黄色細砂混シルト
Ⅰc層	11	2.5Y6/3 にぶい黄色細砂　シルト少含　Mn沈着
SD27	12	7.5Y4/1 灰色細砂～粗砂
SD27	13	5Y4/1　灰色粗砂細砂少含
Ⅱa層	14	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト混細砂～粗砂　Mn沈着
Ⅱb層	15	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト混細砂　Mn沈着
Ⅲa層	16	2.5Y5/1 黄灰色細砂混シルト炭少含
Ⅲa層畦44	17	2.5Y5/1 黄灰色細砂混シルト
Ⅲb層	18	5Y5/1　灰色極細砂混シルト炭少含
Ⅲb層畦94	19	5Y5/1　灰色極細砂混シルト
Ⅲc層	20	7.5Y6/1 灰色極細砂混シルト
SD25	21	7.5Y4/1 灰色シルト混極細砂
SD25	22	7.5Y6/1 灰色極細砂混シルト　木・炭化物少含
Ⅳ層	23	5Y4/2　灰オリーブシルト
SD32	24	5Y4/2　灰オリーブ粘質シルト
Va層	25	5Y5/1　灰色シルト

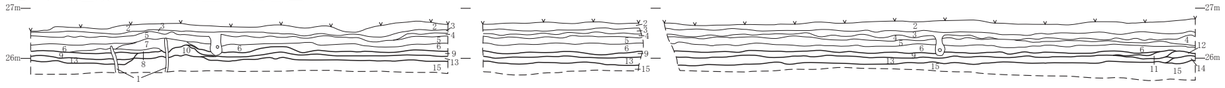
岩田西遺跡27区　西壁　土層図



現代盛土	1	2.5Y7/4 浅黄色シルト混細砂～粗砂　礫多含
Ⅰa層	2	5Y5/2　灰オリーブ色シルト混極細砂～細砂　礫少含
Ⅰb層	3	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト混細砂
暗渠	4	5Y5/1　灰色細砂5Y6/2シルトブロック含
SD26	5	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト混細砂5Y6/2シルトブロック含
SD26	6	2.5Y4/2 暗灰黄色細砂混シルト
Ⅰc層	7	2.5Y6/3 にぶい黄色細砂　シルト少含　Mn沈着
SD27	8	7.5Y4/1 灰色細砂～粗砂
SD27	9	5Y4/1　灰色粗砂細砂少含
SD36	10	5Y4/1　灰色細砂混シルト
SD37	11	5Y4/1　灰色細砂混シルト
SD38	12	5Y4/1　灰色細砂混シルト
Ⅱa層	13	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト混細砂～粗砂　Mn沈着
Ⅱa層畦	14	2.5Y5/2 暗灰黄色シルト混細砂
SD39	15	5Y5/1　灰色細砂混シルト
SD39	16	5Y5/2　灰オリーブ色砂混シルト
Ⅲa層	17	2.5Y5/1 黄灰色細砂混シルト　炭少含
Ⅲb層	18	2.5Y5/1 黄灰色極細砂混シルト　炭少含
SD29	19	5Y4/2　灰オリーブ色細砂混シルト
SD30	20	5Y4/1　灰色極細砂混シルト　木　炭少含
SD30（SD31か）	21	5Y4/1　灰色シルト混極細砂～細砂　木　炭少含
Ⅲc層	22	7.5Y6/1 灰色極細砂混シルトMn沈着
Ⅳ層	23	5Y4/2　灰オリーブ色シルト
Va層	24	5Y5/1　灰色シルト
Vb層	25	5Y4/1　灰色シルト
Vc層	26	7.5Y5/1 灰色粘質シルト

岩田西遺跡30区　北壁　土層図



生痕	1	5Y6/1　灰色シルト　しまり弱　粘性弱
Ⅰa層	2	2.5Y5/1　黄灰色細砂　しまり弱　粘性弱　植物痕を多量に含む
Ⅰb層	3	2.5Y5/1　黄灰色細砂　しまり弱　粘性弱　炭化物0.2～0.5cm5% Feわずかに沈着　青灰細砂ブロック1～3cm20%含
Ⅰc層	4	2.5Y7/4　浅黄色細砂　しまり弱　粘性弱　炭化物0.2～0.5cm5%　Feやや多く沈着
Ⅰc層	5	2.5Y6/4　にぶい黄色シルト混細砂　しまりやや弱　粘性弱　炭化物0.2～0.5cm10%含 Feやや多く沈着
Ⅱ層	6	10YR6/2　灰黄褐色細砂混シルト　しまりやや強　粘性弱　炭化物0.2～0.8cm20%含　黄灰細砂ブロック0.5～2cm5%含
Ⅱ層畦	7	10YR6/2　にぶい黄褐色細砂　しまりやや強　粘性弱　炭化物0.2～0.5cm20%含　黄灰細砂ブロック0.5～2cm5%含
Ⅱ層畦	8	2.5Y6/2　灰黄色細砂混シルト　しまりやや強　粘性弱　灰白粘土質シルトブロック1～4cm20%含 炭化物0.2～0.5cm5%含　Feわずかに沈着
Ⅲa層	9	10YR5/2　灰黄褐色シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物0.2～0.5cm5%含　灰白粘土質シルトブロック0.5～1cm5%含
Ⅲa層畦46	10	2.5Y6/1　黄灰色シルト　しまりやや弱　粘性弱　炭化物0.2～0.5cm3%含　灰白粘土質シルトブロック0.5～1cm10%含
Ⅲa層畦45	11	2.5Y6/1　黄灰色シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物0.2～0.5cm5%含　灰白粘土質シルトブロック0.5～1cm20%含
Ⅲa層畦45	12	2.5Y6/1　黄灰色シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物0.2～0.5cm5%含　灰白粘土質シルトブロック0.5～1cm20%含
Ⅲb層	13	2.5Y6/1　黄灰色粘土質シルト　しまりやや強　粘性やや強　炭化物0.2～0.5cm3%　Feわずかに沈着
Ⅲb層畦95	14	5Y6/1　灰色粘土質シルト　しまりやや強　粘性強　Feわずかに沈着　炭化物0.2～0.5cm5%含
Ⅲc層	15	2.5Y7/1　灰白色粘土質シルト　しまりやや弱　粘性やや強　炭化物0.2～0.5cm5%　Feやや多く沈着

岩田西遺跡29区　西壁　土層図